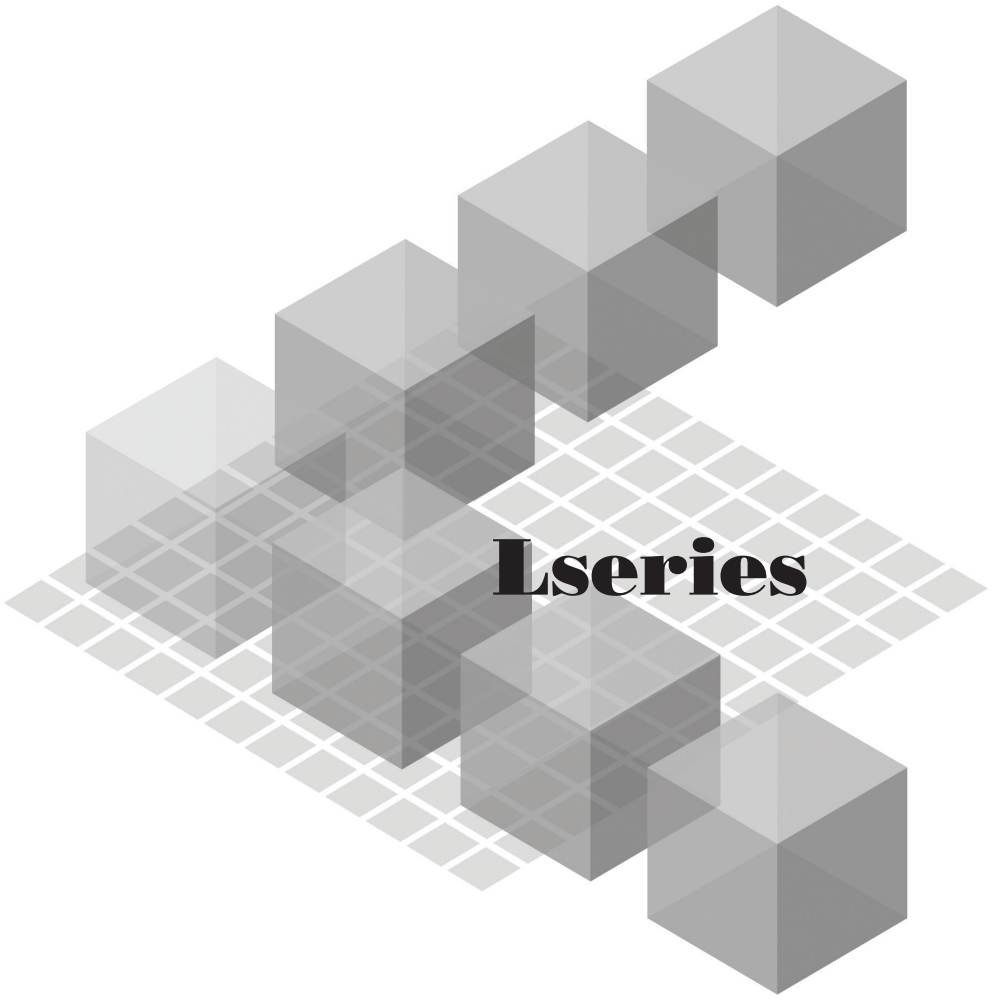
MITSUBISHI

三菱 汎用 シーケンサ

MELSEC *L series*

MELSEC-L CPUユニット ユーザーズマニュアル

ハードウェア設計・保守点検編



製品形名

-L02SCPU
-L02SCPU-P
-L02CPU
-L02CPU-P
-L06CPU
-L06CPU-P
-L26CPU
-L26CPU-P
-L26CPU-BT
-L26CPU-PBT

●安全上のご注意●

(ご使用前に必ずお読みください)

本製品のご使用に際しては，本マニュアルおよび本マニュアルで紹介している関連マニュアルをよくお読みいただくと共に，安全に対して十分に注意を払って，正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。

この「安全上のご注意」では，安全注意事項のランクを「⚠警告」,「⚠注意」として区分してあります。

⚠警告	取扱いを誤った場合に，危険な状況が起こりえて，死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。
⚠注意	取扱いを誤った場合に，危険な状況が起こりえて，中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害だけの発生が想定される場合。

なお,⚠注意に記載した事項でも，状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。
いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

本マニュアルは必要なときに読めるよう大切に保管すると共に，必ず最終ユーザまでお届けいただくようお願いいたします。

【設計上の注意事項】

⚠警告

- 外部電源の異常やシーケンサ本体の故障時でも，システム全体が安全側に働くようにシーケンサの外部で安全回路を設けてください。誤出力，誤動作により，事故の恐れがあります。
  (1) 非常停止回路，保護回路，正転／逆転などの相反する動作のインタロック回路，位置決めの上限／下限など機械の破損防止のインタロック回路は，シーケンサの外部で構成してください。
  (2) 位置決め機能の機械原点復帰制御は，原点復帰方向と原点復帰速度の 2 つのデータによって制御され，近点ドグ ON にて減速を開始します。したがって，原点復帰方向を誤って設定すると減速せずに運転し続ける場合があるので，機械破損防止のインタロック回路をシーケンサの外部で構成してください。
  (3) 位置決め機能で運転中に CPU ユニットがエラーを検出すると，減速停止します。
  (4) シーケンサは次の異常状態を検出すると，演算を停止し，出力は下記の状態になります。
  ・電源ユニットの過電流保護装置または過電圧保護装置が働いたときは全出力を OFF する。
  ・CPU ユニットでウォッチドッグタイマエラーなどの自己診断機能で異常を検出したときは，パラメータ設定により，全出力を保持，または OFF する。
  また，CPU ユニットで検出できない入出力制御部分などの異常時は，全出力が ON することがあります。このとき，機械の動作が安全側に働くよう，シーケンサの外部でフェールセーフ回路を構成したり，安全機構を設けたりしてください。フェールセーフ回路例については，427 ページ 付 9 を参照してください。
  (5) 出力回路のトランジスタなどの故障によっては，出力が ON の状態を保持したり，OFF の状態を保持することがあります。重大な事故につながるような出力信号については，外部で監視する回路を設けてください。
- 出力回路において，定格以上の負荷電流または負荷短絡などによる過電流が長時間継続して流れた場合，発煙や発火の恐れがありますので，外部にヒューズなどの安全回路を設けてください。
- シーケンサ本体の電源立上げ後に，外部供給電源を投入するように回路を構成してください。外部供給電源を先に立ち上げると，誤出力，誤動作により事故の恐れがあります。
- シーケンサ本体の電源を OFF する場合は, 外部供給電源を先に OFF するように回路を構成してください。シーケンサ本体の電源を先に OFF すると，誤出力，誤動作により事故の恐れがあります。
- ネットワークが交信異常になったときの各局の動作状態については，各ネットワークのマニュアルを参照してください。誤出力，誤動作により事故の恐れがあります。
- CPU ユニットに周辺機器を接続して運転中のシーケンサに対するデータ変更を行うときは，常にシステム全体が安全側に働くように，プログラム上でインタロック回路を構成してください。また，運転中のシーケンサに対するその他の制御（プログラム変更，運転状態変更（状態制御））を行うときは，マニュアルを熟読し，十分に安全を確認してから行ってください。特に外部機器から遠隔地のシーケンサに対する上記制御では，データ交信異常によりシーケンサ側のトラブルに即対応できない場合があります。プログラム上でインタロック回路を構成すると共に，データ交信異常が発生したときのシステムとしての処置方法を外部機器と CPU ユニット間で取り決めてください。
- 位置決め機能で絶対位置復元をすると，約 20ms 間サーボオン信号が OFF（サーボオフ）し，モータが動くことがあります。サーボオン信号の OFF によりモータが動くことで問題が生じる場合は，別途電磁ブレーキを設け，絶対位置復元中はモータロックしてください。

【設計上の注意事項】

⚠注意

- 制御線や通信ケーブルは，主回路や動力線と束線したり，近接したりしないでください。100mm 以上を目安として離してください。ノイズにより，誤動作の原因となります。
- ランプ負荷やヒータ，ソレノイドバルブなどの誘導性負荷を制御するときは，出力の OFF → ON 時に大きな電流（通常の 10 倍程度）が流れる場合がありますので，定格電流に余裕のあるユニットをお使いください。
- CPU ユニットの電源 OFF → ON またはリセット時, CPU ユニットが RUN 状態になるまでの時間が, システム構成，パラメータ設定，プログラム容量などにより変動します。RUN 状態になるまでの時間が変動しても，システム全体が安全側に働くように設計してください。

【取付け上の注意事項】

⚠警告

- ユニットの取付けや取りはずしは，必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。全相遮断しないと，感電またはユニットの故障や誤動作の原因になります。

【取付け上の注意事項】

⚠注意

- シーケンサは，本マニュアルの「一般仕様」に記載している環境で使用してください。範囲外の環境で使用すると，感電，火災，誤動作，製品の損傷，あるいは劣化の原因になります。
- ユニット同士の装着は，それぞれのコネクタをかみ合わせ，ユニット連結用フックが止まる位置までスライドさせて確実にロックしてください。ユニットが正しく装着されていないと，誤動作，故障，落下の原因になります。
- ユニットの導電部分や電子部品には直接触らないでください。ユニットの誤動作，故障の原因になります。
- 増設ケーブルは，分岐ユニットおよび増設ユニットの増設用コネクタに確実に接続してください。接続後に，浮上りがないかチェックしてください。正しく接続されていないと，接触不良により誤動作の原因になります。
- SD メモリカードは，SD メモリカード装着スロットに押し込んで確実に装着してください。装着後に，浮上りがないかチェックしてください。接触不良により，誤動作の原因になります。
- ユニット，SD メモリカードの導電部分や電子部品には直接触らないでください。誤動作，故障の原因になります。

【配線上の注意事項】

⚠警告

- 配線作業は，必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。全相遮断しないと，感電またはユニットの故障や誤動作の原因になります。
- 取付け，配線作業後，通電，運転を行う場合は，必ず製品に付属の端子カバーを取り付けてください。端子カバーを取り付けないと，感電の恐れがあります。

【配線上の注意事項】

⚠注意

- FG 端子および LG 端子は，シーケンサ専用の D 種接地（第三種接地）以上で必ず接地してください。感電，誤動作の恐れがあります。
- 圧着端子は，適合圧着端子を使用し，規定のトルクで締め付けてください。先開形圧着端子を使用すると，端子台上のネジがゆるんだ場合に脱落し，故障の原因になります。
- ユニットへの配線は，製品の定格電圧や端子配列を確認した上で正しく行ってください。定格と異なった電圧の入力や，電源を接続，誤配線をすると，火災，故障の原因になります。
- 外部機器接続用コネクタは，メーカ指定の工具で圧着，圧接，または正しくハンダ付けしてください。接続が不完全になっていると，短絡，火災，誤動作の原因になります。
- コネクタは確実にユニットに取り付けてください。
- 制御線や通信ケーブルは，主回路や動力線と束線したり，近接したりしないでください。100mm 以上を目安として離してください。ノイズにより，誤動作の原因になります。
- ユニットに接続する電線やケーブルは，必ずダクトに納めるか，またはクランプによる固定処理を行ってください。ケーブルをダクトに納めなかったり，クランプによる固定処理をしていないと，ケーブルのふらつきや移動，不注意の引っ張りなどによるユニットやケーブルの破損，ケーブルの接続不良による誤動作の原因となります。
- ケーブル接続は，接続するインタフェースの種類を確認の上正しく行ってください。異なったインタフェースに接続または誤配線すると，ユニット，外部機器の故障の原因となります。
- 端子台上のネジの締付けは，規定トルク範囲で行ってください。ネジの締付けがゆるいと，短絡，火災，誤動作の原因になります。ネジを締め過ぎると，ネジやユニットの破損による落下，短絡，火災，誤動作の原因になります。
- ユニットに接続されたケーブルを取りはずすときは，ケーブル部分を手に持って引っ張らないでください。コネクタ付きのケーブルは，ユニットの接続部分のコネクタを手で持って取りはずしてください。端子台接続のケーブルは，端子台端子ネジを緩めてから取りはずしてください。ユニットに接続された状態でケーブルを引っ張ると，誤動作またはユニットやケーブルの破損の原因となります。
- ユニット内に切粉や配線クズなどの異物が入らないように注意してください。火災，故障，誤動作の原因になります。
- 配線時にユニット内へ配線クズなどの異物が混入するのを防止するため，ユニット上部に混入防止ラベルを貼り付けています。配線作業中は本ラベルをはがさないでください。システム運転時は，放熱のために本ラベルを必ずはがしてください。
- 高速カウンタ機能を使用時，シールド線は，必ずエンコーダ側（中継ボックス）で接地してください。（D 種接地（第三種接地）以上）誤動作の原因になります。
- 当社のシーケンサは，制御盤内に設置して使用してください。制御盤内に設置されたシーケンサ電源ユニットへの主電源配線に関しては，中継端子台を介して行ってください。
  また，電源ユニットの交換と配線作業は，感電保護に対して，十分に教育を受けたメンテナンス作業者が行ってください。
  配線方法については，34 ページ 第 4 章を参照してください。

【立上げ・保守時の注意事項】

⚠警告

- 通電中に端子に触れないでください。感電または誤動作の原因になります。
- バッテリコネクタは正しく接続してください。バッテリに充電，分解，加熱，火中投入，ショート，ハンダ付け，液体を付着させる，強い衝撃を与えることは絶対に行わないでください。
  バッテリの取扱いを誤ると，発熱，破裂，発火，液漏れにより，ケガ，火災の恐れがあります。
- 清掃，端子台上のネジ，コネクタ取付けネジの増し締めは，必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。全相遮断しないと，感電の恐れがあります。

【立上げ・保守時の注意事項】

⚠注意

- 運転中の CPU ユニットに周辺機器を接続して行うオンライン操作（特にプログラム変更，強制出力，運転状態の変更）は，マニュアルを熟読し，十分に安全を確認してから行ってください。操作ミスにより機械の破損や事故の原因になります。
- ユニットの分解，改造はしないでください。故障，誤動作，ケガ，火災の原因になります。
- 携帯電話や PHS などの無線通信機器を使用する場合は，シーケンサ本体の全方向から 25cm 以上離して使用してください。誤動作の原因になります。
- ユニットの取付け・取りはずしは，必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。全相遮断しないと，ユニットの故障や誤動作の原因になります。
- 端子台上のネジ，およびコネクタ取付けネジの締付けは，規定トルク範囲で行ってください。ネジの締付けがゆるいと，部品や配線の落下，短絡，誤動作の原因になります。ネジを締め過ぎると，ネジやユニットの破損による落下，短絡，誤動作の原因になります。
- ユニット（表示ユニット含む）および端子台の取付け・取りはずしは，製品使用後，50 回以内としてください。（JIS B 3502 による）50 回を超えた場合は，誤動作の原因となる恐れがあります。
- SD メモリカードの取付け・取りはずしは，製品使用後，500 回以内としてください。500 回を超えた場合は，誤動作の原因となる恐れがあります。
- ユニットに装着するバッテリには，落下・衝撃を加えないでください。落下・衝撃によりバッテリが破損し，バッテリ内部でバッテリ液の液漏れが発生している恐れがあります。落下・衝撃を加えたバッテリは使用せずに廃棄してください。
- ユニットに触れる前には，必ず接地された金属などの導電物に触れて，人体などに帯電している静電気を放電してください。静電気を放電しないと，ユニットの故障や誤動作の原因になります。
- 位置決め機能の試運転は，パラメータの速度制限値を遅い速度に設定し，危険な状態が発生したとき即座に停止できる準備をしてから行ってください。

【廃棄時の注意事項】

⚠注意
● 製品を廃棄するときは，産業廃棄物として扱ってください。バッテリを廃棄する際には各地域にて定められている法令に従い分別を行ってください。（EU 加盟国内でのバッテリ規制の詳細については 434 ページ 付 12 を参照してください。）

【輸送時の注意事項】

⚠注意
● リチウムを含有しているバッテリの輸送時には，輸送規制に従った取扱いが必要となります。（規制対象機種の詳細については 433 ページ 付 11 を参照してください。）

●製品の適用について●

(1) 当社シーケンサをご使用いただくにあたりましては，万一シーケンサに故障・不具合などが発生した場合でも重大な事故にいたらない用途であること，および故障・不具合発生時にはバックアップやフェールセーフ機能が機器外部でシステム的に実施されていることをご使用の条件とさせていただきます。

(2) 当社シーケンサは，一般工業などへの用途を対象とした汎用品として設計・製作されています。したがいまして，以下のような機器・システムなどの特殊用途へのご使用については，当社シーケンサの適用を除外させていただきます。万一使用された場合は当社として当社シーケンサの品質，性能，安全に関る一切の責任（債務不履行責任，瑕疵担保責任，品質保証責任，不法行為責任，製造物責任を含むがそれらに限定されない）を負わないものとさせていただきます。
・各電力会社殿の原子力発電所およびその他発電所向けなどの公共への影響が大きい用途
・鉄道各社殿および官公庁殿など，特別な品質保証体制の構築を当社にご要求になる用途
・航空宇宙，医療，鉄道，燃焼・燃料装置，乗用移動体，有人搬送装置，娯楽機械，安全機械など生命，身体，財産に大きな影響が予測される用途
ただし，上記の用途であっても，具体的に使途を限定すること，特別な品質（一般仕様を超えた品質等）をご要求されないこと等を条件に，当社の判断にて当社シーケンサの適用可とする場合もございますので，詳細につきましては当社窓口へご相談ください。

はじめに

このたびは，三菱シーケンサ MELSEC-L シリーズをお買い上げいただきまことにありがとうございました。
本マニュアル「MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（ハードウェア設計・保守点検編）」は，LCPU をご使用いただくときに必要な CPU ユニット，電源ユニットなどのハードウェア仕様と，システムの保守点検，トラブルシューティングについてご理解いただくためのマニュアルです。

ご使用前に本マニュアルや関連マニュアルをよくお読みいただき，MELSEC-L シリーズのシーケンサの機能・性能を十分ご理解の上，正しくご使用くださるようお願い致します。
本マニュアルで紹介するプログラム例を実際のシステムへ流用する場合は，対象システムにおける制御に問題がないことを十分検証ください。

■ 対応 CPU ユニット

CPU ユニット	形名
LCPU	L02SCPU，L02SCPU-P，L02CPU，L02CPU-P，L06CPU，L06CPU-P，L26CPU，L26CPU-P，L26CPU-BT，L26CPU-PBT

備 考

本マニュアルでは，命令の詳細内容は記載しておりません。命令については，下記のマニュアルを参照してください。
MELSEC-Q/L プログラミングマニュアル（共通命令編）

関連マニュアル

(1) CPU ユニットのユーザーズマニュアル

マニュアル名称 ＜マニュアル番号，形名コード＞	内容	価格
MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編） <SH-080873，13J231>	CPU ユニットの機能やプログラミング，デバイスなどの説明を記載しています。	4,000 円
MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（内蔵 Ethernet 機能編） <SH-080875，13J233>	CPU ユニットの Ethernet 機能の説明を記載しています。	3,000 円
MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（内蔵 I/O 機能編） <SH-080876，13J234>	CPU ユニットの汎用入出力機能，割込み入力機能，パルスキャッチ機能，位置決め機能，高速カウンタ機能について記載しています。	3,000 円
QnUDVCPU/LCPU ユーザーズマニュアル（データロギング機能編） <SH-080886，13J239>	CPU ユニットのデータロギング機能の説明を記載しています。	3,000 円

(2) プログラミングマニュアル

マニュアル名称 ＜マニュアル番号，形名コード＞	内容	価格
MELSEC-Q/L プログラミングマニュアル（共通命令編） <SH-080804，13JC22>	プログラミングで使用する命令の内容説明や使用方法について記載しています。	4,000 円
MELSEC-Q/L/QnA プログラミングマニュアル（SFC 編） <SH-080023，13JC02>	MELSAP3 のシステム構成，仕様，機能説明，プログラミング方法，エラーコード一覧について記載しています。	3,000 円
MELSEC-Q/L プログラミングマニュアル（MELSAP-L 編） <SH-080072，13JC03>	MELSAP-L 形式の SFC プログラムの作成に必要なシステム構成，仕様，プログラミング方法について記載しています。	3,000 円
MELSEC-Q/L プログラミングマニュアル（ストラクチャードテキスト編） <SH-080363，13JC11>	ストラクチャードテキスト言語のシステム構成，プログラミング方法について記載しています。	3,000 円
MELSEC-Q/L/QnA プログラミングマニュアル（PID 制御命令編） <SH-080022，13JC01>	PID 制御を行うための専用命令について記載しています。	1,000 円

(3) オペレーティングマニュアル

マニュアル名称 ＜マニュアル番号，形名コード＞	内容	価格
GX Works2 Version1 オペレーティングマニュアル（共通編） <SH-080730，13JV90>	GX Works2 のシステム構成，パラメータ設定，オンライン機能の操作方法など，シンプルプロジェクトと構造化プロジェクトに共通な機能について記載しています。	4,000 円
GX Developer Version8 オペレーティングマニュアル <SH-080356，13JV69>	GX Developer でのプログラム作成方法，プリントアウト方法，モニタ方法，デバッグ方法について記載しています。	4,000 円

(4) 入出力ユニット，インテリジェント機能ユニットのマニュアル

マニュアル名称 ＜マニュアル番号，形名コード＞	内容	価格
MELSEC-L 入出力ユニットユーザーズマニュアル <SH-080872，13J230>	入出力ユニットの仕様，トラブルシューティングについて記載しています。	1,500 円
MELSEC-L Ethernet インタフェースユニットユーザーズマニュアル（基本編） <SH-081104，13J222>	Ethernet ユニットの仕様，相手機器とのデータ交信手順，回線接続（オープン／クローズ），固定バッファ交信，ランダムアクセス用バッファ交信，トラブルシューティングについて記載しています。	3,000 円
MELSEC-L シリアルコミュニケーションユニットユーザーズマニュアル（基本編） <SH-080879，13J237>	シリアルコミュニケーションユニットを使用するための基礎知識システム構成，仕様，運転までの手順，相手機器との基本的なデータ交信方法，トラブルシューティングについて記載しています。	4,000 円
MELSEC-Q/L シリアルコミュニケーションユニットユーザーズマニュアル（応用編） <SH-080002，13JQ33>	シリアルコミュニケーションユニットの特殊機能の仕様と使い方，特殊機能を使用するための設定，相手機器とのデータ交信方法について記載しています。	3,000 円
MELSEC-Q/L MELSEC コミュニケーションプロトコルリファレンスマニュアル <SH-080003，13JQ34>	交信相手機器から CPU ユニットに対するデータの読出し，書込みを行うための MELSEC コミュニケーションプロトコル（MC プロトコル）について記載しています。	4,000 円
MELSEC-L CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル <SH-080880，13J238>	内蔵 CC-Link，CC-Link システムマスタ・ローカルユニットを使用するための設定，仕様，取扱い，データ交信方法，トラブルシューティングについて記載しています。	4,000 円
MELSEC-L CC-Link IE フィールドネットワークマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル <SH-080971，13J261>	CC-Link IE フィールドネットワーク，および MELSEC-L シリーズ CC-Link IE フィールドネットワークマスタ・ローカルユニット の仕様，運転までの手順，システム構成，設置と配線，設定，機能，プログラミング，トラブルシューティングについて記載しています。	3,000 円
MELSEC-L アナログ - ディジタル変換ユニットユーザーズマニュアル <SH-080877，13J235>	アナログ - ディジタル変換ユニットのシステム構成，仕様，設定，トラブルシューティングについて記載しています。	3,000 円
MELSEC-L 2 チャンネル間絶縁高分解能アナログ－ディジタル変換ユニットユーザーズマニュアル <SH-081102，13J221>	2 チャンネル間絶縁高分解能アナログ－ディジタル変換ユニットのシステム構成，仕様，設定，トラブルシューティングについて記載しています。	3,000 円
MELSEC-L ディジタル - アナログ変換ユニットユーザーズマニュアル <SH-080878，13J236>	ディジタル - アナログ変換ユニットのシステム構成，仕様，設定，トラブルシューティングについて記載しています。	3,000 円
MELSEC-L アナログ入出力ユニットユーザーズマニュアル <SH-081166，13J292>	アナログ入出力ユニットのシステム構成，仕様，設定，トラブルシューティングについて記載しています。	3,000 円
MELSEC-L LD75P/LD75D 形位置決めユニットユーザーズマニュアル <SH-080910，13J242>	位置決めユニットのシステム構成，仕様，設定，トラブルシューティングについて記載しています。	4,000 円
MELSEC-L 高速カウンタユニットユーザーズマニュアル <SH-080912，13J243>	高速カウンタユニットユニットのシステム構成，仕様，設定，トラブルシューティングについて記載しています。	3,000 円
MELSEC-L 温度調節ユニットユーザーズマニュアル <SH-080999，13J269>	温度調節ユニットのシステム構成，仕様，設定，トラブルシューティングについて記載しています。	4,000 円

Memo

目 次

安全上のご注意 1
製品の適用について 7
はじめに 8
関連マニュアル 9
マニュアルの読み方 16
用語 17
製品構成 18

第 1 章　CPU ユニットの特長　25

第 2 章　システム構成　27

2.1　全体構成 27
2.2　システム構成上の注意事項 28
2.3　周辺機器の構成 31

第 3 章　システムの立上げ手順　32

第 4 章　ユニットの取付けと配線　34

4.1　ユニットの設置環境と取付け位置 34
4.1.1　設置環境 34
4.1.2　取付け位置 34
4.2　ユニットの装着 35
4.2.1　ユニット装着時の注意事項 35
4.2.2　ユニットの装着 36
4.2.3　DIN レールへの取付け 37
4.2.4　DIN レール上のユニットの交換 40
4.2.5　表示ユニットの着脱 42
4.2.6　端子台の着脱 43
4.2.7　SD メモリカードの着脱 45
4.3　配線 47
4.3.1　電源の配線 48
4.3.2　18 点ネジ端子台の配線 51
4.3.3　スプリングクランプ端子台の配線 52
4.3.4　コネクタの配線 53
4.3.5　増設ケーブルの接続 59
4.3.6　RS-232 ケーブルの配線 60
4.3.7　RS-422/485 ケーブルの配線 61
4.3.8　接地 65

第 5 章　一般仕様　66

第 6 章　CPU ユニット　68

6.1　各部の名称 68
6.2　仕様 74
6.3　ハードウェア操作 78

6.3.1 プログラム書込み後のスイッチ操作 78
6.3.2 リセットの操作方法 79

第 7 章 電源ユニット 80

7.1 各部の名称 80
7.2 仕様 81
7.2.1 仕様一覧 81
7.2.2 仕様について 82
7.2.3 供給電源の電源容量に関する注意事項 82

第 8 章 END カバー 83

8.1 各部の名称 83
8.2 仕様 84

第 9 章 分岐ユニットおよび増設ユニット 86

9.1 各部の名称 86
9.2 仕様 87

第 10 章 RS-232 アダプタ 88

10.1 各部の名称 88
10.2 仕様 89
10.3 RS-232 ケーブルを常時接続する場合 89

第 11 章 RS-422/485 アダプタ 90

11.1 各部の名称 90
11.2 仕様 92

第 12 章 スペースユニット 94

12.1 用途 94
12.2 各部の名称 95
12.3 仕様 95
12.4 装着台数の制約 96
12.4.1 基本ブロックに対する装着台数 96
12.4.2 増設ブロックに対する装着台数 98

第 13 章 表示ユニット 99

13.1 各部の名称 99
13.2 仕様 100

第 14 章　SD メモリカード　101
14.1　各部の名称 101
14.2　仕様. 101
14.3　SD メモリカード強制使用停止について 103

第 15 章　バッテリ　105
15.1　仕様. 105

第 16 章　保守点検　107
16.1　日常点検 107
16.2　定期点検 109
16.3　バッテリの交換手順. 110
16.4　保管後の運転再開について. 112

第 17 章　トラブルシューティング　113
17.1　目視による確認 113
17.1.1　POWER LED が点灯しない場合 115
17.1.2　MODE LED が点灯しない場合. 115
17.1.3　RUN LED が点灯しない場合 116
17.2　エラー内容の確認 117
17.3　機能異常の確認 121
17.3.1　PC 書込，PC 読出. 123
17.3.2　ブート運転 123
17.3.3　Ethernet 通信 124
17.3.4　RS-232,RS-422/485 通信. 128
17.3.5　通信プロトコル機能. 130
17.3.6　ソケット通信機能 131
17.3.7　シンプル CPU 通信機能. 132
17.3.8　シリアルコミュニケーション機能 134
17.3.9　汎用入出力機能 135
17.3.10 割込み入力機能 135
17.3.11 パルスキャッチ機能. 136
17.3.12 位置決め機能. 136
17.3.13 高速カウンタ機能 137
17.3.14 表示ユニット. 142
17.3.15 外部機器からの交信. 142
17.3.16 CPU ユニット動作状態 143
17.3.17 ERR 端子付 END カバー 143
17.3.18 増設システム. 143
17.3.19 スペースユニット 144
17.4　内蔵 I/O 機能のトラブル事例. 145
17.4.1　入力回路のトラブル事例とその対策. 145
17.4.2　出力回路のトラブル事例とその対策. 147
17.5　データの退避. 149

付録 153

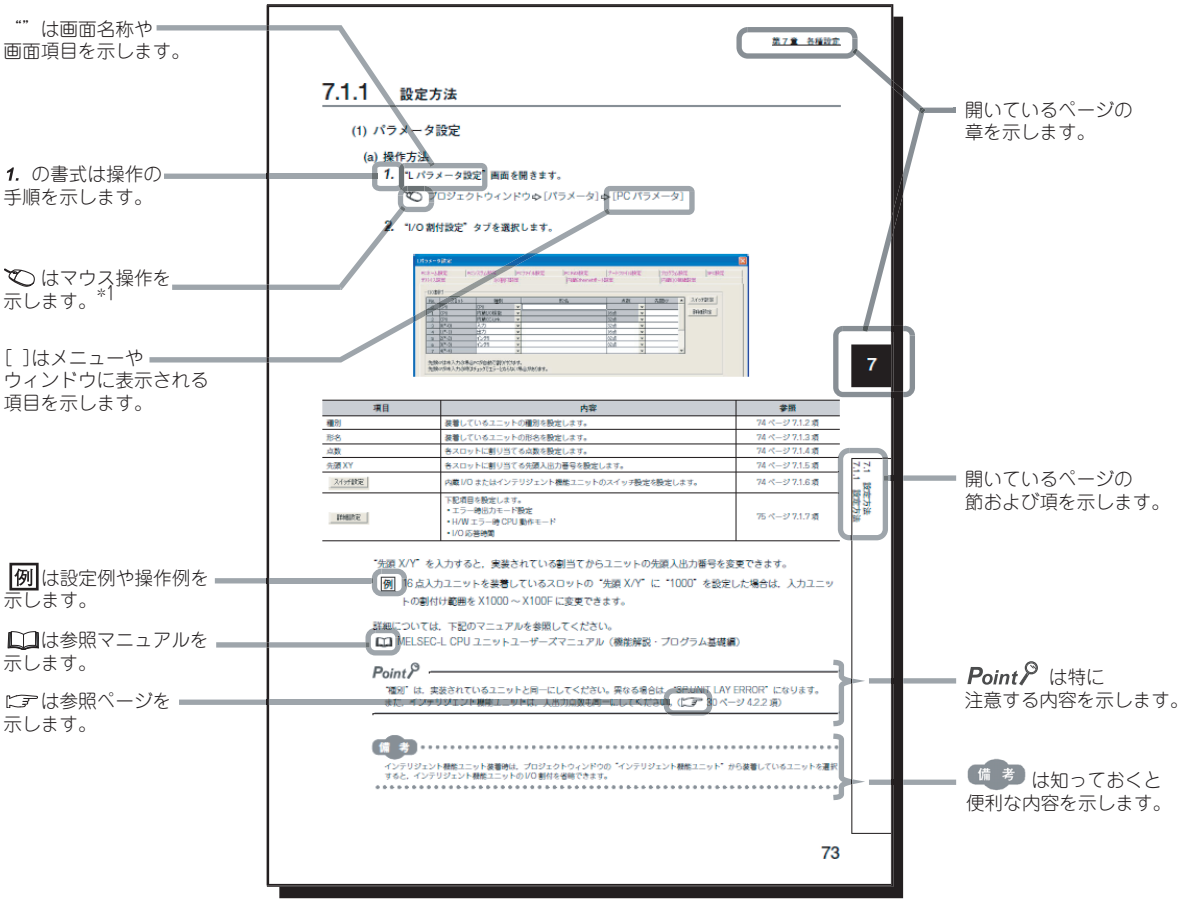
付 1 エラーコード一覧 153
付 1.1 エラーコード全体 154
付 1.2 エラーコードの読出し方法 154
付 1.3 エラーコード一覧（1000 ～ 1999） 155
付 1.4 エラーコード一覧（2000 ～ 2999） 173
付 1.5 エラーコード一覧（3000 ～ 3999） 200
付 1.6 エラーコード一覧（4000 ～ 4999） 217
付 1.7 エラーコード一覧（5000 ～ 5999） 232
付 1.8 エラーコード一覧（6000 ～ 6999） 234
付 1.9 エラーコード一覧（7000 ～ 10000） 242
付 1.10 エラーの解除 247
付 1.11 CPU ユニットとの交信時に要求元に返すエラーコード 248
付 2 特殊リレー一覧 281
付 3 特殊レジスター覧 323
付 4 バッテリ寿命 405
付 4.1 バッテリ寿命一覧 406
付 5 シリアル No. と機能バージョンの確認方法 408
付 6 機能の追加と変更 410
付 7 ソフトウェアのバージョンについて 412
付 8 EMC 指令・低電圧指令 413
付 8.1 EMC 指令適合のための要求 413
付 8.2 低電圧指令適合のための要求 425
付 9 フェールセーフ回路の考え方 427
付 10 シーケンサの発熱量の計算方法 431
付 10.1 平均消費電力の計算方法 431
付 11 バッテリ輸送時の注意事項 433
付 12 EU 加盟国内でのバッテリおよびバッテリ組込み機器の取扱いについて 434
付 13 外形寸法図 435
付 13.1 CPU ユニット 435
付 13.2 電源ユニット 437
付 13.3 表示ユニット 438
付 13.4 分岐ユニットおよび増設ユニット 439
付 13.5 その他のオプション品 440

索引 443

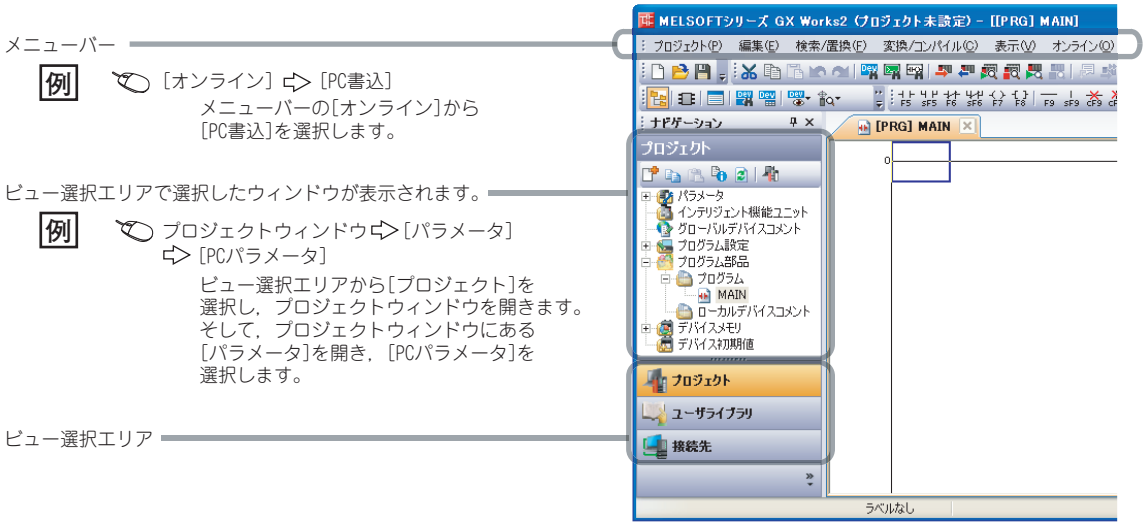
改訂履歴 445
保証について 447
サービスネットワーク（三菱電機システムサービス株式会社） 448

マニュアルの読み方

本マニュアルのページ構成と記号について説明します。
下記は，マニュアルの読み方に関する説明のため，実際の記載内容とは異なります。



＊1　マウス操作説明を下記に示します。（GX Works2 の場合）



用語

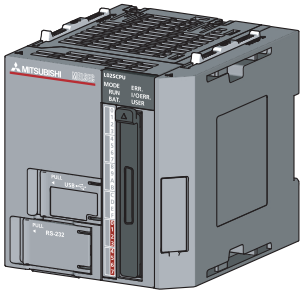
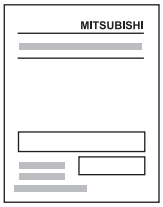
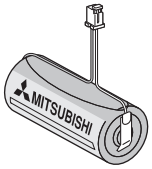
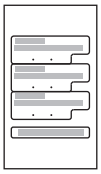
本マニュアルでは，特に明記する場合を除き，下記の用語を使用して説明します。

用語	内容
CPU ユニット	MELSEC-L シリーズ CPU ユニットの略称
電源ユニット	MELSEC-L シリーズ電源ユニットの略称
分岐ユニット	MELSEC-L シリーズ分岐ユニットの略称
増設ユニット	MELSEC-L シリーズ増設ユニットの略称
END カバー	MELSEC-L シリーズの最終端ユニットの右側に装着するカバーです。
表示ユニット	CPU ユニットに装着して使用する液晶ディスプレイです。
バッテリ	標準 RAM，ラッチデバイスなどの停電保持用に使用する CPU ユニットに装着するバッテリです。 Q6BAT，Q7BAT があります。
SD メモリカード	Secure Digital Memory Card を表します。フラッシュメモリで構成された記憶装置です。L1MEM-2GBSD，L1MEM-4GBSD があります。
増設ケーブル	MELSEC-L シリーズ増設ケーブルの略称
LCPU	MELSEC-L シリーズ CPU ユニットの別称
QCPU	MELSEC-Q シリーズ CPU ユニットの別称
QnUCPU	MELSEC-Q シリーズのユニバーサルモデル QCPU の別称
プログラミングツール	GX Works2，GX Developer の総称
GX Works2	MELSEC シーケンサソフトウェアパッケージの製品名です。
GX Developer	
GX Configurator-SC	GX Developer にアドインして使うシリアルコミュニケーションユニット用の設定・モニタツールです。
GX Configurator-AD	GX Developer にアドインして使うアナログ - ディジタル変換ユニット用の設定・モニタツールです。
GX Configurator-DA	GX Developer にアドインして使うディジタル - アナログ変換ユニット用の設定・モニタツールです。
GX Configurator-CT	GX Developer にアドインして使う高速カウンタユニット用の設定・モニタツールです。
GX Configurator-QP	位置決めユニット用の設定・モニタツールです。
CC-Link IE	CC-Link IE コントローラネットワーク*1 と CC-Link IE フィールドネットワークの総称
インテリジェント機能ユニット	A/D，D/A 変換ユニットなど，入出力以外の機能を持つ MELSEC-L シリーズのユニットです。
入出力ユニット	MELSEC-L シリーズ入出力ユニットの略称
ヘッドユニット	LJ72GF15-T2 形 CC-Link IE フィールドネットワークヘッドユニットの略称
CC-Link IE ユニット	CC-Link IE コントローラネットワークユニット*1 と CC-Link IE フィールドネットワークマスタ・ローカルユニットの総称
ドライブユニット（サーボアンプ）	位置決め機能において，LCPU から出される指令（パルスなど）は低電圧，低電流ですが，モータを動かす上でその不足するエネルギを増幅してモータを動かせるようにする装置のことです。サーボモータ，ステッピングモータに付属されています。サーボアンプともいいます。
ブロック	電源ユニットから END カバーまでのユニットの集まりです。
基本ブロック	増設システムにおいて，CPU ユニットが装着されているブロックのことです。
増設ブロック	増設システムにおいて，増設ユニットが装着されているブロックのことです。
MC プロトコル	MELSEC コミュニケーションプロトコルを表します。Ethernet 通信やシリアルコミュニケーションユニットの交信手順で，相手機器から CPU ユニットへアクセスするための通信方式の名前です。
相手機器	データ交信するために，CPU ユニットと接続する GOT，計測器，ID ユニット，バーコードリーダ，調節器，他 CPU ユニットなどです。
内蔵 CC-Link 機能	L26CPU-BT，L26CPU-PBT 内蔵 CC-Link システムマスタ・ローカル機能の略称

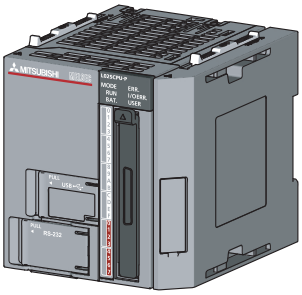
＊1　MELSEC-L シリーズでは，対応していません。

製品構成

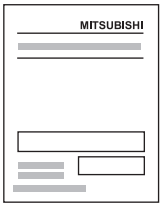
本製品の梱包物には，次のものが含まれています。本製品を使用する前にすべて揃っているか確認してください。

L02SCPU	
	
CPU ユニット本体＋ END カバー（L6EC） （表示ユニットダミーカバー付き）	安全にお使いいただくために（IB-0800456）
	
バッテリ（Q6BAT） （CPU ユニットに内蔵されています）	電池交換日付記入シール （1 シート 3 枚セット）

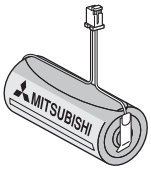
L02SCPU-P



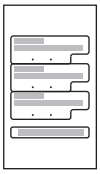
CPU ユニット本体＋ END カバー (L6EC)
（表示ユニットダミーカバー付き）



安全にお使いいただくために (IB-0800456)

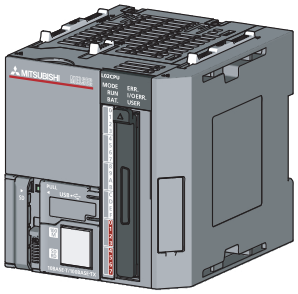


バッテリ (Q6BAT)
（CPU ユニットに内蔵されています）

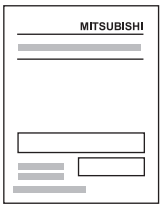


電池交換日付記入シール
（1 シート 3 枚セット）

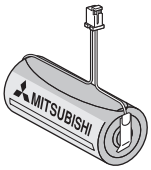
L02CPU



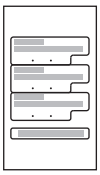
CPU ユニット本体＋ END カバー (L6EC)
（表示ユニットダミーカバー付き）



安全にお使いいただくために (IB-0800456)

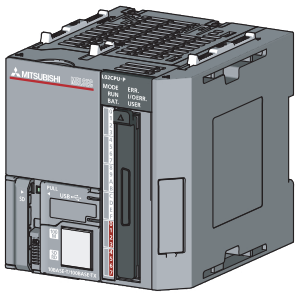


バッテリ (Q6BAT)
（CPU ユニットに内蔵されています）

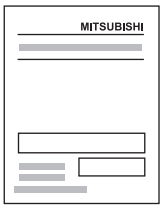


電池交換日付記入シール
（1 シート 3 枚セット）

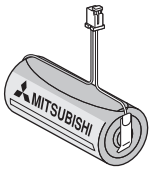
L02CPU-P



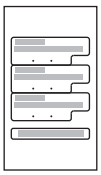
CPU ユニット本体＋ END カバー (L6EC)
（表示ユニットダミーカバー付き）



安全にお使いいただくために (IB-0800456)

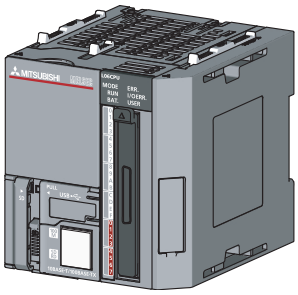


バッテリ (Q6BAT)
（CPU ユニットに内蔵されています）

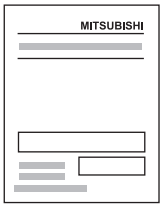


電池交換日付記入シール
（1 シート 3 枚セット）

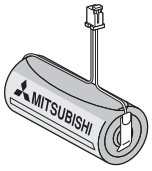
L06CPU



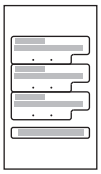
CPU ユニット本体＋ END カバー (L6EC)
（表示ユニットダミーカバー付き）



安全にお使いいただくために (IB-0800456)

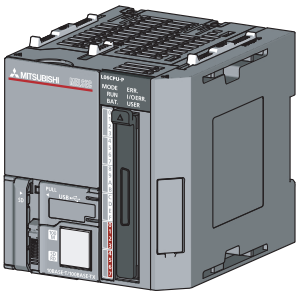


バッテリ (Q6BAT)
（CPU ユニットに内蔵されています）

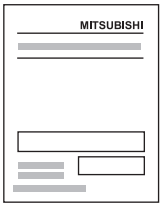


電池交換日付記入シール
（1 シート 3 枚セット）

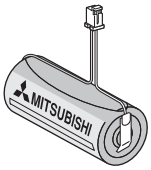
L06CPU-P



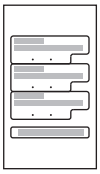
CPU ユニット本体＋ END カバー (L6EC)
（表示ユニットダミーカバー付き）



安全にお使いいただくために (IB-0800456)

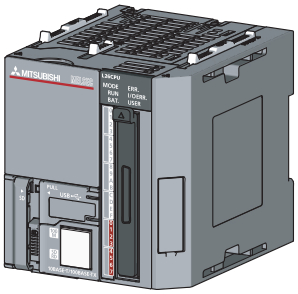


バッテリ (Q6BAT)
（CPU ユニットに内蔵されています）

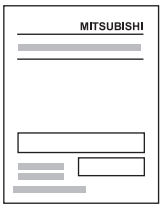


電池交換日付記入シール
（1 シート 3 枚セット）

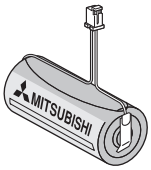
L26CPU



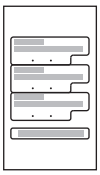
CPU ユニット本体＋ END カバー (L6EC)
（表示ユニットダミーカバー付き）



安全にお使いいただくために (IB-0800456)

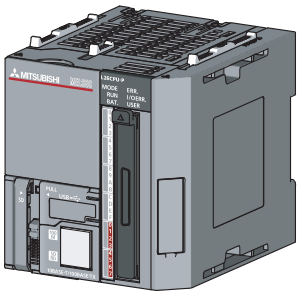


バッテリ (Q6BAT)
（CPU ユニットに内蔵されています）

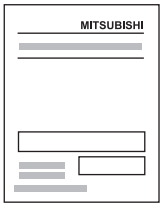


電池交換日付記入シール
（1 シート 3 枚セット）

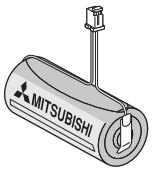
L26CPU-P



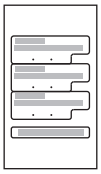
CPU ユニット本体＋ END カバー（L6EC）
（表示ユニットダミーカバー付き）



安全にお使いいただくために（IB-0800456）

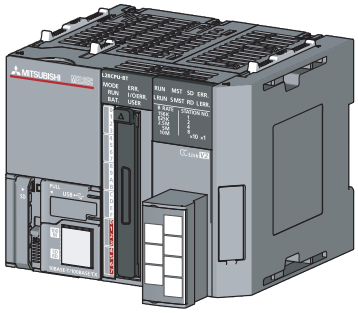


バッテリ（Q6BAT）
（CPU ユニットに内蔵されています）

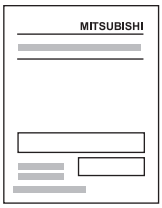


電池交換日付記入シール
（1 シート 3 枚セット）

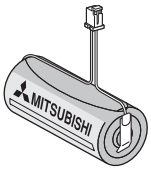
L26CPU-BT



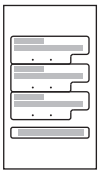
CPU ユニット本体＋ END カバー（L6EC）
（表示ユニットダミーカバー付き）



安全にお使いいただくために（IB-0800456）

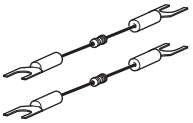


バッテリ（Q6BAT）
（CPU ユニットに内蔵されています）

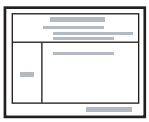


電池交換日付記入シール
（1 シート 3 枚セット）

終端抵抗セット一式

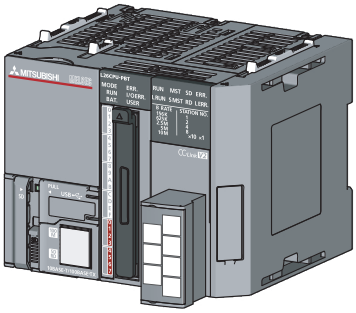


終端抵抗 110Ω 1/2W×2個（茶茶茶　金）

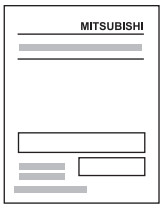


終端抵抗について（注意書き）

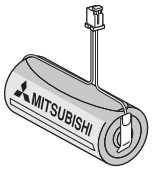
L26CPU-PBT



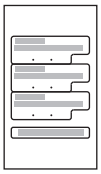
CPU ユニット本体＋ END カバー (L6EC)
（表示ユニットダミーカバー付き）



安全にお使いいただくために (IB-0800456)

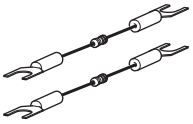


バッテリ (Q6BAT)
（CPU ユニットに内蔵されています）



電池交換日付記入シール
（1 シート 3 枚セット）

終端抵抗セット一式



終端抵抗 110Ω 1/2W×2個（茶茶茶　金）

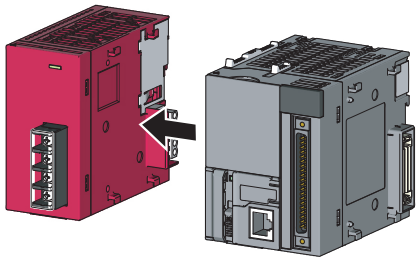
終端抵抗について（注意書き）

第 1 章　CPU ユニットの特長

本章では，MELSEC-L シリーズ CPU ユニットの特長を説明します。

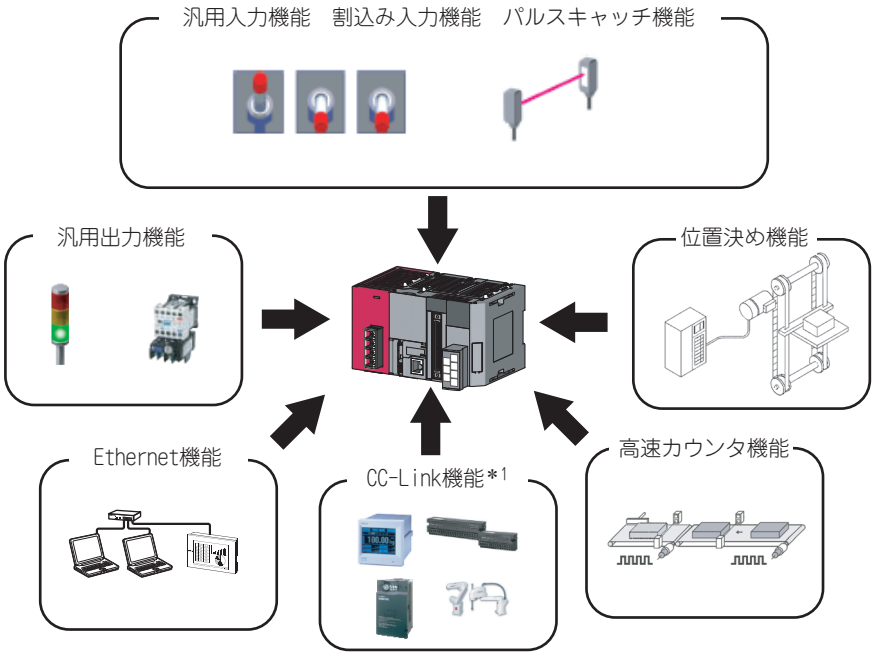
(1) ユニット同士を直接連結可能

ユニット側面に装備されたコネクタにより，ユニット同士を直接つなぐことができます。
そのため，最小限のスペースでシステムの拡張ができます。



(2) 内蔵機能でシステムコスト削減

下記の機能が CPU ユニットに内蔵されているため，CPU ユニットのみの小規模システムの構築が可能となります。



＊1　CC-Link 機能は L26CPU-BT，L26CPU-PBT で使用できます。

内蔵機能の詳細については下記のマニュアルを参照してください。

MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（内蔵 I/O 機能編）
MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（内蔵 Ethernet 機能編）
MELSEC-L CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル

(3) 表示ユニットで操作性向上

表示ユニットを装着することで，パソコンを使わずに下記の操作ができるようになります。

- デバイスの値の確認と変更による配線のチェック
- 時計データの表示と設定
- インテリジェント機能ユニットの設定値の確認と変更
- エラーメッセージやエラーの詳細情報の確認

詳細については下記のマニュアルを参照してください。

MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）

(4) SD メモリカードに対応

SD メモリカードスロットが標準装備されています。

SD メモリカードを使用することにより，下記の機能が使用できます。

- データロギング機能
- SD メモリカードからのブート運転
- SD メモリカードへのデータバックアップ
- バックアップデータのリストア

各機能の詳細については下記のマニュアルを参照してください

MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）
QnUDVCPU/LCPU ユーザーズマニュアル（データロギング機能編）

(5) CPU ユニットから Ethernet への直接接続が可能

パソコンでの標準インタフェースである Ethernet を通信インタフェースとして使用できます。

Ethernet ポートとハブを用いることで，ケーブルを差しかえることなく，プログラミングツールや GOT などの機器を複数台接続することができます。

機能の詳細については下記のマニュアルを参照してください。

MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（内蔵 Ethernet 機能編）

(6) 分岐ユニットおよび増設ユニットによりシステムの拡張が可能

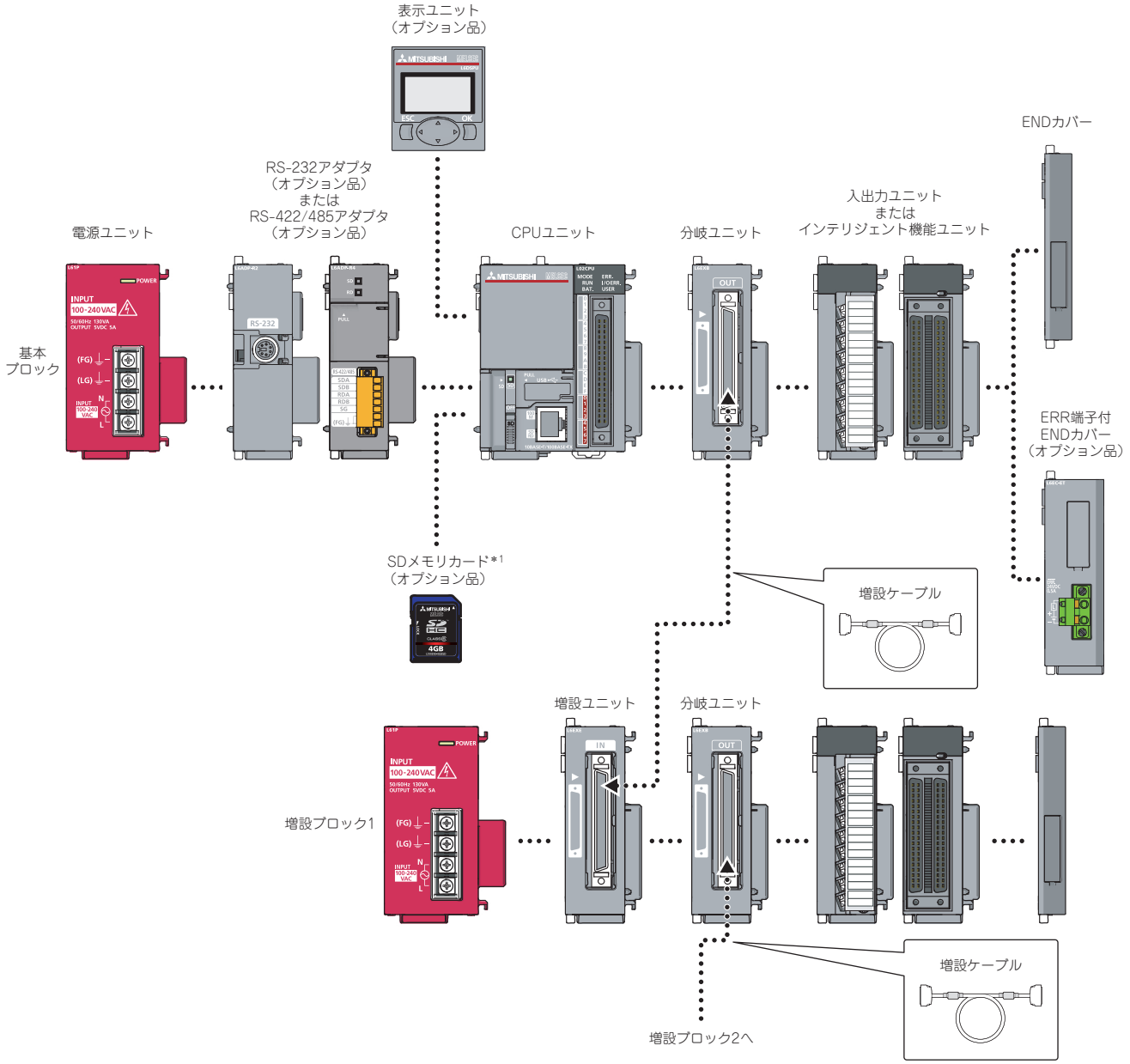
分岐ユニットおよび増設ユニットを使用することで最大 40 ユニットの装着が可能です。

第２章　システム構成

本章では，全体構成，構成上の注意事項，周辺機器について説明します。

2.1　全体構成

MELSEC-L シリーズ CPU ユニットを使用した，システムの全体構成を下記に示します。



＊1　使用可能な SD メモリカードについては，☞ 101 ページ 第 14 章を参照してください。

Point

MELSEC-L シリーズ CPU ユニットを使用したシステムにヘッドユニットは装着できません。

2.2 システム構成上の注意事項

システムを構成するうえでの注意事項について説明します。

(1) 装着可能ユニット数と増設ブロック数

使用する CPU ユニットにより増設ブロック数が異なります。したがって，最大構成も異なります。
使用する CPU ユニットごとの増設ブロック数と，装着可能ユニット数を下記に示します。

CPU ユニット形名	増設ブロック数	装着可能ユニット数＊1	最大構成＊2
L02SCPU, L02SCPU-P, L02CPU，L02CPU-P	最大 2 ブロック	基本ブロック：最大 10 ユニット 増設ブロック：最大 11 ユニット	30 ユニット • 基本ブロック：9 ユニット • 増設ブロック 1：10 ユニット • 増設ブロック 2：11 ユニット
L06CPU，L06CPU-P，L26CPU, L26CPU-P, L26CPU-BT, L26CPU-PBT	最大 3 ブロック		40 ユニット • 基本ブロック：9 ユニット • 増設ブロック 1：10 ユニット • 増設ブロック 2：10 ユニット • 増設ブロック 3：11 ユニット

＊1 電源ユニット，CPU ユニット，表示ユニット，増設ユニット，RS-232 アダプタ，RS-422/485 アダプタおよび END カバーは含みません。
＊2 装着可能な入出力ユニット，インテリジェント機能ユニットおよびネットワークユニットの合計ユニット数です。

増設ブロック数を超えるブロックを接続した場合，CPU ユニットが，“SYSTEM LAY ERR.”（エラーコード：2174）を検出します。
各ブロックの装着可能ユニット数を超えるユニット数を装着した場合，CPU ユニットが，“SYSTEM LAY ERR.”（エラーコード：2173）を検出します。
システム全体の装着可能ユニット数を超えるユニット数を装着した場合，CPU ユニットが，“SP.UNIT LAY ERR.”（エラーコード：2124）を検出します。

Point

分岐ユニットは装着可能ユニット数に含みます。このため，装着可能ユニット数の上限に達したブロックに分岐ユニットを追加する場合，分岐ユニットを追加するブロックの 1 ユニットを，増設ブロックに移設してください。

また，一部のユニットには装着ユニット数に制約があります。制約のあるユニット形名と装着可能ユニット数を下記に示します。＊3

製品名	ユニット形名	装着可能ユニット数			
		L02SCPU, L02SCPU-P	L02CPU, L02CPU-P	L06CPU, L06CPU-P, L26CPU, L26CPU-P	L26CPU-BT, L26CPU-PBT
CPU ユニット	－	基本ブロックに 1 ユニットのみ			
分岐ユニット	L6EXB	各ブロックに 1 ユニットのみ			
増設ユニット	L6EXE	各増設ブロックに 1 ユニットのみ			
RS-232 アダプタ	L6ADP-R2	装着不可	基本ブロックに 1 ユニットのみ（RS-232 アダプタまたは RS-422/485 アダプタのいずれか 1 ユニット）		
RS-422/485 アダプタ＊7	L6ADP-R4				
CC-Link システムマスタ・ローカルユニット	LJ61BT11	2 ユニット（2 台）＊4		4 ユニット（4 台）＊4	3 ユニット（3 台）＊4
CC-Link IE フィールドネットワークマスタ・ローカルユニット＊5	LJ71GF11-T2	4 ユニット（2 台）＊4		8 ユニット（4 台）＊4	
Ethernet ユニット＊6	LJ71E71-100	1 ユニットのみ（1 台）		2 ユニットのみ（2 台）	

＊3　インテリジェント機能ユニットおよびネットワークユニットには 1 台のユニットで 2 ユニット分占有するユニットがあります。該当ユニットのユーザーズマニュアルにはユニット占有数の記載がありますので，システムを構成する前に確認してください。
＊4　プログラミングツールのパラメータで設定できる枚数です。専用命令を使用することで最大装着可能ユニット数まで使用できます。専用命令については，各ユニットのマニュアルを参照してください。
＊5　CC-Link IE フィールドネットワークマスタ・ローカルユニットを装着する場合は，CPU ユニットのシリアル No. の上 5 桁が “13012” 以降であることを確認してください。
＊6　Ethernet ユニットを装着する場合は，CPU ユニットのシリアル No. の上 5 桁が “14112” 以降であることを確認してください。
＊7　RS-422/485 アダプタを装着する場合は，CPU ユニットのシリアル No. の上 5 桁が “15102” 以降であることを確認してください。

分岐ユニットの装着可能ユニット数を超えるユニット数を装着した場合，CPU ユニットが，“SYSTEM LAY ERR.”（エラーコード：2172）を検出します。

(2) 分岐ユニット，増設ユニット使用時

(a) 装着位置

分岐ユニットおよび増設ユニットの装着可能位置を下記に示します。

ユニット	装着ブロック	装着可能位置
分岐ユニット	基本ブロック	CPU ユニットの右隣または END カバーの左隣
	増設ブロック	増設ユニットの右隣または END カバーの左隣
増設ユニット	基本ブロック	装着不可
	増設ブロック	電源ユニットの右隣のみ

(b) CPU ユニット

シリアル No. の上 5 桁が “13072” 以降のユニットを使用してください。

(c) END カバー

分岐ユニットおよび増設ユニット使用時は，下記の END カバーを使用してください。

- シリアル No. の上 6 桁が “＊＊＊＊＊ 2” 以降の L6EC
- ERR 端子付 END カバー（オプション品）

Point

L6EC-ET を増設ブロックに装着した場合，$\overline{\text{ERR.}}$ 端子によりシステムの異常を検出することはできません。（$\overline{\text{ERR.}}$ 端子は常時 OFF）

(d) 増設ブロックの電源ユニット

増設ブロックには電源ユニットを必ず装着してください。電源ユニットが装着されておらず，増設ブロックに装着される入出力ユニット，インテリジェント機能ユニットが軽負荷ユニットの場合，装着したユニットは動作することがあります。しかし，電圧が不安定になるため，動作は保証できません。

(e) 増設ケーブルの接続

分岐ユニットに増設ケーブルのみを接続した状態にはしないでください。ノイズにより，誤動作の原因となります。（増設ユニットと接続されていない分岐ユニットが接続されていても，CPU ユニットは正常なシステム構成として扱います）

(3) DC5V 定格出力電流

システム構成時の総消費電流は，電源ユニットの DC5V 定格出力電流を超えないようにしてください。電源ユニットの仕様は☞ 81 ページ 7.2 節を参照してください。

(4) 電源容量について

装着ユニットの組合せ，装着枚数によっては電源容量の不足が発生する場合があります。ユニット装着時，必ず電源容量を考慮してください。電源容量が不足する場合は，装着するユニットの組合せを検討してください。

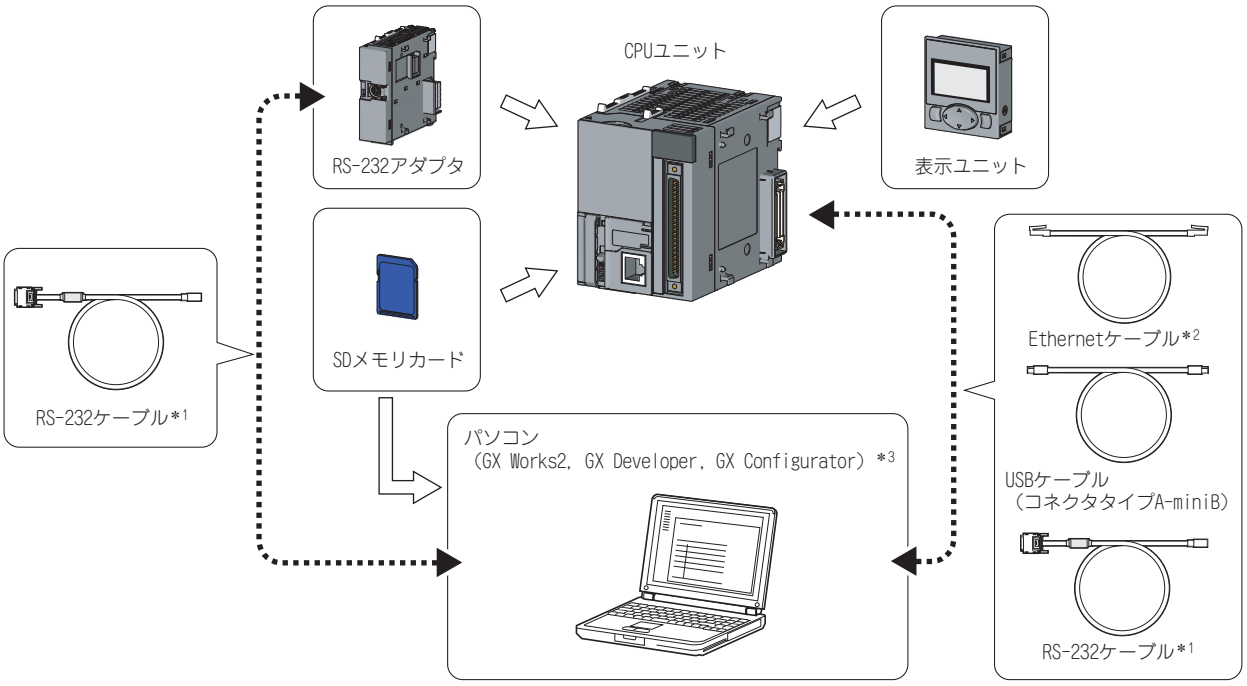
(5) ネットワーク経由でアクセスする他シリーズのユニット

他シリーズの下記のユニットから，CPU ユニットにネットワーク経由でアクセスする場合は，ユニットのバージョンを確認してください。（📖使用するユニットのマニュアル）

- Web サーバユニット
- MES インタフェースユニット
- 高速データロガーユニット

2.3　周辺機器の構成

MELSEC-L シリーズ CPU ユニットを使用したシステムで，使用可能な周辺機器の構成について説明します。



＊1　RS-232 ケーブルは仕様を満足するケーブルを使用してください。RS-232 ケーブルの仕様については下記のマニュアルを参照してください。

使用するプログラミングツールのオペレーティングマニュアル

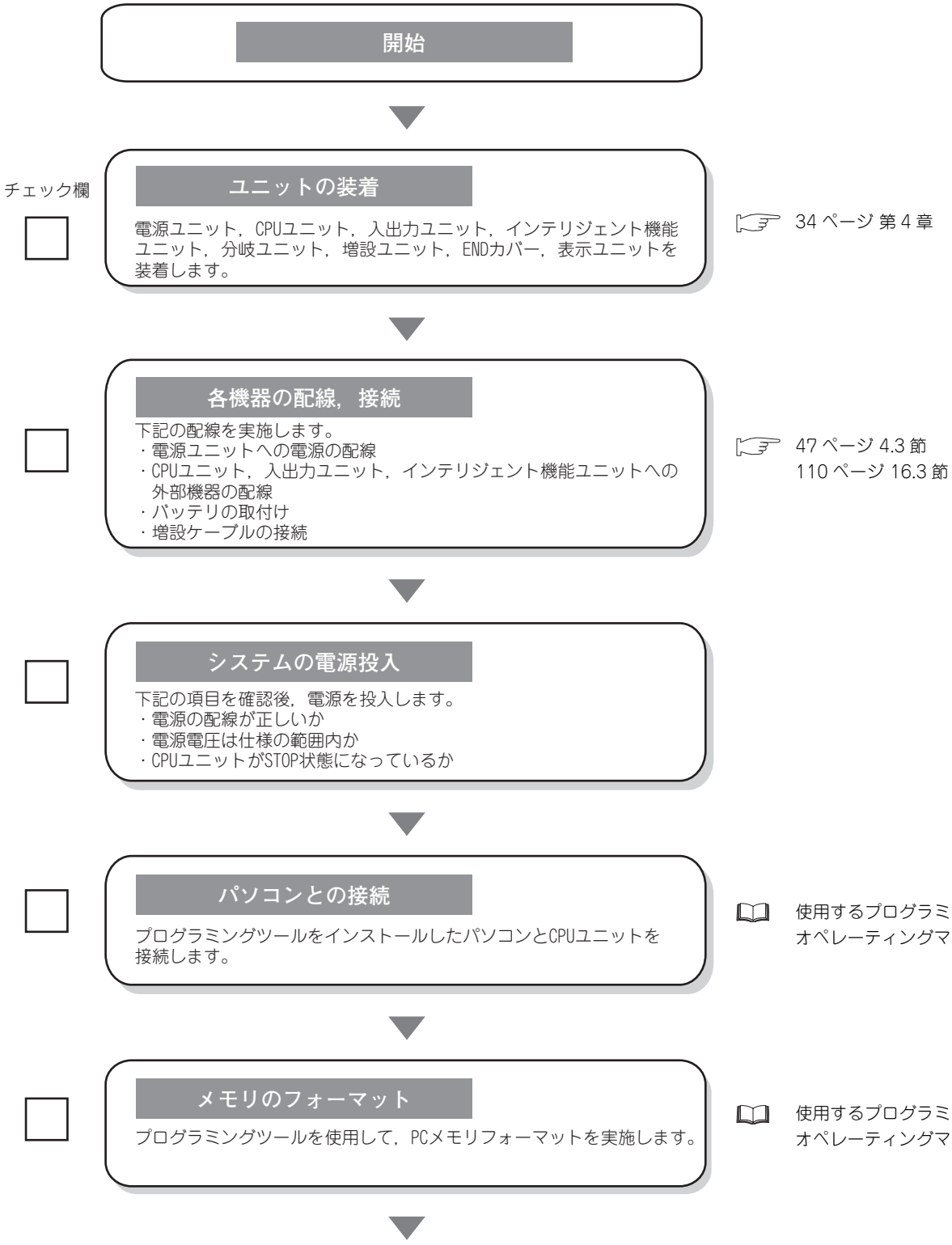
＊2　Ethernet ケーブルは，下記仕様のケーブルを使用してください。

- 10BASE-T 接続時：Ethernet 規格対応品ケーブルカテゴリ 3 以上（STP/UTP ケーブル（ノイズの影響を受けやすい環境では，シールドツイストペアケーブル（STP ケーブル）を使用してください。））
- 100BASE-TX 接続時：Ethernet 規格対応品ケーブルカテゴリ 5 以上（STP ケーブル）

＊3　対応ソフトウェアバージョンについては☞ 412 ページ 付 7 を参照してください。

第 3 章　システムの立上げ手順

本章では，システムを立ち上げる場合の基本的な流れについて説明します。



□ **CPUユニットへの書込み**

プログラミングツールで作成されたプログラムとパラメータを，CPUユニットに書き込みます。

📖 使用するプログラミングツールのオペレーティングマニュアル

▼

□ **システムの再起動**

下記のいずれかの方法でシステムを再起動します。
・電源のOFF→ON
・CPUユニットのリセット

☞ 78 ページ 6.3 節

▼

□ **エラーの確認**

CPUユニットのERR.LED，I/O ERR．LEDが消灯していることを確認します。点灯または点滅している場合は，プログラミングツールまたは表示ユニットによりエラーの内容を確認して，エラー要因を取り除きます。

☞ 113 ページ 第 17 章

▼

□ **プログラムの実行**

CPUユニットをRUN状態にして，CPUユニットのRUN LEDが点灯することを確認します。

▼

完了

第 4 章　ユニットの取付けと配線

本章では，各種ユニットの取付け，および配線について説明します。

4.1　ユニットの設置環境と取付け位置

シーケンサを制御盤などに取り付ける場合，操作性，保守性，耐環境性を十分に考慮して設置してください。

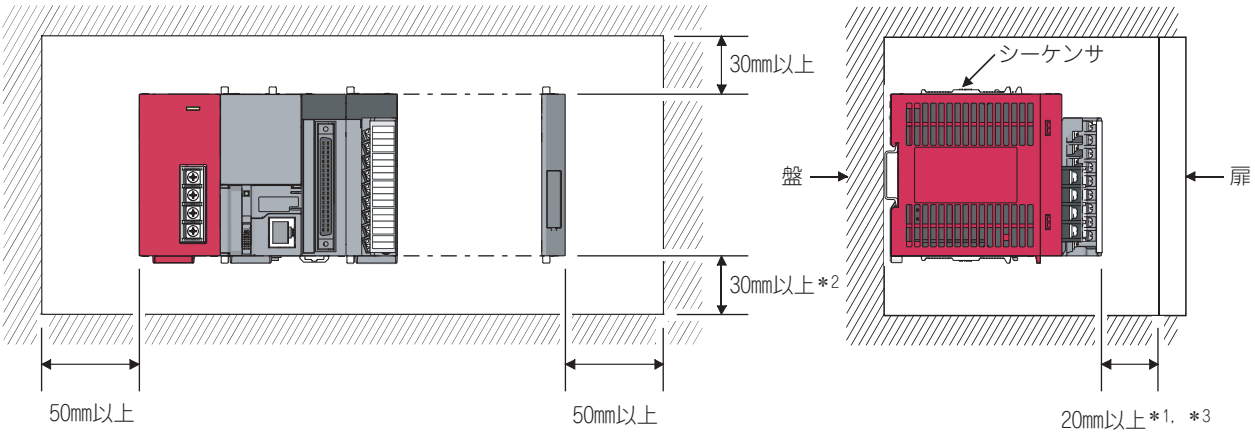
4.1.1　設置環境

一般仕様に示す設置環境に従ってシーケンサを設置してください。(☞66 ページ 第 5 章)
下記のような場所にはユニットを設置しないでください。

- 周囲の温度が 0 ～ 55 ℃の範囲を超える場所
- 周囲の湿度が 5 ～ 95%RH の範囲を超える場所
- 急激な温度変化で，結露が生じる場所
- 腐食性ガス，可燃性ガスのある場所
- じんあい，鉄粉など導電性のある粉末，オイルミスト , 塩分，有機溶剤の多い場所
- 直射日光が当たる場所
- 強電界，強磁界の発生する場所
- 本体に直接振動や衝撃が伝わるような場所

4.1.2　取付け位置

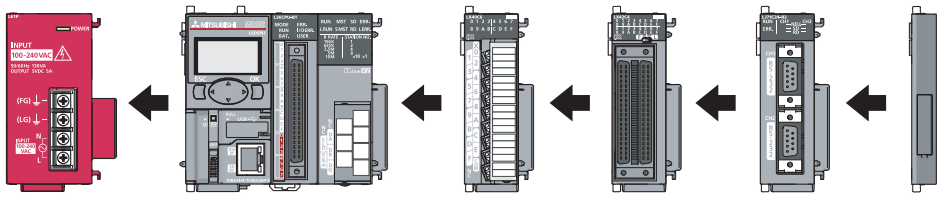
風通しをよくするため，またユニット交換を容易にするために，ユニット上下部と構造物や部品とは，下記に示す距離を設けてください。



＊ 1　：外部機器接続用コネクタを使用する場合は，80mm 以上の距離を設けてください。
＊ 2　：バッテリに Q7BAT を使用する場合は，45mm 以上の距離を設けてください。
＊ 3　：増設ケーブルを接続する場合は，140mm 以上の距離を設けてください。

4.2　ユニットの装着

ユニット間の着脱や，DIN レールへの取付け方法について説明します。
ユニット間の装着例を下記に示します。



Point

- ユニットは必ず DIN レールに取り付けてください。
- 最終端ユニットの右側には必ず END カバーを装着してください。

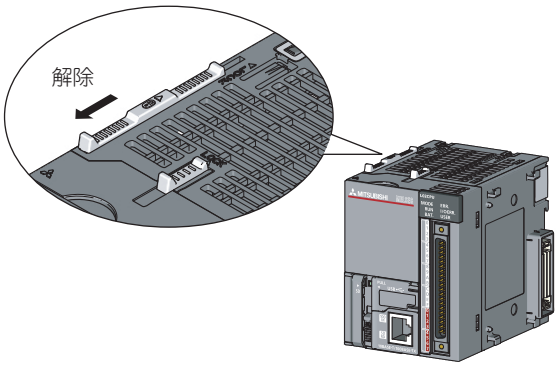
4.2.1　ユニット装着時の注意事項

- ユニットの導電部分や電子部品には直接触らないでください。ユニットの誤動作，故障の原因になります。
- ユニット（表示ユニットを含む）および端子台の取付け，取りはずしは，製品使用後 50 回以内にしてください。（JIS B 3502 による）なお，50 回を超えた場合は，誤動作の原因となる恐れがあります。
- ユニットのケース，端子台，コネクタは落下させたり，強い衝撃を与えたりしないでください。
- ユニットのプリント基板は，ケースから取りはずさないでください。取りはずした場合，故障の原因となります。
- CPU ユニット内のバッテリ消耗を防ぐために，工場出荷時にはバッテリコネクタがはずされた状態で梱包されています。CPU ユニットを初めて使用する場合は，バッテリコネクタを接続してから使用してください。（☞110 ページ 16.3 節）

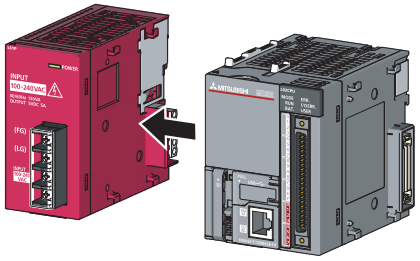
4.2.2 ユニットの装着

ユニットの装着手順を示します。
本項では L61P に L02CPU を装着する場合を例に説明します。
ユニットの着脱は，必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。

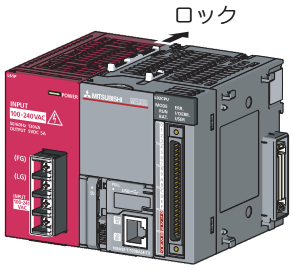
(1) ユニットの装着



1. **L02CPU の上面と下面に付いているユニット連結用フックを解除します。**
ユニット連結用フックは，ユニット前面方向に止まる位置までスライドさせます。



2. **両方のユニットのコネクタをかみ合わせるようにまっすぐ差し込んで接続します。**



3. **L02CPU の上面と下面に付いているユニット連結用フックをロックします。**
ユニット連結用フックは，解除時とは逆に背面側に止まる位置までスライドさせます。
ロック後に確実に装着されているか確認してください。

(2) ユニットの取りはずし

取り付ける手順と逆の要領で取りはずせます。

Point

- ユニット連結用フックが止まる位置までスライドさせて確実にロックしないと，誤動作，故障，落下の原因になります。
- 電源 OFF の直後では，ユニット背面などの金属部分が高温になっている可能性があります。ユニットを取りはずしたときには，火傷などに注意してください。

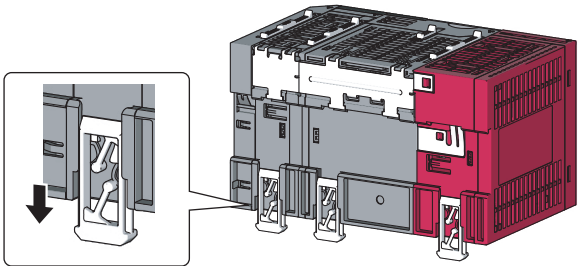
4.2.3　DIN レールへの取付け

ユニットを DIN レールに取り付ける手順を示します。

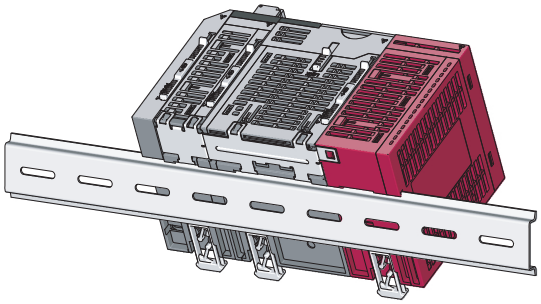
Point

DIN レール止め金具の使用方法は，一例として記載しています。ご使用の DIN レール止め金具の説明書に従って，ユニットを固定してください。

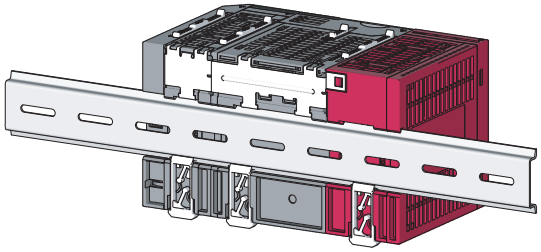
(1) 取付け手順



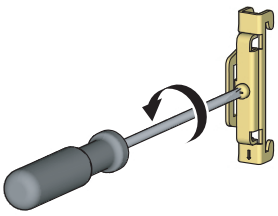
1. **ユニット背面の DIN レール取付け用フックをすべて下に引き出します。**
カチッと音がするまで引き出してください。



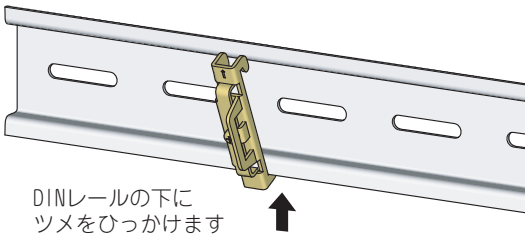
2. **ユニットの上側のツメを DIN レールの上側にひっかけてから奥に差し込んで取り付けます。**



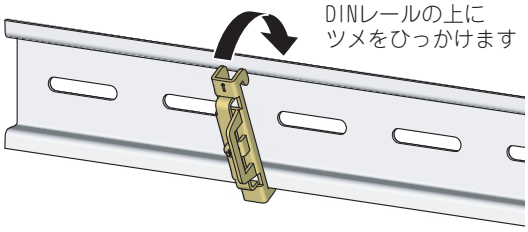
3. **ユニットの DIN レール取付け用フックをロックして，DIN レールにはめ込みます。**
カチッと音がするまで上に押し込んでください。
また，DIN レール取付け用フックに指が届かない場合は，ドライバなどの工具を使用してください。



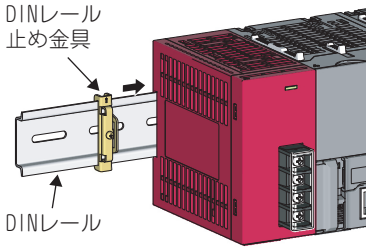
4. **DIN レール止め金具のネジをゆるめます。**



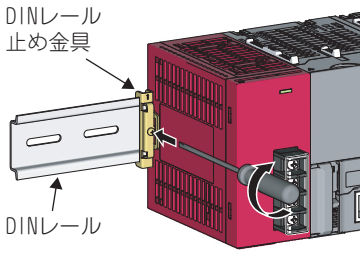
5. DIN レール止め金具の下のツメを DIN レールの下側にひっかけます。
DIN レール止め金具の前面にある矢印を確認して上下を合わせてください。



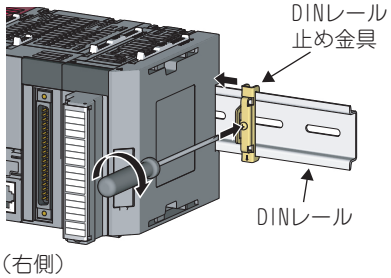
6. DIN レール止め金具の上のツメを DIN レールの上側にひっかけます。



7. DIN レール止め金具をユニットの左端までスライドさせます。



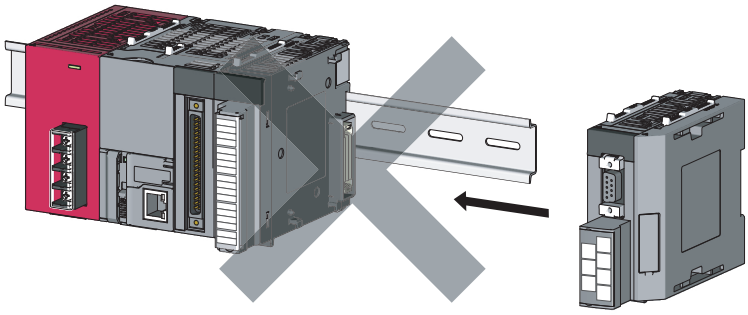
8. DIN レール止め金具に刻印されている矢印とは逆方向に押さえ，ネジをドライバで締め付けます。



9. 同様の手順で，ユニットの右側にも DIN レール止め金具を取り付けます。右側に取り付ける場合は，DIN レール止め金具を上下逆に取り付けるため，取扱いには注意してください。

Point

DIN レールの端からスライドさせて取り付けないでください。ユニット背面の金具が破損する恐れがあります。



(2) 取りはずし手順

取付け手順と逆の要領で DIN レールからユニットを取りはずせます。

(3) 適用 DIN レール形名（JIS C 2812）

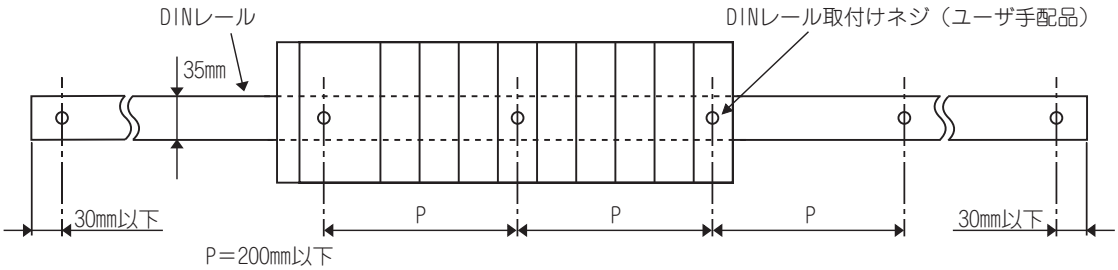
- TH35-7.5Fe
- TH35-7.5Al
- TH35-15Fe

(4) DIN レール止め金具

DIN レールに装着できる止め金具を使用してください。

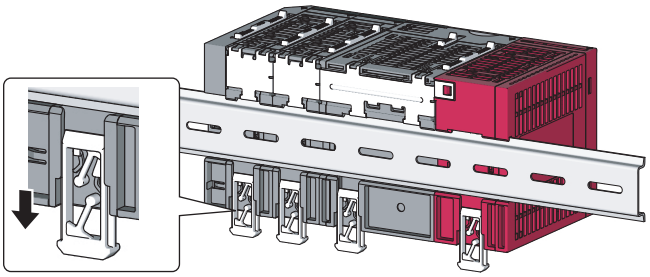
(5) DIN レール取付けネジの間隔

DIN レールの強度を確保するため，DIN レール取付けネジ（ユーザ手配品）を DIN レールの端から 30mm 以下の位置，および 200mm 以下の間隔でネジ締めしてください。



4.2.4 DIN レール上のユニットの交換

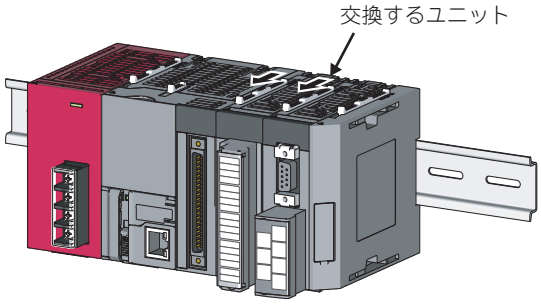
DIN レールへの装着後にユニットを右にずらして交換する手順を下記に示します。
交換の際はユニットに装着されている端子台，およびコネクタをはずしてから行ってください。



1. **右端の DIN レール止め金具を取りはずします。**

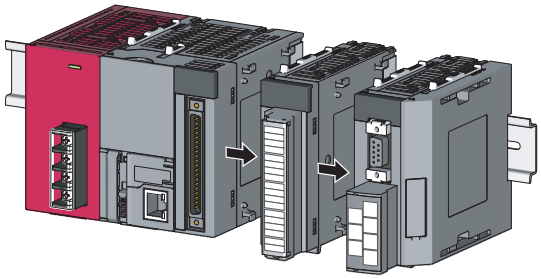
2. **各ユニット背面の DIN レール取付け用フックを下に引き出します。**

交換するユニットと，交換するユニットの右隣ユニットの DIN レール取付け用フックを，カチッと音がするまで引き出してください。
また，DIN レール取付け用フックに指が届かない場合は，ドライバなどの工具を使用してください。

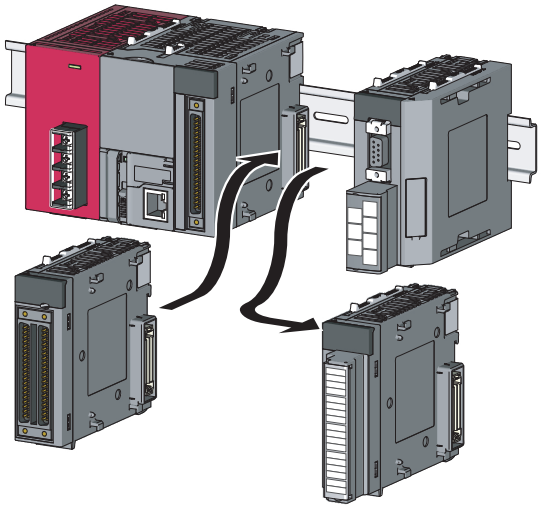


3. **各ユニットのユニット連結用フックを解除します。**

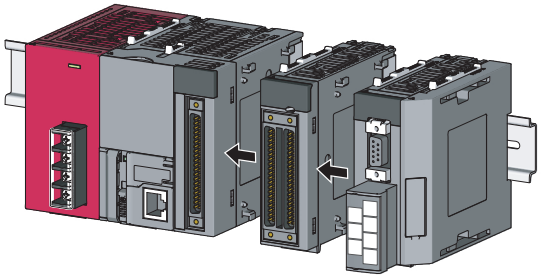
交換するユニットと，交換するユニットの右隣ユニットのユニット連結用フックを，ユニット前面方向に止まる位置までスライドさせてください。



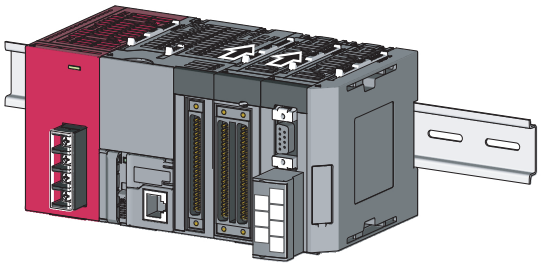
4. **ユニットをスライドさせて取りはずします。**



5. **ユニットを交換します。**



6. ユニットをスライドし，再度コネクタを接続します。



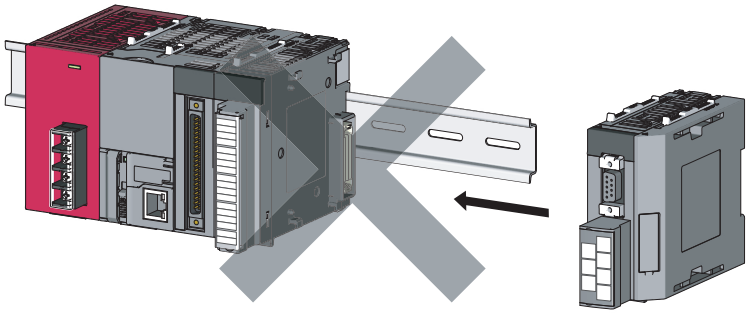
7. 各ユニットのユニット連結用フックをロックします。

ユニット連結用フックは，ユニット背面方向に止まる位置までスライドさせます。

8. ユニットの DIN レール取付け用フックをロックして，DIN レール止め金具を取り付けます。（☞37 ページ 4.2.3 項）

Point

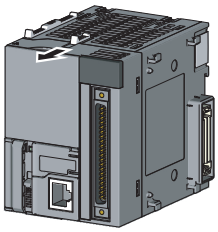
DIN レールの端からスライドさせて取り付けないでください。ユニット背面の金具が破損する恐れがあります。



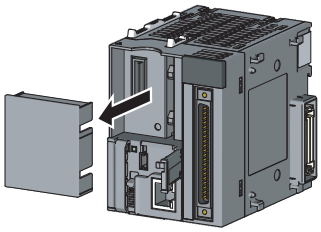
4.2.5 表示ユニットの着脱

CPU ユニットに表示ユニットを取り付ける手順を示します。
表示ユニットの着脱は，必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。
また，表示ユニットを使用しない場合は，必ず表示ユニットダミーカバーを装着してコネクタを保護してください。

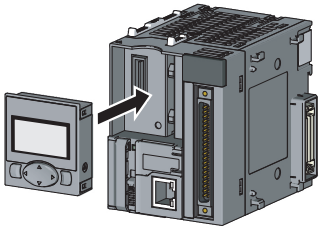
(1) 取付け手順



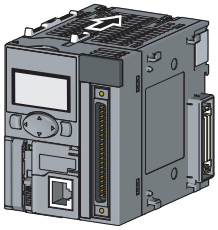
1. **ユニットの上面にある表示ユニット固定用フックを解除します。**
ロック解除時にカチッと音がします。



2. **表示ユニットダミーカバーを取りはずします。**
USB コネクタのカバーを開くと取りはずしやすくなります。



3. **表示ユニットをまっすぐに差し込みます。**



4. **ユニット上面にある表示ユニット固定用フックをロックします。**
ロック時にカチッと音がします。

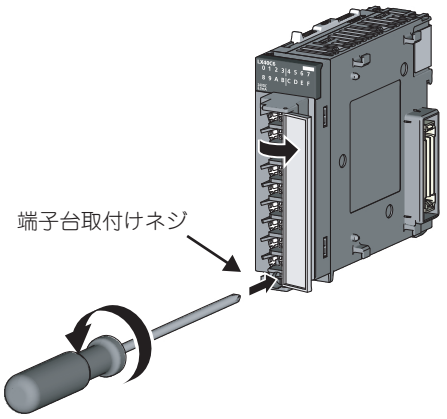
(2) 取りはずし手順

取付け手順と同じ要領で表示ユニットとダミーカバーを交換します。

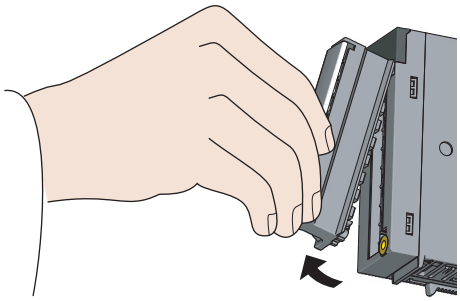
4.2.6　端子台の着脱

18 点端子台ユニットの端子台の着脱手順を示します。

(1) 取りはずし手順

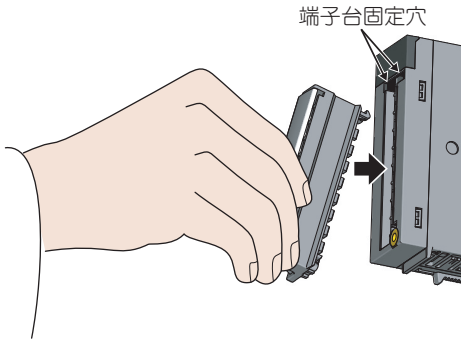


1. **端子カバーを開き，端子台取付けネジをゆるめます。**

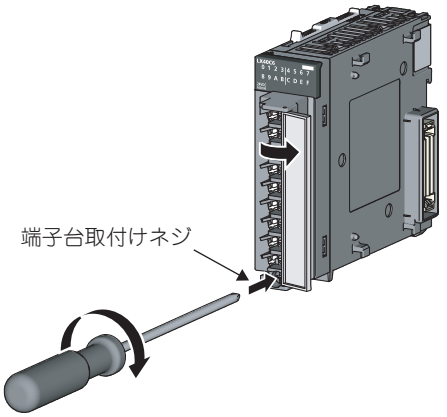


2. **端子台固定穴を支点として，端子台を取りはずします。**

(2) 取付け手順



1. **端子台上部の突起をユニットの端子台固定穴に確実に挿入し，端子台固定穴を支点として，端子台を取り付けます。**



2. **端子カバーを開き，端子台取付けネジを締め付けます。**

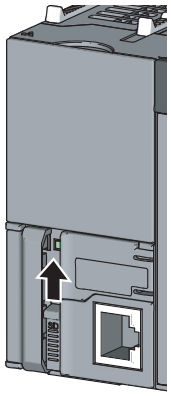
Point

他の端子台の取付け，取りはずしについては各ユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

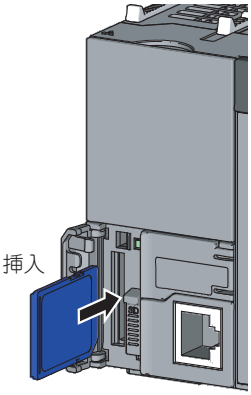
4.2.7　SD メモリカードの着脱

CPU ユニットへの SD メモリカードの着脱方法を示します。

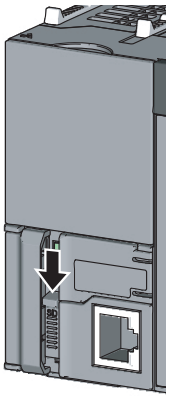
(1) 取付け手順



1. SD メモリカード使用停止スイッチが上側の位置にあることを確認する。



2. SD メモリカードスロットに SD メモリカードをまっすぐ差し込みます。

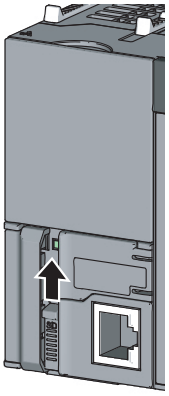


3. SD メモリカード使用停止スイッチを下方向へスライドします。
SD メモリカードが使用可能状態になるまで SD LED が点滅し，使用可能状態になると点灯します。
また，電源 ON 時には SD LED が点灯していることを確認してください。

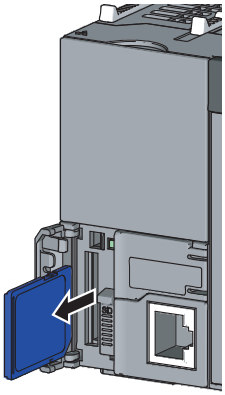
Point

- SD メモリカードは装着後に浮き上がりがないか確認してください。取付け状態が不十分だと接触不良による誤動作の原因になります。

(2) 取りはずし手順



1. **SD メモリカード使用停止スイッチを上方向にスライドします。**
電源 ON 時に取りはずす場合は，SD LED が消灯したことを確認してください。＊1



2. **SD メモリカードを一度押し込んでから，まっすぐに SD メモリカードを引き抜きます。**

＊1 SD メモリカード使用中の場合，SD メモリカード使用停止スイッチを上方向にスライドしても，SD LED は消灯しません。消灯しない場合は SD604（メモリカード使用状況）の全点 OFF を確認後，再度 SD メモリカード使用停止スイッチを上方向にスライドしてください。

Point

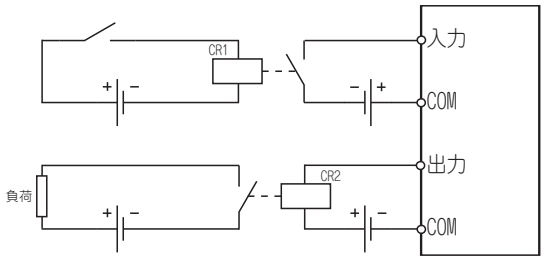
- SD メモリカードを使用する機能の実行中に SD メモリカードを抜かないでください。
- SD604（メモリカード使用状況）を全点 OFF するためには，SD メモリカードに格納したファイルを使用しない状態にするか，または SM606（SD メモリカード強制使用停止指示），SM607（SD メモリカード強制使用停止状態フラグ）により，SD メモリカードの使用を一括停止してください。（☞103 ページ 14.3 節）

4.3　配線

電源線および入出力機器への配線を行う際の注意事項について説明します。

(1) 注意事項

- 複数の電源から DC24V 出力を並列に接続し，1 台の入出力ユニットに供給しないでください。並列接続すると電源または入出力ユニットが壊れます。
- ユニット内に切粉や配線クズなどの異物が入らないようにしてください。
- CPU ユニットまたは外部機器に接続されたケーブルを取りはずすときは，ケーブル部分を引っ張らないでください。
- 外部入出力信号，外部機器との接続ケーブルは主回路線，動力線，シーケンサ以外の負荷線などと束ねたり近づけたりしないでください。目安として 100mm 以上離してください。CPU ユニットに接続するケーブルと動力線を近づける場合には，ノイズ対策としてシールドケーブルを使用してください。また，シールドケーブルのシールド部は CPU ユニット側で確実に制御盤に装着してください。
- 入出力信号が屋外へ配線される場合は，リレーで絶縁してください。

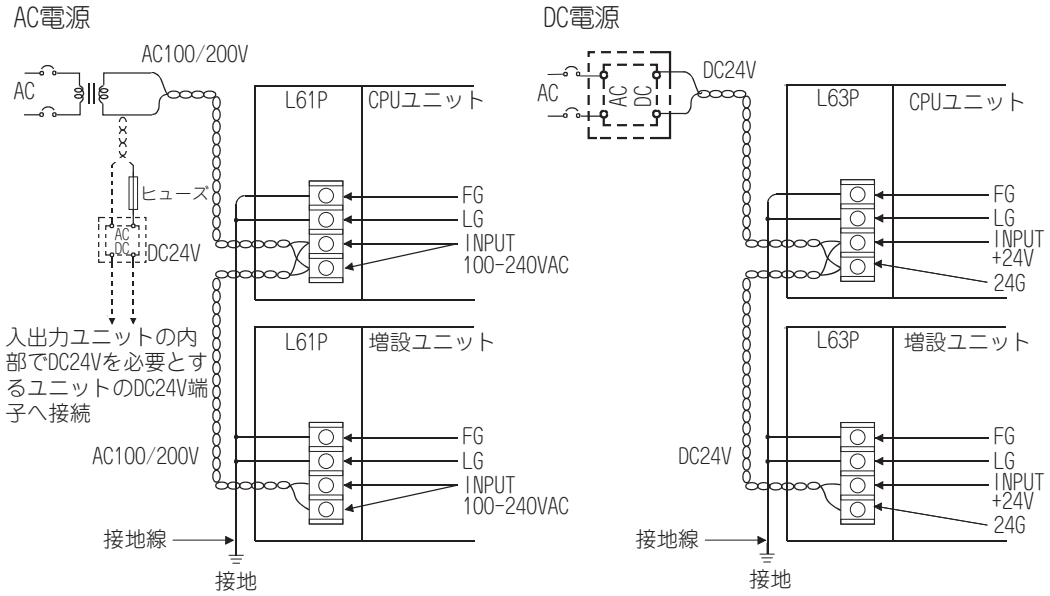


- AC 入力ユニット（LX10 など）の AC 供給を電源ユニットと同一にすることで，接続されたセンサの ON 状態が，瞬停によって OFF 状態になるのを防げます。ただし，AC ラインに電源ユニットと AC 入力ユニットのみを接続している場合，AC 入力ユニット内部のコンデンサによって，電源ユニットの AC ダウン検出が遅れることがあります。AC ダウン検出の遅れを防ぐために，AC 入力ユニット一台につき，30mA 程度の負荷を AC ラインに接続するようにしてください。

4.3.1 電源の配線

(1) 配線方法

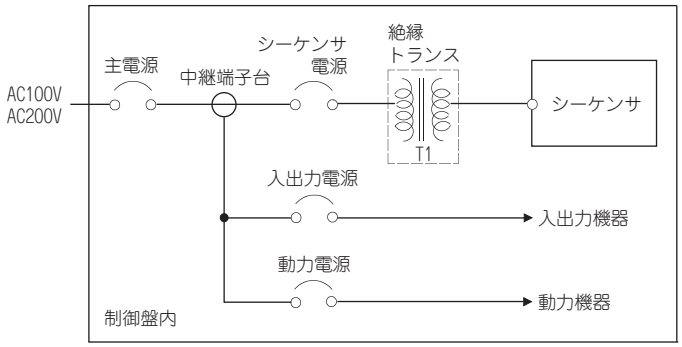
電源ユニットへの配線例を下記に示します。



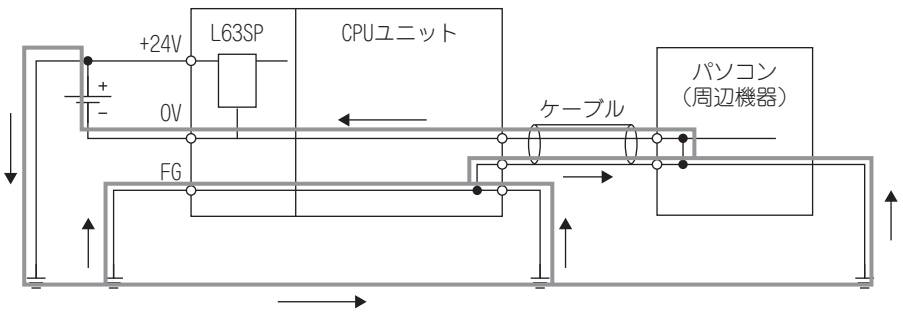
(2) 注意事項

電源配線時の注意事項を下記に示します。

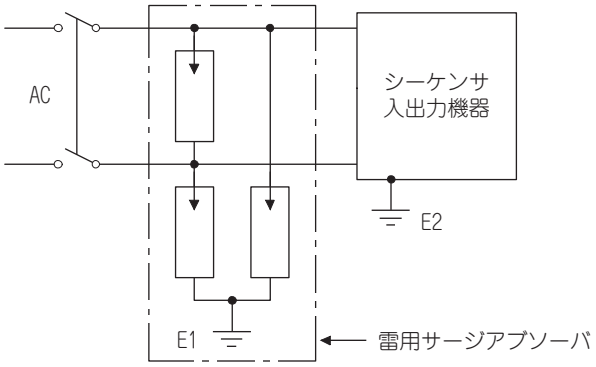
- シーケンサの電源，入出力電源および動力電源は下記のように系統を分離して配線してください。



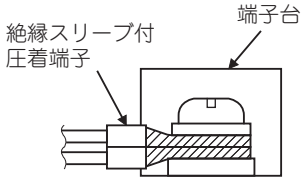
- 電源ユニットの定格電流や突入電流を考慮のうえ，必ず適切な溶断，検知特性のブレーカまたは外部ヒューズを接続してください。（シーケンサ単独で使用する場合，10A 程度のブレーカまたは外部ヒューズを推奨します。）
- 電圧降下を小さくするために，電源線はできるだけ太い線 （最大 2mm^2）とし，密にツイストし最短距離でユニット間を接続してください。
- 電源線は主回路（高電圧，大電流）線，入出力信号線およびコモン線に近づけたり，束ねたりしないでください。目安として 100mm 以上離してください。
- 雷サージなどのノイズが多い場合は，絶縁トランスを接続してください。絶縁トランスについては ☞413 ページ 付 8 を参照してください。
- 配線作業後，必ず電源ユニットに付属の端子カバーを取り付け，通電中や運転中は，端子に触れないでください。
- DC 電源を使用するユニットは Class2 電源を必ず使用してください。
- システム構成時の総消費電流は，電源ユニットの DC5V 定格出力電流を超えないようにしてください。電源ユニットの仕様は ☞81 ページ 7.2 節を参照してください。
- L63SP は非絶縁タイプのため，DC24V を供給する外部供給電源の出力には，下記のいずれかを行ってください。
  ・0V 側で接地する
  ・接地しない
  また，パソコン（周辺機器）の接続方法によっては，外部供給電源が短絡することがあるため，下図のような +24V 側での接地は絶対に行わないでください。



• 雷サージノイズによって瞬停が検出されたり，CPU ユニットがリセットされることがあります。雷サージノイズ対策として，雷用サージアブソーバを下図のように接続してください。



• 電源ユニットの端子台の配線には必ず圧着端子を使用してください。圧着端子はネジのゆるみ時の短絡を防止するために，厚さが 0.8mm 以下の絶縁スリーブ付圧着端子を使用してください。また，1 つの端子部に対して，接続する圧着端子は 2 本までとしてください。



• 圧着端子は UL 認定品を使用し，加工は圧着端子メーカの推奨工具を使用してください。
• 電源ユニットの端子ネジの締付けは 0.66 ～ 0.89N・m の範囲で行ってください。
• 電源ユニットに接続する電線は，下記のものを使用してください。

適合電線サイズ	材質	温度定格
0.75 ～ 2mm^2（AWG18 ～ 14）（より線）	銅線	75 ℃以上

• 異なる電圧の信号を入力すると，誤動作や機器の故障の原因となります。
• UPS（無停電電源装置）は，電源歪率 5% 以下の常時インバータ方式，またはラインインタラクティブ方式を使用してください。常時商用給電方式の UPS は，三菱電機製 F シリーズ UPS（シリアル No.P 以降）以外のものを使用しないでください。（例：FW-F10-0.3K/0.5K）
• 電源ユニットに対して電源を供給する場合は，電源容量が十分大きい供給電源を選定してください。（目安として，AC 電源ユニットは 2 倍以上，DC 電源ユニットは 4 倍以上を推奨します。）

Point

EMC 指令，低電圧指令に適合させる場合は，☞ 413 ページ 付 8 を参照してください。

4.3.2　18 点ネジ端子台の配線

(1) 注意事項

- 18 点ネジ端子台の配線には必ず厚さが 0.8mm 以下の圧着端子を使用してください。また，1 つの端子部に対して，接続する圧着端子は 2 本までとしてください。
- 18 点ネジ端子台には，絶縁スリーブ付圧着端子は使用できません。圧着端子はネジのゆるみ時の短絡を防止するために，圧着端子の電線接続部にはマークチューブ，または絶縁チューブをかぶせることを推奨します。
- 18 点ネジ端子台に接続する電線は，下記のものを使用してください。

適合電線サイズ	材質	温度定格
芯線：0.3 ～ 0.75mm^2（AWG22 ～ 18）（より線） 外径：2.8mm 以下	銅線	75 ℃以上

- 圧着端子は R1.25-3 を使用してください。
- 圧着端子は UL 認定品を使用し，加工は圧着端子メーカの推奨工具を使用してください。
- 端子台ネジの締付けは，下記の締付けトルク範囲内で行ってください。

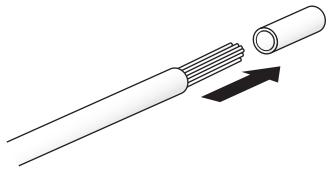
ネジの箇所	締付けトルク範囲
端子台ネジ（M3 ネジ）	0.42 ～ 0.58N・m
端子台取付けネジ（M3.5 ネジ）	0.66 ～ 0.89N・m

Point

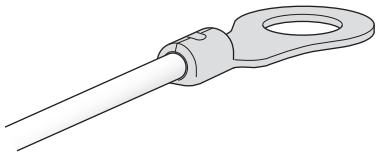
18 点ネジ端子台以外のネジ端子台については各ユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

(2) 配線方法

(a) 18 点ネジ端子台への配線

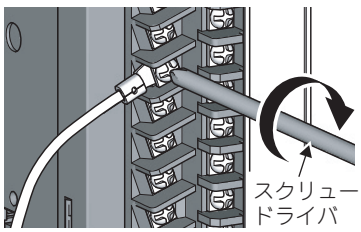


1. **電線の絶縁被覆をはがします。**



2. **絶縁被覆をはがした電線に，圧着端子を取り付けます。**

適合圧着端子は，各ユニットの仕様を確認してください。



3. **圧着端子を 18 点ネジ端子台に配線します。**

端子配列は，各ユニットの仕様を確認してください。

4.3.3 スプリングクランプ端子台の配線

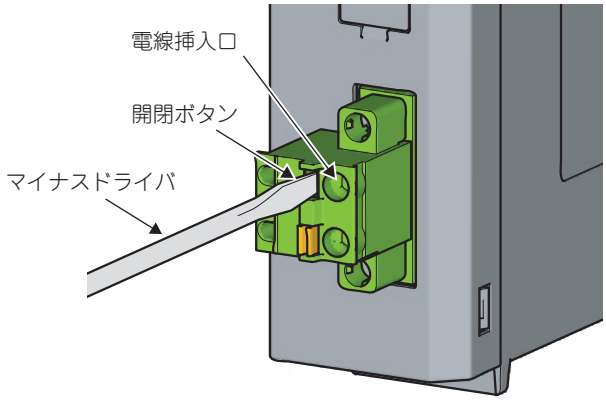
(1) 注意事項

- スプリングクランプ端子台には棒端子の使用を推奨します。
- 端子台取付けネジの締付けは，下記の締付けトルク範囲内で行ってください。

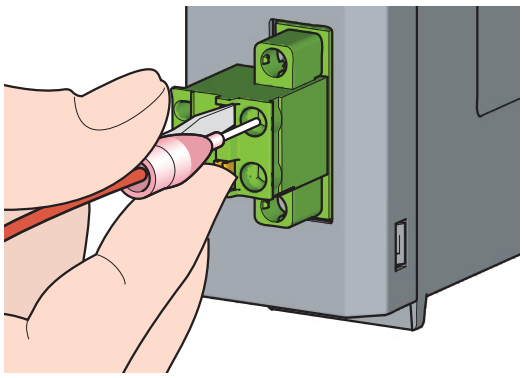
ネジの箇所	締付けトルク範囲
端子台取付けネジ	0.20 ～ 0.30N・m

- 棒端子を使用する場合は，必ず配線するユニットの適合圧着端子を使用し，適合電線サイズに合った電線を適切な圧着工具で圧着してください。ユニットの適合圧着端子および適合電線サイズについては，各ユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。
- 1 つの端子部に対して接続する端子は 1 本としてください。
- ケーブルの配線長は 30m 以下としてください。

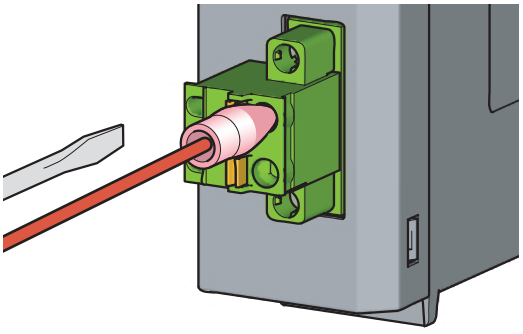
(2) ケーブルの取付け，取りはずし



1. **マイナスドライバを開閉ボタンに差込み，奥まで押し込みます。**
電線挿入口が開きます。
棒端子を使用する場合は，開閉ボタンを押さなくても端子を直接差し込むことで取り付けることができます。



2. **電線挿入口に電線を差し込む，または電線を抜き出してください。**
取付け時はケーブルを奥まで差し込んでください。



3. **マイナスドライバを開閉ボタンから離します。**
取付け時はケーブルがはずれないか確認してください。

4.3.4　コネクタの配線

(1) 注意事項

- 外部機器接続用コネクタ（A6CON □）へは，正しくハンダ付け，圧着または圧接を行ってください。
- 外部機器接続用コネクタ（A6CON □）をユニットに接続する際は，確実に接続のうえ，2 箇所のネジを締めてください。
- コネクタに接続する電線は，温度定格 75 ℃以上の銅線を使用してください。
- コネクタ取付けネジの締付けは，下記の締付けトルク範囲内で行ってください。

ネジの箇所	締付けトルク範囲
コネクタ取付けネジ（M2.6 ネジ）	0.20 ～ 0.29N・m

- CPU ユニットの内蔵 I/O による高速カウンタ機能で，1 相入力の場合は，必ず A 相側にパルス入力の配線をしてください。
- コネクタ／端子台変換ユニット（A6TB □）への接続は行わないでください。CPU ユニットの入出力信号が短絡し，ユニットやケーブルの破損，ケーブルの接続不良による誤動作の原因となります。
- ユニットに接続するケーブルはダクトに納めるか，固定処理を行ってください。格納または固定処理をしないと，ケーブルのぶらつきや移動，不注意の引っ張りなどによるユニットやケーブルの破損，または，ケーブルの接続不良による誤動作の原因となります。

Point

EMC 指令，低電圧指令に適合させる場合は，☞ 413 ページ 付 8 を参照してください。
また EMC 指令・低電圧指令への適合が不要な場合でも，EMC 指令に適合可能な構成にすることで外来ノイズの影響を低減できる場合があります。

(2) 使用可能コネクタ

ユニットに使用するコネクタ種類と，圧着工具，圧接工具の紹介品を下記に示します。

(a) 40 ピンコネクタ

種類	形名	適合電線サイズ
ハンダ付けタイプコネクタ (ストレート出しタイプ)	A6CON1	0.088 ～ 0.3mm^2 (AWG28 ～ 22) (より線) 40 本使用時は，被覆外径 1.3mm 以下の電線を使用してください。
圧着タイプコネクタ (ストレート出しタイプ)	A6CON2	0.088 ～ 0.24mm^2 (AWG28 ～ 24) (より線)
圧接タイプコネクタ (ストレート出しタイプ)	A6CON3 * 1	AWG28(より線) AWG30(単線) フラットケーブル 1.27mm ピッチ
ハンダ付けタイプコネクタ (ストレート／斜め出し兼用タイプ)	A6CON4	0.088 ～ 0.3mm^2 (AWG28 ～ 22) (より線) 40 本使用時は，被覆外径 1.3mm 以下の電線を使用してください。

＊ 1　A6CON3 は，CPU ユニットの外部機器接続用コネクタに使用する場合，入出力信号全点を汎用入出力機能で使用する場合のみ使用できます。

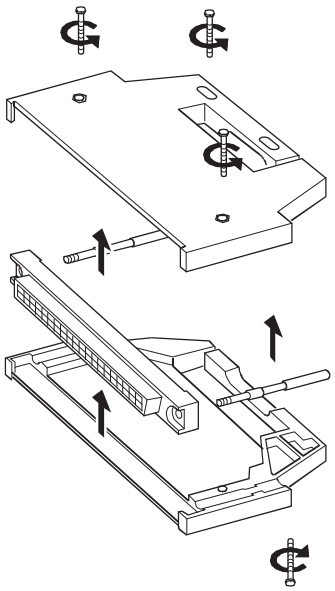
(b) 40 ピンコネクタ圧着工具，および圧接工具

種類	形名	問い合わせ先
圧着工具	FCN-363T-T005/H	富士通コンポーネント株式会社 http://www.fcl.fujitsu.com/
圧接工具	FCN-367T-T012/H(ロケータプレート)	
	FCN-707T-T001/H(ケーブルカッタ)	
	FCN-707T-T101/H(ハンドプレス)	

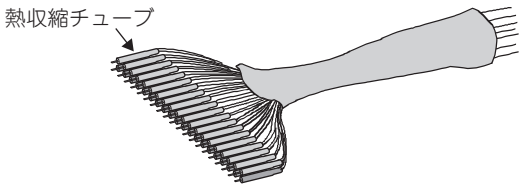
コネクタの配線方法，および圧着工具と圧接工具の使用方法は，富士通コンポーネント株式会社にお問い合わせください。

(3) コネクタの配線方法

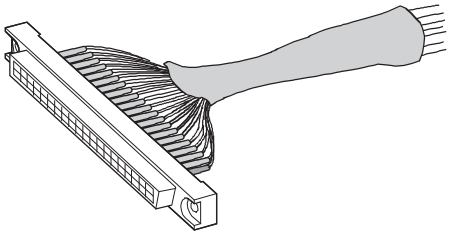
(a) A6CON1，A6CON4 の場合



1. **コネクタの 4 本のネジをゆるめ，ネジを抜き去ります。そして，コネクタカバーをコネクタ側から開きます。**

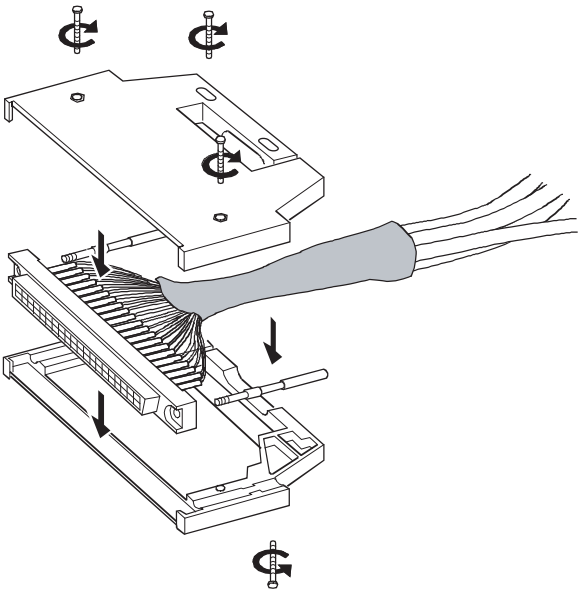


2. **電線のハンダ付けを行い，熱収縮チューブをかぶせてください。**

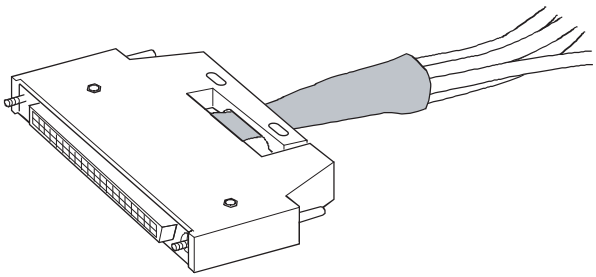


3. **端子配列を確認し，コネクタへ配線します。**

入出力ユニットへ接続するコネクタの場合，FG 線の接続は必要ありません。



4. コネクタを片方のコネクタカバーに入れ，固定ネジを通します。そして，もう一方のコネクタカバーをかぶせます。



5. 4 本のネジを締めます。

(b) A6CON2 の場合

A6CON2 に使用する FCN-363T-T005/H の仕様を下記に示します。

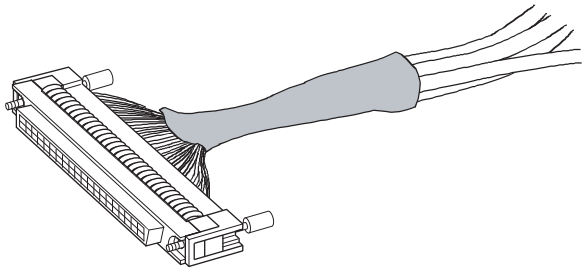
適用電線サイズ	電線断面積	クリンプハイツ	電線被覆外径	電線皮むき長さ
AWG24	0.20 ～ 0.24mm^2	1.25 ～ 1.30	φ1.2 以下	3.0 ～ 4.0
AWG26	0.13 ～ 0.16mm^2	1.20 ～ 1.25	φ1.2 以下	3.0 ～ 4.0
AWG28	0.088 ～ 0.096mm^2	1.15 ～ 1.20	φ1.2 以下	3.0 ～ 4.0

A6CON2 の配線には，特殊な工具が必要です。
工具の使用方法，および調整については，富士通コンポーネント株式会社にお問い合わせください。

(c) A6CON3 の場合

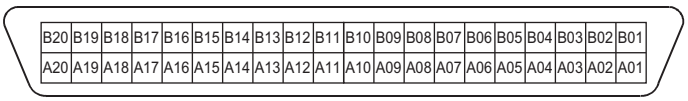
A6CON3 の配線には，特殊な工具が必要です。
工具の使用方法および，調整に関しては，富士通コンポーネント株式会社にお問い合わせください。

1. **端子配列を確認し，コネクタへ圧接してください。**



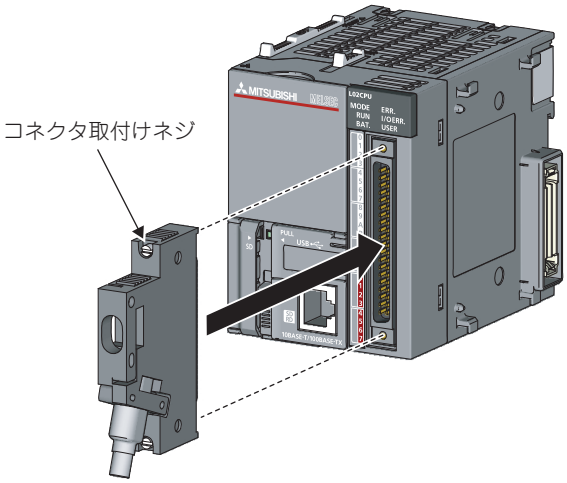
Point

フラットケーブルの配列は，次の順番になります。
A1 → B1 → A2 · · · · ·
（下記はコネクタの差込み口から見た図）

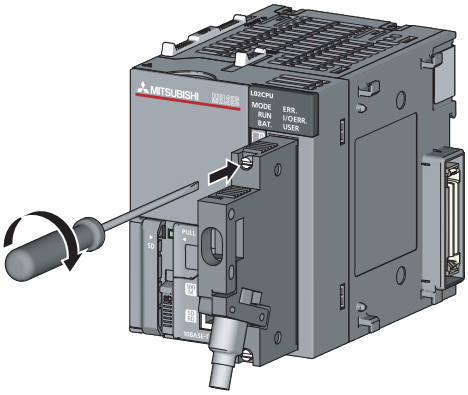


(4) コネクタの接続

(a) 取付け手順

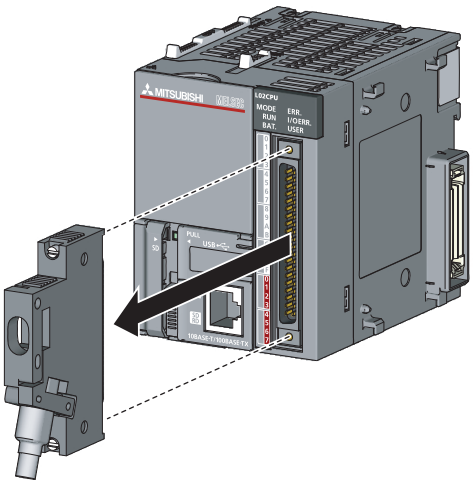


1. 配線したコネクタを，ユニットの挿入口に接続します。



2. 2 本のコネクタ取付けネジ（M2.6 ネジ）を締め付けます。

(b) 取りはずし手順



1. 2 本のコネクタ取付けネジをゆるめ，コネクタを，ユニットと水平に引き抜きます。

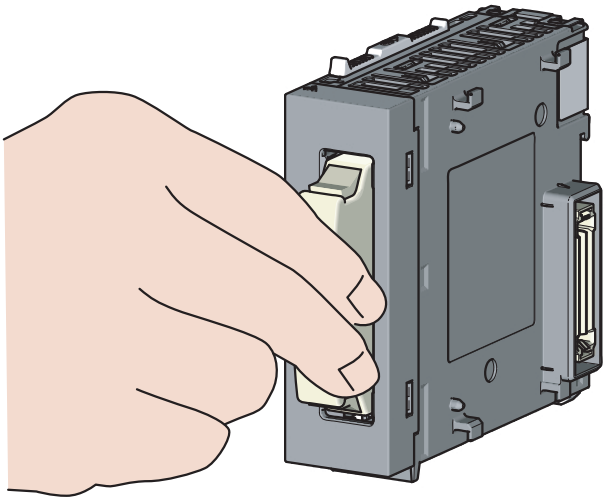
4.3.5　増設ケーブルの接続

(1) 注意事項

- 増設ケーブルは足で踏まないようにしてください。
- 増設ケーブルを敷設する場合，ケーブルの最小曲げ半径として 76mm 以上を確保してください。曲げ半径が 76mm 未満の場合は，特性劣化，断線などにより誤動作する恐れがあります。
- 増設ケーブルの総延長距離は 3.0m 以内で使用してください。
- 増設ケーブルを使用する場合，主回路（高電圧，大電流）線とは束線，近接させないでください。

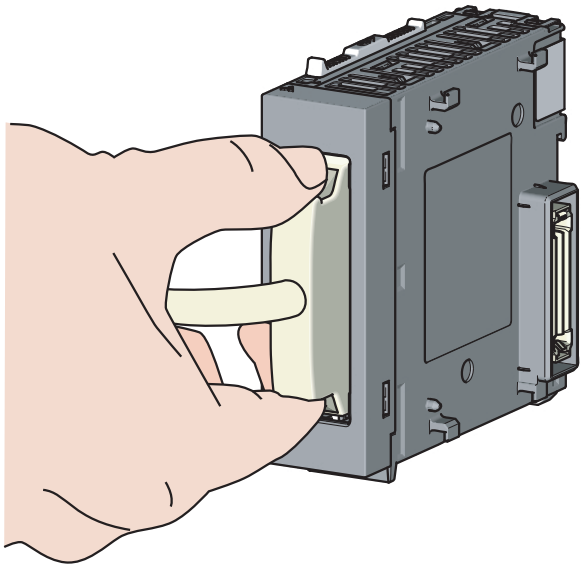
(2) 接続方法

(a) 取付け



1. **コネクタの向きに注意してコネクタを持ち，分岐ユニットまたは増設ユニットに，増設ケーブルのコネクタを「カチッ」と音がするまで押し込みます。（フェライトコアを持って行わないでください。）**

(b) 取りはずし



1. **増設ケーブルのコネクタのボタン 2 つを押しながら，増設ケーブルを引き抜きます。（フェライトコアを持って行わないでください。）**

(3) 増設ケーブルの仕様

項目	形名		
	LC06E	LC10E	LC30E
ケーブルの長さ	0.6m	1.0m	3.0m
導体抵抗値	0.034Ω	0.051Ω	0.14Ω
質量	0.19kg	0.23kg	0.45kg

Point

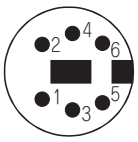
増設ケーブルを組み合わせて使用する場合は，増設ケーブルの総延長距離が 3.0m 以内になるように選定してください。

4.3.6 RS-232 ケーブルの配線

通信プロトコル機能やシリアルコミュニケーション機能で通信する場合の，ケーブルの配線について説明します。

(1) RS-232 コネクタ仕様

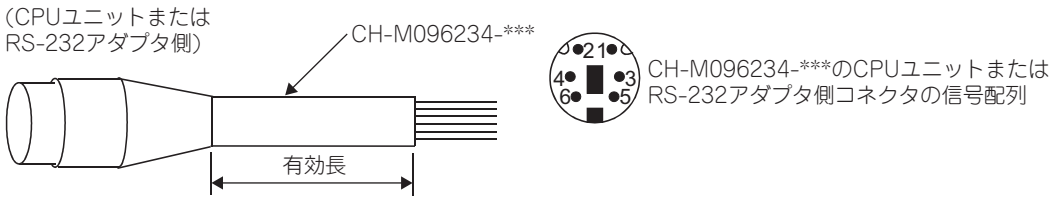
RS-232 コネクタの仕様を下記に示します。

外観	ピン番号	信号名	信号名称
 Mini-Din 6ピン（メス）	1	RD(RXD)	受信データ
	2	SD(TXD)	送信データ
	3	SG	信号グランド
	4	−	−
	5	DR(DSR)	データセットレディ
	6	ER(DTR)	データターミナルレディ

(2) RS-232 ケーブル

パソコン，他社表示器などと，CPU ユニットの RS-232 インタフェースや RS-232 アダプタの接続は，下記の RS-232 ケーブルが使用できます。

- QC30R2（ケーブル長：3m）
- CH-M096234-***（株式会社チューガイ製）
  片側：ミニ DIN コネクタ付，片側：コネクタ無のケーブル
  *** はケーブル長を示し，0.1m 単位で 15m まで指定可能



ピン番号	1	2	3	4	5	6	金属シェル
信号名	RD	SD	SG	−	DR	ER	
線心	赤	黒	緑・白	−	黄	茶	シールド

4.3.7　RS-422/485 ケーブルの配線

RS-422/485 アダプタへのケーブルの配線について説明します。

(1) 注意事項

ノイズによる誤動作の原因になるため，制御線や通信ケーブルは，主回路や動力線と束縛したり，近接させないでください。100mm 以上を目安として離してください。

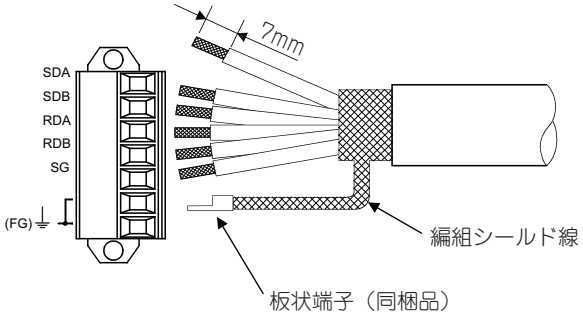
(2) RS-422/485 アダプタへの配線

(a) ケーブルおよび端子台の取付け方法

1. **RS-422/485 ケーブルの被膜を 7mm はがして，突込み端子台に接続します。**

2. **FG 端子には編組シールド線を接続し，ユニットに同梱されている板状端子を使用します。**

3. **突込み端子台の左右の向きに注意して，RS-422/485 アダプタ側の RS-422/485 コネクタに突込み端子台を差し込みます。**



(b) RS-422/485 ケーブル仕様

RS-422/485 ケーブル仕様を示します。

RS-422/485 ケーブルは，下記の仕様を満足するものを，1200m 以内で使用してください。

複数の機器を 1：n，n：1，m：n で接続するときも，総延長距離が 1200m 以内になるようにしてください。

項目	内容
ケーブル種類	シールドケーブル
対数	3P
導体抵抗 (20 ℃)	88.0Ω/km 以下
絶縁抵抗	10000MΩ・km 以上
耐電圧	DC500V 1 分間
静電容量 (1kHz)	平均 60nF/km 以下
特性インピーダンス (100kHz)	110±10Ω
推奨導体サイズ	$0.2mm^2$ ～ $0.75mm^2$
線経	AWG22 ～ AWG16
種類	より線
材質	銅線
温度定格	60 ℃以上

推奨ケーブルを下記に示します。

形名	メーカ
SPEV(SB)-MPC-0.2×3P * 1	三菱電線工業株式会社
SPEV(SB)-0.2×3P * 1	三菱電線工業株式会社

＊ 1　SPEV(SB)-MPC-0.2×3P と SPEV(SB)-0.2×3P の電気的特性は同じですが，外形寸法および内部電線色などが一部異なります。

(c) 接続ケーブルの曲げ半径

接続ケーブルの曲げ半径は，☞ 440 ページ 付 13 を参照してください。

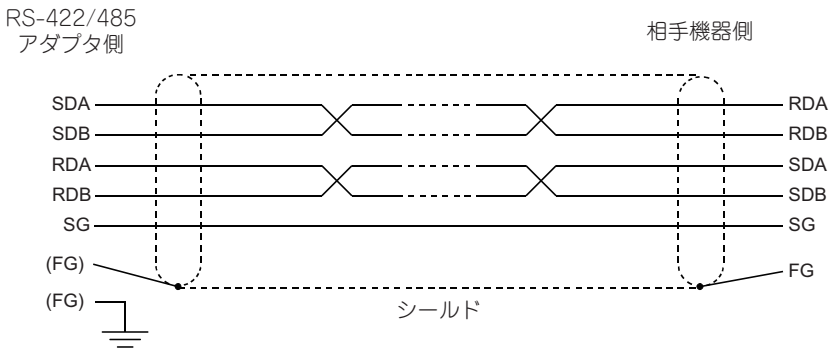
(3) 相手機器への配線

相手機器との接続について説明します。

- RS-485 でマルチドロップ接続した場合，最大 32 台接続できます（RS-422/485 アダプタを含む）。
- RS-422/485 アダプタの SG 信号および FG 信号を相手機器へ接続する時は，相手機器の仕様に合わせて接続してください。
- シールドは一点接地してください。
- 接続ケーブルのシールドは，接続機器のいずれか片方の FG 端子に接続してください。

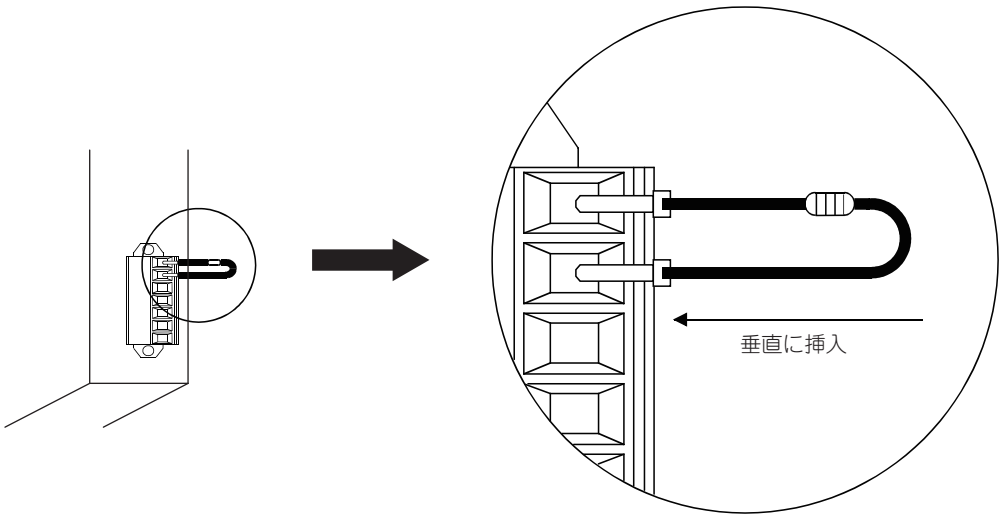
(a) 外部からのノイズにより正常にデータ交信できない場合

- 両局の FG 間は，接続ケーブルのシールドで接続してください。ただし，相手機器側については，相手機器側の取扱説明書に従って接続してください。
- RS-422/485 アダプタの FG 端子を，RS-422/485 アダプタと接続している電源ユニットの FG 端子，または RS-422/485 アダプタを装着しているシーケンサシステムを取り付けている制御盤の FG 端子に接続してください。
- 接続ケーブルの各信号の nnA と nnB をペアで接続してください。



(b) 終端抵抗

回線上の両端局は，終端抵抗の接続または設定が必要です。
RS-422/485 アダプタ側は，相手機器の仕様に合わせて，RS-422/485 アダプタに同梱している終端抵抗を接続してください。
相手機器側は，相手機器の取扱説明書に従って終端抵抗の接続または設定を行ってください。



RS-422/485 アダプタ側に接続する終端抵抗を下記に示します。

通信	終端抵抗
RS-422	330Ω 1/4W（カラーコード：橙橙茶金）
RS-485	110Ω 1/2W（カラーコード：茶茶茶金）

(c) 相手機器とまったく交信ができない場合

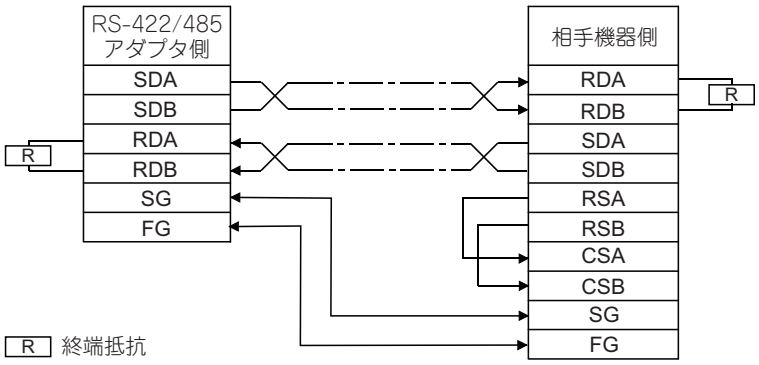
相手機器側の極性を再確認してください。

RS-422/485 アダプタと相手機器の極性が合っていない場合は，いずれかの相手機器で各信号の極性を逆にしてケーブルを接続することで，データ交信できる場合があります。

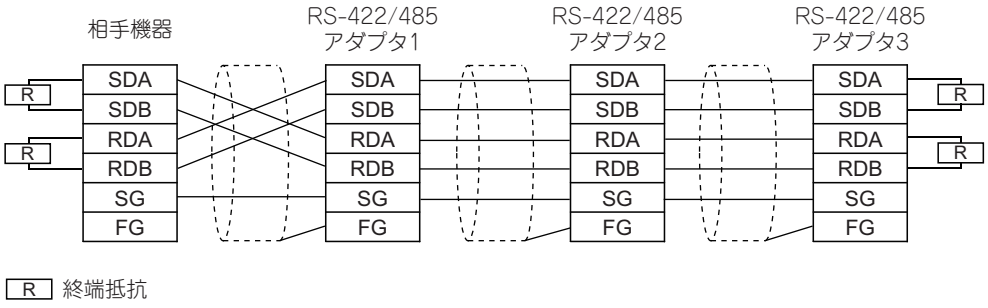
RS-422/485 アダプタへの接続機器は，1：n，n：1，m：n も含め，RS-422 または RS-485 で統一してください。

(4) 配線例

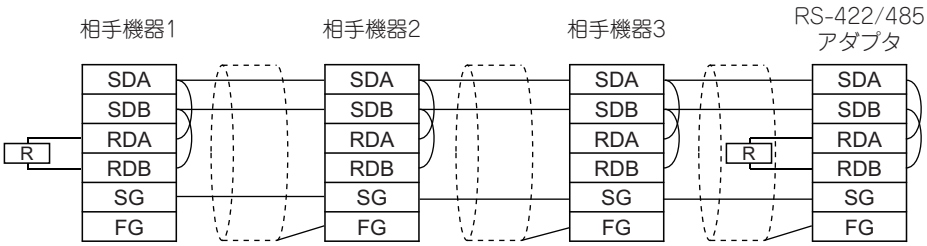
(a) 相手機器と 1 対 1 で接続する場合



(b) 相手機器と 1 対 n で接続する場合

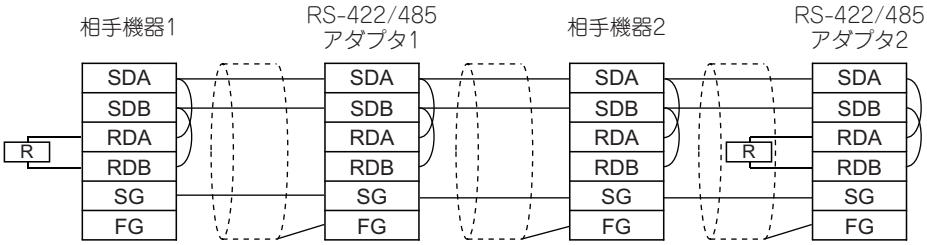


(c) 相手機器と n 対 1 で接続する場合



R 終端抵抗

(d) 相手機器と m 対 n で接続する場合

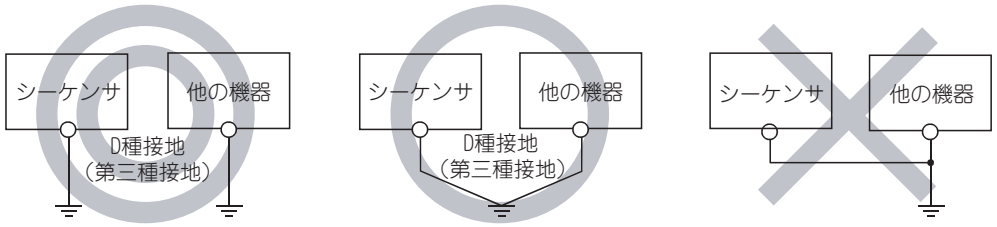


R 終端抵抗

4.3.8　接地

下記の項目を実施してください。

- 接地はできるだけ専用接地としてください。接地工事は D 種接地（第三種接地）です。（接地抵抗 100Ω 以下）
- 専用接地がとれないときは，すべての接地線の長さを同じにした共用接地としてください。



（1）専用接地……最良　　（2）共用接地……良　　（3）共通接地……不可

- 接地用の電線はできるだけ太い線（最大 2mm^2）を使用してください。また，接地点とシーケンサ間の距離をできるだけ近づけて，接地線を短くしてください。

第 5 章　一般仕様

本章では，シーケンサの一般仕様を説明します。

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="6">仕様</th></tr>
<tr><td>使用周囲温度</td><td colspan="6">0 ～ 55 ℃</td></tr>
<tr><td>保存周囲温度</td><td colspan="6">-25 ～ 75 ℃</td></tr>
<tr><td>使用周囲湿度</td><td colspan="6" rowspan="2">5 ～ 95%RH，結露なきこと</td></tr>
<tr><td>保存周囲湿度</td></tr>
<tr><td rowspan="5">耐振動</td><td rowspan="5">JIS B 3502，
IEC 61131-2 に
適合</td><td></td><td>周波数</td><td>定加速度</td><td>片振幅</td><td>掃引回数</td></tr>
<tr><td rowspan="2">断続的な振動がある場合</td><td>5 ～ 8.4Hz</td><td>－</td><td>3.5mm</td><td rowspan="2">X，Y，Z 各方向
10 回</td></tr>
<tr><td>8.4 ～ 150Hz</td><td>9.8m/s^2</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="2">連続的な振動がある場合</td><td>5 ～ 8.4Hz</td><td>－</td><td>1.75mm</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>8.4 ～ 150Hz</td><td>4.9m/s^2</td><td>－</td></tr>
<tr><td>耐衝撃</td><td colspan="6">JIS B 3502，IEC 61131-2 に適合（147m/s^2，XYZ3 方向各 3 回）</td></tr>
<tr><td>使用雰囲気</td><td colspan="6">腐食性ガスがないこと</td></tr>
<tr><td>使用標高＊1</td><td colspan="6">0 ～ 2000m</td></tr>
<tr><td>設置場所</td><td colspan="6">制御盤内</td></tr>
<tr><td>オーバボルテージカテゴリ＊2</td><td colspan="6">Ⅱ以下</td></tr>
<tr><td>汚染度＊3</td><td colspan="6">2 以下</td></tr>
<tr><td>装置クラス</td><td colspan="6">Class Ⅰ</td></tr>
</table>

＊1　シーケンサは，標高 0m の大気圧以上に加圧した環境で使用または保存しないでください。使用した場合は，誤動作する可能性があります。加圧して使用する場合には，最寄りの支社にご相談ください。

＊2　その機器が公衆配電網から構内の機械装置にいたるまでの，どこの配電部に接続されていることを想定しているかを示します。
カテゴリⅡは，固定設備から給電される機器などに適用します。定格 300V までの機器の耐サージ電圧は 2500V です。

＊3　その機器が使用される環境における，導電性物質の発生度合を示す指標です。
汚染度 2 は，非導電性の汚染しか発生しません。ただし，偶発的な凝結によって一時的な導電が起こりうる環境です。

Point

EMC 指令または低電圧指令に適合させるときは，☞ 413 ページ 付 8 を参照してください。

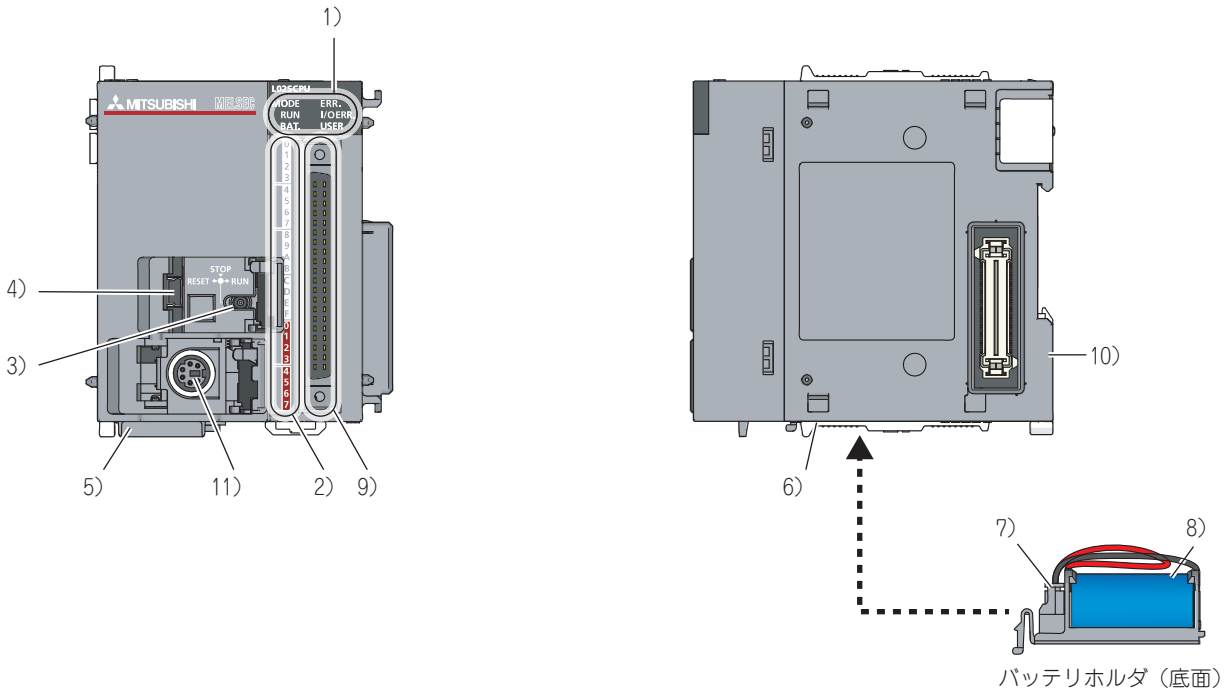
Memo

第 6 章　CPU ユニット

本章では，CPU ユニットの仕様，操作について説明します。

6.1　各部の名称

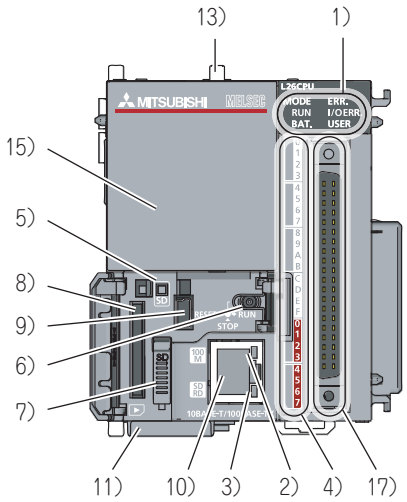
(1) L02SCPU，L02SCPU-P

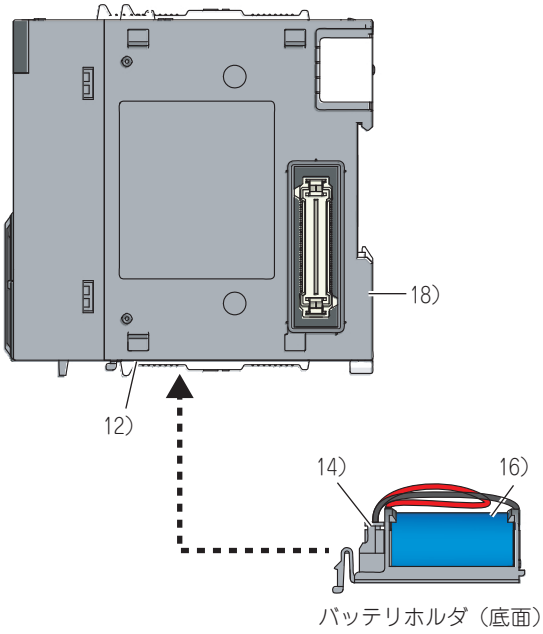


No.	名称		用途
1)	MODE LED	－	CPU ユニットのモードを示します。
		緑点灯	通常稼動モード
		緑点滅	強制モード（外部入出力の強制 ON/OFF 機能，実行条件付きデバイステスト機能使用時に点滅します。*1
	RUN LED	－	CPU ユニットの動作状態を示します。
		緑点灯	正常運転中を示します。
		緑点滅	STOP 状態で PC 書込みを行い，リセットせずに RUN にしたときを示します。
		消灯	停止中，または停止エラー検出時を示します。
	BAT. LED	－	CPU ユニットのバッテリ状態およびラッチデータバックアップ状態を示します。
		緑点灯	標準 ROM へのラッチデータバックアップのリストア完了時（5 秒間）を示します。
		緑点滅	標準 ROM へのラッチデータバックアップ完了時を示します。
		黄点滅	バッテリエラー発生時を示します。
		消灯	正常運転中を示します。
	ERR. LED	－	CPU ユニットのエラー検出状態を示します。
		赤点灯	続行エラー検出時を示します。
		赤点滅	停止エラー検出時，またはリセット実行時を示します。
		消灯	正常運転中を示します。
	I/O ERR. LED	－	内蔵 I/O 機能のエラー検出状態を示します。
		赤点灯	内蔵 I/O 機能でエラー発生時を示します。
		消灯	正常運転中を示します。
	USER LED	－	アナンシェータ（F）の状態を示します。
		赤点灯	アナンシェータ (F)ON 時を示します。
		消灯	正常時，またはアナンシェータ（F）未使用時を示します。
2)	IN 0 ～ IN F LED	－	入力状態を示します。
		緑点灯	入力信号 ON 時を示します。
		消灯	入力信号 OFF 時を示します。
	OUT 0 ～ OUT 7 LED	－	出力状態を示します。
		緑点灯	出力信号 ON 時を示します。
		消灯	出力信号 OFF 時を示します。
3)	RUN/STOP/RESET スイッチ	－	CPU ユニットの動作状態を操作するスイッチです。
		RUN	プログラムの演算実行を示します。
		STOP	プログラムの演算停止を示します。
		RESET	リセットの実行を示します。(☞ 79 ページ 6.3.2 項)
4)	USB コネクタ		USB 対応周辺機器と接続するためのコネクタです。（コネクタタイプ miniB）
5)	シリアル No. 表示部		定格銘板のシリアル No. を表示します。
6)	ユニット連結用フック		ユニット連結を固定するためのフックです。
7)	バッテリコネクタピン		バッテリのリード線を接続するためのピンです。（バッテリの消耗を防ぐため，出荷時にはリード線をコネクタからはずしてあります。）
8)	バッテリ		標準 RAM，停電保持機能を使用する場合のバックアップ用バッテリです。
9)	外部機器接続用コネクタ（40 ピン）		外部機器などの入出力信号線を接続するためのコネクタです。
10)	DIN レール取付け用フック		DIN レールに取り付けるためのフックです。
11)	RS232 コネクタ		RS232 通信対応機器と接続するためのコネクタです。

＊1　各機能使用時の LED については，下記マニュアルの各機能の記載を参照してください。
　　MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）

(2) L02CPU，L02CPU-P，L06CPU，L06CPU-P，L26CPU，L26CPU-P





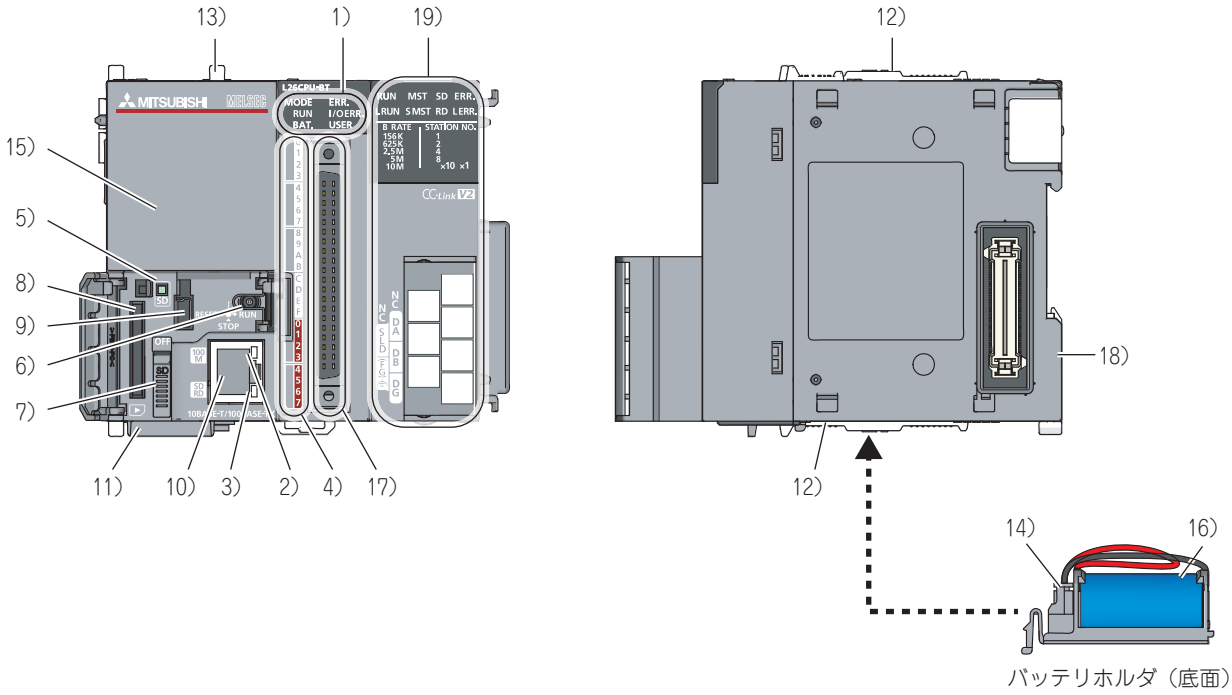
バッテリホルダ（底面）

No.	名称		用途
1)	MODE LED	－	CPU ユニットのモードを示します。（SD メモリカードによる CPU ユニット交換機能，プロジェクトの一括セーブ／ロード機能使用時でも使用します。* 1）
		緑点灯	通常稼動モード
		緑点滅	強制モード（外部入出力の強制 ON/OFF 機能，実行条件付きデバイステスト機能使用時に点滅します。* 1）
	RUN LED	－	CPU ユニットの動作状態を示します。
		緑点灯	正常運転中を示します。
		緑点滅	STOP 状態で PC 書込みを行い，リセットせずに RUN にしたときを示します。
		消灯	停止中，または停止エラー検出時を示します。
	BAT. LED	－	CPU ユニットのバッテリ状態およびラッチデータバックアップ状態を示します。（SD メモリカードによる CPU ユニット交換機能，プロジェクトの一括セーブ／ロード機能使用時でも使用します。* 1）
		緑点灯	標準 ROM へのラッチデータバックアップのリストア完了時（5 秒間）を示します。
		緑点滅	標準 ROM へのラッチデータバックアップ完了時を示します。
		黄点滅	バッテリエラー発生時を示します。
		消灯	正常運転中を示します。
	ERR. LED	－	CPU ユニットのエラー検出状態を示します。
		赤点灯	続行エラー検出時を示します。
		赤点滅	停止エラー検出時，またはリセット実行時を示します。
		消灯	正常運転中を示します。
	I/O ERR. LED	－	内蔵 I/O 機能のエラー検出状態を示します。
		赤点灯	内蔵 I/O 機能でエラー発生時を示します。
		消灯	正常運転中を示します。
	USER LED	－	アナンシェータ（F）の状態を示します。（SD メモリカードによる CPU ユニット交換機能，プロジェクトの一括セーブ／ロード機能使用時でも使用します。* 1）
		赤点灯	アナンシェータ (F)ON 時を示します。
		消灯	正常時，またはアナンシェータ（F）未使用時を示します。

No.	名称		用途
2)	100M LED	－	Ethernet でのデータの伝送速度を示します。
		緑点灯	100Mbps で交信中
		消灯	10Mbps で交信中，または未接続時
3)	SD/RD LED	－	Ethernet でのデータの送受信状態を示します。
		緑点灯	データ送信中，または受信中を示します。
		消灯	データ未送信，または未受信を示します。
4)	IN 0 ～ IN F LED	－	入力状態を示します。
		緑点灯	入力信号 ON 時を示します。
		消灯	入力信号 OFF 時を示します。
	OUT 0 ～ OUT 7 LED	－	出力状態を示します。
		緑点灯	出力信号 ON 時を示します。
		消灯	出力信号 OFF 時を示します。
5)	SD LED	－	SD メモリカードの状態を示します。（データロギング機能使用時でも使用します。*1）
		緑点灯	SD メモリカード使用中を示します。
		緑点滅	SD メモリカード準備中を示します。
		消灯	SD メモリカード未使用を示します。
6)	RUN/STOP/RESET スイッチ	－	CPU ユニットの動作状態を操作するスイッチです。
		RUN	プログラムの演算実行を示します。
		STOP	プログラムの演算停止を示します。
		RESET	リセットの実行を示します。（☞ 79 ページ 6.3.2 項）
7)	SD メモリカード使用停止スイッチ		SD メモリカードの着脱時に，カードアクセスを停止させるスイッチです。
8)	SD メモリカードスロット		SD メモリカードを挿入するスロットです。
9)	USB コネクタ		USB 対応周辺機器と接続するためのコネクタです。（コネクタタイプ miniB）
10)	内蔵 Ethernet ポート		Ethernet 対応機器と接続するためのコネクタです。（RJ-45 コネクタ）Ethernet 用のツイストペアケーブルで接続できます。
11)	シリアル No. 表示部		定格銘板のシリアル No. を表示します。
12)	ユニット連結用フック		ユニット連結を固定するためのフックです。
13)	表示ユニット固定用フック		CPU ユニットに表示ユニットを固定するためのフックです。
14)	バッテリコネクタピン		バッテリのリード線を接続するためのピンです。（バッテリの消耗を防ぐため，出荷時にはリード線をコネクタからはずしてあります。）
15)	表示ユニットダミーカバー		表示ユニットを使用しない場合に装着するダミーカバーです。
16)	バッテリ		標準 RAM，停電保持機能を使用する場合のバックアップ用バッテリです。
17)	外部機器接続用コネクタ（40 ピン）		外部機器などの入出力信号線を接続するためのコネクタです。
18)	DIN レール取付け用フック		DIN レールに取り付けるためのフックです。

＊1　各機能使用時の LED については，下記マニュアルの各機能の記載を参照してください。
📖MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）

(3) L26CPU-BT, L26CPU-PBT



No.	名称		用途
1)	MODE LED	–	CPU ユニットのモードを示します。（SD メモリカードによる CPU ユニット交換機能，プロジェクトの一括セーブ／ロード機能使用時でも使用します。* 1）
		緑点灯	通常稼動モード
		緑点滅	強制モード（外部入出力の強制 ON/OFF 機能，実行条件付きデバイステスト機能使用時に点滅します。* 1）
	RUN LED	–	CPU ユニットの動作状態を示します。
		緑点灯	正常運転中を示します。
		緑点滅	STOP 状態で PC 書込みを行い，リセットせずに RUN にしたときを示します。
		消灯	停止中，または停止エラー検出時を示します。
	BAT. LED	–	CPU ユニットのバッテリ状態およびラッチデータバックアップ状態を示します。（SD メモリカードによる CPU ユニット交換機能，プロジェクトの一括セーブ／ロード機能使用時でも使用します。* 1）
		緑点灯	標準 ROM へのラッチデータバックアップのリストア完了時（5 秒間）を示します。
		緑点滅	標準 ROM へのラッチデータバックアップ完了時を示します。
		黄点滅	バッテリエラー発生時を示します。
		消灯	正常運転中を示します。
	ERR. LED	–	CPU ユニットのエラー検出状態を示します。
		赤点灯	続行エラー検出時を示します。
		赤点滅	停止エラー検出時，またはリセット実行時を示します。
		消灯	正常運転中を示します。
	I/O ERR. LED	–	内蔵 I/O 機能のエラー検出状態を示します。
		赤点灯	内蔵 I/O 機能でエラー発生時を示します。
		消灯	正常運転中を示します。
	USER LED	–	アナンシェータ（F）の状態を示します。（SD メモリカードによる CPU ユニット交換機能，プロジェクトの一括セーブ／ロード機能使用時でも使用します。* 1）
		赤点灯	アナンシェータ (F)ON 時を示します。
		消灯	正常時，またはアナンシェータ（F）未使用時を示します。

No.	名称		用途
2)	100M LED	−	Ethernet でのデータの伝送速度を示します。
		緑点灯	100Mbps で交信中
		消灯	10Mbps で交信中，または未接続時
3)	SD/RD LED	−	Ethernet でのデータの送受信状態を示します。
		緑点灯	データ送信中，または受信中を示します。
		消灯	データ未送信，または未受信を示します。
4)	IN 0 ～ IN F LED	−	入力状態を示します。
		緑点灯	入力信号 ON 時を示します。
		消灯	入力信号 OFF 時を示します。
	OUT 0 ～ OUT 7 LED	−	出力状態を示します。
		緑点灯	出力信号 ON 時を示します。
		消灯	出力信号 OFF 時を示します。
5)	SD LED	−	SD メモリカードの状態を示します。（データロギング機能使用時でも使用します。*1）
		緑点灯	SD メモリカード使用中を示します。
		緑点滅	SD メモリカード準備中を示します。
		消灯	SD メモリカード未使用を示します。
6)	RUN/STOP/RESET スイッチ	−	CPU ユニットの動作状態を操作するスイッチです。
		RUN	プログラムの演算実行を示します。
		STOP	プログラムの演算停止を示します。
		RESET	リセットの実行を示します。（☞ 79 ページ 6.3.2 項）
7)	SD メモリカード使用停止スイッチ		SD メモリカードの着脱時に，カードアクセスを停止させるスイッチです。
8)	SD メモリカードスロット		SD メモリカードを挿入するスロットです。
9)	USB コネクタ		USB 対応周辺機器と接続するためのコネクタです。（コネクタタイプ miniB）
10)	内蔵 Ethernet ポート		Ethernet 対応機器と接続するためのコネクタです。（RJ-45 コネクタ）Ethernet 用のツイストペアケーブルで接続できます。
11)	シリアル No. 表示部		定格銘板のシリアル No. を表示します。
12)	ユニット連結用フック		ユニット連結を固定するためのフックです。
13)	表示ユニット固定用フック		CPU ユニットに表示ユニットを固定するためのフックです。
14)	バッテリコネクタピン		バッテリのリード線を接続するためのピンです。（バッテリの消耗を防ぐため，出荷時にはリード線をコネクタからはずしてあります。）
15)	表示ユニットダミーカバー		表示ユニットを使用しない場合に装着するダミーカバーです。
16)	バッテリ		標準 RAM，停電保持機能を使用する場合のバックアップ用バッテリです。
17)	外部機器接続用コネクタ（40 ピン）		外部機器などの入出力信号線を接続するためのコネクタです。
18)	DIN レール取付け用フック		DIN レールに取り付けるためのフックです。
19)	内蔵 CC-Link 部		CC-Link を構成するための部分です。詳細については，下記マニュアルを参照してください。 📖MELSEC-L CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル

＊1　各機能使用時の LED については，下記マニュアルの各機能の記載を参照してください。
📖MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）

6.2 仕様

CPU ユニットの仕様を説明します。

(1) ハードウェア仕様

項目			L02SCPU, L02SCPU-P	L02CPU, L02CPU-P	L06CPU, L06CPU-P	L26CPU, L26CPU-P	L26CPU-BT, L26CPU-PBT
制御方式			ストアードプログラム繰返し演算				
入出力制御方式			リフレッシュ方式（ダイレクトアクセス入出力（DX,DY）の指定によりダイレクトアクセス入出力可）				
プログラム言語（シーケンス制御言語）			ファンクションブロック，リレーシンボル語，MELSAP3（SFC），MELSAP-L，ストラクチャードテキスト（ST），ロジックシンボリック語				
処理速度（シーケンス命令）	LD X0		60ns	40ns	9.5ns		
	MOV D0 D1		120ns	80ns	19ns		
コンスタントスキャン			0.5 ～ 2000ms（パラメータで 0.5ms 単位で設定可）				
プログラム容量			20K ステップ（80K バイト）		60K ステップ（240K バイト）	260K ステップ（1040K バイト）	
メモリ容量	プログラムメモリ（ドライブ 0）		80K バイト		240K バイト	1040K バイト	
	メモリカード (RAM)（ドライブ 1）		—				
	メモリカード (ROM)（ドライブ 2）		—	装着 SD メモリカード (SD/SDHC) 容量分			
	標準 RAM（ドライブ 3）		128K バイト		768K バイト		
	標準 ROM（ドライブ 4）		512K バイト		1024K バイト	2048K バイト	
最大格納ファイル本数	プログラムメモリ		64 本		124 本	252 本	
	メモリカード (RAM)		—				
	メモリカード (ROM)	SD	—	ルートフォルダ：最大 511 本，サブディレクトリ：最大 65533 本			
		SDHC	—	ルートフォルダ：最大 65534 本，サブディレクトリ：最大 65533 本			
	標準 RAM		4（ファイルレジスタファイル，ローカルデバイスファイル，サンプリングトレースファイル，ユニットエラー履歴ファイル各 1 本のみ）				
	標準 ROM		128 本		256 本		
インテリジェント機能ユニットパラメータ最大設定個数		初期設定	2048 個		4096 個		
		リフレッシュ	1024 個		2048 個		
プログラムメモリの書込み回数			最大 10 万回				
標準 ROM の書込み回数			最大 10 万回				
内蔵 I/O 機能			MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（内蔵 I/O 機能編）				
内蔵 Ethernet 機能			—	MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（内蔵 Ethernet 機能編）			
内蔵 CC-Link 機能			—				MELSEC-L CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル
時計機能	表示情報		年，月，日，時，分，秒，曜日（うるう年自動判別）				
	精度		0 ℃：-2.96 ～ +3.74s(TYP. +1.42s)/1 日 25 ℃：-3.18 ～ +3.74s(TYP. +1.50s)/1 日 55 ℃：-13.20 ～ +2.12s(TYP. -3.54s)/1 日				
許容瞬停時間			電源ユニットによる				
DC5V 内部消費電流	表示ユニットあり		—	1.00A	1.06A		1.43A
	表示ユニットなし		0.75A	0.94A	1.00A		1.37A

項目		L02SCPU, L02SCPU-P	L02CPU, L02CPU-P	L06CPU, L06CPU-P	L26CPU, L26CPU-P	L26CPU-BT, L26CPU-PBT
外形寸法	H	90mm				
	W	70mm				98.5mm
	D	95mm				
質量		0.32kg	0.37kg			0.47kg

(2) デバイス仕様

項目		L02SCPU，L02SCPU-P，L02CPU，L02CPU-P	L06CPU，L06CPU-P，L26CPU，L26CPU-P，L26CPU-BT，L26CPU-PBT
入出力デバイス点数（プログラム上での使用可能点数）		8192 点（X/Y0 ～ X/Y1FFF）	
入出力点数		1024 点（X/Y0 ～ X/Y3FF）	4096 点（X/Y0 ～ X/YFFF）
内部リレー（M）		デフォルト 8192 点（M0 ～ M8191）（変更可）	
ラッチリレー（L）		デフォルト 8192 点（L0 ～ L8191）（変更可）	
リンクリレー（B）		デフォルト 8192 点（B0 ～ B1FFF）（変更可）	
タイマ（T）		デフォルト 2048 点（T0 ～ T2047）（変更可）（低速タイマ／高速タイマの共用） 低速タイマ／高速タイマは命令で指定する 低速タイマ／高速タイマの計測単位はパラメータで設定 （低速タイマ：1 ～ 1000ms，1ms 単位，デフォルト 100ms） （高速タイマ：0.1 ～ 100ms，0.1ms 単位，デフォルト 10ms）	
積算タイマ（ST）		デフォルト 0 点（低速積算タイマ／高速積算タイマの共用）（変更可） 低速積算タイマ／高速積算タイマは命令で指定する 低速積算タイマ／高速積算タイマの計測単位はパラメータで設定 （低速積算タイマ：1 ～ 1000ms，1ms 単位，デフォルト 100ms） （高速積算タイマ：0.1 ～ 100ms，0.1ms 単位，デフォルト 10ms）	
カウンタ（C）		通常カウンタ　デフォルト 1024 点（C0 ～ C1023）（変更可）	
データレジスタ（D）		デフォルト 12288 点（D0 ～ D12287）（変更可）	
拡張データレジスタ（D）		デフォルト 32768 点（D12288 ～ D45055）（変更可）	デフォルト 131072 点（D12288 ～ D143359）（変更可）
リンクレジスタ（W）		デフォルト 8192 点（W0 ～ W1FFF）（変更可）	
拡張リンクレジスタ（W）		デフォルト 0 点（変更可）	
アナンシェータ（F）		デフォルト 2048 点（F0 ～ F2047）（変更可）	
エッジリレー（V）		デフォルト 2048 点（V0 ～ V2047）（変更可）	
リンク特殊リレー（SB）		デフォルト 2048 点（SB0 ～ SB7FF）（変更可）	
リンク特殊レジスタ（SW）		デフォルト 2048 点（SW0 ～ SW7FF）（変更可）	
ファイルレジスタ	（R）	32768 点（R0 ～ R32767） ブロック切換えで最大 65536 点まで使用可	32768 点（R0 ～ R32767） ブロック切換えで最大 393216 点まで使用可
	（ZR）	65536 点（ZR0 ～ ZR65535） ブロック切換え不要	393216 点（ZR0 ～ ZR393215） ブロック切換え不要
ステップリレー（S）		デフォルト 8192 点（S0 ～ S8191）	
インデックスレジスタ／汎用演算レジスタ（Z）		最大 20 点（Z0 ～ Z19）	
インデックスレジスタ（Z）（ZR デバイスの 32 ビット修飾指定時）		最大 10 点（Z0 ～ Z18）（インデックスレジスタ（Z）をダブルワードで使用）	
ポインタ（P）		4096 点（P0 ～ 4095），パラメータによりローカルポインタ／共通ポインタの使用範囲を設定可	
割込みポインタ（I）		256 点（I0 ～ I255），パラメータによりシステム割込みポインタ I28 ～ 31 の定周期間隔を設定可 （0.5 ～ 1000ms，0.5ms 単位）デフォルト　I28：100ms　I29：40ms　I30：20ms　I31：10ms	
特殊リレー（SM）		2048 点（SM0 ～ SM2047）（デバイス点数は固定）	
特殊レジスタ（SD）		2048 点（SD0 ～ SD2047）（デバイス点数は固定）	
ファンクション入力（FX）		16 点（FX0 ～ FX F）（デバイス点数は固定）	
ファンクション出力（FY）		16 点（FY0 ～ FY F）（デバイス点数は固定）	
ファンクションレジスタ（FD）		5 点（FD0 ～ FD4）（デバイス点数は固定）	
リンクダイレクトデバイス		リンクデバイスを直接アクセスするデバイス（CC-Link IE フィールドネットワーク専用） 指定形式：J □□￥X □□，J □□￥Y □□，J □□￥SB □□，J □□￥W □□，J □□￥SW □□	
インテリジェント機能ユニットデバイス		インテリジェント機能ユニットのバッファメモリを直接アクセスするデバイス 指定形式：U □□￥G □□	
ラッチ（停電保持）範囲		L0 ～ 8191（デフォルト 8192 点） （パラメータにより B,F,V,T,ST,C,D,W,R についてラッチ範囲設定可能）	

Point

デバイスの詳細については，下記マニュアルを参照してください。

MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）

6.3 ハードウェア操作

CPU ユニットのハードウェア操作について説明します。

6.3.1 プログラム書込み後のスイッチ操作

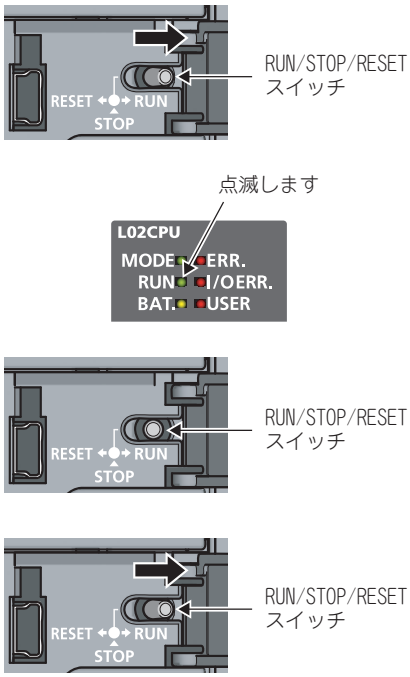
プログラムを書き込んだあとのスイッチ操作について説明します。

(1) CPU ユニットを STOP 状態にして書き込んだ場合＊1

(a) デバイスメモリのデータをクリアして RUN する

リセットしてください。(☞79 ページ 6.3.2 項)

(b) デバイスメモリのデータを保持して RUN する



1. RUN/STOP/RESETスイッチを一度RUNの位置にします。
2. RUN LED が点滅するのを確認します。
3. RUN/STOP/RESET スイッチを STOP の位置に戻します。
4. RUN/STOP/RESET スイッチを再び RUN 位置にします。

(2) CPU ユニットを RUN 状態にして書き込んだ場合（RUN 中書込み）＊1

スイッチ操作は不要です。このとき，デバイスメモリのデータはクリアされません。

＊1 ブート運転時にプログラムをプログラムメモリに書き込んだ場合は，ブート元メモリにもプログラムを書き込んでください。書き込まなかった場合，次回のブート運転時に古いプログラムが実行されます。ブート運転の詳細については下記のマニュアルを参照してください。

MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）

Point

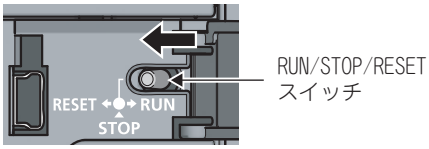
プログラミングツールからのリモート STOP 時は，プログラム書込み後，プログラミングツールのリモート RUN で RUN 状態になりますので，スイッチ操作は不要となります。プログラミングツールの詳細は下記のマニュアルを参照してください。

使用するプログラミングツールのオペレーティングマニュアル

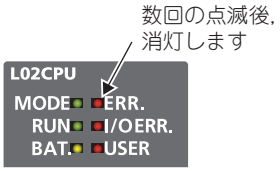
6.3.2　リセットの操作方法

リセットは RUN/STOP/RESET スイッチで行います。RUN/STOP/RESET スイッチを RESET 側に倒しても，すぐにはリセットできません。

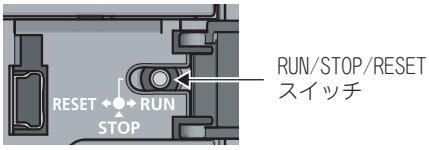
(1) 操作手順



1. **RUN/STOP/RESETスイッチを1秒以上RESET側へ倒します。**
倒したまま RUN/STOP/RESET スイッチから手を離さないでください。



2. **ERR. LED が数回点滅してから，消灯するのを確認します。**



3. **RUN/STOP/RESET スイッチを STOP の位置に戻します。**
RUN/STOP/RESET スイッチから手を離せば，自動で STOP 位置に戻ります。

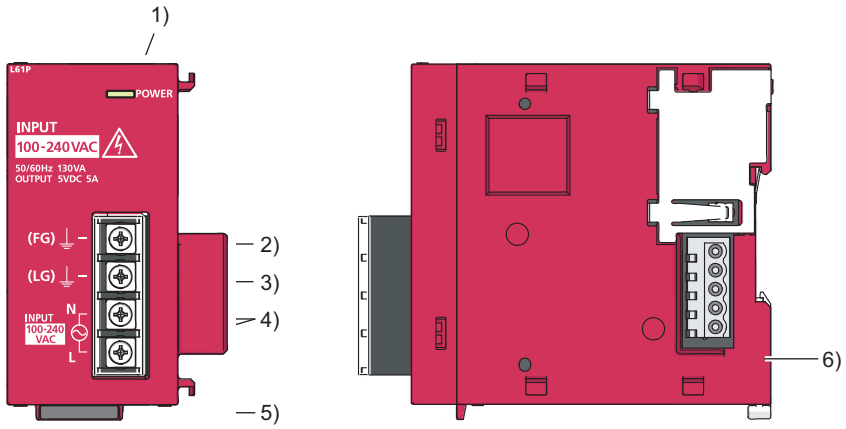
Point

RUN/STOP/RESET スイッチの操作は指先で行ってください。ドライバなどの工具を使用するとスイッチ部を破損させる恐れがあります。

第 7 章　電源ユニット

本章では，電源ユニットの仕様を説明します。

7.1　各部の名称



No.	名称	用途
1)	POWER LED	電源の動作状態を示します。 緑点灯：正常運転中 消灯：入力電源の未入力，停電またはハードウェア異常
2)	FG 端子	プリント基板上の遮蔽パターンと接続された接地端子です。(M3.5 ネジ)
3)	LG 端子	電源フィルタの接地です。AC 入力の場合，入力電圧の 1/2 の電位を持っています。(M3.5 ネジ)
4)	電源入力端子	電源の入力端子です。(M3.5 ネジ) 接続する電源は☞ 81 ページ 7.2.1 項を参照してください。
5)	シリアル No. 表示部	定格銘板のシリアル No. を表示します。
6)	DIN レール取付け用フック	DIN レールに取り付けるためのフックです。

7.2　仕様

7.2.1　仕様一覧

項目		L61P	L63P	L63SP
入力電源*1		AC100 ～ 240V（-15% ～ +10%）	DC24V（-35% ～ +30%）	
入力周波数		50/60Hz（-5% ～ +5%）	———	
入力電圧歪率		5% 以内	———	
入力最大皮相電力		130VA	———	
入力最大電力		———	45W	
突入電流*1		20A，8ms 以内	100A，1ms 以内（DC24V 入力時）	
定格出力電流（DC5V）		5A		
外部出力電圧		———		
過電流保護（DC5V）*1		5.5A 以上		
過電圧保護*1		5.5 ～ 6.5V		
効率		70% 以上		
許容瞬停時間*1		10ms 以内	10ms 以内（DC24V 入力時）	
耐電圧		AC2300V/1min（標高 0 ～ 2,000m）入力・LG 一括と出力・FG 一括間	AC510V/1min（標高 0 ～ 2,000m）入力・LG 一括と出力・FG 一括間	———*2
絶縁抵抗		DC500V 絶縁抵抗計にて 10MΩ 以上（入力・LG 一括と出力・FG 一括間，入力一括と LG 間，出力一括と FG 間）		———*2
ノイズ耐量		• ノイズ電圧 1500Vp-p，ノイズ幅 1μs，ノイズ周波数 25 ～ 60Hz のノイズシミュレータによる • ノイズ電圧 IEC 61000-4-4，2kV	• ノイズ電圧 500Vp-p，ノイズ幅 1μs，ノイズ周波数 25 ～ 60Hz のノイズシミュレータによる • ノイズ電圧 IEC 61000-4-4，2kV	
動作表示		LED 表示（正常時：緑点灯，異常時：消灯）		
ヒューズ		内蔵（ユーザ交換不可）		
端子ネジサイズ		M3.5 ネジ		
適合電線サイズ		0.75 ～ 2mm^2		
適合圧着端子		RAV1.25-3.5,RAV2-3.5，厚さ 0.8mm 以下，1 端子に 2 枚まで接続可		
適合締付けトルク		0.66 ～ 0.89N・m		
外形寸法	H	90mm		
	W	45mm		29mm
	D	95mm		
質量		0.32kg	0.29kg	0.19kg

＊1　仕様の項目の説明については，☞ 82 ページ 7.2.2 項を参照してください。
＊2　1 次側 DC24V と 2 次側 DC5V 間は非絶縁です。

7.2.2 仕様について

仕様に記載された項目の詳細について下記に示します。

(1) 過電流保護とは

DC5V 回路に仕様値以上の電流が流れると，回路を遮断しシステムをストップさせる保護機能です。
過電流保護が作動した場合，電源ユニットの LED 表示が，5V 電圧停止により消灯します。
システムを再スタートさせるには，一度入力電源を OFF して，電流容量の不足や短絡などの要因をすべて取り除いてください。
要因を取り除いたあと，数分ほど時間をあけて再度入力電源を ON してください。出力電流が正常値になるとシステムがイニシャルスタートします。

(2) 過電圧保護とは

DC5V 回路に DC5.5V 以上の過電圧が印加されると，回路を遮断しシステムをストップさせる保護機能です。
過電圧保護が作動した場合，電源ユニットの LED 表示は消灯します。
システムを再スタートさせるには，一度入力電源を OFF して数分ほど時間をあけてから，再度入力電源を ON してください。システムがイニシャルスタートします。
システムが立ち上がらず，LED も消えたままの場合は，電源ユニットの交換が必要となります。

(3) 許容瞬停時間とは

瞬停時に入力電圧ダウンを検出し，演算処理を中止しますが，瞬停解除後に継続運転できる時間です。
許容瞬停時間を超える瞬停時は，電源ユニットの負荷によって継続運転する場合と，イニシャルスタートする場合があります。継続運転する場合の動作は，許容瞬停時間内の瞬停時の動作と同じになります。

(4) 突入電流とは

電源投入直後に回路に一時的に流れる大電流のことです。
電源遮断直後に入力電源を再投入すると，規定値を超える突入電流が流れる恐れがあります。
入力電源を再投入するときは，遮断後 5 秒以上経過させてから投入するようにしてください。
また，外部回路のヒューズやブレーカは，溶断，検知特性および本項に記載の事項を考慮して選んでください。
AC 電源ユニットである L61P と比べて，DC 電源ユニットである L63P および L63SP は , 電源 ON 時に突入電流が大きくなります。サーキットプロテクタを使用することで，突入電流の影響を低減できます。

品名	形名	メーカ名
サーキットプロテクタ	CP30-BA	三菱電機株式会社 http://www.mitsubishielectric.co.jp/fa/
	NC1V	IDEC 株式会社 http://jp.idec.com/

(5) 入力電圧とは

電源ユニットが正常に動作する電圧を示します。仕様範囲外では，エラーを検知しシーケンサシステムが停止する恐れがあります。

7.2.3 供給電源の電源容量に関する注意事項

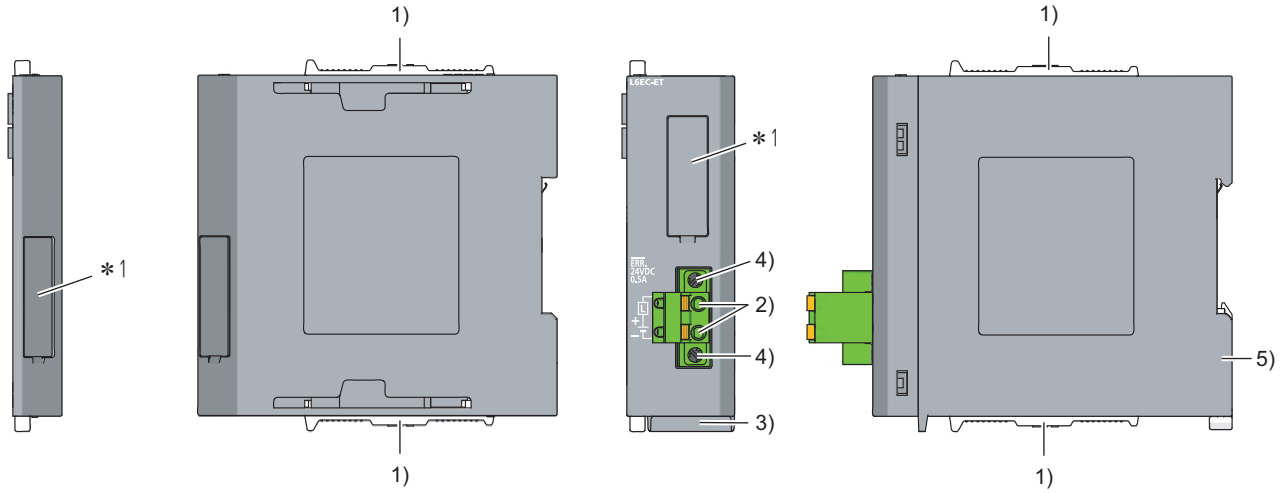
電源ユニットに対して電源を供給する場合は，電源容量が十分大きい供給電源を選定してください。（目安として，AC 電源ユニットは 2 倍以上，DC 電源ユニットは 4 倍以上を推奨します。）

第 8 章　END カバー

本章では，END カバーの仕様を説明します。

8.1　各部の名称

L6EC　　L6EC-ET



＊1　このシールは弊社メンテナンス用のシールのため，剥がさないでください。

No.	名称	用途
1)	ユニット連結用フック	ユニット連結を固定するためのフックです。
2)	$\overline{\text{ERR.}}$ 端子	エラー検出用の接点出力端子です。全システムが正常に稼動しているときに ON となり，電源 OFF 時または CPU ユニットに停止エラー（リセット時を含む）が発生した場合は，OFF（開放）します。
3)	シリアル No. 表示部	定格銘板のシリアル No. を表示します。
4)	端子台取付けネジ	端子台の取付け，取りはずしをするためのネジです。
5)	DIN レール取付け用フック	DIN レールに取り付けるためのフックです。

Point

L6EC-ET を増設ブロックに装着した場合，$\overline{\text{ERR.}}$ 端子によりシステムの異常を検出することはできません。（$\overline{\text{ERR.}}$ 端子は常時 OFF）

8.2 仕様

(1) 性能仕様

項目		L6EC	L6EC-ET
$\overline{\text{ERR.}}$ 端子	−	−	あり（☞83 ページ 8.1 節）
	定格開閉電圧・電流	−	DC24V，0.5A
	最小開閉負荷	−	DC5V，1mA
	応答時間	−	OFF → ON：10ms 以下 ON → OFF：12ms 以下
	寿命	−	機械的：2000 万回以上 電気的：定格開閉電圧・電流 10 万回以上
	サージキラー	−	なし
	ヒューズ	−	なし
外部接続方式		−	スプリングクランプ端子台
適合電線サイズ		−	0.3 ～ 2.0mm^2（AWG22 ～ 14）（より線／単線）
適合圧着端子		−	☞85 ページ 8.2 節 (2)
外形寸法	H	90mm	90mm
	W	13mm	28.5mm
	D	95mm	95mm
内部消費電流		0.04A	0.06A
質量		0.06kg	0.11kg

(2) 適合圧着端子

L6EC-ET の $\overline{\text{ERR.}}$ 端子の適合圧着端子を下表に示します。

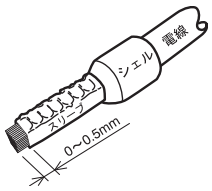
配線の方法については，☞ 52 ページ 4.3.3 項を参照してください。

品名	形名	適合電線サイズ	メーカ名
棒型圧着端子	FA-VTC125T9	0.3 ～ 1.65mm^2	三菱電機エンジニアリング株式会社 http://www.mee.co.jp/
棒型圧着端子用工具＊1	FA-NH65A	—	
棒型圧着端子	AI0.5-10WH	0.5mm^2	フェニックス・コンタクト株式会社 http://www.phoenixcontact.co.jp/
	AI0.75-10GY	0.75mm^2	
	AI1-10RD	1.0mm^2	
棒型圧着端子用工具＊1	CRIMPFOX UD6-4	—	
棒型圧着端子	TE0.5-10	0.3 ～ 0.5mm^2	株式会社ニチフ端子工業 http://www.nichifu.co.jp/
	TE0.75-10	0.75mm^2	
	TE1.0-10	1.0mm^2	
棒型圧着端子用工具＊1	NH-79	—	

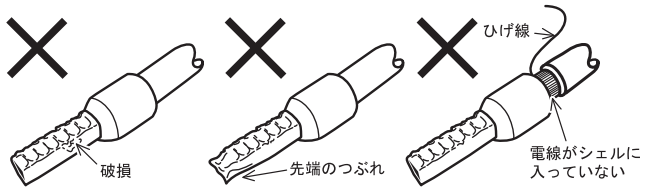
＊1　棒型圧着端子用工具は，使用する棒型圧着端子と同じメーカの工具を使用してください。

(a) 端末処理時の注意事項

- 棒端子の端末処理において，芯線部分が突き出すタイプの棒端子を使用する場合は，スリーブ部分から 0 ～ 0.5mm 程度はみ出るようにして差し込んでください。



- 棒端子の圧着後，外観を確認してください。正しく圧着できていなかったり，側面が損傷していたりする棒端子は使用しないでください。

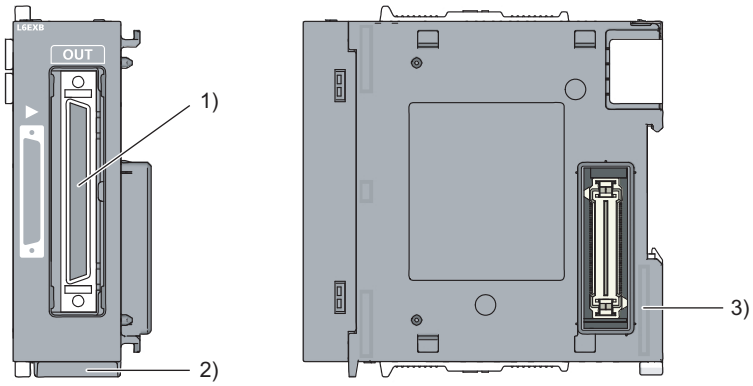


第 9 章　分岐ユニットおよび増設ユニット

本章では，分岐ユニットおよび増設ユニットの，仕様を説明します。

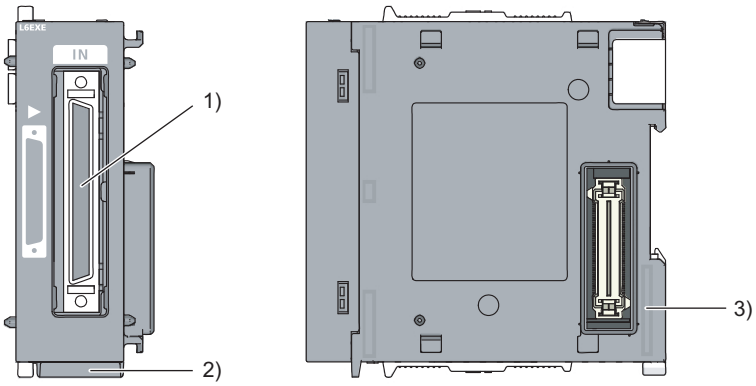
9.1　各部の名称

(1) 分岐ユニット



No.	名称	用途
1)	増設用コネクタ (OUT)	増設ケーブル（増設ユニットとの信号送受信用）を接続するためのコネクタです。
2)	シリアル No. 表示部	定格銘板のシリアル No. を表示します。
3)	DIN レール取付け用フック	DIN レールに取り付けるためのフックです。

(2) 増設ユニット



No.	名称	用途
1)	増設用コネクタ (IN)	増設ケーブル（分岐ユニットとの信号送受信用）を接続するためのコネクタです。
2)	シリアル No. 表示部	定格銘板のシリアル No. を表示します。
3)	DIN レール取付け用フック	DIN レールに取り付けるためのフックです。

9.2　仕様

項目		L6EXB	L6EXE
外形寸法	H	90mm	90mm
	W	28.5mm	28.5mm
	D	95mm	95mm
内部消費電流		0.08A	0.08A
質量		0.12kg	0.13kg

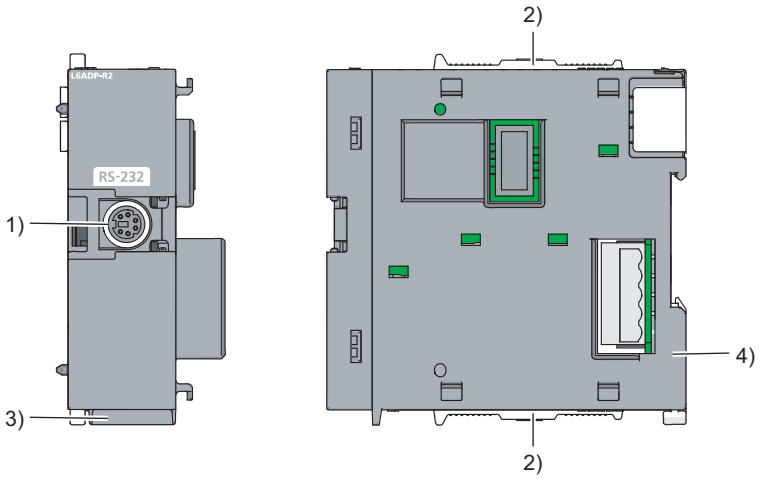
第 10 章 RS-232 アダプタ

本章では，RS-232 アダプタの仕様を説明します。

備 考

- L02SCPU，L02SCPU-P では，RS-232 アダプタを装着することはできません。
- RS-232 ケーブル接続については，60 ページ 4.3.6 項を参照してください。
- RS-232 アダプタは，下記のような場合に使用するユニットです。
  - プログラミングツールまたは GOT との接続
  - 通信プロトコル機能およびシリアルコミュニケーション機能を使用した相手機器との交信

10.1 各部の名称



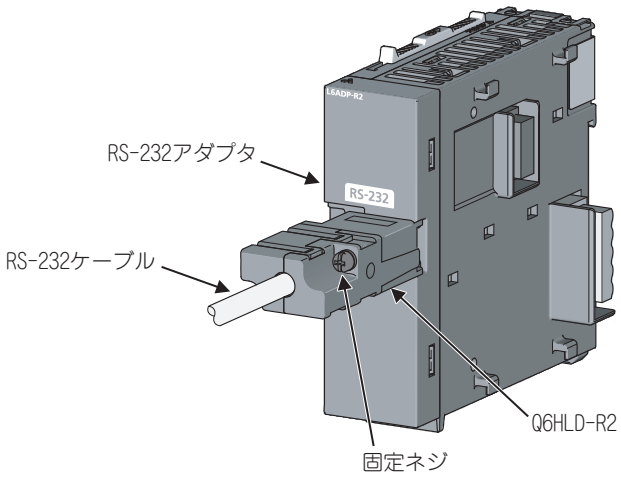
No.	名称	用途
1)	RS-232 コネクタ	RS-232 対応周辺機器と接続するためのコネクタです。
2)	ユニット連結用フック	ユニット連結を固定するためのフックです。
3)	シリアル No. 表示部	定格銘板のシリアル No. を表示します。
4)	DIN レール取付け用フック	DIN レールに取り付けるためのフックです。

10.2　仕様

項目		L6ADP-R2
最大伝送速度		115.2kbps
外形寸法	H	90mm
	W	28.5mm
	D	95mm
内部消費電流		0.02A
質量		0.10kg

10.3　RS-232 ケーブルを常時接続する場合

RS-232 コネクタにケーブルを常時接続する場合，ケーブルはクランプによる固定処理を行ってください。
ケーブルのふらつきや移動，不注意の引っ張りなどによるコネクタのはずれを防止します。
RS-232 コネクタのクランプとして，Q6HLD-R2 形コネクタ抜け防止ホルダがあります。Q6HLD-R2 形コネクタ抜け防止ホルダについては，下記マニュアルを参照してください。
Q6HLD-R2 形 RS-232 コネクタ抜け防止用ホルダユーザーズマニュアル



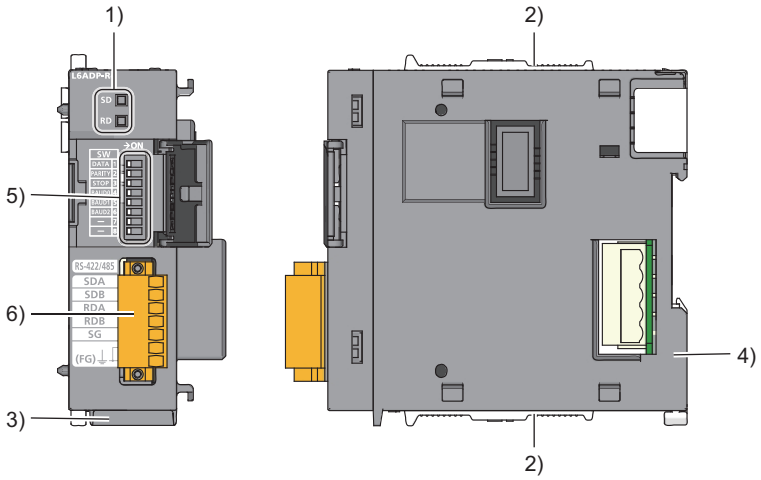
第 11 章 RS-422/485 アダプタ

本章では，RS-422/485 アダプタの仕様を説明します。

備 考

- L02SCPU，L02SCPU-P では，RS-422/485 アダプタを装着することはできません。
- RS-422/485 ケーブルの接続については，61 ページ 4.3.7 項を参照してください。
- RS-422/485 アダプタは，下記のような場合に使用するユニットです。
  - GOT との接続
  - 通信プロトコル機能およびシリアルコミュニケーション機能を使用した相手機器との交信

11.1 各部の名称



No.	名称	用途
1)	表示 LED	データの送受信状態を示す LED です。 • SD LED 点灯：データ送信中 消灯：データ未送信 • RD LED 点灯：データ受信中 消灯：データ未受信 送信異常時は，SD LED および RD LED が同時点滅します。（点灯 200ms，消灯 200ms を繰り返します。）
2)	ユニット連結用フック	ユニットを連結固定するためのフックです。
3)	シリアル No. 表示部	定格銘板のシリアル No. を表示します。
4)	DIN レール取付け用フック	DIN レールに取り付けるためのフックです。
5)	ディップスイッチ	伝送設定（データビット長，パリティビット有無，ストップビット長，通信速度）用のディップスイッチです。（91 ページ 11.1 節 (1)）
6)	端子台	RS-422/485 インタフェース（ツーピース突込み端子台）です。（91 ページ 11.1 節 (2)） 端子台ネジ（M2 ネジ）の締付けは，0.2 ～ 0.25N・m の範囲で行ってください。

(1) ディップスイッチ

RS-422/485 アダプタのディップスイッチについて示します。

ディップスイッチ		用途
1	DATA	相手機器と送受信するデータの 1 キャラクタ分のビット長を設定するスイッチです。（パリティビットは含みません） OFF：7 ビット ON：8 ビット
2	PARITY	相手機器と送受信するデータの 1 バイト分ごとに，パリティビットを付加するか設定するスイッチです。 OFF：無し ON：有り (垂直パリティ)
3	STOP	相手機器と送受信する 1 キャラクタ分のデータのストップビット長を設定するスイッチです。 OFF：1 ビット ON：2 ビット
4	BAUD 0	相手機器と送受信するデータの通信速度を設定するスイッチです。* 1 選択できる通信速度を下記に示します。 1200bps, 2400bps, 4800bps, 9600bps, 19200bps, 38400bps, 57600bps, 115200bps
5	BAUD 1	
6	BAUD 2	
7	-	未使用
8	-	

＊1　ディップスイッチによる伝送速度一覧を下記に示します。

ディップスイッチ	通信速度 [bps]							
	1200	2400	4800	9600	19200	38400	57600	115200
BAUD0	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON
BAUD1	OFF	OFF	ON	ON	OFF	OFF	ON	ON
BAUD2	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON

Point

ディップスイッチの設定は，PC パラメータの “ アダプタシリアル設定 ” と一致させてください。

(2) 端子台

RS-422/485 アダプタの端子台仕様一覧を下記に示します。

信号略号	信号名称	信号の方向 RS-422/485 アダプタ⇔相手機器	用途
SDA	送信データ (+)	→	RS-422/485 アダプタから相手機器へデータを送信するための信号です。
SDB	送信データ (-)	→	
RDA	受信データ (+)	←	RS-422/485 アダプタが相手機器からデータを受信するための信号です。
RDB	受信データ (-)	←	
SG	信号グラウンド	↔	-
FG	フレームグラウンド	↔	-
FG	フレームグラウンド	↔	

(a) 終端抵抗について

終端抵抗については，☞63 ページ 4.3.7 項 (3) (b) を参照してください。

(b) 端子台について

端子台については，☞61 ページ 4.3.7 項 (2) (a) を参照してください。

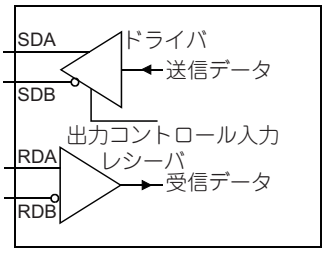
11.2 仕様

項目		L6ADP-R4
最大伝送速度		115.2kbps
通信方式	通信プロトコル	全二重／半二重通信
	MC プロトコル	半二重通信
同期方式		調歩同期方式
通信速度		1200bps, 2400bps, 4800bps, 9600bps, 19200bps, 38400bps, 57600bps, 115200bps
伝送距離		1200m（総延長距離）
データ形式	スタートビット	1
	データビット	• 7 • 8
	パリティビット	• あり • なし
	ストップビット	• 1 • 2
アクセスサイクル	通信プロトコル	送受信ともに，専用命令による実行要求時
	MC プロトコル	CPU ユニットのサービス処理設定に従う
エラー検出	パリティチェック	• あり（奇数／偶数をパラメータで選択） • なし
	サムチェックコード	• あり（使用するプロトコルによってサムチェックコードのあり／なし，チェック方式を決める） • なし
伝送制御		• DC1/DC3(Xon/Xoff）制御 • DC2/DC4 制御
外形寸法	H	90mm
	W	28.5mm
	D	95mm
内部消費電流		0.15A
質量		0.12kg

(1) RS-422/485 インタフェースの動作

(a) RS-422/485 インタフェースの構造

RS-422/485 アダプタの RS-422/485 インタフェースのドライバ（送信）およびレシーバ（受信）部分は，下記の構造になっています。



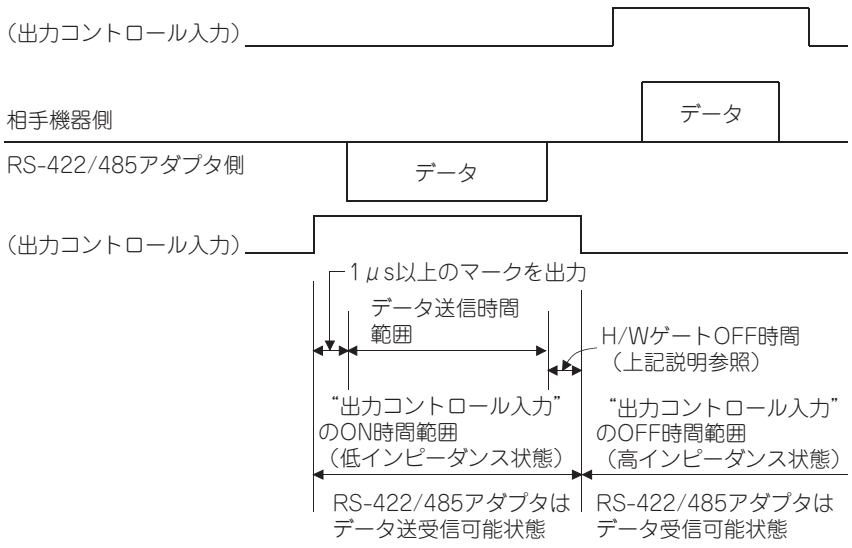
ドライバ（送信）部分の「出力コントロール入力」（送信ゲートとも呼びます）とは，SDA/SDB からデータを外部へ出力するか，出力しないかを決めるものです。

(b) RS-422/485 インタフェースの動作

93 ページ 11.2 節 (1) (a) の図において「出力コントロール入力」が ON 状態で，低インピーダンス状態（データを送信できる状態）となります。また，「出力コントロール入力」が OFF 状態で，高インピーダンス状態（データを送信していない状態）となります。

(c) RS-422/485 アダプタの送信開始タイミング，送信処理の完了タイミング

- 送信開始タイミングは，データ送信時に 93 ページ 11.2 節 (1) (a) および 93 ページ 11.2 節 (1) (b) に示す動作による高インピーダンス状態を解除後，1 μs 以上のマークを出力してから，実際のデータを出力します。
- 送信処理の完了タイミングは，データの送信を終えてから送信処理が完了する（高インピーダンス状態にする）までの H/W ゲート OFF 時間として，2 ビット以下のデータ送出時間が必要となっています。



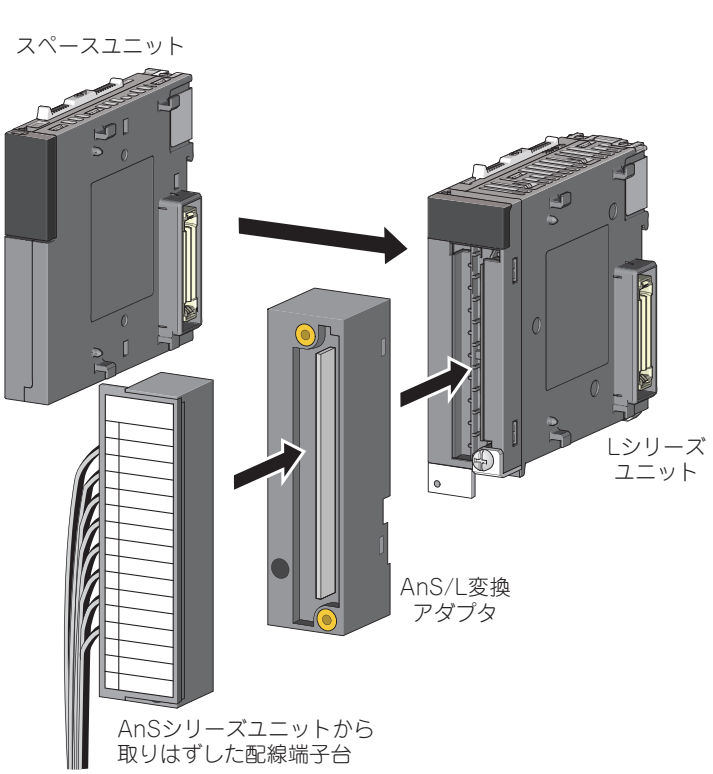
第 12 章 スペースユニット

本章では，スペースユニットの用途および仕様を説明します。

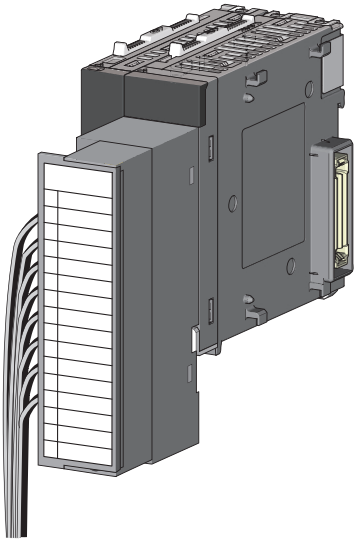
12.1 用途

スペースユニットは，AnS シリーズのシステムを L シリーズのシステムに置き換える際，AnS/L 変換アダプタ (端子台タイプ) *1 を使用する場合の配線スペースを確保するために使用します。
スペースユニットは，AnS/L 変換アダプタ (端子台タイプ) を使用するユニットの左側に 1 台のみ使用します。

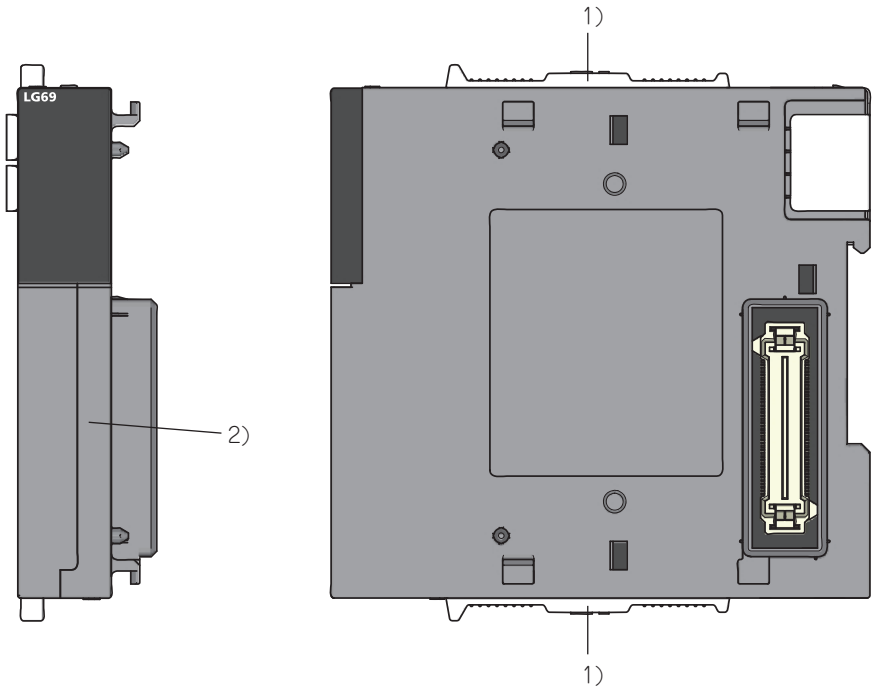
＊ 1　三菱電機エンジニアリング株式会社製リニューアルツールです。
http://mee.co.jp/



スペースユニットを装着した状態



12.2　各部の名称



No.	名称	用途
1)	ユニット連結用フック	ユニット連結を固定するためのフックです。
2)	シリアル No. 表示部	定格銘板のシリアル No. を表示します。

12.3　仕様

項目		LG69
入出力占有点数		割付禁止＊1
ユニット占有数		使用するユニットによってユニット占有数が変わります。詳細は ☞ 96 ページ 12.4 節 を参照してください。
外形寸法	H	90mm
	W	16.5mm
	D	95mm
質量		0.07kg

＊1　プログラミングツールのシステムモニタ上には，LG69 は表示されません。また，プログラミングツールの PC パラメータの I/O 割付設定において LG69 を設定しないでください。設定した場合，LG69 より右側のユニットの I/O 割付にずれが発生し，誤出力および誤入力の原因となります。プログラミングツールのシステムモニタ上には，割付不正のエラーが表示されます。

12.4 装着台数の制約

システムにおいてスペースユニットを 1 台以上使用している場合の，装着台数の制約について示します。

12.4.1 基本ブロックに対する装着台数

基本ブロックに対する装着台数を下記に示します。

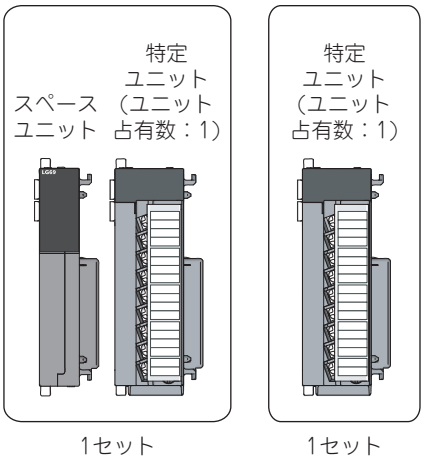
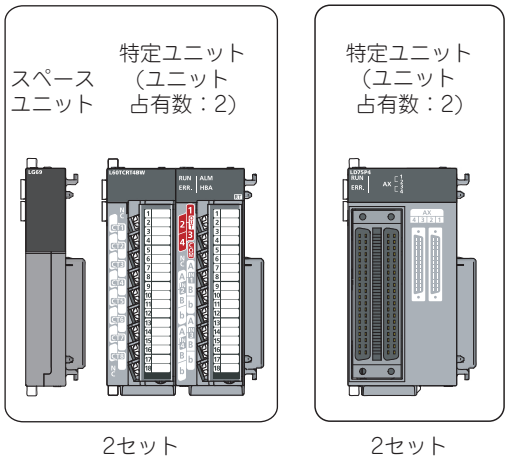
(1) 特定ユニットのみを使用している場合

基本ブロックに装着するユニットとして，下記に示すユニットのみを使用している場合の装着台数を示します。

ユニット種別	ユニット形名
入出力ユニット	LX10，LX28，LX40C6，LX41C4，LX42C4 LY10R2，LY18R2A，LY20S6，LY28S1A，LY40NT5P，LY41NT1P，LY42NT1P，LY40PT5P，LY41PT1P，LY42PT1P LH42C4NT1P，LH42C4PT1P
アナログユニット	L60AD4，L60DA4，L60AD2DA2，L60TCTT4，L60TCRT4，L60TCTT4BW *1，L60TCRT4BW *1
カウンタユニット	LD62，LD62D
位置決めユニット	LD75P1 *1，LD75P2 *1，LD75P4 *1，LD75D1 *1，LD75D2 *1，LD75D4 *1
ネットワークユニット	LJ61BT11，LJ71C24，LJ71C24-R2

＊1　ユニット占有数が 2 のユニットです。注釈の付いていないユニットのユニット占有数は 1 です。

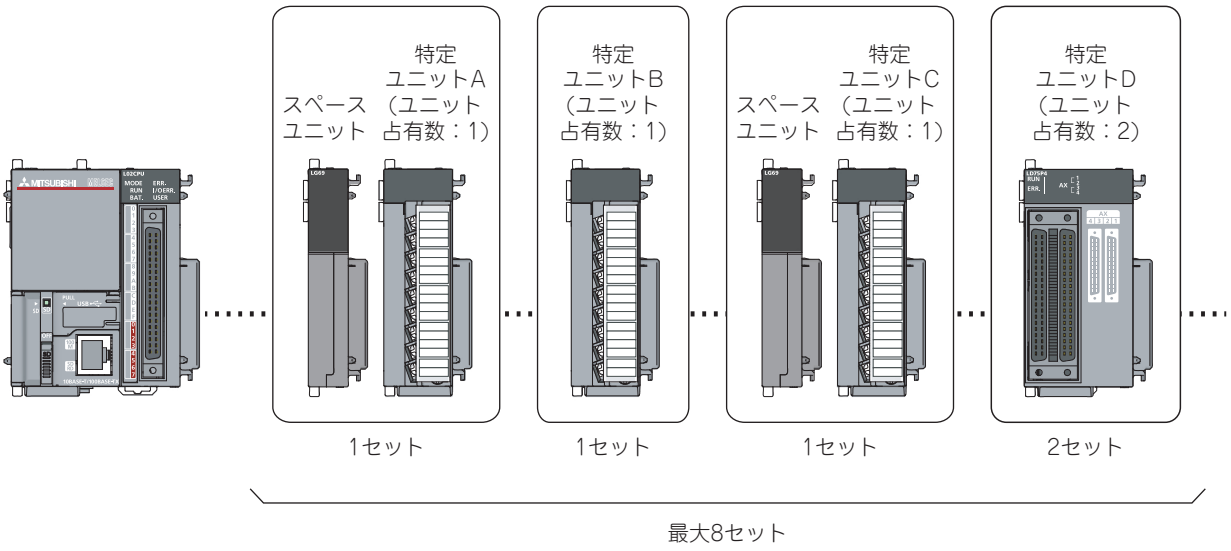
下記の数え方により，最大 8 セットまで装着できます。（スペースユニットを使用する場合は，各ユニットの左側に 1 台のみ装着してください。）

装着ユニット	ユニット占有数が 1 のユニット	ユニット占有数が 2 のユニット
セット数	1 セット (スペースユニットを装着していない場合も 1 セットと数えます)	2 セット (スペースユニットを装着していない場合も 2 セットと数えます)
		

Point

- 分岐ユニット L6EXB を使用している場合は，最大で 8 セット＋分岐ユニット 1 台の装着が可能です。
- プログラミングツールの PC パラメータの I/O 割付設定では，スペースユニットを設定しないでください。

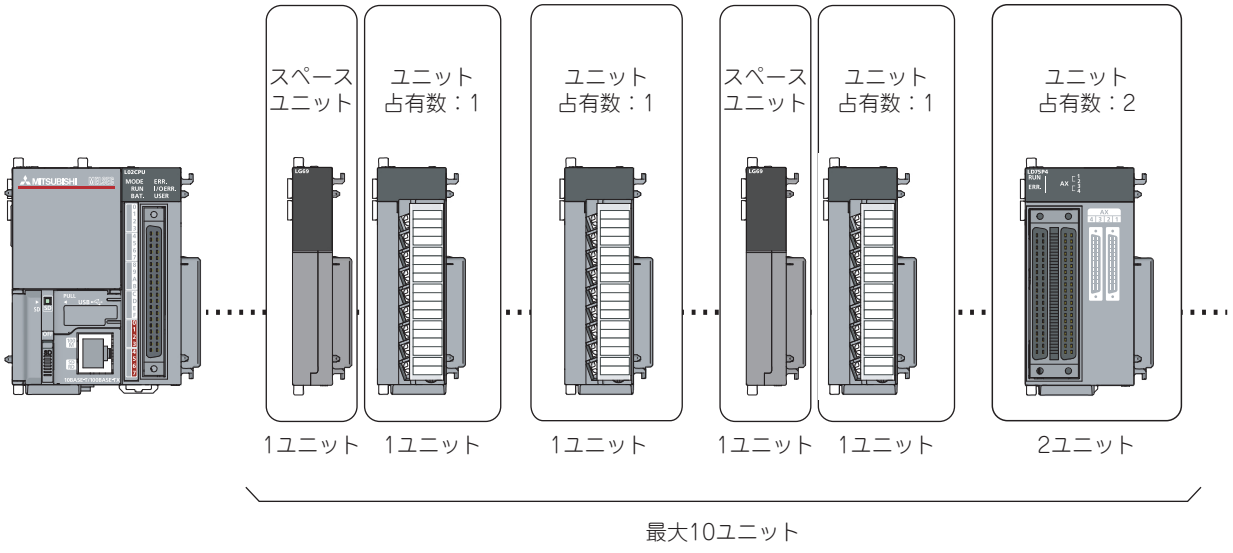
セット数の数え方の例を下記に示します。



(2) 特定ユニット以外のユニットも使用している場合

装着台数は，最大 10 ユニットまでとなります。ただし，下記に示すように，スペースユニットも 1 ユニットとして数えます。

セット数による数え方は適用できません。



12.4.2 増設ブロックに対する装着台数

増設ブロックに対する装着台数を下記に示します。

(1) 特定ユニットのみを使用している場合

特定ユニット（☞ 96 ページ 12.4.1 項 (1)）のみを使用している場合の装着台数は，基本ユニットにおける場合と同様です。最大 8 セット＋分岐ユニット 1 台の装着が可能です。

Point

増設ユニットに装着しているスペースユニットが 1 台の場合は，98 ページ 12.4.2 項 (2) に示す数え方の方が装着台数が多くなるため，そちらを参照してください。

(2) 特定ユニット以外のユニットも使用している場合

最大 11 ユニットまでとなります。ただし，スペースユニットも 1 ユニットとして数えます。
セット数による数え方は適用できません。

Point

- スペースユニットは 1 ユニットとして数えますが，プログラミングツールのシステムモニタには表示されません。I/O 割付の設定を実施しないでください。
- ユニット占有数の詳細については，☞ 28 ページ 2.2 節 (1) を参照してください。

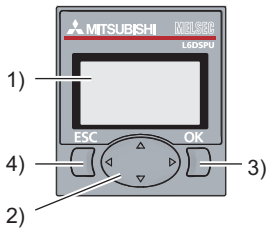
第 13 章 表示ユニット

備 考

L02SCPU，L02SCPU-P では，表示ユニットは使用できません。

本章では，表示ユニットの仕様を説明します。

13.1 各部の名称



No.	名称	用途
1)	液晶ディスプレイ	メニューや時計，モニタ画面などを表示する画面です。＊1
2)	▲ボタン	表示ユニットの操作に使用します。 操作内容については下記のマニュアルを参照してください。 MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）
	▼ボタン	
	▶ボタン	
	◀ボタン	
3)	OK ボタン	
4)	ESC ボタン	

＊1　電源を OFF したとき，液晶ディスプレイに線上のドット表示が数秒～数十秒残ることがありますが，機能上問題ありません。

13.2 仕様

項目		L6DSPU
表示文字数		半角 16 文字 × 4 行
表示文字		• 英数（全角／半角） • カタカナ（全角／半角） • ひらがな（全角） • 漢字（全角） • 記号（全角／半角）
言語切換え		日本語／英語
バックライト表示		緑色（正常時），赤色（異常時）
外形寸法	H	50mm
	W	45mm
	D	15mm
質量		0.03kg

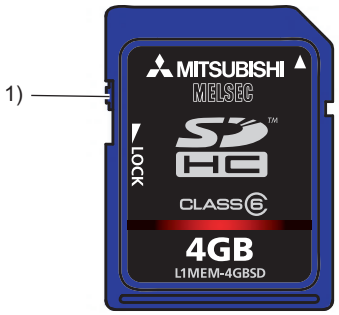
第 14 章 SD メモリカード

備　考

L02SCPU，L02SCPU-P では，SD メモリカードは使用できません。

本章では，SD メモリカードの仕様を説明します。

14.1　各部の名称



No.	名称	用途
1)	プロテクトスイッチ	スイッチを LOCK 位置にすることで，SD メモリカードへの削除と上書きを禁止します。

14.2　仕様

項目		L1MEM-2GBSD	L1MEM-4GBSD
メモリカード種別		SD	SDHC
メモリ容量		2GB	4GB
最大格納ファイル本数		511 本*1	65534 本*1
外形寸法	H	32mm	
	W	24mm	
	D	2.1mm	
質量		2g	

＊1　表中の数値はルートフォルダに格納できる本数です。サブディレクトリに格納する場合は最大 65533 本となります。

Point

- 三菱電機製の SD メモリカード（L1MEM-2GBSD および L1MEM-4GBSD）を使用してください。*2
  三菱電機製以外の SD メモリカードを使用した場合，SD メモリカード内のデータの破損，またはシステム停止などの問題が発生する恐れがあります。
- SD メモリカードは，パソコンでフォーマットしないでください。
  フォーマットについては，下記マニュアルを参照してください。
  使用するプログラミングツールのオペレーティングマニュアル
- L1MEM-2GBSD および L1MEM-4GBSD は，MELSEC-L シリーズ CPU ユニットにて使用した状態で，IEC61131-2 に適合しています。
- 使用する SD メモリカードのカード種別が「SDHC」の場合は，SDHC ロゴが機器または取扱説明書に記載されている製品でのみ使用できます。「SD」のみに対応した製品では使用できませんのでご注意ください。
- SD メモリカードへのアクセス中に電源 OFF，リセット，または SD メモリカードの取出しを行うと，SD メモリカード内のデータが壊れる可能性があります。必ず SD メモリカードへのアクセスを停止してから電源 OFF，リセット，または SD メモリカードの取出しを行ってください。なお，SM606（SD メモリカード強制使用停止指示），SM607（SD メモリカード強制使用停止状態フラグ）を用いることで SD メモリカードの使用の一括停止および使用停止状態の確認ができます。(☞103 ページ 14.3 節)
- 大切なデータは，CD や DVD など他のメディアに保存するなど定期的にバックアップすることを推奨します。

＊2 市販の SD メモリカードについては，三菱電機 FA サイトを参照してください。ただし，ご使用に際しては，対象システムにおける制御に問題がないことをお客様にて十分検証ください。
http://www.MitsubishiElectric.co.jp/fa/
• テクニカルニュース No. FA-D-0078

14.3　SD メモリカード強制使用停止について

備　考

SM606 による SD メモリカード強制使用停止は，シリアル No. の上 5 桁が “12022” 以降の CPU ユニットで使用できます。

CPU ユニットの電源 ON → OFF 前に，SD604（メモリカード使用状況）の ON 状態にかかわらず，SD メモリカードの使用を停止できます。

(1) 強制使用停止の方法

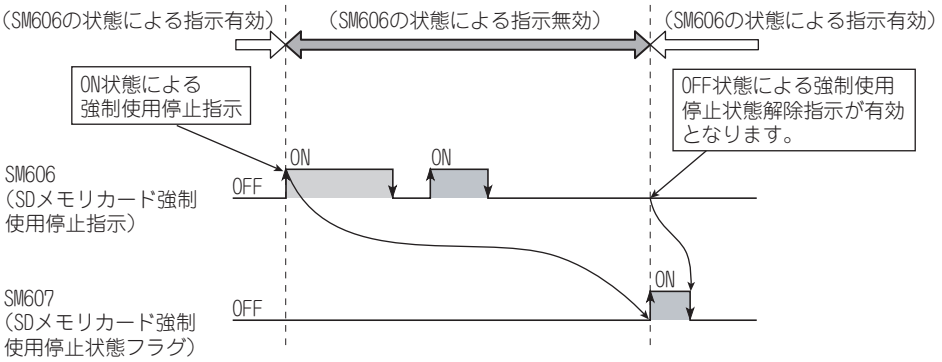
1. **SM606（SD メモリカード強制使用停止指示）を ON すると，CPU ユニットに装着された SD メモリカードの使用を停止できます。SD メモリカード強制使用停止状態は，SM607（SD メモリカード強制使用停止状態フラグ）で確認します。**
2. **SD LED が消灯します。**

(2) 強制使用停止の解除

SD メモリカード強制使用停止状態は、下記操作で解除できます。

- CPU ユニットの電源 OFF → ON
- リセット操作
- SM606（SD メモリカード強制使用停止指示）の OFF ＊ 1

＊ 1　SM606（SD メモリカード強制使用停止指示）の ON による停止指示後，SM607（SD メモリカード強制使用停止状態フラグ）が変化するまでの間は，SM606（SD メモリカード強制使用停止指示）の ON/OFF 状態変化による指示は無効となります。



(3) 注意事項

- SD メモリカード強制使用停止中に，各機能で SD メモリカードへのアクセスを行った場合は，SD メモリカードが未装着の場合と同様の動作となります。ただし，FREAD/FWRITE/COMRD(P)/QCDSET(P)命令に関しては，未装着時と動作が異なり無処理となります。
- SD メモリカードを装着し，SD メモリカード使用停止スイッチを上方向にスライドした状態（SD メモリカード使用停止状態）かつ SM606（SD メモリカード強制使用停止指示）を ON した状態の場合，下記に示す操作をすべて行うことで，SD メモリカードを使用可能状態にできます。
  ・SD メモリカード使用停止スイッチを下方向にスライドする。（SD メモリカード使用可能状態にする）。
  ・SM606（SD メモリカード強制使用停止指示）を OFF する。
- 外部機器からのファイル書込み中に SD メモリカード強制使用停止を行うと，ファイルの書込みに失敗することがあります。この場合，SD メモリカード強制使用停止状態を解除してから再度ファイルの書込みを行ってください。

第 15 章 バッテリ

本章では，バッテリの仕様を説明します。

15.1 仕様

項目	Q6BAT	Q7BAT	Q7BAT-SET
種　別	二酸化マンガンリチウム一次電池		
初期電圧	3.0V		
公称電流容量	1800mAh	5000mAh	
保存時のバッテリ寿命	実力 5 年（常温）		
リチウム含有量	0.49g	1.52g	
用　途	標準 RAM，ラッチデバイスの停電保持用		
付属品	ー		バッテリホルダ

Point

- バッテリの取付け，交換方法については☞ 110 ページ 16.3 節を参照してください。
- バッテリの寿命については☞ 405 ページ 付 4 を参照してください。
- EU 加盟国内でのバッテリの規制については☞ 434 ページ 付 12 を参照してください。

第 16 章 保守点検

本章では，シーケンサを正常で最良の状態で使用していただくために，日常あるいは定期的に実施していただきたい項目について説明します。

16.1 日常点検

日常点検していただきたい項目について下記に示します。

(1) 取付け状態と接続状態

チェック欄

- ☐ ユニットのUSBコネクタ，SDメモリカードのフタがはずれていない
- ☐ ユニットがはずれかかっていない
- ☐ ユニット連結用フックがきちんとかかっている
- ☐ ユニットの端子ネジはゆるんでいない
- ☐ 圧着端子同士が接触，または接近していない
- ☐ ケーブルのコネクタ部分がゆるんでいない
- ☐ 電源ユニットの端子カバーがはずれていない

(2) ユニットの LED 表示

チェック欄

- ☐ CPUユニットのMODE LEDは緑色に点灯している
- ☐ CPUユニットのRUN LEDは緑色に点灯している
- ☐ CPUユニットのERR. LEDは消灯している
- ☐ CPUユニットのUSER LEDは消灯している
- ☐ CPUユニットのBAT. LEDは消灯している
- ☐ CPUユニットのI/O ERR. LEDは消灯している
- ☐ 入力がONしたとき，対応するLEDはきちんと点灯している
- ☐ 出力がONしたとき，対応するLEDはきちんと点灯している
- ☐ CC-Link部のRUN LEDは緑色に点灯している
- ☐ CC-Link部のERR. LEDは消灯している
- ☐ CC-Link部のL RUN LEDは緑色に点灯している
- ☐ CC-Link部のL ERR. LEDは消灯している
- ☐ 電源ユニットのPOWER LEDは緑色に点灯している
- ☐ 入力ユニットの入力表示はON時にきちんと点灯している
- ☐ 出力ユニットの出力表示はON時にきちんと点灯している

LED 表示に異常が見つかった場合，異常箇所ごとにトラブルシューティングを行ってください。

異常箇所		対応マニュアル
CPU ユニット	CPU 部（MODE，RUN，ERR.，USER，BAT.）	☞ 113 ページ 第 17 章
	内蔵機能部（I/O ERR.，X0 ～ XF，Y0 ～ Y7）	
	CC-Link 部（RUN，ERR.，L RUN，L ERR.）	📖MELSEC-L CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル
電源ユニット，入出力ユニット		☞ 113 ページ 第 17 章

16.2　定期点検

6 か月から 1 年に 1，2 回程度点検していただきたい項目について説明します。
なお，設備の移転や改造，配線の変更を行ったときなどにも点検してください。

チェック欄

- ☐ 周囲温度は0～55℃の範囲内である
- ☐ 周囲湿度は5～95％RHの範囲内である
- ☐ 腐食性ガスはない
- ☐ AC100V端子間の電圧はAC85～132Vの範囲内である
- ☐ AC200V端子間の電圧はAC170～264Vの範囲内である
- ☐ DC24V端子間の電圧はDC15.6～31.2Vの範囲内である
- ☐ ユニットは強固に取り付けられている
- ☐ ごみ，異物の付着がない
- ☐ CPUユニットのBAT．LEDは消灯している
- ☐ バッテリの使用期間が5年を超えていない
- ☐ SM51，SM52はOFFしている
- ☐ エラー履歴が更新されていない
- ☐ SD526，SD527（最大スキャンタイム）はシステム仕様の範囲内である

16.3 バッテリの交換手順

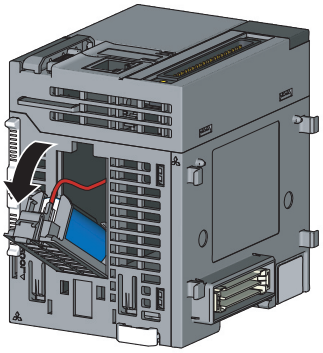
バッテリをはずしても，コンデンサにより多少の時間はメモリ内のデータはバックアップされています。
しかし，停電保持時間（3 分）を超えるとメモリの内容が消えることがありますので，手早く交換してください。

(1) 交換をする前に

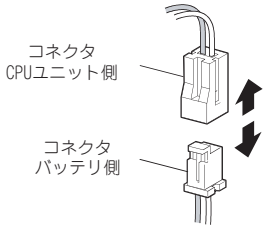
下記に示す項目を実施してください。

- プログラム，データのバックアップを行う。
- CPU ユニットへの供給電源を 10 分以上 ON にする。

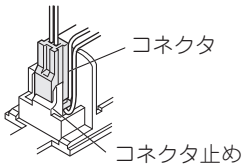
(2) Q6BAT の交換手順



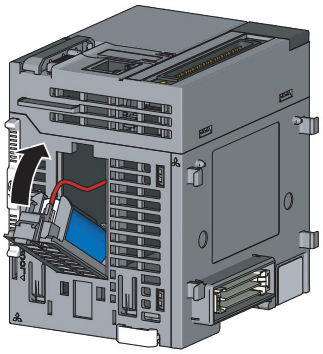
1. CPU ユニットを DIN レールから取りはずし，CPU ユニット底面に装着されているカバー（バッテリホルダ）を開けます。



2. 使用中のバッテリをバッテリホルダから抜き取ります。
（工場出荷時はバッテリのコネクタをはずしています。）

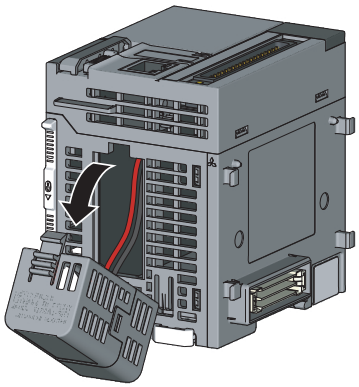


3. 新しいバッテリのリードコネクタと，CPU ユニットのリードコネクタを接続し，バッテリホルダに格納します。このとき，接続したコネクタはバッテリホルダのコネクタ止めにセットしてください。

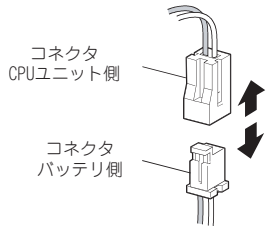


4. バッテリホルダを閉めて，CPU ユニットを DIN レールに装着します。

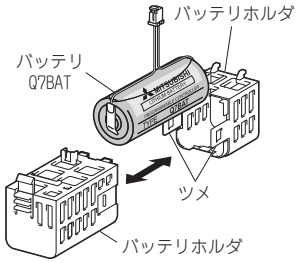
(3) Q7BAT の交換手順



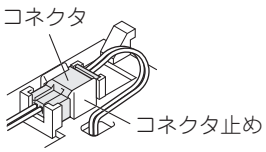
1. CPU ユニットを DIN レールから取りはずし，CPU ユニット底面に装着されているカバー（バッテリホルダ）を開けます。



2. 使用中のバッテリをバッテリホルダから抜き取ります。

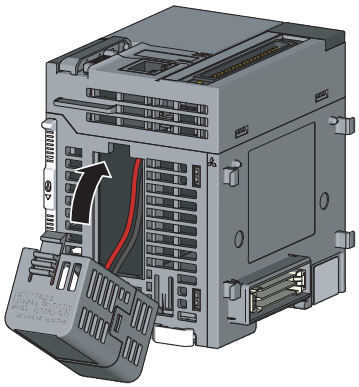


3. バッテリホルダ側面のツメをはずして 2 つに分解し，Q7BAT を抜き取ります。



4. 新しい Q7BAT を正しい方向でバッテリホルダに挿入し，バッテリケーブルがバッテリホルダ接続部分の穴から出るように，バッテリホルダを組み合わせます。

5. Q7BAT 側のコネクタと，CPU ユニット側のコネクタを接続し，バッテリホルダに格納します。このとき，接続したコネクタはバッテリホルダのコネクタ止めにセットしてください。



6. バッテリホルダを閉めて，CPU ユニットを DIN レールに装着します。

16.4 保管後の運転再開について

下記の場合，保管後の運転再開時に，CPU ユニットの標準 RAM の内容が不定になっている可能性があります。
運転再開時には，必ずプログラミングツールで標準 RAM のフォーマットをしてください。
フォーマットしたあとは，保管する前にバックアップしておいた内容を再度，標準 RAM に書き込んでください。

- バッテリをはずしてシーケンサを保管したあとに運転を再開する場合
- バッテリ寿命を超えてシーケンサを保管したあとに運転を再開する場合

備 考

標準 ROM へのラッチデータバックアップ機能を使用している場合，バッテリを使用せずにラッチデータを保持できるため，保管後の運転再開時でもデータを消失しません。

標準 RAM のフォーマットについては，下記のマニュアルを参照してください。
使用するプログラミングツールのオペレーティングマニュアル

Point

- シーケンサを保管する場合は，保管前に各メモリの内容を必ずバックアップしてください。
- CPU ユニットは，電源 ON または CPU ユニットのリセット時に下記のデータの状態をチェックし，異常を検出すると初期化します。
  - 標準 RAM のデータ
  - エラー履歴
  - ラッチデータ（ラッチリレー，パラメータで設定したラッチ設定範囲のデバイス，特殊リレー SM900 ～ SM999，特殊レジスタ SD900 ～ SD999）
  - サンプリングトレースデータ

第 17 章 トラブルシューティング

本章では，システムを使用するうえで発生する各種エラーの内容および原因究明，処置方法について説明します。
トラブルが発生した場合，下記の順にトラブルシューティングを実施します。

- 目視による確認（☞ 113 ページ 17.1 節）
- エラーの確認と処置方法（☞ 117 ページ 17.2 節）

CPU ユニットの機能が正しく動作しない場合は，目視による確認を行ってから機能異常の確認を行ってください。（☞ 121 ページ 17.3 節）

備 考

また，復旧前にトラブル発生時のプログラムやデバイスなどを保存しておくと，トラブル要因の解明などに役立ちます。（☞ 149 ページ 17.5 節）

17.1 目視による確認

下記に示す項目を確認してください。

(1) LED の状態を確認

ユニット本体に異常がないかを確認します。下記の手順に従って，各 LED を確認してください。
なお LED 表示とユニットの状態については各ユニットの「各部の名称」を参照してください。

- CPU ユニット（☞ 68 ページ 6.1 節）
- 電源ユニット（☞ 80 ページ 7.1 節）
- RS-422/485 アダプタ（☞ 90 ページ 11.1 節）

1. **電源を ON して，電源ユニットの POWER LED を確認してください。**
電源を ON しても POWER LED が点灯しない場合は，下記のトラブルシューティングを行ってください。
☞ 115 ページ 17.1.1 項

2. **CPU ユニットの MODE LED を確認してください。**
CPU ユニットの MODE LED が点灯しない場合は，下記のトラブルシューティングを行ってください。
☞ 115 ページ 17.1.2 項

3. **CPU ユニットの RUN LED を確認してください。**
CPU ユニットの RUN LED が点灯しない場合は，下記のトラブルシューティングを行ってください。
☞ 116 ページ 17.1.3 項

4. **I/O ERR. LED または ERR. LED を確認してください。**
上記の LED が点灯または点滅している場合は，エラーが発生しています。
表示ユニットまたはプログラミングツールでエラーの確認を行ってください。（☞ 117 ページ 17.2 節）

5. **CPU ユニットの BAT.LED を確認してください。**
BAT.LED が点灯している場合は，バッテリの電圧が低下しています。
バッテリを交換してください。（☞ 110 ページ 16.3 節）

6. **RS-422/485 アダプタの SD LED または RD LED を確認してください。**

SD LED および RD LED が同時点滅（点灯 200ms，消灯 200ms を繰り返し）している場合は，送信異常が考えられます。
CPU ユニットの PC パラメータの “アダプタシリアル設定” と，RS-422/485 アダプタのディップスイッチの設定が，一致しているか確認してください。（☞90 ページ 11.1 節）

(2) 通信ケーブルと配線の確認

通信ケーブルに異常がないか，コネクタや端子台などがはずれていないか，または配線が正しいか確認してください。（☞47 ページ 4.3 節）

17.1.1　POWER LED が点灯しない場合

下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
CPU ユニットの MODE LED が点灯している	該当電源ユニットが故障しています。電源ユニットを交換してください。
適正な電圧の電源が供給されていない	適正な電圧の電源を供給してください。(☞ 81 ページ 7.2 節)
システム全体の内部消費電流が電源ユニットの定格出力電流を超えている	システム構成を再検討し，内部消費電流を電源ユニットの定格出力電流以下に抑えてください。(☞ 431 ページ 付 10)
電源ユニット以外のユニットをすべてはずした状態で電源を再投入したとき，POWER LED が点灯した	システムに装着していたユニットを 1 台ずつ増やしながら，電源の再投入を繰り返してください。 POWER LED が点灯しなくなった時点の，最後に装着したユニットが故障しています。

上記の項目を確認しても POWER LED が点灯しない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

17.1.2　MODE LED が点灯しない場合

下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
強制 ON/OFF の設定を行っている	強制 ON/OFF の設定を解除してください。
電源ユニットを交換して電源を再投入したとき，MODE LED が点灯した	交換前の電源ユニットに原因があります。 最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。
電源ユニットに AC 電源が供給されていない。	電源ユニットに AC 電源を供給してください。
電源ユニットを交換して電源を再投入しても，MODE LED が点灯しない	CPU ユニットまたは装着されているユニットに原因があります。 システムに装着していたユニットを 1 台ずつ増やしながら，電源の再投入を繰り返してください。 MODE LED が点灯しなくなった時点の，最後に装着したユニットが故障しています。
増設ケーブルで分岐ユニットと分岐ユニットを接続した。	増設ケーブルの接続方法に原因があります。増設ケーブルを正常に接続してください。

上記の項目を確認しても MODE LED が点灯しない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

17.1.3 RUN LED が点灯しない場合

下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
CPU ユニットの ERR. LED が点滅している	エラーが発生しています。 表示ユニット，またはプログラミングツールでエラーの確認を行ってください。(☞ 117 ページ 17.2 節)
CPU ユニットの ERR. LED が点灯している	過大なノイズが原因と考えられます。 ノイズ源に対してノイズ対策を施してください。 (☞ 413 ページ 付 8)
リモート STOP，リモート PAUSE または STOP 命令を実行している	リモート STOP，リモート PAUSE 時はリモート RUN，STOP 命令時は CPU ユニットを STOP → RUN してください。

上記の項目を確認しても RUN LED が点灯しない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

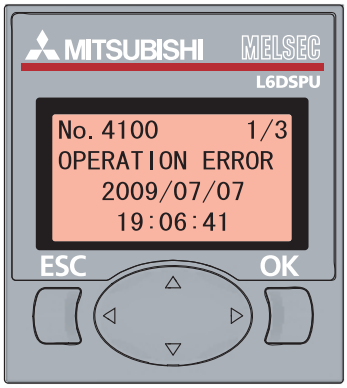
17.2　エラー内容の確認

エラーの要因と処置方法は下記の方法で確認することができます。

- 表示ユニットでの確認
- プログラミングツールでの確認

(1) 表示ユニットでの確認

表示ユニットのエラー表示機能でエラーコード，共通情報，個別情報が確認できます。
エラーコード一覧でエラーの内容を確認し，エラー要因を取り除いてください。（☞ 153 ページ 付 1）



表示ユニットの操作については下記のマニュアルを参照してください。
MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）

(2) プログラミングツールでの確認

プログラミングツールと CPU ユニットを接続することで，エラーの内容とその要因を確認できます。

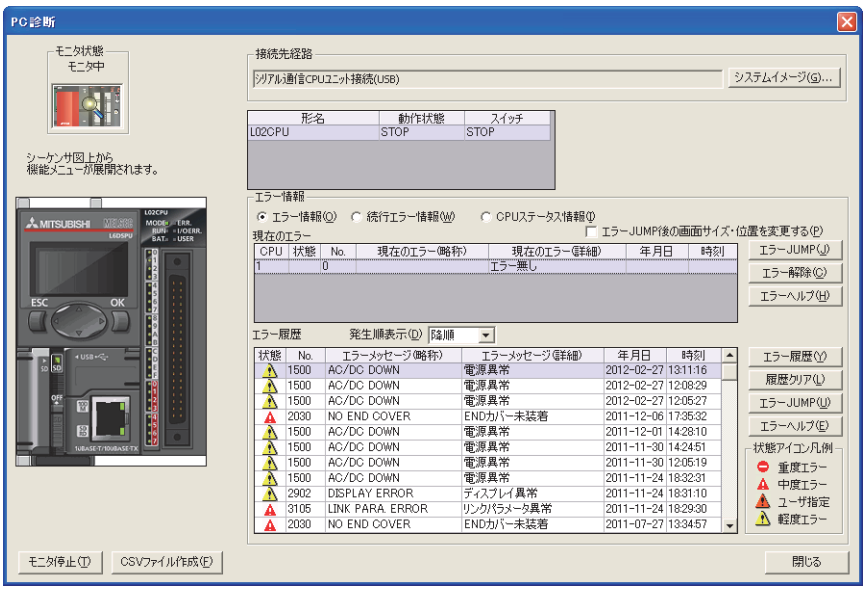
プログラミングツールが CPU ユニットと接続できない場合は，プログラミングツールの設定に問題はないか確認してください。

使用するプログラミングツールのオペレーティングマニュアル

(a) PC 診断

ERR. LED が点灯または点滅した場合は，プログラミングツールの PC 診断でエラーの内容を確認し，エラー要因を取り除いてください。

［診断］⇨［PC 診断 ］



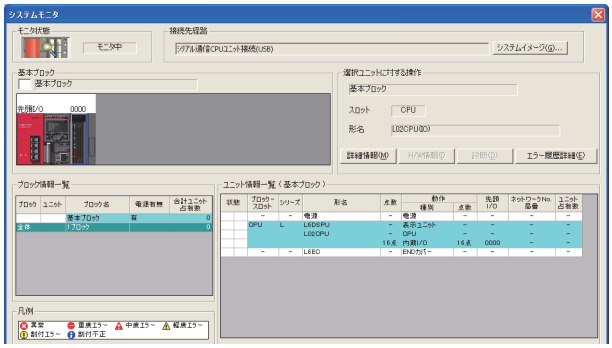
PC 診断の詳細については下記のマニュアルを参照してください。

使用するプログラミングツールのオペレーティングマニュアル

(b) ユニット詳細情報

I/O ERR. LED が点灯した場合またはインテリジェント機能ユニットがエラーとなった場合は，プログラミングツールのシステムモニタでエラーとなっているユニットのエラー内容を確認し，その要因を取り除いてください。

［診断］⇨［ システムモニタ ］



1. “基本ブロック” からエラーとなっているユニットを選択し，詳細情報(M) をクリックしてください。

2. 選択したユニットの詳細情報が表示されます。

ユニット詳細情報の詳細については下記のマニュアルを参照してください。

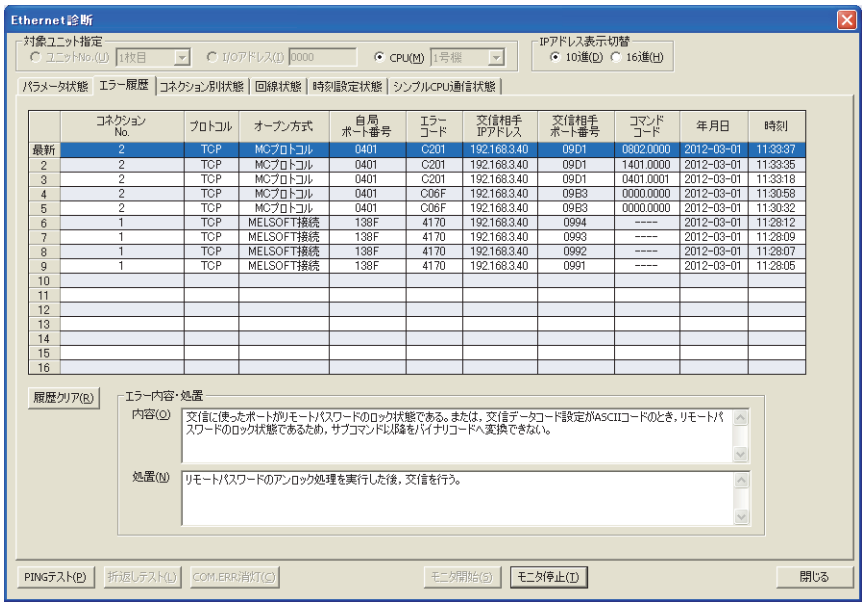
MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（内蔵 I/O 機能編）

各インテリジェント機能ユニットのユーザーズマニュアル

(c) Ethernet 診断

プログラミングツールと CPU ユニットを Ethernet で接続している場合は，Ethernet 診断でエラーの内容を確認し，エラー要因を取り除いてください。

［診断］⇨［Ethernet 診断 ］



Ethernet 診断の詳細については下記のマニュアルを参照してください。

使用するプログラミングツールのオペレーティングマニュアル

17.3　機能異常の確認

CPU ユニットの機能が正しく動作しない場合は，下記の項目から該当するものを確認して，トラブルシューティングを行ってください。なお，ERR. LED，I/O ERR. LED が点灯または点滅している場合は，表示ユニットまたはプログラミングツールでエラー要因を取り除いてください。（☞ 117 ページ 17.2 節）

機能	異常状態	参照先
PC 書込	PC 書込ができない	☞ 123 ページ 17.3.1 項 (1)
PC 読出	PC 読出ができない	☞ 123 ページ 17.3.1 項 (2)
ブート運転	メモリカードからブート運転ができない	☞ 123 ページ 17.3.2 項
Ethernet 通信	直結接続ができない	☞ 124 ページ 17.3.3 項 (1)
	直結接続以外の方法で Ethernet 通信ができない	☞ 125 ページ 17.3.3 項 (2)
	相手機器と Ethernet 通信できない	☞ 125 ページ 17.3.3 項 (3)
ソケット通信機能	相手側が受信できない	☞ 131 ページ 17.3.6 項 (1)
	データが受信できない	☞ 131 ページ 17.3.6 項 (2)
	オープン完了にならない	☞ 131 ページ 17.3.6 項 (3)
汎用入出力機能	入力信号が ON しない	☞ 135 ページ 17.3.9 項 (1)
	OUT LED が ON しない	☞ 135 ページ 17.3.9 項 (2)
	入力信号が OFF しない	☞ 145 ページ 17.4.1 項
	ノイズにより誤入力する	
	電源遮断時に一瞬出力負荷が ON する	☞ 147 ページ 17.4.2 項
割込み入力機能	割込みが発生しない	☞ 135 ページ 17.3.10 項
パルスキャッチ機能	パルスを検出できない	☞ 136 ページ 17.3.11 項
位置決め機能	モータが回転しない	☞ 136 ページ 17.3.12 項
高速カウンタ機能（通常モード）	カウントを開始しない	☞ 137 ページ 17.3.13 項 (1)
	正常にカウントできない	☞ 137 ページ 17.3.13 項 (2)
	プリセットができない	☞ 137 ページ 17.3.13 項 (3)
	カウンタ値一致 No.n 信号が ON しない	☞ 138 ページ 17.3.13 項 (4)
	カウンタ値一致 No.n 信号が OFF しない	☞ 138 ページ 17.3.13 項 (5)
	カウンタ値一致 No.n 信号が ON しているが，一致出力 No. 端子のみ ON しない	☞ 138 ページ 17.3.13 項 (6)
	一致検出割込みが発生しない	☞ 139 ページ 17.3.13 項 (7)
	カウンタ選択機能を開始できない	☞ 139 ページ 17.3.13 項 (8)
	ラッチカウンタ入力端子からラッチカウンタ機能を実行できない	☞ 139 ページ 17.3.13 項 (9)
高速カウンタ機能（周波数測定モード）	周波数の測定を開始しない	☞ 140 ページ 17.3.13 項 (10)
	周波数を正常に測定できない	☞ 140 ページ 17.3.13 項 (11)
高速カウンタ機能（回転速度測定モード）	回転速度の測定を開始しない	☞ 140 ページ 17.3.13 項 (12)
	回転速度を正常に測定できない	☞ 141 ページ 17.3.13 項 (13)
高速カウンタ機能（パルス測定モード）	パルスの測定を開始しない	☞ 141 ページ 17.3.13 項 (14)
	パルスを正常に測定できない	☞ 141 ページ 17.3.13 項 (15)
高速カウンタ機能（PWM 出力モード）	正常に PWM 出力できない	☞ 141 ページ 17.3.13 項 (16)
表示ユニット	表示ユニットが異常な動作をした	☞ 142 ページ 17.3.14 項
外部機器との交信	外部機器との交信が完了するまでに時間がかかる	☞ 142 ページ 17.3.15 項

機能	異常状態	参照先
CPU ユニット動作状態	CPU ユニット動作状態が切り替わるまでに時間がかかる	☞ 143 ページ 17.3.16 項
ERR 端子付 END カバー	運転中に $\overline{\text{ERR.}}$ 端子が OFF（開放）した	☞ 143 ページ 17.3.17 項
増設システム	増設ブロックの入出力信号が ON/OFF しない	☞ 143 ページ 17.3.18 項
スペースユニット	ユニットが常時認識されない	☞ 144 ページ 17.3.19 項 (1)
	システムが稼動中にユニットが認識されなくなる	☞ 144 ページ 17.3.19 項 (2)
	ユニットの割付にずれが生じる	☞ 144 ページ 17.3.19 項 (3)

17.3.1　PC 書込，PC 読出

(1) PC 書込

プログラミングツールから CPU ユニットにデータが書き込めない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
パスワードが登録されている	プログラミングツールでパスワード登録を解除してください。
書込み対象を SD メモリカードとしている状態で，SD メモリカードにライトプロテクトがかかっている	SD メモリカードのライトプロテクトを解除してください。（☞ 101 ページ 14.1 節）
書込み対象を SD メモリカードとしている状態で，SD メモリカードがフォーマットされていない	SD メモリカードのフォーマットを行ってください。
書き込むデータがメモリの容量を超えている	• メモリの空き容量を確保してください。 • 書込み対象のメモリを整理してください。

上記の項目を確認しても PC 書込ができなかった場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(2) PC 読出

CPU ユニットからプログラミングツールにデータが読み出せない場合は，読出し対象メモリの指定を確認してください。
読出し対象メモリの確認後，CPU ユニットを一度リセットして，再度 PC 読出を行ってください。

読み出せなかった場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

17.3.2　ブート運転

SD メモリカードからブート運転ができない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
CPU ユニットでエラーが発生している	エラー要因を取り除いてください。（☞ 117 ページ 17.2 節）
パラメータのブートファイル設定でファイルが設定されていない	パラメータでファイルを設定してください。
パラメータのプログラム設定でファイルが設定されていない	
SD メモリカードに運転するファイルが格納されていない	運転するファイルを格納してください。

上記の項目を確認してもブート運転ができなかった場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

17.3.3 Ethernet 通信

(1) 直結接続ができない

プログラミングツールと直結接続で Ethernet 通信できない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
CPU ユニットとプログラミングツールがケーブル 1 本で直結接続されていない	CPU ユニットとプログラミングツールをケーブル 1 本で直結接続してください。*1
接続機器（パソコン）の設定が誤っている • Ethernet ポートの設定 • ファイアウォール設定 • セキュリティソフトの交信設定	接続機器の設定を見直してください。
プログラミングツールの接続先設定でシーケンサ側（PC 側）I/F CPU ユニット設定が “Ethernet ポート直結接続 ” を選択していない	接続先設定を見直してください。
USB 接続に切り換えて，パラメータを読み出したとき，内蔵 Ethernet ポート設定で “MELSOFT との直結接続を禁止する ” にチェックが入っている	パラメータを修正してください。
Ethernet 診断画面のコネクション別状態で，MELSOFT の直結接続が強制無効化状態になっている	強制無効を解除してください。
Ethernet 診断画面のエラー履歴で，直結接続のエラーが出ている	エラーコードに対応した対処を行ってください。 (☞ 248 ページ 付 1.11)
接続先指定の自局詳細設定で交信のタイムチェックを延ばす，またはリトライ回数を増やすと交信できた	• 交信のタイムチェック，リトライ回数を再調節してください。 • ケーブル，接続機器（パソコン），CPU ユニットの状態を確認してください。
接続機器（パソコン）が直結接続可能な仕様ではない	ハブ経由接続にて通信を行ってください。

上記の項目を確認しても Ethernet 通信できなかった場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

＊1 パソコン側のネットワーク接続において，Ethernet ポートが 2 つ以上「有効」になっている場合，直結接続で交信できません。直結接続を行う Ethernet ポートのみ「有効」にして，残りの Ethernet ポートは「無効」になるように，パソコン側の設定を見直してください。

(2) 直結接続以外の方法で Ethernet 通信ができない

プログラミングツールと直結接続以外で Ethernet 通信できない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
IP アドレスが重複している	• 接続 CPU 検索機能を使用して重複している IP アドレスを確認し，IP アドレスを修正してください。 • プログラミングツール（パソコン）の IP アドレスを，CPU ユニットと重複しないように修正してください。 • 接続機器を回線から切り離し，切り離した接続機器の IP アドレスで PING を行ってください。応答があった場合は，IP アドレスが重複しているため修正してください。
プロトコルの指定が誤っている	接続先設定を修正してください。
Ethernet 直結接続を選択している	
IP アドレス，ホスト名の指定が誤っている	

上記の項目を確認しても Ethernet 通信できなかった場合は，相手機器が原因の可能性があります。
125 ページ 17.3.3 項 (3) の確認項目を確認してください。

(3) 相手機器と Ethernet 通信できない

相手機器と Ethernet 通信できない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
ハブでエラーが発生している	ハブのエラーを取り除いてください。*1
接続機器（パソコン）の設定が誤っている • IP アドレスの設定 • Ethernet ポートの設定 • ファイアウォール設定 • セキュリティソフトの交信設定	接続機器の設定を見直してください。
IP アドレスが重複している	• 接続機器の IP アドレスを，CPU ユニットと重複しないように修正してください。 • 接続機器を回線から切り離し，切り離した接続機器の IP アドレスで PING を行ってください。応答があった場合は，IP アドレスが重複しているため修正してください。
通信時に CPU ユニットの SD/RD LED が点滅していない	配線を再確認してください。
電源を再投入したとき，ERR. LED が点灯または点滅した	エラー要因を取り除いてください。（☞ 117 ページ 17.2 節）
USB 接続に切換えて，パラメータを読み出したとき，内蔵 Ethernet ポート設定が誤っている	パラメータを修正してください。
Ethernet 診断画面のコネクション別状態で，MELSOFT の直結接続が強制無効化状態になっている	強制無効を解除してください。
Ethernet 診断画面のエラー履歴で，直結接続のエラーが出ている	エラーコードに対応した対処を行ってください。（☞ 248 ページ 付 1.11）
接続機器（パソコン）からの接続数が，オープン設定の “MELSOFT 接続 ” の数を超えている（TCP および UDP それぞれの接続数）	接続機器（パソコン）の接続数を，オープン設定の数以内にしてください。
TCP/IP 接続をしている状態で，機器の電源を OFF したことがある	TCP/IP のコネクションが使われたままになっています。下記の対応を行ってください。 • 1 分程度待ち，CPU ユニットの生存確認機能によるクローズが行われてからリトライする。 • コネクションの設定数を増やして，必要な分の予備のコネクションを持つようにする。

確認項目	処置方法
接続先指定の自局詳細設定で交信のタイムチェックを延ばす，またはリトライ回数を増やすと交信できた	• 交信のタイムチェック，リトライ回数を再調節してください。 • ケーブル，接続機器（パソコン），CPU ユニットの状態を確認してください。
CPU ユニット側および相手機器側の下記の設定が誤っている • ネットワークアドレス • デフォルトルータ IP アドレス • サブネットマスクパターン • ルータ IP アドレス • サブネットマスク	設定を見直してください。
ルータを経由する場合で，ルータでエラーが発生している	ルータのエラーを取り除いてください。
ルータを経由する場合で，ルータの設定が誤っている	ルータの設定を見直してください。
CPU ユニット，接続機器（パソコン），ハブ，ルータなど，回線上の機器を交換した（同じ IP アドレスの機器に交換した場合）	回線上の機器をリセットしてください。＊2
ハブ，ルータを他のものに交換すると交信できた	ハブ，ルータの異常が考えられます。 ハブ，ルータを交換してください。

上記の項目を確認しても Ethernet 通信できなかった場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

＊1　スイッチングハブにパソコンや CPU ユニットを接続しなおした場合や，スイッチングハブを交換した場合は，MAC アドレスの読み込みに時間がかかる場合があります。
その場合は，時間を置いてリトライするか，ハブの電源を再投入してください。また，ソケット通信機能により UDP のダミー電文を送信すると，スイッチングハブが MAC アドレスを再学習することがあります。

＊2　Ethernet 上の機器は，「ARP キャッシュ」という IP アドレスと MAC アドレスの対応表を保持しています。
回線上の機器を同じ IP アドレスの機器に交換すると，「ARP キャッシュ」に保持されている MAC アドレスと，交換した機器の MAC アドレスが不一致になるため，正常に交信できなくなる場合があります。
「ARP キャッシュ」の更新は，機器のリセットまたは一定時間が経過すると実施されます。なお，時間は機器によって異なります。

(4) 通信が遅いまたは不安定

通信が遅いまたは不安定な場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
IP アドレスが重複している	重複している IP アドレスを修正してください。重複している IP アドレスは，下記で確認できます。 ・接続 CPU 検索機能を使用して重複している IP アドレスを確認する。 ・接続機器を回線から切り離し，切り離した接続機器の IP アドレスで PING を行う。応答があった場合は，IP アドレスが重複している。
UDP の接続数が，オープン設定の “UDP” に設定した数を超えている（MELSOFT 接続および MC プロトコルそれぞれの接続数）	UDP の接続数を，オープン設定の数以内にしてください。
UDP で交信している	TCP で交信してください。
通信のリトライをしていない	リトライしてください。 また，リトライ回数を増やしてください。
ハブ，ルータ，ケーブルに異常がある	ハブ，ルータ，ケーブルを交換してください。
CPU ユニット以外の機器も通信が不安定になっている	・ノイズ対策を実施してください。 ・回線のトラフィック量を確認し，トラフィックが原因で不安定になっている場合は，トラフィック量を減らしてください。
不要なブロードキャストの受信が多い（ブロードキャストのデータ量は，Ethernet 診断の “ 回線状態 ” で確認可能）	PC パラメータの “ サービス処理設定 ” で，サービス処理時間を増やし，CPU ユニットの Ethernet 通信による負荷を減らしてください。
	回線上のブロードキャストのデータ量を減らしてください。 ・ブロードキャストを送信している機器を確認し，ブロードキャストのデータ量を抑える。（パソコン，ルータなど） ・ルータなどでブロードキャストをフィルタリングし，CPU ユニットが受けないようにする。 ・ブロードキャストの多いネットワークと，CPU ユニットのネットワークを分離する。
CPU ユニットの Ethernet 通信の負荷が高い	・PC パラメータの “ サービス処理設定 ” で，サービス処理時間を増やしてください。 ・接続機器の数を減らしてください。 ・コネクションあたりの交信頻度，およびデータ量を減らしてください。
割込みプログラムを使用している	割込みプログラムの頻度，および処理時間を減らしてください。

17.3.4 RS-232,RS-422/485 通信

相手機器と通信ができない場合は，下記の項目を確認してください。

(1) RS-232 で通信ができない

(a) 相手機器からの伝文を CPU ユニットが受信できない場合

確認項目	処置方法
信号線の接続が間違っている	信号線を正しく接続してください。
RS-232 ⇔ RS-422 変換器で中継時，変換機の設定または配線が誤っている	変換器の仕様を確認して，再設定または配線してください。
PC パラメータの “アダプタシリアル設定” または “内蔵シリアル設定” の “機能選択” が間違っている	“機能選択” を修正してください。
伝文の送信 1 バイト目が，設定したプロトコルに必要なデータになっていない	各プロトコルに合った伝文を相手機器から送信するようにしてください。
MC プロトコル交信している場合，伝文の局番指定が誤っている	伝文の局番指定を 0 にしてください。

上記の項目を確認しても相手機器からの伝文を CPU ユニットが受信ができなかった場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(b) CPU ユニットからの伝文を相手機器が受信できない場合

確認項目	処置方法
信号線の接続が間違っている	信号線を正しく接続してください。
RS-232 ⇔ RS-422 変換器で中継時，変換機の設定または配線が誤っている	変換器の仕様を確認して，再設定または配線してください。
PC パラメータの “アダプタシリアル設定” または “内蔵シリアル設定” の “機能選択” が間違っている	“機能選択” を修正してください。
伝文の送信 1 バイト目が設定したプロトコルに必要なデータになっていない	各プロトコルに合った伝文を CPU ユニットから送信するようにしてください。

上記の項目を確認しても CPU ユニットからの伝文を相手機器が受信ができなかった場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(c) 通信が遅いまたは不安定な場合

確認項目	処置方法
信号ケーブルの配線が，接続不良となっている。	ケーブルを交換または，接続箇所を確実に固定してください。
相手機器が受信可能状態になる前に，送信を開始している。	相手機器の設定に合わせて，受信完了から送信開始までのディレイ時間を長くしてください。

上記の項目を確認しても通信が遅い，または不安定な場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(2) RS-422/485 で通信ができない

(a) 相手機器からの伝文を CPU ユニットが受信できない場合

確認項目		処置方法
RD LED が点滅または点灯しない	信号線の接続が間違っている	信号線を正しく接続してください。
	RS-232 ⇔ RS-422 変換器で中継時，変換機の設定・配線が誤っている	変換器の仕様を確認して，再設定または配線してください。
	端子台とアダプタの接続が十分ではない	端子台を奥までしっかりと挿入し，ネジ止めをしてください。
RD LED が点滅または点灯する	PC パラメータの “ アダプタシリアル設定 ” の “ 機能選択 ” が間違っている	“ 機能選択 ” を修正してください。
	伝文の送信 1 バイト目が設定したプロトコルに必要なデータになっていない	各プロトコルに合った伝文を相手機器から送信するようにしてください。
	MC プロトコル交信している場合，伝文の局番指定が誤っている	伝文の局番指定を CPU ユニットの局番設定と同一にしてください。

上記の項目を確認しても相手機器からの伝文を CPU ユニットが受信ができなかった場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(b) CPU ユニットからの伝文を相手機器が受信できない場合

確認項目		処置方法
SD LED が点滅または点灯しない	信号線の接続が間違っている	信号線を正しく接続してください。
	RS-232 ⇔ RS-422 変換器で中継時，変換機の設定・配線が誤っている	変換器の仕様を確認して，再設定または配線してください。
	端子台とアダプタの接続が十分ではない	端子台を奥までしっかりと挿入し，ネジ止めをしてください。
	PC パラメータの “ アダプタシリアル設定 ” の “ 機能選択 ” が間違っている	“ 機能選択 ” を修正してください。
SD LED が点滅または点灯する	伝文の送信 1 バイト目が設定したプロトコルに必要なデータになっていない	各プロトコルに合った伝文を相手機器から送信するようにしてください。
SD LED と RD LED が同時点滅する	CPU ユニットから伝文を送信できない	RS-422/485 アダプタのディップスイッチ設定と，PC パラメータの “ アダプタシリアル設定 ” が，一致しているか確認し，一致していなければ一致するように変更してください。

上記の項目を確認しても CPU ユニットからの伝文を相手機器が受信ができなかった場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(c) 通信が遅いまたは不安定な場合

確認項目	処置方法
信号ケーブルの配線が，接続不良となっている。	ケーブルを交換または，接続箇所を確実に固定してください。
相手機器が受信可能状態になる前に，送信を開始している。	相手機器の設定に合わせて，受信完了から送信開始までのディレイ時間を長くしてください。
2 線接続のとき，送信したデータを折り返し受信している。	“ エコーバック禁止 ” に設定してください。

上記の項目を確認しても通信が遅い，または不安定な場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

17.3.5 通信プロトコル機能

(1) データ交信ができない

通信プロトコル機能によるデータ交信ができない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
該当コネクションがオープンしていない（内蔵 Ethernet の場合）	相手機器とのコネクションのオープン処理を行ってください。
PC パラメータの “ 内蔵 Ethernet ポート設定 ” の “ オープン設定 ” において，オープン方式が “ 通信プロトコル ” になっていない（内蔵 Ethernet の場合）	オープン方式を “ 通信プロトコル ” に設定してください。
PC パラメータの “ 内蔵シリアル設定 ” または “ アダプタシリアル設定 ” の “ 機能選択 ” が，“ 通信プロトコル ” になっていない（RS-232 または RS-422/485 の場合）	“ 機能選択 ” を “ 通信プロトコル ” に設定してください。
通信プロトコル準備完了が ON（準備完了）にならない（内蔵 Ethernet は SM1354，RS-232 および RS-422/485 は SM1332）	プロトコル設定を書込み後，電源 ON，リセットまたはプロトコル設定チェックを行ってください。
通信プロトコルの実行命令が異常完了した	通信プロトコルの実行命令の完了ステータスエリアの実行結果を確認し，エラーの原因を解消してください。
通信プロトコルの実行命令のコントロールデータ内で実行プロトコル番号を指定していない，または指定したプロトコル番号が範囲外である	通信プロトコルの実行命令のコントロールデータ内に実行プロトコル番号を指定してください。
相手機器の交信状態が異常である	相手機器の異常箇所を修正してください。

(2) プロトコル設定の読出し／書込みができない

プロトコル設定の読出し／書込みができない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
（読出し時） プロトコル設定データの読出しが行えない	対象ドライブにプロトコル設定が書き込まれているか確認してください。 プロトコル設定データ異常情報*1 の値が 0，プロトコル登録数*2 が 0（登録なし）の場合，プロトコル設定が対象ドライブに書き込まれていません。
（書込み時） プロトコル設定を CPU ユニットに書込み，電源 ON 時，リセット時またはプロトコル設定チェック時にプロトコル設定データ異常（エラーコード）が発生する	書き込んだプロトコル設定に誤りがないか確認してください。 プロトコル設定データ異常情報*1 を確認し，プロトコル設定データの異常を検出した箇所（プロトコル番号，パケット番号，構成要素番号）のプロトコルを修正してください。修正後，再度プロトコル設定を書き込んでください。

＊1　内蔵 Ethernet は SD1359 ～ SD1362，RS-232 および RS-422/485 は SD1337 ～ SD1340
＊2　内蔵 Ethernet は SD1363，RS-232 および RS-422/485 は SD1341

上記の項目を確認しても交信ができなかった場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

17.3.6　ソケット通信機能

ソケット通信機能の詳細については下記のマニュアルを参照してください。
MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（内蔵 Ethernet 機能編）

(1) 相手側が受信できない

相手機器にデータが届かない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
該当コネクションがオープン完了してない（SD1282 の該当ビットを確認）	該当コネクションをオープン完了させてください。
Ethernet 診断でエラーが出ている	エラー要因を取り除いてください。
パラメータ，および SOCOPEN 時の設定データが間違っている	パラメータ，および設定データを修正してください。
SOCSND 命令が実行されていない（起動接点，および異常完了デバイスを確認）	実行条件の修正，または SOCSND 命令の完了ステータスにあるエラーコードのエラー要因を取り除いてください。
相手機器に異常がある	相手機器の異常箇所を修正してください。

(2) データが受信できない

相手機器からデータを受信できない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
該当コネクションがオープン完了していない（SD1282 の該当ビットを確認）	該当コネクションをオープン完了させてください。
Ethernet 診断でエラーが出ている	エラー要因を取り除いてください。
パラメータ，および SOCOPEN 時の設定データが間違っている	パラメータ，および設定データを修正してください。
SOCRCV 命令が実行されていない（起動接点，および異常完了デバイスを確認）	実行条件の修正，または SOCOPEN 命令の完了ステータスにあるエラーコードのエラー要因を取り除いてください。
相手機器に異常がある	相手機器の異常箇所を修正してください。

(3) オープン完了にならない

オープン完了とならない場合は，下記の項目を確認してください。

(a) Passive オープンの場合

確認項目	処置方法
パラメータが間違っている	パラメータを修正してください。
相手機器に異常がある	相手機器の異常箇所を修正してください。

(b) Active オープンの場合

確認項目	処置方法
Ethernet 診断でエラーが出ている	エラー要因を取り除いてください。
パラメータ，および SOCOPEN 時の設定データが間違っている	パラメータ，および設定データを修正してください。
SOCRCV 命令が実行されていない（起動接点，および異常完了デバイスを確認）	実行条件の修正，または SOCRCV 命令の完了ステータスにあるエラーコードのエラー要因を取り除いてください。
相手機器に異常がある	相手機器の異常箇所を修正してください。

17.3.7 シンプル CPU 通信機能

シンプル CPU 通信機能の詳細については下記のマニュアルを参照してください。
MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（内蔵 Ethernet 機能編）

(1) 交信相手と通信できない

交信相手と指定したデバイスデータの送受信ができない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
シンプル CPU 通信状態診断，Ethernet 診断（シンプル CPU 通信状態）でエラーが出ている	エラー要因を取り除いてください。
シンプル CPU 通信状態診断のステータスが「準備中」の状態から変化しない	CPU ユニットとハブとの間のケーブルの状態，およびハブが正常に動作しているかを確認ください。
シンプル CPU 通信設定の変更後，CPU ユニットの電源 OFF → ON またはリセット操作を行っていない	設定を書き込んだ CPU ユニットの電源 OFF → ON またはリセット操作を行ってください。
同じ交信相手と通信する他のシンプル CPU 通信設定で通信リトライが発生している	他のシンプル CPU 通信設定の通信リトライが終わるのを待ってください。（複数の設定で同じ交信相手と通信する場合は，1 つの設定が通信リトライ中はその他の設定の通信は行わないでください。）
通信リトライ回数，通信タイムアウト時間を増やすと通信できた	• 通信リトライ回数，通信タイムアウト時間を再調節してください。 • ケーブル，ハブ，ルータなど相手機器との Ethernet 通信の回線状況を確認し，回線が混み合っていないかを確認してください。

上記の項目を確認しても交信できなかった場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(2) 交信相手との通信が不安定

交信相手との通信が不安定な場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
シンプル CPU 通信状態診断，Ethernet 診断（シンプル CPU 通信状態）でエラーが出ている	エラー要因を取り除いてください。
通信リトライが発生している	ケーブル，ハブ，ルータなど相手機器との Ethernet 通信の回線状況を確認し，回線が混み合っていないかを確認してください。

(3) 設定した実行間隔で交信できない

設定した実行間隔で交信できない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
シンプル CPU 通信設定を設定した CPU ユニットおよび交信相手の CPU ユニットのスキャンタイムが長い	プログラムに COM 命令を使用してください。COM 命令の詳細については，下記マニュアルを参照してください。 MELSEC-Q/L プログラミングマニュアル（共通命令編）
シンプル CPU 通信設定で同じ交信相手に対する設定が多い	同じ交信相手に対する設定数を減らしてください。（複数の設定をできる限りまとめてください。）
シンプル CPU 通信設定を設定した CPU ユニットおよび交信相手の CPU ユニットが，シンプル CPU 通信機能以外の交信を行っている場合，その交信処理にかかる時間が長い	• サービス処理の回数や時間を増やしてください。*1 • 通信処理確保時間（SM315/SD315）を増やしてください。*2 • 1 回の一般データ処理で処理するユニット数を増やしてください。*3
Ethernet 通信の負荷が高い	ケーブル，ハブ，ルータなど相手機器との Ethernet 通信の回線状況を確認し，負荷の削減や通信品質の改善を行ってください。
Ethernet 通信の通信品質が低い	

＊1　LCPU，ユニバーサルモデル QCPU が対象です。
＊2　ベーシックモデル QCPU，ハイパフォーマンスモデル QCPU，プロセス CPU，二重化 CPU が対象です。
＊3　QnACPU が対象です。

17.3.8 シリアルコミュニケーション機能

CPU ユニットの RS-232 インタフェース，RS-232 アダプタ，または RS-422/485 アダプタで MC プロトコルによる交信ができない場合は，下記の項目を確認してください。

(1) 相手機器に応答伝文が返信されている場合

確認項目	処置方法
応答伝文の終了コードが 0 ではない	終了コード，異常コードを確認し，異常箇所を修復してください。
コマンドの局番が正しくない	局番を修正して再度コマンドを送信してください。
コマンド種別 , デバイス指定 , アドレス指定などコマンドフォーマットの指定が間違っている	下記のマニュアルを参照し，伝文を修正してください。 MELSEC-Q/L MELSEC コミュニケーションプロトコルリファレンスマニュアル

上記の項目を確認しても交信ができない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(2) 相手機器に応答伝文が返信されていない場合

確認項目	処置方法
相手機器からコマンドを送信していない	相手機器から CPU ユニットに対してコマンドを送信してください。
相手機器と通信速度が一致していない	相手機器と通信速度を一致させてください。
相手機器とデータビット長が一致していない	データビット長を修正して再度コマンドを送信してください。
相手機器とパリティビットの有無が一致していない	パリティビットの有無を修正して再度コマンドを送信してください。
相手機器とストップビット長が一致していない	ストップビット長を修正して再度コマンドを送信してください。
相手機器とサムチェックの有無が一致していない	サムチェックの有無を修正して再度コマンドを送信してください。
コマンドの局番指定が正しくない	局番を修正して再度コマンドを送信してください。
交信データコード設定（バイナリ／ ASCII）と送信したコマンドが一致していない	交信データコード設定に合ったコマンドを送信してください。
コマンド種別 , デバイス指定 , アドレス指定などコマンドフォーマットの指定が間違っている	下記のマニュアルを参照し，伝文を修正してください。 MELSEC-Q/L MELSEC コミュニケーションプロトコルリファレンスマニュアル
複数の相手機器から同時に要求を送信している	複数の相手機器から同時に要求を送信しないようにしてください。

上記の項目を確認しても交信ができない場合は，下記のトラブルシューティングを行ってください。
☞ 128 ページ 17.3.4 項

17.3.9　汎用入出力機能

(1) 入力信号が ON しない

入力信号が ON にならない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
対象の入力信号は，汎用入力機能に設定されていない	パラメータを修正してください。
入力と COM 間の電圧に入力 ON 電圧以上の電圧がない	外部機器との配線をチェックして，正しい配線にしてください。

上記の項目を確認しても入力信号が ON しなかった場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(2) OUT LED が ON しない

OUT LED が ON しない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
対象の出力信号が，汎用出力機能に設定されていない	パラメータを修正してください。
プログラミングツールのモニタで，対象デバイス (Y) が ON していない	プログラムを修正してください。
出力番号が間違っている	出力番号を修正する。
CPU ユニットを STOP 状態にして，プログラミングツールから強制出力したとき，出力対象の OUT LED が ON する	プログラムを修正してください。

上記の項目を確認しても OUT LED が ON しなかった場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

17.3.10　割込み入力機能

割込みプログラムが動作しない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
対象の入力信号は，割込み入力機能に設定されていない	パラメータを修正してください。
入力と COM 間の電圧に入力 ON 電圧以上の電圧がない	外部機器との配線をチェックして，正しい配線にしてください。
割込みポインタ (I) の番号が間違っている	プログラムを修正してください。
EI 命令を実行していない	
IMASK 命令で該当の割込みプログラムを実行禁止状態にしている	

上記の項目を確認しても割込みプログラムが動作しない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

17.3.11 パルスキャッチ機能

パルスを検出できない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
対象の入力信号が，パルスキャッチ機能に設定されていない	パラメータを修正してください。
入力と COM 間の電圧に入力 ON 電圧以上の電圧がない	外部機器との配線をチェックして，正しい配線にしてください。
入力応答時間の設定が適切ではない	入力応答時間をパルス幅より短い時間に設定してください。
検出可能なパルスを入力していない	パルス幅が最小入力応答時間より短い場合，そのパルス信号は検出されません。 検出できるようにパルス幅を長くするか，高速カウンタ機能を使用してください。

上記の項目を確認してもパルスを検出できない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

17.3.12 位置決め機能

本項の確認項目および処置方法については軸 1 の場合で記載しています。
その他のチャンネルで使用する特殊リレー，特殊レジスタについては下記を参照してください。

- 特殊リレー :☞281 ページ 付 2
- 特殊レジスタ :☞323 ページ 付 3

モータが回転しない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
対象の出力信号が，位置決め機能に設定されていない	パラメータを修正してください。
軸 1 軸動作状態（SD1844）が停止中 (1) になっている	停止プログラムを見直してください。
位置決め実行で軸 1 送り現在値 (SD1840，SD1841) が変化しない	起動プログラムを見直してください。
パルス出力モードの設定がドライブユニットと合っていない	パルス出力モードの設定をドライブユニットの仕様に合わせてください。
パルス出力論理がドライブユニットと合っていない	ドライブユニットの設定を負論理にしてください。

上記の項目を確認してもモータが動作しない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

17.3.13　高速カウンタ機能

本項の確認項目および処置方法については CH1 の場合で記載しています。
その他のチャンネルで使用する特殊リレー，特殊レジスタについては下記を参照してください。

- 特殊リレー :☞ 281 ページ 付 2
- 特殊レジスタ :☞ 323 ページ 付 3

(1) カウントを開始しない

通常モードにてカウントを開始しない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
パルス入力端子に電圧を印加して該当する入力表示の LED が点灯しない	ハードウェア異常の恐れがあります。最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。
カウントイネーブル指令が ON していない	カウントイネーブル指令を ON にしてください。
パルスの入力方法とパルス入力モードが異なる	パラメータを修正してください。
計数速度設定以下のパルスを入力していない	計数速度設定以下のパルスを入力してください。

上記の項目を確認してもカウントを開始しない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(2) 正常にカウントできない

通常モードにて正常にカウントできない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
入力パルス波形が性能仕様を満足していない	性能仕様を満足したパルスを入力してください。
パルスの入力配線にシールド付ツイストペアケーブル使用していない	パルスの入力配線をシールド付ツイストペアケーブルにしてください。
盤内，隣接機器にノイズ対策がされていない	ノイズ対策を施してください。
強電機器とパルス入力線の距離が十分ではない	パルス入力線は単独配管にして，盤内配線でも電力線とは 100mm 以上離してください。
リングカウンタの場合，カウント範囲外にプリセットしている	リングカウンタのカウント範囲内にプリセットしてください。
計数速度設定以下のパルスを入力していない	計数速度設定以下のパルスを入力するようにしてください。

上記の項目を確認しても正常にカウントできない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(3) プリセットができない

通常モードにてプリセットができない場合は，下記の項目を確認してください。

(a) 一致出力時プリセット機能未使用時

確認項目	処置方法
プリセット指令の ON 時間と OFF 時間，またはプリセット値設定の変更からプリセットするまでの時間が 2ms 未満である	該当する時間に 2ms 以上の間隔を設けるように修正してください。
CH1 外部プリセット（Z 相）要求検出 (SM1886) が ON している	CH1 外部プリセット（Z 相）要求検出リセット指令 (SM1897) により外部プリセット（Z 相）要求検出を OFF してください。

上記の項目を確認してもプリセットができない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(b) 一致出力時プリセット機能使用時

確認項目	処置方法
一致出力時プリセット設定が “ プリセットする ” を選択していない	パラメータを修正してください。
CH1 外部プリセット（Z 相）要求検出 (SM1886) が ON している	CH1 外部プリセット（Z 相）要求検出リセット指令 (SM1897) により外部プリセット（Z 相）要求検出を OFF してください。
CH1 カウンタ値一致 No.1（SM1881）が ON のままとなっている	プリセット実行タイミングの前に，CH1 カウンタ値一致 No.1 を CH1 一致信号 No.1 リセット指令 (SM1890) により OFF してください。

上記の項目を確認しても，プリセットができない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(4) カウンタ値一致 No.n 信号が ON しない

通常モードにて CH1 カウンタ値一致 No.n 信号（SM1881，SM1884）が ON しない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
CH1 一致信号 No.n リセット指令 (SM1890，SM1891) が ON している	一致信号 No.n リセット指令を OFF してください。
リングカウンタの場合，カウント範囲外に一致出力 No.n ポイント設定を設定している	一致出力ポイント書込み命令により，一致出力 No. ポイント設定をカウント範囲内にしてください。

上記の項目を確認しても，カウンタ値一致 No.n 信号が ON しない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(5) カウンタ値一致 No.n 信号が OFF しない

通常モードにて CH1 カウンタ値一致 No.n 信号（SM1881，SM1884）が OFF しない場合は，CH1 一致信号 No.n リセット指令（SM1890，SM1891）の ON 時間を確認してください。
CH1 一致信号 No.n リセット指令の ON 時間が 2ms 以上で，カウンタ値一致 No.n 信号が OFF しない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(6) カウンタ値一致 No.n 信号は ON しているが，一致出力信号 No.n のみが ON しない

通常モードにて CH1 カウンタ値一致 No.n 信号（SM1881，SM1884）は ON しているが，一致出力信号 No.n のみが ON しない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
出力信号機能選択で “ カウンター致出力 No.n” を選択していない	パラメータを修正してください。
一致出力イネーブル指令 (SM1892) が ON していない	一致出力イネーブル指令を ON してください。

上記の項目を確認しても，一致出力信号 No.n のみが ON しない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(7) 一致検出割込みが発生しない

通常モードにて一致検出割込みが発生しない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
一致検出割込み設定で “ 使用する ” を選択していない	パラメータを修正してください。
プログラム実行制御命令の使用方法が間違っている	プログラムを修正してください。
CH1 カウンタ値一致 No.n(SM1881，SM1884) が ON のままになっている	プリセット実行タイミングの前に，CH1 カウンタ値一致 No.n を一致信号 No.n リセット指令 (SM1890，SM1891) により OFF してください。

上記の項目を確認しても，一致検出割込みが発生しない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(8) カウンタ選択機能を開始できない

通常モードにてカウンタ選択機能が開始できない場合は，下記の項目を確認してください。

(a) カウンタ機能選択開始指令使用時

確認項目	処置方法
CH1 カウンタ機能選択開始指令 (SM1896) を使用するカウンタ選択機能ではない	ファンクション入力端子からカウンタ選択機能を開始してください。
CH1 カウンタ機能選択開始指令の立上がり時に動作する機能の場合，CH1 カウンタ選択開始指令の ON 時間，OFF 時間が 2ms 未満である	カウンタ機能選択開始指令の ON 時間，OFF 時間を 2ms 以上にしてください。
ファンクション入力端子が ON している	ファンクション入力端子を OFF にしてください。

上記の項目を確認しても，カウンタ選択機能が開始できない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(b) ファンクション入力端子使用時

確認項目	処置方法
入力信号機能選択で “ ファンクション入力 ” を選択していない	パラメータを修正してください。
CH1 カウンタ機能選択開始指令 (SM1896) が ON になっている	カウンタ機能選択開始指令を OFF にしてください。

上記の項目を確認しても，カウンタ選択機能が開始できない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(9) ラッチカウンタ入力端子からラッチカウンタ機能を実行できない

通常モードにてラッチカウンタ入力端子 (LATCHn) からラッチカウンタ機能を実行できない場合，パラメータの入力信号機能選択で “ ラッチカウンタ入力 ” を選択しているか確認してください。
入力信号機能選択が “ ラッチカウンタ入力 ” でもラッチカウンタ機能が開始できない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(10)周波数測定を開始しない

周波数測定モードにて周波数測定を開始しない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
パルス入力端子に電圧を印加して該当する入力表示の LED が点灯しない	ハードウェア異常の恐れがあります。最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。
CH1 周波数測定中フラグ（SD1882 の b4）が 1（測定中）になっていない	周波数測定命令を実行してください。
設定したパルス入力モードと，実際のパルス入力方法が異なっている	パラメータを修正してください。
計数速度設定以下のパルスを入力していない	計数速度設定以下のパルスを入力するようにしてください。

上記の項目を確認しても，周波数測定を開始しない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(11)周波数を正常に測定できない

周波数測定モードにて周波数を正常に測定できない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
入力パルス波形が性能仕様を満足していない	性能仕様を満足したパルスを入力してください。
パルスの入力配線にシールド付ツイストペアケーブルを使用していない	パルスの入力配線をシールド付ツイストペアケーブルにしてください。
盤内，隣接機器にノイズ対策がされていない	ノイズ対策を施してください。
強電機器とパルス入力線の距離が十分ではない	パルス入力線は単独配管にして，盤内配線でも電力線とは 100mm 以上離してください。
計数速度設定以下のパルスを入力していない	計数速度設定以下のパルスを入力するようにしてください。

上記の項目を確認しても，周波数を正常に測定できない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(12)回転速度の測定を開始しない

回転速度測定モードにて回転速度の測定を開始しない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
パルス入力端子に電圧を印加しても該当する入力表示の LED が点灯しない	ハードウェア異常の恐れがあります。最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。
CH1 回転速度測定中フラグ（SD1882 の b5）が測定中 (1) になっていない	回転速度測定命令を実行してください。
設定したパルス入力モードと，実際のパルス入力方法が異なっている	パラメータを修正してください。
計数速度設定以下のパルスを入力していない	計数速度設定以下のパルスを入力するようにしてください。

上記の項目を確認しても，回転速度の測定を開始しない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(13)回転速度を正常に測定できない

回転速度測定モードにて回転速度を正常に測定できない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
入力パルス波形が性能仕様を満足していない	性能仕様を満足したパルスを入力してください。
パルスの入力配線にシールド付ツイストペアケーブルを使用していない	パルスの入力配線をシールド付ツイストペアケーブルにしてください。
盤内，隣接機器にノイズ対策がされていない	ノイズ対策を施してください。
強電機器とパルス入力線の距離が十分ではない	パルス入力線は単独配管にして，盤内配線でも電力線とは 100mm 以上離してください。
計数速度設定以下のパルスを入力していない	計数速度設定以下のパルスを入力するようにしてください。

上記の項目を確認しても，回転速度を正常に測定できない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(14)パルス測定を開始しない

パルス測定モードにてパルス測定を開始しない場合は，CH1 パルス測定開始指令（SM1898）が ON しているか確認してください。
CH1 パルス測定開始指令が ON していても，パルス測定を開始しない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(15)パルスを正常に測定できない

パルス測定モードにてパルスを正常に測定できない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
パルスの入力配線にシールド付ツイストペアケーブルを使用していない	パルスの入力配線をシールド付ツイストペアケーブルにしてください。
盤内，隣接機器にノイズ対策がされていない	ノイズ対策を施してください。
強電機器とパルス入力線の距離が十分ではない	パルス入力線は単独配管にして，盤内配線でも電力線とは 100mm 以上離してください。

上記の項目を確認しても，パルスを正常に測定できない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(16)正常に PWM 出力できない

PWM 出力モードにて正常に PWM 出力できない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
一致出力 No.2 端子に配線している	一致出力 No.1 に配線してください。
一致出力 No.1 に抵抗負荷以外を接続している	出力波形が著しく歪むため，抵抗負荷を接続してください。
PWM 出力の配線にシールド付ツイストペアケーブルを使用していない	PWM 出力の配線をシールド付ツイストペアケーブルにしてください。
盤内，隣接機器にノイズ対策がされていない	ノイズ対策を施してください。
強電機器とパルス出力線の距離が十分ではない	PWM 出力の配線は単独配管にして，盤内配線でも電力線とは 100mm 以上離してください。

上記の項目を確認しても，CPU ユニットの出力回路および接続機器の影響により，設定どおりの出力がされない場合があります。
ただし，出力波形が設定と著しく異なる場合は，ハードウェア異常の恐れもありますので，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

17.3.14 表示ユニット

表示ユニットが異常な動作をした場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
表示ユニットの画面に何も表示されていなかったが，表示ユニットのボタンを押したら画面が表示された	バックライトの点灯時間を経過しました。点灯時間設定を確認してください。
CPU ユニットで “DISPLAY ERROR”（エラーコード：2900，2901，2902）が発生している	一度電源を落として，表示ユニットが正常に接続されているか確認してください。（ MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編））
表示ユニットに “DISPLAY UNIT ERROR” が表示されている	
表示ユニットの言語設定が正しいのに，表示される文字が異なっている，または表示可能な文字以外が表示された	表示ユニットのハードウェア異常の恐れがあります。最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

上記の項目を確認しても表示ユニットの状態が正常にならない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

17.3.15 外部機器からの交信

外部機器からの交信で応答が返ってこない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
対象 CPU に対して複数の外部機器と交信している	• パラメータでサービス処理時間を再調節してください。 • 交信のタイムチェック，リトライ回数を再調節してください。 • ケーブル，接続機器（パソコン），CPU ユニットの状態を確認してください。
データロギング機能を使用している	下記マニュアルのトラブルシューティングを参照してください。 QnUDVCPU/LCPU ユーザーズマニュアル（データロギング機能編）
CPU ユニットの RS-232 インタフェース，RS-232 アダプタ，および RS-422/485 アダプタで相手機器と交信している	• MC プロトコルで交信している場合，伝文ウェイト時間を再調整してください。 • 通信プロトコルで交信している場合，送信待機時間を再調整してください。

上記の項目を確認しても交信できなかった場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

17.3.16　CPU ユニット動作状態

CPU ユニットの動作状態が切り替わるまでに時間がかかる場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
データロギング機能を使用している	下記マニュアルのトラブルシューティングを参照してください。 QnUDVCPU/LCPU ユーザーズマニュアル（データロギング機能編）

上記の項目を確認しても動作状態が切り替わるまでに時間がかかる場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

17.3.17　ERR 端子付 END カバー

電源 ON 時，または運転中に $\overline{\text{ERR.}}$ 端子が OFF（開放）した場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
CPU ユニットの ERR. LED が点滅している	エラーが発生しています。 表示ユニット，またはプログラミングツールでエラーの確認を行ってください。(☞ 117 ページ 17.2 節)
電源が供給されていない	電源を供給してください。
適正な電圧の電源が供給されていない	適正な電圧の電源を供給してください。(☞ 81 ページ 7.2 節)
電源ユニットの POWER LED が消灯している	電源ユニットのトラブルシューティングを行ってください。(☞ 115 ページ 17.1.1 項)

上記の項目を確認しても $\overline{\text{ERR.}}$ 端子が開放してしまう場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

17.3.18　増設システム

増設システムにおいて，増設ブロックの入出力信号が ON/OFF しない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
増設ケーブルが確実に接続されていない	増設ケーブルのコネクタを確実に接続してください。(「カチッ」と音がするまで押し込んでください。)

17.3.19 スペースユニット

(1) ユニットが常時認識されない

ユニットが常時認識されない場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
スペースユニットの右側に装着されたユニットすべてが認識されない	• ユニット連結用フックをチェックし，正しく装着されているか確認してください。 • スペースユニットを装着し直して，ユニットが正しく認識されるか確認してください。

上記の項目を確認しても正しく認識されない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(2) 稼働中にユニットが認識されなくなる

システムが稼働中にユニットが認識されなくなる場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
使用台数が制約を超えて接続されている	• ユニットとスペースユニットを 1 台ずつのセットで使用してください。 • システムに使用されているユニットを確認し，スペースユニット使用時の制約内に修正してください。
スペースユニットの右側に装着されたユニットすべてが認識されなくなる	• ユニット連結用フックをチェックし，正しく装着されているか確認してください。 • スペースユニットを装着し直して，ユニットが正しく認識されるか確認してください。

上記の項目を確認しても正しく認識されない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

(3) ユニットの割付にずれが生じる

ユニットの割付にずれが生じる場合は，下記の項目を確認してください。

確認項目	処置方法
プログラミングツールのシステムモニタ上で割付不正のエラーが表示される	スペースユニットの I/O 割付設定を削除し，I/O 割付設定を，スペースユニットが無い場合の実装状態と合致するように変更してください。
プログラミングツールの PC パラメータの I/O 割付設定で，スペースユニットに I/O 割付が設定されている	

上記の項目を確認しても正しく認識されない場合は，ハードウェア異常の恐れがあります。
最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

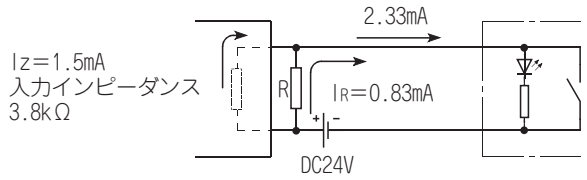
17.4　内蔵 I/O 機能のトラブル事例

入出力回路のトラブル事例とその対策方法について下記に示します。
入出力ユニットのトラブル事例については下記のマニュアルを参照してください。
📖 MELSEC-L 入出力ユニットユーザーズマニュアル

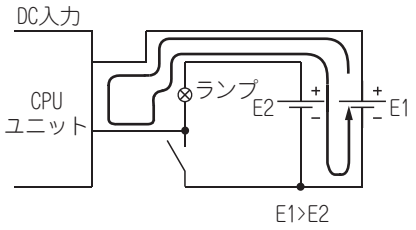
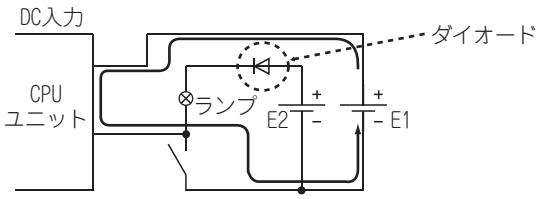
17.4.1　入力回路のトラブル事例とその対策

(1) 入力信号が OFF しない

(a) 事例 1

原因	LED 表示付スイッチを OFF しても，ユニットの OFF 電流を上回るもれ電流が発生しています。
対策	ユニットに流れる電流が OFF 電流を下回るように，適切な抵抗を接続してください。 
計算例	接続する抵抗値の計算例を下記に示します。 例 DC24V 電源を入れると，もれ電流が 2.33mA 流れる LED 表示付スイッチを高速入力に接続した場合 ユニットの仕様から，下記の項目を調べます。 • OFF 電流：1.5mA • 入力抵抗：3.8kΩ I（もれ電流）＝IZ（CPU ユニットの OFF 電流）＋IR（接続抵抗に流れる電流） IR＝I－IZ＝2.33－1.5＝0.83[mA] OFF 電流 1.5mA 以下を満足させるために，接続抵抗に流れる電流が，0.83mA 以上になるよう，抵抗 R を接続してください。接続する抵抗の抵抗値 R は，下記のように算出します。 IR：IZ＝Z（入力インピーダンス）：R $R \leqq \frac{I_Z}{I_R} \times Z$（入力インピーダンス）$= \frac{1.5}{0.83} \times 3.8 = 6.87[k\Omega]$ →抵抗値 R < 6.87kΩ となります。 <電力容量の算出による接続抵抗の確認> 抵抗 R を 6.2kΩ とすると，抵抗 R の電力容量 W は，下記のように算出します。 $W = \frac{(\text{入力電圧})^2}{R} = \frac{26.4^2}{6200} = 0.112[W]$ 抵抗の電力容量は，実際の消費電力に対して 3 ～ 5 倍で選定するため，6.2kΩ，1/2 ～ 1W の抵抗を，問題となる端子に接続すればよいことになります。 また，抵抗 R を挿入したときの OFF 電圧は，下記のように算出します。 $\frac{1}{\frac{1}{6.2[k\Omega]} + \frac{1}{3.8[k\Omega]}} \times 2.33[mA] = 5.49[V]$ よって，CPU ユニットの OFF 電圧 8V 以下を満足します。

(b) 事例 2

原因	電源を 2 つ使用しているため，電流の回り込みが発生しています。 
対策	• 2 つの電源を 1 つにしてください。 • 回り込みを防止するためにダイオードを下記のように接続してください。 

(2) 信号が誤入力する

原因	ノイズを入力として取り込んでいます。
対策	応答時間を長く設定してください。 例 1ms → 5ms 応答時間の設定を変更しても効果がない場合，下記の 2 つの対策を行ってください。 • 過大ノイズが入らないように，動力線と I/O 線の束線を避けてください。 • 同一電源で使用するリレー，コンダクタなどのノイズ発生源には，サージアブソーバを付加し，ノイズを抑制するなどのノイズ対策を行ってください。

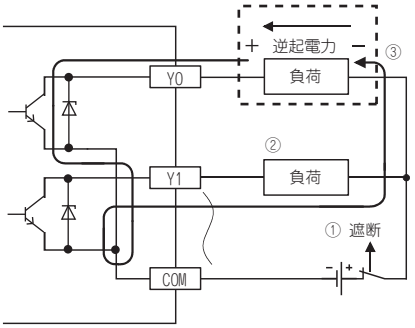
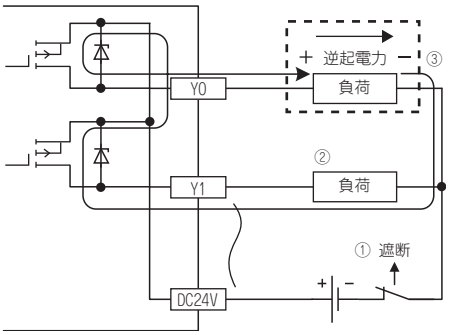
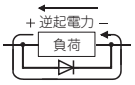
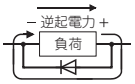
Point

周期性のある過大ノイズの場合，応答時間を短く設定した方が効果がある場合があります。

例 70ms → 20ms

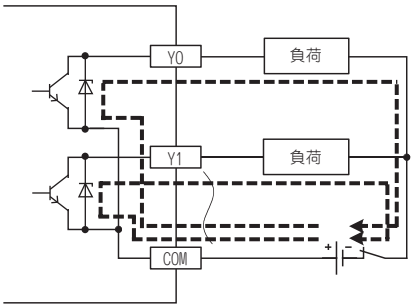
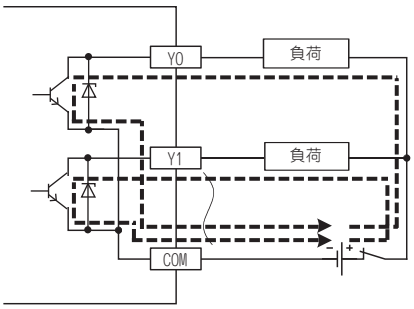
17.4.2　出力回路のトラブル事例とその対策

(1) 電源遮断時に，OFF していた負荷が一瞬 ON する

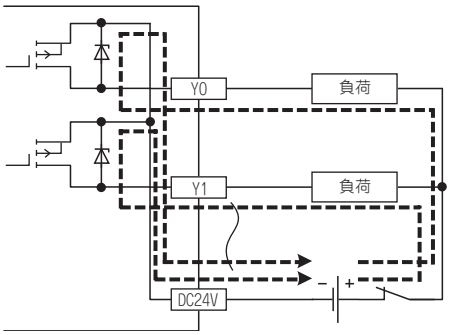
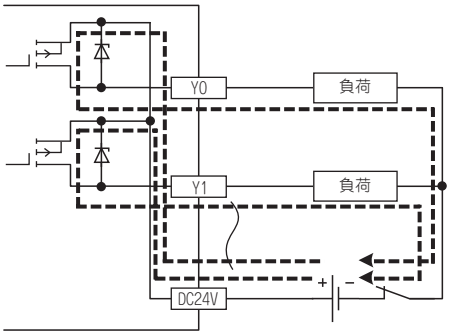
原因	誘導性負荷を使用している場合，①電源遮断時の逆起電力の回り込みによって，OFF していた②負荷が ON する場合があります。 ・L02SCPU，L02CPU，L06CPU，L26CPU，L26CPU-BT  ・L02SCPU-P，L02CPU-P，L06CPU-P，L26CPU-P，L26CPU-PBT 
対策	③に逆起電力が発生している負荷と並列にダイオードを接続して，逆起電力の発生を抑えてください。 ・L02SCPU，L02CPU，L06CPU，L26CPU，L26CPU-BT  ・L02SCPU-P，L02CPU-P，L06CPU-P，L26CPU-P，L26CPU-PBT 

(2) 負荷が全点 ON する

(a) 事例 1

原因	L02SCPU，L02CPU，L06CPU，L26CPU，L26CPU-BT に L02SCPU-P，L02CPU-P，L06CPU-P，L26CPU-P，L26CPU-PBT の外部配線をしている。 
対策	使用するユニットに合わせて正しく外部配線を行ってください。 

(b) 事例 2

原因	L02SCPU-P，L02CPU-P，L06CPU-P，L26CPU-P，L26CPU-PBT に L02SCPU，L02CPU，L06CPU，L26CPU，L26CPU-BT の外部配線をしている。 
対策	使用するユニットに合わせて正しく外部配線を行ってください。 

17.5　データの退避

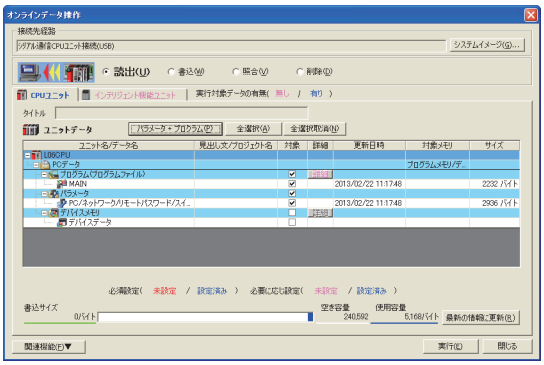
トラブル発生直後に下記の情報を退避させておくことで，エラー発生の要因を解析する際に役に立ちます。

- プログラムとパラメータ
- デバイスとバッファメモリ
- システム構成
- エラー履歴

(1) プログラムとパラメータの退避

退避手順を下記に示します。

［オンライン］⇨［PC 読出］



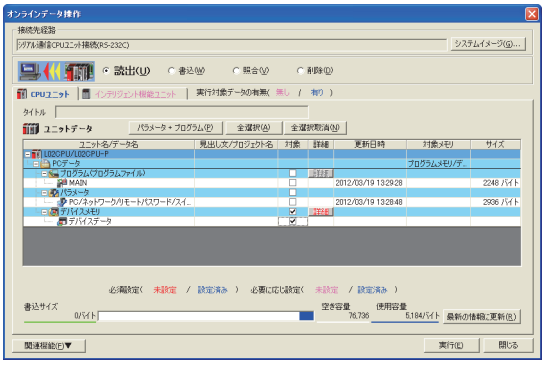
1. パラメータ＋プログラム(P) **をクリックしてください。**

2. 実行(E) **をクリックして PC 読出を実行してください。**

(2) デバイスとバッファメモリの退避

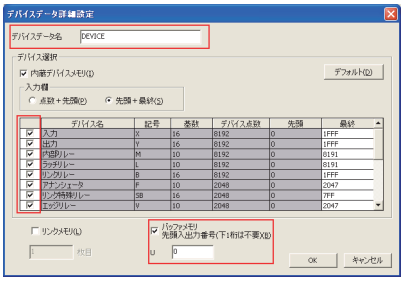
退避手順を下記に示します。

［オンライン］⇨［PC 読出］



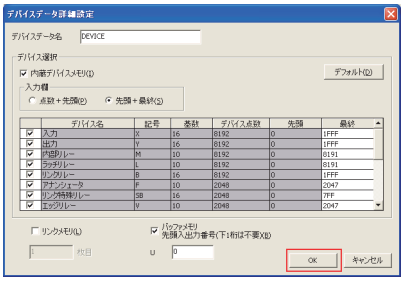
1. " デバイスメモリ " のチェックボックスをクリックしてください。

2. 詳細 をクリックしてください。



3. " デバイスデータ名 " を入力し，退避させるデバイスにチェックを入れてください。

4. " バッファメモリ先頭入出力番号 " に先頭入出力番号を入力してください。



5. OK を押して決定後，PC 読出を行ってください。

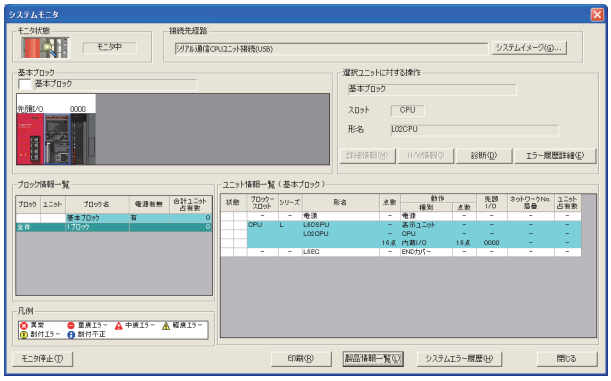
Point

ファイルレジスタを使用している場合は，ファイルレジスタも他のデバイスと同様に退避させてください。

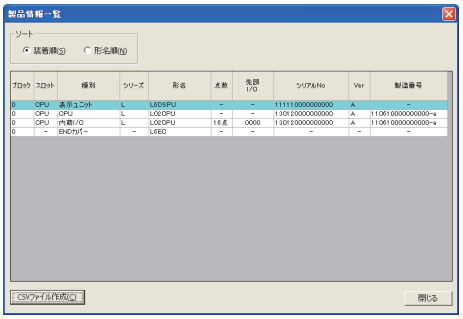
(3) システム構成の退避

退避手順を下記に示します。

［ 診断 ］⇨［ システムモニタ ］



1. 製品情報一覧(L) をクリックしてください。

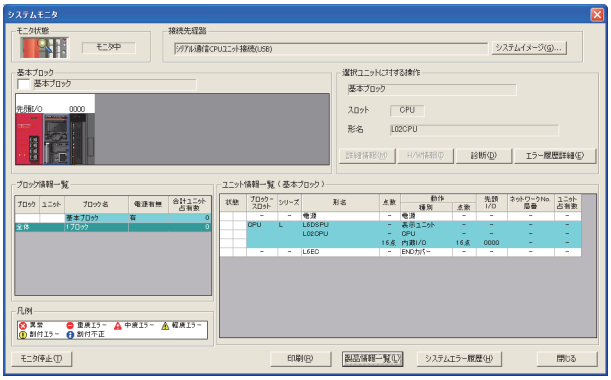


2. CSVファイル作成(C) をクリックしてください。

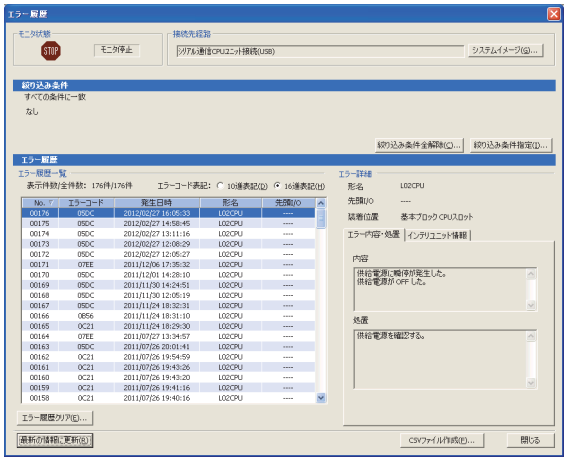
(4) エラー履歴の退避

退避手順を下記に示します。

［診断］⇨［システムモニタ］



1. システムエラー履歴(H) をクリックしてください。



2. CSVファイル作成(F)... をクリックしてください。

付録

付 1　エラーコード一覧

CPU ユニットは，電源 ON 時，RUN 時，または RUN 中に異常が発生した場合，自己診断機能によりエラーを表示（LED 表示，表示器のメッセージ表示）し，エラー情報を特殊リレー (SM)，特殊レジスタ (SD) に格納します。
また，プログラミングツール，インテリジェント機能ユニット，またはネットワークシステムから CPU ユニットへの交信要求時にエラーが発生した場合，要求元にエラーコード (4000_H ～ $4FFF_H$) を返します。
CPU ユニットで発生するエラーの内容とエラーに対する処置方法について説明します。

(1) エラーコード一覧の見方

エラーコード一覧（1000 ～ 1999）～エラーコード一覧（7000 ～ 10000）の見方を下記に示します。
エラーコード一覧には，LCPU と QCPU の内容を記載しています。

(a) エラーコード，共通情報 , 個別情報について

エラーコードは SD0，共通情報は SD5 ～ SD15，個別情報は SD16 ～ SD26 にそれぞれ格納されます。

(b) 対応 CPU について

- QCPU：Q シリーズ CPU ユニットすべてに対応します。
- Q00J/Q00/Q01：ベーシックモデル QCPU に対応します。
- Qn(H)：ハイパフォーマンスモデル QCPU に対応します。
- QnPH：プロセス CPU に対応します。
- QnPRH：二重化 CPU に対応します。
- QnU：ユニバーサルモデル QCPU に対応します。
- QnUDV：ユニバーサルモデル高速タイプ QCPU に対応します。
- QnUDPV：ユニバーサルモデルプロセス CPU に対応します。
- Q00UJ/Q00U/Q01U：Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU に対応します。
- LCPU：L シリーズ CPU ユニットすべてに対応します。
- 各 CPU ユニットの形名：記載の CPU ユニットのみ対応します。（例 :Q02UCPU，L26CPU-BT）

付 1.1 エラーコード全体

エラーには，CPU ユニットの自己診断機能により検出するエラーと，CPU ユニットとの交信時に検出するエラーがあります。エラーの検出種別，エラー検出箇所，およびエラーコードの関係を下表に示します。

エラー検出種別	エラー検出箇所	エラーコード	エラー内容の参照先
CPU ユニットの自己診断機能による検出	CPU ユニット	1000 ～ 10000 *1 *2	☞ 155 ページ 付 1.3 ～ 242 ページ 付 1.9
CPU ユニットとの交信時に検出	CPU ユニット	4000_H ～ $4FFF_H$	☞ 248 ページ 付 1.11
	シリアルコミュニケーションユニットなど	7000_H ～ $7FFF_H$	シリアルコミュニケーションユニットのユーザーズマニュアルなど
	CC-Link ユニット（内蔵 CC-Link 機能含む）	$B000_H$ ～ $BFFF_H$	CC-Link システムマスタ・ローカルユニットのユーザーズマニュアル
	Ethernet ユニット（内蔵 Ethernet 機能含む）	$C000_H$ ～ $CFFF_H$	• Ethernet インタフェースユニットユーザーズマニュアル • QnUCPU ユーザーズマニュアル（内蔵 Ethernet ポート通信編） • MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（内蔵 Ethernet 機能編）
	CC-Link IE フィールドネットワークユニット	$D000_H$ ～ $DFFF_H$	CC-Link IE フィールドネットワークユニットのユーザーズマニュアル
	CC-Link IE コントローラネットワークユニット	$E000_H$ ～ $EFFF_H$	• CC Link IE コントローラネットワークリファレンスマニュアル
	MELSECNET/H ネットワークユニット	$F000_H$ ～ $FFFF_H$	• Q対応MELSECNET/Hネットワークシステムリファレンスマニュアル • MELSECNET/10 モード QnA/Q4AR 対応 MELSECNET/10 ネットワークシステムリファレンスマニュアル

＊1 CPU ユニットのエラーコードは，軽度異常，中度異常，重度異常に分類されています。
・軽度異常：バッテリエラーなどの CPU ユニットが演算を続行するエラー
・中度異常：ウォッチドッグタイマエラーなどの CPU ユニットが演算を停止するエラー（エラーコード：1300 ～ 10000）
・重度異常：RAM 異常などの CPU ユニットが演算を停止するエラー（エラーコード：1000 ～ 1299）
「演算を続行するエラー」と「演算を停止するエラー」は，エラーコード一覧の CPU 動作状態で判別できます。
（☞ 155 ページ 付 1.3 ～ 242 ページ 付 1.9）

＊2 参照先のエラーコード表に記載されていないエラーコードが検出された場合は，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。

付 1.2 エラーコードの読出し方法

プログラミングツールで読み出すことができます。操作方法の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

📖 各プログラミングツールのオペレーティングマニュアル

付 1.3 エラーコード一覧（1000 ～ 1999）

エラーコード（1000 ～ 1999）のエラーメッセージ，異常内容と原因および処置方法について説明します。

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
1000	【MAIN CPU DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報（QnUDVCPU，QnUDPVCPU のみ） ■ 診断タイミング ・常時	・ノイズ対策を施す。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU
	【CPU UNIT DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報 ■ 診断タイミング ・常時			LCPU
1001	【MAIN CPU DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ・デバイス範囲チェックを禁止している状態（SM237 = ON）で範囲外のデバイスをアクセスした。（BMOV，FMOV，DFMOV 命令実行時のみ発生（ユニバーサルモデル QCPU の場合のみ）） ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報（QnUDVCPU，QnUDPVCPU のみ） ■ 診断タイミング ・常時	・ノイズ対策を施す。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。） ・BMOV，FMOV，DFMOV 命令で指定するデバイスを見直し，修正する。（ユニバーサルモデル QCPU の場合のみ）		QCPU
	【CPU UNIT DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ・デバイス範囲チェックを禁止している状態（SM237 = ON）で範囲外のデバイスをアクセスした。（BMOV，FMOV，DFMOV 命令実行時のみ発生） ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報 ■ 診断タイミング ・常時	・ノイズ対策を施す。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。） ・BMOV，FMOV，DFMOV 命令で指定するデバイスを見直し，修正する。		LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
1002	【MAIN CPU DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報（QnUDVCPU, QnUDPVCPU のみ） ■診断タイミング ・常時	・ノイズ対策を施す。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU
	【CPU UNIT DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報 ■診断タイミング ・常時			LCPU
1003	【MAIN CPU DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報（QnUDVCPU, QnUDPVCPU のみ） ■診断タイミング ・常時			QCPU
	【CPU UNIT DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報 ■診断タイミング ・常時			LCPU
1004	【MAIN CPU DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・常時			QCPU(QnUDV, QnUDPV は除く)
	【CPU UNIT DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報 ■診断タイミング ・常時			LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
1005	【MAIN CPU DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・常時	・ノイズ対策を施す。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU(QnUDV, QnUDPV は除く)
	【MAIN CPU DOWN】 転送先が未フォーマット状態でブート運転を行った。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時	・パラメータでブート時 “プログラムメモリをクリアする ” を選択し，プログラムメモリをクリアしてからブートするようにする。		Qn(H) QnPH QnPRH
	【CPU UNIT DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報 ■診断タイミング ・常時	・ノイズ対策を施す。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU
1006	【MAIN CPU DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報（QnUDVCPU, QnUDPVCPU のみ） ■診断タイミング ・常時			QCPU
	【CPU UNIT DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報 ■診断タイミング ・常時			LCPU
1007	【MAIN CPU DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・常時			Qn(H) QnPH QnPRH
1008	【MAIN CPU DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報（QnUDVCPU, QnUDPVCPU のみ） ■診断タイミング ・常時	・ノイズ対策を施す。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH QnPRH QnUDV QnUDPV

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
1009	【MAIN CPU DOWN】 ・電源ユニットが電源波形の異常を検出した。 ・電源ユニット，CPU ユニット，基本ベースユニット，増設ベースユニット，または増設ケーブルの故障を検出した。 ・二重化ベースユニット使用時，二重化電源ユニットが 2 台とも故障していることを検出した。または，二重化ベースユニットの故障を検出した。 **■ 付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：故障情報（QnUDVCPU，QnUDPVCPU のみ） **■ 診断タイミング** ・常時	・電源ユニットに供給している電源波形を確認する。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを検出した場合は，電源ユニット，CPU ユニット，基本ベースユニット，増設ベースユニット，または増設ケーブルの故障が考えられる。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU
	【CPU UNIT DOWN】 ・電源ユニット，CPU ユニットの故障を検出した。 ・電源ユニットに仕様範囲外の電圧波形が供給されて，異常を検出した。 **■ 付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：故障情報 **■ 診断タイミング** ・常時	・電源ユニットに供給している電圧波形を見直す。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを検出した場合は，電源ユニット，CPU ユニットの故障。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU
1010	【END NOT EXECUTE】 END 命令を実行せずプログラム容量分のプログラムをすべて実行した。 ・END 命令実行時，ノイズなどにより別の命令コードで読んだ。 ・END 命令が何らかの原因で別の命令コードに変化している。 **■ 付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・END 命令実行時	・ノイズ対策を施す。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QCPU LCPU
1020	【SFCP. END ERROR】 SFC プログラムが正常に終了できなかった。 ・ノイズなどによりSFCプログラムが正常終了できない。 ・何らかの原因でSFCプログラムが正常終了できない。 **■ 付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・SFC プログラム実行時			Q00J/Q00/Q01 QnPH QnU LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
1035	【MAIN CPU DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作 ・ハードウェア異常 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報（QnUDVCPU, QnUDPVCPU のみ） ■診断タイミング ・常時	・ノイズ対策を施す。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QnU
	【CPU UNIT DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作 ・ハードウェア異常 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報 ■診断タイミング ・常時			LCPU
1036	【MAIN CPU DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作 ・ハードウェア異常 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時			Q50UDEHCPU, Q100UDEHCPU
1040 1041 1042	【CPU UNIT DOWN】 CPU ユニット（内蔵 I/O）が暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作 ・ハードウェア異常 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報 ■診断タイミング ・常時	・ノイズ対策を施す。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU
1043 1044	【MAIN CPU DOWN】 CPU ユニットが暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作 ・ハードウェア異常 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報 ■診断タイミング ・常時	・ノイズ対策を施す。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QnUDV QnUDPV
1045	【CPU UNIT DOWN】 ・電源投入時の内蔵 I/O および内蔵 CC-Link のユニット情報と違っている。 ・CPU ユニット（内蔵 I/O，内蔵 CC-Link）が暴走または故障している。 ・ノイズなどによる誤動作。 ・ハードウェア異常。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報 ■診断タイミング ・常時	・ノイズ対策を施す。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU

<table>
<tr><th>エラーコード</th><th>異常内容と原因</th><th>処置方法</th><th>LED 状態,
CPU 状態</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>1101</td><td>【RAM ERROR】
CPU ユニットのプログラムメモリが異常。
■ 付帯情報
・共通情報：-
・個別情報：-
■ 診断タイミング
・電源 ON 時／リセット時／ END 命令実行時</td><td>・ノイズ対策を施す。
・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）</td><td rowspan="8">RUN：消灯
ERR.: 点滅

CPU 状態：停止</td><td>QCPU
LCPU</td></tr>
<tr><td>1102</td><td>【RAM ERROR】
・CPUユニット内のワークエリア用のRAM異常。
・CPU ユニット内の標準 RAM 異常。
■ 付帯情報
・共通情報：-
・個別情報：-
■ 診断タイミング
・電源 ON 時／リセット時／ END 命令実行時</td><td>・ノイズ対策を施す。
・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）</td><td>QCPU
LCPU</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1103</td><td>【RAM ERROR】
CPU ユニット内のデバイスメモリ異常。
■ 付帯情報
・共通情報：-
・個別情報：-
■ 診断タイミング
・電源 ON 時／リセット時／ END 命令実行時</td><td rowspan="2">・ノイズ対策を施す。
・インデックス修飾をしている場合は，インデックスレジスタの値がデバイスの範囲外となっていないか確認する。
・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）</td><td>QCPU
LCPU</td></tr>
<tr><td>【RAM ERROR】
・CPU ユニット内のデバイスメモリ異常。
・インデックス修飾によりデバイス範囲外をアクセスし，システム用のデバイスを書き換えた。
■ 付帯情報
・共通情報：-
・個別情報：-
■ 診断タイミング
・電源 ON 時／リセット時／ END 命令実行時</td><td>Qn(H)
QnPH
QnPRH</td></tr>
<tr><td>1104</td><td>【RAM ERROR】
CPU ユニット内のアドレス RAM 異常。
■ 付帯情報
・共通情報：-
・個別情報：-
■ 診断タイミング
・電源 ON 時／リセット時</td><td rowspan="3">・ノイズ対策を施す。
・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）</td><td>Q00J/Q00/Q01
Qn(H)
QnPH
QnPRH</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1105</td><td>【RAM ERROR】
CPU ユニット内の CPU メモリ異常。
■ 付帯情報
・共通情報：-
・個別情報：-
■ 診断タイミング
・電源 ON 時／リセット時</td><td>Q00J/Q00/Q01
QnU</td></tr>
<tr><td>【RAM ERROR】
CPU ユニット内の CPU 共有メモリの異常。
■ 付帯情報
・共通情報：-
・個別情報：-
■ 診断タイミング
・電源 ON 時／リセット時</td><td>Qn(H)
QnPH
QnPRH
QnU</td></tr>
<tr><td>1106</td><td>【RAM ERROR】
バッテリ切れのため，プログラムメモリが壊れた。
■ 付帯情報
・共通情報：-
・個別情報：-
■ 診断タイミング
・STOP → RUN 時／ END 命令実行時</td><td>・バッテリが切れていないか確認し，切れていればバッテリを交換する。
・ノイズ対策を実施する。
・プログラムメモリをフォーマットし，全ファイルを PC 書込した後，CPU ユニットをリセットして再度 RUN する。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）</td><td>Qn(H)
QnPH
QnPRH</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>エラーコード</th><th>異常内容と原因</th><th>処置方法</th><th>LED 状態,
CPU 状態</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>1107</td><td rowspan="2">【RAM ERROR】
CPU ユニット内のワークエリア用の RAM 異常。
■ 付帯情報
・共通情報：-
・個別情報：-
■ 診断タイミング
・電源 ON 時／リセット時</td><td rowspan="5">CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）</td><td rowspan="6">RUN：消灯
ERR.: 点滅

CPU 状態：停止</td><td>QnPRH</td></tr>
<tr><td>1108</td><td rowspan="2">Qn(H)
QnPH
QnPRH</td></tr>
<tr><td>1109</td><td>【RAM ERROR】
CPU ユニット内のワークエリア用の RAM 異常。
■ 付帯情報
・共通情報：-
・個別情報：-
■ 診断タイミング
・常時</td></tr>
<tr><td>1110</td><td>【TRK. CIR. ERROR】
トラッキング用ハードウェアのイニシャルチェックで異常を検出した。
■ 付帯情報
・共通情報：-
・個別情報：-
■ 診断タイミング
・電源 ON 時／リセット時</td><td rowspan="4">QnPRH</td></tr>
<tr><td>1111</td><td>【TRK. CIR. ERROR】
トラッキング用ハードウェアの異常を検出した。
■ 付帯情報
・共通情報：-
・個別情報：-
■ 診断タイミング
・電源 ON 時／リセット時</td></tr>
<tr><td>1112</td><td rowspan="2">【TRK. CIR. ERROR】
・稼動中にトラッキング用ハードウェアの異常を検出した。
・待機系が電源OFFまたはリセットされていない状態でトラッキングケーブルを抜き差しした。
・トラッキングケーブルがコネクタ固定ネジで固定されていない。
・二重化システムの立上げ手順を守らなかったため，立上げ時にエラーとなった。
■ 付帯情報
・共通情報：-
・個別情報：-
■ 診断タイミング
・稼動中</td><td rowspan="2">・トラッキングケーブルの装着を確認して起動する。再度同じエラーを表示した場合は，トラッキングケーブルまたは CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）
・二重化システムの立上げ手順を確認し，再立上げを実施する。詳細は QnPRHCPU ユーザーズマニュアル（二重化システム編）を参照してください。</td></tr>
<tr><td>1113</td></tr>
<tr><td>1115</td><td>【TRK. CIR. ERROR】
トラッキング用ハードウェアのイニシャルチェックで異常を検出した。
■ 付帯情報
・共通情報：-
・個別情報：-
■ 診断タイミング
・電源 ON 時／リセット時</td><td>CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）</td></tr>
</table>

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
1116	【TRK. CIR. ERROR】 ・稼動中にトラッキング用ハードウェアの異常を検出した。 ・待機系が電源OFFまたはリセットされていない状態でトラッキングケーブルを抜き差しした。 ・トラッキングケーブルがコネクタ固定ネジで固定されていない。 ・二重化システムの立上げ手順を守らなかったため，立上げ時にエラーとなった。 ■ **付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・稼動中	・トラッキングケーブルの装着を確認して起動する。再度同じエラーを表示した場合は，トラッキングケーブルまたは CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。） ・二重化システムの立上げ手順を確認し，再立上げを実施する。詳細は QnPRHCPU ユーザーズマニュアル（二重化システム編）を参照してください。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QnPRH
1150	【RAM ERROR】 CPU ユニット内マルチ CPU 間高速通信エリアのメモリ異常。 ■ **付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・ノイズ対策を施す。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QnU
1160	【RAM ERROR】 CPU ユニット内のプログラムメモリのデータが書き換わった。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所* 5 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・常時	・ノイズ対策を施す。 ・プログラムメモリをフォーマットし，全ファイルを PC 書込みした後，CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QnU LCPU
1161	【RAM ERROR】 CPU ユニット内の内蔵しているデバイスメモリのデータが書き換わった。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所* 5 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・常時	・ノイズ対策を施す。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		
1163	【RAM ERROR】 CPU ユニット内のプログラムメモリのデータが書き換わった。 ■ **付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時（QnUDVCPU，QnUDPVCPU の場合は「常時」）	・ノイズ対策を施す。 ・GX Works2 のオプション設定で「キャッシュメモリをプログラムメモリへ転送する」，GX Developer のオプション設定で「RUN 中書込／TC 設定値変更プログラムメモリ転送設定」を設定する。 ・プログラムメモリをフォーマットし，全ファイルを PC 書込みした後，CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QnU LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
1164	【RAM ERROR】 標準 RAM で使用しているメモリのデータ破壊を検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時	・ノイズ対策を施す。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QnU * 6 L26CPU L26CPU-P L26CPU-BT L26CPU-PBT
1166	【RAM ERROR】 CPU ユニット内の内部メモリ異常。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時			Q50UDEHCPU, Q100UDEHCPU
1170	【RAM ERROR】 CPU ユニット内（内蔵 I/O）の RAM 異常。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報 ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時			LCPU
1171	【RAM ERROR】 CPU ユニット内（内蔵 I/O）の RAM 異常。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報 ■ 診断タイミング ・常時			
1172	【RAM ERROR】 CPU ユニット内（内蔵 I/O）の RAM 異常。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：故障情報 ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・ノイズ対策を施す。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		
1200	【OPE. CIRCUIT ERR.】 CPU ユニット内のインデックス修飾を行う演算回路が正常に動作しない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QCPU LCPU
1201	【OPE. CIRCUIT ERR.】 CPU ユニット内のハードウェア（ロジック）が正常に動作しない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時			

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
1202	【OPE. CIRCUIT ERR.】 CPU ユニット内のシーケンス処理を行う演算回路が正常に動作しない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU LCPU
1203	【OPE. CIRCUIT ERR.】 CPU ユニット内のインデックス修飾を行う演算回路が正常に動作しない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・END 命令実行時			QnPRH
1204	【OPE. CIRCUIT ERR.】 CPU ユニット内のハードウェア（ロジック）が正常に動作しない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・END 命令実行時			
1205	【OPE. CIRCUIT ERR.】 CPU ユニット内のシーケンス処理を行う演算回路が正常に動作しない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・END 命令実行時			
1300	【FUSE BREAK OFF】 ヒューズ断となっている出力ユニットがある。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ［リモート I/O ネット時］ ネットワーク No.／局番 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	・出力ユニットの FUSE LED を確認し，点灯しているユニットを交換する。（ヒューズ断ユニットの確認はプログラミングツールでも可能。SD1300 ～ SD1331 でヒューズ断となったユニットに対応したビットが「1」となっているかをチェックする。） ・GOT を基本ベースユニットまたは増設ベースユニットにバス接続している場合は，増設ケーブルの接続状態と GOT のアース状態を確認する。	RUN： 消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態： 停止／続行*1	Qn(H) QnPH QnPRH QnU
	【FUSE BREAK OFF】 ヒューズ断となっている出力ユニットがある。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ［リモート I/O ネット時］ ネットワーク No.／局番 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	出力ユニットの ERR LED を確認し，点灯しているユニットを交換する。（ヒューズ断ユニットの確認はプログラミングツールでも可能。SD130 ～ SD137 で，ヒューズ断となったユニットに対応したビットが「1」となっているかをチェックする。）		Q00J/Q00/Q01

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
1310	【I/O INT. ERROR】 割込み要求を検出したのに割込み要因がない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・割込み発生時	装着されているユニットのいずれかのハードウェア異常。装着されているユニットをチェックし，不良ユニットを交換する。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU
	【I/O INT. ERROR】 割込みを発行するユニットが装着されていない（内蔵 I/O の割込みも含む）のに割込みが発生した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・割込み発生時	・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU
1311	【I/O INT. ERROR】 PC パラメータで割込ポインタ設定を行っていないユニットからの割込み要求を検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・割込み発生時	・PCパラメータのPCシステム設定の割込ポインタ設定を修正する。 ・PCパラメータのPCシステム設定の割込ポインタ設定を行っていないユニットから割込みを発行しないようにする。 ・ネットワークパラメータの割込み設定を修正する。 ・インテリジェント機能ユニットのバッファメモリの割込み設定を修正する。 ・QD51 のベーシックプログラムを修正する。		Q00J/Q00/Q01 QnPRH QnU
		・PCパラメータのPCシステム設定の割込ポインタ設定を修正する。 ・PCパラメータのPCシステム設定の割込ポインタ設定を行っていないユニットから割込みを発行しないようにする。 ・ネットワークパラメータの割込み設定を修正する。 ・インテリジェント機能ユニットのバッファメモリの割込み設定を修正する。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU
1320 1321	【LAN CTRL. DOWN】 H/W 自己診断により，LAN コントローラの故障を検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QnU *4 LCPU *4

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
1401	【SP. UNIT DOWN】 ・イニシャル処理時にインテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットから返事が返ってこない。 ・インテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットのバッファメモリのサイズが異常である。 ・サポートしていないユニットが装着されている。 ・電源 ON 時／リセット時に瞬停が発生した。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時／インテリアクセス時	・供給電源を確認する。 ・サポートしていないユニットが装着されている場合は，そのユニットをはずす。該当ユニットをサポートしている場合，インテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニット，CPU ユニット，電源ユニット，またはベースユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行＊3	QCPU
	【SP. UNIT DOWN】 ・イニシャル処理時にインテリジェント機能ユニットから返事が返ってこない。 ・インテリジェント機能ユニットのバッファメモリのサイズが異常である。 ・サポートしていないユニットが装着されている。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時／インテリアクセス時	サポートしていないユニットが装着されている場合は，そのユニットをはずす。 該当ユニットをサポートしている場合，CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU
1402	【SP. UNIT DOWN】 プログラムでインテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットにアクセスしたが返事が返ってこない。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：プログラムエラー箇所 **■ 診断タイミング** ・インテリアクセス命令実行時	インテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニット，CPU ユニット，またはベースユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QCPU
	【SP. UNIT DOWN】 プログラムでインテリジェント機能ユニットにアクセスしたが返事が返ってこない。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：プログラムエラー箇所 **■ 診断タイミング** ・インテリアクセス命令実行時	・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
1403	【SP. UNIT DOWN】 ・サポートしていないユニットが装着されている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	サポートしていないユニットが装着されている場合は，そのユニットをはずす。該当ユニットをサポートしている場合，インテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニット，CPU ユニット，またはベースユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行*3	QCPU
	【SP. UNIT DOWN】 ・END 命令実行時にインテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットから返事が返ってこない。 ・インテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットの異常発生を検出した。 ・運転中に入出力ユニット（インテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットも含む）がはずれかけているか，はずした。または装着した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	CPU ユニット，ベースユニット，またはアクセス先のインテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		
	【SP. UNIT DOWN】 ・END 命令実行時にインテリジェント機能ユニットから返事が返ってこない。 ・インテリジェント機能ユニットの異常発生を検出した。 ・運転中に入出力ユニット（インテリジェント機能ユニットも含む）がはずれかけているか，はずした。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU
1411	【CONTROL-BUS. ERR.】 PC パラメータの I/O 割付設定を行っている場合，イニシャル交信時にインテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットとアクセスできない。（エラー発生時，共通情報に対象となったインテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットの先頭入出力番号が格納される。） ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，インテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニット，CPU ユニット，またはベースユニットの異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU
1412	【CONTROL-BUS. ERR.】 インテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットとのコントロールバス異常により，FROM/TO 命令の実行ができない。（エラー発生時，個別情報に対象となったプログラムエラー箇所が格納される。） ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：プログラムエラー箇所 ■ 診断タイミング ・FROM/TO 命令実行時			

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
1413	【CONTROL-BUS. ERR.】 マルチ CPU システムで，マルチ CPU システム未対応の CPU ユニットを装着した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	・マルチ CPU システム未対応の CPU ユニットを基本ベースユニットからはずす。もしくは，マルチ CPU システム未対応の CPU ユニットをマルチ CPU システム対応の CPU ユニットに交換する。 ・インテリジェント機能ユニット，CPU ユニット，またはベースユニットの異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH
	【CONTROL-BUS. ERR.】 ・システムバス上の異常を検出した。 ・システムバス自己診断エラー ・CPU ユニットの自己診断エラー ・マルチ CPU システムで，I/O 割付設定の管理 CPU の設定が 1 号機と他号機で異なっている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，インテリジェント機能ユニット，CPU ユニット，またはベースユニットの異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。） ・PCパラメータのI/O割付設定の管理CPUの設定を 1 号機に合わせる。		QCPU
1414	【CONTROL-BUS. ERR.】 ・装着されているユニットの異常を検出した。 ・マルチ CPU システムで，マルチ CPU システム未対応の CPU ユニットを装着した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	・マルチ CPU システム未対応の CPU ユニットを基本ベースユニットからはずす。もしくは，マルチ CPU システム未対応の CPU ユニットをマルチ CPU システム対応の CPU ユニットに交換する。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，インテリジェント機能ユニット，CPU ユニット，またはベースユニットの異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnU
	【CONTROL-BUS. ERR.】 システムバス上の異常を検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	・マルチ CPU システム未対応の CPU ユニットを基本ベースユニットからはずす。もしくは，マルチ CPU システム未対応の CPU ユニットをマルチ CPU システム対応の CPU ユニットに交換する。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，インテリジェント機能ユニット，CPU ユニット，またはベースユニットの異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU
1415	【CONTROL-BUS. ERR.】 基本ベースユニットおよび増設ベースユニットの異常を検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（ベース No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，インテリジェント機能ユニット，CPU ユニット，またはベースユニットの異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU
	【CONTROL-BUS. ERR.】 基本ベースユニットおよび増設ベースユニットの異常を検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ END 命令実行時			Qn(H) *7 QnPH *7

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
1416	【CONTROL-BUS. ERR.】 システムバスの異常を検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，インテリジェント機能ユニット，CPU ユニット，またはベースユニットの異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH QnU
	【CONTROL-BUS. ERR.】 マルチ CPU システムでバスの異常を検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時			Q00CPU Q01CPU QnU
1417	【CONTROL-BUS. ERR.】 システムバス上のリセット信号の異常を検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時			QnPRH
1418	【CONTROL-BUS.ERR.】 ・デバッグモード時に，A 系の基本ベースユニットと B 系の基本ベースユニットの両方を増設ベースユニットに接続している。 ・二重化システムで制御系が増設ベースユニットへのアクセス権取得に失敗し，増設ベースユニットへのアクセスができない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／系切替え時	・デバッグモード時に，A 系の基本ベースユニットと B 系の基本ベースユニットの両方を増設ベースユニットに接続していないか確認する。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，Q6□WRB，または増設ケーブルのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QnPRH
1430	【MULTI-C.BUS ERR.】 マルチ CPU 間高速通信における自号機 CPU の異常を検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QnU
1431	【MULTI-C.BUS ERR.】 マルチ CPU 間高速通信において他号機 CPU との交信異常を検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・ノイズ対策を施す。 ・CPU ユニットの基本ベース装着状態を確認する。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		
1432	【MULTI-C.BUS ERR.】 マルチ CPU 間高速通信において他号機 CPU との交信タイムアウトを検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
1433 1434 1435	【MULTI-C.BUS ERR.】 マルチ CPU 間高速通信において他号機 CPU との交信異常を検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	・ノイズ対策を施す。 ・CPUユニットの基本ベースユニット装着状態を確認する。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QnU
1436	【MULTI-C.BUS ERR.】 マルチ CPU 間高速基本ベースユニットの異常を検出した。（マルチ CPU 間高速通信の異常を検出した。） ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		
1437		・ノイズ対策を施す。 ・CPUユニットの基本ベースユニット装着状態を確認する。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		
1439	【MULTI-C.BUS ERR.】 マルチ CPU 間高速基本ベースユニットの異常を検出した。（マルチ CPU 間高速通信の異常を検出した。） ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・ノイズ対策を施す。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		
1500	【AC/DC DOWN】 ・供給電源に瞬停が発生した。 ・供給電源が OFF した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	供給電源を確認する。	RUN：点灯 ERR.: 消灯 CPU 状態：続行	QCPU LCPU
1510	【SINGLE PS. DOWN】 二重化ベースユニットで片側の二重化電源ユニットの供給電源電圧が低下した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ベース No.／電源 No. ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	二重化ベースユニットに装着されている二重化電源ユニットへの供給電源を確認する。	RUN：点灯 ERR.: 点灯 CPU 状態：続行	Qn(H) QnPH QnPRH QnU
1520	【SINGLE PS. ERROR】 二重化ベースユニットで片側の二重化電源ユニットの故障を検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ベース No.／電源 No. ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	二重化電源ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
1600	【BATTERY ERROR *2】 ・CPUユニット本体のバッテリ電圧が規定値以下に低下した。 ・CPUユニット本体のバッテリのリードコネクタが装着されていない。 ・CPUユニット本体のバッテリのリードコネクタ装着状態が不十分である。 ■付帯情報 ・共通情報：ドライブ名 ・個別情報：- ■診断タイミング ・常時	・バッテリの交換を行う。 ・プログラムメモリ，標準 RAM，または停電保持機能を使用する場合は，リードコネクタを装着する。 ・CPUユニット本体のバッテリのリードコネクタ装着状態を確認する。装着状態が不十分なときには，しっかりと最後まで押し込む。	RUN：点灯 ERR.: 消灯 CPU 状態：続行	QCPU LCPU
1601	【BATTERY ERROR *2】 メモリカードのバッテリ電圧が規定値以下に低下した。 ■付帯情報 ・共通情報：ドライブ名 ・個別情報：- ■診断タイミング ・常時	バッテリの交換を行う。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU(QnUDV，QnUDPV は除く)
1610	【FLASH ROM ERROR】 フラッシュ ROM（標準 ROM およびシステム確保エリア）への書込み回数が 10 万回を超えた。（書込み回数 ＞ 10 万回となった ） ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・ROM 書込み時	CPU ユニットの交換を行う。	RUN：点灯 ERR.: 点灯 CPU 状態：続行	QnU LCPU
1700	【BUS TIMEOUT ERR.】 システムバスの異常を検出した。 ・システムバスの自己診断エラー ・CPU ユニットの自己診断エラー ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・常時	CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	LCPU
1710	【UNIT BUS ERROR】 ・システムバスの異常を検出した。 ・装着されているユニットの異常を検出した。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・常時	・増設ブロックを切り離す。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		
1720	【END COVER ERR.】 END カバーの異常を検出した。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（ブロック No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ END 命令実行時	・増設ケーブルを確実に接続する。（「カチッ」と音がするまで押し込む。） ・END カバーを交換する。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		
1730	【SYSTEM RST ERR.】 ・増設ケーブルの接続状態が不十分である。 ・システムバスの異常を検出した。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（ブロック No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時			

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
1740	【BRANCH UNIT ERR.】 分岐ユニットの異常を検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	・分岐ユニットを交換する。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.：点滅 CPU 状態：停止	LCPU
1750	【EXTEND UNIT ERR.】 増設ユニットの異常を検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（ブロック No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・増設ユニットを交換する。 ・CPUユニットをリセットして再度RUNさせる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		

＊1　エラー発生時の CPU ユニットの動作状態は，パラメータで設定可能です。（LED 表示も連動して変化します。）
＊2　“BATTERY ERROR” 発生時は，BAT. ALM LED が点灯／点滅します。
＊3　パラメータ設定でインテリジェント機能ユニットごとにエラー停止／続行を選択できます。
＊4　Ethernet ポート内蔵 QCPU，Ethernet ポート内蔵 LCPU が対象です。
＊5　シリアル No. の上 5 桁が “13042” 以降のユニバーサルモデル QCPU が対象です。
＊6　Q10UD(E)HCPU，Q13UD(E)HCPU，Q20UD(E)HCPU，Q26UD(E)HCPU，Q50UDEHCPU，Q100UDEHCPU が対象です。
＊7　シリアル No. の上 5 桁が “08032” 以降のユニットが対象です。また，電源 ON 時／リセット時に共通情報の I/O No. に故障を示す情報が格納されます。

付 1.4 エラーコード一覧（2000 ～ 2999）

エラーコード（2000 ～ 2999）のエラーメッセージ，異常内容と原因および処置方法について説明します。

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
2000	【UNIT VERIFY ERR.】 マルチ CPU システムで，マルチ CPU システム未対応の CPU ユニットを装着した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.(スロット No.) ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・END 命令実行時	マルチ CPU システム未対応の CPU ユニットをマルチ CPU システム対応の CPU ユニットに交換する。	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行*1	Qn(H) QnPH
	【UNIT VERIFY ERR.】 電源投入時の入出力ユニット情報と違っている。 ・運転中に入出力ユニット（インテリジェント機能ユニットも含む）がはずれかけているか，はずした。または装着した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.）[リモート I/O ネット時] ネットワーク No. ／局番 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・END 命令実行時	・エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（ユニット No.）に対応したユニットのチェック，交換を行う。 ・SD150～SD157をプログラミングツールでモニタし，そのデータのビットが「1」となっているところのユニットのチェック，交換を行う。		Q00J/Q00/Q01
	【UNIT VERIFY ERR.】 電源投入時の入出力ユニット情報と違っている。 ・運転中に入出力ユニット（インテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットも含む）がはずれかけているか，はずした。または装着した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.(スロット No.)[リモート I/O ネット時] ネットワーク No. ／局番 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	・エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（ユニット No.）に対応したユニットのチェック，交換を行う。 ・SD1400 ～ SD1431 をプログラミングツールでモニタし，そのデータのビットが「1」となっているところのユニットのチェック，交換を行う。 ・GOT を基本ベースユニットまたは増設ベースユニットにバス接続している場合は，増設ケーブルの接続状態と GOT のアース状態を確認する。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU
2001	【UNIT VERIFY ERR.】 運転中に CPU ユニットのアキ設定としているスロットへユニットを装着した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	運転中に CPU ユニットのアキ設定としているスロットへユニットを装着しないようにする。	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行*2	Q00J/Q00/Q01 QnU
2010	【BASE LAY ERROR】 ・増設ベースユニットの使用可能段数を超えた。 ・GOT をバス接続しているとき，GOT の電源が OFF 中に CPU ユニットをリセットした。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ベース No. ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・増設ベースユニットを使用可能段数以内とする。 ・シーケンサ，GOT の電源を再投入する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00J/Q00/Q01 QnPRH Q00UJ Q00UCPU Q01UCPU Q02UCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
2011	【BASE LAY ERROR】 QA1S3□B, QA1S5□B, QA1S6□B, QA1S6ADP+A1S5□B/A1S6□B, QA6□B, QA6ADP+A5□B/A6□B をベースユニットに使用した。 ■付帯情報 ・共通情報：ベース No. ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	ベースユニットに QA1S3□B, QA1S5□B, QA1S6□B, QA1S6ADP+A1S5□B/A1S6□B, QA6□B, QA6ADP+A5□B/A6□B を使用しない。		Q00J/Q00/Q01 QnPH QnPRH QnU
2012	【BASE LAY ERROR】 二重化システムの基本ベースユニットにバス接続で GOT を接続した。 二重化システムで下記の異常を検出した。 ・増設1段目にQ6□WRB以外のベースユニットが接続されている。 ・増設1段目にQ6□WRBが存在しないのに増設2～7段のいずれかにベースユニットが接続されている。 ・他系CPUユニットが増設ベースユニット未対応である。 ・Q5□B, QA1S5□B, QA1S6□B, QA1S6ADP+A1S5□B/A1S6□B, QA6□B, QA6ADP+A5□B/A6□B が接続されている。 ・両系の基本ベースユニットのスロット数が異なる。 ・Q6□WRB の情報が正しく読み出せなかった。 ■付帯情報 ・共通情報：ベース No. ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・基本ベースユニットに接続されている GOT 接続用のバス接続ケーブルを取りはずす。 ・Q6□WRB（増設 1 段固定）を使用する。 ・他系も増設ベースユニット対応の二重化 CPU ユニットにする。 ・ベースユニットに Q5□B, QA1S5□B, QA1S6□B, QA1S6ADP+A1S5□B/A1S6□B, QA6□B, QA6ADP+A5□B/A6□B を使用しない。 ・スロット数が同じ基本ベースユニットを使用する。 ・Q6□WRB のハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.：点滅 CPU 状態：停止	QnPRH
2013	【BASE LAY ERROR】 二重化システムで，Q6□WRB の段数が増設 1 段目以外と認識された。 ■付帯情報 ・共通情報：ベース No. ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	Q6□WRB のハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		
2020	【EXT.CABLE ERR.】 二重化システムで下記の異常を検出した。 ・電源 ON/ リセット時に，待機系で，制御系と Q6□WRB 間の経路異常を検出した。 ・END 命令実行時に，待機系が Q6□WRB との経路異常を検出した。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ END 命令実行時	基本ベースユニットと Q6□WRB 間の増設ケーブルが正しく接続されているか確認する。 正しく接続されていない場合は，増設ケーブルを接続する方の基本ベースユニットの電源を OFF にして接続する。 正しく接続されている場合は，CPU ユニット，Q6□WRB，または増設ケーブルのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
2030	【NO END COVER】 END カバーが存在しない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（ブロック No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・END カバーを装着する。 ・装着されている各ユニットの接続状態を，システムモニタの接続ユニット構成を参考にして，正しいかチェックする。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU
2031	【NO END COVER】 END カバーが存在しない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（ブロック No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・END 命令実行時			
2040	【UNIT BAD CONNECT】 ・電源投入時の入出力ユニット情報と違っている。 ・運転中に入出力ユニット（インテリジェント機能ユニットも含む）がはずれかけているか，はずした。 ・増設ケーブルの接続状態が不十分である。 ・CPU ユニット（内蔵 I/O，内蔵 CC-Link）が暴走または故障している ・ノイズなどによる誤動作 ・ハードウェア異常 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	・エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（ユニット No.）に対応したユニットのチェック，交換を行う。 ・SD1400 ～ SD1431 をプログラミングツールでモニタし，そのデータのビットが「1」となっている箇所のユニットのチェック，交換を行う。 ・増設ケーブルを確実に接続する。（「カチッ」と音がするまで押し込む。） ・ノイズ対策を施す。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	LCPU
2050	【EXT. CABLE ERR.】 増設ケーブル抜けを検出した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（ブロック No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・END 命令実行時	・増設ケーブルを接続する。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU
2100	【SP. UNIT LAY ERR.】 PC パラメータの I/O 割付設定で，QI60 の装着されているスロットをインテリ（インテリジェント機能ユニット）または割込み（割込みユニット）以外に割り付けている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	PC パラメータの I/O 割付設定を実装状態に合わせて再設定する。		Qn(H) QnPH QnPRH

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
2100	【SP. UNIT LAY ERR.】 • PC パラメータの I/O 割付設定で, 入出力ユニットのところをインテリ（インテリジェント機能ユニット）で割り付けている。または，その逆の設定を行っている。 • PC パラメータの I/O 割付設定で, CPU ユニットのところをその他のユニットで割り付けているかアキに設定している。または，その逆の設定を行っている。 • PC パラメータの I/O 割付設定で, スイッチ設定のないユニットに対し , スイッチ設定を行った。 • PC パラメータの I/O 割付設定で, インテリジェント機能ユニットの割付け点数を装着ユニットの点数より小さい値を設定している。 **■ 付帯情報** • 共通情報：ユニット No.（スロット No.） • 個別情報：- **■ 診断タイミング** • 電源 ON 時／リセット時	• PC パラメータの I/O 割付設定をインテリジェント機能ユニット，CPU ユニットの実装状態に合わせて再設定する。 • PC パラメータの I/O 割付設定のスイッチ設定を削除する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH QnPRH QnU
	【SP. UNIT LAY ERR.】 • PC パラメータの I/O 割付設定で, 入出力ユニットのところをインテリ（インテリジェント機能ユニット）で割り付けている。または，その逆の設定を行っている。 • PC パラメータの I/O 割付設定で, CPU ユニットのところをその他のユニットで割り付けているかアキに設定している。または，その逆の設定を行っている。 • PC パラメータの I/O 割付設定で, インテリジェント機能ユニットの割付け点数を装着ユニットの点数より小さい値を設定している。 **■ 付帯情報** • 共通情報：ユニット No.（スロット No.） • 個別情報：- **■ 診断タイミング** • 電源 ON 時／リセット時	PC パラメータの I/O 割付設定をインテリジェント機能ユニット，CPU ユニットの実装状態に合わせて再設定する。		Q00J/Q00/Q01
	【SP. UNIT LAY ERR.】 • PC パラメータの I/O 割付設定で, 入出力ユニットのところをインテリ（インテリジェント機能ユニット），または分割ユニットで割り付けている。 • PC パラメータの I/O 割付設定で, インテリジェント機能ユニットのところを入力（入力ユニット），出力（出力ユニット），または分岐ユニットで割り付けている。 • PC パラメータの I/O 割付設定で, 分岐ユニットのところを入力（入力ユニット），出力（出力ユニット），インテリ（インテリジェント機能ユニット），空きで割り付けている。 • PC パラメータの I/O 割付設定で, スイッチ設定のないユニットに対し , スイッチ設定を行った。 • PC パラメータの I/O 割付設定で, インテリジェント機能ユニットの割付け点数を装着ユニットの点数より小さい値を設定している。 **■ 付帯情報** • 共通情報：ユニット No.（スロット No.） • 個別情報：- **■ 診断タイミング** • 電源 ON 時／リセット時	• PC パラメータの I/O 割付設定をインテリジェント機能ユニット，CPU ユニット，または分岐ユニットの実装状態に合わせて再設定する。 • PC パラメータの I/O 割付設定のスイッチ設定を削除する。 • CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
2100	【SP. UNIT LAY ERR.】 PC パラメータで，アダプタ種類の設定内容と，実際に装着されているアダプタが不一致または未装着である。 ■付帯情報 ・共通情報：$FFFF_H$(固定) ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・PC パラメータのアダプタ種類設定を，装着されているアダプタに合わせて再設定する。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，RS-232 アダプタおよび RS-422/485 アダプタのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	LCPU
2101	【SP. UNIT LAY ERR.】 CPU ユニットへ割込み起動をかけることのできる A シリーズ特殊機能ユニット（A1SI61/AI61(-S1) は除く）が 13 枚以上装着されている。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	CPU ユニットへ割込み起動をかけることのできる A シリーズ特殊機能ユニット（A1SI61/AI61(-S1) は除く）を 12 枚以下にする。		Qn(H) QnU(QnUDPV は除く)
2102	【SP. UNIT LAY ERR.】 MELSECNET，MELSECNET/B ローカル局用データリンクユニット (A1SJ71AP23Q，A1SJ71AR23Q，A1SJ71AT23BQ)，A/QnA インテリジェントコミュニケーションユニット (A1SD51，AD51(H)(-S3))，A/QnA JEMANET(JPCN-1) マスタユニット (A1SJ71J92-S3，AJ71J92-S3)，A/QnA 外部故障診断ユニット (AD51FD-S3)，Q/QnA ページングインタフェースユニット (A1SD21-S1) が合計で 7 枚以上装着されている。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	MELSECNET，MELSECNET/B ローカル局用データリンクユニット，A/QnA インテリジェントコミュニケーションユニット，A/QnA JEMANET(JPCN-1) マスタユニット，A/QnA 外部故障診断ユニット，Q/QnA ページングインタフェースユニットの装着枚数の合計を 6 枚以下にする。		Qn(H) QnU(QnUDPV は除く)

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
2103	【SP. UNIT LAY ERR.】 ・シングルCPUシステムでQI60/A1SI61/AI61(-S1)を2枚以上装着している。 ・マルチ CPU システムで同一管理 CPU に QI60/A1SI61/AI61(-S1) を 2 枚以上設定している。 ・マルチCPUシステムでA1SI61/AI61(-S1)を2枚以上装着している。 **■付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- **■診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・シングル CPU システムで QI60/A1SI61/AI61(-S1) の装着を 1 枚にする。 ・シングル CPU システムで A1SI61/AI61(-S1) の装着を 1 枚にし，QI60 に割込みポインタ設定を行う。 ・マルチ CPU システムで同一管理 CPU の QI60/A1SI61/AI61(-S1) を 1 枚に変更する。 ・マルチCPUシステムでA1SI61/AI61(-S1)は1枚のみにする。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH QnU * 4
	【SP. UNIT LAY ERR.】 QI60, A1SI61 が 2 枚以上装着されている。 **■付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- **■診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	QI60, A1SI61 を 1 枚にする。		Qn(H) QnPRH
	【SP. UNIT LAY ERR.】 QI60 が 2 枚以上装着されている。 **■付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- **■診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	QI60 を 1 枚にする。		Q00J/Q00/Q01
	【SP. UNIT LAY ERR.】 割込ポインタ設定を行っていない QI60 が 2 枚以上装着されている。 **■付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- **■診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・QI60 を 1 枚にする。 ・2 枚目以降の QI60 に割込ポインタ設定を行う。		Q00J/Q00/Q01 QnU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
2106	【SP. UNIT LAY ERR.】 ・システム全体で，MELSECNET/H ユニットと CC- Link IE コントローラネットワークユニットが合計で 2 枚以上装着されている。 ・システム全体で，Ethernet ユニットが 2 枚以上装着されている。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・システム全体で，MELSECNET/H ユニットと CC- Link IE コントローラネットワークユニットの合計を 1 枚以下にする。 ・Ethernet ユニットを 1 枚にする。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00UJCPU
	【SP. UNIT LAY ERR.】 ・システム全体で，MELSECNET/H ユニットと CC- Link IE コントローラネットワークユニットが合計で 2 枚以上装着されている。 ・システム全体で，Ethernet ユニットが 2 枚以上装着されている。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・システム全体で，MELSECNET/H ユニットと CC- Link IE コントローラネットワークユニットの合計を 1 枚以下にする。 ・システム全体で, Ethernet ユニットを 1 枚にする。		Q00UCPU Q01UCPU
	【SP. UNIT LAY ERR.】 ・システム全体で，MELSECNET/H ユニットと CC- Link IE コントローラネットワークユニットが合計で 3 枚以上装着されている。 ・システム全体で，Ethernet ユニットが 3 枚以上装着されている。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・システム全体で，MELSECNET/H ユニットと CC- Link IE コントローラネットワークユニットの合計を 2 枚以下にする。 ・システム全体で, Ethernet ユニットを 2 枚以下にする。		Q02UCPU
	【SP. UNIT LAY ERR.】 ・システム全体で，MELSECNET/H ユニットと CC- Link IE コントローラネットワークユニットが合計で 5 枚以上装着されている。 ・システム全体で，Ethernet ユニットが 5 枚以上装着されている。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・システム全体で，MELSECNET/H ユニットと CC- Link IE コントローラネットワークユニットの合計を 4 枚以下にする。 ・システム全体で, Ethernet ユニットを 4 枚以下にする。		QnU
	【SP. UNIT LAY ERR.】 ・システム全体で，CC- Link IE コントローラネットワークユニットが 3 枚以上装着されている。 ・システム全体で，MELSECNET/H ユニットと CC- Link IE コントローラネットワークユニットが合計で 5 枚以上装着されている。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・システム全体で，CC- Link IE コントローラネットワークユニットを 2 枚以下にする。 ・システム全体で，MELSECNET/H ユニットと CC- Link IE コントローラネットワークユニットの合計を 4 枚以下にする。		Qn(H) QnPH QnPRH

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
2106	【SP. UNIT LAY ERR.】 ・MELSECNET/Hユニットが5枚以上装着されている。 ・Ethernet ユニットが 5 枚以上装着されている。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・MELSECNET/H ユニットを 4 枚以下にする。 ・Ethernet ユニットを 4 枚以下にする。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH QnPRH QnUDPV
	【SP. UNIT LAY ERR.】 ・MELSECNET/Hユニットが2枚以上装着されている。 ・Ethernet ユニットが 2 枚以上装着されている。 ・CC-Link ユニットが 3 枚以上装着されている。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・MELSECNET/H ユニットを 1 枚にする。 ・Ethernet ユニットを 1 枚にする。 ・CC-Link ユニットを 2 枚以下にする。		Q00J/Q00/Q01
	【SP. UNIT LAY ERR.】 ・MELSECNET/H ネットワークシステムで同一ネットワーク番号，同一局番が存在する。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・ネットワーク番号，局番を確認する。		Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH
	【SP. UNIT LAY ERR.】 Ethernet ユニットが 2 枚以上装着されている。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	Ethernet ユニットを 1 枚にする。		L02SCPU L02SCPU-P L02CPU L02CPU-P
	【SP. UNIT LAY ERR.】 Ethernet ユニットが 3 枚以上装着されている。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	Ethernet ユニットを 2 枚以下にする。		L06CPU L06CPU-P L26CPU L26CPU-P L26CPU-BT L26CPU-PBT
2107	【SP. UNIT LAY ERR.】 PC パラメータの I/O 割付設定で設定した先頭 X/Y が，ほかのユニットの先頭 X/Y と重複している。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	PC パラメータの I /O 割付設定をインテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニット／入出力ユニットの実装状態に合わせて再設定する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU
	【SP. UNIT LAY ERR.】 PC パラメータの I/O 割付設定で設定した先頭 X/Y が，ほかのユニットの先頭 X/Y と重複している。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・PC パラメータの I /O 割付設定をインテリジェント機能ユニット／入出力ユニットの実装状態に合わせて再設定する。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
2108	【SP. UNIT LAY ERR.】 • A2USCPU 用ネットワークユニット A1SJ71LP21，A1SJ71BR11，A1SJ71AP21，A1SJ71AR21，A1SJ71AT21B が装着されている。 • Q2ASCPU 用ネットワークユニット A1SJ71QLP21，A1SJ71QBR11 が装着されている。 • A2UCPU用ネットワークユニット AJ71LP21，AJ71LP21G，AJ71BR11，AJ71AP21，AJ71AR21，AJ71AT21B が装着されいている。 • Q2ACPU 用ネットワークユニット AJ71QLP21，AJ71QLP21S，AJ71QLP21G，AJ71QBR11 が装着されている。 **■ 付帯情報** • 共通情報：ユニット No.（スロット No.） • 個別情報：- **■ 診断タイミング** • 電源 ON 時／リセット時	A2USCPU 用，Q2ASCPU 用，A2UCPU 用，Q2ACPU 用ネットワークユニットを MELSECNET/H ユニットに変更する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnU(QnUDPV は除く)
2110	【SP. UNIT ERROR】 • FROM/TO 命令で指定したところが，インテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットでない。 • FROM/TO 命令で指定したユニットがバッファメモリを持たないユニットである。 • アクセス先のインテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットが故障している。 • CPU 共有メモリを対象とした命令で未装着の号機を指定した。 **■ 付帯情報** • 共通情報：ユニット No.（スロット No.） • 個別情報：プログラムエラー箇所 **■ 診断タイミング** • 命令実行時	• エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応した FROM/TO 命令をチェックし，修正する。 • アクセス先のインテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行*1	Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU
	【SP. UNIT ERROR】 • FROM/TO 命令で指定したところが，インテリジェント機能ユニットでない。 • FROM/TO 命令で指定したユニットがバッファメモリを持たないユニットである。 • アクセス先のインテリジェント機能ユニットが故障している。 **■ 付帯情報** • 共通情報：ユニット No.（スロット No.） • 個別情報：プログラムエラー箇所 **■ 診断タイミング** • 命令実行時	• エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応した FROM/TO 命令をチェックし，修正する。 • CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
2111	【SP. UNIT ERROR】 ・リンクダイレクトデバイス（J□¥□）で指定したところが，ネットワークユニットでない。 ・運転中に入出力ユニット（インテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットも含む）がはずれかけているか，はずれた。または装着した。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：プログラムエラー箇所 ■診断タイミング ・命令実行時	・エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応した FROM/TO 命令をチェックし，修正する。 ・アクセス先のインテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行*1	QCPU
	【SP. UNIT ERROR】 リンクダイレクトデバイス（J□¥□）で指定したところが，ネットワークユニットでない。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：プログラムエラー箇所 ■診断タイミング ・命令実行時／ STOP → RUN 時	・エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応した FROM/TO 命令をチェックし，修正する。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU
2112	【SP. UNIT ERROR】 ・インテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニット専用命令で指定したところが，インテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットでない。または，該当するインテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットでない。 ・ネットワーク専用命令で指定したネットワーク No. が存在しない。または中継先ネットワークが存在しない。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：プログラムエラー箇所 ■診断タイミング ・命令実行時	エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したインテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニット専用命令（ネットワーク用命令）をチェックし，修正する。		QCPU
	【SP. UNIT ERROR】 ・インテリジェント機能ユニット専用命令で指定したところが，インテリジェント機能ユニットでない。または，該当するインテリジェント機能ユニットでない。 ・ネットワーク専用命令で指定したネットワーク No. が存在しない。または中継先ネットワークが存在しない。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：プログラムエラー箇所 ■診断タイミング ・命令実行時／ STOP → RUN 時	・エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したインテリジェント機能ユニット専用命令をチェックし，修正する。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU
2113	【SP. UNIT ERROR】 ネットワーク専用命令で指定したところが，ネットワークユニットでない。 ■付帯情報 ・共通情報：$FFFF_H$（固定） ・個別情報：プログラムエラー箇所 ■診断タイミング ・命令実行時／ STOP → RUN 時	エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したインテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニット専用命令（ネットワーク用命令）をチェックし，修正する。		Qn(H) QnPH

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
2114	【SP. UNIT ERROR】 他号機を指定して実行する命令（自号機を指定できない命令）で自号機を指定した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：プログラムエラー箇所 ■ **診断タイミング** ・命令実行時	エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したプログラムをチェックし，修正する。	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行	Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnU
2115	【SP. UNIT ERROR】 自号機を指定して実行する命令（他号機を指定できない命令）で他号機の CPU ユニットを指定した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：プログラムエラー箇所 ■ **診断タイミング** ・命令実行時／ STOP → RUN 時			Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH
2116	【SP. UNIT ERROR】 ・他号機に管理されているユニットに指定できない命令で，他号機に管理されているユニットを指定した。 ・他号機に管理されているA,QnA用ユニットに対して命令を実行した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：プログラムエラー箇所 ■ **診断タイミング** ・命令実行時			Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnU
2117	【SP. UNIT ERROR】 マルチ CPU システム専用命令で指定できない CPU ユニットを指定した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：プログラムエラー箇所 ■ **診断タイミング** ・命令実行時	エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したプログラムをチェックし，修正する。		Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnU
2118	【SP. UNIT ERROR】 マルチ CPU システム時，PC パラメータでオンラインユニット交換設定を許可に設定しているときに，FROM 命令／インテリジェント機能ユニットデバイス（U□¥G□）で他号機が管理しているインテリジェント機能ユニットを指定した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：プログラムエラー箇所 ■ **診断タイミング** ・命令実行時	・マルチ CPU システム時，オンラインユニット交換を行う場合は，他号機が管理しているインテリジェント機能ユニットをアクセスしないようにプログラムを修正する。 ・マルチ CPU システム時，他号機が管理しているインテリジェント機能ユニットをアクセスする場合は，パラメータでオンラインユニット交換設定を不許可に設定する。		Qn(H) QnPH QnU
2120	【SP. UNIT LAY ERR.】 ・Q5□B, Q6□B と QA1S5□B, QA1S6□B, QA1S6ADP+A1S5□B/A1S6□B，QA6□B，QA6ADP+A5□B/A6□B の接続順および段数設定コネクタの設定がおかしい。 ・Q シリーズユニットと A シリーズユニットの入出力番号の割付け順がおかしい。 ■ **付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・ベースユニットの接続順および段数設定コネクタの設定を見直す。 ・入出力番号の割付けを「Q シリーズユニット→ A シリーズユニット」または「A シリーズユニット→ Q シリーズユニット」の順にまとめて設定する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
2121	【SP. UNIT LAY ERR.】 CPU ユニットが CPU スロットまたは 0 ～ 2 スロット以外に装着されている。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	CPU ユニットの装着位置を確認し，正しいスロットに装着する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH
2122	【SP. UNIT LAY ERR.】 基本ベースユニットに QA1S3 □ B が使用されている。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	基本ベースユニットを使用可能なものにする。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU
2124	【SP. UNIT LAY ERR.】 ・65 スロット以降にユニットを装着した。 ・ベース割付けで設定したスロット数以降にユニットを装着した。 ・入出力点数 4096 点以降にユニットを装着した。 ・入出力点数 4096 点の境界をまたいでユニットを装着した。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・65 スロット以降のユニットを取りはずす。 ・ベース割付けで設定したスロット数以降に装着したユニットを取りはずす。 ・4096 点以降に装着したユニットを取りはずす。 ・最終ユニットは 4096 点を超えない占有点数のユニットに交換する。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU
	【SP. UNIT LAY ERR.】 ・25 スロット以降にユニットを装着した。（Q00UJ は 17 スロット以降） ・ベース割付けで設定したスロット数以降にユニットを装着した。 ・入出力点数 1024 点以降にユニットを装着した。（Q00UJ は 256 点以降） ・入出力点数 1024 点の境界をまたいでユニットを装着した。（Q00UJ は 256 点の境界をまたいだ） ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・25 スロット以降のユニットを取りはずす。（Q00UJ の場合，17 スロット以降） ・ベース割付けで設定したスロット数以降に装着したユニットを取りはずす。 ・1024 点以降に装着したユニットを取りはずす。（Q00UJ の場合，256 点以降 ） ・最終ユニットは 1024 点を超えない占有点数のユニットに交換する。（Q00UJ の場合，256 点を超えない。）		Q00UJ/Q00U/Q01U
	【SP. UNIT LAY ERR.】 ・37 スロット以降にユニットを装着した。 ・ベース割付けで設定したスロット数以降にユニットを装着した。 ・入出力点数 2048 点以降にユニットを装着した。 ・入出力点数 2048 点の境界をまたいでユニットを装着した。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・37 スロット以降のユニットを取りはずす。 ・ベース割付けで設定したスロット数以降に装着したユニットを取りはずす。 ・2048 点以降に装着したユニットを取りはずす。 ・最終ユニットは 2048 点を超えない占有点数のユニットに交換する。		Q02UCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
2124	【SP. UNIT LAY ERR.】 • 25 スロット以降にユニットを装着した。（Q00J は 17 スロット以降） • ベース割付けで設定したスロット数以降にユニットを装着した。 • 入出力点数 1024 点以降にユニットを装着した。（Q00J は 256 点以降） • 入出力点数 1024 点の境界をまたいでユニットを装着した。（Q00J は 256 点の境界をまたいだ） **■ 付帯情報** • 共通情報：- • 個別情報：- **■ 診断タイミング** • 電源 ON 時／リセット時	• 25 スロット以降のユニットを取りはずす。（Q00J の場合，17 スロット以降） • ベース割付けで設定したスロット数以降に装着したユニットを取りはずす。 • 1024 点以降に装着したユニットを取りはずす。（Q00J の場合，256 点以降 ） • 最終ユニットは 1024 点を超えない占有点数のユニットに交換する。（Q00J の場合，256 点を超えない。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00J/Q00/Q01
	【SP. UNIT LAY ERR.】 • 装着可能ユニット数が 10 ユニットを超えた。 • 入出力点数 4096 点以降にユニットを装着した。 • 入出力点数 4096 点の境界をまたいでユニットを装着した。 **■ 付帯情報** • 共通情報：- • 個別情報：- **■ 診断タイミング** • 電源 ON 時／リセット時	• 装着可能ユニット数を10ユニット以内とする。 • 4096 点以降に装着したユニットを取りはずす。 • 最終ユニットは 4096 点を超えない占有点数のユニットに交換する。 • CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		L26CPU-BT L26CPU-PBT
	【SP. UNIT LAY ERR.】 • 装着可能ユニット数が 40 ユニットを超えた。 • 入出力点数 4096 点以降にユニットを装着した。 • 入出力点数 4096 点の境界をまたいでユニットを装着した。 **■ 付帯情報** • 共通情報：- • 個別情報：- **■ 診断タイミング** • 電源 ON 時／リセット時	• 装着可能ユニット数を40ユニット以内とする。 • 4096 点以降に装着したユニットを取りはずす。 • 最終ユニットは 4096 点を超えない占有点数のユニットに交換する。 • CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		L06CPU L06CPU-P L26CPU L26CPU-P L26CPU-BT L26CPU-PBT
	【SP. UNIT LAY ERR.】 • 装着可能ユニット数が 10 ユニットを超えた。 • 入出力点数 1024 点以降にユニットを装着した。 • 入出力点数 1024 点の境界をまたいでユニットを装着した。 **■ 付帯情報** • 共通情報：- • 個別情報：- **■ 診断タイミング** • 電源 ON 時／リセット時	• 装着可能ユニット数を10ユニット以内とする。 • 1024 点以降に装着したユニットを取りはずす。 • 最終ユニットは 1024 点を超えない占有点数のユニットに交換する。 • CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		L02CPU L02CPU-P
	【SP. UNIT LAY ERR.】 • 装着可能ユニット数が 30 ユニットを超えた。 • 入出力点数 1024 点以降にユニットを装着した。 • 入出力点数 1024 点の境界をまたいでユニットを装着した。 **■ 付帯情報** • 共通情報：- • 個別情報：- **■ 診断タイミング** • 電源 ON 時／リセット時	• 装着可能ユニット数を30ユニット以内とする。 • 1024 点以降に装着したユニットを取りはずす。 • 最終ユニットは 1024 点を超えない占有点数のユニットに交換する。 • CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		L02SCPU L02SCPU-P L02CPU L02CPU-P

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
2125	【SP. UNIT LAY ERR.】 ・認識できないユニットを装着した。 ・インテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットからの返事が返ってこない。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・使用可能なユニットを装着する。 ・インテリジェント機能ユニット／特殊機能ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU
	【SP. UNIT LAY ERR.】 ・認識できないユニットを装着した。 ・インテリジェント機能ユニットからの返事が返ってこない。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・使用可能なユニットを装着する。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU
2126	【SP. UNIT LAY ERR.】 マルチ CPU システムでの CPU ユニット構成が，下記のようになっている。 ・CPU ユニットの左側に空きスロットがある。 ・ハイパフォーマンスモデル QCPU ／プロセス CPU の左側にハイパフォーマンスモデル QCPU ／プロセス CPU 以外のユニット（モーション CPU を含む）が装着されている。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・空きスロットを詰める。（空きスロットは CPU ユニットの右側に設定する。） ・ハイパフォーマンスモデル QCPU ／プロセス CPU の左側に装着されたユニットをはずし，ハイパフォーマンスモデル QCPU ／プロセス CPU で詰める。モーション CPU はハイパフォーマンスモデル QCPU ／プロセス CPU の右側にまとめる。		Qn(H) QnPH
2128	【SP.UNIT LAY ERR.】 二重化システムで，使用不可のユニットが増設ベースユニットに装着されている。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・使用不可のユニットを増設ベースユニットからはずす。		QnPRH
2129	【SP. UNIT LAY ERR.】 使用できない A/QnA シリーズのユニットが装着されている。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	使用できない A/QnA シリーズのユニットを取りはずす。		QnU（QnUDV，QnUDPV は除く）
2150	【SP. UNIT VER. ERR.】 マルチ CPU システムで，マルチ CPU システムに未対応のインテリジェント機能ユニットの管理 CPU を 1 号機以外に設定している。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・マルチ CPU システム対応のインテリジェント機能ユニット（機能バージョン B 以降）に変更する。 ・マルチ CPU システム未対応のインテリジェント機能ユニットの管理 CPU を 1 号機に変更する。		Q00J/Q00/Q01 QnPH QnU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
2151	【SP. UNIT VER. ERR.】 二重化システムで二重化システム対応でない下記のユニットを装着した。 ・MELSECNET/H ユニット ・Ethernet ユニット ・CC-Link IEコントローラネットワークユニット **■付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- **■診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時／ PC 書込み時	二重化システム対応の下記のユニットを使用する。 ・MELSECNET/H ユニット ・Ethernet ユニット ・CC-Link IE コントローラネットワークユニット	RUN：消灯 ERR.：点滅 CPU 状態：停止	QnPRH
2170	【SYSTEM LAY ERR.】 認識できないユニットを接続した。 **■付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■診断タイミング** **電源 ON 時／リセット時**	・認識できないユニットを切り離す。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニット，入出力ユニット，インテリジェント機能ユニット，END カバー，分岐ユニット，または増設ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU
2171	【SYSTEM LAY ERR.】 ・分岐ユニットが CPU ユニット，または増設ユニットの右隣に装着されていない。 ・分岐ユニットがENDカバーの左隣に装着されていない。 **■付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- **■診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・分岐ユニットを CPU ユニット，または増設ユニットの右隣に装着する。 ・分岐ユニットを END カバーの左隣に装着する。		LCPU
2172	【SYSTEM LAY ERR.】 分岐ユニットが同一ブロックに 2 枚以上装着されている。 **■付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- **■診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・2 枚目以降の分岐ユニットを取りはずす。		
2173	【SYSTEM LAY ERR.】 ・基本ブロックの装着ユニット数が10ユニットを超えた。 ・増設ブロックの装着ユニット数が11ユニットを超えた。 **■付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（ブロック No.） ・個別情報：- **■診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・基本ブロックの装着ユニット数を 10 ユニット以内とする。 ・増設ブロックの装着ユニット数を 11 ユニット以内とする。		LCPU
2174	【SYSTEM LAY ERR.】 増設ブロックが 3 ブロックを超えている。 **■付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（ブロック No.） ・個別情報：- **■診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・増設ブロックを 3 ブロック以内とする。		L06CPU L06CPU-P L26CPU L26CPU-P L26CPU-BT L26CPU-PBT
	【SYSTEM LAY ERR.】 増設ブロックが 2 ブロックを超えている。 **■付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（ブロック No.） ・個別情報：- **■診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・増設ブロックを 2 ブロック以内とする。		L02SCPU L02SCPU-P L02CPU L02CPU-P

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
2175	【SYSTEM LAY ERR.】 増設システム構成で，増設システム未対応の END カバーが装着されている。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（ブロック No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・増設システム未対応の END カバーを，増設システム対応の END カバーに交換する。	RUN：消灯 ERR.：点滅 CPU 状態：停止	LCPU
2176	【SYSTEM LAY ERR.】 運転中に分岐ユニットへ増設ケーブルが装着された。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（ブロック No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・常時	・運転中に装着した増設ケーブルを取りはずす。		
2200	【MISSING PARA.】 ディップスイッチのパラメータ有効ドライブで指定したドライブにパラメータファイルがない。 ■付帯情報 ・共通情報：ドライブ名 ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ STOP → RUN 時	・ディップスイッチのパラメータ有効ドライブの設定をチェックし，修正する。 ・ディップスイッチのパラメータ有効ドライブで指定したドライブにパラメータファイルを設定する。		Qn(H) QnPH QnPRH
	【MISSING PARA.】 プログラムメモリにパラメータファイルがない。 ■付帯情報 ・共通情報：ドライブ名 ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ STOP → RUN 時	プログラムメモリにパラメータファイルを設定する。		Q00J/Q00/Q01
	【MISSING PARA.】 パラメータが有効となる全ドライブ中にパラメータファイルがない。 ■付帯情報 ・共通情報：ドライブ名 ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ STOP → RUN 時	有効とするドライブにパラメータファイルを設定する。		QnU
	【MISSING PARA.】 ・SD メモリカードのパラメータファイル使用時，SM606（SD メモリカード強制使用停止指示）により，使用停止状態となっている。 ・SD メモリカードのパラメータファイル使用時，CPU ユニットをロックしているため，使用できない。 ■付帯情報 ・共通情報：ドライブ名 ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ PC 書込み時	・SD メモリカード強制使用停止解除指示を行う。 ・SD メモリカード以外のドライブにパラメータファイルを設定する。		QnUDV QnUDPV
	【MISSING PARA.】 ・パラメータが有効となる全ドライブ中にパラメータファイルがない。 ・SD メモリカード内のパラメータファイル使用時，SM606（SD メモリカード強制使用停止指示）により，使用停止状態となっている。 ■付帯情報 ・共通情報：ドライブ名 ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ STOP → RUN 時	・有効とするドライブにパラメータファイルを設定する。 ・SD メモリカード強制使用停止解除指示を行う。		LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
2210	【BOOT ERROR】 ・ブートファイルの内容がおかしい。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ドライブ名 ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	ブート設定を見直す。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
2211	【BOOT ERROR】 ブート時におけるフォーマット処理に失敗した。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ドライブ名 ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・再度ブートを行う。 ・CPU ユニットハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		Qn(H) QnPRH QnU LCPU
2213	【BOOT ERROR】 SD メモリカードからプログラムメモリ／標準 ROM にファイルをブートしたが，下記のいずれかの要因により CPU ユニットにファイルをブートできなかった。 ・転送元ファイルと転送先ファイルのファイルパスワード 32 のパスワードが一致しない。 ・転送元ファイルにファイルパスワード32の設定がなく，転送先ファイルにファイルパスワード 32 の設定がある。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・転送元ファイル，転送先ファイルのファイルパスワード 32 の設定を見直す。 ・SD メモリカードのパラメータファイルからブート設定を削除する。		QnUDV QnUDPV LCPU
2214	【BOOT ERROR】 CPU ユニットがロックされている。 **■ 付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	メモリーカードによる CPU ユニット交換機能を使用する場合は，CPU ユニットをロックしないようにする。		QnUDV QnUDPV
2220	【RESTORE ERROR】 ・デバイスデータバックアップ機能でバックアップしたデバイス情報（点数）と，PC パラメータのデバイス点数が異なる。 本エラー発生後，バックアップした時点のデバイス点数が PC パラメータのデバイス点数と一致するかまたはバックアップデータを削除するまで電源 ON ／リセットごとにリストアを行う。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・PC パラメータのデバイス点数設定をバックアップした時点のデバイス点数と一致するように設定してから電源 OFF → ON またはリセットを行う。 ・バックアップデータを削除して電源 OFF → ON，リセットを行う。		QnU LCPU
2221	【RESTORE ERROR】 ・デバイスデータバックアップ機能でバックアップしたデバイス情報が不完全な状態である。（バックアップ実行中に電源 OFF またはリセットを行った可能性がある。） 本エラー発生時は，データ復帰は行わない。また，本エラー発生時に不完全な状態のデバイス情報は削除する。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。		

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
2225	【RESTORE ERROR】 リストア先の CPU ユニットが，バックアップ元の CPU ユニットと同一形名でない。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	バックアップ元の CPU ユニットと同一形名の CPU ユニットでリストアを実行する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QnU LCPU
2226	【RESTORE ERROR】 ・バックアップデータファイルが壊れている。（バックアップデータファイルの内容がチェックコードと一致しない。） ・SRAM カードからのバックアップデータの読出しが正常完了しなかった。 ・SRAM カードのライトプロテクトスイッチが有効（書込み禁止）となっており，“初回のみリストアする” 設定を有効にできない。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・バックアップデータが壊れている可能性があるため，他のバックアップデータを使用し，リストアを行う。 ・SRAM カードのライトプロテクトスイッチを無効（書込み許可）にする。		QnU（QnUDV，QnUDPV は除く）
	【RESTORE ERROR】 ・バックアップデータファイルが壊れている。（バックアップデータファイルの内容がチェックコードと一致しない。） ・SD メモリカードからのバックアップデータの読出しが正常完了しなかった。 ・SD メモリカードのライトプロテクトスイッチが有効（書込み禁止）となっており，“初回のみリストアする” 設定を有効とできない。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・バックアップデータが壊れている可能性があるため，他のバックアップデータを使用し，リストアを行う。 ・SD メモリカードのライトプロテクトスイッチを無効（書込み許可）にする。		QnUDV QnUDPV LCPU
2227	【RESTORE ERROR】 リストア先ドライブへのバックアップデータ書込みが正常完了しなかった。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	CPU ユニットが故障している可能性があるため，他の CPU ユニットに対しリストアを再度実行する。		QnU LCPU
2228	【RESTORE ERROR】 リストア先の標準 RAM 容量が不足している。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・拡張 SRAM カセットを装着する。 ・より容量の大きい拡張 SRAM カセットと交換する。		QnUDV QnUDPV
2229	【RESTORE ERROR】 CPU ユニットがロックされている。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	メモリカードによる CPU ユニット交換機能を使用する場合は，CPU ユニットをロックしないようにする。		QnUDV QnUDPV

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
2240	【LOAD ERROR】 ロード先の CPU ユニットがロード元の CPU ユニットと同一形名でない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	ロード元の CPU ユニットと同一形名の CPU ユニットで自動ローディングを実行する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	LCPU
2241	【LOAD ERROR】 SD メモリカードからの一括セーブ／ロードデータの読出しが正常完了しなかった。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	一括セーブ／ロードデータが壊れている可能性があるため，他のデータを使用し，ロードを行う。		
2242	【LOAD ERROR】 ロードフォルダにシステムファイル（SVLDINF.QSL）が存在しない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	システムファイル（SVLDINF.QSL）が存在するロードフォルダを指定して実行する。		
2243	【LOAD ERROR】 ロード先のファイルとロード元のファイルのファイルパスワード 32 が一致しない。または，ロード元のファイルにファイルパスワード 32 の設定がなく，ロード先のファイルに設定がある。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	ロード先とロード元のファイルのファイルパスワード 32 を一致させて実行する。		
2244	【LOAD ERROR】 ・SD909（自動ローディング対象フォルダ No.）で No.1 ～ 99 指定時に，合致するフォルダが SD メモリカード内に存在しない。 ・SD909（自動ローディング対象フォルダ No.）指定時に，範囲外の値（0 ～ 99 以外）が設定されている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・SD909（自動ローディング対象フォルダ No.）の No. に合致するフォルダを格納して実行する。 ・SD909（自動ローディング対象フォルダ No.）に範囲内の値を格納して実行する。		
2245	【LOAD ERROR】 ロード先ドライブへの一括セーブ／ロードデータ書込みが正常完了しなかった。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	CPU ユニットが故障している可能性があるため，他の CPU ユニットに対しロードを再度実行する。		

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
2246	【LOAD ERROR】 ・SD909（自動ローディング対象フォルダ No.）で No.1 ～ 99 指定時に，SD メモリカードが装着されていない。 ・SD909（自動ローディング対象フォルダ No.）で No.1 ～ 99 指定時に，SD メモリカード使用停止スイッチを下方向にスライドしていない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・SD メモリカードを装着して実行する。 ・SD メモリカード使用停止スイッチを上方向にスライドして実行する。	RUN：消灯 ERR.：点滅 CPU 状態：停止	LCPU
2247	【LOAD ERROR】 ・自動ローディング後，メモリ容量が CPU ユニット，SD メモリカードの格納可能な最大容量を超える。 ・自動ローディング後，ファイル本数が CPU ユニット，SD メモリカードの格納可能な最大本数を超える。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・メモリ容量が格納可能な最大容量を超えない状態で実行する。 ・ファイル本数が格納可能な最大本数を超えない状態で実行する。		
2248	【LOAD ERROR】 SD メモリカードが書込み禁止状態で自動ローディングを実行した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	SD メモリカードの書込み禁止状態を解除して実行する。		
2300	【ICM. OPE. ERROR】 ・SM609（カード脱着許可フラグ）を ON せずにメモリカードを抜き取った。 ・SM600（メモリカード使用可フラグ）が ON 中にメモリカードを抜き取った。 ■付帯情報 ・共通情報：ドライブ名 ・個別情報：- ■診断タイミング ・メモリカード着脱時	・SM609（カード脱着許可フラグ）を ON にしてから，メモリカードを抜き取る。 ・SM600（メモリカード使用可フラグ）が OFF であることを確認してから，メモリカードを抜き取る。	RUN：消灯／点灯 ERR.：点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行*1	Qn(H) QnPH QnPRH QnU（QnUDV，QnUDPV は除く）
	【ICM. OPE. ERROR】 ・SD メモリカードを使用停止状態にせずに，SD メモリカードを抜き取った。 ■付帯情報 ・共通情報：ドライブ名 ・個別情報：- ■診断タイミング ・SD メモリカード着脱時	・SD メモリカードを使用停止状態にしてから，SD メモリカードを抜き取る。		QnUDV QnUDPV LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
2301	【ICM. OPE. ERROR】 ・メモリカードまたは SD メモリカードがフォーマットされていない。 ・メモリカードまたは SD メモリカードのフォーマット状態がおかしい。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ドライブ名 ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・メモリカード着脱時	・メモリカードまたは SD メモリカードをフォーマットする。 ・メモリカードまたは SD メモリカードを再フォーマットする。 Flash カードの場合，下記のいずれかの手段により Flash カードにデータを書込む。 1) プログラムメモリの ROM 化 2) PC 書込（フラッシュ ROM） 3) Flash カードへのバックアップ 4) 外部機器（メモリカードライタなど）によるイメージデータ書込み 再度同じエラーを検出した場合は，メモリカードまたは SD メモリカードの異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行*1	Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
	【ICM. OPE. ERROR】 ・SD メモリカードのフォーマットに失敗した。 ・SD メモリカードの異常を検出した。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ドライブ名 ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・メモリカード着脱時	・SD メモリカードをフォーマットする。 ・SD メモリカードを再フォーマットする。 ・SD メモリカードを挿入し直す。 ・SD メモリカードを交換する。		QnUDV QnUDPV
	【ICM. OPE. ERROR】 ・Flash カード内に QCPU のファイルが存在しない。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ドライブ名 ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・メモリカード着脱時	・Flash カードに QCPU のファイルを書き込む。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU
	【ICM. OPE. ERROR】 ・SRAM カードの異常を検出した。（自動フォーマットしないを設定した場合に発生する） ・ファイルレジスタ設定中のフラッシュカードに書込みを実施した。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ドライブ名 ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・メモリカード着脱時／メモリカード書込み時	・SRAM カードのバッテリを交換後，SRAM カードをフォーマットする。 ・ファイルレジスタを「使用しない」に設定したパラメータを CPU ユニットに書込み後，操作を行う。		QnU（QnUDV，QnUDPV は除く）
2302	【ICM. OPE. ERROR】 CPU ユニットで使用できないメモリカードまたは SD メモリカードを装着した。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ドライブ名 ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・メモリカード着脱時	・メモリカードまたは SD メモリカードをフォーマットする。 ・メモリカードまたは SD メモリカードを再フォーマットする。 ・メモリカードまたは SD メモリカードをチェックする。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
2350	【CASSETTE ERROR】 CPU ユニットの電源 ON 中に，拡張 SRAM カセットの着脱を行った。 **■ 付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・常時	・動作中に拡張 SRAM カセットの着脱を行わないようにする。 ・拡張 SRAM カセットの CPU ユニット装着状態を確認する。 ・再度同じエラーを表示した場合は拡張 SRAM カセットの異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QnUDV QnUDPV

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
2351	【CASSETTE ERROR】 装着されている拡張 SRAM カセットの異常を検出した。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・常時	・拡張SRAMカセットのCPUユニット装着状態を確認する。 ・再度同じエラーを表示した場合は拡張 SRAM カセットの異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QnUDV QnUDPV
2352	【CASSETTE ERROR】 対応していない拡張 SRAM カセットが装着されている。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・QnUDVCPU，QnUDPVCPU に対応した拡張 SRAM カセットに交換する。		QnUDV QnUDPV
2400	【FILE SET ERROR】 標準 ROM への自動書込みが未対応の CPU ユニットで，標準 ROM への自動書込みを実行した。（ブートファイルで標準 ROM への自動書込み選定を行ったメモリカードを装着し，ディップスイッチのパラメータ有効ドライブをメモリカードに設定した。） ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・標準 ROM への自動書込みに対応した CPU ユニットで，標準 ROM への自動書込みを実行する。 ・プログラミングツールを使用し，標準 ROM へのパラメータ，プログラムの書込みを行う。 ・標準 ROM への自動書込みを設定していないメモリカードと交換し，メモリカードからのブート運転を行う。		Qn(H) QnPH QnPRH
	【FILE SET ERROR】 パラメータで指定したファイルが存在しない。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源ON時／リセット時／PC書込み時／STOP → RUN 時	エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（パラメータ No.）に対応したパラメータ項目のドライブ名，ファイル名をチェックし，修正する。指定したファイルを作成し，CPU ユニットに書き込む。		QCPU（QnUDV，QnUDPV は除く）
	【FILE SET ERROR】 ・パラメータで指定したファイルが存在しない。 ・SD メモリカード内のファイル使用時，SM606（SD メモリカード強制使用停止指示）により，使用停止状態となっている。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源ON時／リセット時／PC書込み時／STOP → RUN 時	・エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（パラメータ No.）に対応したパラメータ項目のドライブ名，ファイル名をチェックし，修正する。指定したファイルを作成し，CPU ユニットに書き込む。 ・SD メモリカード強制使用停止解除指示を行う。		QnUDV QnUDPV LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
2401	【FILE SET ERROR】 ブート操作および標準 ROM への自動書き込み操作により，プログラムメモリの容量を超えた。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ **診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時／ PC 書込み時	・パラメータ（ブート設定）をチェックし，修正する。 ・プログラムメモリ内の不要なファイルを削除する。 ・パラメータでブート時 “ プログラムメモリをクリアする ” を選択し，プログラムメモリをクリアしてからブートするようにする。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH QnPRH
	【FILE SET ERROR】 ブート操作により，プログラムメモリの容量を超えた。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ **診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・パラメータ（ブート設定）をチェックし，修正する。 ・プログラムメモリ内の不要なファイルを削除する。 ・パラメータでブート時 “ プログラムメモリをクリアする ” を選択し，プログラムメモリをクリアしてからブートするようにする。		QnU LCPU
	【FILE SET ERROR】 パラメータで指定したファイルが作成できない。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ **診断タイミング** ・電源ON時／リセット時／PC書込み時／STOP → RUN 時	・エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（パラメータ No.）に対応したパラメータ項目のドライブ名，ファイル名，サイズをチェックし，修正する。 ・該当ドライブをフォーマットする。 ・該当ドライブ内の不要なファイルを削除し，空き容量を確保する。		QCPU LCPU
	【FILE SET ERROR】 ・PC ファイル設定でデバイスデータ格納用ファイルを使用する設定が行われているが，標準 ROM にデバイスデータ格納用ファイルを作成するのに必要な空き容量がない。 ・標準 ROM へのラッチデータバックアップ機能で，標準 ROM にバックアップデータを格納するために必要な空き容量がない。（エラー個別情報のパラメータ No. には $FFFF_H$ を表示する。） ■ **付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ **診断タイミング** ・電源ON時／リセット時／PC書込み時／STOP → RUN 時	標準 ROM の空き容量を確保する。		QnU LCPU
	【FILE SET ERROR】 ・標準 RAM の容量が不足しているため，ユニットエラー履歴を標準 RAM 上に作成できない。 ・標準 RAM の容量が不足しているため，ファイルレジスタを標準 RAM 上に作成できない。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ **診断タイミング** ・電源ON時／リセット時／PC書込み時／STOP → RUN 時	標準 RAM の空き容量を確保する。		
2406	【FILE SET ERROR】 PC パラメータのデバイス設定のファイルレジスタ拡張設定で，拡張データレジスタ，拡張リンクレジスタを使用している場合に，PC ファイル設定のファイルレジスタ容量よりもファイルレジスタファイルのサイズが小さい。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ **診断タイミング** ・STOP → RUN 時	・PCパラメータのPCファイル設定のファイルレジスタ容量をチェックし，ファイルレジスタファイルのサイズを見直す。 ・PC パラメータのデバイス設定のファイルレジスタ拡張設定を見直す。		

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
2410	【FILE OPE. ERROR】 ・指定したプログラムがプログラムメモリ内に存在しない。 ・ECALL，EFCALL，PSTOP，PSCAN，POFF，PLOW 命令実行にて発生することがある。 ・指定したファイルが存在しない。 ・PC パラメータの PC ファイル設定で必要なファイルが設定されていない。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：プログラムエラー箇所 ■ **診断タイミング** ・命令実行時	・エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したプログラムをチェックし，修正する。指定したファイルを作成し，CPU ユニットに書き込む。 ・指定したファイルが存在しない場合には，ファイルを対象メモリに書き込む。または，命令でのファイル指定を見直す。 ・PCパラメータのPCファイル設定で必要なファイルを設定する。	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行 * 1	Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
2411	【FILE OPE. ERROR】 ・プログラムで指定できないファイル（コメントファイルなど）である。 ・指定したプログラムがプログラムメモリ内に存在するが，パラメータのプログラム設定に登録していない。ECALL, EFCALL, PSTOP, PSCAN，POFF，PLOW 命令実行にて発生することがある。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：プログラムエラー箇所 ■ **診断タイミング** ・命令実行時	エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したプログラムをチェックし，修正する。		
2412	【FILE OPE. ERROR】 プログラムで指定できない SFC プログラムファイルである。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：プログラムエラー箇所 ■ **診断タイミング** ・命令実行時	エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したプログラムをチェックし，修正する。		
2413	【FILE OPE. ERROR】 プログラムで指定したファイルにデータが書き込めなかった。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：プログラムエラー箇所 ■ **診断タイミング** ・命令実行時	エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したプログラムをチェックし，修正する。指定したファイルが書込み禁止になっていないか確認する。		Qn(H) QnPH QnPRH
2500	【CAN'T EXE. PRG.】 ・PC パラメータのデバイス設定で設定したデバイス割付けの範囲外のデバイスを使用しているプログラムファイルが存在する。 ・PC パラメータのデバイス設定を変更した後，パラメータのみ PC 書込した。 ・SFC プログラムが存在するが，PC パラメータのデバイス設定においてステップリレーの点数が不足している。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（ファイル名）に対応したプログラムファイルのデバイス割付けと，PC パラメータのデバイス設定のデバイス割付けをチェックし，修正する。 ・PC パラメータのデバイス設定を変更した場合，パラメータとプログラムファイルを一括して PC 書込する。 ・SFC プログラムを使用する場合，ステップリレーの点数を適切な値に設定する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
2500	【CAN'T EXE. PRG.】 ・PC パラメータのインデックス修飾設定を変更した後，パラメータのみ PC 書込みした。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・PC パラメータのインデックス修飾設定を変更した場合，パラメータとプログラムファイルを一括して PC 書込する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QnU LCPU
2501	【CAN'T EXE. PRG.】 PC パラメータのプログラム設定が “ なし ” に設定されているのに，複数のプログラムファイルが存在する。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	PC パラメータのプログラム設定を “ あり ” に修正する。 または，不要のプログラムファイルを削除する。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
	【CAN'T EXE. PRG.】 ・プログラムファイルが 3 本以上ある。 ・プログラム名とプログラム内容が異なっている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・不要のプログラムファイルを削除する。 ・プログラム名とプログラム内容を合わせる。		Q00J/Q00/Q01
2502	【CAN'T EXE. PRG.】 プログラムファイルが正しくない。 または，ファイルの内容がプログラムでない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	プログラムファイルの種別が＊＊＊.QPG であるかチェックし，ファイルの内容がプログラムであるかチェックする。		QCPU LCPU
	【CAN'T EXE. PRG.】 プログラムファイルが二重化 CPU 用に作成したプログラムファイルでない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	PC タイプを二重化 CPU 用 (Q12PRH/Q25PRH) に設定した GX Developer または PX Developer によりプログラムを作成して，CPU ユニットに PC 書込を行う。		QnPRH
2503	【CAN'T EXE. PRG.】 プログラムファイルが 1 本も存在していない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・プログラム構成を確認する。 ・パラメータとプログラム構成を確認する。		QCPU LCPU
2504	【CAN'T EXE. PRG.】 SFC プログラムの通常プログラムおよび管理プログラムを 2 本以上実行した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源ON時/リセット時/STOP→RUN時/SFCプログラム実行時	・プログラム構成を確認する。 ・パラメータとプログラム構成を確認する。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
2504	【CAN'T EXE. PRG.】 SFC プログラムが 2 本以上存在している。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	SFC プログラムを 1 本にする。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00J/Q00/Q01
2700	【REMOTE PASS.FAIL】 リモートパスワード不一致回数が上限に達した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	不正アクセスか確認する。不正アクセスの場合，該当コネクションの通信禁止などの処置を行う。不正アクセスでない場合，エラーをクリアし下記の項目を実施する。（エラーのクリアでリモートパスワード累積回数もクリアされる。） ・送信したリモートパスワードが正しいか確認する。 ・リモートパスワードのロック処理が行われているか確認する。 ・複数機器から UDP で 1 つのコネクションに同時アクセスしていないか確認する。 ・リモートパスワードの不一致上限値が極端に小さくないか確認する。	RUN：点灯 ERR.: 点灯 CPU 状態：続行	QnU * 3 LCPU * 3
2710	【SNTP OPE.ERROR】 シーケンサ電源 ON ／リセット時の時刻設定に失敗した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・時刻設定機能実行時	・時刻設定機能の設定が正しく設定されているか確認する。 ・指定した SNTP サーバが正常に動作しているか，指定した SNTP サーバ用パソコンまでのネットワークに障害が発生していないか確認する。	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行 * 1	
2720	【KEY AUTHEN. ERR.】 ・ファイルに設定されているセキュリティキーが壊れているため，CPU ユニットに設定されているセキュリティキーと一致しない。 ・CPU ユニットに設定されているセキュリティキーが壊れているため，ファイルに設定されているセキュリティキーと一致しない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット解除時 /STOP → RUN 時	・CPU ユニットにファイルを再度書き込む。 ・CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QnUDV QnUDPV
2900	【DISPLAY ERROR】 CPU ユニットの電源 ON 中に表示ユニットの着脱を行った。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	・動作中に表示ユニットの着脱を行わない。 ・表示ユニットの CPU ユニット装着状態を確認する。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットまたは表示ユニットの異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：点灯 ERR.: 点灯 CPU 状態：続行	LCPU
2901	【DISPLAY ERROR】 装着されている表示ユニットの異常を検出した。（イニシャル処理時） ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時	・表示ユニットの CPU ユニット装着状態を確認する。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットまたは表示ユニットの異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：点灯 ERR.: 点灯 CPU 状態：続行	LCPU
2902	【DISPLAY ERROR】 装着されている表示ユニットの異常を検出した。（稼動時） ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時			

＊1　エラー発生時の CPU ユニットの動作状態は，パラメータで設定可能です。（LED 表示も連動して変化します。）
＊2　パラメータ設定でインテリジェント機能ユニットごとにエラー停止／続行を選択できます。
＊3　Ethernet ポート内蔵 QCPU，Ethernet ポート内蔵 LCPU が対象です。
＊4　QnUDPVCPU は，AnS シリーズ用ユニットに対応していません。

付 1.5 エラーコード一覧（3000 ～ 3999）

エラーコード（3000 ～ 3999）のエラーメッセージ，異常内容と原因および処置方法について説明します。

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
3000	【PARAMETER ERROR】 マルチ CPU システムで，他号機が管理しているインテリジェント機能ユニットを，PC パラメータの割込ポインタ設定で指定している。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・自号機が管理しているインテリジェント機能ユニットの先頭入出力番号を指定する。 ・PC パラメータの割込ポインタ設定を削除する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH QnU
	【PARAMETER ERROR】 PC パラメータのタイマ時限設定，RUN-PAUSE 接点，共通ポインタ No.，一般データ処理，空きスロット点数，システム割込設定，ボーレート設定，サービス処理設定の各設定が CPU ユニットの使用可能な範囲に設定されていない。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時	・PCパラメータのI/O割付設定と装着しているユニットがあっているか確認する。 ・エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（パラメータ No.）に対応したパラメータ項目をチェックし，修正する。 ・修正したパラメータを再度 CPU ユニットに書込み，シーケンサの電源の再立上げ，または CPU ユニットのリセットを行う。 ・再度同じエラーが発生する場合は，ハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QCPU
	【PARAMETER ERROR】 プログラムメモリチェックにて，設定したチェック容量の設定が CPU ユニットの使用可能な範囲に設定されていない。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時			QnPH QnPRH
	【PARAMETER ERROR】 エラー個別情報（SD16）が示すパラメータの内容が不正である。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時			QCPU LCPU
	【PARAMETER ERROR】 PC ファイル設定でファイルレジスタの指定ドライブを “メモリカード（ROM ）” とし，「下記ファイルを指定する」もしくは「プログラムと同一」（どちらでも可）を設定し，実際のメモリカードスロットには ATA カードをセットした。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時			QnU （QnUDV，QnUDPV は除く）

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
3000	【PARAMETER ERROR】 PC パラメータのタイマ時限設定，RUN-PAUSE 接点，共通ポインタ No.，空きスロット点数，システム割込設定，サービス処理設定の各設定が CPU ユニットの使用可能な範囲に設定されていない。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時	・エラーの詳細情報をプログラミングツールで読出し，その数値（パラメータ No.）に対応したパラメータ項目をチェックし，修正する。 ・パラメータ修正後もエラーが発生するときは，CPU ユニットのプログラムメモリ／標準 RAM，SD メモリカードのメモリ異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	LCPU
3001	【PARAMETER ERROR】 パラメータの内容が壊れている。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時	・PCパラメータのI/O割付設定と装着しているユニットがあっているか確認する。 ・エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（パラメータ No.）に対応したパラメータ項目をチェックし，修正する。 ・修正したパラメータを再度 CPU ユニットに書込み，シーケンサの電源の再立上げ，または CPU ユニットのリセットを行う。 ・再度同じエラーが発生する場合は，ハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QCPU LCPU
3002	【PARAMETER ERROR】 PC パラメータの PC ファイル設定にてファイルレジスタで「下記ファイルを使用する」を選択した場合，ファイルレジスタの容量が設定されているのに，指定したファイルが存在しない。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時			Qn(H) QnPH QnPRH
	【PARAMETER ERROR】 PC パラメータの PC ファイル設定にてファイルレジスタで「下記ファイルを使用する」と設定し，かつファイルレジスタの容量を設定しなかった場合に，指定した対象メモリにファイルレジスタファイルが存在しない。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時			QnU LCPU
	【PARAMETER ERROR】 PC パラメータの PC ファイル設定にてデバイスデータ格納用ファイルを「下記ファイルを使用する」と設定し，かつ容量を設定しなかった場合に，対象メモリにデバイスデータ格納用ファイルが存在しない。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時			QnU LCPU
3003	【PARAMETER ERROR】 マルチ CPU システムの自動リフレッシュ範囲がファイルレジスタの容量を超えた。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・END 命令，COM 命令実行時	全範囲リフレッシュ可能なファイルレジスタファイルに変更する。		Qn(H) QnPH QnU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
3003	【PARAMETER ERROR】 PC パラメータのデバイス設定で設定したデバイス点数が CPU ユニットの使用可能な範囲に設定されていない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時	・エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（パラメータ No.）に対応したパラメータ項目をチェックし，修正する。 ・パラメータ修正後もエラーが発生するときは，CPU ユニットのプログラムメモリ，メモリカード，または SD メモリカードのメモリ異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU LCPU
3004	【PARAMETER ERROR】 パラメータファイルが正しくない。 または，ファイルの内容がパラメータでない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時	パラメータファイルの種別が＊＊＊.QPA であるかチェックし，ファイルの内容がパラメータであるかチェックする。		
3005	【PARAMETER ERROR】 パラメータの内容が壊れている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（パラメータ No.）に対応したパラメータ項目をチェックし，修正する。 ・修正したパラメータ項目を再度 CPU ユニットに書込み，シーケンサの電源を立上げ，または CPU ユニットをリセットする。 ・再度同じエラーが発生した場合は，ハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		Qn(H) QnPH QnPRH
3006	【PARAMETER ERROR】 ・Q02CPU に高速割込み設定をした。 ・マルチ CPU システムで高速割込み設定をした。 ・QA1S6 □ B/QA6 □ B 使用時に高速割込み設定をした。 ・高速割込み設定で設定した I/O アドレスにユニットが装着されていない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時	・Q02CPU の高速割込み設定を削除する。高速割込みを使用する場合は，CPU ユニットを Q02H/Q06H/Q12H/Q25HCPU に変更する。 ・マルチ CPU システムで使用する場合は，高速割込み設定を削除する。高速割込みを使用する場合は，シングル CPU システムにする。 ・QA1S6□B/QA6□B を使用する場合は，高速割込み設定を削除する。 ・高速割込みを使用する場合は，QA1S6 □ B/QA6 □ B を使用しない。 ・高速割込み設定で設定した I/O アドレスを見直す。		Qn(H)
	【PARAMETER ERROR】 ・高速割込み設定で設定した I/O アドレスにユニットが装着されていない，もしくは範囲外である。 ・高速バッファ転送で CPU 側デバイスの設定が範囲外となっている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時	・高速割込み設定で設定した I/O アドレスを見直す。 ・高速割込み設定で設定したバッファ範囲を見直す。		QnUDV QnUDPV
3007	【PARAMETER ERROR】 ディップスイッチのパラメータ有効ドライブ上のパラメータファイルが CPU ユニットで使用できるパラメータファイルでない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時	プログラミングツールでパラメータを作成して，ディップスイッチのパラメータ有効ドライブに指定したドライブにパラメータを書き込む。		QnPRH

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
3009	【PARAMETER ERROR】 マルチ CPU システムで，AnS 用，A 用，Q2AS 用，QnA 用のユニットを複数の管理 CPU に設定している。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時	1 台の CPU ユニットで管理するように PC パラメータの I/O 割付設定を変更する。（マルチ CPU システムの全号機の PC パラメータを変更する。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnU(QnUDPV は除く)
3010	【PARAMETER ERROR】 マルチ CPU システムで，PC パラメータの CPU ユニット台数が実装と異なる。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時	（マルチ CPU 設定の CPU 台数）－（I/O 割付の CPU（空き）設定）と CPU 実装枚数を合わせる。		Qn(H) QnPH
3012	【PARAMETER ERROR】 マルチ CPU システムで，マルチ CPU 設定，管理 CPU の設定が基準となる号機と異なっている。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時	PC パラメータのマルチ CPU 設定，管理 CPU の設定を基準となる号機（1 号機）と合わせる。		Q00/Q01 Qn(H) QnU
3013	【PARAMETER ERROR】 マルチ CPU システムで，マルチ CPU 自動リフレッシュ設定が下記のようになっている。 ・リフレッシュデバイスにビットデバイスを指定時，リフレッシュ先頭デバイスに 16 の倍数以外の番号が指定されている。 ・指定可能デバイス以外が指定されている。 ・送信点数が奇数である。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時	マルチ CPU 設定のリフレッシュ設定で下記の項目をチェックし，修正する。 ・ビットデバイスを指定時，リフレッシュ先頭デバイスに 16 の倍数を指定する。 ・リフレッシュデバイスで指定可能なデバイスを指定する。 ・送信点数を偶数に設定する。		Qn(H) QnPH
	【PARAMETER ERROR】 マルチ CPU システムで，マルチ CPU 自動リフレッシュ設定が下記のようになっている。 ・送信点数の合計が最大リフレッシュ点数を超えている。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時	マルチ CPU 設定のリフレッシュ設定で下記の項目をチェックし，修正する。 ・送信点数の合計が最大リフレッシュ点数を超えない範囲で設定する。		Q00/Q01
	【PARAMETER ERROR】 マルチ CPU システムで，マルチ CPU 自動リフレッシュ設定が下記のようになっている。 ・指定可能デバイス以外が指定されている。 ・送信点数が奇数である。 ・送信点数の合計が最大リフレッシュ点数を超えている。 ・リフレッシュ範囲を内部ユーザデバイスと拡張データレジスタ（D），拡張リンクレジスタ（W）の境界をまたいで設定した。 ・自号機の送信範囲に対してデバイスを設定していない。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時	マルチ CPU 設定のリフレッシュ設定で下記の項目をチェックし，修正する。 ・リフレッシュデバイスで指定可能なデバイスを指定する。 ・送信点数を偶数に設定する。 ・送信点数の合計が最大リフレッシュ点数を超えない範囲で設定する。 ・リフレッシュ範囲を内部ユーザデバイスと拡張データレジスタ（D），拡張リンクレジスタ（W）の境界をまたがないように設定する。 ・自号機の送信範囲にはリフレッシュ先デバイスを必ず指定する。送信範囲が必要ない場合，該当する送信範囲を削除する。		QnU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
3014	【PARAMETER ERROR】 ・マルチ CPU システムで，オンラインユニット交換パラメータ（マルチ CPU システムパラメータ）で，基準となる号機と設定内容が異なる。 ・マルチ CPU システムで，オンラインユニット交換パラメータをサポートしていない CPU ユニットが装着されているのに，オンラインユニット交換設定を許可にしている。 ・マルチ CPU システムで，オンラインユニット交換パラメータを変更した後，パラメータを PC 書込みした。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時 /PC 書込み時	・オンラインユニット交換パラメータを基準となる号機と合わせる。 ・オンラインユニット交換をサポートしていない CPU ユニットが装着されている場合は，オンラインユニット交換をサポートしている CPU ユニットに交換する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH QnU
3015	【PARAMETER ERROR】 マルチ CPU システム構成時，パラメータ設定が照合した号機と異なっている。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ／号機 No. **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /PC 書込み時	エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（パラメータ No./ 号機 No.）に対応したパラメータ項目，対象号機のパラメータをチェックし，修正してください。		QnU
3016	【PARAMETER ERROR】 マルチ CPU 同期立上げ設定について，マルチ CPU 間同期立上げに対応していない CPU ユニットを，同期立上げの対象に設定している。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ／号機 No. **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時	マルチ CPU 間同期立上げに対応していない CPU ユニットを，同期立上げの対象からはずして再設定する。		
3040	【PARAMETER ERROR】 パラメータファイルが壊れている。 **■ 付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時	PC パラメータ，ネットワークパラメータ，リモートパスワードをパラメータ有効ドライブに書込み後，システムの電源の再立上げ，または CPU ユニットのリセットを行う。 再度同じエラーが発生する場合は，ハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		Qn(H) QnPH QnPRH
3041	【PARAMETER ERROR】 インテリジェント機能ユニットパラメータファイルが壊れている。 **■ 付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時	インテリジェント機能ユニットパラメータをパラメータ有効ドライブに書込み後，システムの電源の再立上げ，または CPU ユニットのリセットを行う。 再度同じエラーが発生する場合は，ハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
3042	【PARAMETER ERROR】 リモートパスワード設定内容を格納したシステムファイルが壊れている。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時	・PC パラメータ，ネットワークパラメータ，リモートパスワードをパラメータ有効ドライブに書込み後，システムの電源の再立上げ，または CPU ユニットのリセットを行う。再度同じエラーが発生する場合は，ハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。） ・パラメータ有効ドライブを「プログラムメモリ」以外に設定している場合には，ブートファイル設定によりパラメータファイル (PARAM) をプログラムメモリに転送するように設定する。PC パラメータ，ネットワークパラメータ，リモートパスワードをパラメータ有効ドライブに書込み後，システムの電源の再立上げ，または CPU ユニットのリセットを行う。再度同じエラーが発生する場合は，ハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH QnPRH
3100	【LINK PARA. ERROR】 マルチ CPU システムで，CC-Link IE ユニットのネットワークパラメータの先頭入出力番号に，他号機に管理されている CC-Link IE ユニットが指定されている。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・他号機が管理している CC-Link IE ユニットのネットワークパラメータを削除する。 ・自号機が管理している CC-Link IE ユニットの先頭入出力番号に変更する。		Qn(H) QnPRH QnU
	【LINK PARA. ERROR】 通常局で動作中の CC-Link IE ユニットのネットワークパラメータを管理局に書き換えた。または，管理局で動作中の CC-Link IE ユニットのネットワークパラメータを通常局に書き換えた。（ネットワークパラメータは，リセットすることによりユニット側に反映される。） ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	CPU ユニットをリセットする。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
	【LINK PARA. ERROR】 ・CC-Link IE ユニットのネットワークパラメータのユニット枚数と実装枚数が異なる。 ・CC-Link IE ユニットのネットワークパラメータの先頭入出力番号が実装の入出力番号と異なる。 ・パラメータ中に扱えないデータがある。 ・電源 ON 中に CC-Link IE のネットワーク種別を書き換えた。（ネットワーク種別変更には RESET → RUN が必要） ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・ネットワークパラメータと実装状態を確認し，異なる場合はネットワークパラメータと実装状態を合わせる。ネットワークパラメータを修正した場合，CPU ユニットに書き込む。 ・増設ベースユニットの増設段数の設定を確認する。 ・増設ベースユニットおよび増設ケーブルの接続状態を確認する。GOT を基本ベースユニットまたは増設ベースユニットにバス接続している場合，その接続状態も確認する。 上記の確認を行ってもエラーが発生する場合はハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
3100	【LINK PARA. ERROR】 ・MELSECNET/H のネットワークパラメータの先頭入出力番号に，CC-Link IE ユニットが指定されている。 ・CC-Link IE ユニットのネットワークパラメータの先頭入出力番号に，MELSECNET/H ユニットが指定されている。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・ネットワークパラメータと実装状態を確認し，異なる場合はネットワークパラメータと実装状態を合わせる。ネットワークパラメータを修正した場合，CPU ユニットに書き込む。 ・増設ベースユニットの増設段数の設定を確認する。 ・増設ベースユニットおよび増設ケーブルの接続状態を確認する。GOT を基本ベースユニットまたは増設ベースユニットにバス接続している場合，その接続状態も確認する。 上記の確認を行ってもエラーが発生する場合はハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH QnPRH QnU
	【LINK PARA. ERROR】 ・CC-Link IE ユニットが装着されているのに，CC-Link IE ユニットのネットワークパラメータが設定されていない。 ・CC-Link IE ユニットと MELSECNET/H ユニットが装着されているのに，MELSECNET/H のネットワークパラメータが設定されていない。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・ネットワークパラメータと実装状態を確認し，異なる場合はネットワークパラメータと実装状態を合わせる。ネットワークパラメータを修正した場合，CPU ユニットに書き込む。 ・増設ベースユニットの増設段数の設定を確認する。 ・増設ベースユニットおよび増設ケーブルの接続状態を確認する。GOT を基本ベースユニットまたは増設ベースユニットにバス接続している場合，その接続状態も確認する。 上記の確認を行ってもエラーが発生する場合はハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		
	【LINK PARA. ERROR】 ・CC-Link IE ユニットが装着されているのに，CC-Link IE ユニットのネットワークパラメータが設定されていない。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・ネットワークパラメータと実装状態を確認し，異なる場合はネットワークパラメータと実装状態を合わせる。ネットワークパラメータを修正した場合，CPU ユニットに書き込む。 上記の確認を行ってもエラーが発生する場合はハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		LCPU
	【LINK PARA. ERROR】 マルチ CPU システムで，MELSECNET/H のネットワークパラメータの先頭入出力番号に，他号機に管理されている MELSECNET/H ユニットが指定されている。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・他号機が管理している MELSECNET/H ユニットのネットワークパラメータを削除する。 ・自号機が管理している MELSECNET/H ユニットの先頭入出力番号に変更する。		Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnU
	【LINK PARA. ERROR】 通常局で動作中の MELSECNET/H ユニットのネットワークパラメータを管理局に書き換えた。または，管理局で動作中の MELSECNET/H ユニットのネットワークパラメータを通常局に書き換えた。（ネットワークパラメータは，リセットすることによりユニット側に反映される。） ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	CPU ユニットをリセットする。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
3100	【LINK PARA. ERROR】 ・MELSECNET/H のネットワークパラメータのユニット枚数と実装枚数が異なる。 ・MELSECNET/H のネットワークパラメータの先頭入出力番号が実装の入出力番号と異なる。 ・パラメータ中に扱えないデータがある。 ・電源 ON 中に MELSECNET/H のネットワーク種別を書き換えた。(ネットワーク種別変更には RESET → RUN が必要) ・MELSECNET/H ユニットのモードスイッチが範囲外である。 **■付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. **■診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・ネットワークパラメータと実装状態を確認し，異なる場合はネットワークパラメータと実装状態を合わせる。ネットワークパラメータを修正した場合，ネットワークパラメータを CPU ユニットに書き込む。 ・増設ベースユニットの増設段数の設定を確認する。 ・増設ベースユニットおよび増設ケーブルの接続状態を確認する。GOT を基本ベースユニットまたは増設ベースユニットにバス接続している場合，その接続状態も確認する。 ・MELSECNET/H ユニットのモードスイッチを範囲内に設定する。 上記の確認を行ってもエラーが発生する場合は，ハードウェア異常。(最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。)	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU
	【LINK PARA. ERROR】 ネットワークパラメータで設定した項目に対応していないバージョンの CC-Link IE ユニットを装着した。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（パラメータ No.）に対応したパラメータ項目をチェックし，修正する。 ・ネットワークパラメータで設定した項目に対応したバージョンの CC-Link IE ユニットを装着する。		QnU LCPU
3101	【LINK PARA. ERROR】 リンクリフレッシュ範囲がファイルレジスタの容量を超えた。 **■付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. **■診断タイミング** ・END 命令，COM 命令実行時	・全範囲リフレッシュ可能なファイルレジスタファイルに変更する。 ・ファイルレジスタの容量を増やす。または，リンクリフレッシュ範囲を減らす。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
	【LINK PARA. ERROR】 ・MELSECNET/H ユニットの局番が 0 のとき, PC 間ネットワークのパラメータが設定されている。 ・MELSECNET/H ユニットの局番が 0 以外のとき，リモートマスタのパラメータが設定されている。 **■付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. **■診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	使用するシステムに合わせ，ネットワークパラメータの MELSECNET/H ユニットの種別または局番を修正する。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU
	【LINK PARA. ERROR】 CC-Link IE ユニットのリフレッシュパラメータが範囲外になっている。 **■付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. **■診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	ネットワークリフレッシュ範囲がデバイス設定範囲を超えないように設定する。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU

<table>
<tr><th>エラーコード</th><th>異常内容と原因</th><th>処置方法</th><th>LED 状態,
CPU 状態</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td rowspan="5">3101</td><td>【LINK PARA. ERROR】
・MELSECNET/H，MELSECNET/10 のリフレッシュパラメータが範囲外になっている。
・ネットワークリフレッシュ範囲を内部ユーザデバイスと拡張 D，W デバイスの境界をまたいで設定した。
■ 付帯情報
・共通情報：ファイル名／ドライブ名
・個別情報：パラメータ No.
■ 診断タイミング
・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時</td><td>・ネットワークリフレッシュ範囲がデバイス設定範囲を超えないように設定する。
・ネットワークリフレッシュ範囲を内部ユーザデバイスと拡張 D，W デバイスの境界をまたがないように設定する。</td><td rowspan="5">RUN：消灯
ERR.: 点滅

CPU 状態：停止</td><td>QCPU</td></tr>
<tr><td>【LINK PARA. ERROR】
MELSECNET/H 多重リモート I/O ネットに対応していないユニットで多重リモート I/O ネット機能を実施した。
■ 付帯情報
・共通情報：ファイル名／ドライブ名
・個別情報：パラメータ No.
■ 診断タイミング
・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時</td><td>MELSECNET/H 多重リモート /O ネットに対応したユニットを装着する。</td><td>QnPH</td></tr>
<tr><td>【LINK PARA. ERROR】
・CPU ユニットで A 系側の MELSECNET/H リモートマスタ局が局番 0 以外である。
・CPU ユニットで B 系側の MELSECNET/H リモートマスタ局が局番 0 である。
■ 付帯情報
・共通情報：ファイル名／ドライブ名
・個別情報：パラメータ No.
■ 診断タイミング
・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時</td><td>・CPU ユニットで A 系側の MELSECNET/H リモートマスタ局を局番 0 にする。
・CPU ユニットで B 系側の MELSECNET/H リモートマスタ局を局番 1 ～ 64 にする。</td><td>QnPRH</td></tr>
<tr><td>【LINK PARA. ERROR】
MELSECNET/H のパラメータが未設定の場合に，PC パラメータのデバイス設定の B/W のデバイス点数が下表の B/W リフレッシュデバイス点数未満のため，MELSECNET/H とのリフレッシュができない。
<table>
<tr><th colspan="2">リフレッシュデバイス</th><th>Bデバイスのリフレッシュデバイス点数</th><th>Wデバイスのリフレッシュデバイス点数</th></tr>
<tr><td rowspan="4">ネットワークユニット装着枚数</td><td>1枚</td><td>8192点
（8192点×1ユニット）</td><td>8192点
（8192点×1ユニット）</td></tr>
<tr><td>2枚</td><td>8192点
（4096点×2ユニット）</td><td>8192点
（4096点×2ユニット）</td></tr>
<tr><td>3枚</td><td>6144点
（2048点×3ユニット）</td><td>6144点
（2048点×3ユニット）</td></tr>
<tr><td>4枚</td><td>8192点
（2048点×4ユニット）</td><td>8192点
（2048点×4ユニット）</td></tr>
</table>
■ 付帯情報
・共通情報：ファイル名／ドライブ名
・個別情報：パラメータ No.
■ 診断タイミング
・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時</td><td>PC パラメータのデバイス設定の B/W のデバイス点数に合わせて，MELSECNET/H のリフレッシュパラメータを設定する。</td><td>Qn(H)
QnPH
QnPRH
QnU</td></tr>
<tr><td>【LINK PARA. ERROR】
ネットワークリフレッシュ範囲を内部ユーザデバイスと拡張データレジスタ (D)，拡張リンクレジスタ (W) の境界をまたいで設定した。
■ 付帯情報
・共通情報：ファイル名／ドライブ名
・個別情報：パラメータ No.
■ 診断タイミング
・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時</td><td>ネットワークリフレッシュ範囲を内部ユーザデバイスと拡張データレジスタ (D)，拡張リンクレジスタ (W) の境界をまたがないように設定する。</td><td>QnU
LCPU</td></tr>
</table>

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
3102	【LINK PARA. ERROR】 CC-Link IE ユニットのネットワークパラメータの異常を検出した。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・ネットワークパラメータを修正後，書き込む。 ・修正後もエラーが発生した場合は，ハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
	【LINK PARA. ERROR】 ・ネットワークユニットがネットワークパラメータの異常を検出した。 ・MELSECNET/H のネットワークパラメータの異常を検出した。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時			QCPU
	【LINK PARA. ERROR】 ペアリング設定された局番が正しくない。 ・局番が連番ではない。 ・通常局の CPU ユニットに対してペアリング設定されていない。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	ネットワークユニットのトラブルシューティングを参照し，ペアリング設定によるエラーならばネットワークパラメータのペアリング設定を見直す。		QnPRH
	【LINK PARA. ERROR】 シリアル No. の上 5 桁が “09041” 以前の CC-Link IE コントローラネットワークユニットを装着した。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	シリアル No. の上 5 桁が “09042” 以降の CC-Link IE コントローラネットワークユニットを装着する。		QnU
	【LINK PARA. ERROR】 ・管理局と通常局に異なるネットワーク種別（CC IE Control 拡張モード／通常モード）を設定している。 ・送信点数拡張非対応の CPU ユニットにネットワーク種別が CC IE Control 拡張モードのパラメータをブートした。 ・送信点数拡張非対応の CPU ユニットにメモリカードまたは GOT 内にバックアップされた CC IE Control 拡張モードのパラメータをリストアした。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・管理局と通常局に同一のネットワーク種別（CC IE Control 拡張モード／通常モード）を設定する。 ・ネットワーク種別が CC IE Control 拡張モードのパラメータを送信点数拡張機能非対応の CPU ユニットで使用しない。または，同一ネットワーク内の CPU ユニットおよび CC-Link IE コントローラネットワークユニットを送信点数拡張機能対応品で構成する。		QnU
	【LINK PARA. ERROR】 グループサイクリック機能に対応していない CC-Link IE コントローラネットワークに対し，グループサイクリック機能の設定を行った。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	機能バージョン D 以降の CC-Link IE コントローラネットワークに対してグループサイクリック機能の設定を行う。		QnU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
3102	【LINK PARA. ERROR】 二重化 CPU 以外の CPU に装着されている CC-Link IE コントローラネットワークユニットに対してペアリング設定を行った。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	管理局のネットワークパラメータのペアリング設定を見直してください。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnU
	【LINK PARA. ERROR】 ネットワークパラメータで設定した項目に対応していない CC-Link IE ユニットを装着した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・ネットワークパラメータ修正後，書き込む。 ・ネットワークパラメータで設定した項目に対応した CC-Link IE ユニットを装着する。		QnU
	【LINK PARA. ERROR】 ・LB/LW の自局送信範囲を LB/LW4000 以降に設定した。 ・LB/LW 設定（2）に設定した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	管理局のネットワークパラメータのネットワーク範囲割付けを見直してください。		Q00J/Q00/Q01
3103	【LINK PARA. ERROR】 マルチ CPU システムで，Ethernet のネットワークパラメータの先頭入出力番号に，他号機に管理されている Ethernet ユニットが指定されている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・他号機が管理している Ethernet ユニットのネットワークパラメータを削除する。 ・自号機が管理している Ethernet ユニットの先頭入出力番号に変更する。		Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnU
	【LINK PARA. ERROR】 ・Ethernetのネットワークパラメータのユニット枚数を1枚以上設定していたのにもかかわらず，実装枚数が 0 枚である。 ・Ethernet のネットワークパラメータの先頭入出力番号が実装の入出力番号と異なる。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・ネットワークパラメータを修正後，書き込む。 ・修正後もエラーが発生した場合は，ハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QCPU LCPU
	【LINK PARA. ERROR】 ・二重化システムで，ネットワーク種別設定を “Ethernet（基本ベース）” に設定した Ethernet ユニットが，増設ベースユニットに装着されている。 ・二重化システムで，ネットワーク種別設定を “Ethernet（増設ベース）” に設定した Ethernet ユニットが，基本ベースユニットに装着されている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時			QnPRH

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
3104	【LINK PARA. ERROR】 ・Ethernet，MELSECNET/H，MELSECNET/10 で同一ネットワーク No. を使用している。 ・ネットワークパラメータで設定されたネットワーク No.，局番，グループ No. が範囲外になっている。 ・入出力番号指定が使用している CPU ユニットの範囲外になっている。 ・Ethernet ユニットのパラメータの内容が正常でない。 **■付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. **■診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・ネットワークパラメータを修正後，書き込む。 ・修正後もエラーが発生した場合は，ハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU
	【LINK PARA. ERROR】 ・ネットワークパラメータで設定された Ethernet ユニットのネットワーク No.，局番，グループ No. が範囲外になっている。 ・ネットワークパラメータで設定された Ethernet ユニットの先頭 I/O No. が範囲外になっている。 ・Ethernet ユニットのパラメータの内容が正常でない。 **■付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. **■診断タイミング** **電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時**			LCPU
3105	【LINK PARA. ERROR】 マルチ CPU システムで，CC-Link のネットワークパラメータの先頭入出力番号に，他号機に管理されている CC-Link ユニットが指定されている。 **■付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. **■診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・他号機が管理している CC-Link ユニットのネットワークパラメータを削除する。 ・自号機が管理している CC-Link ユニットの先頭入出力番号に変更する。		Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnU
	【LINK PARA. ERROR】 ・CC-Linkのネットワークパラメータのユニット枚数を1枚以上設定したにもかかわらず実装枚数が 0 枚である。共通パラメータの先頭入出力番号が実装入出力番号と異なる。 ・CC-Link のネットワークパラメータの局種別が不一致。 **■付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. **■診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・ネットワークパラメータを修正後，書き込む。 ・修正後もエラーが発生した場合は，ハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		L02SCPU L02SCPU-P L02CPU L02CPU-P L06CPU L06CPU-P L26CPU L26CPU-P
	【LINK PARA. ERROR】 ・CC-Linkのネットワークパラメータのユニット枚数を2枚以上設定したにもかかわらず実装枚数が 1 枚である。共通パラメータの先頭入出力番号が実装入出力番号と異なる。 ・CC-Link のネットワークパラメータの局種別が不一致。 **■付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. **■診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時			L26CPU-BT L26CPU-PBT

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
3105	【LINK PARA. ERROR】 ・二重化システムで，局種別設定を “マスタ局（二重化機能対応）” に設定した CC-Link ユニットが増設ベースユニットに装着されている。 ・二重化システムで，局種別設定を “マスタ局（増設ベース）” に設定した CC-Link ユニットが基本ベースユニットに装着されている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・ネットワークパラメータを修正後，書き込む。 ・修正後もエラーが発生した場合は，ハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QnPRH
3106	【LINK PARA. ERROR】 CC-Link リンクリフレッシュ範囲がファイルレジスタの容量を超えた。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /END 命令，COM 命令実行時	全範囲リフレッシュ可能なファイルレジスタファイルに変更する。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
	【LINK PARA. ERROR】 CC-Link のネットワークリフレッシュパラメータが範囲外になっている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時 /END 命令，COM 命令実行時	パラメータ設定を見直す。		QCPU LCPU
	【LINK PARA. ERROR】 ネットワークリフレッシュ範囲を内部ユーザデバイスと拡張データレジスタ（D），拡張リンクレジスタ（W）の境界をまたいで設定した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	ネットワークリフレッシュ範囲を内部ユーザデバイスと拡張データレジスタ（D），拡張リンクレジスタ（W）の境界をまたがないように設定する。		QnU LCPU
3107	【LINK PARA. ERROR】 ・CC-Link のパラメータの内容が正常でない。 ・実装している CC-Link ユニットのバージョンでは設定不可のモードになっている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	パラメータ設定を見直す。		QCPU LCPU
3150	【DUPLICAT.NET.NO.】 ・CC-Link IE フィールドネットワーク使用時，ネットワークパラメータおよびスイッチ設定で設定されたネットワーク No. が重複している。 ・ネットワークパラメータおよびスイッチ設定がない，またはスイッチ設定が不正な CC-Link IE フィールドネットワークユニットが装着されている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時	・パラメータ設定を見直す。 ・ネットワークパラメータまたはスイッチ設定を設定し，書き込む。		QnU LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
3200	【SFC PARA. ERROR】 ・パラメータの内容が不正である。 ・PCパラメータのSFC設定で“ブロック0を自動起動する”に設定したが，ブロック 0 が存在しない。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・STOP → RUN 時	エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（パラメータ No.）に対応したパラメータ項目をチェックし，修正する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
3201	【SFC PARA. ERROR】 ブロックパラメータの内容が不正である。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・STOP → RUN 時	エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（パラメータ No.）に対応したパラメータ項目をチェックし，修正する。		Qn(H) QnPH QnPRH
3202	【SFC PARA. ERROR】 PC パラメータのデバイス設定で設定したステップリレーの個数が，プログラムで使用する個数よりも少ない。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・STOP → RUN 時			
3203	【SFC PARA. ERROR】 PC パラメータのプログラム設定で設定した SFC プログラムの実行タイプがスキャン実行と待機以外になっている。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ STOP → RUN 時*2			Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
3300	【SP. PARA ERROR】 GX Configurator で設定したインテリジェント機能ユニットのパラメータの先頭入出力番号が実装入出力番号と異なる。 ■付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No.*1 ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	パラメータ設定を見直す。		QCPU LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
3301	【SP. PARA ERROR】 ・インテリジェント機能ユニットのリフレッシュ範囲がファイルレジスタの容量を超えた。 ・GX Configuratorで設定したインテリジェント機能ユニットと実装されているユニットが異なる。 **■付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. *1 **■診断タイミング** ・END 命令，COM 命令実行時	・全範囲リフレッシュ可能なファイルレジスタファイルに変更する。 ・パラメータ設定を見直す。 ・自動リフレッシュの設定を見直す。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
	【SP. PARA ERROR】 インテリジェント機能ユニットのリフレッシュパラメータが範囲外になっている。 **■付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. *1 **■診断タイミング** ・END 命令，COM 命令実行時	・パラメータ設定を見直す。 ・自動リフレッシュの設定を見直す。		QCPU LCPU
	【SP. PARA ERROR】 リフレッシュパラメータの範囲が内部ユーザデバイスと拡張データレジスタ（D），拡張リンクレジスタ（W）の境界をまたいで設定されている。 **■付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. *1 **■診断タイミング** ・END 命令，COM 命令実行時	リフレッシュパラメータの範囲を内部ユーザデバイスと拡張データレジスタ（D），拡張リンクレジスタ（W）の境界をまたがないように設定する。		QnU LCPU
3302	【SP. PARA ERROR】 インテリジェント機能ユニットのパラメータが正常でない。 **■付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. *1 **■診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	パラメータ設定を見直す。		QCPU LCPU
3303	【SP. PARA ERROR】 マルチ CPU システムで，他号機に管理されているインテリジェント機能ユニットに対し，自動リフレッシュ設定などのパラメータ設定を行った。 **■付帯情報** ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. **■診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・他号機が管理しているインテリジェント機能ユニットの自動リフレッシュ設定などのパラメータ設定を削除する。 ・自号機が管理しているインテリジェント機能ユニットの自動リフレッシュ設定などのパラメータ設定に変更する。		Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
3400	【REMOTE PASS. ERR.】 リモートパスワードの対象ユニットの先頭入出力番号に 0_H ～ $0FF0_H$ 以外が設定されている。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	対象ユニットの先頭入出力番号を 0_H ～ $0FF0_H$ の範囲内に変更する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH QnPRH QnU
	【REMOTE PASS. ERR.】 リモートパスワードの対象ユニットの先頭入出力番号に 0_H ～ $07E0_H$ 以外が設定されている。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	対象ユニットの先頭入出力番号を 0_H ～ $07E0_H$ の範囲内に変更する。		Q02UCPU
	【REMOTE PASS. ERR.】 リモートパスワードの対象ユニットの先頭入出力番号に下記の範囲外が設定されている。 Q00JCPU：0_H ～ $1E0_H$ Q00CPU/Q01CPU：0_H ～ $3E0_H$ ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	リモートパスワードの対象ユニットの先頭入出力番号を下記の範囲内に変更する。 ・Q00JCPU：0_H ～ $1E0_H$ ・Q00CPU/Q01CPU：0_H ～ $3E0_H$		Q00J/Q00/Q01
	【REMOTE PASS. ERR.】 リモートパスワードの対象ユニットの先頭入出力番号に範囲外の値が設定されている。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	リモートパスワードの対象ユニットの先頭入出力番号を見直す。		LCPU
3401	【REMOTE PASS. ERR.】 リモートパスワードの先頭入出力番号で指定した位置が異常である。 ・ユニット未装着 ・インテリジェント機能ユニット以外（I/O ユニット） ・シリアルコミュニケーションユニット，モデムインタフェースユニット，Ethernet ユニット以外のインテリジェント機能ユニットが装着されている。 ・機能バージョン A のシリアルコミュニケーションユニット，Ethernet ユニットが装着されている。 ・リモートパスワードが可能なインテリジェント機能ユニットが装着されていない。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	リモートパスワードの先頭入出力番号で指定した位置に機能バージョン B 以降のシリアルコミュニケーションユニット，モデムインタフェースユニット，Ethernet ユニットを装着する。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
3401	【REMOTE PASS. ERR.】 リモートパスワードの先頭入出力番号で指定した位置が異常である。 ・ユニット未装着 ・Ethernet ユニット，シリアルコミュニケーションユニット以外のインテリジェント機能ユニットが装着されている。 **■付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	リモートパスワードの先頭入出力番号で指定した位置にリモートパスワードが可能なインテリジェント機能ユニットを装着する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	LCPU
	【REMOTE PASS. ERR.】 リモートパスワードの先頭入出力番号で指定したスロットに次のユニットが装着されていない。 ・機能バージョン B 以降のシリアルコミュニケーションユニット ・機能バージョン B 以降の Ethernet ユニット ・機能バージョン B 以降のモデムインタフェースユニット **■付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	リモートパスワードの先頭入出力番号で指定した位置を下記のユニットにする。 ・機能バージョン B 以降のシリアルコミュニケーションユニット ・機能バージョン B 以降の Ethernet ユニット ・機能バージョン B 以降のモデムインタフェースユニット		Q00J/Q00/Q01
	【REMOTE PASS. ERR.】 マルチ CPU システムで，他号機が管理している機能バージョン B 以降のシリアルコミュニケーションユニット，モデムインタフェースユニット，Ethernet ユニットを指定している。 **■付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■診断タイミング** ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	・自号機が管理している機能バージョン B 以降の Ethernet ユニットを指定する。 ・リモートパスワードの設定を削除する。		Qn(H) QnPH QnU

＊1　パラメータ No. は，GX Configurator で設定したインテリジェント機能ユニットのパラメータの先頭入出力番号 ÷ 10_H の値です。

＊2　ユニバーサルモデル QCPU，LCPU 以外の CPU ユニットの診断タイミングは STOP → RUN 時のみです。

付 1.6 エラーコード一覧（4000 ～ 4999）

エラーコード 4000 ～ 4999 のエラーメッセージ，異常内容と原因および処置方法について説明します。

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
4000	【INSTRCT. CODE ERR】 ・CPU ユニットで解読できない命令コードがプログラム内に含まれている。 ・使用できない命令がプログラム内に含まれている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源ON時/リセット時/STOP→RUN時/命令実行時（SFC プログラム以外） ・命令実行時（SFC プログラム）	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU
	【INSTRCT. CODE ERR】 ・CPU ユニットで解読できない命令コードがプログラム内に含まれている。 ・使用できない命令がプログラム内に含まれている。 ・パラメータで設定したポインタ点数を超えるポインタ番号が存在する。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源ON時/リセット時/STOP→RUN時/命令実行時（SFC プログラム以外） ・命令実行時（SFC プログラム）			LCPU
4001	【INSTRCT. CODE ERR】 SFC プログラムでないのに SFC 専用命令がプログラム内に含まれている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源ON時/リセット時/STOP→RUN時/命令実行時			Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
4002	【INSTRCT. CODE ERR】 ・プログラムで指定した専用命令の命令名が誤っている。 ・プログラムで指定した専用命令は指定したユニットでは実行できない。 **■付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- **■診断タイミング** ・電源ON時/リセット時/STOP→RUN時/命令実行時（SFC プログラム以外） ・命令実行時（SFC プログラム）	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU LCPU
4003	【INSTRCT. CODE ERR】 プログラムで指定した専用命令のデバイス数が誤っている。 **■付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- **■診断タイミング** ・電源ON時/リセット時/STOP→RUN時/命令実行時（SFC プログラム以外） ・命令実行時（SFC プログラム）			
4004	【INSTRCT. CODE ERR】 プログラムで指定した専用命令で使用できないデバイスを指定している。 **■付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- **■診断タイミング** ・電源ON時/リセット時/STOP→RUN時/命令実行時（SFC プログラム以外） ・命令実行時（SFC プログラム）			

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
4010	【MISSING END INS.】 プログラム内に END(FEND) 命令がない。 ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU LCPU
4020	【CAN'T SET(P)】 ・プログラムで使用しているポインタの合計点数が，4096 点を超えている。 ・プログラムで使用しているローカルポインタの合計点数が共通ポインタの先頭番号を超えている。 ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時			Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
	【CAN'T SET(P)】 ・プログラムで使用しているポインタの合計点数が，512 点を超えている。 ・プログラムで使用しているローカルポインタの合計点数が共通ポインタの先頭番号を超えている。 ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時			Q00UJ/Q00U/Q01U
4021	【CAN'T SET(P)】 各ファイル内で使用している共通ポインタまたはローカルポインタのポインタ No. が重複している。 ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時			QCPU LCPU
4030	【CAN'T SET(I)】 各ファイルで使用している割込みポインタのポインタ No. が重複している。 ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時 / リセット時 /STOP → RUN 時			
4100	【OPERATION ERROR】 命令で扱えないデータが含まれている。 ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■診断タイミング ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行*1	QCPU LCPU
	【OPERATION ERROR】 命令で ATA カードまたは SD メモリカードのアクセス異常が発生している。 ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■診断タイミング ・命令実行時	・ノイズ対策を施す。 ・CPU ユニットをリセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，ATA カードまたは SD メモリカードのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
4100	【OPERATION ERROR】 ・SP.FWRITE 命令で他の機能がアクセスしているファイルをアクセスした。 ・SP.FWRITE 命令で，ライトプロテクトスイッチが有効（書込み禁止）となっている SD メモリカードへ書込みを行った。 ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■診断タイミング ・命令実行時	・他の機能でアクセスするファイルに SP.FWRITE 命令を行わないようにする。 ・他の機能のアクセスとSP.FWRITE 命令の実行が同時に行われないようにする。 ・SD メモリカードのライトプロテクトスイッチを無効（書込み許可）とする。	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行*1	QnU LCPU
4101	【OPERATION ERROR】 ・命令で取り扱うデータの設定使用数が使用可能な範囲を超えている。 ・命令で指定するデバイスの格納データ，定数が使用可能な範囲を超えている。 ・自号機 CPU 共有メモリへの書込みで，書込み先アドレスに書込み指定禁止エリアを指定している。 ・命令で指定するデバイスの格納データの範囲が重複している。 ・命令で指定するデバイスがデバイス点数の範囲を超えている。 ・命令で指定する割込みポインタ番号が使用可能な範囲を超えている。 ・BMOV 命令で (S)，(D) の両方にリンクダイレクトデバイス，インテリジェント機能ユニットデバイス，マルチ CPU 間共有デバイスを指定している。 ・ネットワーク専用命令で指定した対象局ネットワーク No. が存在しない。 ・リンクダイレクトデバイス(J□¥□)が存在しない。 ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■診断タイミング ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。		QCPU LCPU
	【OPERATION ERROR】 ・命令で指定するファイルレジスタの格納データが使用可能な範囲を超えている。 ・ファイルレジスタ設定を行っていない。またはファイルレジスタ設定を行っているがファイルレジスタファイルが存在しない。 ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■診断タイミング ・命令実行時			QnU LCPU
	【OPERATION ERROR】 ・内部ユーザデバイスと拡張データレジスタ (D)，拡張リンクレジスタ (W) の境界をまたがったブロックデータを指定している。(BIN32，実数（単精度，倍精度），間接アドレス，コントロールデータなども含む。) ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■診断タイミング ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。		QnU LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
4102	【OPERATION ERROR】 マルチ CPU システムで，他号機が管理しているネットワークユニットにリンクダイレクトデバイス（J □¥□）を指定した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	・他号機が管理しているネットワークユニットを指定しているリンクダイレクトデバイスをプログラムから削除する。 ・自局が管理しているネットワークユニットをリンクダイレクトデバイスで指定する。	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行 * 1	Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnU
	【OPERATION ERROR】 ・専用命令で指定したユニット No.，ネットワーク No.，局 No. が誤っている。 ・リンクダイレクトデバイス（J □¥□ ）の設定がおかしい。 ・専用命令で指定したユニット No. ／ネットワーク No. ／文字列数が指定できる範囲を超えている。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。		QCPU LCPU
	【OPERATION ERROR】 専用命令で指定した文字列の指定（ “ ” ）が使用できる文字列でない。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時			QnU LCPU
4103	【OPERATION ERROR】 PID 専用命令の構成がおかしい。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時			Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPRH QnU LCPU
4105	【OPERATION ERROR】 プログラムメモリチェックを設定しているときに，PLOADP/PUNLOADP/PSWAPP 命令を実行した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	・プログラムメモリチェックの設定を削除する。 ・プログラムメモリチェックを使用する場合は，PLOADP/PUNLOADP/PSWAPP 命令を削除する。	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行	QnPH
4107	【OPERATION ERROR】 1 台の CPU ユニットからマルチ CPU 専用命令を 33 命令以上実行した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	1 台の CPU ユニットで 33 命令以上のマルチ CPU 専用命令を実行しないように，マルチ CPU 専用命令の完了ビットでインタロックをとる。	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行 * 1	Q00/Q01 Qn(H) QnPH Q00UCPU Q01UCPU Q02UCPU QnUDV QnUDPV
4109	【OPERATION ERROR】 高速割込み設定されているときに PR, PRC, UDCNT1, UDCNT2, PLSY, PWM 命令を実行した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	高速割込み設定を削除する。 高速割込みを使用する場合は，PR，PRC，UDCNT1，UDCNT2，PLSY，PWM 命令を削除する。		Qn(H) * 2

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
4111	【OPERATION ERROR】 命令で自局 CPU ユニットの CPU 共有メモリ書込み／読出し不可エリアに書込み／読出しを実行しようとした。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行*1	Q00/Q01 QnU
4112	【OPERATION ERROR】 マルチ CPU 専用命令で指定できない CPU ユニットを指定した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時			Q00/Q01 QnU
4113	【OPERATION ERROR】 ・SP.DEVST 命令実行時，当日の標準 ROM への書込み回数が SD695 で指定している値を超えた。 ・SD695 に範囲外の値が設定されている。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	・SP.DEVST 命令の実行回数が適切であるか確認する。 ・翌日以降に再度 SP.DEVST 命令を実行するかまたは SD695 の値を調整する。 ・SD695の値を範囲内に収まるように修正する。	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行	QnU LCPU
4116	【OPERATION ERROR】 パラメータ設定で使用しないに設定されている内蔵 I/O 機能の命令を実行した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	・パラメータ設定で内蔵 I/O 機能を使用する設定を行う。 ・パラメータ設定で使用しないに設定されている内蔵 I/O 機能の命令を実行させない。		LCPU
4120	【OPERATION ERROR】 手動切替え許可フラグ（SM1592）が OFF しているため，制御系切替え命令（SP.CONTSW）による手動切替えは実行できない。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	SP.CONTSW 命令により制御系切替えを行う場合には，手動切替え許可フラグ（SM1592）を ON して実行する。	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行*1	QnPRH
4121	【OPERATION ERROR】 ・セパレートモード時，待機系 CPU ユニットで制御系切替え命令（SP.CONTSW）を実行した。 ・デバッグモードで制御系切替え命令（SP.CONTSW）を実行した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	・SP.CONTSW 命令のインタロック信号を見直し，SP.CONTSW 命令が制御系でのみ実行されることを確認する。（SP.CONTSW 命令は待機系では実行できないため，運転モード信号などによりインタロックをとることを推奨します） ・デバッグモードでは SP.CONTSW 命令が実行不可のため，運転モード関係のインタロック信号を見直す。		

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
4122	【OPERATION ERROR】 ・二重化システムで，増設ベースユニットに装着したユニットに対して専用命令を実行しようとした。 ・セパレートモード時に待機系から増設ベースユニットに装着したインテリジェント機能ユニットにアクセスする命令を実行した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	・増設ベースユニットに装着したユニットを対象とした専用命令を削除する。 ・待機系から増設ベースユニットに装着したインテリジェント機能ユニットにアクセスする命令を削除する。	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行	QnPRH
4130	【OPERATION ERROR】 ATA カードまたは SD メモリカード内のコメントファイルを対象として，SFC ステップコメント読出し命令 (S(P).SFCSCOMR)，SFC 移行条件コメント読出し命令 (S(P).SFCTCOMR) を実行した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時／ END 命令実行時	命令で使用するコメントファイル設定を，ATA カードまたは SD メモリカード内のコメントファイル以外に設定する。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU
4131	【OPERATION ERROR】 命令により，SFC プログラムが動作中に 2 本目の SFC プログラムを起動した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	対応する命令で指定したプログラムを確認する。または，SFC の実行状態を確認する。		QnU LCPU
4140	【OPERATION ERROR】 入力データが特殊な数（-0，非正規化数，非数，±∞）で演算を行った。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。		
4141	【OPERATION ERROR】 ・演算時にオーバーフローが発生した。 ・演算時にエラーが発生した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時			
4150	【OPERATION ERROR】 ・命令で指定できない局種別のユニットの先頭入出力番号を指定している。 ・命令でネットワークパラメータに存在しない先頭入出力番号を指定している。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	・マスタ局のユニットの先頭入出力番号を指定する。 ・ネットワークパラメータに存在する先頭入出力番号を指定する。 ・ネットワークパラメータの設定を見直す。		QnU LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
4151	【OPERATION ERROR】 ・命令で指定したユニットのリフレッシュデバイスがネットワークパラメータで割り付けられていない。 ・命令で指定したデバイス点数がネットワークパラメータで割り付けた 1 転送設定の範囲を超えている。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	・エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。 ・ネットワークパラメータの設定を見直す。	RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行	QnU LCPU
4200	【FOR-NEXT ERROR】 FOR 命令を実行したのに NEXT 命令が実行されなかった。 または，NEXT 命令の個数が FOR 命令より少ない。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU LCPU
4201	【FOR-NEXT ERROR】 FOR 命令を実行していないのに NEXT 命令が実行された。 または，NEXT 命令の個数が FOR 命令より多い。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時			
4202	【FOR-NEXT ERROR】 FOR 命令のネスティングが 16 重を超えた。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	ネスティングを 16 重以内にする。		
4203	【FOR-NEXT ERROR】 FOR 命令を実行していないのに BREAK 命令が実行された。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。		
4210	【CAN'T EXECUTE(P)】 命令で指定した行き先のポインタが存在しない。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時			
4211	【CAN'T EXECUTE(P)】 実行したサブルーチンプログラムに RET 命令が存在しない。 ■ **付帯情報** ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・命令実行時			

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
4212	【CAN'T EXECUTE(P)】 ・メインプログラムのFEND命令の前にRET命令が存在する。 ・実行したサブルーチンプログラム内で NEXT 命令が実行される前に RET 命令が実行された。 ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■診断タイミング ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QCPU LCPU
4213	【CAN'T EXECUTE(P)】 CALL 命令のネスティングが 16 重を超えた。 ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■診断タイミング ・命令実行時	ネスティングを 16 重以内にする。		
4220	【CAN'T EXECUTE(I)】 割込み入力が発生したのに対応する割込ポインタが存在しない。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・命令実行時	パラメータで設定した割込みポインタ No. がプログラム中にあるかを確認する。		
4221	【CAN'T EXECUTE(I)】 実行した割込みプログラムに IRET 命令が存在しない。 ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■診断タイミング ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。		
4223	【CAN'T EXECUTE(I)】 メインプログラムの FEND 命令の前に IRET 命令が存在する。 ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■診断タイミング ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。		
	【CAN'T EXECUTE(I)】 ・定周期実行タイププログラム中で IRET 命令が実行された。 ・定周期実行タイププログラム中で STOP 命令が実行された。 ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■診断タイミング ・命令実行時			QnU LCPU
4225	【CAN'T EXECUTE(I)】 二重化システムで，増設ベースユニットに装着したユニットを対象とした割込みポインタが設定されている。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	増設ベースユニットに装着したユニットを対象とした割込みポインタは使用不可のため，設定を削除する。		QnPRH

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
4230	【INST. FORMAT ERR.】 CHK 命令と CHKEND 命令の数が 1 対 1 になっていない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH
4231	【INST. FORMAT ERR.】 IX 命令と IXEND 命令の数が 1 対 1 になっていない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時			QCPU（QnUDPV は除く）
4235	【INST. FORMAT ERR.】 CHK 命令のチェック条件の構成がおかしい。 または，低速実行タイププログラム内で CHK 命令を使用した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時			Qn(H) QnPH
4350	【MULTI-COM. ERROR】 ・プログラムで指定したマルチ CPU 間高速通信専用命令で指定した対象先 CPU ユニットが誤っている。またはマルチ CPU 間高速通信専用命令が使用できる設定となっていない。 ・予約設定されている号機を指定した。 ・未装着の号機を指定した。 ・対象先 CPU ユニットの先頭入出力番号 ÷16（n1）が 3E0H ～ 3E3H の範囲でない。 ・命令を実行できない CPU ユニットを指定した。 ・シングル CPU システムで命令を実行した。 ・自号機を指定した。 ・「マルチ CPU 間高速通信機能を使用しない」設定のときにマルチ CPU 間高速通信専用命令を実行した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時			QnU
4351	【MULTI-COM. ERROR】 ・プログラムで指定したマルチ CPU 間高速通信専用命令は，指定した対象先 CPU ユニットでは実行できない。 ・命令名が誤っている。 ・対象先 CPU ユニットではサポートしていない命令を指定した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時			

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
4352	【MULTI-COM. ERROR】 プログラムで指定したマルチ CPU 間高速通信専用命令のデバイス数が誤っている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QnU
4353	【MULTI-COM. ERROR】 プログラムで指定したマルチ CPU 間高速通信専用命令では使用できないデバイスを指定している。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時			
4354	【MULTI-COM. ERROR】 プログラムで指定したマルチ CPU 間高速通信専用命令で扱えない文字列を指定している。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時			
4355	【MULTI-COM. ERROR】 プログラムで指定したマルチ CPU 間高速通信専用命令の読み出し / 書き込みデータ数（要求 / 受信データ数）が有効な値でない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時			
4400	【SFCP. CODE ERROR】 SFC プログラムに SFCP 命令と SFCPEND 命令がない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・STOP → RUN 時	プログラミングツールで再度プログラムを CPU ユニットに書き込む。		Qn(H) QnPH QnPRH
4410	【CAN'T SET(BL)】 SFC プログラムで指定しているブロック No. が最大設定値を超えている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ STOP → RUN 時			Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
4411	【CAN'T SET(BL)】 SFC プログラムでブロック No. を重複して指定している。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ STOP → RUN 時			

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
4420	【CAN'T SET(S)】 SFC プログラムで指定しているステップ No. が最大値を超えている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ STOP → RUN 時	プログラミングツールで再度プログラムを CPU ユニットに書き込む。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
4421	【CAN'T SET(S)】 SFC プログラムのステップ数がステップリレーの総数を超えている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ STOP → RUN 時	SFC プログラムのステップ数がステップリレーの総数を超えないようにプログラムを修正する。		Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
		PC パラメータのデバイス設定でステップリレーの総数を増やす。		QnU
4422	【CAN'T SET(S)】 SFC プログラムでステップ No. を重複して指定している。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ STOP → RUN 時	プログラミングツールで再度プログラムを CPU ユニットに書き込む。		Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
4423	【CAN'T SET(S)】 各ブロックの（最大ステップ No. ＋ 1）の合計がステップリレーの総数を超えている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ STOP → RUN 時	各ブロックの（最大ステップ No. ＋ 1）の合計がステップリレーの総数を超えないように修正する。		Q00J/Q00/Q01 QnU LCPU
		PC パラメータのデバイス設定でステップリレーの総数を増やす。		QnU
4430	【SFC EXE. ERROR】 SFC プログラムが実行できない。 ・ブロック情報設定の内容が不正である。 ・ブロック情報設定の SFC 情報デバイスが PC パラメータに設定されているデバイス設定範囲を超えている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源ON時／リセット時／STOP→RUN時／SFC プログラム実行時	・プログラミングツールで再度プログラムを CPU ユニットに書き込む。 ・SFC 情報デバイスの設定を修正後，CPU ユニットに書き込む。 ・PC パラメータで設定されているデバイス設定範囲を修正後 CPU ユニットに書き込む。		Q00J/Q00/Q01 QnU LCPU
4431	【SFC EXE. ERROR】 SFC プログラムが実行できない。 ・ブロックパラメータの設定が異常である。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ STOP → RUN 時	プログラミングツールで再度プログラムを CPU ユニットに書き込む。		
4432	【SFC EXE. ERROR】 SFC プログラムが実行できない。 ・SFC プログラムの構成が不正である。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ STOP → RUN 時			

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
4500	【SFCP. FORMAT ERR.】 SFC プログラムで BLOCK 命令と BEND 命令の数が 1 対 1 になっていない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・STOP → RUN 時	プログラミングツールで再度プログラムを CPU ユニットに書き込む。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH QnPRH
4501	【SFCP. FORMAT ERR.】 SFC プログラムで STEP ＊～ TRAN ＊～ TSET ～ SEND 命令の構成がおかしい。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・STOP → RUN 時			
4502	【SFCP. FORMAT ERR.】 SFC プログラムの構成が不正である。 ・SFCプログラムでブロック内にSTEPI＊命令が存在しない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／ STOP → RUN 時			Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
4503	【SFCP. FORMAT ERR.】 SFC プログラムの構成が不正である。 ・TSET 命令で指定したステップが存在しない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・STOP → RUN 時	・プログラミングツールで再度プログラムを CPU ユニットに書き込む。 ・エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。		Qn(H) QnPH QnPRH
	【SFCP. FORMAT ERR.】 SFC プログラムの構成が不正である。 ・TSET 命令で指定したステップが存在しない。 ・ジャンプ移行において，指定先ステップ番号に自ステップ番号を指定した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・SFC プログラム実行時			Q00J/Q00/Q01 QnU LCPU
4504	【SFCP. FORMAT ERR.】 SFC プログラムの構成が不正である。 ・TAND 命令で指定したステップが存在しない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・SFC プログラム実行時	プログラミングツールで再度プログラムを CPU ユニットに書き込む。		Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
4505	【SFCP. FORMAT ERR.】 SFC プログラムの構成が不正である。 ・ステップの動作出力内で，SET Sn/BLmSn，RST Sn/BLmSn 命令を自ステップに対して指定した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。		Q00J/Q00/Q01 QnU LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
4506	【SFCP. FORMAT ERR.】 SFC プログラムの構成が不正である。 ・リセットステップにおいて，指定先ステップに自ステップ番号を指定した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00J/Q00/Q01 QnU LCPU
4600	【SFCP. OPE. ERROR】 SFC プログラムで扱われないデータが含まれている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時		RUN：消灯／点灯 ERR.: 点滅／点灯 CPU 状態：停止／続行*1	Qn(H) QnPH QnPRH
4601	【SFCP. OPE. ERROR】 SFC プログラムで指定できるデバイス範囲を超えている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時			
4602	【SFCP. OPE. ERROR】 SFC プログラムのブロック制御で開始命令の前に終了命令を実行した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。		
4610	【SFCP. EXE. ERROR】 SFC プログラムで続行スタート時に活性ステップ情報が正しくない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・STOP → RUN 時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。 プログラムは自動的にイニシャルスタートする。	RUN：点灯 ERR.: 点灯 CPU 状態：続行	
4611	【SFCP. EXE. ERROR】 SFC プログラムで続行スタート指定時の RUN 中にリセットした。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・STOP → RUN 時			
4620	【BLOCK EXE. ERROR】 SFC プログラムですでに起動しているブロックに起動をかけた。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH QnPRH QnU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
4621	【BLOCK EXE. ERROR】 SFC プログラムで存在していないブロックに起動をかけた。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時	・エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。 ・SM321 が OFF の場合は ON にする。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
4630	【STEP EXE. ERROR】 SFC プログラムですでに起動しているステップに起動をかけた。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。		Qn(H) QnPH QnPRH
4631	【STEP EXE. ERROR】 ・SFC プログラムで存在していないステップに起動をかけた。または SFC プログラムで存在していないステップを終了指定した。 ・SFC プログラムで存在していない移行条件を強制移行した。または SFC プログラムで存在していない移行条件の強制移行を解除した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時	・エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。 ・SM321 が OFF の場合は ON にする。		Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
4632	【STEP EXE. ERROR】 SFC プログラムで指定できるブロックの同時活性ステップ数がオーバーした。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（プログラムエラー箇所）に対応したエラーステップをチェックし，修正する。		Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
4633	【STEP EXE. ERROR】 指定できる全同時活性ステップ数がオーバーした。 ■ 付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・命令実行時			

＊1　エラー発生時の CPU ユニットの動作状態は，パラメータで設定可能です。（LED 表示も連動して変化します。）
＊2　シリアル No. の上 5 桁が “04012” 以降のユニットが対象です。

付 1.7 エラーコード一覧（5000 ～ 5999）

エラーコード（5000 ～ 5999）のエラーメッセージ，異常内容と原因および処置方法について説明します。

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態 ,CPU 状態	対応 CPU
5000	【WDT ERROR】 ・初期実行タイププログラムのスキャンタイムが PC パラメータの PC RAS 設定で設定した初期実行監視時間をオーバーした。 ■付帯情報 ・共通情報：時間（設定値） ・個別情報：時間（実測値） ■診断タイミング ・常時	・エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（時間）をチェックし，スキャンタイムを短くする。 ・PC パラメータの PC RAS 設定で初期実行監視時間，または WDT 設定値を変更する。 ・ジャンプ移行による無限ループを解消する。 ・上記の処置方法を行っても異常内容が発生する場合は，システムのハードウェア異常が考えられます。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
	【WDT ERROR】 ・待機系の電源 OFF が発生した。 ・待機系の電源OFFまたはリセットされていない状態で，トラッキングケーブルを抜き差しした。 ・トラッキングケーブルがコネクタ固定ネジで固定されていない。 ■付帯情報 ・共通情報：時間（設定値） ・個別情報：時間（実測値） ■診断タイミング ・常時	・待機系の電源OFF が発生すると制御系のスキャンタイムが延びるため，制御系のスキャンタイムの延びを考慮した WDT 設定値を再設定する。 ・稼動中にトラッキングケーブルがはずれたときには，トラッキングケーブルを確実に装着して再起動する。再度同じエラーを表示した場合には，トラッキングケーブルまたは CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QnPRH
5001	【WDT ERROR】 ・プログラムのスキャンタイムが PC パラメータの PC RAS 設定で設定した WDT 設定値をオーバーした。 ■付帯情報 ・共通情報：時間（設定値） ・個別情報：時間（実測値） ■診断タイミング ・常時	・エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（時間）をチェックし，スキャンタイムを短くする。 ・PC パラメータの PC RAS 設定で初期実行監視時間または WDT 設定値を変更する。 ・ジャンプ移行による無限ループを解消する。 ・プログラミングツールで割込みプログラムの実行回数を確認し，割込み発生回数を減らす。 ・上記の処置方法を行っても異常内容が発生する場合は，システムのハードウェア異常が考えられます。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QCPU LCPU
	【WDT ERROR】 ・待機系の電源 OFF が発生した。 ・待機系の電源OFFまたはリセットされていない状態で，トラッキングケーブルを抜き差しした。 ・トラッキングケーブルがコネクタ固定ネジで固定されていない。 ■付帯情報 ・共通情報：時間（設定値） ・個別情報：時間（実測値） ■診断タイミング ・常時	・待機系の電源OFF が発生すると制御系のスキャンタイムが延びるため，制御系のスキャンタイムの延びを考慮した WDT 設定値を再設定する。 ・稼動中にトラッキングケーブルがはずれたときには，トラッキングケーブルを確実に装着して再起動する。再度同じエラーを表示した場合には，トラッキングケーブルまたは CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QnPRH
5002	【WDT ERROR】 ・高速割込みの1回の実行時間が100msオーバした。 ■付帯情報 ・共通情報：時間（設定値） ・個別情報：時間（実測値） ■診断タイミング ・常時	・高速割込みプログラム単体の処理時間が長い場合は，プログラムを見直す。 ・サンプリングトレース，データロギング，スキャンタイム測定，実行条件付きデバイステストで割込みプログラム内のステップ指定を解除する。		QnUDV QnUDPV

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態 ,CPU 状態	対応 CPU
5010	【PRG. TIME OVER】 ・プログラムスキャンタイムが，PC パラメータの PC RAS 設定で設定したコンスタントスキャン設定時間をオーバーした。 ■ 付帯情報 ・共通情報：時間（設定値） ・個別情報：時間（実測値） ■ 診断タイミング ・常時	コンスタントスキャン設定時間を見直す。	RUN：点灯 ERR.: 点灯 CPU 状態：続行	Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
	【PRG. TIME OVER】 ・PC パラメータの PC RAS 設定で設定した低速プログラム実行時間がコンスタントスキャンの余剰時間をオーバーした。 ■ 付帯情報 ・共通情報：時間（設定値） ・個別情報：時間（実測値） ■ 診断タイミング ・常時	・コンスタントスキャン設定時間を見直す。 ・コンスタントスキャンの余剰時間を十分確保できるように PC パラメータのコンスタントスキャン時間，低速プログラム実行時間を見直す。		Qn(H) QnPH QnPRH
	【PRG. TIME OVER】 プログラムのスキャンタイムが，PC パラメータの PC RAS 設定で設定したコンスタントスキャン設定時間をオーバーした。 ■ 付帯情報 ・共通情報：時間（設定値） ・個別情報：時間（実測値） ■ 診断タイミング ・常時	・コンスタントスキャンの余剰時間を十分確保できるように PC パラメータのコンスタントスキャン時間を見直す。		Q00J/Q00/Q01
5011	【PRG. TIME OVER】 低速実行タイププログラムのスキャンタイムが PC パラメータの PC RAS 設定で設定した低速実行監視時間をオーバーした。 ■ 付帯情報 ・共通情報：時間（設定値） ・個別情報：時間（実測値） ■ 診断タイミング ・常時	エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（時間）をチェックし，スキャンタイムを短くする。 PC パラメータの PC RAS 設定で低速実行監視時間を変更する。		Qn(H) QnPH

付 1.8 エラーコード一覧（6000 ～ 6999）

エラーコード（6000 ～ 6999）のエラーメッセージ，異常内容と原因および処置方法について説明します。

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
6000	【FILE DIFF.】 二重化システムで制御系と待機系のプログラム，パラメータが同一でない。 両系で相違を検出したファイルの種別は，エラー共通情報のファイル名により確認することができる。 ・プログラムが異なっている。（ファイル名 = ********.QPG） ・PC パラメータ／ネットワークパラメータ／二重化パラメータが異なっている。（ファイル名 = PARAM.QPA） ・リモートパスワードが異なっている。（ファイル名 = PARAM.QPA） ・インテリジェント機能ユニットパラメータが異なっている。（ファイル名 = IPARAM.QPA） ・デバイス初期値が異なっている。（ファイル名 = ********.QDI） ・複数ブロック RUN 中書込みを可能にするエリアの容量が異なっている。（ファイル名 = MBOC.QMB）（二重化システムの待機系でのみ検出可能。） ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／トラッキングケーブル接続時／バックアップモードへ変更時／RUN 中書込み完了時／系切替え時／両系 RUN へ移行時	・制御系，待機系のプログラム，パラメータを合わせる。 ・下記 1），2）のいずれかの手順で PC 照合を行い，両系のファイルの相違点を明確にしたあと，間違っているファイルを正しく修正して再度 PC 書込を行う。 1）A 系のプログラム・パラメータを GX Works2，GX Developer または PX Developer で読み出したあと，B 系のプログラム，パラメータと照合する。 2）オフライン環境に保存してある GX Works2，GX Developer または PX Developer のプログラム，パラメータと，両系の CPU ユニット内に書き込まれているプログラム，パラメータを照合する。 ・両系の複数ブロック RUN 中書込みを可能にするエリアの容量が異なっているときには，下記の 1）または 2）の手順により対処する。 1）制御系から待機系へのメモリコピー機能を使用して，制御系のプログラムメモリの内容を待機系にコピーする。 2）両系の CPU ユニットのプログラムメモリをフォーマットする。（複数ブロック RUN 中書込を可能にするエリアの容量は両系同一の値にする）	RUN：消灯 ERR.：点滅 CPU 状態：停止	QnPRH
6001	【FILE DIFF.】 二重化システムでディップスイッチのパラメータ有効ドライブの設定（SW2，SW3）が同一でない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／トラッキングケーブル接続時／運転モード変更時	制御系，待機系のディップスイッチでパラメータ有効ドライブの設定（SW2,SW3）を合わせる。		
6010	【OPE. MODE DIFF.】 二重化システムで制御系と待機系の運転状態が同一でない。（二重化システムの待機系でのみ検出可能。） ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	制御系，待機系の運転状態を合わせる。	RUN：点灯 ERR.：点灯 CPU 状態：続行	

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
6020	【OPE. MODE DIFF.】 電源 ON 時／リセット時に，二重化システムで制御系と待機系の RUN/STOP スイッチの状態が同一でない。（二重化システムの制御系または待機系で検出可能。） ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	制御系，待機系の RUN/STOP スイッチの状態を同一にする。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QnPRH
6030	【UNIT LAY. DIFF.】 ・二重化システムで制御系と待機系のユニット装着構成が同一でない。 ・ネットワークユニットのモードの設定が両系で異なっている。（二重化システムの制御系または待機系で検出可能。） ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No. ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／トラッキングケーブル接続時／運転モード変更時	・制御系，待機系のユニット装着状態を合わせる。 ・ネットワークパラメータの二重化設定にて，B 系のモードの設定を A 系の設定に合わせる。		
6035	【UNIT LAY. DIFF.】 二重化システムで制御系と待機系の CPU ユニットの形名が同一でない。（二重化システムの待機系でのみ検出可能。） ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／トラッキングケーブル接続時／運転モード変更時	制御系，待機系の CPU ユニットの形名を合わせる。		
6036	【UNIT LAY. DIFF.】 二重化システムの制御系と待機系間で，MELSECNET/H 多重リモート I/O ネットのリモート I/O 構成の違いを検出した。（二重化システムの制御系または待機系で検出可能。） ■ 付帯情報 ・共通情報：ユニット No. ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	MELSECNET/H 多重リモート I/O ネットのネットワークケーブルの切断が発生していないか確認する。		
6040	【CARD TYPE DIFF.】 二重化システムで制御系と待機系のメモリカードの装着有無状態が同一でない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	制御系，待機系のメモリカードの装着有無状態を合わせる。		
6041	【CARD TYPE DIFF.】 二重化システムで制御系と待機系のメモリカードの種類が同一でない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	制御系，待機系のメモリカードの種類を合わせる。		

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
6050	【CAN'T EXE. MODE】 デバッグモードや運転モード（バックアップ／セパレート）で実行できない機能を実行した。（二重化システムの制御系または待機系で検出可能。） ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	デバッグモードや運転モード（バックアップ／セパレート）で実行可能な機能を行う。	RUN：点灯 ERR.: 点灯 CPU 状態：続行	QnPRH
6060	【CPU MODE DIFF.】 二重化システムで制御系と待機系で運転モード（バックアップ／セパレート）が同一でない。（二重化システムの待機系でのみ検出可能。） ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／トラッキングケーブル接続時	制御系，待機系の運転モードを同一にする。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	
6061	【CPU MODE DIFF.】 二重化システムで制御系と待機系で運転モード（バックアップ／セパレート）が同一でない。（二重化システムの待機系でのみ検出可能。） ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・END 命令実行時			
6062	【CPU MODE DIFF.】 A 系と B 系で系の状態が同一（A 系，B 系ともに制御系）となっている。（二重化システムの B 系で検出可能。） ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時／トラッキングケーブル接続時	停止エラーとなった CPU ユニット（B 系）を電源 OFF → ON する。		
6100	【TRK. TRANS. ERR.】 ・トラッキング送信でエラー（リトライオーバーなど）となった。（トラッキングケーブル抜け，他系電源断（リセットも含む）でも発生する可能性がある。） ・二重化システムの立上げ手順を守らなかったため，立上げ時にエラーとなった。 ■ 付帯情報 ・共通情報：トラッキング通信での通信データ種別 ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・常時	・CPU ユニットまたはトラッキングケーブルをチェックする。それでも同エラーとなる場合は，CPU ユニットまたはトラッキングケーブルの故障。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。） ・二重化システム立上げ手順を確認し，再立上げを実施する。	RUN：点灯 ERR.: 点灯 CPU 状態：続行	

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
6101	【TRK. TRANS. ERR.】 ・トラッキング送信でタイムアウトエラーとなった。（トラッキングケーブル抜け，他系電源断（リセットも含む）でも発生する可能性がある。） ・二重化システムの立上げ手順を守らなかったため，立上げ時にエラーとなった。 （二重化システムの制御系または待機系で検出可能。） **■付帯情報** ・共通情報：トラッキング通信での通信データ種別 ・個別情報：- **■診断タイミング** ・常時	・CPU ユニットまたはトラッキングケーブルをチェックする。それでも同エラーとなる場合は，CPU ユニットまたはトラッキングケーブルの故障。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。） ・二重化システム立上げ手順を確認し，再立上げを実施する。	RUN：点灯 ERR.: 点灯 CPU 状態：続行	QnPRH
6102	【TRK. TRANS. ERR.】 トラッキング受信でデータのサム値エラーとなった。（二重化システムの制御系または待機系で検出可能。） **■付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■診断タイミング** ・常時			
6103	【TRK. TRANS. ERR.】 ・トラッキング受信でデータのエラー（サム値以外）となった。（トラッキングケーブル抜け，他系電源断（リセットも含む）でも発生する可能性がある。） ・二重化システムの立上げ手順を守らなかったため，立上げ時にエラーとなった。 （二重化システムの制御系または待機系で検出可能。） **■付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■診断タイミング** ・常時			
6105	【TRK. TRANS. ERR.】 ・トラッキング送信でエラー（リトライオーバーなど）となった。（トラッキングケーブル抜け，他系電源断（リセットも含む）でも発生する可能性がある。） ・二重化システムの立上げ手順を守らなかったため，立上げ時にエラーとなった。 （二重化システムの制御系または待機系で検出可能。） **■付帯情報** ・共通情報：トラッキング通信での通信データ種別 ・個別情報：- **■診断タイミング** ・常時			

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
6106	【TRK. TRANS. ERR.】 ・トラッキング送信でタイムアウトエラーとなった。（トラッキングケーブル抜け，他系電源断（リセットも含む）でも発生する可能性がある。） ・二重化システムの立上げ手順を守らなかったため，立上げ時にエラーとなった。 （二重化システムの制御系または待機系で検出可能。） **■付帯情報** ・共通情報：トラッキング通信での通信データ種別 ・個別情報：- **■診断タイミング** ・常時	・CPU ユニットまたはトラッキングケーブルをチェックする。それでも同エラーとなる場合は，CPU ユニットまたはトラッキングケーブルの故障。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。） ・二重化システム立上げ手順を確認し，再立上げを実施する。	RUN：点灯 ERR.: 点灯 CPU 状態：続行	QnPRH
6107	【TRK. TRANS. ERR.】 トラッキング受信でデータのサム値エラーとなった。（二重化システムの制御系または待機系で検出可能。） **■付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■診断タイミング** ・常時			
6108	【TRK. TRANS. ERR.】 ・トラッキング受信でデータのエラー（サム値以外）となった。（トラッキングケーブル抜け，他系電源断（リセットも含む）でも発生する可能性がある。） ・二重化システムの立上げ手順を守らなかったため，立上げ時にエラーとなった。 （二重化システムの制御系または待機系で検出可能。） **■付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■診断タイミング** ・常時	・CPU ユニットまたはトラッキングケーブルをチェックする。それでも同エラーとなる場合は，CPU ユニットまたはトラッキングケーブルの故障。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。） ・二重化システム立上げ手順を確認し，再立上げを実施する。		
6110	【TRK. SIZE ERROR】 トラッキング容量が許容範囲を超えている。（二重化システムの制御系または待機系で検出可能。） **■付帯情報** ・共通情報：トラッキング容量超過エラー要因 ・個別情報：- **■診断タイミング** ・END 命令実行時	トラッキング容量を見直す。		
6111	【TRK. SIZE ERROR】 制御系のファイルレジスタ容量が，トラッキング設定したファイルレジスタの点数分存在しない。（二重化システムの制御系または待機系で検出可能。） **■付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■診断タイミング** ・END 命令実行時	トラッキング設定したファイルレジスタ容量以上のファイルレジスタに切り換える。		

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
6112	【TRK. SIZE ERROR】 待機系のファイルレジスタ容量以上に制御系からファイルレジスタがトラッキングされてきた。（二重化システムの待機系でのみ検出可能。） **■ 付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・END 命令実行時	トラッキング設定したファイルレジスタ容量以上のファイルレジスタに切り換える。	RUN：点灯 ERR.: 点灯 CPU 状態：続行	QnPRH
6120	【TRK. CABLE ERR.】 ・トラッキングケーブルが未装着で起動した。 ・トラッキングケーブルが故障状態で起動した。 ・CPU ユニット側のトラッキング通信用ハードウェアが故障しているため，トラッキングケーブル経由で他系と通信できなかった。 （二重化システムの制御系または待機系で検出可能。） **■ 付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	トラッキングケーブルを装着して起動する。それでも同エラーとなる場合は，トラッキングケーブルまたは CPU ユニット側のトラッキング通信用ハードウェアの故障。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	
6130	【TRK. DISCONNECT】 ・トラッキングケーブルが抜けた。 ・稼動中にトラッキングケーブルが故障した。 ・CPU ユニット側のトラッキング通信用ハードウェアが故障した。 （二重化システムの制御系または待機系で検出可能。） **■ 付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・常時	・トラッキングケーブルが抜けている場合には，トラッキングケーブルを両系 CPU ユニットのコネクタに装着する。 ・トラッキングケーブルを両系CPUユニットのコネクタに装着してエラー解除を行ってもエラーが解消されないときには，トラッキングケーブルまたは CPU ユニット側のトラッキング通信用ハードウェアの故障。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：点灯 ERR.: 点灯 CPU 状態：続行	
6140	【TRK.INIT. ERROR】 ・電源 ON 時／リセット時の他系との初期交信において，他系からの応答がない。 ・二重化システムの立上げ手順を守らなかったため，立上げ時にエラーとなった。 （二重化システムの制御系または待機系で検出可能。） **■ 付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・エラーを検出したCPUユニットを再度電源OFF→ ON またはリセット→リセット解除する。それでも同エラーとなる場合は CPU ユニットの故障。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。） ・二重化システム立上げ手順を確認し，再立上げを実施する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	
6200	【CONTROL EXE.】 二重化システムで待機系が制御系に切り替わった。（待機系→制御系になった CPU ユニットで検出） 本エラーコードは CPU ユニットの異常情報ではなく，状態を表す内容であるため，SD0 ～ 26 にはエラーコード，エラー情報は格納されないが，系切替えが発生するごとにエラー履歴には格納される。（エラー情報は，プログラミングツールによりエラー履歴を読み出して確認してください。） **■ 付帯情報** ・共通情報：系切替え要因 ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・常時	—	RUN：点灯 ERR.: 消灯 CPU 状態：エラーなし	

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
6210	【STANDBY】 二重化システムで制御系が待機系に切り替わった。（制御系→待機系になった CPU ユニットで検出） 本エラーコードは CPU ユニットの異常情報ではなく，状態を表す内容であるため，SD0 ～ 26 にはエラーコード，エラー情報は格納されないが，系切替えが発生するごとにエラー履歴には格納される。（エラー情報は，プログラミングツールによりエラー履歴を読み出して確認してください。） **■付帯情報** ・共通情報：系切替え要因 ・個別情報：- **■診断タイミング** ・常時	—	RUN：点灯 ERR.: 消灯 CPU 状態：エラーなし	QnPRH
6220	【CAN'T SWITCH】 待機系異常・トラッキングケーブル異常・セパレートモードでオンラインユニット交換中により系切替えが実行できない。制御系での系切替えの要因には下記のものがある。 ・SP.CONTSW 命令による系切替え ・ネットワークユニットからの系切替え要求 **■付帯情報** ・共通情報：系切替え要因 ・個別情報：系切替え不可要因 **■診断タイミング** ・系切替え時	・待機系の状態を確認し，エラーを解消する。 ・オンラインユニット交換を完了させる。	RUN：点灯 ERR.: 点灯 CPU 状態：続行	
6300	【STANDBY SYS. DOWN】 バックアップモード時に下記の異常を検出した。 ・二重化システムで待機系が起動していない。 ・二重化システムで待機系が停止エラーになっている。 ・稼動中の制御系に，デバッグモードの CPU ユニットを接続した。 （二重化システムの制御系でのみ検出可能。） **■付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■診断タイミング** ・常時	・待機系の電源が入っているかを確認し，入っていない場合，電源を投入する。 ・待機系がリセット状態になっていないかを確認し，リセット状態ならリセット解除する。 ・待機系が停止エラーになっていないかを確認し，エラー状態ならエラー要因を取り除き，再起動する。 ・バックアップモードで稼動中の制御系に，デバッグモードの CPU ユニットを接続しているときには，正しく制御系と待機系の組合わせになるように接続する。		
6310	【CONTROL SYS. DOWN】 バックアップモード時に下記の異常を検出した。 ・二重化システムで制御系が起動していない。 ・二重化システムで制御系が停止エラーになっている。 ・稼動中の待機系に，デバッグモードの CPU ユニットを接続した。 ・二重化システムの立上げ手順を守らなかったため，立上げ時にエラーとなった。 （二重化システムの待機系でのみ検出可能。） **■付帯情報** ・共通情報：- ・個別情報：- **■診断タイミング** ・常時	・待機系が存在するが制御系が存在しない。 ・待機系以外の系の電源が入っているかを確認し，入っていない場合，電源を投入する。 ・待機系以外の系がリセット状態になっていないかを確認し，リセット状態ならリセット解除する。 ・待機系以外の系が停止エラーになっていないかを確認し，エラー状態ならエラー要因を取り除き，制御系，待機系の動作状態を同一にし，再起動する。 ・バックアップモードで稼動中の待機系に，デバッグモードの CPU ユニットを接続しているときには，正しく制御系と待機系の組合わせになるように接続する。 ・二重化システム立上げ手順を確認し，再立上げを実施する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
6311 6312	【CONTROL SYS. DOWN】 ・二重化システムで制御系から同一性チェックデータが送信されてこないため，待機系として起動できない。 ・二重化システムの立上げ手順を守らなかったため，立上げ時にエラーとなった。 （二重化システムの待機系でのみ検出可能。） ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・トラッキングケーブルを交換する。それでも同エラーとなる場合は CPU ユニットの故障。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。） ・二重化システム立上げ手順を確認し，再立上げを実施する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QnPRH
6313	【CONTROL SYS. DOWN】 二重化システムで，システム構成異常を制御系が検出し，待機系（自系）に通知した。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	ベースユニット間の接続，およびシステム構成（ユニット種別，枚数，パラメータ）が正常であることを確認して，再立上げを実施する。		QnPRH
6400	【PRG. MEM. CLEAR】 制御系から待機系へのメモリコピー機能が実施され，プログラムメモリがクリアされた。 ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・制御系から待機系へのメモリコピー機能実施時	制御系から待機系へのメモリコピー機能完了後に電源 OFF → ON またはリセットを行う。		QnPRH
6410	【MEM. COPY EXE.】 制御系から待機系へのメモリコピー機能が実施された。（二重化システムの制御系でのみ検出可能。） ■ 付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■ 診断タイミング ・制御系から待機系へのメモリコピー機能実施時	—	RUN：点灯 ERR.: 点灯 CPU 状態：続行	
6500	【TRK. PARA. ERROR】 PC パラメータのトラッキング設定で指定したファイルレジスタファイルが存在しない。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，ドライブ名，ファイル名をチェックし，修正する。指定したファイルを作成する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	QnPRH
6501	【TRK. PARA. ERROR】 PC パラメータのトラッキング設定のデバイス詳細設定で指定したファイルレジスタの範囲が指定したファイルレジスタファイル容量を超えている。 ■ 付帯情報 ・共通情報：ファイル名／ドライブ名 ・個別情報：パラメータ No. ■ 診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，ファイルレジスタ容量を増加する。		

付 1.9 エラーコード一覧（7000 ～ 10000）

エラーコード（7000 ～ 10000）のエラーメッセージ，異常内容と原因および処置方法について説明します。

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
7000	【MULTI CPU DOWN】 ・マルチ CPU システムで，動作モードで “システム停止を選択した” 号機の CPU ユニットで異常が発生した。 ・マルチ CPU システムで，マルチ CPU システム未対応の CPU ユニットを装着した。 ・1 号機以外の CPU ユニットが稼動中にベースユニットからはずれた。または，1 号機以外の CPU ユニットをリセットした。 ・電源 ON 時／リセット時に瞬停が発生した。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・常時	・エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，異常となった CPU ユニットのエラーを確認し，エラーを取り除く。 ・マルチ CPU システム未対応の CPU ユニットを基本ベースユニットからはずす。 ・1 号機以外の CPU ユニットの装着状態，リセット有無を確認する。 ・供給電源を確認する。 ・電源ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnU
	【MULTI CPU DOWN】 マルチ CPU システムで，電源 ON 時に 1 号機が停止エラーで他号機が立ち上がれない。（2 ～ 4 号機で発生） **■ 付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，異常となった CPU ユニットのエラーを確認し，エラーを取り除く。		
7002	【MULTI CPU DOWN】 ・マルチ CPU システムのイニシャル交信時，イニシャル交信対象の号機からの応答が返ってこない。 ・マルチ CPU システムで，マルチ CPU システム未対応の CPU ユニットを装着した。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・リセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，どちらかの CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。） ・マルチ CPU システム未対応の CPU ユニットを基本ベースユニットからはずす。もしくは，マルチ CPU システム未対応の CPU ユニットをマルチ CPU システム対応の CPU ユニットに交換する。		Q00/Q01 Qn(H) QnPH
	【MULTI CPU DOWN】 マルチ CPU システムのイニシャル交信時，イニシャル交信対象の号機からの応答が返ってこない。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	リセットして再度 RUN させる。再度同じエラーを表示した場合は，どちらかの CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）		QnU
7003	【MULTI CPU DOWN】 マルチ CPU システムのイニシャル交信時，イニシャル交信対象の号機からの応答が返ってこない。 **■ 付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- **■ 診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時			Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
7004	【MULTI CPU DOWN】 マルチ CPU システム，CPU ユニット間交信においてデータ異常が発生した。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・常時	・システム構成において，入出力点数を超過して装着しているユニットがないか確認する。 ・システム構成に問題がない場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00/Q01 QnU
7010	【MULTI EXE. ERROR】 ・マルチ CPU システムで，故障している CPU ユニットが装着されている。 ・マルチ CPU システムで，マルチ CPU システム未対応の CPU ユニットが装着されている。（マルチ CPU システム対応の CPU ユニットでエラーを検出する。） ・マルチCPUシステムで，電源ON中に2～4号機をリセットした。（リセットを解除した号機でエラーを検出する。） ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，故障している CPU ユニットを交換する。 ・マルチ CPU システム対応の CPU ユニットに交換する。 ・2～4 号機の CPU ユニットをリセットしないようにする。 ・1 号機の CPU ユニットをリセットし，マルチ CPU システムの再立上げを行う。		Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnU
	【MULTI EXE. ERROR】 マルチ CPU システムでパソコン CPU ユニット対応ソフトウェアパッケージ (PPC-DRV-01) *2 のバージョンが 1.06 以前のものを使用している。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	パソコン CPU ユニット対応ソフトウェアパッケージ (PPC-DRV-01) *2 のバージョンを 1.07 以降にする。		Q00/Q01
	【MULTI EXE. ERROR】 マルチ CPU 間高速基本ベースユニット (Q3□DB) に，Q172(H)CPU(N)，Q173(H)CPU(N) が装着されている。(ユニットが故障する可能性がある。) ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	Q172(H)CPU(N)，Q173(H)CPU(N) を，マルチ CPU 間高速基本ベースユニット対応のモーション CPU に交換します。		Qn(H) QnPH
	【MULTI EXE. ERROR】 ユニバーサルモデル QCPU（Q02UCPU を除く）と，Q172(H)CPU(N) が，同じベースユニット上に装着されている。(ユニットが故障する可能性がある。) ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	マルチ CPU システム構成が可能な，QCPU とモーション CPU を確認し，組み合わせ可能なシステム構成に変更する。		

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
7011	【MULTI EXE. ERROR】 マルチ CPU システムで，下記のいずれかの設定を行った。 ・マルチ CPU 間自動リフレッシュを行えない CPU ユニットに対してマルチ CPU 自動リフレッシュ設定を行った。 ・グループ外取り込みを行えないCPUユニットに対してグループ外の入出力設定を行った。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・マルチ CPU 自動リフレッシュ設定を修正する。 ・グループ外の入出力設定を修正する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00/Q01 QnU
	【MULTI EXE. ERROR】 マルチ CPU 間高速通信機能を使用するためのシステム構成を満たしていない。 ・1 号機にユニバーサルモデル QCPU（Q00UCPU，Q01UCPU，Q02UCPU を除く）を使用していない。 ・マルチ CPU 間高速基本ベースユニット（Q3 □ DB）を使用していない。 ・マルチCPU間高速通信機能未対応CPUに対し，送信範囲を 0 点以外に設定している。 ・マルチ CPU 間高速通信エリア未対応の CPU ユニット に対し，マルチ CPU 間高速通信エリアでの自動リフレッシュの送信範囲を 0 点以外に設定している。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・マルチ CPU 間高速通信機能を使用するための条件を満たすシステム構成に変更する。 ・マルチCPU間高速通信エリアでの自動リフレッシュを行う場合，マルチ CPU 間高速通信エリアに対応していない CPU ユニット の送信範囲を 0 点に設定する。		QnU
7013	【MULTI EXE. ERROR】 CPU スロットおよびスロット 0 ～ 2 に，Q172(H)CPU(N)，Q173(H)CPU(N) が装着されている。（ユニットが故障する可能性がある。） ■ **付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・マルチCPUシステム構成が可能なQCPUとモーション CPU を確認し，組み合わせ可能なシステム構成に変更する。 ・未対応のモーション CPU をはずす。		QnU
7020	【MULTI CPU ERROR】 マルチ CPU システムで，動作モードで，「システム停止が選択されていない」号機で異常が発生した。（異常が発生していない CPU ユニットでエラーを検出する。） ■ **付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・常時	エラーの共通情報をプログラミングツールで読み出し，異常となった CPU ユニットのエラーを確認し，エラーを取り除く。	RUN：点灯 ERR.: 点灯 CPU 状態：続行	Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnU
7030	【CPU LAY ERROR】 PC パラメータのマルチ CPU 設定で設定した CPU ユニット枚数を超えた CPU 装着可能スロット（CPU スロット，I/O スロット 0，1）で割付け異常が発生した。 ■ **付帯情報** ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■ **診断タイミング** ・電源 ON 時／リセット時	・PC パラメータのマルチ CPU 設定で設定した CPU ユニット枚数と装着されている CPU ユニット枚数（CPU（アキ）を含む）を同一にする。 ・PCパラメータのI/O割付設定で設定した種別と CPU ユニットの装着状態を同一にする。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00J/Q00/Q01 QnU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態, CPU 状態	対応 CPU
7031	【CPU LAY ERROR】 PC パラメータのマルチ CPU 設定で設定した CPU 台数の範囲内で割付け異常が発生した。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・PC パラメータのマルチ CPU 設定で設定した CPU ユニット枚数と装着されている CPU ユニット枚数（CPU（アキ）を含む）を同一にする。 ・PCパラメータのI/O割付設定で設定した種別と CPU ユニットの装着状態を同一にする。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Q00J/Q00/Q01 QnU
7032	【CPU LAY ERROR】 マルチ CPU システムを構成している各 CPU ユニットの装着枚数が間違っている。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	各 CPU の装着枚数が仕様で定義されている最大枚数を超えないようなシステム構成にする。		Q00J/Q00/Q01 QnU
7035	【CPU LAY ERROR】 CPU ユニットが装着不可のスロットに CPU ユニットが装着されている。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（スロット No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・CPU ユニットを装着可能なスロットに装着する。 ・CPU ユニット装着不可のスロットから CPU ユニットをはずす。		Q00J/Q00/Q01 QnPRH QnU
7036	【CPU LAY ERROR】 マルチ CPU 設定で設定した自号機番号と，CPU ユニットの装着位置により決定する自号機番号が一致しない。 ■付帯情報 ・共通情報：ユニット No.（号機 No.） ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	・CPU ユニットの装着スロットを，正しい装着スロットに装着する。 ・マルチ CPU 設定の自号機番号設定を，CPU ユニットの装着位置により決定する号機番号に修正する。		QnU
8031	【INCORRECT FILE】 格納されているファイル（有効となっているパラメータファイル）の異常を検出した。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：ファイル診断情報 ■診断タイミング ・電源ON 時/リセット時/STOP →RUN時/PC書込み時	個別情報の SD16(L) で示されるドライブに対して，個別情報の SD17 ～ SD22 で示されるファイルを書き込んで，CPU ユニットの電源 OFF → ON またはリセット→リセット解除を行う。 再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常であるため，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。		QnU LCPU
9000	【F**** 】 アナンシェータ (F) が ON した。（エラーメッセージの **** は検出されたアナンシェータ番号。） ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：アナンシェータ No. ■診断タイミング ・命令実行時	エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（アナンシェータ No.）のプログラムをチェックする。	RUN：点灯 ERR.: 点灯／消灯*1 USER：点灯*3 CPU 状態：続行	QCPU LCPU

エラーコード	異常内容と原因	処置方法	LED 状態，CPU 状態	対応 CPU
9010	【<CHK>ERR ***-***】 CHK 命令でエラーを検出した。（エラーメッセージの *** は検出された接点とコイルの番号。） ■付帯情報 ・共通情報：プログラムエラー箇所 ・個別情報：故障 No. ■診断タイミング ・命令実行時	エラーの個別情報をプログラミングツールで読み出し，その数値（故障 No.）のプログラムをチェックする。	RUN：点灯 ERR.: 消灯 USER：点灯 CPU 状態：続行	Qn(H) QnPH QnPRH
9020	【BOOT OK】 標準 ROM の自動書込み操作で正常に ROM 化が完了した。（BOOT LED も点滅） ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・電源 ON 時／リセット時	ディップスイッチのパラメータ有効ドライブを標準 ROM に設定し，電源の再立上げを行い，標準 ROM からのブート運転を行う。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：停止	Qn(H) QnPH QnPRH
10000	【CONT. UNIT ERROR】 マルチ CPU システムでプロセス CPU またはハイパフォーマンスモデル QCPU 以外の CPU ユニットでエラーが発生した。 ■付帯情報 ・共通情報：- ・個別情報：- ■診断タイミング ・常時	発生したエラーの詳細は，プログラミングツールで該当 CPU ユニットに接続して確認する。	RUN：消灯 ERR.: 点滅 CPU 状態：続行	Qn(H) QnPH

＊1　ベーシックモデル QCPU では，LED 制御機能で点灯／消灯できます。（ハイパフォーマンスモデル QCPU，プロセス CPU，二重化 CPU，ユニバーサルモデル QCPU，LCPU では，消灯のみになります。）
使用する CPU ユニットのユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）

＊2　正式名称は，MELSEC-Q シリーズ対応パソコン CPU ユニット用バスインタフェースドライバソフトウェアパッケージとなります。

＊3　ベーシックモデル QCPU には USER LED はありません。

付 1.10 エラーの解除

CPU ユニットの動作を続行するエラーに限り，エラーの解除操作を行うことができます。

1. **エラーの要因を解消します。**
2. **SD50 に解除するエラーコードを格納します。**
3. **SM50 を OFF → ON します。**
4. **対象エラーが解除されます。**

エラー解除で CPU ユニットを復帰すると，エラーに関係する SM，SD，または LED/LED 表示器はエラー発生前の状態に戻ります。エラー解除を行ったあとに再度同じエラーが発生した場合は，エラー履歴に再登録されます。複数検出したアナンシェータの解除は，最初に検出したアナンシェータ番号のみ解除されます。エラーの解除の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

使用する CPU ユニットのユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）

付 1.11 CPU ユニットとの交信時に要求元に返すエラーコード

CPU ユニットは，プログラミングツール，インテリジェント機能ユニット，またはネットワークシステムからの交信要求時にエラーが発生した場合は，要求元にエラーコードを返します。
本エラーコードは，CPU ユニットの自己診断機能で検出されるエラーではないため，SD0 には格納されません。
要求元がプログラミングツールの場合は，メッセージとエラーコードが表示されます。要求元がインテリジェント機能ユニット，ネットワークシステムの場合は，要求した処理に対するエラーコードを返します。

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
0050_H	MC プロトコル関連エラー	サブヘッダのコマンド／レスポンス種別が規定以外のコードになっている。	• MC プロトコルなどのコマンドデータを確認する。 • 再度実行する。 • 再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常であるため，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。	QCPU LCPU
4000_H	共通エラー	シリアル通信サムチェックエラー	• シリアル通信ケーブルを正しく接続する。 • ノイズ対策を実施する。	QCPU LCPU
4001_H		サポート外の要求を実行した。	• MC プロトコルなどのコマンドデータを確認する。 • プログラミングツールで選択しているCPUユニット形名を確認する。	QCPU LCPU
4002_H		サポート外の要求を実行した。	• MC プロトコルなどのコマンドデータを確認する。 • プログラミングツールで選択しているCPUユニット形名を確認する。 • 再度実行する。 • 再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常であるため，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。	QCPU LCPU
4003_H		グローバル要求できないコマンドを実行した。	MC プロトコルなどのコマンドデータを確認する。	QCPU LCPU
4004_H		下記のシステムプロテクト機能により CPU ユニットに対する操作が禁止されています。 • システムプロテクトスイッチが ON • CPU ユニットが起動中である	• CPU ユニット本体のシステムプロテクトスイッチを OFF にする。 • CPU ユニット起動完了後に再度操作を実施する。	QCPU LCPU
4005_H		指定された要求で扱うデータ量が多すぎる。	MC プロトコルなどのコマンドデータを確認する。	QCPU LCPU
4006_H		初期通信に失敗した。	• シリアル通信時，外部機器メーカにサポート状況を確認する。 • シリアル通信時，プログラミングツールで選択している CPU ユニット形名を確認する。 • Ethernet 通信時，通信開始のタイミングをずらす。	QCPU LCPU
4008_H		CPU ユニットが BUSY である。（バッファが空でない）	任意の時間経過後，再度要求を実行する。	QCPU
4010_H	CPU モードエラー	CPU ユニットが RUN 中のため，要求内容を実行できない。	CPU ユニットを STOP 状態にしてから実行する。	QCPU LCPU
4013_H		CPU ユニットが STOP 状態でないため，要求内容を実行できない。	CPU ユニットを STOP 状態にしてから実行する。	QCPU LCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
4021_H	ファイル関連エラー	指定したドライブ（メモリ）が存在しないまたは異常である。	• 指定ドライブ（メモリ）の状態を確認する。 • CPU ユニット内部のデータバックアップを実施後，PC メモリフォーマットを実行する。	QCPU LCPU
4022_H		指定したファイル名，ファイル No. のファイルが存在しない。	指定したファイル名，ファイル No. を確認する。	QCPU LCPU
4023_H		指定したファイルのファイル名とファイル No. が一致しない。	ファイルを削除後，再度ファイルを作成する。	QCPU LCPU
4024_H		指定したファイルはユーザでは扱えない。	指定したファイルにはアクセスしない。	QCPU LCPU
4025_H		指定したファイルは他のプログラミングツールからの要求を処理中である。	要求を強制実行する。または，他のプログラミングツールからの処理が完了してから，再度要求する。	QCPU LCPU
4026_H		対象ドライブ（メモリ）に設定してあるファイルパスワードの指定が必要である。	対象ドライブ（メモリ）に設定してあるファイルパスワードを指定してアクセスする。	QCPU LCPU
4027_H		指定した範囲が，ファイルサイズの範囲を超えている。	指定した範囲を確認し，範囲内でアクセスする。	QCPU LCPU
4028_H		同一ファイルが存在する。	要求を強制実行する。または，ファイル名を変更して実行する。	QCPU LCPU
4029_H		指定したファイルの容量が確保できない。	指定したファイルの容量を見直す。または，指定したドライブメモリの整理を行い，再度実行する。	QCPU LCPU
$402A_H$		指定したファイルが異常である。	CPU ユニット内部のデータバックアップを実施後，PC メモリフォーマットを実行する。	QCPU LCPU
$402B_H$		指定したドライブ（メモリ）では要求内容を実行できない。	CPU ユニットを STOP 状態にして再度実行する。 PC メモリ整理を実施して，連続なドライブ（メモリ）の空き容量を増やす。	QCPU LCPU
$402C_H$		現在は要求内容を実行できない。	しばらくしてから再度実行する。	QCPU LCPU
4030_H	デバイス指定エラー	• 指定したデバイス名が扱えない。 • 拡張データレジスタ（D），拡張リンクレジスタ（W）に対応していない CPU ユニットに対し，65536 以上のデバイス No. を指定した。	• 指定したデバイス名を確認する。 • 拡張データレジスタ（D），拡張リンクレジスタ（W）に対応している CPU ユニットを使用する。	QCPU LCPU
4031_H		• 指定したデバイス No. が範囲外である。 • 指定したデバイス名に CPU ユニットが対応していない。	• 指定したデバイス No. を確認する。 • CPU ユニットのデバイス割付パラメータを確認する。 • 指定したデバイス名を確認する。	QCPU LCPU
4032_H		指定したデバイス修飾に誤りがある。または，MC プロトコルのランダム読出し／ランダム書込み／モニタ登録／モニタコマンドで使用できないデバイス名を指定した。	• 指定したデバイス修飾方法を確認する。 • 指定したデバイス名を確認する。	QCPU LCPU
4033_H		指定のデバイスはシステム用であるため書込みできない。	指定したデバイスにはデータを書き込まない，または ON/OFF しない。	QCPU
4034_H		専用命令の完了デバイスが ON できないため，実行不可。	SREAD 命令／ SWRITE 命令で対象局 CPU ユニットの完了デバイスが ON できないため，対象局 CPU ユニットの運転状態を RUN 状態にして再度実行する。	QCPU LCPU
4040_H	インテリジェント機能ユニット指定エラー	指定のインテリジェント機能ユニットには要求内容を実行できない。	指定のユニットがバッファメモリを持つインテリジェント機能ユニットか確認する。	QCPU LCPU
4041_H		アクセス範囲が，指定したインテリジェント機能ユニットのバッファメモリ範囲を超えている。	先頭アドレス，アクセス点数を確認し，インテリジェント機能ユニットに存在する範囲でアクセスする。	QCPU LCPU
4042_H		指定したインテリジェント機能ユニットにアクセスできない。	• 指定したインテリジェント機能ユニットが正常に動作しているか確認する。 • 指定したユニットがハードウェア異常か確認する。	QCPU LCPU
4043_H		指定したインテリジェント機能ユニットが存在しない。	指定したインテリジェント機能ユニットの入出力番号を確認する。	QCPU LCPU
4044_H		インテリジェント機能ユニットへのアクセスでコントロールバスエラーが発生した。	指定したインテリジェント機能ユニットやそれ以外のユニット，ベースユニットにハードウェア異常がないか確認する。	QCPU
4048_H		MELSECNET,MELSECNET/B ローカル局用データリンクユニットのバッファメモリへのアクセスでエラーが発生した。	MELSECNET,MELSECNET/B ローカル局用データリンクユニットのバッファメモリはアクセス禁止のため，アクセスしない。	QCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
4050_H	プロテクトエラー	メモリカードのライトプロテクトスイッチ，または SD メモリカードのプロテクトスイッチが ON のため，要求内容を実行できない。	メモリカードのライトプロテクトスイッチ，または SD メモリカードのプロテクトスイッチを OFF にする。	QCPU LCPU
4051_H		指定したドライブ（メモリ）にアクセスできない。	下記を確認し，処置する。 ・使用可能なドライブ（メモリ）であるか。 ・指定されたドライブ（メモリ）が正しく装着されているか。	QCPU LCPU
4052_H		指定したファイルの属性が読出し専用のため，データを書き込めない。	指定したファイルにはデータを書き込まない，またはファイルの属性を変更する。	QCPU LCPU
4053_H		指定したドライブ（メモリ）へのデータの書込みでエラーが発生した。	指定したドライブ（メモリ）を確認する，または対象ドライブ（メモリ）を交換後，再度書込みを行う。	QCPU LCPU
4054_H		指定したドライブ（メモリ）のデータ消去でエラーが発生した。	指定したドライブ（メモリ）を確認する，または対象ドライブ（メモリ）を交換後，再度消去を行う。	QCPU LCPU
4060_H	オンライン登録エラー	他のプログラミングツールでオンラインデバッグ機能（RUN 中書込／サンプリングトレース／モニタ条件の設定など）およびデータロギング機能を実施中である。	・他のプログラミングツールの操作終了後に再度実施する。 ・他のプログラミングツールで操作中断している場合は，他のプログラミングツールで再度実行して操作を正常完了してから，再度実施する。	QCPU LCPU
4061_H		オンラインデバッグ機能の通信に失敗した。	・オンラインデバッグ機能（RUN 中書込み／サンプリングトレース／モニタ条件の設定など）の登録をしてから実行する。 ・通信ケーブルなど通信経路を確認し，再度実行する。	QCPU LCPU
4063_H		ファイルロックの登録数がシステムの MAX 数を超えた。	他のプログラミングツールによるファイルアクセスが終了してから，再度実施する。	QCPU LCPU
4064_H		オンラインデバッグ機能（RUN 中書込／サンプリングトレース／モニタ条件の設定など），データロギング機能およびリアルタイムモニタ機能の指定内容がおかしい。	・オンラインデバッグ機能（RUN 中書込／サンプリングトレース／モニタ条件の設定など），データロギング機能およびリアルタイムモニタ機能の設定データを確認する。 ・通信ケーブルなど通信経路を確認し，再度実行する。	QCPU LCPU
4065_H		デバイス割付け情報がパラメータと異なる。	CPU ユニットのデバイス割付パラメータまたは要求データのデバイス割付を確認する。	QCPU
4066_H		指定のファイルパスワードが間違っている。	指定のファイルの正しいファイルパスワードを確認する。	QCPU LCPU
4067_H		モニタの通信に失敗した。	・PC メモリフォーマット時に指定するユーザ設定のシステムエリア容量を確認する。 ・通信ケーブルなど通信経路を確認し，再度実行する。	QCPU LCPU
4068_H		他のプログラミングツールから同一操作実行中のため操作できない。	他のプログラミングツールからの操作終了後に再度実行する。	QCPU LCPU
$406A_H$		扱えないドライブ（メモリ）番号（0 ～ 4 以外）を指定した。	指定したドライブを確認し，正しいドライブを指定する。	QCPU LCPU
$406B_H$		CPU ユニット異常のためオンライン操作を中断した。	PC 診断機能で CPU ユニットの状態を確認する。 エラー確認後，各トラブルシュートを参照する。	QnUDV QnUDPV
4070_H	回路照合エラー	RUN 中書込み操作の修正前のプログラムと修正後のプログラムが異なる。	PC 読出を実施して，プログラミングツールと CPU ユニットのプログラムを同一のものにしてから，再度 RUN 中書込みを実行する。	QCPU LCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
4080_H	その他のエラー	要求データ異常	指定した要求データ内容を確認する。	QCPU LCPU
4081_H		サーチする対象が検出できなかった。	サーチするデータを確認する。	QCPU LCPU
4082_H		指定コマンドは実行中のため，実行不可である。	他のプログラミングツールからの要求を完了してから，再度コマンドを実行する。	QCPU LCPU
4083_H		パラメータに登録されていないプログラムに対して操作をしようとした。	パラメータに操作するプログラムを登録する。	QCPU LCPU
4084_H		指定ポインタ P,I が存在しなかった。	指定のデータ中のポインタ P,I を確認する。	QCPU LCPU
4085_H		パラメータ指定されていないプログラムのため，ポインタ P,I の指定ができない。	パラメータに実行するプログラムを登録してからポインタ P,I を指定する。	QCPU
4086_H		すでにあるポインタ P,I を追加しようとした。	追加するポインタ No. を確認し，修正する。	QCPU LCPU
4087_H		指定しようとしたポインタ P,I の数がオーバした。	指定するポインタ P,I を確認し，修正する。	QCPU LCPU
4088_H		• 指定したステップ No. が命令の先頭でなかった。 • CPU ユニットに格納されたプログラムと該当プログラムの内容が異なる。	• 指定するステップ No. を確認し，修正する。 • PC 読出を実施して，プログラミングツールと CPU ユニットのプログラムを同一のものにしてから，再度 RUN 中書込を実行する。	QCPU LCPU
4089_H		RUN 中書込み操作で END 命令の挿入／削除をしようとした。	• 指定のプログラムファイル内容を確認する。 • CPUユニットをSTOP状態にしてからプログラムを書き込む。	QCPU LCPU
$408A_H$		RUN 中書込みによってファイル容量がオーバした。	• 指定のプログラムファイルの容量を確認する。 • CPUユニットをSTOP状態にしてからプログラムを書き込む。	QCPU LCPU
$408B_H$		リモート要求の実行不可	• CPUユニットをリモート要求の実行できる状態にしてから，再度要求を行う。 • リモートリセット操作の場合は，パラメータで「リモートリセットを許可する」に設定する。	QCPU LCPU
$408C_H$		CHK 命令を使用しているプログラムを低速プログラムとしてリモート起動しようとした。	CHK 命令を含んだプログラムは低速実行できない。プログラムを確認後，再度実行する。	Qn(H) QnPH QnPRH
$408D_H$		扱えない命令コードが存在する。	• 使用している CPU ユニットの機種が正しいか確認する。 • RUN 中書込みを実行しようとしたプログラム内に，プロジェクトで設定した CPU ユニット形名で扱えない命令が存在する。プログラムを見直して，その命令を削除する。	QCPU LCPU
$408E_H$		• 書込みステップが不正である。 • CPU ユニットに格納されたプログラムと該当プログラムの内容が異なる。	• CPUユニットをSTOP状態にしてからプログラムを書き込む。 • RUN 中書込みの開始位置が，正しいプログラムステップ No. で指定されていない。使用しているプログラミングツールが，プロジェクトで設定した CPU ユニット形名および CPU ユニットのバージョンに対応しているか確認する。 • PC 読出しを実施して，プログラミングツールと CPU ユニットのプログラムを同一にしてから，再度 RUN 中書込みを実施する。	QCPU LCPU
$40A0_H$	SFC デバイス指定エラー	範囲外のブロック No. を指定した。	設定内容を確認し，修正する。	QCPU LCPU
$40A1_H$		ブロック数の範囲をオーバして指定した。	設定数を確認し，修正する。	QCPU LCPU
$40A2_H$		範囲外のステップ No. を指定した。	設定内容を確認し，修正する。	QCPU LCPU
$40A3_H$		ステップ数範囲オーバ	設定数を確認し，修正する。	QCPU LCPU
$40A4_H$		範囲外のシーケンスステップ No. を指定した。	設定内容を確認し，修正する。	Qn(H) QnPH QnPRH

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$40A5_H$	SFC デバイス指定エラー	指定したデバイスが範囲外だった。	設定数を確認し，修正する。	Qn(H) QnPH QnPRH
$40A6_H$		ブロック指定パターンおよびステップ指定パターンが誤っていた。	設定内容を確認し，修正する。	
$40B0_H$	SFC ファイル関連エラー	SFC ファイルの操作で指定したドライブ（メモリ）が間違っている。	設定内容を確認し，修正する。	QCPU LCPU
$40B1_H$		SFC ファイルの操作で指定した SFC プログラムが存在しない。	指定したファイル名を確認し，修正する。	QCPU LCPU
$40B2_H$		SFC ファイルの操作で指定プログラムが SFC プログラムでない。	指定したファイル名を確認し，修正する。	QCPU LCPU
$40B3_H$		SFC の RUN 中書込みで SFC 図を示す「STEP 開始命令や移行開始命令など」の「SFC 専用命令」の書換え操作を実施しようとした。（SFC 専用命令は RUN 中書込みできません。）	CPU ユニットを STOP 状態にしてからプログラムを書き込む。	Qn(H) QnPH QnPRH
$40B4_H$		活性中のブロックは変更／削除できない。	対象ブロックを非活性にしてから，RUN 中書込みにより変更，または削除する。	QCPU LCPU
$40B5_H$		プログラム変更後の SFC ステップ数が最大数を超える。	RUN 中書込みにより，追加する SFC ステップ数を減らす。	QCPU LCPU
$40B6_H$		指定のブロックは存在しない。	• 編集前の SFC プログラムと CPU ユニット中の SFC プログラムの PC 照合を実施し，一致することを確認してから SFC プログラムを編集し，RUN 中書込みを実行する。 • CPU ユニットから PC 読出により読み出した SFC プログラムを編集し，RUN 中書込みを実行する。	QCPU LCPU
$40B7_H$		待機タイプの SFC プログラムには RUN 中書込はできない。	SFC 非活性ブロック RUN 中書込は，スキャンタイプの SFC プログラムに対して実行するようにする。	QCPU LCPU
$40B8_H$		SFC 用情報デバイスのデバイス番号が範囲外。	ブロック情報の設定を見直す。	QCPU LCPU
$40B9_H$		変更後の SFC プログラムが不正。	通信経路（ケーブル接続状態など）を見直す。	QCPU LCPU
$40BA_H$		シーケンスステップ数が 32K ステップを超える SFC ブロックはブロック単位で RUN 中書込みできない。	• ブロック単位で RUN 中書込みする場合，対象の SFC ブロックのシーケンスステップ数は 32K ステップ以内とする。 • CPU ユニットを STOP 後，PC 書込みにより SFC プログラムを書き込む。	QCPU LCPU
$40BB_H$		PC 書込直後またはプログラム実行異常が発生しているため，RUN 中書込みできない。	• STOP → RUN 後，SFC 非活性ブロック RUN 中書込を実行する。（STOP 中のプログラム変更はプログラムの PC 書込により実行できる。） • プログラム実行異常（エラーコード：2504）が発生している場合，スキャン実行タイプに設定する SFC プログラムは同時に 1 つ以下になるようにパラメータなどを設定する。	QCPU LCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
4100_H	その他のエラー	CPU ユニットのハードウェア異常	CPU ユニットを交換する。	QCPU LCPU
4101_H		シリアル通信接続を実施した CPU ユニットのシリーズが異なる。	CPU ユニットのシリーズを確認する。	QCPU LCPU
4102_H		ファイルレジスタ使用中にフラッシュ ROM をイレースしようとした。	CPU ユニットを STOP 状態にし，再度実行する。	QCPU LCPU
4103_H		RUN 中書込みした命令が間違っている。不正である。	再度 RUN 中書込みを実施するか，CPU ユニットを STOP 状態にしてからプログラムを書き込む。	QCPU LCPU
4105_H		CPU ユニット内部メモリのハードウェア異常	CPU ユニットを交換する。	Qn(H) QnPH QnPRH
4106_H		CPU ユニットがシステム初期化処理中のため，コマンドを実行できない。	CPU ユニットが起動してから，再度操作を実行する。	
4107_H		対象 CPU ユニット形名では，機能がない操作を実施しようとした。	対象 CPU ユニットで未サポートの機能を実施しない。	
4108_H		デバイスの読出し時にメモリの書き換わりを検出した。	メモリの書き換わりを検出したデバイスに値を書き込んだ後，再度デバイスを読み出す。	QCPU LCPU
4109_H		同一コンピュータの他アプリケーションでモニタ条件を設定したモニタを実行中であるため，指定の操作を実行できない。	モニタ条件を設定した画面において，モニタ条件登録を解除した後，同操作を再実行する。	QCPU LCPU
$410A_H$	その他のエラー	RUN 中書込中のため，指定のコマンドを実行できない。	RUN 中書込完了後，再度同操作を実行する。	QCPU LCPU
$410B_H$		RUN 中書込により，モニタ条件の登録が解除された。	RUN 中書込完了後，再度モニタ条件を登録する。	QCPU LCPU
$410C_H$		指定データへの書込みはサポートしていない。	• 正しいバージョンのプログラミングツールを使用しているか確認する。 • 設定内容を確認し，修正する。	QCPU
$410D_H$		プログラムキャッシュメモリの読出し時にメモリの書き換わりを検出した。	• メモリの書き換わりを検出したファイルを再度プログラムキャッシュメモリに書き込む。 • 電源 OFF → ON またはリセットを行い，プログラムメモリの内容をプログラムキャッシュメモリに転送する。	QCPU LCPU
4110_H	CPU ユニット関連エラー	CPU ユニットが停止エラー状態のため，要求内容を実行できない。	CPU ユニットをリセット後，再度要求を実行する。	Qn(H) QnPH QnPRH
4111_H		マルチ CPU システムで他の CPU ユニットが立ち上がっていないため，要求内容を実行できない。	他の CPU ユニットが立ち上がった後，再度要求を実行する。	

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
4121_H	ファイル関連エラー	指定のドライブ（メモリ）またはファイルが存在しない。	指定のドライブ（メモリ）またはファイルを確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
4122_H		指定のドライブ（メモリ）またはファイルが存在しない。	指定のドライブ（メモリ）またはファイルを確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
4123_H		指定ドライブ（メモリ）が異常である。	PC メモリフォーマットを実施し，ドライブ（メモリ）を正常にする。フラッシュ ROM の場合は，フラッシュ ROM の書込み内容を確認し，フラッシュ ROM 書込みを実施する。	QCPU LCPU
4124_H		指定ドライブ（メモリ）が異常である。	PC メモリフォーマットを実施し，ドライブ（メモリ）を正常にする。フラッシュ ROM の場合は，フラッシュ ROM の書込み内容を確認し，フラッシュ ROM 書込みを実施する。	QCPU LCPU
4125_H		指定されたドライブ（メモリ）またはファイルは処理中	しばらくしてから再度実行する。	QCPU LCPU
4126_H		指定されたドライブ（メモリ）またはファイルは処理中	しばらくしてから再度実行する。	QCPU LCPU
4127_H		ファイルパスワードが不一致	ファイルパスワードを確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
4128_H		コピー先とのファイルパスワードが不一致	ファイルパスワードを確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
4129_H		指定されたドライブ（メモリ）が ROM であるため実行不可	対象ドライブ（メモリ）を変更後，再度実行する。	QCPU LCPU
$412A_H$		指定されたドライブ（メモリ）が ROM であるため実行不可	対象ドライブ（メモリ）を変更後，再度実行する。	QCPU LCPU
$412B_H$		指定されたドライブ（メモリ）は書込み禁止	書込み禁止条件またはドライブ（メモリ）を変更後，再度実行する。	QCPU LCPU
$412C_H$		指定されたドライブ（メモリ）は書込み禁止	書込み禁止条件またはドライブ（メモリ）を変更後，再度実行する。	QCPU LCPU
$412D_H$		指定されたドライブ（メモリ）の空き容量不足	ドライブ（メモリ）の空き容量を増加し，再度実行する。	QCPU LCPU
$412E_H$		指定されたドライブ（メモリ）の空き容量不足	ドライブ（メモリ）の空き容量を増加し，再度実行する。	QCPU LCPU
$412F_H$		ドライブ（メモリ）のコピー先とコピー元でドライブ（メモリ）の容量が異なる。	コピー先とコピー元のドライブ（メモリ）を確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
4130_H		ドライブ（メモリ）のコピー先とコピー元でドライブ（メモリ）の種類が異なる。	コピー先とコピー元のドライブ（メモリ）を確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
4131_H		ファイルのコピー先とコピー元でファイル名が同一である。	ファイル名を確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
4132_H		指定された数のファイルが存在しない。	指定内容を確認し，再度実行する。	QCPU LCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
4133_H	ファイル関連エラー	指定されたドライブ（メモリ）に空きがない。	ドライブ（メモリ）の空き容量を増加し，再度実行する。	QCPU LCPU
4134_H		ファイルの属性指定データが間違っている。	指定内容を確認し，再度実行する。	QCPU LCPU
4135_H		周辺装置側（パソコン）の日付／時間データが範囲を超えている。	周辺装置側（パソコン）の時計設定を確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
4136_H		指定ファイルがすでに存在する。	指定のファイル名を確認し，再度実行する。	QCPU LCPU
4137_H		指定されたファイルは読出し専用ファイルである。	指定ファイルの条件を変更後，再度実行する。	QCPU LCPU
4138_H		同時にアクセス可能なファイルが MAX を超えた。	ファイル操作を減少させて，再度実行する。	QCPU LCPU
4139_H		指定のファイルがすでに存在するファイルサイズの範囲をオーバしている。	指定ファイルのサイズを確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
$413A_H$		指定のファイルがすでに存在するファイルのサイズをオーバしている。	指定ファイルのサイズを確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
$413B_H$		異なるプログラミングツールから同一ファイルのアクセスを同時に実施した。	しばらくしてから再度実行する。	QCPU LCPU
$413C_H$		指定されたファイルは書込み禁止ファイルである。	ファイルの条件を変更後，再度実行する。	QCPU LCPU
$413D_H$		指定されたファイルの容量が確保できない。	指定ドライブ（メモリ）の容量を増加し，再度実行する。	QCPU LCPU
$413E_H$		指定したドライブ（メモリ）には操作不可である。	対象ドライブ（メモリ）を変更後，再度実行する。	QCPU LCPU
$413F_H$		標準 RAM への書込みが禁止されているファイルである。	指定のドライブ（メモリ）を変更後，再度実行する。	QCPU LCPU
$414A_H$	インテリジェント機能ユニット指定エラー	マルチ CPU システムで管理グループ外のインテリジェント機能ユニットに対して操作を実施した。	対象ユニットの管理 CPU から再度実施する。	QCPU
$414C_H$		アクセス不可のバッファメモリアドレスを指定した。	バッファメモリアドレスを確認後，再度実施する。	QCPU LCPU
4150_H	ファイル関連エラー	システムで保護されているドライブをフォーマットしようとした。	対象ドライブ（メモリ）はフォーマットできないため，フォーマットしない。	QCPU LCPU
4151_H		システムで保護されているファイルを削除しようとした。	対象ファイルは削除できないため，削除しない。	QCPU LCPU
4160_H	オンライン登録エラー	強制入出力登録数が MAX 値を超えた。	使用していない強制入出力登録の登録を解除する。	QCPU LCPU
4165_H		複数ブロック RUN 中書込み用システムファイルが存在しない。	PC メモリフォーマット時に複数ブロック RUN 中書込みを可能にするエリアを確保してから，再度実行する。	QCPU
4166_H		同一起動元でファイルの RUN 中書込み実施中のため実行不可	以前に実施したファイルの RUN 中書込みがなんらかの理由（例：実行中の通信障害など）で異常終了したままの状態となっているため，ファイルの RUN 中書込みが不可の状態となっている。 強制的に新しいファイルの RUN 中書込みを実施する。	Qn(H) QnPH QnPRH
4167_H		他の起動元からファイルの RUN 中書込み実施中のため実行不可	以前に実施した他の通信経路からのファイルの RUN 中書込みがなんらかの理由（例：実行中の通信障害など）で異常終了したままの状態となっているため，ファイルの RUN 中書込みが不可の状態となっている。 他のプログラミングツールでファイルの RUN 中書込みを実施していなければ，強制的に新しいファイルの RUN 中書込みを実施する。	
4168_H		実行条件付きデバイステスト登録個数が 32 個を超えている。	CPU ユニットに登録されている実行条件付きデバイステストを登録解除する。または，一度に登録する実行条件付きデバイステストの個数を減らす。	QCPU LCPU
4169_H		実行条件付きデバイステストが 1 つも登録されていない。	CPU ユニットに登録されている実行条件付きデバイステストの個数を確認後，実行条件付きデバイステストの登録を解除する。	QCPU LCPU
$416A_H$		指定した実行条件が存在しない。 （実行条件付きデバイステスト）	登録解除時に指定した実行条件（プログラム，ステップ No.，演算タイミング，デバイス名）が CPU ユニットに登録されているか確認する。	QCPU LCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$416B_H$	オンライン登録エラー	指定したプログラムは SFC プログラムである。 （実行条件付きデバイステスト）	実行条件付きデバイステスト登録／登録解除時に指定するプログラム名を見直す。	QCPU LCPU
4170_H	Ethernet I/F エラー	リモートパスワードに誤りがある。	指定したリモートパスワードを見直し，リモートパスワードのアンロック処理／ロック処理を再実行する。	QCPU LCPU
4171_H		交信に使ったポートがリモートパスワードのロック状態である。	リモートパスワードのアンロック処理を実行した後，交信を行う。	QCPU LCPU
4174_H		リモートパスワードのアンロック処理を要求した機器と異なる。	• リモートパスワードを設定し，MELSOFT 接続で UDP を使用する場合は，同時に複数の相手機器から交信しないようにする。 • リモートパスワードを設定する場合は，MELSOFT 接続は TCP で使用する。	QCPU LCPU
4176_H		直結接続で交信異常が発生した。	• 直結接続でない場合は，直結接続の指定を行わないようにする。 • 直結接続の場合，交信途中で CPU ユニットを電源 OFF，リセットしたり，ケーブルを抜いたりしないようにする。	QCPU LCPU
4178_H		• FTP 機能動作中のためファイル操作はできない。 • FTP 機能動作中にプログラミングツールよりファイルアクセスを伴うオンライン操作を行った。	FTP 機能の動作が完了してから再実行する。	QCPU LCPU
4180_H		システムエラー（OS 内の設定データ異常）。	• 電源ユニット，CPU ユニットが正しく装着されているか確認する。 • システムの使用環境が，CPU ユニットの一般仕様の範囲内か確認する。 • 電源容量が足りているか確認する。 • CPU ユニットをリセットする。 • 再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常であるため，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。	QnU *2 LCPU *2
4181_H		相手機器に送信できない。	• 相手機器の動作を確認する。 • ケーブル，ハブ，ルータなど，相手機器との回線の状態を確認する。 • 回線でパケットが混みあっている場合があるので，少し時間を置き，リトライする。 • 相手機器側の受信エリアに空きがない（TCP のウィンドウサイズが小さい）可能性があるため，相手機器側で受信処理が行われているか，または CPU ユニット側から不要なデータを送信していないか確認する。 • CPU ユニット側と相手機器側のサブネットマスクパターン，デフォルトルータ IP アドレスの設定が正しいか，または IP アドレスのクラスが正しいか確認する。	QnU *2 LCPU *2
4182_H		相手機器との交信でタイムアウトが発生した。	• 相手機器の動作を確認する。 • ケーブル，ハブ，ルータなど，相手機器との回線の状態を確認する。 • 回線でパケットが混みあっている場合があるので，少し時間を置き，リトライする。	QnU *2 LCPU *2
4183_H		相手機器との交信が中断された。	• 相手機器の動作を確認する。 • ケーブル，ハブ，ルータなど，相手機器との回線の状態を確認する。 • 交信中のコネクションをコネクション強制無効化した場合に発生することがある。その場合は問題はないのでクリアする。	QnU *2 LCPU *2

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
4184_H	Ethernet I/F エラー	• MC プロトコルで要求伝文受信が連続したため，通信処理バッファがなくなった。 • ソケット通信で受信データ読出しが行われない，または追いつかないため，通信処理バッファがなくなった。 • 通信処理バッファがなくなったため，通信処理ができない。	• MC プロトコルの場合，要求に対する応答を待ってから，次の要求を送信する。 • ソケット通信の場合，受信データ読出しを行うようにする。 • ソケット通信の場合，相手機器からの送信データ量を削減する。	QnU *2 LCPU *2
4185_H		• MC プロトコルで応答を返す前に相手機器とのコネクションが切断された。 • 通信中に相手機器とのコネクションが切断された。	• MC プロトコルの場合，応答が返ってからコネクションを切断するようにする。 • 一連の通信が完了してからコネクションを切断するようにする。 • 他のエラー（4184_H など）が原因の場合があるため，他のエラーが発生している場合は，そのエラーの対処を行う。	QnU *2 LCPU *2
4186_H		システムエラー（OS 内の引数データ異常）	• 電源ユニット，CPU ユニットが正しく装着されているか確認する。 • システムの使用環境が，CPU ユニットの一般仕様の範囲内か確認する。 • 電源容量が足りているか確認する。 • CPU ユニットをリセットする。 • 再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常であるため，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。	QnU *2 LCPU *2
4187_H		システムエラー（OS 内のウェイト処理異常）		
4188_H		システムエラー（OS 内のデータ長異常）		
4189_H		システムエラー（OS 内のプロトコル情報異常）		
$418A_H$		システムエラー（OS 内の相手アドレスデータ異常）		
$418B_H$		システムエラー（OS 内のプロトコル情報異常）		
$418C_H$		システムエラー（OS 内のプロトコル指定処理異常）		
$418D_H$		システムエラー（OS 内のタイプデータ異常）		
$418E_H$		システムエラー（OS 内の優先データ処理異常）		
$418F_H$, 4190_H		システムエラー（OS 内のプロトコル情報異常）		
4191_H		システムエラー（OS 内の相手先アドレス処理異常）		
4192_H		システムエラー（OS 内の自機側アドレス処理異常）		
4193_H ～ 4196_H		システムエラー（OS 内の送信処理異常）		
4197_H, 4198_H		システムエラー（OS 内のコネクション処理異常）		
4199_H		システムエラー（OS 内のコネクション終了処理異常）		
$419A_H$		システムエラー（OS 内のコネクション接続処理異常）		
$419B_H$		システムエラー（OS 内のコネクション終了処理異常）		
$419C_H$, $419D_H$		システムエラー（OS 内の処理手順異常）		
$419E_H$		相手機器と接続できない。または切断された。	• 相手機器の動作を確認する。 • ケーブル，ハブ，ルータなど相手機器との回線の状態を確認する。 • 通信中に発生した場合は，少し時間を置き，リトライする。	QnU *2 LCPU *2

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$419F_H$	Ethernet I/F エラー	システムエラー（OS 内の I/O コントロール処理異常）	• 電源ユニット，CPU ユニットが正しく装着されているか確認する。 • システムの使用環境が，CPU ユニットの一般仕様の範囲内か確認する。 • 電源容量が足りているか確認する。 • CPU ユニットをリセットする。 • 再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常であるため，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。	QnU *2 LCPU *2
$41A0_H$		相手機器の受信エリアに空きがないため，送信できない。	• 少し時間を置き，リトライする。 • 相手機器の動作を確認する。 • 相手機器側で受信処理が行われているか確認する。 • CPUユニット側から不要なデータを送信していないか確認する。 • 送信データのサイズと送信頻度を見直し，送信量を減らす。 • 再送信する場合，データを破棄するためにコネクションをクローズし，再オープンしてから送信する。	QnU *2 LCPU *2
$41A1_H$		CPU ユニットのポート番号の設定値に誤りがある。	ポート番号を修正する。	QnU *2 LCPU *2
$41A2_H$		相手機器のポート番号の設定値に誤りがある。		
$41A3_H$		• TCP/IP において，MC プロトコルと同じ自局ポート番号を指定した。 • TCP/IP において，同一交信相手に対し，自局ポート番号と交信相手ポート番号が同じコネクションが，すでに使用されている。	• MC プロトコルで使用しているポート番号と重複しないポート番号を指定する。 • CPU ユニットおよび相手機器のポート番号を見直し，重複しないように修正する。	QnU *2 LCPU *2
$41A4_H$		• UDP/IP において，MC プロトコルと同じ自局ポート番号を指定した。 • UDP/IP において，指定された自局ポート番号は重複して使用されている。	• MC プロトコルで使用しているポート番号と重複しないポート番号を指定する。 • CPU ユニットのポート番号を見直し，重複しないように修正する。	QnU *2 LCPU *2
$41A5_H$		オープン処理時の，相手機器の IP アドレスの設定値に誤りがある。	IP アドレスを修正する。クラスは A/B/C にする。	QnU *2 LCPU *2
$41A6_H$		TCP コネクションのオープン処理で，コネクションが確立されなかった。	• 相手機器の動作を確認する。 • 相手機器のオープン処理を確認する。 • CPU ユニットのポート番号，相手機器の IP アドレス／ポート番号，オープン方法を見直す。 • 接続ケーブルがはずれていないか確認する。	QnU *2 LCPU *2
$41A8_H$		データ長が許容範囲を超えている。 （Ethernet ポート内蔵 QCPU の場合，シリアル No. の上 5 桁が “12051” 以前は 2046 バイト，シリアル No. の上 5 桁が “12052” 以降は 10238 バイト）	• データ長を修正する。 • 送信するデータ量が規定量を越えているときは分割して送信する。 • Ethernet ポート内蔵 QCPU の場合，送信するデータ長が 2047 ～ 10238 バイトの場合は，シリアル No. の上 5 桁 “12052” 以降の Ethernet ポート内蔵 QCPU を使用する。	QnU *2 LCPU *2
$41AB_H$		再送タイムアウトにより送信に失敗した。	• 相手機器の IP アドレスと Ethernet アドレスを見直し，修正する。 • 相手機器に ARP 機能があるかどうかを確認し，ARP 機能を持つ相手機器と交信する。 • 相手機器の動作を確認する。 • 回線でパケットが混みあっている場合があるので，任意の時間が経過後に送信する。 • ケーブル，ハブ，ルータなど相手機器との回線の状態を確認する。 • 相手機器のイニシャル処理，オープン処理が正常に完了しているかを確認する。 • 相手機器の交信データコード設定がバイナリコードになっているかを確認する。 • シンプル CPU 通信機能使用時，通信開始待ち時間を見直す。	QnU *2 LCPU *2

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$41AC_H$	Ethernet I/F エラー	• 相手機器の生存確認ができなかった。 • 相手機器から TCP 接続が切断された。 • Fullpassive側のチェックで交信を拒否され TCP 接続が切断された。	• 相手機器の動作を確認する。 • 接続ケーブルがはずれていないか確認する。 • Fullpassive 側の交信相手 IP アドレス設定と Active 側の IP アドレスが一致しているか確認する。	QnU *2 LCPU *2
$41AD_H$		ケーブルが未接続／断線のため，送信処理が行えない。	• 接続ケーブルがはずれていないか確認する。 • 相手機器より PING テストを行い，回線に異常がないか確認する。 • 自己診断テスト（CPU ユニットのリセットで実施）を行い，CPU ユニットに異常がないか確認する。 • 送信をリトライする。	QnU *2 LCPU *2
$41AE_H$		FTP サーバへの制御ポートの接続に失敗した。	• 内蔵 Ethernet ポート設定の IP アドレス設定を見直す。 • 転送先サーバ設定（FTP サーバ）を見直す。 • FTP サーバとの接続状態を確認する。 • FTP サーバでユーザセッションを切断する。	QnU *2 LCPU *2
$41AF_H$		FTP サーバへの制御ポートの切断に失敗した。	• 転送先サーバ設定を見直す。 • FTP サーバとの接続状態を確認する。	
$41B0_H$		FTP サーバへのログインに失敗した。	• 転送先サーバ設定（ログインユーザ名，ログインパスワード）を見直す。 • FTP サーバソフトウェアの設定（ログインユーザ名，ログインパスワード）を確認する。 • FTP サーバソフトウェアの通信履歴を確認する。	QnU *2 LCPU *2
$41B1_H$		FTP サーバへの FTP コマンドの実行に失敗した。	• 転送先サーバ設定（ディレクトリパス，データ転送モード）を見直す。 • 転送先 FTP サーバに書込み権限があるか確認する。 • 転送先サーバ設定で指定したディレクトリパスが存在するか確認する • FTP サーバソフトウェアの設定を見直す。 • FTP サーバソフトウェアの通信履歴を確認する。	QnU *2 LCPU *2
$41B2_H$		FTP サーバへのデータ転送ポートの接続に失敗した。	• FTP サーバとの接続状態を確認する。 • 転送先サーバ設定（データ転送モード）を見直す。 • 接続経路にファイアウォール，プロキシサーバが存在する場合は，ネットワーク管理者に設定内容を確認する。	QnU *2 LCPU *2
$41B3_H$		FTP サーバへのデータ転送ポートの切断に失敗した。		QnU *2 LCPU *2
$41B4_H$		コネクション No. の指定に誤りがある。	• コネクション No. は，1 ～ 16 で指定する。 • ソケット通信を使用する場合，パラメータのオープン方式が “ソケット通信” になっているか確認する。 • 通信プロトコル機能を使用する場合，パラメータのオープン方式が “通信プロトコル” になっているか確認する。	QnU *2 LCPU *2
$41B6_H$		指定されたコネクションはすでにオープン処理が完了している。	クローズ処理を行ってからオープン処理を行う。	QnU *2 LCPU *2
$41B7_H$		指定されたコネクションはオープン処理が完了していない。	オープン処理が完了してから再度実行する。	QnU *2 LCPU *2
$41B8_H$		シンプル CPU 通信機能で交信相手に “三菱 A（Ethernet ユニット）/ 三菱 FX3（Ethernet ブロック・アダプタ）” 指定時，Ethernet ユニットの CPU 交信タイミング設定（SW7）が OFF に設定されている状態で，交信相手の CPU ユニットが RUN 中のときにシンプル CPU 通信機能を実行した。	• 交信相手のCPU交信タイミング設定(SW7)をONにする。 • 交信相手の CPU ユニットを STOP にして実行する。	LCPU *2
$41B9_H$		• コントロールデータの内容がおかしい。 • オープン設定パラメータが未設定なのに，オープン設定パラメータでのオープンを指定した。	• コントロールデータの内容を見直す。 • オープン設定パラメータを設定する。または，コントロールデータを指定してオープンを行う。	QnU *2 LCPU *2
$41BA_H$		FTP ファイル転送中にエラーが発生した。	• FTP サーバの不要なファイルを削除し，空き容量を確保する。 • FTP サーバとの接続状態を確認する。	QnU *2 LCPU *2
$41BB_H$		ファイル転送機能（FTP クライアント）用命令を同時に実行した。	実行中のファイル転送機能（FTP クライアント）用命令が完了後に別のファイル転送機能（FTP クライアント）用命令を実行する。	QnU *2

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$41BC_H$	Ethernet I/F エラー	シンプル CPU 通信機能で交信相手に “三菱 A（Ethernet ユニット）/ 三菱 FX3（Ethernet ブロック・アダプタ）” 指定時，CPU ユニットと Ethernet ユニット間の交信不良が発生した。（他ノードからの要求を Ethernet ユニットが正常に受信後，CPU ユニットと Ethernet ユニット間で何らかの原因（ノイズなど）により，正常に交信できなかった。）	• システムの使用環境が，CPU ユニットの一般仕様の範囲内か確認する。 • CPU ユニットをリセットする。 • 再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常であるため，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。	LCPU *2
$41BD_H$		シンプル CPU 通信機能で交信相手に “三菱 A（Ethernet ユニット）/ 三菱 FX3（Ethernet ブロック・アダプタ）” 指定時，デバイスの指定に誤りがある。	• 指定したデバイス名を確認する。 • 指定したデバイス No. を確認する。 • CPU ユニット（交信相手）のデバイス割付パラメータを確認する。	LCPU *2
$41BE_H$		シンプル CPU 通信機能で交信相手に “三菱 A（Ethernet ユニット）/ 三菱 FX3（Ethernet ブロック・アダプタ）” 指定時のシステムエラー。（ノイズなどによる誤動作，ハードウェア異常などが考えられる。）	• 電源ユニット，CPU ユニットが正しく装着されているか確認する。 • システムの使用環境がCPUユニットの一般仕様の範囲内か確認する。 • 電源容量が足りているか確認する。 • CPU ユニットをリセットする。 • 再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常であるため，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。	LCPU *2
$41BF_H$		シンプル CPU 通信機能で交信相手に “三菱 A（Ethernet ユニット）/ 三菱 FX3（Ethernet ブロック・アダプタ）” 指定時のシステムエラー。（ノイズなどによる誤動作，ハードウェア異常などが考えられる。）	• 電源ユニット，CPU ユニットが正しく装着されているか確認する。 • システムの使用環境がCPUユニットの一般仕様の範囲内か確認する。 • 電源容量が足りているか確認する。 • CPU ユニットをリセットする。 • 再度同じエラーを表示した場合は，CPU ユニットのハードウェア異常であるため，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。	LCPU *2

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$41C1_H$	ファイル関連エラー	指定ドライブ（メモリ）のフォーマット情報のデータが異常である。	ファイル情報のデータが壊れている可能性がある。 CPU ユニット内部のデータバックアップを実施後，PC メモリフォーマットを実行する。	QCPU LCPU
$41C2_H$		ファイルアクセス時のファイルオープン指定データに誤りがある。	指定データを確認後，再度実施する。	QCPU LCPU
$41C3_H$		同時にアクセス可能なファイルが MAX を超えた。	ファイル操作を減少させて，再度実行する。	QCPU LCPU
$41C4_H$		同時にアクセス可能なファイルが MAX を超えた。	ファイル操作を減少させて，再度実行する。	QCPU LCPU
$41C5_H$		・指定されたファイルが存在しない。 ・有効なドライブにファイルが存在しない。	・ファイルを確認後，再度実行する。 ・有効なドライブにファイルが存在することを確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
$41C7_H$		指定されたファイルまたはドライブ（メモリ）が存在しない。	ファイルまたはドライブ（メモリ）を確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
$41C8_H$		指定のファイルがすでに存在するファイルのファイルサイズの範囲を超えている。	指定ファイルのサイズを確認後，再度実行する。 再度実行しても発生する場合は，ファイル情報のデータが壊れている可能性がある。 CPU ユニット内部のデータバックアップを実施後，PC メモリフォーマットを実行する。	QCPU LCPU
$41C9_H$		ファイルのセクタのアクセスに失敗した。 対象ドライブ（メモリ）のフォーマット情報のデータが異常。	CPU ユニット内部のデータバックアップを実施後，PC メモリフォーマットを実行する。	QCPU LCPU
$41CA_H$		ファイルのセクタのアクセスに失敗した。 対象ドライブ（メモリ）のフォーマット情報のデータが異常。	CPU ユニット内部のデータバックアップを実施後，PC メモリフォーマットを実行する。	QCPU LCPU
$41CB_H$		ファイル名の指定方法に誤りがある。	ファイル名を確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
$41CC_H$		指定されたファイルが存在しない。または，指定のサブディレクトリが存在しない。	ファイル名，サブディレクトリ名を確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
$41CD_H$		ファイル属性で禁止されたアクセスを行った。または，禁止されたファイル属性に変更しようとした。	ファイル属性，ファイルのオープンモードを確認する。	QCPU LCPU
$41CE_H$		指定のファイルの属性が読出し専用のためファイル書込みできない。	指定されたファイルは書込み禁止。属性を確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
$41CF_H$		指定されたドライブ（メモリ）の容量をオーバしている。	ドライブ（メモリ）の容量を確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
$41D0_H$		指定されたドライブ（メモリ）に空きがない。または，指定されたドライブ（メモリ）のディレクトリ内のファイル数が最大を超えた。	・ドライブ（メモリ）の空き容量を増加し，再度実行する。 ・ドライブ（メモリ）のファイルを削除し，再度実行する。	QCPU LCPU
$41D1_H$		・ファイル名の指定方法に誤りがある。 ・SM606（SD メモリカード強制使用停止指示）により，使用停止状態となっている。	・ファイル名を確認後，再度実行する。再度実行しても発生する場合は，ファイル情報のデータが壊れている可能性がある。CPU ユニット内部のデータバックアップを実施後，PC メモリフォーマットを実行する。 ・SD メモリカード強制使用停止解除指示を行う。	QCPU LCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$41D3_H$	ファイル関連エラー	SD メモリカードのアクセスに失敗した。	• SD メモリカードが装着されているか確認後，再度実行する。 • SD メモリカードを交換して再度実行する。 • データバックアップを実施後，PC メモリフォーマットを実行する。	QnUDV QnUDPV
$41D4_H$		指定のファイルがすでに存在するファイルのファイルサイズの範囲を超えている。	指定ファイルのサイズを確認後，再度実行する。 再度実行しても発生する場合は，ファイル情報のデータが壊れている可能性がある。 CPU ユニット内部のデータバックアップを実施後，PC メモリフォーマットを実行する。	QCPU LCPU
$41D5_H$		同名のファイルが存在する。	要求を強制実行する，またはファイル名を変更して実行する。	QCPU LCPU
$41D6_H$		指定ドライブ（メモリ）のフォーマット情報のデータが異常である。	ファイル情報のデータが壊れている可能性がある。 CPU ユニット内部のデータバックアップを実施後，PC メモリフォーマットを実行する。	QCPU LCPU
$41D7_H$		指定ドライブ（メモリ）のフォーマット情報のデータが異常である。	ファイル情報のデータが壊れている可能性がある。 CPU ユニット内部のデータバックアップを実施後，PC メモリフォーマットを実行する。	QCPU LCPU
$41D8_H$		指定のファイルにアクセス中である。	しばらくしてから再度実行する。	QCPU LCPU
$41DF_H$		指定ドライブ（メモリ）がライトプロテクトされている。	指定ドライブ（メモリ）のライトプロテクトを解除し，再度実行する。	QCPU LCPU
$41E0_H$		指定ドライブ（メモリ）が異常または存在しない。	• メモリカードまたは SD メモリカードが装着されているか確認後，再度実行する。 • データバックアップを実施後，PC メモリフォーマットを実行する。	QCPU LCPU
$41E1_H$		フラッシュ ROM のアクセスに失敗した。	• データバックアップを実施後，PC 書込（フラッシュ ROM）を実行する。 • 指定ドライブがフラッシュ ROM カードか，メモリカードまたは SD メモリカードのサイズが合っているかを確認後，再度実施する。	QCPU LCPU
$41E4_H$		メモリカードまたは SD メモリカードのアクセスに失敗した。	• メモリカードまたは SD メモリカードが装着されているか確認後，再度実行する。 • メモリカードまたは SD メモリカードを交換して再度実行する。 • データバックアップを実施後，PC メモリフォーマットを実行する。	QCPU LCPU
$41E7_H$		指定ドライブ（メモリ）のフォーマット情報のデータが異常である。	ファイル情報のデータが壊れている可能性がある。 CPU ユニット内部のデータバックアップを実施後，PC メモリフォーマットを実行する。	QCPU LCPU
$41E8_H$		指定ドライブ（メモリ）のフォーマット情報のデータが異常である。	ファイル情報のデータが壊れている可能性がある。 CPU ユニット内部のデータバックアップを実施後，PC メモリフォーマットを実行する。	QCPU LCPU
$41E9_H$		指定のファイルにアクセス中である。	しばらくしてから再度実行する。	QCPU LCPU
$41EB_H$		ファイル名の指定方法に誤りがある。	ファイル名を確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
$41EC_H$		指定ドライブ（メモリ）のファイルシステムが論理的に壊れている。	ファイル情報のデータが壊れている可能性がある。 CPU ユニット内部のデータバックアップを実施後，PC メモリフォーマットを実行する。	QCPU LCPU
$41ED_H$		指定ドライブ（メモリ）の連続空き容量がない。（ファイルの空き容量は十分だが，連続空き領域が足りない。）	不要なファイルを削除または PC メモリ整理を実施後，再度実行する。	QCPU LCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$41EF_H$	ファイル関連エラー	指定ドライブ（メモリ）の電源断対策用バックアップの作成に失敗した。	メモリカードまたは SD メモリカードが装着されているか確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
$41F0_H$		指定ドライブ（メモリ）の電源断対策用バックアップデータが壊れている。	メモリカードまたは SD メモリカードが装着されているか確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
$41F1_H$		指定ドライブ（メモリ）の電源断対策用バックアップに修復コマンドがある。	メモリカードまたは SD メモリカードが装着されているか確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
$41F2_H$		指定ドライブ（メモリ）はフラッシュ ROM のため操作不可	指定ドライブ（メモリ）を確認後，再度実行する。 フラッシュ ROM に対して操作する場合は，PC 書込（フラッシュ ROM）を使用する。	QCPU LCPU
$41F3_H$		ファイルサイズが下記を超えている。 4Gbyte から 2byte を引いた値	作成・サイズ変更で指定するファイルサイズを小さくする。または，複数ファイルに分割しファイルサイズを小さくして使用する。	QnUDV QnUDPV LCPU
$41F4_H$		システムで禁止されている操作を実行したため，要求内容を実行できない。	システムで禁止されているため，ファイルの操作を実行しない。	QCPU LCPU
$41F8_H$		他のプログラミングツールで同一データへのアクセス中	プログラムメモリへの PC 書込，バックアップメモリへの転送機能が実行されている。 上記機能の完了確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
$41F9_H$		他のプログラミングツールで同一データへのアクセス中	デバイスデータ退避中に再度デバイスデータ退避が実行されている。 上記完了後，再度実行する。	QCPU LCPU
$41FA_H$		プログラムが実行可能な領域を超えてプログラム書込みした。	すでに書き込まれているプログラムまたは新規に書き込むプログラムのどちらかを小さくして，再度実行する。	QCPU LCPU
$41FB_H$		同一のプログラミングツールですでに指定のファイルを操作中である。	現在実施中の操作が完了後，再度実施する。	QCPU LCPU
$41FC_H$		使用中のドライブ（メモリ）をイレースしようとした。	指定ドライブ（メモリ）は使用中のため，イレース不可。	QCPU LCPU
$41FD_H$		フラッシュ ROM にデータが書き込まれていない。	PC 書込（フラッシュ ROM）でファイルを書き込む。	QCPU LCPU
$41FE_H$		• メモリカードまたはSDメモリカードが挿入されていない。 • SDメモリカードが使用停止状態になっている。（QnUDVCPU，QnUDPVCPU の場合） SD メモリカード使用停止スイッチを下方向にスライドしていない。（LCPU の場合） • SM606（SD メモリカード強制使用停止指示）により，使用停止状態となっている。	• メモリカードまたは SD メモリカードを挿入する，または挿入し直す。 • SD メモリカードを挿入し直す。（QnUDVCPU，QnUDPVCPU の場合） SD メモリカード使用停止スイッチを下方向にスライドする。（LCPU の場合） • SD メモリカード強制使用停止解除指示を行う。	QCPU LCPU
$41FF_H$		メモリカードまたは SD メモリカードの種類が違う。	メモリカードまたは SD メモリカードの種類を確認する。	QCPU LCPU
4200_H	オンラインユニット交換関連エラー	オンラインユニット交換設定が不許可のため，要求内容を実行できない。	エラーが発生した要求を行わない，またはオンラインユニット交換設定を許可にした後，再度要求を実行する。	QCPU
4201_H		オンラインユニット交換設定が許可のため，要求内容を実行できない。	エラーが発生した要求を行わない，またはオンラインユニット交換設定を不許可にした後，再度要求を実行する。	QCPU
4202_H		オンラインユニット交換中のため，要求内容を実行できない。	オンラインユニット交換完了後，再度要求を実行する。	QCPU
4203_H		増設ベースユニットが装着されているため，基本ベースユニットに装着されているユニットのオンラインユニット交換を実行できない。	基本ベースユニットに装着されているユニットを交換する場合，下記の手順で行う。 • 交換対象ユニットが装着されている系を待機系へ切り替える。 • 待機系の電源を OFF する。 • 対象ユニットを交換する。	QnPH
4204_H		待機系に接続しているため，指定したユニットのオンラインユニット交換を実行できない。	接続先を制御系に変更し，再度オンラインユニット交換操作を行う。	
4210_H		指定したユニットの先頭入出力番号が範囲外である。	オンラインユニット交換を行うユニットの先頭入出力番号で要求を実行する。	
4211_H		オンラインユニット交換の要求が異常である。	要求したコマンドを確認する。	
4212_H		すでに他の機器がオンラインユニット交換を実行中である。	オンラインユニット交換完了後，再度要求を実行する，または接続経路を変更して続行する。	

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
4213_H	オンラインユニット交換関連エラー	指定された先頭入出力番号はオンラインユニット交換で登録された先頭入出力番号と異なる。	オンラインユニット交換中のユニットの先頭入出力番号で要求を実行する。	QnPH
4214_H		指定したユニットはオンラインユニット交換前のユニットと異なる。	交換前と同じユニットを装着後，再度要求を実行する。	
4215_H		指定したユニットが存在しない。	オンラインユニット交換を行うユニットの先頭入出力番号で要求を実行する，またはユニットを装着後，再度要求を実行する。	
4216_H		指定したユニットが不良である。	ユニットを交換後，再度要求を実行する。	
4217_H		指定したユニットからの応答がない。	オンラインユニット交換操作を続行する。	
4218_H		指定したユニットはオンラインユニット交換未対応のユニットである。	エラーが発生したユニットに対して要求を行わない，またはオンラインユニット交換に対応しているユニットに対して再度要求を実行する。	
4219_H		指定したユニットは電源ユニット不要タイプの増設ベースユニットに装着されている。	電源ユニット不要タイプの増設ベースユニットおよび基本ベースユニットに装着されているユニットに対して要求を行わない。	
$421A_H$		指定したユニットは管理グループ外である。	指定したユニットを管理している CPU ユニットに対して要求を実行する。	
$421B_H$		インテリジェント機能ユニットの初期設定パラメータの設定でエラーが発生した。	インテリジェント機能ユニットのバッファメモリの内容を確認後，処理再開する。	
$421C_H$		パラメータファイルが書き換えられているため実行不可。	操作を実施することはできない。操作を中断する。	
$421D_H$		オンラインユニット交換中に系切替えが発生した。	プログラミングツールを新制御系に接続して，オンラインユニット交換の状況を確認する。オンラインユニット交換の状況に応じて，オンラインユニット交換の手順を実行する。	
$421E_H$		待機系にオンラインユニット交換の情報を送信できなかった。オンラインユニット交換中に系切替えが発生した場合，オンラインユニット交換を継続できない可能性がある。	トラッキングケーブルの異常，または待機系の異常が考えられる。 ・トラッキングケーブルの装着状況を点検するか，トラッキングケーブルを交換する。 ・待機系の状態を確認し，待機系が停止エラーを検出している時にはトラブルシューティングを行う。	
$421F_H$		セパレートモードでは，接続先を待機系に設定している状態で，増設ベースユニットに装着されているユニットのオンラインユニット交換を実行できない。	・プログラミングツールの接続先を現在の制御系に設定する。 ・増設ベースユニットに装着されているユニットのオンラインユニット交換を再実行する。	
4240_H	二重化システム関連エラー	待機系に対して下記の未サポートの操作を実行した。 ・運転モード変更 ・系切替え ・制御系から待機系へのメモリコピー機能	接続先指定を制御系に変更して，再度操作を実施する。	QnPRH
4241_H		待機系が電源 OFF，リセット，ウォッチドッグタイマエラー，CPU ユニットのハードウェア異常状態により通信できない。	待機系の電源 ON またはリセット解除後に通信要求する。	
4242_H		トラッキングケーブルの異常または抜けにより待機系と通信できない。	トラッキングケーブル抜けまたはトラッキングケーブル故障のため実行できない。トラッキングケーブル抜けの確認または正常なトラッキングケーブルに交換して再度実行する。	
4243_H		待機系が停止エラーのため，コマンドを実行できない。	待機系の停止エラーを取り除き，再度実行する。	
4244_H		待機系と動作状態が異なるため，コマンドを実行できない。	待機系を制御系と同じ動作状態（RUN/STOP）にし，再度実行する。	
4245_H		他系 CPU ユニット状態異常	他系 CPU ユニットが正常に立ち上がっていることと，トラッキングケーブルが接続されていることを確認する。	
4246_H		運転モード（セパレート／バックアップ）変更または系（制御／待機系）切替え実行中のため，コマンドを実行できない。	現在実行中の運転モード変更または系切替えが完了してから，再度実行する。	

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
4247_H	二重化システム関連エラー	すでに制御系から待機系へのメモリコピー機能を実行中である。	制御系から待機系へのメモリコピーが完了してから，再度実行する。 下記を確認し，処置する。 ・制御系または待機系の SM1596 は ON か？（ON：メモリコピー実行中）SM1596 はメモリコピー完了でシステムが OFF するため，OFF 後に再度実行する。 ・制御系の SM1597 は ON か？（ON：メモリコピー完了）実行前に制御系の SM1597 を OFF してから，再度実行する。	QnPRH
4248_H		系切替え中に交信が行われた。 接続先指定（要求先ユニット I/O 番号）で指定した系が存在しません。	・系切替え後に再度実行する。 ・指定した系が存在するか確認後，再度交信する。	
4249_H		二重化システムとして確立していない（制御系／待機系または A 系／ B 系が未確定）	・二重化システムとして正常起動させる。（系を確定させたあと，再度交信を行う。） ・接続先指定（要求先ユニット入出力番号）を系指定なし（$03FF_H$）に変更して再度実行する。	
$424A_H$		接続先指定（要求先ユニット入出力番号）＝制御系／待機系指定で，処理不可なコマンドを実行した。	接続先指定（要求先ユニット入出力番号）を系指定なし（$03FF_H$）／ A 系／ B 系に変更して再度実行する。	
$424B_H$		手動切替え許可フラグ（SM1592）で系切替えが禁止されているため，コマンドを実行できない。	手動切替え許可フラグ（SM1592）で系の手動切替えが禁止されている。SM1592 を ON して再度実行する。	
$424C_H$		RUN 中書込み操作中のため，指定のコマンドを実行できない。	RUN 中書込み操作が終わってから，再度実行する。	
$424D_H$		デバッグモードで使用不可な接続先指定または機能が使用された。	・バックアップモードに切り替えて再度実行する。 ・接続先指定（要求先ユニット入出力番号）を A 系または制御系指定に変更して再度実行する。	
$424E_H$		制御系／待機系の指定方法が未サポートである。	本機能は未サポートのため実行不可	
$424F_H$		プログラミングツールによる系切替え実行中に他の要因によって系切替えが実行された。	プログラミングツールから系切替えを実施したが，他の要因で系切替えが先に実施された。システムに問題がないか確認し，必要に応じて再度操作を実行する。	
4250_H		トラッキング通信でサムチェックエラーが発生した。	トラッキングケーブルを交換して再度交信を実行する。 トラッキングケーブルを交換しても再度同じエラーが発生する場合は，CPU ユニットのハードウェア異常。（最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。）	
4251_H		セパレートモードでは実行不可のコマンドである。	バックアップモードに切り替えて再度実行する。	
4252_H		待機系の二重化システム対応のネットワークユニットで異常が発生しているため，系切替えが実行されなかった。	SD1690（他系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニット No.）をモニタすることで，異常の発生している待機系の二重化対応インテリユニットを特定後，ユニットの異常を取り除き，再度実行する。	
4253_H		制御系 CPU ユニットへの RUN 中書込み中に通信異常または系切替えが発生したため，待機系 CPU ユニットへの RUN 中書込みが実行できない。	制御系 CPU ユニットへの RUN 中書込みを実行している間に通信異常または系切替えが発生したため，RUN 中書込み二重化追従が中断した。 制御系 CPU ユニット，待機系 CPU ユニットとの通信が正常にできることを確認して再度 RUN 中書込みを実行する。 プログラミングツールと制御系 CPU ユニット，待機系 CPU ユニットとの通信時間が長い場合には，SD1710（待機系 RUN 中書込み開始待ち時間）を調整することでエラーを回避できる場合がある。	
4254_H		トラッキング通信用ハードウェアで異常が検出されたため，コマンドが実行できない。	トラッキングケーブルが正しく装着されていないか CPU ユニットのトラッキング通信用ハードウェアが故障の可能性がある。トラッキングケーブルの装着状態を確認する。 ケーブル装着状態を見直しても復旧しない場合は，CPU ユニットのハードウェア異常の可能性がある。	

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
4255_H	二重化システム関連エラー	トラッキング通信準備中のため，コマンドが実行できない。	トラッキングケーブル装着時のトラッキング通信準備中の状態。しばらく（約 1 秒）してから操作を再度実行する。	QnPRH
4256_H		トラッキング通信でタイムアウトエラーが発生したため，コマンドが実行できない。	トラッキングケーブルが正しく装着されていないか CPU ユニットのトラッキング通信用ハードウェアが故障の可能性がある。トラッキングケーブルの装着状態を確認する。 ケーブル装着状態を見直しても復旧しない場合は，CPU ユニットのハードウェア異常の可能性がある。	
4257_H		自系 CPU ユニットがウォッチドッグタイマエラーまたは CPU ユニットのハードウェア異常状態のため，コマンドを実行できない。	自系がウォッチドッグタイマエラーまたは CPU ユニットのハードウェア異常状態のため，コマンドを実行できない。自系の状態を確認して再度実行する。	
4258_H		運転モード変更中（バックアップモード→セパレートモード）	RUN LED が点滅している CPU ユニットの RUN/STOP スイッチまたはリモート操作により STOP → RUN して運転モード変更を完了してから再度実行する。	
4259_H		他のプログラミングツールから現在と異なる通信経路で運転モード変更を実施中である。	運転モード変更を実施した通信経路と同一の通信経路で再度実行する。	
$425B_H$		増設ベースユニットに装着したインテリジェント機能ユニット経由で交信を行ったが，接続先指定（二重化 CPU 指定）とコマンドの組合せが未サポートである。	接続先指定とコマンドの組合せをサポート内の組合せにする。	
$425C_H$		増設ベースユニットに装着されたユニットのオンラインユニット交換を実施中のため，系切替えができない。	オンラインユニット交換を完了してから，系切替えを行う。	
$425D_H$		増設ベースユニットに装着されたユニットのオンラインユニット交換を実施中のため，運転モードを変更できない。	オンラインユニット交換を完了してから，運転モード変更を行う。	

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
4270_H	データロギング *1	異なるメモリでデータロギング機能実施中（ロギング状態が実行中，ロギングデータ保存中，完了，一時停止，エラー状態）である。	現在データロギング機能実施中のメモリに登録するか，現在実施中のデータロギングを停止してから再度登録を行う。	QnUDV QnUDPV LCPU
4271_H		指定したデータロギングは実施中（ロギング状態が実行中，ロギングデータ保存中，完了，一時停止，エラー状態）である。	データロギングを停止する。または，データロギングを実施していない設定 No. に対して書込み，削除，または登録を行う。	QnUDV QnUDPV LCPU
4272_H		トリガ条件として「デバイス」を指定したトリガロギングを実施中（ロギング状態が実行中，ロギングデータ保存中，完了，一時停止，エラー状態）である。	トリガ条件を変更して登録する。または，現在トリガ条件が「デバイス」で実施中（ロギング状態が実行中，ロギングデータ保存中，完了，一時停止，エラー状態）のトリガロギングを停止してから登録する。	QnUDV QnUDPV LCPU
4273_H		サンプリングトレース機能実施中であるため，データロギング機能は実行不可である。	サンプリングトレースを中断してから，データロギングの登録を行う。	QnUDV QnUDPV LCPU
4274_H		トリガロギングの総レコード数が，データロギングバッファ容量で収集可能なレコード数を超えている。	• データロギングバッファ容量を増やす。 • トリガロギングで設定するレコード数を減らす。	QnUDV QnUDPV LCPU
4275_H		オートロギング実行中である。	オートロギング完了後，SD メモリカードを交換して再度実行する。	QnUDV QnUDPV LCPU
4276_H		指定コマンドは，データロギング機能実施中（ロギング状態が実行中，ロギングデータ保存中，完了，一時停止，エラー状態）であるため，実行不可である。	データロギングを停止してから，実行する。	QnUDV QnUDPV LCPU
4277_H		保存ファイルが設定数以上存在する。	データロギング結果の格納先メモリで，設定した保存ファイル数を超えているため，ファイルを削除するか，保存先を変更してから登録を行う。	QnUDV QnUDPV LCPU
4278_H		保存ファイル番号が最大に達している，または達した。	データロギング結果の格納先メモリで，保存ファイル番号が最大の FFFFFFFF まで達している。ファイルを削除するか，保存先を変更してから登録を行う。	QnUDV QnUDPV LCPU
$427A_H$		共通設定ファイルが存在しない。	• 対象メモリに共通設定を書き込む。 • 共通設定が格納されているメモリに対してデータロギングの登録を行う。	QnUDV QnUDPV LCPU
$427B_H$		ファイル保存先が同じデータロギング機能実施中（ロギング状態が実行中，ロギングデータ保存中，完了，一時停止，エラー状態）である。	実施中のファイルの保存先が同じデータロギングを停止してから，登録を行う。 または，ファイルの保存先を変更して登録する。	QnUDV QnUDPV LCPU
$427C_H$		• データロギングファイル転送機能の設定が間違っている。 • データロギング設定ファイルが壊れている。	• データロギングファイル転送機能の設定を確認する。 • CPUユニットロギング設定ツールで設定を再度書き込む。	QnUDV QnUDPV LCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$427D_H$	ファイル関連エラー	• 転送するデータロギングファイルがファイル切替えにより，転送中に削除された。 • データロギングファイルの読出しに失敗した。 • SD メモリカード強制使用停止状態のときにデータロギングファイルにアクセスしようとした。	• 保存設定（ファイル切替えタイミング，保存ファイル数）を見直す。 • CPUユニットロギング設定ツールなどでデータロギングファイルを削除していないか確認する。 • SD メモリカードが装着されているか確認する。 • SD メモリカード使用停止スイッチが上方向になっている場合は，下方向にスライドし，SD メモリカード使用 LED を確認する。 • SD メモリカード強制使用停止中の場合は，停止を解除する。	QnUDV QnUDPV LCPU
$427E_H$		• ファイル転送前のファイル切替えにより，新しいデータロギングファイルが保存された。 • リトライ中のファイル切替えにより，新しいデータロギングファイルが保存された。	• 保存設定（ファイル切替えタイミング）を見直し，ファイル切替えの頻度を下げる。 • 収集設定（収集間隔，収集データ数）を見直し，収集するデータ数を減らす。 • CSV 出力設定を見直し，ファイルサイズを減らす。 • FTP サーバとの接続状態を確認する。	QnUDV QnUDPV LCPU
$427F_H$		ファイル転送の停止操作により，ファイル転送に失敗した。	ファイルの転送が完了する前に CPU ユニットロギング設定ツールからデータロギングを開始していないか確認する。	QnUDV QnUDPV LCPU
4280_H		他の CPU ユニットロギング設定ツールからファイル転送テスト実行中にファイル転送テストを実行した。	他の CPU ユニットロギング設定ツールのファイル転送テストが完了してから，再度ファイル転送テストを実行する。	QnUDV QnUDPV LCPU
4281_H		異なる PC シリーズのデータロギング設定の登録を行った。	使用している PC シリーズでデータロギング設定を再設定する。	QnUDV QnUDPV
4290_H	リアルタイムモニタ	リアルタイムモニタバッファ容量とデータロギングバッファ容量の合計が最大容量を超えている。	• データロギングバッファ容量とリアルタイムモニタバッファ容量の合計が最大容量以内となるように各バッファ容量を見直す。データロギング機能のバッファ容量を変更する場合，バッファ容量変更内容（共通設定）を書き込み後，再度データロギングを開始するか，電源 OFF → ON，またはリセットし，データロギング機能を初期状態に戻す必要がある。 • リアルタイムモニタを停止後，データロギングを開始する。	LCPU
4291_H		“タイミング” または “トリガ条件” としてステップ No. を指定したリアルタイムモニタ実行中に RUN 中書込みを実行した。	RUN 中書込み完了後にリアルタイムモニタを実行する。	LCPU
4292_H		リアルタイムモニタ実行中に，リアルタイムモニタの開始はできない。	実行中のリアルタイムモニタを停止後，リアルタイムモニタを開始する。	LCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
4330_H	保守・メンテナンス	同一起動元により実行中のため，実行不可である。	同一起動元でメモリカードによる CPU ユニット交換機能（バックアップ／リストア）を実施していないか確認後，再度実行する。	QCPU LCPU
4331_H		ユーザ認証機能が有効であるため，実行不可である。	ユーザ認証機能を無効に設定後，再度実行する。	QCPU
4332_H		指定コマンドは，メモリカードによる CPU ユニット交換機能（バックアップ／リストア）実施中であるため，実行不可である。	メモリカードによる CPU ユニット交換機能（バックアップ／リストア）終了後，再度実行する。	QCPU LCPU
4333_H		バックアップ開始準備が未完了である。	バックアップ開始準備完了後，再度実行する。	QCPU LCPU
4334_H		バックアップファイルが存在しない。	バックアップファイルが存在するメモリカードまたは SD メモリカードを装着後，再度実行する。	QCPU
4335_H		ラッチデータバックアップ中のため，指定の機能を実行できない。	ラッチデータバックアップ機能完了後，再度実行する。	QCPU LCPU
4336_H		内蔵 Ethernet ポート経由で CPU ユニットに FTP 接続中の FTP クライアントが存在するため，指定の機能を実行できない。	CPU ユニットへの FTP 接続をすべて切断してから，再度実行する。	QCPU LCPU
4337_H		ユニットエラー履歴ファイルが存在しない。	電源 OFF → ON，またはリセット後，再度実行する。	QCPU LCPU
4338_H		ユニットエラー履歴表示画面の表示，または更新時にユニットエラー履歴情報の読出しに失敗した。	• ユニットエラー履歴表示画面の表示，および更新を再度実行する。 • ユニットエラー履歴格納件数を増やす。	QCPU LCPU
4339_H		ユニットエラー履歴収集機能が無効に設定されているため，ユニットエラー履歴情報を読み出せない。	ユニットエラー履歴収集機能を有効に設定後，再実行する。	QCPU LCPU
$433A_H$		指定コマンドは，プロジェクトの一括セーブ／ロード機能実施中であるため，実行不可である。	プロジェクトの一括セーブ／ロード機能終了後，再度実行する。	LCPU
$433B_H$		CPU ユニットがロックされている状態で，メモリカードによる CPU ユニット交換機能（バックアップ／リストア）を行った。	ロックしていない CPU ユニットで，メモリカードによる CPU ユニット交換機能（バックアップ／リストア）を行う。	QnUDV QnUDPV

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
4400_H	セキュリティ機能	ファイルパスワードが登録されているファイルを，パスワード解除なしの状態でオープンした。	正しいパスワードを設定後，パスワード認証を行ってアクセスする。	QnUDV QnUDPV LCPU
4401_H		• 読出しパスワード認証が必要なアクセス時に，ファイルパスワードの読出しパスワード認証に失敗した。 • ファイルパスワードのパスワード形式が間違っている。	• 正しい読出しパスワードを設定後，パスワード認証を行ってアクセスする。 • ファイルパスワードに対応したアクセス方法でファイルアクセスする。	QnUDV QnUDPV LCPU
4402_H		• 書込みパスワード認証が必要なアクセス時に，ファイルパスワードの書込みパスワード認証に失敗した。 • ファイルパスワードのパスワード形式が間違っている。	• 正しい書込みパスワードを設定後，パスワード認証を行ってアクセスする。 • ファイルパスワードに対応したアクセス方法でファイルアクセスする。	QnUDV QnUDPV LCPU
4403_H		登録／解除時に設定した読出しパスワード，書込みパスワードの両方が前回パスワードと不一致と認識したとき。	正しい読出し／書込みパスワードを設定後，パスワード認証を行ってアクセスする。	QnUDV QnUDPV LCPU
4404_H		登録／解除の前後でファイルの異常を検出したとき。	• PC メモリフォーマットで対象ファイルを含むドライブをフォーマットする。 • 対象ファイルを再度 PC 書込した後，再度ファイルパスワード 32 登録／解除を行う。	QnUDV QnUDPV LCPU
4410_H		ロックしている CPU ユニットに，セキュリティキー認証せずにファイルアクセスした。	• CPUユニットをロックしているセキュリティキーをプログラミングツールに登録する。 • プロジェクトを開いていた場合，CPU ユニットをロックしているセキュリティキーでプロジェクトをロックする。 • CPU ユニットをロックしている時は，下記の機能を使用してアクセス制御対象ファイルへのファイルアクセスができない。 ・FTP サーバ機能 ・MC プロトコル ・GOT ・EZSocket	QnUDV QnUDPV
4412_H		セキュリティキーを登録する内部メモリの異常により，CPU ユニットにセキュリティキーの登録ができない。または CPU ユニットのセキュリティキーが削除できない。	CPU ユニットハードウェア異常。 CPU ユニットを交換する。	QnUDV QnUDPV
4413_H		CPU ユニットがロックされており，同時に 32 台のプログラミングツールでプログラムの読出し／書込みを行っている状態のため，新たに別のプログラミングツールからプログラムの読出し／書込み操作を実行できない。	同時にプログラムを読み書きしているプログラミングツールの台数が 31 台以下となるまで待機してから，プログラムの読出し／書込み操作を実行する。	QnUDV QnUDPV
4414_H		CPU ユニットがロックされている状態のため，要求内容を実行できない。	CPU ユニットがロックされている時は要求内容を実行できないため，実行しない。	QnUDV QnUDPV
4415_H		CPU ユニットがロックされていない状態のため，要求内容を実行できない。	CPU ユニットがロックされていない時は要求内容を実行できないため，実行しない。	QnUDV QnUDPV
4416_H		CPU ユニットをロックする操作中，またはロックを解除する操作中のため，要求内容を実行できない。	CPU ユニットをロックする操作，またはロックを解除する操作が終了してから，他の操作を行う。	QnUDV QnUDPV

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
4800_H	iQ Sensor Solution 関連エラー	指定コマンドは，iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能）を実行中であるため，実行できない。	iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能）終了後，再度実行する。	LCPU
4801_H		• iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能）使用時に対象のユニットが存在しない。 • iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能）のリストア要求時に指定したバックアップフォルダが存在しない。 • iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能）に関する特殊レジスタ（SD）の設定値が範囲外である。	特殊レジスタ（SD）の設定値を見直して，再度実行する。	LCPU
4802_H		iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能）のバックアップのフォルダ数が最大の状態である。	• バックアップフォルダを削除して，再度実行する。 • バックアップフォルダ名の番号の設定で，対象フォルダとして，自動指定（フォルダ削除対応）にし，日付が最も古いフォルダを自動で削除するようにする。	LCPU
4803_H		指定したバックアップデータにシステムファイルが存在しない，または壊れている。	他のバックアップデータを指定する。	LCPU
4804_H		指定したバックアップデータにバックアップファイルが存在しない，または壊れている。	他のバックアップデータを指定する。	LCPU
4805_H		iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能）のバックアップ時にバックアップ対象となる機器が 1 台も存在しない。	特殊レジスタ（SD）の設定値を見直して，再度実行する。	LCPU
4806_H		機能実行中に SD メモリカードを抜いた。	機能実行中には SD メモリカードを抜かないようにする。	LCPU
4807_H		iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能）で相手機器と交信できない。	• 相手機器の動作を確認する。 • ケーブル，ハブ，ルータなど，相手機器との回線の状態を確認する。 • 通信が混みあっている場合があるので，少し時間を置き，リトライする。	LCPU
4808_H		• iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能）のリストア時に指定したバックアップデータの iQ Sensor Solution 対応機器とリストア対象の iQ Sensor Solution 対応機器が一致しない。 • CPU ユニットが CC-Link-AnyWireASLINK ブリッジユニットに対応していない。	• 指定したバックアップデータとリストア対象の iQ Sensor Solution 対応機器（メーカ，形名，バージョン）を確認する。 • CC-Link-AnyWireASLINK ブリッジユニットに対応した CPU ユニットに交換する。	LCPU
4809_H		iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能）に対応していないユニットに対し，実行した。	• iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能）に対応したユニットに交換する。 • iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能）に対応したユニットに対して実行する。	LCPU
$480A_H$		待機マスタ局動作からマスタ局動作へ切り替わった CC-Link ユニットに対し実行した。	マスタ局と待機マスタ局の電源を OFF → ON 後，再度実行する。	LCPU
$480B_H$		接続機器の自動検出設定を “ スレーブ局の形名を読み出す ” に設定していない CC-Link ユニットに対し実行した。	接続機器の自動検出設定を “ スレーブ局の形名を読み出す ” に設定し，再度実行する。	LCPU
$480C_H$		指定コマンドは，iQ Sensor Solution 対応機能（接続機器の自動検出機能）を実行中であるため，実行できない。	iQ Sensor Solution 対応機能（接続機器の自動検出機能）終了後，再度実行する。	LCPU
$480D_H$		指定コマンドは，iQ Sensor Solution 対応機能（通信設定反映機能）を実行中であるため，実行できない。	iQ Sensor Solution 対応機能（通信設定反映機能）終了後，再度実行する。	LCPU
$480E_H$		• 指定コマンドは，iQ Sensor Solution 対応機能（モニタ機能）を実行中であるため，実行できない。 • 指定コマンドは，iQ Sensor Solution 対応機能（センサパラメータ読出し／書込み機能）を実行中であるため，実行できない。	• しばらくしてから再度実行する。 • iQ Sensor Solution 対応機能（センサパラメータ読出し／書込み機能）終了後，再度実行する。	LCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
4900_H	その他のエラー	シンプル CPU 通信機能が設定されている CPU ユニットの PC パラメータの “デバイス設定” を変更し，パラメータを PC 書込みした。	CPU ユニットの電源 OFF → ON またはリセットを行う。	LCPU
4901_H		ファイルレジスタのブロック No. 切換えにより，シンプル CPU 通信機能で使用しているファイルレジスタが範囲外となった。	シンプル CPU 通信機能で使用しているファイルレジスタのデバイス No. を見直した後，CPU ユニットの電源 OFF → ON またはリセットを行う。	LCPU
4902_H		シンプル CPU 通信機能で同じ交信相手を指定している他の設定 No. がエラーとなったため通信を停止した。	エラーとなった設定 No. のエラー要因を解消する。	LCPU
4903_H		シンプル CPU 通信機能が設定されている CPU ユニットが停止エラー状態となったため，通信を停止した。	CPU ユニットの電源 OFF → ON またはリセットを行う。	LCPU
4904_H		指定コマンドは，表示ユニット「メモリカード操作」のフォルダ／ファイル削除実施中であるため，実行不可である。	表示ユニット「メモリカード操作」のフォルダ／ファイル削除完了後，再度実行する。	LCPU
$4A00_H$	リンク関連エラー	• 起動元 CPU ユニット，中継 CPU ユニットにルーチングパラメータが設定されていないため，指定局へアクセスできない。 • マルチ CPU システムを経由した中継を行う場合，データを中継するネットワークユニットの管理 CPU が起動していない。 • 二重化システム構成時，A 系／ B 系未確定時にネットワークユニット経由他局への通信を実施した。 • IP パケット中継を行う Ethernet ポート内蔵 QCPU または Ethernet ポート内蔵 LCPU が，IP パケットが通る経路上の CC-Link IE ユニットの管理 CPU でない。	• 指定局へアクセスするためのルーチングパラメータを，関係局へ設定する。 • しばらくしてからリトライする，またはデータを中継するシステムの起動を確認後，交信を開始する。 • 二重化システム構成時，トラッキングケーブルを装着して，A 系／ B 系を正常に起動させてから再度交信を行ってください。 • IPパケット中継を行うEthernetポート内蔵QCPUまたは Ethernet ポート内蔵 LCPU を，IP パケットが通る経路上の CC-Link IE ユニットの管理 CPU に設定する。	QCPU LCPU
$4A01_H$		• ルーチングパラメータに設定されている No. のネットワークが存在しない。 • 指定した CPU ユニットが対応していないネットワーク経由では，指定した CPU ユニットに対して交信できない。	• 関係局に設定されているルーチングパラメータを確認し，修正する。 • 指定したCPUユニットが対応している通信経路で交信を行う。	QCPU LCPU
$4A02_H$		指定局へアクセスできない。	• ネットワークユニット／リンクユニットに異常が発生していないか，オフラインになっていないか確認する。 • ネットワーク番号，PC 番号の設定にミスはないか確認する。	QCPU LCPU
$4A03_H$		ネットワークテスト用の要求を実施した。	MC プロトコルなどの要求データを確認する。	QCPU LCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$4A20_H$	IP 通信テスト関連エラー	• IPパケットが通る経路上のCPUユニットと要求先機器の IP アドレスの上位 2 バイトが一致していない。 • IPパケットが通る経路上のCPUユニットとCC-Link IE ユニットの IP アドレスの上位 2 バイトが一致していない。 • IP パケットが通る経路上の CC-Link IE ユニットの IP アドレスの上位 2 バイトが一致していない。 • 要求元機器の IP アドレスの上位 2 バイトと要求先機器と Ethernet 接続している CPU ユニットの IP アドレスの上位 2 バイトが一致していない。	• CPU内蔵EthernetポートのIPアドレス設定を見直す。 • 要求先機器の IP アドレスを見直す。 • CC-Link IE ユニットの IP アドレスを見直す。 • 要求元機器の IP アドレスを見直す。	QCPU LCPU
$4A21_H$		• CPU ユニットの IP アドレスの 3 バイト目（ネットワーク No.），または 4 バイト目（局番）が CC-Link IE で使用可能な値でない。 • 要求先機器の IP アドレスの 3 バイト目（ネットワーク No.），または 4 バイト目（局番）が CC-Link IE で使用可能な値でない。	• CPU内蔵EthernetポートのIPアドレス設定を見直す。 • 要求先機器の IP アドレスを見直す。	QCPU LCPU
$4A22_H$		IP パケットが通る経路上の CC-Link IE ユニットの IP アドレスが未設定である。	• CC-Link IEユニットの管理局およびマスタ局にIPアドレスを設定する。 • CC-Link IE ユニットの通常局またはローカル局使用時は，管理局およびマスタ局との交信状態を確認する。 • CC-Link IE ユニットの管理局およびマスタ局を，IP パケット中継機能に対応した CC-Link IE ユニットに交換する。 • CC-Link IEユニットが立ち上がってから再度IP通信テストを行う。 • 要求先機器の IP アドレスを見直す。	QCPU LCPU
$4A23_H$		• IPパケットが通る経路上のCPUユニットが IP パケット中継機能に対応していない。 • IPパケット中継機能未対応のCPUユニットへ IP パケットがルーチングされるようにルーチングパラメータが設定されている。	• IPパケット中継機能に対応したCPUユニットに交換する。 • IP パケット中継機能に対応した CPU ユニットへ IP パケットがルーチングされるようにルーチングパラメータを見直す。 • 要求先機器の IP アドレスを見直す。	QCPU LCPU
$4A24_H$		• IP パケットが通る経路上のネットワークユニットが IP パケット中継機能に対応していない。 • IP パケット中継機能未対応のネットワークユニットへ IP パケットがルーチングされるようにルーチングパラメータが設定されている。 • IP パケットが通る経路上の機器の IP アドレスの 3 バイト目（ネットワーク No.）と CPU ユニットに装着されている IP パケット中継機能未対応のユニットのネットワーク No. が重複している。 • 要求先機器の IP アドレスの 3 バイト目（ネットワーク No.）と CPU ユニットに装着されている IP パケット中継機能未対応のユニットのネットワーク No. が重複している。	• IPパケット中継機能に対応したCC-Link IEユニットに交換する。 • IPパケット中継機能に対応したCC-Link IEユニットへ IP パケットがルーチングされるようにルーチングパラメータを見直す。 • IP パケットが通る経路上の機器の IP アドレスの 3 バイト目（ネットワーク No.）と CPU ユニットに装着されている IP パケット中継機能未対応のユニットのネットワーク No. が重複しないように見直す。 • 要求先機器の IP アドレスの 3 バイト目（ネットワーク No.）と CPU ユニットに装着されている IP パケット中継機能未対応のユニットのネットワーク No. が重複しないように見直す。 • 要求先機器の IP アドレスを見直す。	QCPU LCPU
$4A25_H$		• PCパラメータの内蔵Ethernetポート設定の “IP パケット中継設定” が未設定である。 • IP パケット中継設定が設定されていない CPU ユニットへ IP パケットがルーチングされるようにルーチングパラメータが設定されている。	• PC パラメータの内蔵 Ethernet ポート設定の “IP パケット中継設定” で IP パケット中継機能を “使用する” に設定する。 • IPパケット中継設定が設定されているCPUユニットへ IP パケットがルーチングされるようにルーチングパラメータを見直す。 • 要求先機器の IP アドレスを見直す。	QCPU LCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$4A26_H$	IP 通信テスト関連エラー	IP 通信テストを Ethernet ポート内蔵 QCPU 以外の CPU ユニットから開始した。	IP 通信テストを開始する CPU ユニットを Ethernet ポート内蔵 QCPU に変更する。	QCPU
$4A27_H$		IP パケット中継を行う Ethernet ポート内蔵 QCPU が，IP パケットが通る経路上の CC-Link IE ユニットの管理 CPU でない。	IP パケット中継を行う Ethernet ポート内蔵 QCPU を，IP パケットが通る経路上の CC-Link IE ユニットの管理 CPU に設定する。	QCPU
$4A28_H$		• 要求先機器とEthernet接続しているCPUユニットのシステムで要求時の IP パケットが通る経路と，応答時の IP パケットが通る経路が一致していない。 • マルチ CPU システムに，同一ネットワーク No. の CC-Link IE ユニットが複数台装着されている場合に，スロット No. の最も若番の CC-Link IE ユニットが，IP パケット中継を行う CPU ユニットの管理ユニットに設定されていない。 • シングルCPUシステムまたはマルチCPUシステムに，同一ネットワーク No. の CC-Link IE ユニットが複数台装着されている場合に，スロット No. の最も若番の CC-Link IE ユニットの局 No. がルーチングパラメータの局 No. に設定されていない。	• IP パケットが同一の経路を通るように，要求時または応答時のルーチングパラメータを見直す。 • マルチ CPU システムに，同一ネットワーク No. の CC-Link IE ユニットが複数台装着されている場合は，スロット No. の最も若番の CC-Link IE ユニットを，IP パケット中継を行う CPU ユニットの管理ユニットに設定する。 • シングルCPUシステムまたはマルチCPUシステムに，同一ネットワーク No. の CC-Link IE ユニットが複数台装着されている場合は，スロット No. の最も若番の CC-Link IE ユニットの局 No. をルーチングパラメータの局 No. に設定する。	QCPU LCPU
$4A29_H$		要求先機器の IP アドレスの 3 バイト目（ネットワーク No.）が要求元機器と Ethernet 接続している CPU ユニットの IP アドレスの 3 バイト目と重複している。	• CPU内蔵EthernetポートのIPアドレス設定を見直す。 • 要求先機器の IP アドレスを見直す。	QCPU LCPU
$4A2A_H$		CC-Link IE 上の機器以外かつ，Ethernet ポート内蔵 QCPU または Ethernet ポート内蔵 LCPU 以外の IP アドレスが指定されている。	CC-Link IE 上の機器，Ethernet ポート内蔵 QCPU または Ethernet ポート内蔵 LCPU の IP アドレスを指定する。	QCPU LCPU
$4B00_H$	対象関連エラー	• アクセス先または中継局で異常が発生している。 • 指定の接続先指定（要求先ユニット入出力番号）が不正である。	• 指定したアクセス先またはアクセス局への中継局で発生しているエラーを確認し，処置する。 • MC プロトコルなどの要求データの接続先指定（要求先ユニット入出力番号，または PC 番号）を確認する。 • 発生している停止エラーを確認し，処置する。	QCPU LCPU
$4B01_H$		対象がマルチ CPU の 1 号機でない。	マルチ CPU の 1 号機に対して要求を実行する。	QCPU
$4B02_H$		CPU ユニット宛ての要求でない。	指定の機能が実施可能なユニットに対して操作を実施する。	QCPU LCPU
$4B03_H$		• 指定の経路は，指定した CPU ユニットのバージョンではサポートしていない。 • 通信対象の CPU が装着されていない。	• 指定の経路がサポート内の経路か確認する。 • CPU ユニットの装着状態を確認する。 • 発生している停止エラーを確認し，処置する。	QCPU LCPU
$4B04_H$		指定の接続先指定（要求先ユニット入出力番号）がサポート外である。	相手先指定で対象ユニットの先頭入出力番号に不正な値が設定されている。	QCPU
$4C00_H$	マルチ CPU 関連エラー	指定されたデバイスがモーション CPU で使用できない，またはデバイス範囲外である。	要求データの内容を確認する。	QCPU
$4C08_H$		DDWR，DDRD 要求が合わせて同時に 33 以上ある。	同時に実行する DDWR，DDRD 要求の数を減少させて，再度実行する。	QCPU
$4C09_H$		要求の CPU ユニット号機番号の指定が不正である。	要求データの内容を確認する。	QCPU
$7D00_H$	通信プロトコル関連エラー（内蔵／アダプタシリアル）	S(P).CPRTCL 命令のコントロールデータにおいて，プロトコル番号の設定値が範囲外である。	プロトコル番号の設定値を見直す。	LCPU
$7D02_H$		• 通信プロトコル準備完了（SM1332）が OFF 状態でプロトコルを実行した。 • プロトコル設定データをチェック中に S(P).CPRTCL 命令を実行した。 • プロトコル設定データが異常時に S(P).CPRTCL 命令を実行した。 • 通信プロトコル設定が，有効ドライブに書き込まれていない。	• 通信プロトコル準備完了（SM1332）が ON になってから S(P).CPRTCL 命令を実行する。 • S(P).CPRTCL 命令と重ならないように，CPU ユニットを STOP 状態にしてからプロトコル設定データを書き込む。 • プロトコル設定データを CPU ユニットに再度書き込み，S(P).CPRTCL 命令を実行する。 • 再度書き込んでもエラーとなる場合は，CPU ユニットのハードウェア異常であるため，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。	

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$7D10_H$	通信プロトコル関連エラー（内蔵／アダプタシリアル）	• CPU ユニットに登録されていないプロトコル番号を，S(P).CPRTCL 命令のコントロールデータで指定した。 • プロトコル設定データを書き込んでいない状態で S(P).CPRTCL 命令を実行した。	• 指定したプロトコル番号が正しいか見直す。 • プロトコル登録有無（SD1342 ～ 1349）を確認し，指定したプロトコル番号が登録されているか確認する。 • 再度プロトコル設定データを書き込みしてから S(P).CPRTCL 命令を実行する。	LCPU
$7D12_H$		• 送信監視時間がタイムアップした。 • 送信リトライ回数分，送信をリトライしたが，送信ができなかった。	ケーブルが切断されていないか確認する。	
$7D13_H$		受信待ち時間がタイムアップした。	• ケーブルが切断されていないか確認する。 • 相手機器に異常が発生していないか確認する。 • 相手機器からの送信が中断されていないか確認する。 • 受信エラーでデータ抜けが発生していないか確認する。 • 相手機器から送信されたデータ（パケット）に誤りがないか確認する。	
$7D16_H$		• プロトコル実行中にキャンセル要求を受け付けて，S(P).CPRTCL 命令を異常完了した。 • S(P).CPRTCL 命令実行中に，プロトコル設定データのチェックを行ったため，S(P).CPRTCL 命令を異常完了した。	• キャンセルしたプロトコルを，S(P).CPRTCL 命令のコントロールデータ（実行数結果）で確認し，キャンセル実行に至った原因を取り除く。 • S(P).CPRTCL 命令と重ならないように，CPU ユニットを STOP 状態にしてからプロトコル設定データを書き込む。	
$7D17_H$		データ長が 2048 バイトを超えるパケットを受信した。	• 外部機器から送信されるデータを見直す。 • 外部機器より 2048 バイトを超えるデータを送信する場合，複数回に分けて送信する。	
$7D18_H$		変換あり変数（データ数可変）のパケットを含むプロトコルでデータ受信した時，変換あり変数（データ数可変）に該当するデータ（桁数）が不足している。	• 外部機器から送信されるデータを見直す。 • プロトコルの編集を行った場合は，相手機器のパケットフォーマットを確認し，桁数の設定値に誤りがないか確認する。	
$7D19_H$		変換あり変数（データ数固定かつ桁数可変）のパケットを含むプロトコルでデータ受信した時，変換あり変数（データ数固定かつ桁数可変）に該当するデータが，0 バイト（0 桁）または，桁数の上限を超えている。	• 外部機器から送信されるデータを見直す。 • プロトコルの編集を行った場合は，相手機器のパケットフォーマットを確認し，桁数の設定値に誤りがないか確認する。	
$7D1A_H$		外部機器より受信したデータのうち，レングスで示されるデータ長と，変換あり変数のデータの長さが一致しない。	• 外部機器から送信されるデータを見直す。 （1）レングスの値に誤りがないか確認する。 （2）変換あり変数に該当するデータに抜けがないか確認する。 • プロトコルの編集を行った場合は，相手機器のパケットフォーマットを確認し，変換あり変数の設定に誤りがないか確認する。	
$7D1B_H$		変換あり変数のパケットを含むプロトコルでデータ受信した時，変換あり変数に該当するデータが，CPU ユニットで扱える数値の範囲を超えている。	• 外部機器から送信されるデータを見直す。 • プロトコルの編集を行った場合は，相手機器のパケットフォーマットを確認し，変換サイズの設定に誤りがないか確認する。 （1）ワードで扱える数値の範囲を超える場合は，変換サイズをダブルワードに変更する。 （2）ダブルワードで扱える数値の範囲を超える場合は，構成要素を変換なし変数に変更する。	
$7D20_H$		データ長格納エリア，データ数格納エリアの設定値が範囲外である。	• データ長格納エリアに設定可能な最大データ長を確認し，最大データ長以下の値を指定する。 • データ数格納エリアに設定可能な最大データ数を確認し，最大データ数以下の値を指定する。	
$7D21_H$		• 小数点可変時に設定する，小数点位置の設定値が範囲外である。 • 小数点桁が 1 データあたりの桁数より大きい。	• 小数点位置の設定値を見直す。 • 桁数の設定を確認し，小数点桁が桁数未満となるように小数点位置を設定する。	

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$7F20_H$	通信プロトコル関連エラー（内蔵／アダプタシリアル）	• 変換あり変数のパケットを含むプロトコルでデータ受信した時，変換あり変数に該当するデータがバイナリ変換できない。 • 誤りチェックコード（ASCII 16 進数または ASCII 10 進数）のパケットを含むプロトコルでデータ受信した時，誤りチェックコードに該当するデータがバイナリ変換できない。	• 相手機器の送信伝文を確認，修正して再度交信する。 • プロトコルの編集を行った場合は，相手機器のパケットフォーマットを確認し，変換あり変数の変換内容や符号文字，小数点桁，区切り文字，桁数の設定値に誤りがないか確認する。 • プロトコルの編集を行った場合は，相手機器のパケットフォーマットを確認し，誤りチェックコードのコード種別やデータ長の設定に誤りがないか確認する。	LCPU
$7F24_H$		• 計算したサムチェックと受信したサムチェックが合わない。 • 計算した水平パリティコードと受信した水平パリティコードが合わない。 • 計算した誤りチェックコードと受信した誤りチェックコードが合わない。	• 相手機器側のサムチェックを見直す。 • 相手機器側の水平パリティコードを見直す。 • 相手機器側の誤りチェックコード（サムチェック，水平パリティコード，CRC-16）を見直す。 • プロトコルの編集を行った場合は，相手機器のパケットフォーマットを確認し，誤りチェックコードの処理方式やコード種別，データ長，データ順，補数計算，算出範囲の設定に誤りがないか確認する。	
$7F67_H$		CPU ユニットが受信処理を完了する前に次のデータを受信した。	• 通信速度を下げて再度交信する。 • CPUユニット装着局で瞬停が発生していないか確認する。（特殊レジスタ SD1005 で確認可）瞬停が発生しているときは，その要因をなくす。	
$7F68_H$		• ストップビットの設定が合っていない。 • 相手局の電源 ON/OFF により，回線に乱れが生じた。 • 回線上にノイズが発生している。 • マルチドロップ接続時，複数機器から同時にデータ送信された。	• CPU ユニットと相手機器の設定を合わせる。 • ノイズ対策する。 • マルチドロップ接続時，複数機器から同時にデータ送信されないようインタロックをとる。	
$7F69_H$		• パリティビットの設定が合っていない。 • 相手局の電源 ON/OFF により，回線に乱れが生じた。 • 回線上にノイズが発生している。 • マルチドロップ接続時，複数機器から同時にデータ送信された。	• CPU ユニットと相手機器の設定を合わせる。 • ノイズ対策する。 • マルチドロップ接続時，複数機器から同時にデータ送信されないようインタロックをとる。	
$7F6A_H$		受信バッファがオーバフローし，受信データを読み飛ばした。	データ受信を伴う通信プロトコルを行うことにより，受信バッファをクリアする。	
$7FC8_H$		• 任意編集したプロトコルの設定に誤りがある。 • CPU ユニットに書き込んだプロトコル設定データの中に，未対応の機能が含まれている。	プロトコル設定データを見直して登録しなおす。	
$7FF2_H$		現在の交信プロトコル設定では実行できない命令である。	交信プロトコルの設定を見直す。	
$C055_H$	iQ Sensor Solution 関連エラー	システムエラー	• iQ Sensor Solution 対応機器の動作状態，接続を確認する。 • Ethernet ケーブル，ハブの接続を確認する。 • Ethernet の回線状態を確認する。 • CPU ユニット，iQ Sensor Solution 対応機器をリセットし，再度実行する。 • 上記を実施後，再度同じエラーを表示した場合は，iQ Sensor Solution 対応機器メーカに症状を説明し，ご相談ください。	LCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$C056_H$	iQ Sensor Solution 関連エラー	システムエラー	• iQ Sensor Solution 対応機器の動作状態，接続を確認する。 • Ethernet ケーブル，ハブの接続を確認する。 • Ethernet の回線状態を確認する。 • CPU ユニット，iQ Sensor Solution 対応機器をリセットし，再度実行する。 • 上記を実施後，再度同じエラーを表示した場合は，iQ Sensor Solution 対応機器メーカに症状を説明し，ご相談ください。	LCPU
$C059_H$		iQ Sensor Solution 対応機器がサポートしていない機能を実行した。	iQ Sensor Solution 対応機器のバージョンを確認する。	LCPU
$C05C_H$		• 通信設定の設定値が範囲外である。 • 対象の iQ Sensor Solution 対応機器で設定できない通信設定項目を設定した。 • 対象の iQ Sensor Solution 対応機器で設定必須の項目が未設定である。	設定内容を見直して再度実行する。	LCPU
$C061_H$		システムエラー	• iQ Sensor Solution 対応機器の動作状態，接続を確認する。 • Ethernet ケーブル，ハブの接続を確認する。 • Ethernet の回線状態を確認する。 • CPU ユニット，iQ Sensor Solution 対応機器をリセットし，再度実行する。 • 上記を実施後，再度同じエラーを表示した場合は，iQ Sensor Solution 対応機器メーカに症状を説明し，ご相談ください。	LCPU
$C0C7_H$	通信プロトコル関連エラー（Ethernet）	システムエラー	• 回線の負荷を軽減するため，ネットワークの分離，データ送信回数を減らすなどの対策をする。 • ネットワーク管理者に相談し，回線の負荷を軽減する。 • 自己診断テストを行い，CPU ユニットに異常がないか確認する。 • 再度同じエラーを表示した場合は，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。	QnUDV QnUDPV LCPU
$C400_H$		• 通信プロトコル準備完了（SM1354）が ON する前に SP.ECPRTCL 命令を実行した。 • プロトコル設定データが異常のとき，SP.ECPRTCL 命令を実行した。	• 通信プロトコル準備完了（SM1354）が ON になってから SP.ECPRTCL 命令を実行する。 • CPU ユニットへプロトコル設定データを再度書き込み，SP.ECPRTCL 命令を実行する。 • 再度書き込みを行った後にもエラーが発生する場合は，CPU ユニットのハードウェア異常であるため，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社または当社の支社，代理店にご相談ください。	
$C401_H$		プロトコル実行時に指定したプロトコル番号のプロトコルが登録されていない。	• 指定したプロトコル番号を見直し，再度プロトコルを実行する。 • 指定したプロトコル番号に対象となるプロトコルを登録する。	
$C402_H$		プロトコル設定データの内容に異常がある。	プロトコル設定データを見直して登録しなおす。	
$C404_H$		プロトコル実行中にキャンセル要求を受け付け，SP.ECPRTCL 命令を異常完了した。	キャンセルしたプロトコルを，SP.ECPRTCL 命令のコントロールデータ（実行数結果）で確認し，キャンセル実行に至った原因を取り除く。	
$C405_H$		プロトコル実行時に指定したプロトコル番号の設定値が範囲外である。	指定したプロトコル番号を見直し，再度プロトコルを実行する。	
$C410_H$		受信待ち時間がタイムアップした。	• ケーブルが切断されていないか確認する。 • 指定したコネクション番号のコネクションの設定を見直し，再度プロトコルを実行する。 • 相手機器に異常が発生していないか確認する。 • 相手機器からの送信が中断されていないか確認する。 • 受信エラーでデータ抜けが発生していないか確認する。 • 相手機器から送信されたデータ（パケット）に誤りがないか確認する。	QnUDV QnUDPV LCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$C417_H$	通信プロトコル関連エラー（Ethernet）	データ長格納エリア，データ数格納エリアの設定値が範囲外である。	• データ長格納エリアに設定可能な最大データ長を確認し，最大データ長以下の値を指定する。 • データ数格納エリアに設定可能な最大データ数を確認し，最大データ数以下の値を指定する。	QnUDV QnUDPV LCPU
$C430_H$		SP.ECPRTCL 命令実行中に，プロトコル設定データチェックが発生した。	• SP.ECPRTCL 命令実行時は，命令の実行をキャンセルし，プロトコル設定データチェックを行う。	
$C431_H$		SP.ECPRTCL 命令実行中にコネクションクローズが発生した。	• 相手機器の動作を確認する。 • 相手機器とのコネクションオープン状態を確認する。 • 相手機器とのコネクションを再度オープンし，命令を実行する。	
$CEE0_H$	iQ Sensor Solution 関連エラー	自動検出中に，他の周辺機器から自動検出，または他の iQ Sensor Solution 対応機能を実行した。	自動検出が完了した後，他の機能を実行する。	LCPU
$CEE1_H$		システムエラー	• iQ Sensor Solution 対応機器の動作状態，接続を確認する。 • Ethernet ケーブル，ハブの接続を確認する。 • Ethernet の回線状態を確認する。 • CPU ユニット，iQ Sensor Solution 対応機器をリセットし，再度実行する。 • 上記を実施後，再度同じエラーを表示した場合は，iQ Sensor Solution 対応機器メーカに症状を説明し，ご相談ください。	LCPU
$CEE2_H$				LCPU
$CF10_H$				LCPU
$CF20_H$		• 通信設定の設定値が範囲外である。 • 対象の iQ Sensor Solution 対応機器で設定できない通信設定項目を設定した。 • 対象の iQ Sensor Solution 対応機器で設定必須の項目が未設定である。	設定内容を見直して，再度実行する。	LCPU
$CF30_H$		iQ Sensor Solution 対応機器がサポートしていないパラメータを指定した。	iQ Sensor Solution 対応機器のバージョンを確認する。	LCPU
$CF31_H$		システムエラー	• iQ Sensor Solution 対応機器の動作状態，接続を確認する。 • Ethernet ケーブル，ハブの接続を確認する。 • Ethernet の回線状態を確認する。 • 上記を実施後，再度同じエラーを表示した場合は，iQ Sensor Solution 対応機器メーカに症状を説明し，ご相談ください。	LCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$CF41_H$	iQ Sensor Solution 関連エラー	モニタに必要な情報を iQ Sensor Solution 対応機器から取得できない。	• iQ Sensor Solution 対応機器の動作状態，接続を確認する。 • iQ Sensor Solution 対応機器をリセットし，再度実行する。 • 上記を実施後，再度同じエラーを表示した場合は，iQ Sensor Solution 対応機器メーカに症状を説明し，ご相談ください。	LCPU
$CF50_H$		システムエラー	• iQ Sensor Solution 対応機器の動作状態，接続を確認する。 • Ethernet ケーブル，ハブの接続を確認する。 • Ethernet の回線状態を確認する。 • CPU ユニット，iQ Sensor Solution 対応機器をリセットし，再度実行する。 • 上記を実施後，再度同じエラーを表示した場合は，iQ Sensor Solution 対応機器メーカに症状を説明し，ご相談ください。	LCPU
$CF51_H$		他の周辺機器が処理中のため，実行できない。	しばらくしてから再度実行する。	LCPU
$CF52_H$		モニタに必要な情報を iQ Sensor Solution 対応機器から取得できない。	• iQ Sensor Solution 対応機器の動作状態，接続を確認する。 • iQ Sensor Solution 対応機器をリセットし，再度実行する。 • 上記を実施後，再度同じエラーを表示した場合は，iQ Sensor Solution 対応機器メーカに症状を説明し，ご相談ください。	LCPU
$CF53_H$		システムエラー	• iQ Sensor Solution 対応機器の動作状態，接続を確認する。 • Ethernet ケーブル，ハブの接続を確認する。 • Ethernet の回線状態を確認する。 • CPU ユニット，iQ Sensor Solution 対応機器をリセットし，再度実行する。 • 上記を実施後，再度同じエラーを表示した場合は，iQ Sensor Solution 対応機器メーカに症状を説明し，ご相談ください。	LCPU
$CF54_H$		システムエラー	• iQ Sensor Solution 対応機器の動作状態，接続を確認する。 • Ethernet ケーブル，ハブの接続を確認する。 • Ethernet の回線状態を確認する。 • CPU ユニット，iQ Sensor Solution 対応機器をリセットし，再度実行する。 • 上記を実施後，再度同じエラーを表示した場合は，iQ Sensor Solution 対応機器メーカに症状を説明し，ご相談ください。	LCPU
$CF55_H$		システムエラー	• iQ Sensor Solution 対応機器の動作状態，接続を確認する。 • Ethernet ケーブル，ハブの接続を確認する。 • Ethernet の回線状態を確認する。 • CPU ユニット，iQ Sensor Solution 対応機器をリセットし，再度実行する。 • 上記を実施後，再度同じエラーを表示した場合は，iQ Sensor Solution 対応機器メーカに症状を説明し，ご相談ください。	LCPU
$CF56_H$		システムエラー	• iQ Sensor Solution 対応機器の動作状態，接続を確認する。 • Ethernet ケーブル，ハブの接続を確認する。 • Ethernet の回線状態を確認する。 • CPU ユニット，iQ Sensor Solution 対応機器をリセットし，再度実行する。 • 上記を実施後，再度同じエラーを表示した場合は，iQ Sensor Solution 対応機器メーカに症状を説明し，ご相談ください。	LCPU

エラーコード（16 進）	エラー項目	エラー内容	処置方法	対応 CPU
$CF60_H$	iQ Sensor Solution 関連エラー	iQ Sensor Solution 対応バックアップ時に，バックアップ処理を開始できない。	• iQ Sensor Solution 対応機器の動作状態，接続を確認する。 • CPU ユニット，iQ Sensor Solution 対応機器をリセットし，再度実行する。 • 上記を実施後，再度同じエラーを表示した場合は，iQ Sensor Solution 対応機器メーカに症状を説明し，ご相談ください。	LCPU
$CF61_H$		iQ Sensor Solution 対応バックアップ時に，バックアップ処理を開始できない。		
$CF62_H$		iQ Sensor Solution 対応バックアップ時に，バックアップ処理を終了できない。		
$CF63_H$		iQ Sensor Solution 対応 リストア時に，指定したバックアップデータの機器とリストア対象の機器が一致しない。	• 指定したバックアップデータとリストア対象の iQ Sensor Solution 対応機器（メーカ，形名，バージョン）を確認する。	
$CF64_H$		iQ Sensor Solution 対応リストア時に，リストア処理を開始できない。	• iQ Sensor Solution 対応機器の動作状態，接続を確認する。 • CPU ユニット，iQ Sensor Solution 対応機器をリセットし，再度実行する。 • 上記を実施後，再度同じエラーを表示した場合は，iQ Sensor Solution 対応機器メーカに症状を説明し，ご相談ください。	
$CF65_H$		iQ Sensor Solution 対応リストア時に，リストア処理を終了できない。		
$CF70_H$		Ethernet の通信経路で異常が発生した。	• iQ Sensor Solution 対応機器の動作状態，接続を確認する。 • Ethernet ケーブル，ハブの接続を確認する。	
$CF71_H$		タイムアウトエラー	• iQ Sensor Solution 対応機器の動作状態，接続を確認する。 • 回線でパケットが混み合っている場合があるため，しばらくしてから再度実行する。	

＊1　ロギング状態は，CPU ユニットロギング設定ツールで確認してください。CPU ユニットロギング設定ツールの使用方法は，下記マニュアルを参照してください。

QnUDVCPU/LCPU ユーザーズマニュアル（データロギング機能編）

＊2　Ethernet ポート内蔵 QCPU，Ethernet ポート内蔵 LCPU が対象です。

付 2　特殊リレー一覧

特殊リレー(SM)は，シーケンサ内部で仕様が決まっている内部リレーです。したがって，通常の内部リレーのようにプログラム上では使用できません。ただし，必要に応じて CPU ユニットを制御するために ON/OFF できます。
一覧表の各項目の見方を下表に示します。

項目	説明
番号	SM の番号を示します。
名称	SM の名称を示します。
内容	SM の内容について示します。
内容詳細	SM の内容の詳細について説明します。
セット側（セット時期）	セットする側とシステム側でセットする場合の時期について説明します。 ＜セット側＞ ・S　：システム側でセットします。 ・U　：ユーザ側（プログラム，プログラミングツール，GOT，またはその他の外部機器からのテスト操作）でセットします。 ・S/U：システム側／ユーザ側の両方でセットします。 ＜セット時期＞ システム側でセット時のみ，セット時期を示します。 ・毎回 END：毎回 END 処理時にセットします。 ・初期：イニシャル（電源 ON，STOP → RUN など）時にセットします。 ・状態変化：状態に変化があったときにセットします。 ・エラー発生：エラー発生時にセットします。 ・命令実行：命令実行時にセットします。 ・要求時：ユーザから要求のあったとき（SM などで）にセットします。 ・系切替え時：系切替えを実行したときにセットします。 ・書込み時：ユーザからの書込み時にセットします。
対応 CPU	対応する CPU ユニットを下記に示します。 ・QCPU：Q シリーズ CPU ユニットすべてに対応します。 ・Q00J/Q00/Q01：ベーシックモデル QCPU に対応します。 ・Qn(H)：ハイパフォーマンスモデル QCPU に対応します。 ・QnPH：プロセス CPU に対応します。 ・QnPRH：二重化 CPU に対応します。 ・QnU：ユニバーサルモデル QCPU に対応します。 ・QnUDV：ユニバーサルモデル高速タイプ QCPU に対応します。 ・QnUDPV：ユニバーサルモデルプロセス CPU に対応します。 ・Q00UJ/Q00U/Q01U：Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU に対応します。 ・LCPU：L シリーズ CPU ユニットすべてに対応します。 ・各 CPU ユニット形名：記載 CPU ユニットのみ対応します。（例：Q02UCPU，L26CPU-BT）
対応 ACPU M9□□□	• ACPU の対応する特殊リレー(M9□□□)を示します。（内容に変更のある場合は，M9□□□変形と表記します。Q00J/Q00/Q01，QnPRH へは未対応。） • 新規と表記してあるものは，QCPU/LCPU で新規追加のものを示します。

下記の項目の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

- ネットワーク関連：📖 各ネットワークユニットのマニュアル
- SFC 関連：📖 MELSEC-Q/L/QnA プログラミングマニュアル（SFC 編）

Point

システム側でセットする特殊リレーは，プログラムやデバイステストなどの操作により変更しないでください。システムダウンが発生したり，通信ができなくなる可能性があります。

(1) 診断情報

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM0	診断エラー	OFF：エラーなし ON ：エラーあり	• 診断の結果，エラーが生じれば ON になる。（アナンシェータの ON，CHK 命令によるエラー検出時も含む。） • 以後，正常になっても ON のまま保持される。	S（エラー発生）	新規	Qn(H) QnPH QnPRH
			• 診断の結果，エラーが生じれば ON になる。（アナンシェータ ON 時も含む。） • 以後，正常になっても ON のまま保持される。			Q00J/Q00/ Q01 QnU LCPU
SM1	自己診断エラー	OFF：自己診断エラーなし ON ：自己診断エラーあり	• 自己診断の結果，エラーが生じれば ON になる。（アナンシェータの ON，CHK 命令によるエラー検出時は含まない。） • 以後，正常になっても ON のまま保持される。		M9008	Qn(H) QnPH QnPRH
			• 自己診断の結果，エラーが生じれば ON になる。（アナンシェータ ON 時は含まない。） • 以後，正常になっても ON のまま保持される。		新規	Q00J/Q00/ Q01 QnU LCPU
SM5	エラー共通情報	OFF：エラー共通情報なし ON ：エラー共通情報あり	SM0 が ON したとき，エラー共通情報があれば ON になる。			QCPU LCPU
SM16	エラー個別情報	OFF：エラー個別情報なし ON ：エラー個別情報あり	SM0 が ON したとき，エラー個別情報があれば ON になる。			
SM50	エラー解除	OFF → ON：エラー解除	エラー解除動作を行う。	U		
SM51	バッテリ低下 ラッチ	OFF：正常 ON ：バッテリ低下	• CPU ユニット，メモリカードのバッテリ電圧が規定以下に低下すると ON になる。 • 以後，バッテリ電圧が正常になっても ON のまま保持される。 • BAT. LED と同期する。	S（エラー発生）	M9007	Qn(H) QnPH QnPRH QnU （QnUDV， QnUDPV は 除く）
			• CPU ユニットのバッテリ電圧が規定以下に低下すると ON になる。 • 以後，バッテリ電圧が正常になっても ON のまま保持される。 • BAT. LED と同期する。		新規	QnUDV QnUDPV LCPU
			• CPU ユニットのバッテリ電圧が規定以下に低下すると ON になる。 • 以後，バッテリ電圧が正常になっても ON のまま保持される。 • ERR. LED と同期する。		新規	Q00J/Q00/ Q01
SM52	バッテリ低下	OFF：正常 ON ：バッテリ低下	• SM51 と同じであるが，以後，バッテリ電圧が正常になると OFF になる。		M9006	QCPU LCPU

番号	名称	内容	内容詳細		セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM53	AC/DC DOWN 検出	OFF：AC/DC DOWN なし ON ：AC/DC DOWN あり	AC 電源ユニット使用時に，20ms 以内の瞬停があった場合に ON になる。電源 OFF → ON でリセットされる。		S（エラー発生）	M9005	QCPU
			AC 電源ユニット使用時に，10ms 以内の瞬停があった場合に ON になる。電源 OFF → ON でリセットされる。				LCPU
			DC 電源ユニット使用時に，10ms 以内の瞬停があった場合に ON になる。電源 OFF → ON でリセットされる。				QCPU LCPU
SM56	演算エラー	OFF：正常 ON ：演算エラーあり	• 演算エラーが生じたときに ON になる。 • 以後，正常になっても ON のまま保持される。			M9011	
SM60	ヒューズ断検出	OFF：正常 ON ：ヒューズ断ユニットあり	• ヒューズ断状態になっている出力ユニットが 1 ユニットでもあれば ON になる。 • 以後，正常になっても ON のまま保持される。 • ヒューズ断状態はリモート I/O 局の出力ユニットに対してもチェックされる。			M9000	QCPU
SM61	入出力ユニット照合エラー	OFF：正常 ON ：エラーあり	• 入出力ユニットが電源ON時に登録された状態と異なれば ON になる。 • 以後，正常になっても ON のまま保持される。 • 入出力ユニット照合は，リモート I/O 局のユニットに対してもチェックされる。			M9002	QCPU LCPU
SM62	アナンシェータ検出	OFF：未検出 ON ：検出	アナンシェータ (F) が 1 つでも ON すれば ON になる。		S（命令実行）	M9009	
SM80	CHK 検出	OFF：未検出 ON ：検出	• CHK 命令で異常を検出すると ON になる。 • 以後，正常に戻っても ON のまま保持される。			新規	Qn(H) QnPH QnPRH
SM84	エラー解除	OFF → ON：エラー解除	SD84，SD85 でセットしたエラー要因のエラー解除動作を行う。		U		QnUDV QnUDPV LCPU
SM90	ステップ移行監視タイマ起動（SFC プログラムありのときのみ有効）	OFF：未起動中（監視タイマリセット） ON ：起動中（監視タイマ起動）	SD90 に対応	• ステップ移行監視タイマの計測を開始する場合に ON する。 • OFF するとステップ移行監視タイマをリセットする。		M9108	Qn(H) QnPH QnPRH
SM91			SD91 に対応			M9109	
SM92			SD92 に対応			M9110	
SM93			SD93 に対応			M9111	
SM94			SD94 に対応			M9112	
SM95			SD95 に対応			M9113	
SM96			SD96 に対応			M9114	
SM97			SD97 に対応			新規	
SM98			SD98 に対応				
SM99			SD99 に対応				

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM100	シリアルコミュニケーション機能使用フラグ	OFF：シリアルコミュニケーション機能を使用しない ON ：シリアルコミュニケーション機能を使用する	PC パラメータで，シリアルコミュニケーション機能を使用する設定になっているかが格納される。	S（電源 ON，リセット時）	新規	Q00/Q01 QnU *2 LCPU *3
SM101	交信プロトコル状態フラグ	OFF：MC プロトコル通信機器以外 ON ：MC プロトコル通信機器	交信している機器が MC プロトコル通信機器か MC プロトコル通信機器以外かが格納される。	S（RS-232 または RS-422/485 交信時）		Q00/Q01 QnU *2 LCPU *3
SM110	プロトコル異常	OFF：正常 ON ：異常	• シリアルコミュニケーション機能において異常なプロトコルでの通信を行ったとき，ON になる。 • 以後，正常になっても ON のまま保持される。	S（エラー発生）		Q00/Q01 QnU *2 LCPU *3
SM111	通信状態	OFF：正常 ON ：異常	• シリアルコミュニケーション機能において設定と異なるモードで通信を行ったとき，ON になる。 • 以後，正常になっても ON のまま保持される。			
SM112	エラー情報クリア	ON でクリア	SM110，SM111 と，SD110，SD111 に格納されているエラーコードをクリアするとき ON になる。（OFF → ON で動作）	U		
SM113	オーバランエラー	OFF：正常 ON ：異常	シリアルコミュニケーション機能においてオーバランエラーが発生したとき ON になる。	S（エラー発生）		
SM114	パリティエラー	OFF：正常 ON ：異常	シリアルコミュニケーション機能においてパリティエラーが発生したとき ON になる。			
SM115	フレーミングエラー	OFF：正常 ON ：異常	シリアルコミュニケーション機能においてフレーミングエラーが発生したとき ON になる。			
SM165	プログラムメモリー括転送実行状態	OFF：完了 ON ：未実行または未完了	• プログラムキャッシュメモリ書込み時，ON になる。 • プログラム一括転送が完了時，OFF になる。 • プログラムメモリ書込み後，プログラム一括転送を行わない場合は ON 状態が保持される。	S（状態変化）		QnU *1 LCPU

＊1　下記のユニットが対象です。
・シリアル No. の上 5 桁が “10012” 以降のユニバーサルモデル QCPU
・Q13UDHCPU，Q26UDHCPU

＊2　RS-232 コネクタを持つ下記のユニットが対象です。
・シリアル No. の上 5 桁が “13062” 以降のユニバーサルモデル QCPU（Q02UCPU はシリアル No. の上 5 桁が “10102” 以降）
・Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU

＊3　L02SCPU および L02SCPU-P を除く LCPU は，シリアル No. の上 5 桁が “15102” 以降のユニットが対象です。

(2) システム情報

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM202	LED 消灯指令	OFF → ON：LED 消灯	本リレーが OFF → ON に変化したとき，SD202 の各ビットに対応した LED を消灯する。	U	新規	Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
SM203	STOP 接点	STOP 状態	STOP 状態のとき ON になる。	S（状態変化）	M9042	QCPU LCPU
SM204	PAUSE 接点	PAUSE 状態	PAUSE 状態のとき ON になる。		M9041	
SM206	PAUSE 許可コイル	OFF：PAUSE 禁止 ON ：PAUSE 可	PAUSE 接点が ON したとき，本リレーが ON ならば PAUSE 状態になる。	U	M9040	
SM210	時計データセット要求	OFF：無処理 ON ：セット要求あり	本リレーが OFF → ON に変化したスキャンの END 命令実行後に SD210 ～ SD213 に格納されている時計データを CPU ユニットに書き込む。		M9025	
SM211	時計データエラー	OFF：エラーなし ON ：エラーあり	時計データ（SD210 ～ SD213）の値にエラーを生じたとき ON，エラーがなければ OFF になる。	S（要求時）	M9026	
SM213	時計データ読出し要求	OFF：無処理 ON ：読出し要求	本リレーが ON のときに時計のデータを BCD 値で SD210 ～ SD213 に読み出す。	U	M9028	
SM220	1 号機準備完了	OFF：1 号機準備未完了 ON ：1 号機準備完了	電源 ON 時またはリセット時に，他号機 CPU ユニットから 1 号機 CPU ユニットへのアクセスが可能となった時点で ON になる。本リレーはマルチ CPU 間同期設定で非同期とした場合に 1 号機 CPU ユニットにアクセスするためのインタロックとして使用される。	S（状態変化）	新規	QCPU
SM221	2 号機準備完了	OFF：2 号機準備未完了 ON ：2 号機準備完了	電源 ON 時またはリセット時に，他号機 CPU ユニットから 2 号機 CPU ユニットへのアクセスが可能となった時点で ON になる。本リレーはマルチ CPU 間同期設定で非同期とした場合に 2 号機 CPU ユニットにアクセスするためのインタロックとして使用される。			QnU *7
SM222	3 号機準備完了	OFF：3 号機準備未完了 ON ：3 号機準備完了	電源 ON 時またはリセット時に，他号機 CPU ユニットから 3 号機 CPU ユニットへのアクセスが可能となった時点で ON になる。本リレーはマルチ CPU 間同期設定で非同期とした場合に 3 号機 CPU ユニットにアクセスするためのインタロックとして使用される。			
SM223	4 号機準備完了	OFF：4 号機準備未完了 ON ：4 号機準備完了	電源 ON 時またはリセット時に，他号機 CPU ユニットから 4 号機 CPU ユニットへのアクセスが可能となった時点で ON になる。本リレーはマルチ CPU 間同期設定で非同期とした場合に 4 号機 CPU ユニットにアクセスするためのインタロックとして使用される。			QnU *5
SM235	オンラインユニット交換フラグ	OFF：オンラインユニット交換中でない ON ：オンラインユニット交換中	オンラインユニット交換中 ON になる。（自号機分）	S（オンラインユニット交換実施時）		QnPH
SM236	オンラインユニット交換後 1 スキャンのみ ON フラグ	OFF：オンラインユニット交換未完了 ON ：オンラインユニット交換完了	• オンラインユニット交換完了後，1 スキャンのみ ON になる。 • 本リレーは，スキャン実行タイププログラムでのみ使用可能である。（自号機分）	S（ユニット交換完了時）		
SM237	デバイス範囲チェック禁止フラグ	OFF：デバイス範囲チェックを行う。 ON ：デバイス範囲チェックを行わない。	BMOV，FMOV，DFMOV 命令（サブセット条件成立時のみ）におけるデバイス範囲チェックの実行有無を選択する。	U		QnU *6 LCPU

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM240	1 号機リセットフラグ	OFF：1 号機リセット解除 ON ：1 号機リセット中	• 1 号機 CPU ユニットがリセット解除時に OFF になる。 • 1 号機 CPU ユニットがリセット（CPU ユニットをベースユニットよりはずした場合も含む。）中に ON になる。他号機もリセット状態になる。	S（状態変化時）	新規	Q00/Q01 *1 Qn(H) *1 QnPH QnU *7
	1 号機リセットフラグ	リセット解除状態	• 常時 OFF する。（リセット解除状態）			LCPU
SM241	2 号機リセットフラグ	OFF：2 号機リセット解除 ON ：2 号機リセット中	• 2 号機 CPU ユニットがリセット解除時に OFF になる。 • 2 号機 CPU ユニットがリセット（CPU ユニットをベースユニットよりはずした場合も含む。）中に ON になる。他号機は “MULTI CPU DOWN”（エラーコード：7000）になる。			Q00/Q01 *1 Qn(H) *1 QnPH QnU *7
SM242	3 号機リセットフラグ	OFF：3 号機リセット解除 ON ：3 号機リセット中	• 3 号機 CPU ユニットがリセット解除時に OFF になる。 • 3 号機 CPU ユニットがリセット（CPU ユニットをベースユニットよりはずした場合も含む。）中に ON になる。他号機は “MULTI CPU DOWN”（エラーコード：7000）になる。			
SM243	4 号機リセットフラグ	OFF：4 号機リセット解除 ON ：4 号機リセット中	• 4 号機 CPU ユニットがリセット解除時に OFF になる。 • 4 号機 CPU ユニットがリセット（CPU ユニットをベースユニットよりはずした場合も含む。）中に ON になる。他号機は “MULTI CPU DOWN”（エラーコード：7000）になる。			Qn(H) *1 QnPH QnU *5
SM244	1 号機エラーフラグ	OFF：1 号機正常 ON ：1 号機停止エラー中	• 1 号機 CPU ユニットが正常（続行エラー時も含む。）時に OFF になる。 • 1号機CPUユニットが停止エラー中にONになる。			Q00/Q01 *1 Qn(H) *1 QnPH QnU *7 LCPU
SM245	2 号機エラーフラグ	OFF：2 号機正常 ON ：2 号機停止エラー中	• 2 号機 CPU ユニットが正常（続行エラー時も含む。）時に OFF になる。 • 2号機CPUユニットが停止エラー中にONになる。			Q00/Q01 *1 Qn(H) *1 QnPH QnU *7
SM246	3 号機エラーフラグ	OFF：3 号機正常 ON ：3 号機停止エラー中	• 3 号機 CPU ユニットが正常（続行エラー時も含む。）時に OFF になる。 • 3号機CPUユニットが停止エラー中にONになる。			
SM247	4 号機エラーフラグ	OFF：4 号機正常 ON ：4 号機停止エラー中	• 4 号機 CPU ユニットが正常（続行エラー時も含む。）時に OFF になる。 • 4号機CPUユニットが停止エラー中にONになる。			Qn(H) *1 QnPH QnU *5
SM250	実装最大 I/O 読出	OFF：無処理 ON ：読出	本リレーが OFF → ON に変化したとき実装最大入出力番号を SD250 に読み出す。	U		Qn(H) QnPH QnPRH
SM254	全局リフレッシュ指令	OFF：到達局リフレッシュ ON ：全局リフレッシュ	• 一括リフレッシュ時有効。（低速サイクリックにも有効） • MELSECNET/H において，到達局のみ受信するか，全局受信するかを指定する。			Qn(H) QnPH QnPRH
			• 一括リフレッシュ時有効。（低速サイクリックにも有効） • CC-Link IE コントローラネットワークにおいて，到達局のみ受信するか，全局受信するかを指定する。			Qn(H) *2 QnPH QnPRH

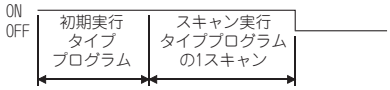
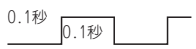
番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM254	全局リフレッシュ指令	OFF：到達局リフレッシュ ON ：全局リフレッシュ	• 一括リフレッシュ時有効。（低速サイクリックにも有効） • MELSECNET/H または CC-Link IE コントローラネットワークにおいて，到達局のみ受信するか，全局受信するかを指定する。	U	新規	QnU
SM255	MELSECNET/10，MELSECNET/H 1 枚目情報	OFF：正規ネットワーク ON ：待機ネットワーク	待機ネットワークの場合に ON になる。（正規，待機の指定がない場合は正規になる。）	S（初期）		Qn(H) QnPH QnPRH
SM256		OFF：リードする ON ：リードしない	ネットワークユニット→ CPU ユニット方向のリフレッシュ（B，W など）に関して，ネットワークユニットからリードするかを指定する。	U		
SM257		OFF：ライトする ON ：ライトしない	CPU ユニット→ネットワークユニット方向のリフレッシュ（B，W など）に関して，ネットワークユニットへライトするかを指定する。			
SM260	MELSECNET/10，MELSECNET/H 2 枚目情報	OFF：正規ネットワーク ON ：待機ネットワーク	待機ネットワークの場合に ON になる。（正規，待機の指定がない場合は正規になる。）	S（初期）		
SM261		OFF：リードする ON ：リードしない	ネットワークユニット→ CPU ユニット方向のリフレッシュ（B，W など）に関して，ネットワークユニットからリードするかを指定する。	U		
SM262		OFF：ライトする ON ：ライトしない	CPU ユニット→ネットワークユニット方向のリフレッシュ（B，W など）に関して，ネットワークユニットへライトするかを指定する。			
SM265	MELSECNET/10，MELSECNET/H 3 枚目情報	OFF：正規ネットワーク ON ：待機ネットワーク	待機ネットワークの場合に ON になる。（正規，待機の指定がない場合は正規になる。）	S（初期）		
SM266		OFF：リードする ON ：リードしない	ネットワークユニット→ CPU ユニット方向のリフレッシュ（B，W など）に関して，ネットワークユニットからリードするかを指定する。	U		
SM267		OFF：ライトする ON ：ライトしない	CPU ユニット→ネットワークユニット方向のリフレッシュ（B，W など）に関して，ネットワークユニットへライトするかを指定する。			
SM270	MELSECNET/10，MELSECNET/H 4 枚目情報	OFF：正規ネットワーク ON ：待機ネットワーク	待機ネットワークの場合に ON になる。（正規，待機の指定がない場合は正規になる。	S（初期）		
SM271		OFF：リードする ON ：リードしない	ネットワークユニット→ CPU ユニット方向のリフレッシュ（B，W など）に関して，ネットワークユニットからリードするかを指定する。	U		
SM272		OFF：ライトする ON ：ライトしない	CPU ユニット→ネットワークユニット方向のリフレッシュ（B，W など）に関して，ネットワークユニットへライトするかを指定する。			
SM280	CC-Link エラー	OFF：正常 ON ：異常	装着されている CC-Link ユニットにおいて，1 台でも CC-Link の異常を検出したときに ON になる。以後，正常に戻ると OFF になる。	S（状態変化）		
SM310	RS-232，RS2-42/485 アダプタ有無	OFF：RS-232 および RS-422/485 アダプタなし ON ：RS-232 または RS-422/485 アダプタあり	RS-232 または RS-422/485 アダプタの有無情報を格納する。 イニシャル時に RS-232 または RS-422/485 アダプタの有無を確認し，存在する場合，ON になる。 イニシャル時にセットした ON/OFF 状態は，再度電源 OFF → ON，リセットするまで保持される。	S（初期）		LCPU
SM315	通信確保時間の時間待ち有効／無効フラグ	OFF：時間待ちしない ON ：時間待ちする	• SD315 に通信処理確保時間を設定したとき有効になるフラグ • 通信処理を行うため SD315 に設定した時間分 END 処理で時間待ちさせたいとき ON する。（SD315 に設定した時間分スキャンタイムが延びる。） • 通信処理がないとき，SD315 に設定した時間分 END 処理で時間待ちさせたくないとき OFF する。（デフォルトは OFF）	U		Q00J/Q00/Q01

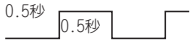
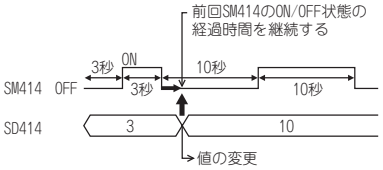
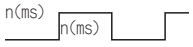
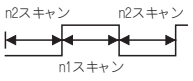
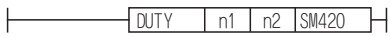
番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM319	CC-Link 自動起動状態	OFF：自動 CC-Link 起動なし ON ：自動 CC-Link 起動あり	• 自動 CC-Link 起動機能により CC-Link ユニットが起動し，全データのリフレッシュが行われることを示す。 • 自動 CC-Link 起動機能により全データのリフレッシュが行われている場合 ON する。 • 自動 CC-Link 起動なしの場合，および自動 CC-Link 起動機能でリフレッシュするデバイス範囲が不足している場合，OFF する。（自動 CC-Link 起動機能でリフレッシュするデバイス範囲が不足している場合は，全てのリフレッシュが停止する。）	S（初期，状態変化）	新規	LCPU
SM320	SFC プログラムの有無	OFF：SFC プログラムなし ON ：SFC プログラムあり	• SFC プログラムが登録されていれば ON になる。 • SFC プログラムが登録されていなければ OFF になる。	S（初期）	M9100	Q00J/Q00/Q01 *1 Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
SM321	SFC プログラムの起動／停止	OFF：SFC プログラム非実行（停止） ON ：SFC プログラム実行（起動）	• SM320 と同じ値が初期値にセットされる。（SFC プログラムありで自動的に ON になる。） • 本リレーをON→OFFでSFCプログラムの実行が停止する。 • 本リレーをOFF→ONでSFCプログラムの実行が再開する。	S（初期）/U	M9101 変形	
SM322	SFC プログラムの起動状態	OFF：イニシャルスタート ON ：続行スタート	PC パラメータの SFC 設定の SFC プログラム起動モードが初期値にセットされる。 • イニシャルスタートのとき：OFF • 続行スタートのとき：ON		M9102 変形	
SM323	全ブロック連続移行の有無	OFF：連続移行なし ON ：連続移行あり	SFC 用情報デバイスの “ 連続移行ビット ” が設定されていないブロックについて，連続移行の有無を設定する。	U	M9103	
SM324	連続移行阻止フラグ	OFF：移行実行時 ON ：未移行時	• 連続移行ありモードで動作中または連続移行中のとき OFF，連続移行ではないとき ON になる。 • 連続移行なしモードで動作中は常時 ON になる。	S（命令実行）	M9104	
				S（状態変化）	新規	Q00J/Q00/Q01 *1 Qn(H) QnPH QnPRH QnU
SM325	ブロック停止時の出力モード	OFF：OFF ON ：保持	ブロック停止時に活性ステップのコイル出力を保持するか，保持しないかを選択する。 • 初期値はパラメータのブロック停止時の出力モードが，コイル出力 OFF のとき OFF，コイル出力保持のとき ON になる。 • 本リレーが OFF のときコイル出力をすべて OFF になる。 • 本リレーが ON のときコイル出力が保持される。	S（初期）/U	M9196	Q00J/Q00/Q01 *1 Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
SM326	SFC のデバイスクリアモード	OFF：デバイスクリア ON ：デバイス保持	STOP →プログラム書込み→ RUN したときのデバイスの状態を選択する。（ステップリレーを除く全デバイス）	U	新規	
SM327	エンドステップ実行時の出力	OFF：保持ステップの出力 OFF ON ：保持ステップの出力保持	本リレーが OFF のとき，移行が成立して保持中となったステップ（SC，SE，ST）は，エンドステップ到達時コイル出力が OFF になる。	S（初期）/U		Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
				U		Q00J/Q00/Q01 *1

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応ACPU M9□□□	対応 CPU
SM328	エンドステップ到達時クリア処理モード	OFF：クリア処理を行う ON ：クリア処理を行わない	エンドステップ到達時，ブロック内に保持中以外の活性ステップが存在した場合に，クリア処理を行うか，行わないかを選択する。 ・本リレーが OFF のとき，活性ステップをすべて強制終了してブロックを終了する。 ・本リレーが ON のとき，そのままの状態でブロックの実行を継続する。 ・エンドステップ到達時に保持中以外の活性ステップが存在しない場合には，保持中ステップをすべて終了し，ブロックを終了する。	U	新規	Q00J/Q00/Q01 *1 QnU LCPU
SM329	非活性ブロック RUN 中書込み実行中フラグ	OFF：実行していない ON ：実行中	非活性ブロック RUN 中書込み実行中に ON になる。	S（状態変化）		QnU *8 L06/L26/L26CPU-BT *12
SM330	低速実行タイププログラムの動作方式	OFF：非同期方式 ON ：同期方式	低速実行タイププログラムを非同期方式で実行させるか，同期方式で実行させるかを選択する。 ・非同期方式（本リレーを OFF する。）余剰時間内で低速実行タイププログラムの演算を続けて行う方式。 ・同期方式（本リレーを ON する。）余剰時間があっても低速実行タイププログラムの演算を続けて行わずに，次のスキャンから演算を行う方式。	U		Qn(H) QnPH
SM331	通常 SFC プログラム実行状態	OFF：実行していない ON ：実行中	・通常 SFC プログラムが実行しているかどうかの状態が格納される。 ・SFC 制御命令の実行インタロックとして使用される。	S（状態変化）		Qn(H) *3 QnPH *4 QnPRH
SM332	プログラム実行管理用 SFC プログラム実行状態	OFF：実行していない ON ：実行中	・プログラム実行管理用 SFC プログラムが実行しているかどうかの状態が格納される。 ・SFC 制御命令の実行インタロックとして使用される。			
SM339	ラッチクリア機能実行指令	OFF → ON: ラッチクリア実行 OFF → ON以外：ラッチクリア非実行	STOP 状態で本リレーを OFF → ON でラッチクリアを実行する。SD339（ラッチクリア機能動作設定）に $5A01_H$ を設定したとき有効となる。	U		QnUDV *10 QnUDPV *11 LCPU *9
SM390	アクセス実行フラグ	ON にてインテリジェント機能ユニットのアクセス完了	・直前に実行されたインテリジェント機能ユニットアクセス命令の状態が格納される。（再度インテリジェント機能ユニットアクセス命令を実行するとこの情報は上書きされる。） ・ユーザが完了ビットとしてプログラムで使用する。	S（状態変化）		Qn(H) QnPH QnPRH
SM391	GINT 命令実行完了フラグ	OFF：実行していない ON ：実行完了	S(P).GINT 命令の実行状態が格納される。 ・命令実行前に OFF になる。 ・命令完了後に ON になる。	S（命令実行）		Q00/Q01 Qn(H) *1 QnPH QnU *7

＊1 機能バージョン B 以降が対象です。
＊2 シリアル No. の上 5 桁が “09012” 以降のユニットが対象です。
＊3 シリアル No. の上 5 桁が “04122” 以降のユニットが対象です。
＊4 シリアル No. の上 5 桁が “07032” 以降のユニットが対象です。
＊5 Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU，Q02UCPU を除くユニバーサルモデル QCPU が対象です。
＊6 下記のユニットが対象です。
・シリアル No. の上 5 桁が “10012” 以降のユニバーサルモデル QCPU
・Q13UDHCPU，Q26UDHCPU
＊7 Q00UJCPU を除くユニバーサルモデル QCPU が対象です。
＊8 シリアル No. の上 5 桁が “12052” 以降のユニットが対象です。
＊9 シリアル No. の上 5 桁が “15042” 以降のユニットが対象です。
＊10 シリアル No. の上 5 桁が “15043” 以降のユニットが対象です。
＊11 シリアル No. の上 5 桁が “15072” 以降のユニットが対象です。
＊12 シリアル No. の上 5 桁が “15102” 以降のユニットが対象です。

(3) システムクロック／カウンタ

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM400	常時 ON		常時 ON になる。	S（毎回 END）	M9036	QCPU LCPU
SM401	常時 OFF		常時 OFF になる。		M9037	
SM402	RUN 後 1 スキャンのみ ON		• RUN 後，1 スキャンのみ ON になる。 • 本リレーは，スキャン実行タイププログラムでのみ使用可能である。 • 初期実行タイププログラム使用時は，RUN 後 1 スキャン目のスキャン実行タイププログラムの END 処理で OFF になる。 		M9038	Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
			RUN 後，1 スキャンのみ ON になる。		新規	Q00J/Q00/Q01
SM403	RUN 後 1 スキャンのみ OFF		• RUN 後，1 スキャンのみ OFF になる。 • 本リレーは，スキャン実行タイププログラムでのみ使用可能である。 • 初期実行タイププログラム使用時は，RUN 後 1 スキャン目のスキャン実行タイププログラムの END 処理で ON になる。 		M9039	Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
			RUN 後，1 スキャンのみ OFF になる。		新規	Q00J/Q00/Q01
SM404	低速実行タイププログラム RUN 後 1 スキャンのみ ON		• RUN 後，1 スキャンのみ ON になる。 • 本リレーは，低速実行タイププログラムでのみ使用可能である。			Qn(H) QnPH
SM405	低速実行タイププログラム RUN 後 1 スキャンのみ OFF		• RUN 後，1 スキャンのみ OFF になる。 • 本リレーは，低速実行タイププログラムでのみ使用可能である。			
SM409	0.01 秒クロック		• 5ms ごとに ON/OFF が繰り返される。 • CPU ユニットの電源 ON 時またはリセット時は，OFF からスタートになる。（プログラム実行途中でも指定時間になると，ON/OFF 状態が変化するのでご注意ください。）	S（状態変化）		Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
SM410	0.1 秒クロック		• 一定時間ごとに ON/OFF が繰り返される。 • CPU ユニットの電源 ON 時またはリセット時は，OFF からスタートになる。（プログラム実行途中でも指定時間になると，ON/OFF 状態が変化するのでご注意ください。）	S（状態変化）	M9030	QCPU LCPU
SM411	0.2 秒クロック				M9031	

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM412	1 秒クロック		• 一定時間ごとに ON/OFF が繰り返される。 • CPU ユニットの電源 ON 時またはリセット時は，OFF からスタートになる。（プログラム実行途中でも指定時間になると，ON/OFF 状態が変化するのでご注意ください。）	S（状態変化）	M9032	QCPU LCPU
SM413	2 秒クロック				M9033	
SM414	2n 秒クロック		• SD414 で指定の時間（単位：秒）ごとに ON/OFF が繰り返される。（SD414 の値を変更した場合，前回 SM414 の ON/OFF 状態が変化してからの経過時間は継続され，変更した指定時間になると ON/OFF 状態が変化します。） 例：SD414 の値を 3 → 10 に変更した場合  • CPU ユニットの電源 ON 時またはリセット時は，OFF からスタートになる。（プログラム実行途中でも指定時間になると，ON/OFF 状態が変化するのでご注意ください。）		M9034 変形	
SM415	2n(ms) クロック		• SD415 で指定の時間（単位：ms）ごとに ON/OFF が繰り返される。（SD415 の値を変更した場合，前回 SM415 の ON/OFF 状態が変化してからの経過時間は継続され，変更した指定時間になると ON/OFF 状態が変化します。SM415 についても，SM414 と同様の動作になります。） • CPU ユニットの電源 ON 時またはリセット時は，OFF からスタートになる。（プログラム実行途中でも指定時間になると，ON/OFF 状態が変化するのでご注意ください。）		新規	Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
SM420	ユーザタイミングクロック No.0		• 指定スキャン間隔で ON/OFF が繰り返される。 • CPU ユニットの電源 ON 時またはリセット時は，OFF からスタートになる。（ただし，二重化 CPU の場合，系切替え後は，常時 OFF になる。） • DUTY 命令により ON/OFF のスキャン間隔が設定される。  ・n1：ON のスキャン間隔 ・n2：OFF のスキャン間隔	S（毎回 END）	M9020	QCPU LCPU
SM421	ユーザタイミングクロック No.1				M9021	
SM422	ユーザタイミングクロック No.2				M9022	
SM423	ユーザタイミングクロック No.3				M9023	
SM424	ユーザタイミングクロック No.4				M9024	
SM430	ユーザタイミングクロック No.5		SM420 ～ SM424 の低速実行タイププログラム用		新規	Qn(H) QnPH
SM431	ユーザタイミングクロック No.6					
SM432	ユーザタイミングクロック No.7					
SM433	ユーザタイミングクロック No.8					
SM434	ユーザタイミングクロック No.9					

(4) スキャン情報

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM510	低速実行タイププログラム実行フラグ	OFF：完了または未実行 ON ：実行中	低速実行タイププログラムが実行中に ON になる。	S（毎回 END）	新規	Qn(H) QnPH
SM551	ユニットサービス間隔読出	OFF：無処理 ON ：読出	本リレーが OFF → ON に変化したとき SD550 で指定したユニットのサービス間隔を SD551 ～ SD552 に読み出す。	U	新規	Qn(H) QnPH QnPRH

(5) I/O リフレッシュ

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM580	プログラム間 I/O リフレッシュ	OFF：リフレッシュしない ON ：リフレッシュする	本リレーを ON すると，1 つめのプログラム実行後に I/O リフレッシュを行い，次のプログラムを実行する。シーケンスプログラムと SFC プログラムを実行する場合は，シーケンスプログラムを実行後，I/O リフレッシュを行ってから SFC プログラムを実行する。	U	新規	Q00J/Q00/Q01 *1

＊1　機能バージョン B 以降が対象です。

(6) ドライブ情報

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM600	メモリカード使用可フラグ	OFF：使用不可 ON ：使用可能	メモリカードがユーザにて使用可能な状態のときに ON になる。	S（状態変化）	新規	Qn(H) QnPH QnPRH QnU *1 （QnUDV，QnUDPV は除く）
			SD メモリカードがユーザにて使用可能な状態のときに ON になる。（有効な SD メモリカードであれば，SD メモリカード装着後，使用可能な状態となったときに ON になる。）			QnUDV QnUDPV LCPU
SM601	メモリカードプロテクトフラグ	OFF：プロテクトなし ON ：プロテクトあり	メモリカードまたは SD メモリカードのライトプロテクトスイッチが ON のときに ON になる。			Qn(H) QnPH QnPRH QnU *1 LCPU
SM602	ドライブ 1 フラグ	OFF：ドライブ 1 なし ON ：ドライブ 1 あり	装着メモリカードが RAM のときに ON になる。 ただし，QnUDVCPU，QnUDPVCPU は常時 OFF になる。			Qn(H) QnPH QnPRH QnU *1
SM603	ドライブ 2 フラグ	OFF：ドライブ 2 なし ON ：ドライブ 2 あり	装着メモリカードが ROM のときに ON になる。			Qn(H) QnPH QnPRH QnU *1 （QnUDV，QnUDPV は除く）
			SD メモリカードが装着されているときに ON になる。（SD メモリカードの使用可能／使用不可能，種類にかかわらず，SD メモリカードの装着時に ON になる。）			QnUDV QnUDPV LCPU

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM604	メモリカード使用中フラグ	OFF：未使用 ON ：使用中	メモリカードまたは SD メモリカードが使用中のときに ON になる。	S（状態変化）	新規	Qn(H) QnPH QnPRH QnU *1 LCPU
SM605	メモリカード脱着禁止フラグ	OFF：脱着許可 ON ：脱着禁止	メモリカードを脱着不可にする場合に ON になる。	U		Qn(H) QnPH QnPRH QnU *1（QnUDV，QnUDPV は除く）
			• SD メモリカードを脱着不可にする場合に ON になる。 • ON の場合，SM607(SD メモリカード強制使用停止状態フラグ) を ON 後，システムで OFF にする。	U/S		QnUDV QnUDPV
			SD メモリカードを脱着不可にする場合に ON になる。（使用可能な SD メモリカード装着後，SD メモリカード使用停止スイッチ操作で使用可能な状態となったときに ON になる。また，“ICM.OPE.ERROR” 発生時は ON にならない。）	S（状態変化）		LCPU
SM606	SD メモリカード強制使用停止指示	OFF：SD メモリカード強制使用停止解除指示 ON ：SD メモリカード強制使用停止指示	• ONでSDメモリカードの強制使用停止指示を行う。ただし，SD メモリカードへアクセスしている機能があった場合，アクセス完了まで停止処理を待つ。 • OFF で SD メモリカードの強制使用停止状態の解除指示を行う。	U		QnUDV QnUDPV LCPU
SM607	SD メモリカード強制使用停止状態フラグ	OFF：SD メモリカード強制使用停止指示による使用停止中でない ON ：SD メモリカード強制使用停止指示による使用停止中	• SM606（SD メモリカード強制使用停止指示）ON により，SD メモリカードの使用を停止したときに ON になる。 • SM606（SD メモリカード強制使用停止指示）OFF により，SD メモリカードの強制使用停止が解除されたときに OFF となる。	S（状態変化）		
SM609	メモリカード着脱許可フラグ	OFF：脱着不可 ON ：脱着許可	• メモリカードを脱着許可にする場合にユーザが ON する。 • メモリカード抜き取り後にシステムで OFF する。 • 本リレーは，SM604，SM605 が OFF のときのみ使用可能である。	S/U		Qn(H) QnPH QnPRH QnU *1
SM620	ドライブ 3/4 使用可フラグ	OFF：使用不可 ON ：使用可	常時 ON になる。	S（初期）		QCPU LCPU
SM621	ドライブ 3/4 プロテクトフラグ	OFF：プロテクトなし ON ：プロテクトあり	常時 OFF になる。			
SM622	ドライブ 3 フラグ	OFF：ドライブ 3 なし ON ：ドライブ 3 あり	常時 ON になる。			Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU *2 LCPU
SM623	ドライブ 4 フラグ	OFF：ドライブ 4 なし ON ：ドライブ 4 あり	常時 ON になる。			QCPU LCPU

番号	名称	内容	内容詳細	セット側 （セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM624	ドライブ 3，4 使用中フラグ	OFF：未使用 ON ：使用中	ドライブ 3（標準 RAM），ドライブ 4（標準 ROM）上に存在するファイルを使用している場合に ON になる。	S（状態変化）	新規	Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
SM626	拡張 SRAM カセット装着フラグ	OFF：拡張 SRAM カセット装着なし ON ：拡張 SRAM カセット装着あり	拡張 SRAM カセットが装着されていると ON になる。			QnUDV QnUDPV
SM634	プロジェクトの一括セーブ完了フラグ	OFF：プロジェクトの一括セーブ未完了 ON ：プロジェクトの一括セーブ完了	プロジェクトの一括セーブ完了時に ON する。			LCPU * 4
SM636	プロジェクトの一括ロード完了フラグ	OFF：プロジェクトの一括ロード未完了 ON ：プロジェクトの一括ロード完了	プロジェクトの一括ロード完了時に ON する。			LCPU * 4
SM638	ディレクトリ一括削除フラグ	ON ：一括削除実行中 OFF：一括削除未実行	ディレクトリ一括削除に対して削除処理実施中に ON し，削除処理終了で OFF になる。	S（書込み時）		QnUDV QnUDPV
SM640	ファイルレジスタ使用	OFF：ファイルレジスタ未使用 ON ：ファイルレジスタ使用中	ファイルレジスタ使用中に ON になる。	S（状態変化）		Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU * 2 LCPU
SM650	コメント使用	OFF：コメント未使用 ON ：コメント使用中	コメントファイル使用中に ON になる。	S（状態変化）		Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
SM660	ブート運転	OFF：内蔵メモリ実行 ON ：ブート運転中	• ブート運転中に ON になる。 • ブート指定スイッチが OFF すれば，OFF になる。			Qn(H) QnPH QnPRH
		OFF：プログラムメモリ実行 ON ：ブート運転中	ブート運転中に ON になる。			Q00J/Q00/Q01 QnU * 3 LCPU
SM671	標準 ROM へのラッチデータバックアップ完了フラグ	OFF：未完了 ON ：完了	• 標準 ROM へのラッチデータバックアップ完了で ON になる。 • 標準 ROM へのラッチデータバックアップを行った時刻が SD672 以降に格納される。			QnU LCPU
SM672	メモリカードファイルレジスタアクセス範囲フラグ	OFF：アクセス範囲内 ON ：アクセス範囲外	• メモリカードのファイルレジスタの範囲外をアクセスすると ON になる。（END 処理内でセットされる。） • プログラムでリセットする。	S/U		Qn(H) QnPH QnPRH

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM675	標準 ROM へのラッチデータバックアップ異常完了	OFF：エラーなし ON ：エラーあり	• 標準 ROM へのラッチデータバックアップ実行時，バックアップが正常完了できなかったときに ON になる。 • 標準 ROM へのラッチデータバックアップが正常完了したときに OFF になる。	S	新規	QnU LCPU
SM676	リストア繰返し実行指定	OFF：指定なし ON ：指定あり	• 本リレーが ON の状態でラッチデータバックアップを実行した場合，次の電源 OFF → ON 以降毎回リストアを行う。 • ラッチデータのバックアップデータを削除するか，または再度ラッチデータバックアップ操作を行うまで，電源 OFF → ON ごとにリストアする。	U		
SM680	プログラムメモリ書込み異常	ON ：書込み異常 OFF：書込み未実行／正常	プログラムメモリ（フラッシュ ROM）への書込み時，書込みエラー検出で ON になる。書込み指示があった時点で OFF になる。	S（書込み時）		
SM681	プログラムメモリ書込み中フラグ	ON ：書込み実行中 OFF：書込み未実行	プログラムメモリ（フラッシュ ROM）に対して書込み処理実施中に ON し，書込み終了で OFF になる。			
SM682	プログラムメモリ書換え回数異常フラグ	ON ：書換え回数 10 万回到達 OFF：書換え回数 10 万回未満	プログラムメモリ（フラッシュ ROM）の書換え回数が 10 万回到達で ON になる。（CPU ユニットの交換が必要。）			
SM685	標準 ROM 書込み異常	ON ：書込み異常 OFF：書込み未実行／正常	標準 ROM（フラッシュ ROM）への書込み時，書込みエラー検出で ON になる。書込み指示があった時点で OFF になる。			
SM686	標準 ROM 書込み中フラグ	ON ：書込み実行中 OFF：書込み未実行	標準 ROM（フラッシュ ROM）に対して書込み処理実施中に ON し，書込み終了で OFF になる。			
SM687	標準 ROM 書換え回数異常フラグ	ON ：書換え回数 10 万回到達 OFF：書換え回数 10 万回未満	標準 ROM（フラッシュ ROM）の書換え回数が 10 万回到達で ON になる。（CPU ユニットの交換が必要。）			
SM691	バックアップ開始準備状態フラグ	OFF：バックアップ開始準備未完了 ON ：バックアップ開始準備完了	バックアップ開始準備完了時に ON になる。	S（状態変化）		QnU ＊1 LCPU
SM692	リストア完了フラグ	OFF：リストア未完了 ON ：リストア完了	メモリカードまたは SD メモリカード内のバックアップデータのリストア完了時に ON になる。			

＊1　シリアル No. の上 5 桁が “10102” 以降のユニットが対象です。（ただし，Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU は除きます。）
＊2　Q00UJCPU を除くユニバーサルモデル QCPU が対象です。
＊3　Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU を除くユニバーサルモデル QCPU が対象です。
＊4　シリアル No. の上 5 桁が “14042” 以降のユニットが対象です。

(7) 命令関連

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM700	キャリフラグ	OFF：キャリ OFF ON ：キャリ ON	応用命令中に使用されるキャリフラグ。	S（命令実行時）	M9012	QCPU LCPU
SM701	出力文字数切換	OFF：NULL までの出力 ON ：16 文字分出力	PR，PRC，BINDA，DBINDA，BINHA，DBINHA，BCDDA，DBCDDA，COMRD 命令で使用する。	U	M9049	Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
SM702	サーチ方法	OFF：逐次探索 ON ：2 分探索	• サーチ命令での，探索方法を指定する。 • 2 分探索時は，データが整列されている必要がある。		新規	QCPU LCPU
SM703	ソート順	OFF：昇順 ON ：降順	ソート命令でデータの並べ方を昇順にするか降順にするかを指定する。			
SM704	ブロック比較	OFF：不一致あり ON ：全一致	BKCMP 命令で全データ条件成立時に ON になる。	S（命令実行時）		
			DBKCMP 命令で全データ条件成立時に ON になる。			QnU * 2 LCPU
SM709	DT，TM 命令不正データ検出フラグ	OFF：不正データなし ON ：不正データあり	DT，TM 命令で比較対象となるデータが日付データまたは時計データとして認識できない場合，または比較対象となるデバイス（3 ワード）が指定デバイス範囲を超えている場合に ON になる。	S（命令実行時）/U		
SM710	CHK 命令優先順位フラグ	OFF：条件優先 ON ：パターン優先	• OFF で従来どおり。 • ON では CHK の優先順位が変更される。	S（命令実行時）		Qn(H) QnPH QnPRH
SM715	EI フラグ	OFF：DI 中 ON ：EI 中	EI 命令実行時に ON になる。			QCPU LCPU
SM716	ブロック比較（割込みプログラム以外）	OFF：不一致あり ON ：不一致なし	DBKCMP 命令で全データ条件一致時に ON になる。（初期実行タイプ／スキャン実行タイププログラムまたは初期実行タイプ／スキャン実行タイププログラムから実行された待機タイププログラム）			QnU * 2 LCPU
SM717	ブロック比較（割込みプログラム）	OFF：不一致あり ON ：不一致なし	DBKCMP 命令で全データ条件一致時に ON になる。（割込み／定周期実行タイププログラムまたは割込み／定周期実行タイププログラムから実行された待機タイププログラム）			
SM718	ブロック比較（割込みプログラム（I45））	OFF：不一致あり ON ：不一致なし	DBKCMP 命令で全データ条件一致時に ON になる。（割込みプログラム（I45）または割込みプログラム（I45）から実行された待機タイププログラム）			QnU * 3
SM719	SMOV 命令 BIN → BCD 変換	OFF：変換あり ON ：変換なし	SMOV 命令で BIN データから BCD データへの変換無しで桁移動を行う場合 ON する。	U		QnUDV * 16 QnUDPV * 16 LCPU * 15
SM720	コメント読出し完了フラグ	OFF：コメント読出し未完了 ON ：コメント読出し完了	COMRD, PRC 命令の処理が完了したとき 1 スキャンのみ ON になる。	S（状態変化）		Qn(H) QnPH
			COMRD 命令の処理が完了したとき 1 スキャンのみ ON になる。			QnPRH QnU LCPU

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応ACPU M9□□□	対応CPU
SM721	ファイルアクセス中	OFF：ファイルアクセス中以外 ON ：ファイルアクセス中	SP. FWRITE, SP. FREAD, COMRD, PRC, LEDC 命令において，ファイルへのアクセス中に ON になる。	S（状態変化）	新規	Qn(H) QnPH
			SP. FWRITE，SP. FREAD，COMRD，LEDC 命令において，ファイルへのアクセス中に ON になる。			Qn(H) QnPH QnPRH
			SP. FWRITE，SP. FREAD，COMRD，SP.DEVST 命令において，ファイルへのアクセス中に ON になる。			QnU
			• SP. FWRITE，SP. FREAD，COMRD，SP.DEVST 命令において，ファイルへのアクセス中に ON になる。 • SDメモリカードおよび標準ROMへのアクセス時に ON になる。 • S(P).SFCSCOMR，S(P).SFCTCOMR 命令実行中に ON になる。			QnUDV QnUDPV LCPU
			ATA カードおよび標準 ROM へのアクセス時に ON になる。			QnU *4
			S(P).SFCSCOMR，S(P).SFCTCOMR 命令実行中に ON になる。			QnU *11
SM722	BIN，DBIN 命令エラー不可フラグ	OFF：エラー検出する ON ：エラー検出しない	BIN，DBIN 命令で “OPERATION ERROR” を出したくない場合に ON する。	U		QCPU LCPU
SM734	XCALL 命令実行条件指定	OFF：実行条件の立上りで実行しない ON ：実行条件の立上りで実行	• OFF 時は実行条件の立上り時に XCALL 命令を実行しない。 • ON時は実行条件の立上り時にXCALL命令を実行する。			Qn(H) *4
SM735	SFC コメント読出し命令実行中フラグ	OFF：命令非実行 ON ：命令実行中	SFC ステップコメント読出し命令 (S(P).SFCSCOMR)，SFC 移行条件コメント読出し命令 (S(P).SFCTCOMR) 実行中に ON になる。	S（命令実行時／END 処理時）		Qn(H) *5 QnPH *6 QnPRH *6 QnU *11 L06/L26/L26 CPU-BT *14
SM738	MSG 命令受付フラグ	OFF：命令未実行 ON ：命令実行	MSG 命令を実行したときに ON になる。	S（命令実行時）		Qn(H) QnPRH
SM739	リフレッシュデバイス書込み／読出し命令実行中フラグ	OFF：命令未実行 ON ：命令実行中	リフレッシュデバイス書込み／読出し命令 (S(P).REFDVWRB，S(P).REFDVWRW，S(P).REFDVRDB，S(P).REFDVRDW) 実行中に ON になる。END 処理時に命令が完了していれば OFF する。	S（命令実行時／END 処理時）		QnU *13 LCPU *12
SM740	表示ユニット使用可能フラグ	OFF：使用不可 ON ：使用可能	表示ユニットが使用可能な場合に ON になる。	S（初期／状態変化）		LCPU
SM750	スケーリング命令探索方法設定	OFF：逐次探索 ON ：二分探索	スケーリング命令実行時の探索方法を決定する。	U		QnU *2 LCPU
SM774	PID バンプレス処理（完全微分用）	OFF：一致させる ON ：一致させない	手動モード時，設定値 (SV) を測定値 (PV) に一致させるかどうかを指定する。			Q00J/Q00/Q01 *1 Qn(H) QnPRH QnU LCPU
SM775	COM/CCOM 命令実行時リフレッシュ処理選択	OFF：リンクリフレッシュする ON ：リンクリフレッシュしない	COM 命令実行時に CPU ユニットとの交信だけ行う場合，リンクリフレッシュ処理をするか，しないかを選択する。			Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH
		OFF：I/O リフレッシュ以外のリフレッシュ処理を実行する ON ：SD778 で設定リフレッシュを行う	COM，CCOM 命令実行時に I/O リフレッシュ以外のリフレッシュを行うか，SD778 で設定したリフレッシュ処理を行うかを選択する。			Q00J/Q00/Q01 *1 Qn(H) *7 QnPH *4 QnPRH QnU LCPU

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応ACPU M9□□□	対応 CPU
SM776	CALL 時におけるローカルデバイスの可／不可設定	OFF：ローカルデバイス不可 ON ：ローカルデバイス可	CALL 命令実行時にコールしたサブルーチンプログラムのローカルデバイスの有効／無効を設定する。	U	新規	Qn(H) QnPH QnPRH QnU *10 LCPU
SM777	割込みプログラムにおけるローカルデバイスの可／不可設定	OFF：ローカルデバイス不可 ON ：ローカルデバイス可	割込みプログラム実行時におけるローカルデバイスの有効／無効を設定する。			
SM794	PID バンプレス処理（不完全微分用）	OFF：一致させる ON ：一致させない	手動モード時，設定値（SV）を測定値（PV）に一致させるかどうかを指定する。			Q00J/Q00/Q01 *1 Qn(H) *8 QnPRH QnU LCPU
SM796	マルチ CPU 間高速通信専用命令使用ブロック情報（1 号機用）	OFF：ブロック確保 ON ：SD796 で設定された分確保できていない	マルチ CPU 間高速通信専用命令（対象号機＝1 号機）で使用する専用命令伝送エリアの残りブロック数が，SD796 で指定したブロック数未満になったら ON になる。命令実行時に ON，END 処理時，エリアにアキがあれば OFF になる。	S（命令実行時／END 処理時）		QnU *9
SM797	マルチ CPU 間高速通信専用命令使用ブロック情報（2 号機用）	OFF：ブロック確保 ON ：SD797 で設定された分確保できていない	マルチ CPU 間高速通信専用命令（対象号機＝2 号機）で使用する専用命令伝送エリアの残りブロック数が，SD797 で指定したブロック数未満になったら ON になる。命令実行時に ON，END 処理時，エリアにアキがあれば OFF になる。			
SM798	マルチ CPU 間高速通信専用命令使用ブロック情報（3 号機用）	OFF：ブロック確保 ON ：SD798 で設定された分確保できていない	マルチ CPU 間高速通信専用命令（対象号機＝3 号機）で使用する専用命令伝送エリアの残りブロック数が，SD798 で指定したブロック数未満になったら ON になる。命令実行時に ON，END 処理時，エリアにアキがあれば OFF になる。			
SM799	マルチ CPU 間高速通信専用命令使用ブロック情報（4 号機用）	OFF：ブロック確保 ON ：SD799 で設定された分確保できていない	マルチ CPU 間高速通信専用命令（対象号機＝4 号機）で使用する専用命令伝送エリアの残りブロック数が，SD799 で指定したブロック数未満になったら ON になる。命令実行時に ON，END 処理時，エリアにアキがあれば OFF になる。			

＊1　機能バージョン B 以降が対象です。
＊2　下記のユニットが対象です。
・シリアル No. の上 5 桁が “10102” 以降のユニバーサルモデル QCPU
・Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU
＊3　下記のユニットが対象です。
・シリアル No. の上 5 桁が “10102” 以降のユニバーサルモデル QCPU
・Q00UCPU，Q01UCPU
＊4　シリアル No. の上 5 桁が “07032” 以降のユニットが対象です。
＊5　シリアル No. の上 5 桁が “06082” 以降のユニットが対象です。
＊6　シリアル No. の上 5 桁が “07012” 以降のユニットが対象です。
＊7　シリアル No. の上 5 桁が “04012” 以降のユニットが対象です。
＊8　シリアル No. の上 5 桁が “05032” 以降のユニットが対象です。
＊9　Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU，Q02UCPU を除くユニバーサルモデル QCPU が対象です。
＊10 Q00UJCPU を除くユニバーサルモデル QCPU が対象です。
＊11 シリアル No. の上 5 桁が “12052” 以降のユニットが対象です。
＊12 シリアル No. の上 5 桁が “14072” 以降のユニットが対象です。
＊13 Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU，Q02UCPU を除く，下記のユニットが対象です。
・ユニバーサルモデル高速タイプ QCPU およびユニバーサルモデルプロセス CPU を除くシリアル No. の上 5 桁が “14072” 以降のユニット
・シリアル No. の上 5 桁が “16043” 以降のユニバーサルモデル高速タイプ QCPU およびユニバーサルモデルプロセス CPU
＊14 シリアル No. の上 5 桁が “15102” 以降のユニットが対象です。
＊15 シリアル No. の上 5 桁が “16042” 以降のユニットが対象です。
＊16 シリアル No. の上 5 桁が “16043” 以降のユニットが対象です。

(8) デバッグ

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM800	トレース準備	OFF：未準備 ON ：準備完了	トレースの準備完了で ON になる。	S（状態変化）	新規	Qn(H) QnPH QnPRH QnU *1 LCPU
SM801	トレース開始	OFF：中止 ON ：開始	• RUN 中に ON するとトレース開始になる。 • OFF すると中止になる。（関連する特殊リレーをすべて OFF する。）	S（状態変化） /U	M9047	
SM802	トレース実行中	OFF：中止 ON ：開始	トレース実行中で ON になる。	S（状態変化）	M9046	
SM803	トレーストリガ	OFF→ ON：トリガ 発生	• 指定したトリガ条件が成立したときに，システムが ON する。 • ユーザ操作によってトリガ条件を成立させる場合にユーザが ON する。	S（状態変化） /U	新規	
SM804	トレーストリガ後	OFF：トリガ後でない ON ：トリガ後である	トレーストリガ後で ON になる。	S（状態変化）		
SM805	トレース完了	OFF：未完了 ON ：完了	トレース完了で ON になる。		M9043	
SM826	トレースエラー	OFF：正常 ON ：エラー	トレース実行中にエラーが発生すると ON になる。		新規	
SM829	トレース設定の強制登録指定	ON ：強制登録有効 OFF：強制登録無効	本リレーを ON して，プログラミングツールからサンプリングトレース設定を登録することにより，トリガ条件が成立している状態でも，サンプリングトレース設定を CPU ユニットへ登録できる。	U		QnU *1 LCPU
SM830	リアルタイムモニタ実行中	ON ：実行中でない OFF：実行中である	リアルタイムモニタ実行中に ON になる。	S（状態変化）		LCPU *2
SM841	オートロギング	OFF：オートロギング非実行 ON ：オートロギング実行中	オートロギング実行中に ON になる。 オートロギング完了後，SD メモリカード使用停止スイッチを 1 秒以上押し，SD メモリカードへのアクセスを停止させたときに OFF になる。	S（状態変化）		QnUDV
			オートロギング実行中に ON になる。 オートロギング完了後，SD メモリカード使用停止スイッチを上方向にスライドして，SD メモリカードへのアクセスを停止させたときに OFF になる。			LCPU

＊1 Q00UJCPU を除くユニバーサルモデル QCPU が対象です。
＊2 L02SCPU，L02SCPU-P を除くシリアル No. の上 5 桁が “16072” 以降のユニットが対象です。

(9) A → Q/L 変換対応

ACPU の特殊リレー（M9000 ～ M9255）が A → Q/L 変換で変換したときに対応するのは，SM1000 ～ SM1255 です。（ただし，ベーシックモデル QCPU，二重化 CPU は，A → Q/L 変換には対応していません。）これらは，すべてシステム側がセットします。ユーザがプログラムで ON/OFF できません。ユーザ側で ON/OFF するには，プログラムを QCPU/LCPU 用の特殊リレーに修正してください。ただし，SM1084，SM1200 ～ SM1255 については，変換前の M9084，M9200 ～ M9255 の中でユーザ側で ON/OFF できる特殊リレーのみ，変換後の SM1084，SM1200 ～ SM1255 でもユーザ側で ON/OFF できます。ACPU の特殊リレーの内容詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

各 CPU ユニットのユーザーズマニュアル
MELSECNET，MELSECNET/B データリンクシステムリファレンスマニュアル

Point

ハイパフォーマンスモデル QCPU，プロセス CPU，ユニバーサルモデル QCPU，または LCPU で変換後の特殊リレーを使用する場合は，“A シリーズ CPU 互換設定 ” のチェックを入れてください。

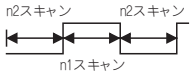
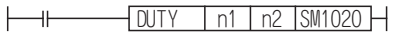
プロジェクトウィンドウ⇨[パラメータ]⇨[PC パラメータ]⇨[PC システム設定]

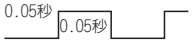
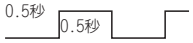
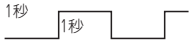
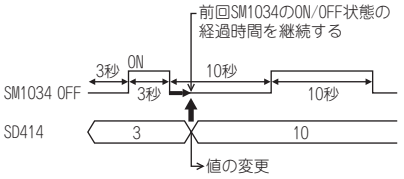
ただし，変換後の特殊リレーを使用すると処理時間がかかります。

[下表の見方]

- 修正用の特殊リレーが記述されているデバイス番号は，記述されている QCPU/LCPU 用の特殊リレーに修正してください。
- ㊀が記述されているデバイス番号は，変換後の特殊リレーを使用できます。
- ☒が記述されているデバイス番号は，QCPU/LCPU では機能しません。

ACPU の特殊リレー	変換後の特殊リレー	修正用の特殊リレー	名称	内容	内容詳細	対応 CPU
M9000	SM1000	-	ヒューズ断	OFF：正常 ON ：ヒューズ断ユニットあり	• ヒューズ断状態になっている出力ユニットが 1 ユニットでもあれば ON になる。 • 以後，正常になっても ON のまま保持される。 • ヒューズ断状態はリモート I/O 局の出力ユニットに対してもチェックされる。	Qn(H) QnPH QnU *1
M9002	SM1002	-	入出力ユニット照合エラー	OFF：正常 ON ：エラーあり	• 入出力ユニットが電源ON時に登録された状態と異なれば ON になる。 • 以後，正常になっても ON のまま保持される。 • 入出力ユニット照合は，リモート I/O 局のユニットに対してもチェックされる。 • SD1116 ～ SD1123 をリセットしたときのみリセットされる。	Qn(H) QnPH QnU *1 LCPU
M9005	SM1005	-	AC DOWN 検出	OFF：AC DOWN なし ON ：AC DOWN あり	• AC 電源ユニット使用時に 20ms 以内の瞬停があった場合に ON になる。 • 電源 OFF → ON でリセットされる。	Qn(H) QnPH QnU *1
					• AC 電源ユニット使用時に 10ms 以内の瞬停があった場合に ON になる。 • 電源 OFF → ON でリセットされる。	LCPU
					• DC 電源ユニット使用時に 10ms 以内の瞬停があった場合に ON になる。 • 電源 OFF → ON でリセットされる。	Qn(H) QnPH QnU *1 LCPU
M9006	SM1006	-	バッテリ低下	OFF：正常 ON ：バッテリ低下	• バッテリ電圧が規定以下に低下すると ON になる。 • 以後，バッテリ電圧が正常になると OFF になる。	

ACPU の特殊リレー	変換後の特殊リレー	修正用の特殊リレー	名称	内容	内容詳細	対応 CPU
M9007	SM1007	-	バッテリ低下ラッチ	OFF：正常 ON ：バッテリ低下	• バッテリ電圧が規定以下に低下すると ON になる。 • 以後, バッテリ電圧が正常になっても ON のまま保持される。	Qn(H) QnPH QnU *1 LCPU
M9008	SM1008	SM1	自己診断エラー	OFF：エラーなし ON ：エラーあり	自己診断の結果エラーが生じれば ON になる。	
M9009	SM1009	SM62	アナンシェータ検出	OFF：検出なし ON ：検出あり	• OUT F，SET F の命令が実行されると ON になる。 • SD1124 の内容が 0 になると OFF になる。	
M9011	SM1011	SM56	演算エラーフラグ	OFF：エラーなし ON ：エラーあり	• 応用命令実行中に演算エラーを生じたときにONになる。 • 以後，正常になっても ON のまま保持される。	Qn(H) QnPH QnU *1 （QnUDPV は除く）
M9012	SM1012	SM700	キャリフラグ	OFF：キャリ OFF ON ：キャリ ON	応用命令中に使用されるキャリフラグ。	Qn(H) QnPH
M9016	SM1016	×	データメモリクリアフラグ	OFF：無処理 ON ：出力クリア	SM1016 が ON のとき計算機などからのリモート RUN 時にラッチ範囲も含めたすべてのデータメモリ（特殊リレー・特殊レジスタは除く）をすべてクリアされる。	
M9017	SM1017	×	データメモリクリアフラグ	OFF：無処理 ON ：出力クリア	SM1017 が ON のとき計算機などからのリモート RUN 時にラッチされていないデータメモリ（特殊リレー・特殊レジスタは除く）をすべてクリアされる。	
M9020	SM1020	-	ユーザタイミングクロック No. 0		• 指定スキャン間隔で ON/OFF が繰り返される。 • 電源 ON 時またはリセット時に OFF からスタートになる。DUTY 命令により ON/OFF の間隔を設定する。  · n1：ON のスキャン間隔 · n2：OFF のスキャン間隔 ハイパフォーマンスモデル QCPU またはプロセス CPU のプログラムで，ユーザ用タイミングクロックに SM1020 ～ SM1024 を指定した DUTY 命令は，ユニバーサルモデル QCPU，LCPU に PC タイプ変更した場合には，SM420 ～ SM424 に置き換わる。（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU では SM1020 ～ SM1024 を指定できない。）	Qn(H) QnPH QnU *1 LCPU
M9021	SM1021	-	ユーザタイミングクロック No. 1			
M9022	SM1022	-	ユーザタイミングクロック No. 2			
M9023	SM1023	-	ユーザタイミングクロック No. 3			
M9024	SM1024	-	ユーザタイミングクロック No. 4			
M9025	SM1025	-	時計データセット要求	OFF：無処理 ON ：セット要求あり	SM1025 が OFF → ON に変化したスキャンの END 命令実行後に SD1025 ～ SD1028 に格納されている時計データを CPU ユニットに書き込む。	
M9026	SM1026	-	時計データエラー	OFF：エラーなし ON ：エラーあり	時計データ（SD1025 ～ SD1028）の値にエラーを生じたときに ON，エラーがなければ OFF になる。	
M9028	SM1028	-	時計データ読出し要求	OFF：無処理 ON ：読出し要求	SM1028 が ON のときに時計のデータを BCD 値で SD1025 ～ SD1028 に読み出す。	
M9029	SM1029	×	データ交信要求一括処理	OFF：一括処理を行わない ON ：一括処理を行う	• SM1029 をプログラムで ON すると, 1 スキャンの間に受け付けたデータ交信要求をそのスキャンの END 処理ですべて処理する。 • データ交信要求一括処理は，RUN 中に ON/OFF 変更可能。 • デフォルトは OFF（データ交信要求を受け付けた順序に従って END 処理ごとに 1 要求ずつ処理する。）	Qn(H) QnPH

ACPU の特殊リレー	変換後の特殊リレー	修正用の特殊リレー	名称	内容	内容詳細	対応 CPU
M9030	SM1030	-	0.1 秒クロック		• 0.1 秒，0.2 秒，1 秒，2 秒の各クロックを発生させる。 • スキャンごとに ON/OFF するのではなく，スキャン中でも該当時間経過すれば ON/OFF になる。 • 電源 ON 時またはリセット時は OFF からスタートになる。	Qn(H) QnPH QnU *1 LCPU
M9031	SM1031	-	0.2 秒クロック			
M9032	SM1032	-	1 秒クロック			
M9033	SM1033	-	2 秒クロック			
M9034	SM1034	-	2n 秒クロック（1 分クロック）*2		• SD414で指定の秒数に従ってON/OFFが繰り返される。（デフォルト：n = 30）（SD414 の値を変更した場合，前回 SM1034 の ON/OFF 状態が変化してからの経過時間は継続され，変更した指定時間になると ON/OFF 状態が変化します。） 例：SD414 の値を 3 → 10 に変更した場合  • スキャンごとに ON/OFF するのではなくスキャン中でも該当時間経過すれば ON/OFF になる。 • 電源 ON 時またはリセット時は OFF からスタートになる。	
M9036	SM1036	-	常時 ON		• プログラム中で初期化や応用命令のダミー接点として用いるためのもの。 • SM1036, SM1037 は CPU ユニット前面のキースイッチの状態に関係なく ON/OFF し，SM1038，SM1039 はキースイッチの状態により変化する。キースイッチが STOP の場合，OFF になる。キースイッチが STOP 以外の場合 SM1038 は 1 スキャンのみ ON，SM1039 は 1 スキャンのみ OFF になる。	
M9037	SM1037	-	常時 OFF			
M9038	SM1038	-	RUN 後 1 スキャンのみ ON			
M9039	SM1039	-	RUN フラグ（RUN 後 1 スキャンのみ OFF）			
M9040	SM1040	SM206	PAUSE 許可コイル	OFF：PAUSE 禁止 ON ：PAUSE 可	CPU 動作状態が PAUSE 状態のとき，または PAUSE 接点が ON したとき，ON する。	Qn(H) QnPH
M9041	SM1041	SM204	PAUSE 状態接点	OFF：PAUSE 中でない ON ：PAUSE 中である		Qn(H) QnPH QnU *1 LCPU
M9042	SM1042	SM203	ストップ状態接点	OFF：ストップ中でない ON ：ストップ中である	RUN キースイッチまたは RUN/STOP スイッチが STOP のときに ON になる。	
M9043	SM1043	SM805	サンプリングトレース完了	OFF：サンプリングトレース中 ON ：サンプリングトレース完了	TRACE 命令実行後パラメータで設定された回数分のサンプリングトレース完了で ON になる。その後 TRACER 命令実行によりリセットされる。	

ACPU の特殊リレー	変換後の特殊リレー	修正用の特殊リレー	名称	内容	内容詳細	対応 CPU
M9045	SM1045	×	ウォッチドッグタイマ（WDT）のリセット	OFF：WDT をリセットしない。 ON ：WDT をリセットする。	SM1045 を ON すると，ZCOM 命令およびデータ交信要求一括処理を実行時にウォッチドッグタイマのリセットを行う。（スキャンタイムが 200ms を超える場合に使用する。）	Qn(H) QnPH
M9046	SM1046	SM802	サンプリングトレース	OFF：トレース中以外 ON ：トレース中	サンプリングトレース実行中に ON になる。	Qn(H) QnPH QnU *1 LCPU
M9047	SM1047	SM801	サンプリングトレース準備	OFF：サンプリングトレース中止 ON ：サンプリングトレース開始	サンプリングトレースを実行する場合は SM1047 を ON させないと実行しない。SM1047 が OFF でサンプリングトレース中止になる。	Qn(H) QnPH
M9049	SM1049	SM701	出力文字数切換	OFF：NULL コードまで出力 ON ：16 文字分出力	• SM1049 が OFF 時，NULL（00_H）コードまでが出力される。 • SM1049 が ON 時，16 文字分のアスキーコードが出力される。	
M9051	SM1051	×	CHG 命令実行禁止	OFF：可能 ON ：禁止	• CHG 命令の実行を禁止する場合は ON にする。 • プログラム転送要求時 ON させ，転送完了で自動的に OFF になる。	
M9052	SM1052	×	SEG 命令切換	OFF：7SEG 表示 ON ：I/O 部分リフレッシュ	SM1052 が ON 時，I/O 部分リフレッシュ命令として実行される。SM1052 が OFF 時，7SEG 表示命令として実行される。	
M9056	SM1056	×	メイン側 P,I セット要求	OFF：P,I セット要求中以外 ON ：P,I セット要求中	RUN 中に他のプログラム（例えばメインプログラムが RUN 中のときのサブプログラムを示す）の転送完了で P,I セット要求が ON になる。P,I セット完了で自動的に OFF になる。	
M9057	SM1057	×	サブ（1）側 P,I セット要求	OFF：P,I セット要求中以外 ON ：P,I セット要求中		
M9058	SM1058	×	メイン側 P,I セット要求	P,I セット完了にて一瞬 ON	P,I セット完了で一瞬 ON し，すぐに OFF になる。	
M9059	SM1059	×	サブ側 P,I セット要求	P,I セット完了にて一瞬 ON		
M9060	SM1060	×	サブ 2 側 P,I セット要求	OFF：P,I セット要求中以外 ON ：P,I セット要求中	RUN 中に他のプログラム（例えばメインプログラムが RUN 中のときのサブプログラムを示す）の転送完了で P,I セット要求が ON になる。P,I セット完了で自動的に OFF になる。	
M9061	SM1061	×	サブ 3 側 P,I セット要求	OFF：P,I セット要求中以外 ON ：P,I セット要求中		
M9070	SM1070	×	A8UPU/A8PUJ *3 のサーチ所要時間	OFF：読出し時間の短縮なし ON ：読出し時間の短縮	ON すると，A8UPU/A8PUJ でのサーチ所要時間を短縮できる。（この場合スキャンタイムが 10% 延びる。）	
M9084	SM1084	×	エラーチェック	OFF：エラーチェックあり ON ：エラーチェックなし	END 命令処理時に下記に示すエラーチェックを行うかどうかを設定する。（END 命令処理時間設定のため） • ヒューズ断チェック • バッテリチェック • 入出力ユニット照合チェック	
M9091	SM1091	×	演算エラー詳細フラグ	OFF：エラーなし ON ：エラーあり	• 演算エラーの詳細要因が SD1091 に格納された場合に ON になる。 • 以後，正常になっても ON のまま保持される。	
M9100	SM1100	SM320	SFC プログラムの有無	OFF：SFC プログラムなし ON ：SFC プログラムあり	SFC プログラムが登録されていれば ON し，登録されていなければ OFF になる。	
M9101	SM1101	SM321	SFC プログラムの起動／停止	OFF：SFC プログラム停止 ON ：SFC プログラム起動	• SM1100 と同じ値が初期値にセットされる。（SFC プログラムありで自動的に ON になる。） • 本リレーの ON→OFF で SFC プログラムの実行を停止する。 • 本リレーの OFF→ON で SFC プログラムの実行を再開する。	
M9102	SM1102	SM322	SFC プログラムの起動状態	OFF：イニシャルスタート ON ：続行スタート	PC パラメータの SFC 設定の “SFC プログラム起動モード” が初期値にセットされる。 • イニシャルスタートのとき：OFF • 続行スタートのとき：ON	

ACPU の特殊リレー	変換後の特殊リレー	修正用の特殊リレー	名称	内容	内容詳細	対応 CPU
M9103	SM1103	SM323	連続移行の有無	OFF：連続移行なし ON ：連続移行あり	SFC 用情報デバイスの連続移行ビットが設定されていないブロックについて，連続移行の有無を設定する。	Qn(H) QnPH
M9104	SM1104	SM324	連続移行阻止フラグ	OFF：移行実行時 ON ：未移行時	・連続移行ありモードで動作中または連続移行中のとき OFF，連続移行ではないとき ON になる。 ・連続移行なしモードで動作中は常時 ON になる。	
M9108	SM1108	SM90	ステップ移行監視タイマ起動（SD90 に対応）	OFF：監視タイマリセット ON ：監視タイマリセット起動	ステップ移行監視タイマの計測を開始する場合に ON になる。OFF するとステップ移行監視タイマがリセットされる。	
M9109	SM1109	SM91	ステップ移行監視タイマ起動（SD91 に対応）			
M9110	SM1110	SM92	ステップ移行監視タイマ起動（SD92 に対応）			
M9111	SM1111	SM93	ステップ移行監視タイマ起動（SD93 に対応）			
M9112	SM1112	SM94	ステップ移行監視タイマ起動（SD94 に対応）			
M9113	SM1113	SM95	ステップ移行監視タイマ起動（SD95 に対応）			
M9114	SM1114	SM96	ステップ移行監視タイマ起動（SD96 に対応）			
M9196	SM1196	SM325	ブロック停止時の動作出力	OFF：コイル出力 OFF ON ：コイル出力 ON	ブロック停止を行ったときの動作出力を選択する。 ・ON 時：ブロック停止時に実行していたステップの動作出力で使用しているコイルの ON/OFF 状態が保持される。 ・OFF 時：コイル出力がすべて OFF になる。（SET 命令による動作出力は，SM1196 の ON/OFF に関係なく保持される。）	
M9197	SM1197	×	ヒューズ断，入出力照合エラー表示切換え	 SM1197 / SM1198 / 表示対象入出力番号 OFF / OFF / X/Y 0～7F0 ON / OFF / X/Y 800～FF0 OFF / ON / X/Y 1000～17F0 ON / ON / X/Y 1800～1FF0	SM1197，SM1198 の ON/OFF の組合せによりヒューズ断ユニット（SD1100 ～ SD1107），入出力ユニット照合エラー（SD1116 ～ SD1123）の入出力番号を切り換える。	
M9198	SM1198	×				
M9199	SM1199	×	オンラインサンプリングトレース／ステータスラッチのデータ復帰	OFF：データ復帰しない ON ：データ復帰する	・サンプリングトレース／ステータスラッチを実行したときに，CPU ユニットに格納された設定データを復帰させ再開できるようにする。 ・再度実行するときに SM1199 を ON させる。（プログラミングツールで再度データ書込み不要。）	

＊1　下記のユニットが対象です。
・シリアル No. の上 5 桁が “10102” 以降のユニバーサルモデル QCPU
・Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU
＊2　1 分クロックは ACPU の特殊リレー（M9034）の名称を示しています。
＊3　QCPU/LCPU では，A8UPU/A8PUJ は使用できません。

(10)Ethernet ポート内蔵 QCPU，Ethernet ポート内蔵 LCPU，内蔵 Ethernet 機能対応

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1270	時刻設定機能（SNTP クライアント）実行	OFF：時刻設定機能（SNTP クライアント）未実行 ON ：時刻設定機能（SNTP クライアント）実行	時刻設定機能（SNTP クライアント）を実行する場合に ON する。（時刻設定パラメータで時刻設定機能が “ 使用する ” になっている場合のみ ）	U	新規	QnU ＊1 LCPU ＊1
SM1273	リモートパスワード不一致の累積回数クリア	OFF：クリア未実行 ON ：クリア実行	不一致だったリモートパスワードの累積回数 (SD979 ～ SD999) をクリアする場合に ON する。			
SM1292	IP アドレス格納エリア書込み要求	OFF → ON：書込み要求	本リレーが OFF → ON に変化したスキャンの END 処理実行時に SD1292 ～ SD1297 に格納されている IP アドレス設定を CPU ユニットの IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）に書き込む。			QnU ＊2 LCPU ＊3
SM1293	IP アドレス格納エリア書込み完了	OFF：未完了 ON ：完了	• IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）への書込みが完了したときに ON になる。 • SM1292 がON→OFFに変化したスキャンの END 処理実行時に OFF になる。	S（状態変化）		
SM1294	IP アドレス格納エリア書込みエラー	OFF：正常 ON ：エラー	• IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）への書込みに失敗したときに ON になる。 • SM1292 がON→OFFに変化したスキャンの END 処理実行時に OFF になる。			
SM1295	IP アドレス格納エリアクリア要求	OFF → ON：クリア要求	本リレーが OFF → ON に変化したスキャンの END 処理実行時に IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）をクリアする。	U		
SM1296	IP アドレス格納エリアクリア完了	OFF：未完了 ON ：完了	• IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）のクリアが完了したときに ON になる。 • SM1295 がON→OFFに変化したスキャンの END 処理実行時に OFF になる。	S（状態変化）		
SM1297	IP アドレス格納エリアクリアエラー	OFF：正常 ON ：エラー	• IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）のクリアに失敗したときに ON になる。 • SM1295 がON→OFFに変化したスキャンの END 処理実行時に OFF になる。			

＊1 Ethernet ポート内蔵 QCPU，Ethernet ポート内蔵 LCPU が対象です。
＊2 シリアル No. の上 5 桁が “11082” 以降の Ethernet ポート内蔵 QCPU が対象です。
＊3 シリアル No. の上 5 桁が “15102” 以降の Ethernet ポート内蔵 LCPU が対象です。

(11)通信プロトコル機能対応

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1332	内蔵／アダプタシリアル用通信プロトコル準備完了	OFF：準備未完了 ON ：準備完了	電源 ON 時，リセット時，通信プロトコル設定チェック要求時にプロトコル設定ファイルのチェックを行い，正常であれば ON になる。	S（状態変化）	新規	LCPU *1
SM1333	内蔵／アダプタシリアル用通信プロトコル設定チェック要求	OFF：要求なし ON ：要求あり	ON 時にプロトコル設定ファイルをチェックする。 チェック完了後に本リレーを OFF する。	S（状態変化）/U		
SM1334	内蔵／アダプタシリアル用通信プロトコル RS-422/485 エコーバック許可／禁止指定	OFF：エコーバック許可 ON ：エコーバック禁止	RS-422/485 アダプタ使用時，CPU ユニットが送信したデータの折り返しデータを受信するかどうかを指定する。 エコーバック許可に設定すると折り返しデータを受信する。 エコーバック禁止に設定すると受信しない。（破棄する）	U		LCPU *1（L02SCPU/L02SCPU-P を除く）
SM1354	内蔵 Ethernet 用通信プロトコル準備完了	OFF：準備未完了 ON ：準備完了	電源 ON 時，リセット時，通信プロトコル設定チェック要求時にプロトコル設定ファイルのチェックを行い，正常であれば ON になる。	S（状態変化）		QnUDV *3 QnUDPV *3 LCPU *2
SM1355	内蔵 Ethernet 用通信プロトコル設定チェック要求	OFF：要求なし ON ：要求あり	ON 時にプロトコル設定ファイルをチェックする。 チェック完了後に本リレーを OFF する。	S（状態変化）/U		

＊1　シリアル No. の上 5 桁が “15102” 以降のユニット が対象です。
＊2　シリアル No. の上 5 桁が “15102” 以降の Ethernet ポート内蔵 LCPU が対象です。
＊3　シリアル No. の上 5 桁が “15103” 以降のユニット が対象です。

(12)iQ Sensor Solution 対応

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1435	iQ Sensor Solution 対応 バックアップ/リストア実行許可	OFF → ON：実行許可	OFF → ON 時にバックアップ／リストアの実行を許可する。（SD1446=3_H（完了），11_H（中止（エラーなし），FE_H（中止（エラーあり），FF_H（エラー）時のみ有効） ・バックアップ／リストアが実行可能な状態になったときに OFF される。	S（状態変化）/U	新規	LCPU *1
SM1436	iQ Sensor Solution 対応 バックアップ要求	OFF → ON：バックアップ要求	OFF → ON 時セットした対象機種に対してバックアップを実施する。（SD1446=1_H（準備中）時のみ有効） ・使用権取得時，またはバックアップ／リストアが実行可能な状態になったときに OFF される。			
SM1437	iQ Sensor Solution 対応 バックアップ正常完了	OFF：バックアップ未完了 ON ：バックアップ正常完了	バックアップが正常完了で ON する。 ・使用権取得時に OFF される。	S（状態変化）		
SM1438	iQ Sensor Solution 対応 バックアップ異常完了	OFF：バックアップ未完了 ON ：バックアップ異常完了	バックアップが異常完了で ON する。 ・使用権取得時に OFF される。 エラーコードは SD1452，SD1453 に格納される。			
SM1439	iQ Sensor Solution 対応リストア要求	OFF → ON：リストア要求	OFF → ON 時にセットした対象に対してリストアを実施する。（SD1446=1_H（準備中）時のみ有効） ・使用権取得時に OFF される。	S（状態変化）/U		
SM1440	iQ Sensor Solution 対応リストア正常完了	OFF：リストア未完了 ON ：リストア正常完了	リストアが正常完了で ON する。 ・使用権取得時に OFF される。	S（状態変化）		
SM1441	iQ Sensor Solution 対応リストア異常完了	OFF：リストア未完了 ON ：リストア異常完了	リストアが異常完了で ON する。 ・使用権取得時に OFF される。 エラーコードは SD1452，SD1453 に格納される。			
SM1442	iQ Sensor Solution 対応 バックアップ/リストア中止要求	OFF → ON：バックアップ／リストア中止要求	OFF → ON 時に実行中のバックアップ／リストアを中止する。（SD1446=2_H（実行中）時のみ有効） ・使用権取得時，またはバックアップ／リストアが実行可能な状態になったときに OFF される。			

＊1　シリアル No. の上 5 桁が “14112” 以降の Ethernet ポート内蔵 LCPU が対象です。

(13) プロセス制御命令

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1500	ホールドモード	OFF：ホールドなし ON ：ホールドあり	S.IN 命令のレンジチェックで範囲オーバーが発生したとき，出力値をホールドするか，しないかを指定する。	U	新規	QnPH QnPRH QnUDPV
SM1501			S.OUT 命令のレンジチェックで範囲オーバーが発生したとき，出力値をホールドするか，しないかを指定する。			

(14) 二重化対応（自系 CPU 情報 ＊1）

SM1510 ～ SM1599 は，二重化システムでのみ有効です。単独システムでは，すべて OFF になります。

<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
M9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SM1510</td><td>運転モード</td><td>OFF：二重化システム バックアップモード，単独システム
ON ：二重化システム セパレートモード</td><td>運転モードがセパレートモードのときに ON になる。</td><td>S（毎回 END）</td><td rowspan="16">新規</td><td rowspan="16">QnPRH</td></tr>
<tr><td>SM1511</td><td>A 系判別フラグ</td><td colspan="2" rowspan="2">・二重化システムの A 系／ B 系を示す。
・トラッキングケーブルが途中で抜けても変化しない。
<table><tr><th></th><th>A系</th><th>B系</th><th>TRK.CABLE ERR.（エラーコード：6120）発生時(系未決定)</th></tr><tr><td>SM1511</td><td>ON</td><td>OFF</td><td>OFF</td></tr><tr><td>SM1512</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>OFF</td></tr></table></td><td rowspan="3">S（初期）</td></tr>
<tr><td>SM1512</td><td>B 系判別フラグ</td></tr>
<tr><td>SM1513</td><td>デバッグモード運転中</td><td>OFF：デバッグモード 運転中ではない
ON ：デバッグモード 運転中である</td><td>デバッグモードで運転中のときに ON になる。</td></tr>
<tr><td>SM1515</td><td>制御系判別フラグ</td><td colspan="2" rowspan="2">・CPU ユニットの運転状態を示す。
・トラッキングケーブルが途中で抜けても変化しない。
<table><tr><th></th><th>制御系</th><th>待機系</th><th>TRK.CABLE ERR.（エラーコード：6120）発生時(系未決定)</th></tr><tr><td>SM1515</td><td>ON</td><td>OFF</td><td>OFF</td></tr><tr><td>SM1516</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>OFF</td></tr></table></td><td rowspan="2">S（状態変化）</td></tr>
<tr><td>SM1516</td><td>待機系判別フラグ</td></tr>
<tr><td>SM1517</td><td>CPU ユニット立上げ状態</td><td>OFF：電源 ON 立上げ
ON ：運転系切替え立上げ</td><td>CPU ユニットが運転系切替え（待機系から制御系に切替え）で立ち上がったときに ON になる。電源 ON 立上げで制御系となった場合は OFF のままである。</td><td>S（状態変化）</td></tr>
<tr><td>SM1518</td><td>待機系から制御系へ切替え後 1 スキャンのみ ON</td><td>ON ／ OFF ⇔ 1スキャン</td><td>・待機系から制御系に切替え後，1 スキャンのみ ON になる。
・本リレーは，スキャン実行タイププログラムでのみ使用可能である。</td><td rowspan="2">S（毎回 END）</td></tr>
<tr><td>SM1519</td><td>前回制御系判別フラグ</td><td>ON ／ OFF ⇔ 1スキャン</td><td>前回制御系が B 系であった場合，A 系／ B 系同時電源 ON ／リセット解除時に A 系側で RUN 後 1 スキャン ON になる。</td></tr>
<tr><td>SM1520</td><td rowspan="15">データトラッキング転送トリガ指定</td><td rowspan="15">OFF：トリガなし
ON ：トリガあり</td><td>SM1520</td><td>ブロック 1</td><td rowspan="15">・二重化パラメータのトラッキング設定でデータ転送するときに対象となるブロックをトリガ指定する。
・トラッキング設定で “ トラッキングブロック No. 1 を自動転送する ” を選択した場合は，SM1520 は電源 ON または STOP → RUN 時にシステムが ON する。それ以外の場合，SM1520 ～ SM1583 はユーザで ON する。</td><td rowspan="15">S（初期）/U</td></tr>
<tr><td>SM1521</td><td>SM1521</td><td>ブロック 2</td></tr>
<tr><td>SM1522</td><td>SM1522</td><td>ブロック 3</td></tr>
<tr><td>SM1523</td><td>SM1523</td><td>ブロック 4</td></tr>
<tr><td>SM1524</td><td>SM1524</td><td>ブロック 5</td></tr>
<tr><td>SM1525</td><td>SM1525</td><td>ブロック 6</td></tr>
<tr><td>SM1526</td><td>SM1526</td><td>ブロック 7</td></tr>
<tr><td>SM1527</td><td>SM1527</td><td>ブロック 8</td></tr>
<tr><td>SM1528</td><td>SM1528</td><td>ブロック 9</td></tr>
<tr><td>SM1529</td><td>SM1529</td><td>ブロック 10</td></tr>
<tr><td>SM1530</td><td>SM1530</td><td>ブロック 11</td></tr>
<tr><td>SM1531</td><td>SM1531</td><td>ブロック 12</td></tr>
<tr><td>SM1532</td><td>SM1532</td><td>ブロック 13</td></tr>
<tr><td>SM1533</td><td>SM1533</td><td>ブロック 14</td></tr>
<tr><td>SM1534</td><td>SM1534</td><td>ブロック 15</td></tr>
</table>

番号	名称	内容	内容詳細			セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1535	データトラッキング転送トリガ指定	OFF：トリガなし ON ：トリガあり	SM1535	ブロック 16	• 二重化パラメータのトラッキング設定でデータ転送するときに対象となるブロックをトリガ指定する。 • トラッキング設定で “トラッキングブロック No. 1 を自動転送する” を選択した場合は，SM1520 は電源 ON または STOP → RUN 時にシステムが ON する。それ以外の場合，SM1520 ～ SM1583 はユーザで ON する。	S（初期）/U	新規	QnPRH
SM1536			SM1536	ブロック 17				
SM1537			SM1537	ブロック 18				
SM1538			SM1538	ブロック 19				
SM1539			SM1539	ブロック 20				
SM1540			SM1540	ブロック 21				
SM1541			SM1541	ブロック 22				
SM1542			SM1542	ブロック 23				
SM1543			SM1543	ブロック 24				
SM1544			SM1544	ブロック 25				
SM1545			SM1545	ブロック 26				
SM1546			SM1546	ブロック 27				
SM1547			SM1547	ブロック 28				
SM1548			SM1548	ブロック 29				
SM1549			SM1549	ブロック 30				
SM1550			SM1550	ブロック 31				
SM1551			SM1551	ブロック 32				
SM1552			SM1552	ブロック 33				
SM1553			SM1553	ブロック 34				
SM1554			SM1554	ブロック 35				
SM1555			SM1555	ブロック 36				
SM1556			SM1556	ブロック 37				
SM1557			SM1557	ブロック 38				
SM1558			SM1558	ブロック 39				
SM1559			SM1559	ブロック 40				
SM1560			SM1560	ブロック 41				
SM1561			SM1561	ブロック 42				
SM1562			SM1562	ブロック 43				
SM1563			SM1563	ブロック 44				
SM1564			SM1564	ブロック 45				
SM1565			SM1565	ブロック 46				
SM1566			SM1566	ブロック 47				
SM1567			SM1567	ブロック 48				
SM1568			SM1568	ブロック 49				
SM1569			SM1569	ブロック 50				
SM1570			SM1570	ブロック 51				
SM1571			SM1571	ブロック 52				
SM1572			SM1572	ブロック 53				
SM1573			SM1573	ブロック 54				
SM1574			SM1574	ブロック 55				
SM1575			SM1575	ブロック 56				
SM1576			SM1576	ブロック 57				
SM1577			SM1577	ブロック 58				
SM1578			SM1578	ブロック 59				
SM1579			SM1579	ブロック 60				
SM1580			SM1580	ブロック 61				
SM1581			SM1581	ブロック 62				
SM1582			SM1582	ブロック 63				
SM1583			SM1583	ブロック 64				

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1590	ネットワークユニットからの系切替え有無フラグ	OFF：系切替え要求発行ユニットなし ON ：系切替え要求発行ユニットあり	ネットワークユニットからの系切替え要求が発行された場合に ON になる。系切替えを発行したユニット No. は SD1590 により確認可能。 SD1590 の各ビットがすべて OFF のときに OFF になる。	S（毎回 END）	新規	QnPRH
SM1591	系切替え時の待機系側エラー検出無効フラグ	ON ：系切替え時に新待機系側でエラーを検出しない OFF：系切替え時に新待機系側でエラーを検出する	下記の要因による系切替え時に系切替え後の新待機系で “STANDBY”（エラーコード：6210）を検出する／検出しないを指定する。 【対象の系切替え要因】 ・プログラミングツールからの系切替え ・系切替え命令による系切替え ・ネットワークユニットからの系切替え要求による系切替え	U		
SM1592	手動切替え許可フラグ	OFF：手動切替え禁止 ON ：手動切替え許可	プログラミングツールまたは系切替え命令（SP. CONTSW 命令）による手動切替え動作を許可するか禁止するかを指定する。			
SM1593	待機系 CPU の増設ベースユニットへのアクセス設定	OFF：エラー ON ：無処理	セパレートモード時に待機系から増設ベースユニットに装着したインテリジェント機能ユニットのバッファメモリにアクセスした場合の動作を設定する。 ・OFF：待機系 CPU から増設ベースユニットのインテリジェント機能ユニットのバッファメモリにアクセスしたとき “OPERATION ERROR”（エラーコード：4112）になる。 ・ON：待機系 CPU から増設ベースユニットのインテリジェント機能ユニットのバッファメモリにアクセスしたとき無処理になる。			
SM1595	制御系から待機系へのメモリコピー開始フラグ	OFF：コピー開始要求 ON ：コピー未実施	SM1595 を OFF → ON に設定時に制御系から待機系へのメモリコピーが開始される。なお, SM1595 を OFF → ON 時に SD1595 にコピー先の I/O No.（待機系 CPU ユニット：$3D1_H$）が格納されていないと開始されない。			
SM1596	制御系から待機系へのメモリコピー実行中フラグ	OFF：コピー未実施 ON ：コピー実施中	・制御系から待機系へのメモリコピー実行中に ON になる。 ・完了したら OFF になる。	S（コピー開始 / 完了時）		
SM1597	制御系から待機系へのメモリコピー完了フラグ	OFF：コピー未完 ON ：コピー完了	・制御系から待機系へのメモリコピー完了時に ON になる。	S（コピー完了時）/U		
SM1598	制御系から待機系へのメモリコピー標準 ROM コピーフラグ	OFF：コピーする ON ：コピーしない	・制御系から待機系へのメモリコピー時に標準 ROM をコピーしない場合に ON する。	U		

＊1　自系 CPU ユニットの情報が格納されます。

(15) 二重化対応（他系 CPU 情報 ＊1）

SM1600 ～ SM1649 は，二重化システムのバックアップモードのみ有効です。セパレートモードでは，無効です。単独システムでは，SM1600 ～ SM1649 はすべて OFF になります。

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応自系 SM□□ ＊2	対応 CPU
SM1600	他系異常フラグ	OFF：異常なし ON ：異常あり	• 二重化システム用エラーチェックでエラーが生じれば ON になる。（SD1600 のいずれかのビット ON で ON になる。） • 以後，異常が無くなれば OFF になる。	S（毎回 END）	－	QnPRH
SM1610	他系診断エラー有無	OFF：エラーなし ON ：エラーあり	• 他系CPUユニットで診断エラーが発生していれば ON になる。（アナンシェータの ON，CHK 命令によるエラー検出も含む。） • 他系CPUユニットのSM0の状態が反映される。		SM0	
SM1611	他系自己診断エラー有無	OFF：自己診断エラーなし ON ：自己診断エラーあり	• 他系CPUユニットで自己診断エラーが発生していれば ON になる。（アナンシェータの ON，CHK 命令によるエラー検出を含まない。） • 他系CPUユニットのSM1の状態が反映される。		SM1	
SM1615	他系エラー共通情報有無	OFF：共通情報なし ON ：共通情報あり	• 他系CPUユニットで発生しているエラーについて，共通情報があるときに ON になる。 • 他系CPUユニットのSM5の状態が反映される。		SM5	
SM1626	他系エラー個別情報有無	OFF：個別情報なし ON ：個別情報あり	• 他系CPUユニットで発生しているエラーについて，個別情報があるときに ON になる。 • 他系 CPU ユニットの SM16 の状態が反映される。		SM16	
SM1649	待機系エラー解除指令	OFF → ON：待機系で発生しているエラーを解除する	本リレーを OFF → ON で，待機系で発生している続行エラーを解除する。解除するエラーのエラーコードは SD1649 で指定する。	U	－	

＊1　他系 CPU ユニットの診断情報，システム情報が格納されます。
＊2　自系 CPU ユニットで対応する特殊リレー（SM□□）を示します。

(16) 二重化対応（トラッキング）

SM1700 ～ SM1799 は，バックアップモード，セパレートモードのいずれでも有効です。単独システムでは，すべて OFF になります。

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1700	転送トリガ完了フラグ	OFF：転送未完了 ON ：転送完了	ブロック 1 ～ブロック 64 のいずれかの転送が完了したとき，1 スキャンのみ ON になる。	S（状態変化）	新規	QnPRH
SM1709	RUN 中書込み二重化追従実行中のユーザ切替え禁止／許可設定	ON ：ユーザ切替え許可（禁止を解除した状態） OFF：ユーザ切替え禁止	• 本リレーを OFF →ON で，RUN 中書込み二重化追従処理中のユーザ切替えを許可できる。ユーザ切替え禁止状態を解除した後，システムが自動的に SM1709 を OFF する。 • 下記に示す要因によるシステム切替えは，本リレーの状態にかかわらず，RUN 中書込み二重化追従中でも実行する。 ・電源 OFF ・リセット ・H/W 故障 ・CPU ユニットの停止エラー • 下記に示す状態も，本リレーにより系切替え禁止状態を解除できる。 ・複数ブロック RUN 中書込み二重化追従実行中状態 ・ファイルの RUN 中書込み二重化追従実行中状態	S（要求時）/U		
SM1710	RUN 中書込み二重化追従実行中のデバイスメモリトラッキング転送有無	OFF：デバイスメモリのトラッキング転送を行わない。 ON ：デバイスメモリのトラッキング転送を行う。	• RUN中書込み二重化追従実行中に下記に示す制御データのトラッキング転送の実行有無を設定する。 ・デバイスメモリ（自動的にトラッキング転送を行う SM/SD も含む。） ・PIDINIT 情報，S. PIDINIT 情報，SFC 情報 • 複数ブロック RUN 中書込み二重化追従，ファイルの RUN 中書込み二重化追従実行中のトラッキング転送有無も SM1710 で設定する。 • SM1710 はトラッキング転送により，制御系から待機系にトラッキングされる。	U		
SM1712	転送トリガ完了フラグ	OFF：転送未完了 ON ：転送完了	SM1712 ブロック 1	S（状態変化）		
SM1713			SM1713 ブロック 2			
SM1714			SM1714 ブロック 3			
SM1715			SM1715 ブロック 4			
SM1716			SM1716 ブロック 5			
SM1717			SM1717 ブロック 6			
SM1718			SM1718 ブロック 7			
SM1719			SM1719 ブロック 8			
SM1720			SM1720 ブロック 9			
SM1721			SM1721 ブロック 10			
SM1722			SM1722 ブロック 11			
SM1723			SM1723 ブロック 12			
SM1724			SM1724 ブロック 13			
SM1725			SM1725 ブロック 14			
SM1726			SM1726 ブロック 15			
SM1727			SM1727 ブロック 16			
SM1728			SM1728 ブロック 17			
SM1729			SM1729 ブロック 18			

該当ブロックの転送が完了したときに 1 スキャンのみ ON になる。

番号	名称	内容	内容詳細			セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1730	転送トリガ完了フラグ	OFF：転送未完了 ON ：転送完了	SM1730	ブロック 19	該当ブロックの転送が完了したときに 1 スキャンのみ ON になる。	S（状態変化）	新規	QnPRH
SM1731			SM1731	ブロック 20				
SM1732			SM1732	ブロック 21				
SM1733			SM1733	ブロック 22				
SM1734			SM1734	ブロック 23				
SM1735			SM1735	ブロック 24				
SM1736			SM1736	ブロック 25				
SM1737			SM1737	ブロック 26				
SM1738			SM1738	ブロック 27				
SM1739			SM1739	ブロック 28				
SM1740			SM1740	ブロック 29				
SM1741			SM1741	ブロック 30				
SM1742			SM1742	ブロック 31				
SM1743			SM1743	ブロック 32				
SM1744			SM1744	ブロック 33				
SM1745			SM1745	ブロック 34				
SM1746			SM1746	ブロック 35				
SM1747			SM1747	ブロック 36				
SM1748			SM1748	ブロック 37				
SM1749			SM1749	ブロック 38				
SM1750			SM1750	ブロック 39				
SM1751			SM1751	ブロック 40				
SM1752			SM1752	ブロック 41				
SM1753			SM1753	ブロック 42				
SM1754			SM1754	ブロック 43				
SM1755			SM1755	ブロック 44				
SM1756			SM1756	ブロック 45				
SM1757			SM1757	ブロック 46				
SM1758			SM1758	ブロック 47				
SM1759			SM1759	ブロック 48				
SM1760			SM1760	ブロック 49				
SM1761			SM1761	ブロック 50				
SM1762			SM1762	ブロック 51				
SM1763			SM1763	ブロック 52				
SM1764			SM1764	ブロック 53				
SM1765			SM1765	ブロック 54				
SM1766			SM1766	ブロック 55				
SM1767			SM1767	ブロック 56				
SM1768			SM1768	ブロック 57				
SM1769			SM1769	ブロック 58				
SM1770			SM1770	ブロック 59				
SM1771			SM1771	ブロック 60				
SM1772			SM1772	ブロック 61				
SM1773			SM1773	ブロック 62				
SM1774			SM1774	ブロック 63				
SM1775			SM1775	ブロック 64				

(17) 二重化電源ユニット情報

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1780	電源 OFF 検出フラグ	OFF：入力電源が OFF 状態の二重化電源ユニットなし ON ：入力電源が OFF 状態の二重化電源ユニットあり	• 入力電源が OFF 状態の二重化電源ユニットを 1 台以上検出すれば ON する。 • SD1780 のいずれかのビットが ON している場合に ON する。 • SD1780 の全ビットが OFF すると，本リレーも OFF する。 • 基本ベースユニットが二重化基本ベースユニット（Q38RB）でない場合，本リレーは OFF となる。 • マルチ CPU システム構成時は，1 号機の CPU ユニットにのみフラグが格納される。	S（毎回 END）	新規	Qn(H) *3 QnPH *3 QnPRH QnU *4
SM1781	電源故障検出フラグ	OFF：故障した二重化電源ユニットなし ON ：故障した二重化電源ユニットあり	• 二重化電源ユニットの故障を 1 台以上検出すれば ON する。 • SD1781 のいずれかのビットが ON している場合に ON する。 • SD1781 の全ビットが OFF すると，本リレーも OFF する。 • 基本ベースユニットが二重化基本ベースユニット（Q38RB）でない場合，本リレーは OFF となる。 • マルチ CPU システム構成時は，1 号機の CPU ユニットにのみフラグが格納される。			
SM1782	電源 1 *1 用瞬停検出フラグ	OFF：瞬停検出なし ON ：瞬停検出あり	• 電源 1, 2 への入力電源の瞬停を 1 回以上検出すると ON する。ON した後は，瞬停が止んでも ON 状態を維持する。 • CPU ユニット起動時に電源 1, 電源 2 のフラグ（SM1782, SM1783）を OFF する。 • 片側の二重化電源ユニットへの入力電源が OFF した場合には，入力電源が OFF した二重化電源ユニットに対応するフラグを OFF する。 • 基本ベースユニットが二重化基本ベースユニット（Q38RB）でない場合，本リレーは OFF となる。 • マルチ CPU システム構成時は，1 号機の CPU ユニットにのみフラグが格納される。			
SM1783	電源 2 *2 用瞬停検出フラグ					

＊1 「電源 1」は，二重化ベースユニット（Q38RB/Q68RB/Q65WRB）の POWER1 スロットに装着した二重化電源ユニットを示します。

＊2 「電源 2」は，二重化ベースユニット（Q38RB/Q68RB/Q65WRB）の POWER2 スロットに装着した二重化電源ユニットを示します。

＊3 シリアル No. の上 5 桁が “07032” 以降のユニットが対象です。
ただし，マルチ CPU システム構成時は，すべての CPU ユニットでシリアル No. の上 5 桁が “07032” 以降のユニットが対象です。

＊4 シリアル No. の上 5 桁が “10042” 以降のユニットが対象です。

(18) 内蔵 I/O 機能対応

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1840	軸 1 BUSY	OFF：BUSY 中でない ON ：BUSY 中	• 位置決め制御始動時，原点復帰制御始動時，JOG 運転始動時，絶対位置復元実行時に ON になる。各制御の完了で OFF になる。位置決め制御時は減速停止後 “ ドウェルタイム ” 経過で OFF になる。（位置決め制御続行中は ON のまま。） • エラー，停止により各制御を終了時は，その時点で OFF になる。	S（毎回 END）	新規	LCPU
SM1841	軸 1 位置決め完了	OFF：位置決め未完了 ON ：位置決め完了	• 原点復帰制御，位置制御，絶対位置復元が正常完了した時点で ON になる。 • 原点復帰制御，位置決め制御，絶対位置復元，JOG 運転開始時に OFF になる。 • JOG 運転終了時は ON しない。 • 位置制御が途中で中止された場合は ON しない。	S（命令実行時／状態変化）		
SM1842	軸 1 原点復帰要求	OFF：機械原点復帰制御完了 ON ：機械原点復帰制御始動	• 電源 ON 時，リセット時，STOP → RUN 時，ドライブユニットレディ信号 OFF 時，または機械原点復帰制御始動時に ON になる。 • 機械原点復帰制御が完了すると OFF になる。	S（毎回 END）		
SM1843	軸 1 原点復帰完了	OFF：原点復帰未完了 ON ：原点復帰完了	• 機械原点復帰制御が正常完了時に ON になる。 • 原点復帰制御，位置決め制御，絶対位置復元，JOG 運転開始時，STOP → RUN 時，またはドライブユニットレディ信号 OFF 時に OFF になる。	S（命令実行時／状態変化）		
SM1844	軸 1 速度 0	OFF：速度 0 以外で動作時 ON ：速度 0 で動作時	• JOG 運転または速度，位置切換え制御の速度制御時の速度を「0」に設定して始動した場合に ON になる。 • 速度変更時，速度変更値 0 で速度変更を行うと ON になり，速度変更値 0 以外で速度変更を行うと OFF になる。 • SM1840 が OFF したときに OFF になる。	S（毎回 END）		
SM1845	軸 1 エラー発生	OFF：エラー なし ON ：エラー発生	• エラー発生時に ON になる。 • 発生したエラーは SD1845 で確認できる。 • SM1850 を ON することで OFF になる。			
SM1846	軸 1 ワーニング発生	OFF：ワーニング なし ON ：ワーニング発生	• ワーニング発生時に ON になる。 • 発生したワーニングはSD1846で確認できる。 • SM1850 を ON することで OFF になる。			
SM1847	軸 1 運転中始動	OFF：運転中始動なし ON ：運転中始動あり	• 軸 1 BUSY 中に位置決め制御，原点復帰制御，JOG 運転，絶対位置復元の始動を実行すると ON になる。このときの始動命令は無視される。 • ユーザでリセットする。	S（命令実行時）/U		

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1848	軸 1 始動命令実行中	OFF：始動命令非実行 ON ：始動命令実行中	• 始動命令（IPPSTRT1(P)，IPDSTRT1(P)，IPSIMUL(P)，IPABRST1）による位置決め始動時，JOG 始動命令（IPJOG1）による JOG 運転始動時および原点復帰始動命令（IPOPR1(P)）による原点復帰始動時に ON になる。 • 位置決め運転，原点復帰完了および JOG 運転完了時に OFF になる。	S（命令実行時／状態変化）	新規	LCPU
SM1850	軸 1 エラーリセット	OFF → ON：軸 1 エラーリセット OFF：軸 1 エラーリセット解除	• OFF → ON で SM1845 と SM1846 が OFF し，SD1845 と SD1846 が 0 クリアされる。 • SM1840 が OFF になるまでは，エラーリセットを OFF → ON しても，SM1845 の OFF および SD1845 の 0 クリアは実施されない。	U		
SM1851	軸 1 原点復帰要求 OFF 要求	OFF → ON：軸 1 原点復帰要求 OFF：軸 1 原点復帰要求解除	OFF → ON で SM1842 を強制的に OFF にする。			
SM1852	軸 1 速度，位置切換え許可	OFF：切換え不許可 ON ：切換え許可	速度，位置切換え制御時に速度制御→位置制御の切換えの許可／不許可を指定する。			
SM1860	軸 2 BUSY	OFF：BUSY 中でない ON ：BUSY 中	• 位置決め制御始動時，原点復帰制御始動時，JOG 運転始動時，絶対位置復元実行時に ON になる。各制御の完了で OFF になる。位置決め制御時は減速停止後 “ドウェルタイム” 経過で OFF になる。（位置決め制御続行中は ON のまま。） • エラー，停止により各制御を終了時は，その時点で OFF になる。	S（毎回 END）		
SM1861	軸 2 位置決め完了	OFF：位置決め未完了 ON ：位置決め完了	• 原点復帰制御，位置制御，絶対位置復元が正常完了した時点で ON になる。 • 原点復帰制御，位置決め制御，絶対位置復元，JOG 運転開始時に OFF になる。 • JOG 運転終了時は ON しない。 • 位置制御が途中で中止された場合は ON しない。	S（命令実行時／状態変化）		
SM1862	軸 2 原点復帰要求	OFF：機械原点復帰制御完了 ON ：機械原点復帰制御始動	• 電源 ON 時，リセット時，STOP → RUN 時，ドライブユニットレディ信号 OFF 時または機械原点復帰制御始動時に ON になる。 • 機械原点復帰制御が完了すると OFF になる。	S（毎回 END）		
SM1863	軸 2 原点復帰完了	OFF：原点復帰未完了 ON ：原点復帰完了	• 機械原点復帰制御が正常完了時に ON になる。 • 原点復帰制御，位置決め制御，絶対位置復元，JOG 運転開始時，STOP → RUN 時，ドライブユニットレディ信号 OFF 時に OFF になる。	S（命令実行時／状態変化）		
SM1864	軸 2 速度 0	OFF：速度 0 以外で動作時 ON ：速度 0 で動作時	• JOG 運転または速度，位置切換え制御の速度制御時の速度を「0」に設定して始動した場合に ON になる。 • 速度変更時，速度変更値 0 で速度変更を行うと ON になり，速度変更値 0 以外で速度変更を行うと OFF になる。 • SM1860 が OFF したときに OFF になる。	S（毎回 END）		
SM1865	軸 2 エラー発生	OFF：エラー なし ON ：エラー発生	• エラー発生時に ON になる。 • 発生したエラーは SD1865 で確認できる。 • SM1870 を ON することで OFF になる。			

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1866	軸 2 ワーニング発生	OFF：ワーニング なし ON ：ワーニング発生	• ワーニング発生時に ON になる。 • 発生したワーニングはSD1866で確認できる。 • SM1870 を ON することで OFF になる。	S（毎回 END）	新規	LCPU
SM1867	軸 2 運転中始動	OFF：運転中始動なし ON ：運転中始動あり	• 軸 2 BUSY 中に位置決め制御，原点復帰制御，JOG 運転，絶対位置復元の始動を実行すると ON になる。このときの始動命令は無視される。 • ユーザでリセットする。	S（命令実行時）/U		
SM1868	軸 2 始動命令実行中	OFF：始動命令非実行 ON ：始動命令実行中	• 始動命令（IPPSTRT2(P)，IPDSTRT2(P)，IPSIMUL(P)，IPABRST2）による位置決め始動時，JOG 始動命令（IPJOG2）による JOG 運転始動時および原点復帰始動命令（IPOPR2(P)）による原点復帰始動時に ON になる。 • 位置決め運転，原点復帰完了および JOG 運転完了時に OFF になる。	S（命令実行時／状態変化）		
SM1870	軸 2 エラーリセット	OFF → ON: 軸 2 エラーリセット OFF：軸 2 エラーリセット解除	• OFF → ON で SM1865 と SM1866 が OFF し，SD1865 と SD1866 が 0 クリアされる。 • SM1860 が OFF になるまでは，エラーリセットを OFF → ON しても，SM1865 の OFF および SD1865 の 0 クリアは実施されない。	U		
SM1871	軸 2 原点復帰要求 OFF 要求	OFF → ON: 軸 2 原点復帰要求 OFF：軸 2 原点復帰要求解除	OFF → ON で SM1862 を強制的に OFF にする。			
SM1872	軸 2 速度，位置切換え許可	OFF：切換え不許可 ON ：切換え許可	速度，位置切換え制御時に速度制御→位置制御の切換えの許可／不許可を指定する。			
SM1880	CH1 カウンタ値大 No.1	OFF：一致ポイント No.1 以下 ON ：一致ポイント No.1 より大	• CH1 の現在値＞ 一致出力 No.1 ポイント設定で ON になる。 • CH1 の現在値≦ 一致出力 No.1 ポイント設定で OFF になる。	S（毎回 END）		
SM1881	CH1 カウンタ値一致 No.1	OFF：一致未検出 ON ：一致検出	• CH1 の現在値と一致出力 No.1 ポイント設定が一致すると ON になる。 • CH1 一致信号 No.1 リセット指令により OFF になる。	S（状態変化／毎回 END）		
SM1882	CH1 カウンタ値小 No.1	OFF：一致ポイント No.1 以上 ON ：一致ポイント No.1 より小	• CH1 の現在値＜ 一致出力 No.1 ポイント設定で ON になる。 • CH1 の現在値≧ 一致出力 No.1 ポイント設定で OFF になる。	S（毎回 END）		
SM1883	CH1 カウンタ値大 No.2	OFF：一致ポイント No.2 以下 ON ：一致ポイント No.2 より大	• CH1 の現在値＞ 一致出力 No.2 ポイント設定で ON になる。 • CH1 の現在値≦ 一致出力 No.2 ポイント設定で OFF になる。			
SM1884	CH1 カウンタ値一致 No.2	OFF：一致未検出 ON ：一致検出	• CH1 の現在値と一致出力 No.2 ポイント設定が一致すると ON になる。 • CH1 一致信号 No.2 リセット指令により OFF になる。	S（状態変化／毎回 END）		
SM1885	CH1 カウンタ値小 No.2	OFF：一致ポイント No.2 以上 ON ：一致ポイント No.2 より小	• CH1 の現在値＜ 一致出力 No.2 ポイント設定で ON になる。 • CH1 の現在値≧ 一致出力 No.2 ポイント設定で OFF になる。	S（毎回 END）		
SM1886	CH1 外部プリセット（Z 相）要求検出	OFF：要求未検出 ON ：要求検出	• CH1 の Z 相（プリセット）端子によるプリセット要求を検出すると ON になる。 • CH1 外部プリセット（Z 相）要求検出リセット指令により OFF になる。			

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1887	CH1 エラー発生	OFF：エラー なし ON ：エラー発生	• CH1 にエラーが発生すると ON になる。 • エラー要因を解消し，CH1 エラーリセット指令により OFF になる。	S（毎回 END）	新規	LCPU
SM1888	CH1 ワーニング発生	OFF：ワーニング なし ON ：ワーニング発生	• CH1 にワーニングが発生すると ON になる。 • ワーニング要因を解消し，CH1 エラーリセット指令により OFF になる。			
SM1890	CH1 一致信号 No.1 リセット指令	CH1 カウンタ値一致 No.1 をリセットする。	• CH1 カウンタ値一致 No.1 をリセットする場合に ON する。 • ON 状態中有効である。 • ON 時間は 2ms 以上にすること。	U		
SM1891	CH1 一致信号 No.2 リセット指令	CH1 カウンタ値一致 No.2 をリセットする。	• CH1 カウンタ値一致 No.2 をリセットする場合に ON する。 • ON 状態中有効である。 • ON 時間は 2ms 以上にすること。			
SM1892	CH1 一致出力イネーブル指令	CH1 一致出力 No.1 および CH1 一致出力 No.2 端子からの一致出力を制御する。	• CH1 一致出力 No.1 および CH1 一致出力 No.2 端子から外部へ一致出力する場合に ON する。 • ON 状態中有効である。			
SM1893	CH1 プリセット指令	プリセットする。	• プリセットする場合に ON する。 • 立上り（OFF → ON）時に有効である。 • ON/OFF 時間は 2ms 以上にすること。			
SM1894	CH1 減算カウント指令	減算カウントする。	• 減算カウントする場合に ON する。 • パルス入力モードが1相n逓倍または1相n逓倍（A 相のみ）時に有効である。 • ON 状態中有効である。			
SM1895	CH1 カウントイネーブル指令	カウントを開始する。	• カウント動作を行う場合に ON する。 • ON 状態中有効である。			
SM1896	CH1 カウンタ機能選択開始指令	カウンタ選択機能を開始する。	• カウンタ選択機能を開始する場合に ON する。 • カウンタ選択機能がカウントディセーブル機能の場合は，ON 状態中有効である。 • カウンタ選択機能がラッチカウンタ機能またはサンプリングカウンタ機能の場合は，立上り（OFF → ON）時に有効である。ON 時間は 2ms 以上にすること。 • カウンタ選択機能がカウントディセーブル，プリセット機能またはラッチカウンタ，プリセット機能の場合は無効である。			
SM1897	CH1 外部プリセット（Z 相）要求検出リセット指令	CH1 外部プリセット（Z 相）要求検出をリセットする。	• CH1 外部プリセット（Z 相）要求検出をリセットする場合に ON する。 • 立上り（OFF → ON）時に有効である。 • ON/OFF 時間は 2ms 以上にすること。			
SM1898	CH1 パルス測定開始指令	パルス測定を開始する。	• パルスの測定を開始する場合に ON する。 • ON 状態中有効である。			
SM1899	CH1 エラーリセット指令	CH1 のエラーをリセットする。	• CH1 のエラーをリセットする場合に ON する。 • 立上り（OFF → ON）時に有効である。 • ON/OFF 時間は 2ms 以上にすること。			
SM1900	CH2 カウンタ値大 No.1	OFF：一致ポイント No.1 以下 ON ：一致ポイント No.1 より大	• CH2 の現在値＞ 一致出力 No.1 ポイント設定で ON になる。 • CH2 の現在値≦ 一致出力 No.1 ポイント設定で OFF になる。	S（毎回 END）		
SM1901	CH2 カウンタ値一致 No.1	OFF：一致未検出 ON ：一致検出	• CH2 の現在値と一致出力 No.1 ポイント設定が一致すると ON になる。 • CH2 一致信号 No.1 リセット指令により OFF になる。	S（状態変化／毎回 END）		

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1902	CH2 カウンタ値小 No.1	OFF：一致ポイント No.1 以上 ON ：一致ポイント No.1 より小	• CH2の現在値< 一致出力No.1 ポイント設定で ON になる。 • CH2の現在値≧ 一致出力No.1 ポイント設定で OFF になる。	S（毎回 END）	新規	LCPU
SM1903	CH2 カウンタ値大 No.2	OFF：一致ポイント No.2 以下 ON ：一致ポイント No.2 より大	• CH2の現在値> 一致出力No.2 ポイント設定で ON になる。 • CH2の現在値≦ 一致出力No.2 ポイント設定で OFF になる。			
SM1904	CH2 カウンタ値一致 No.2	OFF：一致未検出 ON ：一致検出	• CH2 の現在値と一致出力 No.2 ポイント設定が一致すると ON になる。 • CH2 一致信号 No.2 リセット指令により OFF になる。	S（状態変化／毎回 END）		
SM1905	CH2 カウンタ値小 No.2	OFF：一致ポイント No.2 以上 ON ：一致ポイント No.2 より小	• CH2の現在値< 一致出力No.2 ポイント設定で ON になる。 • CH2の現在値≧ 一致出力No.2 ポイント設定で OFF になる。	S（毎回 END）		
SM1906	CH2 外部プリセット（Z 相）要求検出	OFF：要求未検出 ON ：要求検出	• CH2 の Z 相（プリセット）端子によるプリセット要求を検出すると ON になる。 • CH2 外部プリセット（Z 相）要求検出リセット指令により OFF になる。			
SM1907	CH2 エラー発生	OFF：エラー なし ON ：エラー発生	• CH2 にエラーが発生すると ON になる。 • エラー要因を解消し，CH2 エラーリセット指令により OFF になる。			
SM1908	CH2 ワーニング発生	OFF：ワーニング なし ON ：ワーニング発生	• CH2 にワーニングが発生すると ON になる。 • ワーニング要因を解消し，CH2 エラーリセット指令により OFF になる。			
SM1910	CH2 一致信号 No.1 リセット指令	CH2 カウンタ値一致 No.1 をリセットする。	• CH2 カウンタ値一致 No.1 をリセットする場合に ON する。 • ON 状態中有効である。 • ON 時間は 2ms 以上にすること。	U		
SM1911	CH2 一致信号 No.2 リセット指令	CH2 カウンタ値一致 No.2 をリセットする。	• CH2 カウンタ値一致 No.2 をリセットする場合に ON する。 • ON 状態中有効である。 • ON 時間は 2ms 以上にすること。			
SM1912	CH2 一致出力イネーブル指令	CH2 一致出力 No.1 および CH2 一致出力 No.2 端子からの一致出力を制御する。	• CH2 一致出力 No.1 および CH2 一致出力 No.2 端子から外部へ一致出力する場合に ON する。 • ON 状態中有効である。			
SM1913	CH2 プリセット指令	プリセットする。	• プリセットする場合に ON する。 • 立上り（OFF → ON）時に有効である。 • ON/OFF 時間は 2ms 以上にすること。			
SM1914	CH2 減算カウント指令	減算カウントする。	• 減算カウントする場合に ON する。 • パルス入力モードが1相n逓倍または1相n逓倍（A 相のみ）時に有効である。 • ON 状態中有効である。			
SM1915	CH2 カウントイネーブル指令	カウントを開始する。	• カウント動作を行う場合に ON する。 • ON 状態中有効である。			

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1916	CH2 カウンタ機能選択開始指令	カウンタ選択機能を開始する。	• カウンタ選択機能を開始する場合に ON する。 • カウンタ選択機能がカウントディセーブル機能の場合は，ON 状態中有効である。 • カウンタ選択機能がラッチカウンタ機能または，サンプリングカウンタ機能の場合は，立上り（OFF → ON）時に有効である。ON 時間は 2ms 以上にすること。 • カウンタ選択機能がカウントディセーブル，プリセット機能またはラッチカウンタ，プリセット機能の場合は無効である。	U	新規	LCPU
SM1917	CH2 外部プリセット（Z 相）要求検出リセット指令	CH2 外部プリセット（Z 相）要求検出をリセットする。	• CH2 外部プリセット（Z 相）要求検出をリセットする場合に ON する。 • 立上り（OFF → ON）時に有効である。 • ON/OFF 時間は 2ms 以上にすること。			
SM1918	CH2 パルス測定開始指令	パルス測定を開始する。	• パルスの測定を開始する場合に ON する。 • ON 状態中有効である。			
SM1919	CH2 エラーリセット指令	CH2 のエラーをリセットする。	• CH2のエラーをリセットする場合にONする。 • 立上り（OFF → ON）時に有効である。 • ON/OFF 時間は 2ms 以上にすること。			

(19) データロギング

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1940	データロギング設定 No.1 データロギング準備	OFF：未準備 ON ：準備完了	データロギングの準備完了で ON になる。以後，データロギング一時停止となっても ON のまま保持される。ただし，停止の場合は OFF する。	S（初期）	新規	QnUDV QnUDPV LCPU
SM1941	データロギング設定 No.1 データロギング開始	OFF：一時停止 ON ：開始	RUN 中に ON でデータロギングを開始し，OFF で一時停止となる。（関連する特殊リレーはすべて OFF になる。） ただし，CPU ユニットが STOP 状態の場合，本リレーを ON してもデータロギングは開始されません。	S（状態変化）/U		
SM1942	データロギング設定 No.1 データロギング収集中	OFF：データロギング収集中でない ON ：データロギング収集中	データロギング収集中で ON になる。	S（状態変化）		
SM1943	データロギング設定 No.1 データロギング完了	OFF：データロギング未完了 ON ：データロギング完了	データロギング完了で ON になる。 【ロギング種別＝ “ 連続 ” の場合】 保存ファイル数上限まで書込みを行ってデータロギング完了した時（保存ファイル数を超えた時の動作＝ “ 停止 ” 指定）に該当ビットが ON になる。 【ロギング種別＝ “ トリガ ” の場合】 トリガ条件発生後，設定されたレコード数分データの収集が完了し，SD メモリカードに書込み完了した時点で該当ビットが ON になる。 また，データロギング実行中のエラーが発生した場合（RUN 中書込によるデータロギングのエラーを除く）にも ON する。			
SM1944	データロギング設定 No.1 データロギングトリガ	OFF → ON: トリガ発生	・指定したトリガ条件が成立したときに，システムが ON する。 ・ユーザ操作によってトリガ条件を成立させる場合にユーザが ON する。	S（状態変化）/U		
SM1945	データロギング設定 No.1 データロギングトリガ後	OFF：トリガ後でない ON ：トリガ後である	トリガロギングのトリガ後 ON になる。以後，データロギング完了となっても ON のまま保持される。ただし，一時停止，停止の場合は OFF になる。	S（状態変化）		
SM1946	データロギング設定 No.1 データロギングエラー	OFF：エラーなし ON ：エラーあり	データロギングエラーの発生で ON になる。設定の登録，CPU ユニットロギング設定ツールからの停止指示により OFF になる。	S（エラー発生）		
SM1947	データロギング設定 No.1 データロギング SD メモリカード保存中	OFF：保存中でない ON ：保存中	データロギングで，バッファ内のデータを SD メモリカードへ保存中のときに ON になる。	S（状態変化）		
SM1948	データロギング設定 No.1 データロギングファイル転送機能実行状態フラグ	OFF：非実行 ON ：実行中	・データロギングファイル転送機能開始時に ON になる。 ・データロギングファイル転送機能停止時に OFF する。			QnUDV QnUDPV LCPU *1

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU M9□□□	対応 CPU
SM1950 ～ SM1958	データロギング設定 No.2	データロギング設定 No.1 と同じ構成	データ構成は，データロギング設定 No.1（SM1940 ～ SM1948）と同じ。	データロギング設定 No.1 と同じ構成	新規	QnUDV QnUDPV LCPU *1
SM1960 ～ SM1968	データロギング設定 No.3					
SM1970 ～ SM1978	データロギング設定 No.4					
SM1980 ～ SM1988	データロギング設定 No.5					
SM1990 ～ SM1998	データロギング設定 No.6					
SM2000 ～ SM2008	データロギング設定 No.7					
SM2010 ～ SM2018	データロギング設定 No.8					
SM2020 ～ SM2028	データロギング設定 No.9					
SM2030 ～ SM2038	データロギング設定 No.10					

＊1　データロギングファイル転送機能実行状態フラグは，シリアル No. の上 5 桁が “12112” 以降のユニットが対象です。

付 3　特殊レジスター覧

特殊レジスタ（SD）は，シーケンサ内部で仕様が決まっている内部レジスタです。したがって，通常の内部レジスタのようにプログラム上では使用できません。ただし，必要に応じて CPU ユニットを制御するためにデータを書き込むことはできます。特殊レジスタに格納されるデータは，特に指定がなければ BIN 値で格納されます。
一覧表の各項目の見方を下表に示します。

項目	説明
番号	SD の番号を示します。
名称	SD の名称を示します。
内容	SD の内容について示します。
内容詳細	SD の内容の詳細について説明します。
セット側（セット時期）	セットする側とシステム側でセットする場合の時期について説明します。 ＜セット側＞ ・S　：システム側でセットします。 ・U　：ユーザ側（プログラム，プログラミングツール，GOT，またはその他の外部機器からのテスト操作）でセットします。 ・S/U：システム側／ユーザ側の両方でセットします。 ＜セット時期＞ システム側でセット時のみ，セット時期を示します。 ・毎回 END：毎回 END 処理時にセットします。 ・初期：イニシャル（電源 ON，STOP → RUN など）時にセットします。 ・状態変化：状態に変化があったときにセットします。 ・エラー発生：エラー発生時にセットします。 ・命令実行：命令実行時にセットします。 ・要求時：ユーザから要求のあったとき（SM などで）にセットします。 ・要因発生時：各要因発生時にセットします。 ・系切替え時：系切替えを実行したときにセットします。 ・スイッチ変化時：スイッチの変化時にセットします。 ・カード脱着時：メモリカード脱着時にセットします。 ・書込み時：ユーザからの書込み時にセットします。
対応 CPU	対応する CPU ユニットを下記に示します。 ・QCPU：Q シリーズ CPU ユニットすべてに対応します。 ・Q00J/Q00/Q01：ベーシックモデル QCPU に対応します。 ・Qn(H)：ハイパフォーマンスモデル QCPU に対応します。 ・QnPH：プロセス CPU に対応します。 ・QnPRH：二重化 CPU に対応します。 ・QnU：ユニバーサルモデル QCPU に対応します。 ・QnUDV：ユニバーサルモデル高速タイプ QCPU に対応します。 ・QnUDPV：ユニバーサルモデルプロセス CPU に対応します。 ・Q00UJ/Q00U/Q01U：Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU に対応します。 ・LCPU：L シリーズ CPU ユニットすべてに対応します。 ・各 CPU ユニット形名：記載 CPU ユニットのみ対応します。（例：Q02UCPU，L26CPU-BT）
対応 ACPU D9□□□	• ACPU の対応する特殊レジスタ（D9□□□）を示します。（内容に変更のある場合は，D9□□□変形と表記します。Q00J/Q00/Q01，QnPRH へは未対応。） • 新規と表記してあるものは，QCPU/LCPU で新規追加のものを示します。

下記の項目の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

- ネットワーク関連：📖 各ネットワークユニットのマニュアル
- SFC 関連：📖 MELSEC-Q/L/QnA プログラミングマニュアル（SFC 編）

Point

システム側でセットする特殊レジスタは，プログラムやデバイステストなどの操作により変更しないでください。システムダウンが発生したり，通信ができなくなる可能性があります。

(1) 診断情報

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD0	診断エラー	診断エラーコード	・診断でエラーを生じたときのエラーコードが格納される。 ・エラー履歴の最新情報と同じ内容である。	S（エラー発生）	D9008 変形	QCPU LCPU
SD1	診断エラー発生時刻	診断エラー発生時刻	SD0 のデータが更新された年（西暦，下 2 桁），月の BCD コード 2 桁が格納される。 b15 ～ b8 b7 ～ b0 年（0～99） | 月（1～12） （例）95年10月 → 9510H		新規	
SD2			SD0 のデータが更新された日，時の BCD コード 2 桁が格納される。 b15 ～ b8 b7 ～ b0 日（1～31） | 時（0～23） （例）25日10時 → 2510H			
SD3			SD0 のデータが更新された分，秒の BCD コード 2 桁が格納される。 b15 ～ b8 b7 ～ b0 分（0～59） | 秒（0～59） （例）35分48秒 → 3548H			
SD4	エラー情報区分	エラー情報区分コード	・共通情報（SD5 ～ SD15），個別情報（SD16 ～ SD26）にそれぞれ格納される。 ・エラー情報がなにかを判断する区分コードが格納される。 b15 ～ b8 b7 ～ b0 個別情報区分コード | 共通情報区分コード ・共通情報区分コードには，次のコードが格納される。 ・0：なし ・1：ユニット No.（QCPU ではスロット No. ／号機 No. ／ベース No.，LCPU ではスロット No. ／ブロック No.）＊1 ・2：ファイル名／ドライブ名 ・3：時間（設定値） ・4：プログラムエラー箇所 ・5：系切替え要因（二重化 CPU 専用） ・6：トラッキング容量超過エラー要因（二重化 CPU 専用） ・7：ベース No. ／電源 No.（シリアル No. の上 5 桁が“10041” 以前のユニバーサルモデル QCPU および LCPU は該当しない。） ・8：トラッキング通信での通信データ種別（二重化 CPU 専用） ＊1 マルチ CPU システムの場合は，発生したエラーによりユニット No. または号機 No. が格納されます。（どちらが格納されているかは，各エラーコードを参照してください。） 1 号機：1，2 号機：2，3 号機：3，4 号機：4 ・個別情報区分コードには，次のコードが格納される。 ・0：なし ・1：（アキ） ・2：ファイル名／ドライブ名 ・3：時間（実測値） ・4：プログラムエラー箇所 ・5：パラメータ No. ・6：アナンシェータ (F)No. ・7：CHK 命令故障 No.（ベーシックモデル QCPU，ユニバーサルモデル QCPU および LCPU は該当しない。） ・8：系切替え不可要因（二重化 CPU 専用） ・9：故障情報（QnUDVCPU，QnUDPVCPU，LCPU 専用） ・12：ファイル診断情報（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU 専用） ・13：パラメータ No. ／号機 No.（ユニバーサルモデル QCPU 専用）	S（エラー発生）		

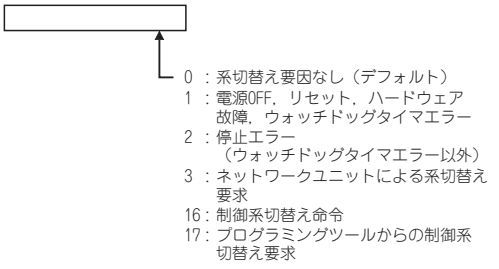
<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD5
SD6
SD7
SD8
SD9
SD10
SD11
SD12
SD13
SD14

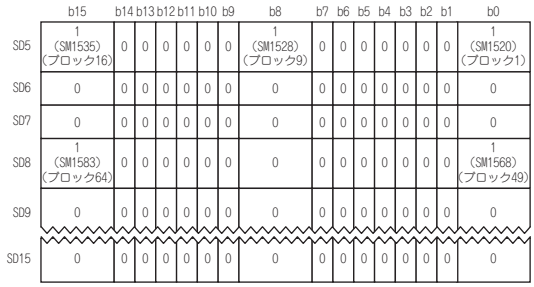
<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD5
SD6
SD7
SD8
SD9
SD10
SD11
SD12
SD13
SD14

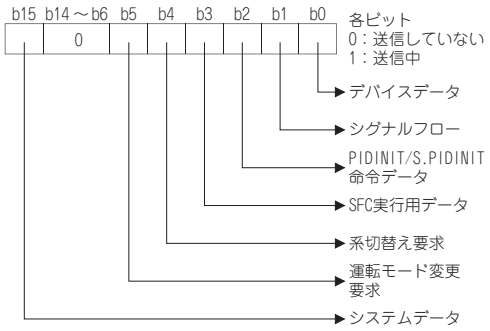
(a) 拡張子の名称

SD_n	SD_{n+1}		拡張子名称	ファイルの種別
上位 8 ビット	下位 8 ビット	上位 8 ビット		
51_H	50_H	41_H	QPA	パラメータ
51_H	50_H	47_H	QPG	プログラム
51_H	43_H	44_H	QCD	デバイスコメント
51_H	44_H	49_H	QDI	デバイス初期値
51_H	44_H	52_H	QDR	ファイルレジスタ
51_H	44_H	$4C_H$	QDL	ローカルデバイス（ハイパフォーマンスモデル QCPU，プロセス CPU，二重化 CPU，ユニバーサルモデル QCPU，LCPU の場合）
51_H	54_H	44_H	QTD	サンプリングトレースデータ（ハイパフォーマンスモデル QCPU，プロセス CPU，二重化 CPU，ユニバーサルモデル QCPU，LCPU の場合）
51_H	46_H	44_H	QFD	エラー履歴データ（ハイパフォーマンスモデル QCPU，プロセス CPU，二重化 CPU の場合）
51_H	53_H	54_H	QST	SP.DEVST/S.DEVLD 命令用ファイル（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU の場合）

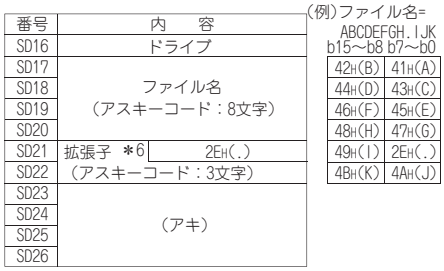
<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD5
SD6
SD7
SD8
SD9
SD10
SD11
SD12
SD13
SD14

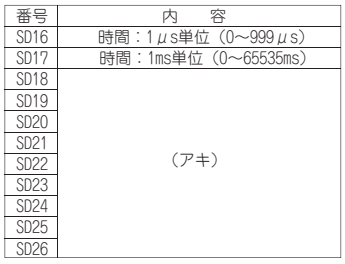
SD15</td><td>エラー共通情報</td><td>エラー共通情報</td><td>⑤系切替え要因
<table><tr><th>番号</th><th>内　容</th></tr><tr><td>SD5</td><td>系切替え要因　＊9</td></tr><tr><td>SD6</td><td>制御系切替え命令引数</td></tr><tr><td>SD7
SD8
SD9
SD10
SD11
SD12
SD13
SD14
SD15</td><td>（アキ）</td></tr></table>＊9　系切替え要因の内容は，下記のとおりです。
 

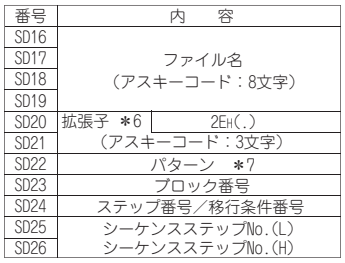
⑥トラッキング容量超過エラー要因
トラッキング可能なデータ量（100k）を超えたときのブロック No. を，対応する特殊リレーのビットパターンにより示す。
 
</td><td>S（エラー発生）</td><td>新規</td><td>QnPRH</td></tr>
</table>

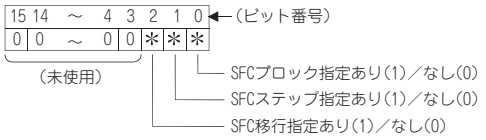
<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD5</td><td rowspan="14">エラー共通情報</td><td rowspan="14">エラー共通情報</td><td rowspan="9">⑦電源 No.
<table><tr><th>番号</th><th>内　容</th></tr><tr><td>SD5</td><td>ベース No.</td></tr><tr><td>SD6</td><td>電源 No.</td></tr><tr><td>SD7
SD8
SD9
SD10
SD11
SD12
SD13
SD14
SD15</td><td>（アキ）</td></tr></table>1:電源1異常
2:電源2異常
「電源1」：二重化ベースユニット(Q38RB,Q68RB,Q65WRB)のPOWER1スロットに装着した二重化電源ユニット
「電源2」：二重化ベースユニット(Q38RB,Q68RB,Q65WRB)のPOWER2スロットに装着した二重化電源ユニット</td><td rowspan="14">S（エラー発生）</td><td rowspan="14">新規</td><td rowspan="9">Qn(H) *1
QnPH *1
QnPRH
QnU *2</td></tr>
<tr><td>SD6</td></tr>
<tr><td>SD7</td></tr>
<tr><td>SD8</td></tr>
<tr><td>SD9</td></tr>
<tr><td>SD10</td></tr>
<tr><td>SD11</td></tr>
<tr><td>SD12</td></tr>
<tr><td>SD13</td></tr>
<tr><td>SD14</td><td rowspan="5">⑧トラッキング通信での通信データ種別
トラッキング通信中のデータ種別が格納される。
<table><tr><th>番号</th><th>内　容</th></tr><tr><td>SD5</td><td>データ種別　*10</td></tr><tr><td>SD6
SD7
SD8
SD9
SD10
SD11
SD12
SD13
SD14
SD15</td><td>（アキ）</td></tr></table>*10　データ種別の内容は，下記のとおりです。
 
</td><td rowspan="5">QnPRH</td></tr>
<tr><td>SD15</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD16
SD17
SD18
SD19
SD20
SD21
SD22
SD23
SD24
SD25

SD26</td><td>エラー個別情報</td><td>エラー個別情報</td><td>・エラーコード（SD0）に対応する個別情報が格納される。
・格納される情報には，次の 10 種類がある。
・SD4 の「個別情報区分コード」により，エラー個別情報の種別を判定できる。（SD4 に格納される「個別情報区分コード」の値が下記に示す①～⑧，⑫，⑬に対応する。）
①（アキ）
②ファイル名／ドライブ名
 

③時間（実測値）
 

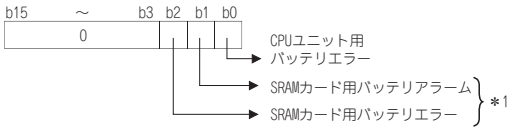
④プログラムエラー箇所
 

＊6：拡張子の名称は，328 ページ 付 3 (1) (a) の表を参照してください。
＊7：パターンデータの内容は，下記のとおりです。
 
</td><td>S（エラー発生）</td><td>新規</td><td>QCPU
LCPU</td></tr>
</table>

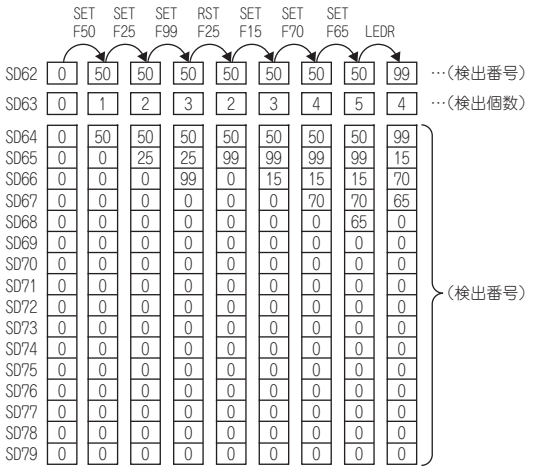
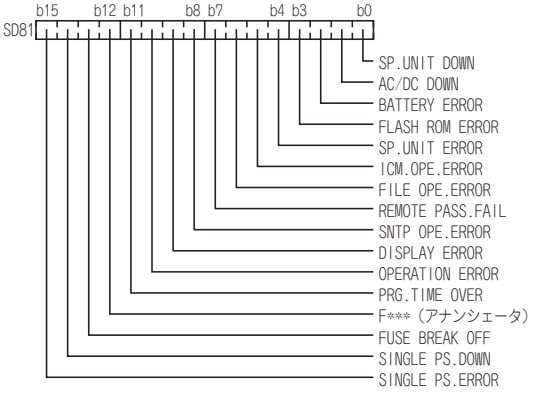
<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td rowspan="2">SD26</td><td rowspan="2">エラー個別情報</td><td rowspan="2">エラー個別情報</td><td>⑤ パラメータNo.　⑥ アナンシェータNo.
⑦ CHK命令故障No.

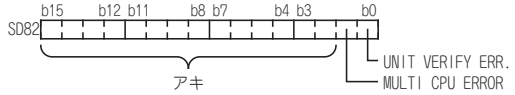
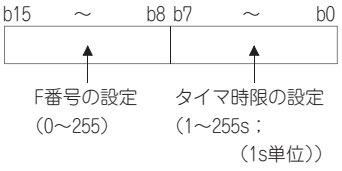
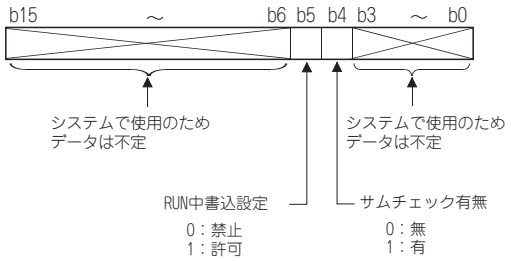
<table>
<tr><th>番号</th><th>内　容</th></tr>
<tr><td>SD16</td><td>パラメータNo. ＊8</td></tr>
<tr><td>SD17</td><td rowspan="10">（アキ）</td></tr>
<tr><td>SD18</td></tr>
<tr><td>SD19</td></tr>
<tr><td>SD20</td></tr>
<tr><td>SD21</td></tr>
<tr><td>SD22</td></tr>
<tr><td>SD23</td></tr>
<tr><td>SD24</td></tr>
<tr><td>SD25</td></tr>
<tr><td>SD26</td></tr>
</table>
<table>
<tr><th>番号</th><th>内　容</th></tr>
<tr><td>SD16</td><td>No.</td></tr>
<tr><td>SD17</td><td rowspan="10">（アキ）</td></tr>
<tr><td>SD18</td></tr>
<tr><td>SD19</td></tr>
<tr><td>SD20</td></tr>
<tr><td>SD21</td></tr>
<tr><td>SD22</td></tr>
<tr><td>SD23</td></tr>
<tr><td>SD24</td></tr>
<tr><td>SD25</td></tr>
<tr><td>SD26</td></tr>
</table>
＊8　パラメータ No.の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。
使用している CPU ユニットのユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）</td><td rowspan="2">S（エラー発生）</td><td rowspan="2">新規</td><td>QCPU
LCPU</td></tr>
<tr><td>⑧系切替え不可要因
<table>
<tr><th>番号</th><th>内　容</th></tr>
<tr><td>SD16</td><td>系切替え不可要因　＊9</td></tr>
<tr><td>SD17</td><td rowspan="10">（アキ）</td></tr>
<tr><td>SD18</td></tr>
<tr><td>SD19</td></tr>
<tr><td>SD20</td></tr>
<tr><td>SD21</td></tr>
<tr><td>SD22</td></tr>
<tr><td>SD23</td></tr>
<tr><td>SD24</td></tr>
<tr><td>SD25</td></tr>
<tr><td>SD26</td></tr>
</table>
＊9　系切替え不可要因の内容は，下記のとおりです。

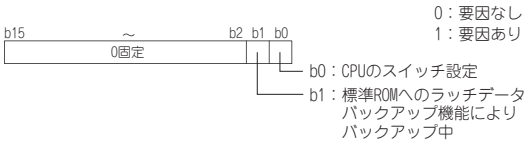
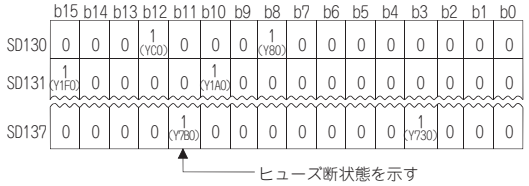
0 ： 正常に切替え完了（デフォルト）
1 ： トラッキングケーブル異常(ケーブル抜け，ケーブル異常，内部回路異常，ハードウェア異常）
2 ： 待機系でハードウェア故障，電源OFF中，リセット中，ウォッチドッグエラー発生中
3 ： 制御系でハードウェア故障，電源OFF中，リセット中，ウォッチドッグエラー発生中
4 ： トラッキング通信準備中
5 ： タイムオーバー
6 ： 待機系が停止エラー（ウォッチドッグエラー以外）
7 ： 両系の動作が違う（バックアップモード時のみ）
8 ： 制御系から待機系へのメモリコピー中
9 ： RUN中書込中
10 ： 待機系のネットワークユニットによる異常検出
11 ： 系切替え実行中
12 ： オンラインユニット交換中</td><td>QnPRH</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td rowspan="4">SD26</td><td rowspan="4">エラー個別情報</td><td rowspan="4">エラー個別情報</td><td>⑨故障情報
<table><tr><th>番号</th><th>内容</th></tr><tr><td>SD16</td><td>故障情報1</td></tr><tr><td>SD17</td><td>故障情報2</td></tr><tr><td>SD18</td><td>故障情報3</td></tr><tr><td>SD19</td><td>故障情報4</td></tr><tr><td>SD20</td><td>故障情報5</td></tr><tr><td>SD21</td><td>故障情報6</td></tr><tr><td>SD22</td><td>故障情報7</td></tr><tr><td>SD23</td><td>故障情報8</td></tr><tr><td>SD24</td><td>故障情報9</td></tr><tr><td>SD25</td><td>故障情報10</td></tr><tr><td>SD26</td><td>故障情報11</td></tr></table></td><td>S（エラー発生）</td><td rowspan="4">新規</td><td>QnUDV
QnUDPV
LCPU</td></tr>
<tr><td>⑫ファイル診断情報
<table><tr><td>SD16</td><td>故障情報1(H)</td><td>ドライブNo.(L)</td></tr><tr><td>SD17
SD18
SD19
SD20</td><td colspan="2">ファイル名
（アスキーコード：8文字）</td></tr><tr><td>SD21
SD22</td><td>拡張子*6
（アスキーコード：3文字）</td><td>2EH(.)</td></tr><tr><td>SD23
SD24</td><td colspan="2">故障情報2
（読み出したCRC値）</td></tr><tr><td>SD25
SD26</td><td colspan="2">故障情報3
（計算したCRC値）</td></tr></table>＊6：拡張子の名称は，328 ページ 付 3 (1) (a) の表を参照してください。</td><td rowspan="2">S（エラー発生）</td><td>QnU
LCPU</td></tr>
<tr><td>⑬パラメータ No. ／号機 No.
<table><tr><th>番号</th><th>内容</th></tr><tr><td>SD16</td><td>パラメータNo.*16</td></tr><tr><td>SD17</td><td>号機No.（1～4）</td></tr><tr><td>SD18
SD19
SD20
SD21
SD22
SD23
SD24
SD25
SD26</td><td>（アキ）</td></tr></table>＊16　パラメータ No. の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。
使用している CPU ユニットのユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）</td><td>QnU</td></tr>
<tr><td>SD50</td><td>エラー解除</td><td>エラー解除するエラーコード</td><td>エラー解除するエラーコードを格納する。</td><td>U</td><td rowspan="3">QCPU
LCPU</td></tr>
<tr><td>SD51</td><td>バッテリ低下ラッチ</td><td>バッテリ低下を生じた対象のビットパターン</td><td>・バッテリ低下が生じた場合，対応するビットが 1(ON) になる。
・以後，バッテリ電圧が正常に戻っても ON のまま保持される。
 

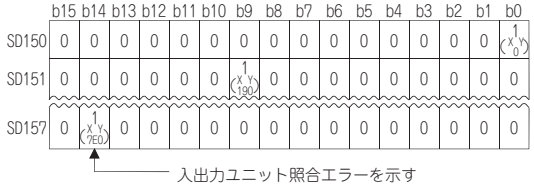
＊1　ベーシックモデル QCPU，ユニバーサルモデル高速タイプ QCPU，ユニバーサルモデルプロセスタイプ QCPU，LCPU では該当しません。
・アラームでは，バッテリの低下で規定時間内のデータが保持される。
・エラーはバッテリの完全放電を示す。</td><td>S（エラー発生）</td></tr>
<tr><td>SD52</td><td>バッテリ低下</td><td>バッテリ低下を生じた対象のビットパターン</td><td>・上記 SD51 と同じビットパターン。
・アラーム検出（ON）後，エラー検出（ON）で，アラームは OFF になる。（QnUDVCPU，QnUDPVCPU を除くユニバーサルモデル QCPU の場合のみ）
・以後，バッテリ電圧が正常に戻ると 0（OFF）になる。</td><td>S（エラー発生）</td><td>新規</td><td>QCPU
LCPU</td></tr>
</table>

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD53	AC/DC DOWN 検出	AC/DC DOWN 検出回数	• CPU ユニットが演算中に入力電圧が定格の 85%（AC 電源）/65%（DC 電源）以下になるごとに+ 1 され，値が格納される。 • カウントは 0 → 32767 → -32768 → 0 を繰り返す。	S（エラー発生）	D9005	QCPU LCPU
SD60	ヒューズ断ユニット No.	ヒューズ断ユニット No.	ヒューズ断を生じたユニットの最若番の入出力番号が格納される。		D9000	QCPU
SD61	入出力ユニット照合エラー No.	入出力ユニット照合エラーユニット No.	入出力ユニット照合エラーを生じたユニットの最若番の入出力番号が格納される。		D9002	QCPU LCPU
SD62	アナンシェータ番号	アナンシェータ番号	最も早く検出したアナンシェータの番号（F 番号）が格納される。	S（命令実行）	D9009	
SD63	アナンシェータ個数	アナンシェータ個数	アナンシェータを検出した個数が格納される。		D9124	
SD64	アナンシェータ検出番号テーブル	アナンシェータ検出番号	OUT F，SET F 命令によりアナンシェータ (F) が ON すると SD64 ～ SD79 に順次 ON した F 番号が登録される。 RST F 命令により OFF された F 番号が SD64 ～ SD79 から抹消され，抹消された F 番号以降に格納されていた F 番号が前詰めされる。 LEDR 命令の実行により SD64 ～ SD79 の内容が 1 つ上にシフトされる。アナンシェータ検出個数が 16 個ある場合，17 個目を検出しても SD64 ～ SD79 には格納されない。  		D9125 D9126 D9127 D9128 D9129 D9130 D9131 D9132 新規	
SD80	CHK 番号	CHK 番号	CHK 命令で検出したエラー番号が，BCD コードで格納される。			Qn(H) QnPH QnPRH
SD81	続行エラー要因	続行エラー要因	続行エラー要因が格納される。  • QnUDVCPU，QnUDPVCPU の場合は，b9 はアキ。 • LCPU の場合は，b13 ～ b15 はアキ。	S（エラー発生）	新規	QnUDV QnUDPV LCPU

番号	名称	内容	内容詳細		セット側（セット時期）	対応ACPU D9□□□	対応CPU
SD82	続行エラー要因	続行エラー要因	続行エラー要因が格納される。  ・LCPUの場合は，全ビットがアキ		S（エラー発生）	新規	QnUDV QnUDPV LCPU
SD84 SD85	続行エラー解除	続行エラー解除	解除する続行エラーをビットパターンで指定する。 ビットパターンは，SD81，SD82と同じ。		U	新規	QnUDV QnUDPV LCPU
SD90	ステップ移行監視タイマ設定値（SFCプログラムあり時のみ有効）	タイマ設定値およびタイムオーバー時のF番号	SM90に対応	・ステップ移行監視タイマの設定値および監視タイマのタイムオーバーでONするアナンシェータの番号（F番号）を設定する。  ・SM90～SM99を活性ステップ中にONすることでタイマが起動し，タイマ時限内に該当ステップの次の移行条件が成立しないと，設定したアナンシェータ(F)がONする。		D9108	Qn(H) QnPH QnPRH
SD91			SM91に対応			D9109	
SD92			SM92に対応			D9110	
SD93			SM93に対応			D9111	
SD94			SM94に対応			D9112	
SD95			SM95に対応			D9113	
SD96			SM96に対応			D9114	
SD97			SM97に対応			新規	
SD98			SM98に対応				
SD99			SM99に対応				
SD100	伝送速度格納エリア	パラメータで設定された伝送速度を格納	シリアルコミュニケーション機能使用時，パラメータで設定された伝送速度を格納する。 12：1200bps，24：2400bps，48：4800bps， 96：9600bps，192：19200bps，384：38400bps， 576：57600bps，1152：115200bps		S（電源ON，リセット解除時）	新規	Q00/Q01 QnU＊4 LCPU＊7
SD101	通信設定格納エリア	パラメータで設定された通信設定を格納	シリアルコミュニケーション機能使用時，パラメータで設定された通信設定を格納する。 				
SD102	伝送ウェイト時間格納エリア	パラメータで設定された伝送ウェイト時間を格納	シリアルコミュニケーション機能使用時，パラメータで設定された伝文ウェイト時間を格納する。 0：待ち時間なし 10～150：待ち時間（単位：ms） デフォルト：0				

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD105	CH1 伝送速度設定（RS-232）	伝送速度（RS-232）を格納	伝送速度を格納する。（未接続時は，デフォルト値＝ 1152 となる。） 96：9600bps，192：19200bps，384：38400bps， 576：57600bps，1152：115200bps	S	新規	Qn(H) QnPH QnPRH
			伝送速度を格納する。（未接続時は，デフォルト値＝ 1152 となる。） ただし，シリアルコミュニケーション機能使用時*8 は，パラメータで設定された伝送速度を格納する。 96：9600bps，192：19200bps，384：38400bps， 576：57600bps，1152：115200bps			QnU *3
			伝送速度を格納する。（L02SCPU，L02SCPU-P，RS-232 アダプタ接続時は，デフォルト値＝ 1152 となる。） ただし，シリアルコミュニケーション機能使用時は，パラメータで設定された伝送速度を格納する。 96：9600bps，192：19200bps，384：38400bps， 576：57600bps，1152：115200bps			LCPU
SD110	データ送信結果格納エリア	データ送信結果を格納	シリアルコミュニケーション機能使用時のデータ送信時のエラーコードが格納される。	S（エラー発生）		Q00/Q01 QnU *4 LCPU *7
SD111	データ受信結果格納エリア	データ受信結果を格納	シリアルコミュニケーション機能使用時のデータ受信時のエラーコードが格納される。			
SD118	バッテリ使用度	バッテリ使用度	現在のバッテリ使用度が格納される。 【値の範囲】 • 1 ～ 2：Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU，Q02UCPU，Q03UD(E)CPU，Q04UD(E)HCPU，L02SCPU，L02SCPU-P，L02CPU，L02CPU-P • 1 ～ 3：Q06UD(E)HCPU，L06CPU，L06CPU-P，L26CPU，L26CPU-P，L26CPU-BT，L26CPU-PBT • 1 ～ 4：Q10UD(E)HCPU，Q20UD(E)HCPU，Q13UD(E)HCPU，Q26UD(E)HCPU • 1 ～ 5：Q50UDEHCPU，Q100UDEHCPU	S（状態変化）		QnU(QnUDV，QnUDPV は除く） LCPU
SD119	バッテリ長寿命化要因	バッテリ長寿命化要因	バッテリ長寿命化機能が有効になっている要因が格納される。本レジスタが「0」以外のとき，バッテリ長寿命化機能が有効な状態である。 		
SD130 SD131 SD132 SD133 SD134 SD135 SD136 SD137	ヒューズ断ユニット	ヒューズ断ユニットの 16 点単位のビットパターン 0：ヒューズ断なし 1：ヒューズ断あり	• ヒューズ断状態になっている出力ユニット番号（16 点単位）が下記のビットパターンで格納される。（パラメータで設定しているときは設定されている番号）  出力点数が 16 点を超えるユニットでは，ユニットが占有する出力点数の先頭 16 点に該当する出力ユニット番号（16 点単位）のみ ON する。 例 64 点のユニットを 0 スロットに装着している場合， ヒューズ断を検出すると b0 のみが ON する。 • 正常になってもクリアされない。エラーの解除を行うと，クリアされる。	S（エラー発生）		Q00J/Q00/Q01

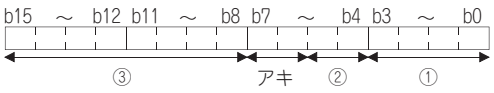
<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD150
SD151
SD152
SD153
SD154
SD155
SD156

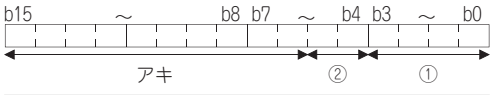
SD157</td><td>入出力ユニット照合エラー</td><td>入出力ユニット照合エラーユニットの 16 点単位のビットパターン
0：入出力照合エラーなし
1：入出力照合エラーあり</td><td>・電源ON時に登録された入出力ユニット情報と異なる入出力ユニットが検知されたとき，その入出力ユニット番号（16 点単位）が下記のビットパターンで格納される。（パラメータで設定しているときは設定されている入出力ユニット番号）
 

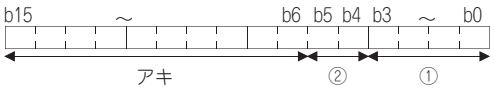
入出力点数が 16 点を超えるユニットでは，ユニットが占有する入出力点数の先頭 16 点に該当する入出力ユニット番号（16 点単位）のみ ON する。
例 64 点のユニットを 0 スロットに装着している場合，エラー検出すると b0 のみ ON する。
・正常になってもクリアされない。エラーの解除を行うと，クリアされる。</td><td>S（エラー発生）</td><td rowspan="3">新規</td><td>Q00J/Q00/Q01</td></tr>
<tr><td>SD180
SD181</td><td>最新 IP パケット中継データ量</td><td>最新 IP パケット中継データ量（下位）
最新 IP パケット中継データ量（上位）</td><td>中継した IP パケットの単位時間（1 秒）あたりの合計サイズ（バイト）の最新値が格納される。
範囲：0 ～ 4294967295(FFFFFFFF$_H$)</td><td rowspan="2">S（状態変化）</td><td rowspan="2">QnU *5
LCPU *6</td></tr>
<tr><td>SD182
SD183</td><td>最大 IP パケット中継データ量</td><td>最大 IP パケット中継データ量（下位）
最大 IP パケット中継データ量（上位）</td><td>中継した IP パケットの単位時間（1 秒）あたりの合計サイズ（バイト）の最大値が格納される。
範囲：0 ～ 4294967295(FFFFFFFF$_H$)</td></tr>
</table>

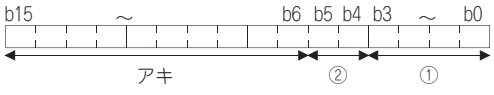
＊1 シリアル No. の上 5 桁が “07032” 以降のユニットが対象です。
＊2 シリアル No. の上 5 桁が “10042” 以降のユニットが対象です。
＊3 RS-232 コネクタを持つユニットが対象です。（Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU を除く）
＊4 RS-232 コネクタを持つ下記のユニットが対象です。
・シリアル No. の上 5 桁が “13062” 以降のユニバーサルモデル QCPU（Q02UCPU はシリアル No. の上 5 桁が “10102” 以降）
・Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU
＊5 シリアル No. の上 5 桁が “14022” 以降の Ethernet ポート内蔵 QCPU が対象です。
＊6 シリアル No. の上 5 桁が “14112” 以降の Ethernet ポート内蔵 LCPU が対象です。
＊7 L02SCPU，L02SCPU-P を除く LCPU は，シリアル No. の上 5 桁が “15102” 以降のユニットが対象です。
＊8 RS-232 コネクタを持つ下記のユニットが対象です。
・シリアル No. の上 5 桁が “13062” 以降のユニバーサルモデル QCPU（Q02UCPU はシリアル No. の上 5 桁が “10102” 以降）

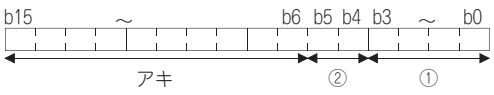
(2) システム情報

<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td rowspan="5">SD200</td><td rowspan="5">スイッチ状態</td><td rowspan="5">CPU スイッチ状態</td><td>・CPU ユニットのスイッチ状態が下記の形式で格納される。
 

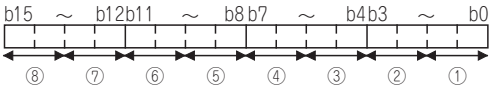
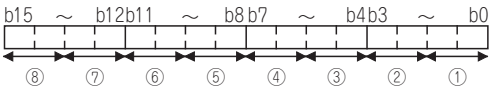
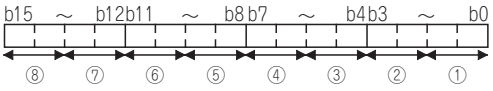
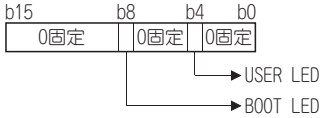
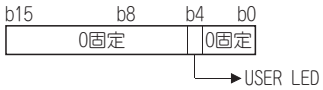
<table>
<tr><td>①：CPUスイッチ状態</td><td>0：RUN
1：STOP
2：L.CLR</td></tr>
<tr><td>②：メモリカード
スイッチ</td><td>常時OFF</td></tr>
<tr><td>③：ディップスイッチ</td><td>b8～b12がシステム設定スイッチ1
のSW1～SW5に対応する。
0でOFF，1でON。
b13～b15はアキ。</td></tr>
</table></td><td rowspan="2">S（毎回 END）</td><td rowspan="5">新規</td><td>Qn(H)
QnPH
QnPRH</td></tr>
<tr><td>CPU ユニットのスイッチ状態が下記の形式で格納される。
 

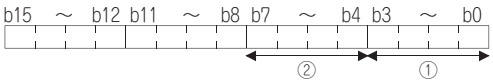
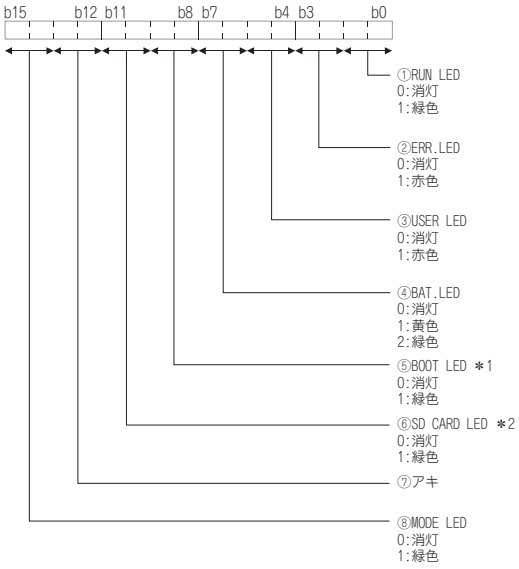
<table>
<tr><td>①： CPUスイッチ状態</td><td>0：RUN
1：STOP</td></tr>
<tr><td>②： メモリカード
スイッチ</td><td>常時OFF。</td></tr>
</table></td><td>Q00J/Q00/
Q01</td></tr>
<tr><td>CPU ユニットのスイッチ状態が下記の形式で格納される。
 

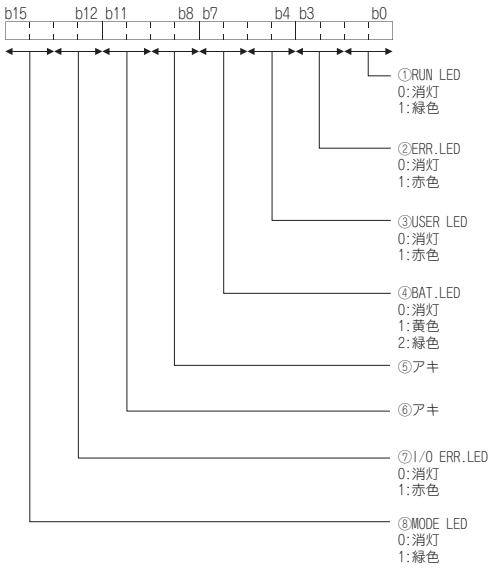
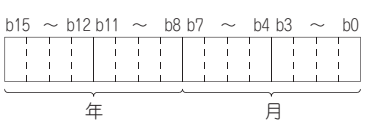
<table>
<tr><td>①： CPUスイッチ状態</td><td>0：RUN
1：STOP</td></tr>
<tr><td>②： メモリカード
スイッチ</td><td>常時OFF。</td></tr>
</table></td><td rowspan="3">S（スイッチ変化時）</td><td>QnU(QnUDV,
QnUDPV は除く）</td></tr>
<tr><td>CPU ユニットのスイッチ状態が下記の形式で格納される。
 

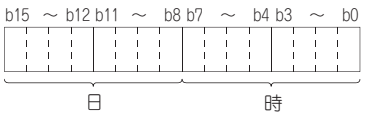
<table>
<tr><td>①： CPUスイッチ状態</td><td>0：RUN
1：STOP</td></tr>
<tr><td>②： SDメモリカード
使用停止スイッチ</td><td>0：OFF
1：ON</td></tr>
</table></td><td>QnUDV
QnUDPV</td></tr>
<tr><td>CPU ユニットのスイッチ状態が下記の形式で格納される。
 

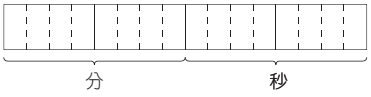
<table>
<tr><td>①： CPUスイッチ状態</td><td>0：RUN
1：STOP</td></tr>
<tr><td>②： SDメモリカード
スイッチ*1</td><td>0：使用不可
1：使用可</td></tr>
</table>
＊1 L02SCPU，L02SCPU-P では，②は 0 固定です。</td><td>LCPU</td></tr>
</table>

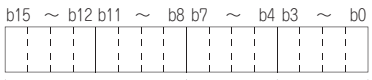
番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD201	LED 状態	CPU-LED 状態	• CPU ユニットの LED が次のうちどの状態であるかを，下記のビットパターンで格納される。 • 0 で消灯，1 で点灯，2 で点滅を示す。  ①：RUN，②：ERR.，③：USER＊1，④：BAT.＊1， ⑤：BOOT＊1，⑥：アキ＊1，⑦：アキ＊1， ⑧：MODE＊1（0：消灯，1：緑色，2：橙色） ＊1 ③～⑧は，ベーシックモデル QCPU では，アキになります。	S（状態変化）	新規	Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH
			• CPU ユニットの LED が次のうちどの状態であるかを，下記のビットパターンで格納される。 • 0 で消灯，1 で点灯，2 で点滅を示す。  ①：RUN，②：ERR.，③：USER，④：BAT.， ⑤：BOOT＊1，⑥：SD CARD＊2，⑦：アキ，⑧：MODE ＊1 ⑤は，Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU では，アキになります。 ＊2 ⑥は，QnUDVCPU，QnUDPVCPU 以外では，アキになります。			QnU
			• CPU ユニットの LED が次のうちどの状態であるかを，下記のビットパターンで格納される。 • 0 で消灯，1 で点灯，2 で点滅を示す。  ①：RUN，②：ERR.，③：USER，④：BAT.，⑤：アキ， ⑥：アキ，⑦：I/O ERR.，⑧：MODE			LCPU
SD202	LED 消灯指令	消灯する LED のビットパターン	• 本レジスタで消灯する LED を指定して，SM202 を OFF → ON することにより指定した LED を消灯する。指定可能な LED は，USER，BOOT＊1 です。 • 消灯する LED は，下記のビットパターンで指定する。（1 で消灯する，0 で消灯しない）  ＊1：Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU では，BOOTLED は指定できません。	U		Qn(H) QnPH QnPRH QnU
			• 本レジスタで消灯する LED を指定して，SM202 を OFF → ON することにより指定した LED を消灯する。指定可能な LED は，USER です。 • 消灯する LED は，下記のビットパターンで指定する。（1 で消灯する，0 で消灯しない）  			LCPU

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD203	CPU 動作状態	CPU 動作状態	CPU ユニットの動作状態が下記のビットパターンで格納される。  ①：CPU動作状態　0：RUN 2：STOP 3：PAUSE ②：STOP/PAUSE要因 ＊1　0：スイッチ 1：リモート接点 2：プログラミングツール／シリアルコミュニケーションなどからのリモート操作 3：プログラム内の命令 4：エラー ＊1　早いもの優先（ただし，ユニバーサルモデル QCPU，LCPU では，動作状態を変更した最新の要因を格納します。）	S（毎回 END）	D9015 変形	QCPU LCPU
SD204	LED 表示色	CPU-LED 表示色	SD201 ①～⑧に示す LED 状態の LED 表示色が格納される。  ＊1　⑤は，Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU では，アキになります。 ＊2　⑥は，QnUDVCPU，QnUDPVCPU 以外では，アキになります。	S（状態変化）	新規	QnU

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD204	LED 表示色	CPU-LED 表示色	SD201 ①～⑧に示す LED 状態の LED 表示色が格納される。  	S（状態変化）	新規	LCPU
SD207	LED 表示優先順位	優先順位 1～4	• 異常発生時に，LED 表示部の優先順位を要因番号で設定する。（ベーシックモデル QCPU では，アナンシェータ（要因番号 7）のみ対応。） • ユニバーサルモデル QCPU，LCPU では，異常発生時の各優先順位に該当するエラーの LED 表示の実行／ 非実行を設定する。 • 優先順位の設定エリアは，次のようになっている。 b15 ～ b12 b11 ～ b8 b7 ～ b4 b3 ～ b0 SD207 優先順位4 優先順位3 優先順位2 優先順位1 SD208 優先順位8 優先順位7 優先順位6 優先順位5 SD209 優先順位12 優先順位11 優先順位10 優先順位9 （優先順位11は，二重化CPU使用時に有効です。） （優先順位12は，LCPU使用時に有効です。） 【デフォルト値】 SD207 = 4321_H（ベーシックモデル QCPU では 0000_H） SD208 = 8765_H（ベーシックモデル QCPU では 0700_H） （二重化 CPU では 0765_H） SD209 = $00A9_H$（ベーシックモデル QCPU では 0000_H） （二重化 CPU では $0B09_H$，LCPU では $CBA9_H$） •「0」を格納すると表示しない。 • ベーシックモデルQCPUでは，優先順位1～11のいずれかに「7」が格納されていると，アナンシェータ ON 時に ERR. LED が点灯する。 • ベーシックモデルQCPUでは，優先順位1～11のいずれの箇所にも「7」が格納されていなければ，アナンシェータが ON しても ERR. LED は点灯しない。ただし，「7」を格納しても CPU ユニットが演算停止（パラメータ設定を含む）するエラーについては，無条件で LED 表示する。	U	D9038	Q00J/ Q00/ Q01 *1 Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
SD208		優先順位 5～8			D9039 変形	
SD209		優先順位 9～12			新規	
SD210	時計データ	時計データ（西暦，月）	下記のように年（西暦，下 2 桁），月が BCD コードで格納される。  例）1993年，7月 9307_H	S（要求時）/U	D9025	QCPU LCPU

<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD211</td><td>時計データ</td><td>時計データ
（日，時）</td><td>下記のように日，時が BCD コードで格納される。
 

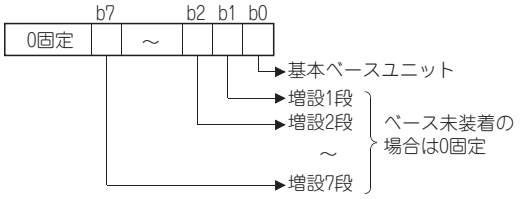
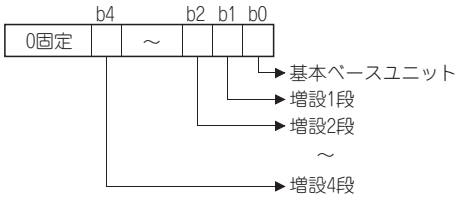
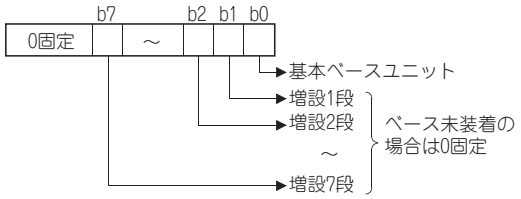
例）31日，10時
3110H</td><td rowspan="3">S（要求時）/U</td><td>D9026</td><td rowspan="3">QCPU
LCPU</td></tr>
<tr><td>SD212</td><td>時計データ</td><td>時計データ
（分，秒）</td><td>下記のように分，秒が BCD コードで格納される。
 

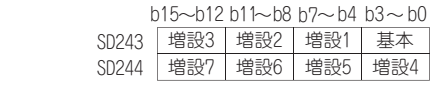
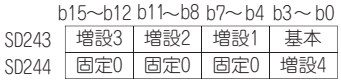
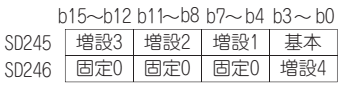
例）35分，48秒
3548H</td><td>D9027</td></tr>
<tr><td>SD213</td><td>時計データ</td><td>時計データ
（西暦上位，曜日）</td><td>下記のように年（西暦，上 2 桁）と曜日が BCD コードで格納される。
 

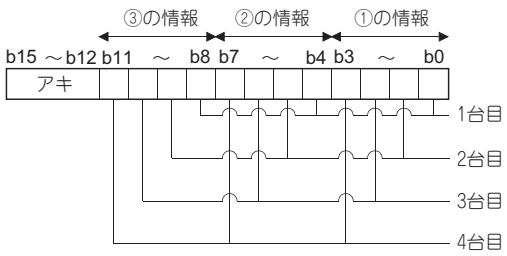
例）1993年，
金曜日
1905H

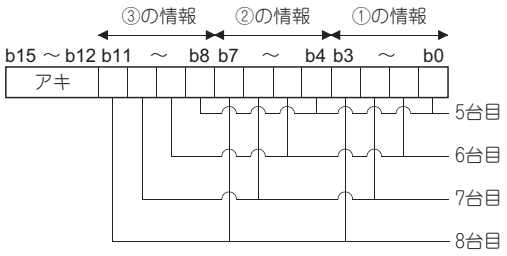
</td><td>D9028</td></tr>
<tr><td>SD220
SD221
SD222
SD223
SD224
SD225
SD226
SD227</td><td>表示器データ</td><td>表示器データ</td><td>・表示器のアスキーデータ（16 文字分）が格納される。（ベーシックモデル QCPU では，エラー発生時（アナンシェータ ON 時も含む）のメッセージ（アスキーデータ 16 文字分）が格納される。）

・ベーシックモデル QCPU，ユニバーサルモデル QCPU，または LCPU では，CHK 命令実行時の表示器データは格納されない。</td><td>S（変化時）</td><td rowspan="5">新規</td><td>QCPU
LCPU</td></tr>
<tr><td>SD235</td><td>オンラインユニット交換中ユニット</td><td>オンラインユニット交換中ユニットの先頭入出力番号 ÷10H</td><td>オンラインユニット交換中ユニットの先頭入出力番号 ÷10H が格納される。</td><td>S（オンラインユニット交換実施時）</td><td>QnPH
QnPRH</td></tr>
<tr><td>SD240</td><td>ベースモード</td><td>0：自動モード
1：詳細モード</td><td>ベースモードが格納される。</td><td rowspan="3">S（初期）</td><td>QCPU</td></tr>
<tr><td rowspan="2">SD241</td><td>増設段数</td><td>0：基本のみ
1 ～ 7：増設段数</td><td>実装されている増設ベースユニットの最大段数が格納される。</td><td>QCPU</td></tr>
<tr><td>増設ブロック数</td><td>0：基本のみ
1 ～ 3：増設ブロック数</td><td>実装されている増設ブロックの最大ブロック数が格納される。</td><td>LCPU *9</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td rowspan="3">SD242</td><td>A/Q ベース判別</td><td>ベース種類の判別
0：QA**B を装着（A モード）
1：Q**B を装着（Q モード）</td><td> 
</td><td rowspan="4">S（初期）</td><td rowspan="5">新規</td><td>Qn(H)
QnPH
QnPRH</td></tr>
<tr><td>Q ベース装着有無</td><td>ベース種類の判別
0：ベース未装着
1：Q**B を装着</td><td> 
</td><td>Q00J/Q00/Q01</td></tr>
<tr><td>A/Q ベース判別</td><td>ベース種類の判別
0：
QA1S**B,
QA1S6ADP+A1S**B,
QA**B,
QA6ADP+A**B を装着／ベース未装着
1：
Q**B を装着</td><td> 

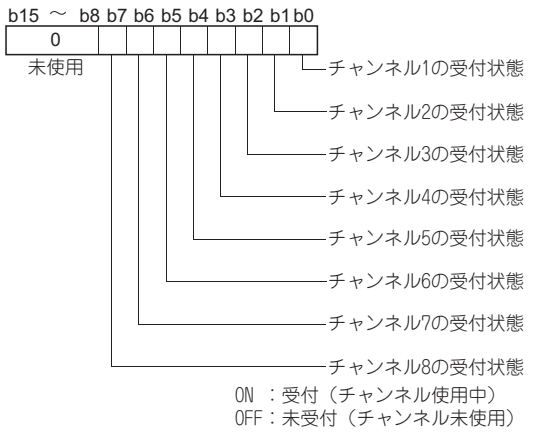
• Q00UJCPU では，増設 3 ～ 7 段は「0」固定です。
• Q00UCPU，Q01UCPU，Q02UCPU では，増設 5 ～ 7 段は「0」固定です。</td><td>QnU</td></tr>
<tr><td>SD243</td><td rowspan="2">ベーススロット枚数</td><td rowspan="4">ベーススロット枚数</td><td rowspan="2">• 下記の各エリアに実装されているベースユニットのスロット枚数が格納される。
 
• Q00UJCPU では，増設 3 ～ 7 段は「0」固定です。
• Q00UCPU，Q01UCPU，Q02UCPU では，増設 5 ～ 7 段は「0」固定です。</td><td rowspan="2">Qn(H)
QnPH
QnPRH
QnU</td></tr>
<tr><td>SD244</td></tr>
<tr><td>SD243</td><td rowspan="2">ベーススロット枚数（動作状態）</td><td rowspan="2">下記の各エリアに実装されているベースユニットのスロット枚数が格納される。（パラメータ設定しているときは設定されているスロット枚数）
  </td><td rowspan="2">Q00J/Q00/Q01</td></tr>
<tr><td>SD244</td></tr>
<tr><td>SD245</td><td rowspan="2">ベーススロット枚数（装着状態）</td><td rowspan="2">下記の各エリアにベースユニット装着状態のスロット枚数（装着ベースユニットの実スロット枚数）が格納される。
  </td><td rowspan="2">Q00J/Q00/Q01 *1</td></tr>
<tr><td>SD246</td></tr>
<tr><td rowspan="2">SD250</td><td rowspan="2">実装最大入出力</td><td rowspan="2">実装最大入出力番号</td><td>SM250 を OFF→ON したとき実装されているユニットの最終入出力番号＋ 1 の上位 2 桁が格納される。</td><td>S（要求 END）</td><td>Qn(H)
QnPH
QnPRH</td></tr>
<tr><td>実装されているユニットの最終入出力番号 +1 を 16 で割った値を格納する。
例 1:　最終入出力番号 010F SD250=0011_H
例 2:　最終入出力番号 0FFF SD250=0100_H</td><td>S（初期）</td><td>Q00J/Q00/Q01
QnU
LCPU</td></tr>
</table>

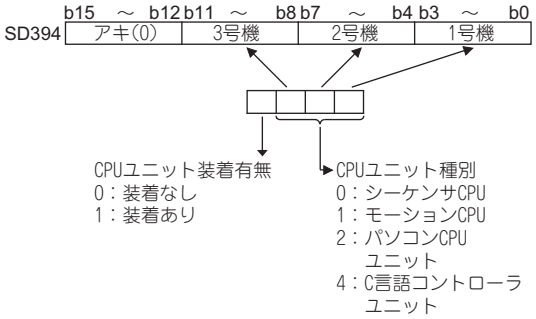
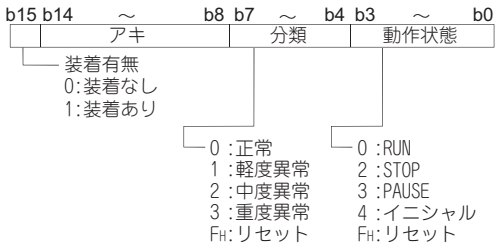
<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th colspan="2">内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD254</td><td rowspan="11">MELSECNET/10,
MELSECNET/H 情報</td><td colspan="2">装着枚数</td><td>装着されている MELSECNET/10 ユニットまたは
MELSECNET/H ユニットの枚数を示す。</td><td rowspan="11">S（初期）</td><td rowspan="13">新規</td><td rowspan="5">QCPU</td></tr>
<tr><td>SD255</td><td rowspan="5">1 枚目情報</td><td>I/O No.</td><td>装着されている MELSECNET/10 ユニットまたは
MELSECNET/H ユニットの入出力番号を示す。</td></tr>
<tr><td>SD256</td><td>ネットワーク No.</td><td>装着されている MELSECNET/10 ユニットまたは
MELSECNET/H ユニットのネットワーク No. を示す。</td></tr>
<tr><td>SD257</td><td>グループ No.</td><td>装着されている MELSECNET/10 ユニットまたは
MELSECNET/H ユニットのグループ No. を示す。</td></tr>
<tr><td>SD258</td><td>局 No.</td><td>装着されている MELSECNET/10 ユニットまたは
MELSECNET/H ユニットの局 No. を示す。</td></tr>
<tr><td>SD259</td><td>待機情報</td><td>待機局の場合，何枚目の待機局かが格納される。（1 ～ 4）</td><td rowspan="2">Qn(H)
QnPH
QnPRH
QnU *2</td></tr>
<tr><td>SD260
～
SD264</td><td colspan="2">2 枚目情報</td><td>データ構成は，1 枚目（SD255 ～ SD259）と同じ。</td></tr>
<tr><td>SD265
～
SD269</td><td colspan="2">3 枚目情報</td><td>データ構成は，1 枚目（SD255 ～ SD259）と同じ。</td><td rowspan="2">Qn(H)
QnPH
QnPRH
QnU *3</td></tr>
<tr><td>SD270
～
SD274</td><td colspan="2">4 枚目情報</td><td>データ構成は，1 枚目（SD255 ～ SD259）と同じ。</td></tr>
<tr><td>SD280</td><td rowspan="2">CC-Link エラー</td><td rowspan="2" colspan="2">エラー検出状態</td><td>下記のビットパターンで格納される。
 

①：装着されている CC-Link ユニットの Xn0 が ON すると，該当局のビットが 1（ON）になる。
②：装着されている CC-Link ユニットの Xn1/XnF のいずれかが OFF すると，該当局のビットが 1（ON）になる。
③：装着されている CC-Link ユニットと CPU ユニットが交信できない場合に 1（ON）になる。
上記の n 台目は，先頭入出力番号順である。（ただし，パラメータ設定のないものについてはカウントしない。）</td><td rowspan="2">S（エラー発生）</td><td>Qn(H)
QnPH
QnPRH</td></tr>
<tr><td>SD281</td><td>下記のビットパターンで格納される。
 

①：装着されている CC-Link ユニットの Xn0 が ON すると，該当局のビットが 1（ON）になる。
②：装着されている CC-Link ユニットの Xn1/XnF のいずれかが OFF すると，該当局のビットが 1（ON）になる。
③：装着されている CC-Link ユニットと CPU ユニットが交信できない場合に 1（ON）になる。
上記の n 台目は，先頭入出力番号順である。（ただし，パラメータ設定のないものについてはカウントしない。）</td><td>Qn(H) *4
QnPH *4
QnPRH *5</td></tr>
</table>

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD282	デバイス割付	D 割付点数（内部デバイス拡張用）	• D の割付点数が 32 ビットで格納される。（拡張データレジスタの点数は除く） • D の割付点数が 32K 点以下でも，点数を割り付けられる。	S（初期）	新規	QnUDV QnUDPV
SD283						
SD284		W 割付点数（内部デバイス拡張用）	• W の割付点数が 32 ビットで格納される。（拡張リンクレジスタの点数は除く） • W の割付点数が 32K 点以下でも，点数を割り付けられる。			
SD285						
SD286	デバイス割付	M 割付点数（拡張用）	• M の割付点数が 32 ビットで格納される。 • M の割付点数が 32K 点以下でも，点数を割り付けられる。			QnU *6 LCPU
SD287						
SD288		B 割付点数（拡張用）	• B の割付点数が 32 ビットで格納される。 • B の割付点数が 32K 点以下でも，点数を割り付けられる。			
SD289						
SD290	デバイス割付（パラメータの内容と同じ）	X 割付点数	現在設定されている X の点数が格納される。			QCPU LCPU
SD291		Y 割付点数	現在設定されている Y の点数が格納される。			
SD292		M 割付点数	現在設定されている M の点数が格納される。 M の割付点数が 32769 点以上の場合 ,32768(8000_H) が格納される。			
SD293		L 割付点数	現在設定されている L の点数が格納される。			
SD294		B 割付点数	現在設定されている B の点数が格納される。 B の割付点数が 32769 点以上の場合 ,32768(8000_H) が格納される。			
SD295		F 割付点数	現在設定されている F の点数が格納される。			
SD296		SB 割付点数	現在設定されている SB の点数が格納される。			
SD297		V 割付点数	現在設定されている V の点数が格納される。			
SD298		S 割付点数	現在設定されている S の点数が格納される。			
SD299		T 割付点数	現在設定されている T の点数が格納される。			
SD300		ST 割付点数	現在設定されている ST の点数が格納される。			
SD301		C 割付点数	現在設定されている C の点数が格納される。			
SD302		D 割付点数	現在設定されている D の点数が格納される。（拡張データレジスタの点数は除く。） D の割付点数が 32769 点以上の場合 ,32768(8000_H) が格納される。			
SD303		W 割付点数	現在設定されている W の点数が格納される。（拡張リンクレジスタの点数は除く。） W の割付点数が 32769 点以上の場合 ,32768(8000_H) が格納される。			
SD304		SW 割付点数	現在設定されている SW の点数が格納される。			
SD305	デバイス割付（インデックスレジスタ）	16 ビット修飾 Z 割付点数	• 16 ビットの範囲で修飾するインデックスレジスタ（Z）の点数が格納される。（パラメータの ZR のインデックス修飾設定による。） • PC パラメータの “デバイス設定” の “デバイスのインデックス修飾設定 ” で，“ZZ を使用 ” にしている場合，$FFFF_H$ が格納される。			QnU LCPU
SD306	デバイス割付（パラメータの内容と同じ）	ZR 割付点数（拡張）	ZR の点数が格納される。（拡張データレジスタ（D），拡張リンクレジスタ（W）の点数は除く。）拡張データレジスタ（D），拡張リンクレジスタ（W）を 1K 点以上設定しているときのみ，ZR の割付点数を本レジスタに格納する。			QnU *7 LCPU
SD307						
SD308	デバイス割付（拡張データレジスタ（D），拡張リンクレジスタ（W）設定分含む割付）	D 割付点数（内部＋拡張）	内部デバイスメモリエリアのデータレジスタ（D）と拡張データレジスタ（D）の合計点数が 32 ビット BIN 値で格納される。			
SD309						
SD310		W 割付点数（内部＋拡張）	内部デバイスメモリエリアのリンクレジスタ（W）と拡張リンクレジスタ（W）の合計点数が 32 ビット BIN 値で格納される。			
SD311						

番号	名称	内容		内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD315	通信処理確保時間	通信処理確保時間		• プログラミングツールなどの通信処理時間を指定時間分確保する。 • 指定した値が大きいほど，プログラミングツールやシリアルコミュニケーションユニットなどとの通信の応答時間が高速になる。ただし，指定した時間分スキャンタイムが延びる。 • 設定範囲：1 ～ 100ms 上記範囲以外を設定した場合は，設定なしとして処理される。	U	新規	Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH
SD329	非活性ブロック RUN 中書込み対象ブロック No.	SFC ブロック No.		• 非活性ブロック RUN 中書込み中（SM329 = ON）の間，対象 SFC ブロック No. が格納される。 • 非活性ブロック RUN 中書込み中でない場合，$FFFF_H$ が格納される。	S（状態変化）		QnU *8 LCPU *14
SD339	ラッチクリア機能動作設定	ラッチクリア機能動作設定		本レジスタに $5A01_H$ を設定することで SM339（ラッチクリア機能実行指令）が有効となる。SM339 の操作によるラッチクリア終了後，本レジスタは 0 クリアされる。	S（状態変化）/U		QnUDV *12 QnUDPV *13 LCPU *11
SD340	Ethernet 情報	装着枚数		装着されている Ethernet ユニットの枚数を示す。	S（初期）		QCPU LCPU *10
SD341		1 枚目情報	I/O No.	装着されている Ethernet ユニットの入出力番号を示す。			
SD342			ネットワーク No.	装着されている Ethernet ユニットのネットワーク No. を示す。			
SD343			グループ No.	装着されている Ethernet ユニットのグループ No. を示す。			
SD344			局 No.	装着されている Ethernet ユニットの局 No. を示す。			
SD345 ～ SD346			アキ	アキ（1 枚目に装着されている Ethernet ユニットの IP アドレスがバッファメモリに格納される。）			Qn(H) QnPH QnPRH QnU *2 LCPU *10
SD347			アキ	アキ（1 枚目に装着されている Ethernet ユニットのエラーコードが ERRRD 命令で読み出される。）			
SD348 ～ SD354	Ethernet 情報	2 枚目情報		データ構成は，1 枚目（SD341 ～ SD347）と同じ。			
SD355 ～ SD361		3 枚目情報		データ構成は，1 枚目（SD341 ～ SD347）と同じ。			Qn(H) QnPH QnPRH QnU *3
SD362 ～ SD368		4 枚目情報		データ構成は，1 枚目（SD341 ～ SD347）と同じ。			
SD380	Ethernet 命令受付状態	1 枚目命令受付状態			S（実行命令）		QnPRH

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD381	Ethernet 命令受付状態	2 枚目命令受付状態	データ構成は，1 枚目（SD380）と同じ。	S（実行命令）	新規	QnPRH
SD382		3 枚目命令受付状態	データ構成は，1 枚目（SD380）と同じ。			
SD383		4 枚目命令受付状態	データ構成は，1 枚目（SD380）と同じ。			
SD393	マルチ CPU システム情報	マルチ CPU 台数	マルチ CPU を構成している CPU ユニットの台数が格納される。（1 ～ 4，アキも含む）	S（初期）		Q00/Q01 *1 QnU
SD394		CPU 装着情報	1 ～ 3 号機の CPU ユニット種別と CPU ユニット装着有無が格納される。 			Q00/Q01 *1
SD395		マルチ CPU 号機番号	マルチ CPU システム構成時，自号機の号機番号が格納される。1 号機：1，2 号機：2，3 号機：3，4 号機：4			Q00/Q01 *1 Qn(H) *1 QnPH QnU
SD396		1 号機動作状態	号機ごとの動作情報が格納される。（SD393 で示されるマルチ CPU 台数分の情報が格納される。） 	S（END 処理エラー発生時）		Q00/Q01 *1 QnU
SD397		2 号機動作状態				Q00/Q01 *1 QnU *7
SD398		3 号機動作状態				
SD399		4 号機動作状態				QnU *3

＊1　機能バージョン B 以降が対象です。
＊2　Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU を除くユニバーサルモデル QCPU が対象です。
＊3　Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU，Q02UCPU を除くユニバーサルモデル QCPU が対象です。
＊4　シリアル No. の上 5 桁が “08032” 以降のユニットが対象です。
＊5　シリアル No. の上 5 桁が “09102” 以降のユニットが対象です。
＊6　シリアル No. の上 5 桁が “10042” 以降のユニットが対象です。
＊7　Q00UJCPU を除くユニバーサルモデル QCPU が対象です。
＊8　シリアル No. の上 5 桁が “12052” 以降のユニットが対象です。
＊9　シリアル No. の上 5 桁が “13072” 以降のユニットが対象です。
＊10 シリアル No. の上 5 桁が “14112” 以降の Ethernet ポート内蔵 LCPU が対象です。
＊11 シリアル No. の上 5 桁が “15042” 以降のユニットが対象です。
＊12 シリアル No. の上 5 桁が “15043” 以降のユニットが対象です。
＊13 シリアル No. の上 5 桁が “15072” 以降のユニットが対象です。
＊14 L02CPU，L02SCPU，L02CPU-P，L02SCPU-P を除くシリアル No. の上 5 桁が “15102” 以降のユニットが対象です。

(3) システムクロック／カウンタ

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD412	1 秒カウンタ	1 秒単位のカウント数	• CPU ユニット RUN 後，1 秒ごとに +1 される。 • カウントは 0 → 32767 → -32768 → 0 を繰り返す。	S（状態変化）	D9022	QCPU LCPU
SD414	2n 秒クロック設定	2n 秒クロックの単位	• 2n 秒クロックの n を格納する。（デフォルト：30） • 1 ～ 32767 まで設定可能	U	新規	
SD415	2nms クロック設定	2nms クロックの単位	• 2nms クロックの n を格納する。（デフォルト：30） • 1 ～ 32767 まで設定可能			Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
SD420	スキャンカウンタ	1 スキャンごとのカウント数	• CPU ユニット RUN 後，スキャン実行タイププログラムの 1 スキャンごとに +1 される。（初期実行タイププログラムのスキャンではカウントされない。） • カウントは 0 → 32767 → -32768 → 0 を繰り返す。	S（毎回 END）		
			• CPU ユニット RUN 後，1 スキャンごとに +1 される。 • カウントは 0 → 32767 → -32768 → 0 を繰り返す。			Q00J/Q00/Q01
SD430	低速スキャンカウンタ	1 スキャンごとのカウント数	• CPU ユニット RUN 後，低速実行タイププログラムの 1 スキャンごとに +1 される。 • カウントは 0 → 32767 → -32768 → 0 を繰り返す。 • 低速実行タイププログラム専用			Qn(H) QnPH

(4) スキャン情報

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD500	実行プログラム No.	実行中のプログラム No.	現在実行中のプログラム No. が BIN で格納される。	S（状態変化）	新規	Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
SD510	低速実行タイププログラム No.	実行中の低速実行タイププログラム No.	• 実行中の低速実行タイププログラムNo.がBINで格納される。 • SM510 が ON 時のみ有効である。	S（毎回 END）		Qn(H) QnPH
SD520	現在スキャンタイム	現在スキャンタイム（ms の位）	• 現在のスキャンタイムが格納される。(計測は 100μs 単位で行う。（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU では ,1 μs 単位で行う。)） SD520：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD521：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU での格納範囲は，0 ～ 999)） 例：現在のスキャンタイム 23.6ms の場合，次のように格納される。 ・SD520 = 23 ・SD521 = 600 • STOP 時に 0 クリアされる。		D9018 変形	QCPU LCPU
SD521		現在スキャンタイム（μs の位）			新規	
SD522	初期スキャンタイム	初期スキャンタイム（ms の位）	• 初期実行タイププログラムのスキャンタイムが格納される。(計測は 100μs 単位で行う。（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU では ,1 μs 単位で行う。)） SD522：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD523：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU での格納範囲は，0 ～ 999)） • STOP → RUN 時に一度 0 クリアされる。	S（初回 END）		Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
SD523		初期スキャンタイム（μs の位）				
SD524	最小スキャンタイム	最小スキャンタイム（ms の位）	• スキャンタイムの最小値が格納される。(計測は 100μs 単位で行う。） SD524：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD525：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900） • STOP → RUN 時に一度 0 クリアされる。	S（毎回 END）		Q00J/Q00/Q01
SD525		最小スキャンタイム（μs の位）				
SD526	最大スキャンタイム	最大スキャンタイム（ms の位）	• スキャンタイムの最大値が格納される。(計測は 100μs 単位で行う。） SD526：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD527：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900） • STOP → RUN 時に一度 0 クリアされる。			
SD527		最大スキャンタイム（μs の位）				
SD524	最小スキャンタイム	最小スキャンタイム（ms の位）	• 初期実行タイププログラムのスキャンタイムを除く，スキャンタイムの最小値が格納される。(計測は 100μs 単位で行う。（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU では ,1 μs 単位で行う。)） SD524：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD525：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU での格納範囲は，0 ～ 999)） • STOP → RUN 時に一度 0 クリアされる。		D9017 変形	Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
SD525		最小スキャンタイム（μs の位）			新規	
SD526	最大スキャンタイム	最大スキャンタイム（ms の位）	• 初期実行タイププログラムのスキャンタイムを除く，スキャンタイムの最大値が格納される。(計測は 100μs 単位で行う。（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU では ,1 μs 単位で行う。)） SD526：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD527：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU での格納範囲は，0 ～ 999)） • STOP → RUN 時に一度 0 クリアされる。		D9019 変形	
SD527		最大スキャンタイム（μs の位）			新規	

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD528	低速実行タイププログラム用現在スキャンタイム	現在スキャンタイム（ms の位）	• 低速実行タイププログラムの現在のスキャンタイムが格納される。（計測は 100μs 単位で行う。） SD528：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD529：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900） • STOP 時に 0 クリアされる。	S（毎回 END）	新規	Qn(H) QnPH
SD529		現在スキャンタイム（μs の位）				
SD532	低速実行タイププログラム用最小スキャンタイム	最小スキャンタイム（ms の位）	• 低速実行タイププログラムのスキャンタイムの最小値が格納される。（計測は 100μs 位で行う。） SD532：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD533：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900） • STOP → RUN 時に一度 0 クリアされる。			
SD533		最小スキャンタイム（μs の位）				
SD534	低速実行タイププログラム用最大スキャンタイム	最大スキャンタイム（ms の位）	• 低速実行タイププログラムの 1 スキャン目を除く，スキャンタイムの最大値が格納される。（計測は 100μs 単位で行う。） SD534：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD535：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900） • STOP → RUN 時に一度 0 クリアされる。			
SD535		最大スキャンタイム（μs の位）				
SD540	END 処理時間	END 処理時間（ms の位）	• スキャンプログラム終了後，次のスキャン開始までの時間が格納される。（計測は 100μs 単位で行う。） SD540：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD541：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900） • STOP → RUN 時に一度 0 クリアされる。			Q00J/Q00/Q01
SD541		END 処理時間（μs の位）				
SD540	END 処理時間	END 処理時間（ms の位）	• スキャン実行タイププログラム終了後，次のスキャン開始までの時間が格納される。（計測は 100μs 単位で行う。（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU では，1μs 単位で行う。）） SD540：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD541：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU での格納範囲は，0 ～ 999）） • STOP → RUN 時に一度 0 クリアされる。			Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU
SD541		END 処理時間（μs の位）				
SD542	コンスタントスキャン待ち時間	コンスタントスキャン待ち時間（ms の位）	• コンスタントスキャン設定時の待ち時間が格納される。（計測は 100μs 単位で行う。（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU では，1μs 単位で行う。）） SD542：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD543：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU での格納範囲は，0 ～ 999）） • STOP → RUN 時に一度 0 クリアされる。			QCPU LCPU
SD543		コンスタントスキャン待ち時間（μs の位）				
SD544	低速実行タイププログラム累積実行時間	低速実行タイププログラム累積実行時間（ms の位）	• 低速実行タイププログラムの累積実行時間が格納される。（計測は 100μs 単位で行う。） SD544：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD545：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900） • 低速 1 スキャン終了後に 0 クリアされる。 • STOP → RUN 時に一度 0 クリアされる。			Qn(H) QnPH
SD545		低速実行タイププログラム累積実行時間（μs の位）				
SD546	低速実行タイププログラム実行時間	低速実行タイププログラム実行時間（ms の位）	• 1 スキャン中の低速実行タイププログラムの実行時間が格納される。（計測は 100μs 単位で行う。） SD546：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD547：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900） • 毎スキャン格納される。 • STOP → RUN 時に一度 0 クリアされる。			
SD547		低速実行タイププログラム実行時間（μs の位）				

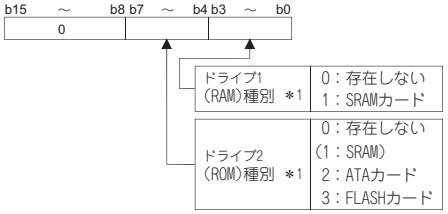
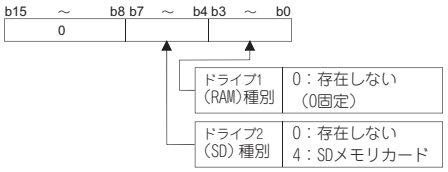
番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD548	スキャンプログラム実行時間	スキャンプログラム実行時間（ms の位）	• 1 スキャン中のスキャンプログラムの実行時間が格納される。（計測は 100μs 単位で行う。（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU では ,1μs 単位で行う。）） SD548：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD549：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900（ユニバーサルモデル QCPU，LCPU での格納範囲は，0 ～ 999）） • 毎スキャン格納される。 • STOP → RUN 時に一度 0 クリアされる。	S（毎回 END）	新規	Q00J/Q00/Q01 QnU LCPU
SD549		スキャンプログラム実行時間（μs の位）				
SD548	スキャン実行タイププログラム実行時間	スキャン実行タイププログラム実行時間（ms の位）	• 1 スキャン中のスキャン実行タイププログラムの実行時間が格納される。（計測は 100μs 単位で行う。） SD548：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD549：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900） • 毎スキャン格納される。 • STOP → RUN 時に一度 0 クリアされる。			Qn(H) QnPH QnPRH
SD549		スキャン実行タイププログラム実行時間（μs の位）				
SD550	サービス間隔測定ユニット	ユニット No.	サービス間隔を測定するユニットの入出力番号を設定する。	U		
SD551	サービス間隔時間	ユニットサービス間隔（ms の位）	SM551 を ON したときに，SD550 で指定のユニットに対するサービス間隔が格納される。（計測は 100μs 単位で行う。） SD551：ms の位を格納 （格納範囲：0 ～ 65535） SD552：μs の位を格納（格納範囲：0 ～ 900）	S（要求時）		
SD552		ユニットサービス間隔（μs の位）				

(5) 表示ユニット情報

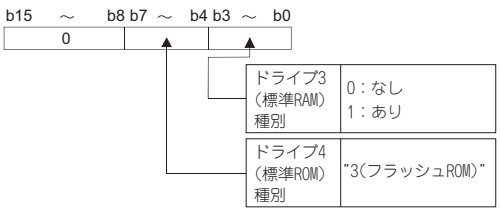
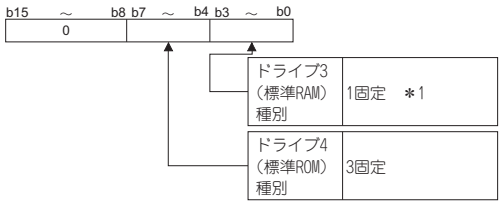
番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD581	表示ユニット言語情報	表示ユニットが表示している言語情報	表示ユニットが表示している言語情報が格納される。格納される値を下記に示す。 • 1：英語 • 2：日本語	S（状態変化）	新規	LCPU *1

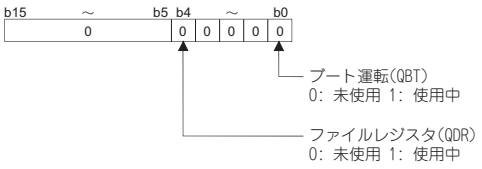
＊1　シリアル No. の上 5 桁が “12112” 以降のユニットが対象です。

(6) ドライブ情報

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD600	メモリカード種別	メモリカード種別	装着されているメモリカードの種別が下記のビットパターンで格納される。  ＊1：Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU では，ドライブ1（RAM）種別，ドライブ2（ROM）種別が 0 固定です。	S（初期およびカード脱着時）	新規	Qn(H) QnPH QnPRH QnU(QnUDV，QnUDPV は除く）
		SD メモリカード種別	装着されているメモリカードの種別が下記のビットパターンで格納される。  			QnUDV QnUDPV LCPU
SD602	ドライブ 1（メモリカード RAM）容量	ドライブ 1 の容量	ドライブ 1 の容量が 1K バイト単位で格納される。（フォーマット後の空き容量が格納される。）			Qn(H) QnPH QnPRH QnU ＊2(QnUDV，QnUDPV は除く）
SD603	ドライブ 2（メモリカード ROM）容量	ドライブ 2 の容量	ドライブ 2 の容量が 1K バイト単位で格納される。＊1 ＊1 Q2MEM-8MBA を使用した場合は，ATA カードの製造管理番号によって SD603 に格納される値が異なります。詳細については，下記のマニュアルを参照してください。 使用している CPU ユニットのユーザーズマニュアル（ハードウェア設計・保守点検編）			
	ドライブ 2（メモリカード SD）容量		ドライブ 2 の容量が 1K バイト単位で格納される。（フォーマット後の空き容量が格納される。） 容量が 32768K バイト以上であっても，32767K バイトとなる。			QnUDV QnUDPV
SD604	メモリカード使用状況	メモリカード使用状況	メモリカードの使用状況が下記のビットパターンで格納される。（ON で使用中） b0：ブート運転(QBT) b1：パラメータ(QPA) b2：デバイスコメント(QCD) b3：デバイス初期値(QDI) b4：ファイルレジスタ(QDR) b5：サンプリングトレース(QTD) b6：未使用 b7：未使用 b8 ：未使用 b9 ：エラー履歴（QFD） b10：未使用 b11：ローカルデバイス(QDL) b12：未使用 b13：未使用 b14：未使用 b15：未使用	S（状態変化）		Qn(H) QnPH QnPRH

<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td rowspan="2">SD604</td><td rowspan="2">メモリカード使用状況</td><td>メモリカード使用状況</td><td>メモリカードの使用状況が下記のビットパターンで格納される。（ON で使用中）
<table><tr><td>b0：ブート運転(QBT)＊1
b1：パラメータ(QPA)
b2：デバイスコメント(QCD)
b3：デバイス初期値(QDI)＊2
b4：ファイルレジスタ(QDR)＊4
b5：サンプリングトレース(QTD)
b6：未使用
b7：バックアップデータ(QBP)＊3</td><td>b8 ：未使用
b9 ：未使用
b10：未使用
b11：ローカルデバイス(QDL)＊4
b12：未使用
b13：データロギング設定(QLG)＊5
b14：未使用
b15：未使用</td></tr></table>＊1 ブート開始時に ON し，終了時に OFF になる。
＊2 デバイス初期値反映開始時に ON し，終了時に OFF になる。
＊3 シリアル No. の上 5 桁が “10102” 以降のユニットが対象です。
＊4 QnUDVCPU，QnUDPVCPU では 0 固定。
＊5 QnUDVCPU，QnUDPVCPU のみ格納される。データロギング設定登録時に ON し，データロギング完了時，停止時に OFF になる。</td><td rowspan="2">S（状態変化）</td><td rowspan="11">新規</td><td>QnU＊2</td></tr>
<tr><td>SD メモリカード使用状況</td><td>SD メモリカードの使用状況が下記のビットパターンで格納される。（ON で使用中）
<table><tr><td>b0：ブート運転(QBT)*1
b1：パラメータ(QPA)
b2：デバイスコメント(QCD)
b3：デバイス初期値(QDI)*2
b4：未使用
b5：未使用
b6：未使用
b7：バックアップデータ(QBP)</td><td>b8 ：未使用
b9 ：未使用
b10：未使用
b11：未使用
b12：通信プロトコル設定(QPT)*5
b13：データロギング設定(QLG)*3
b14：プロジェクトの一括セーブ／ロード，iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストア*4
b15：未使用</td></tr></table>＊1 ブート開始時に ON し，終了時に OFF になる。
＊2 デバイス初期値反映開始時に ON し，終了時に OFF になる。
＊3 データロギング設定登録時に ON し，データロギング完了時，停止時に OFF になる。
＊4 下記の場合，ON になる。
・プロジェクトの一括セーブ中，または一括ロード中
・iQ Sensor Solution 対応バックアップ中，またはリストア中
＊5 通信プロトコル設定データのチェック中に ON し，完了時に OFF になる。</td><td>QnUDV
QnUDPV
LCPU</td></tr>
<tr><td>SD606</td><td rowspan="2">ドライブ 2（メモリカード SD）容量</td><td>ドライブ 2 の容量（下位）</td><td rowspan="2">ドライブ 2 の容量が 1M バイト単位で格納される。（フォーマット後の空き容量が格納される。）</td><td rowspan="2">S（初期およびカード脱着時）</td><td rowspan="4">QnUDV
QnUDPV
LCPU</td></tr>
<tr><td>SD607</td><td>ドライブ 2 の容量（上位）</td></tr>
<tr><td>SD616</td><td rowspan="2">ドライブ 2（メモリカード SD）容量</td><td>ドライブ 2 の空き容量（下位）</td><td rowspan="2">ドライブ 2 の空き容量が 1M バイト単位で格納される。</td><td rowspan="2">S（状態変化）</td></tr>
<tr><td>SD617</td><td>ドライブ 2 の空き容量（上位）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td rowspan="2">SD620</td><td rowspan="2">ドライブ 3/4
種別</td><td rowspan="2">ドライブ 3/4
種別</td><td>ドライブ 3/4 の種別が下記のビットパターンで格納される。
 
</td><td rowspan="2">S（初期）</td><td rowspan="6">新規</td><td>Q00J/Q00/
Q01</td></tr>
<tr><td>ドライブ 3/4 の種別が下記のビットパターンで格納される。
 

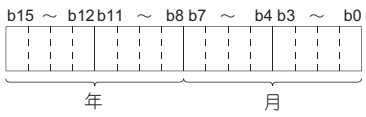
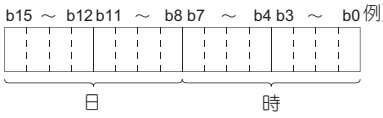
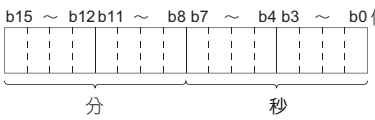
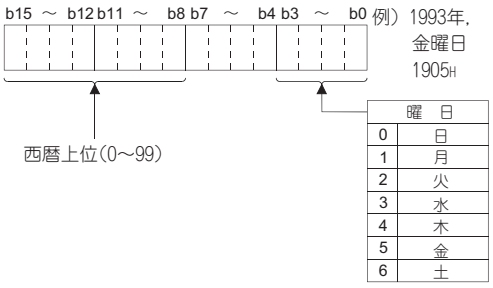
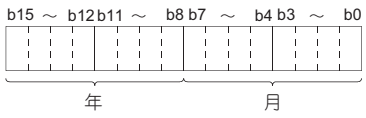
＊1 Q00UJCPU では，0 固定です。</td><td>Qn(H)
QnPH
QnPRH
QnU
LCPU</td></tr>
<tr><td>SD622</td><td>ドライブ 3
（標準 RAM）
容量</td><td>ドライブ 3 の
容量</td><td>ドライブ 3 の容量が 1K バイト単位で格納される。</td><td>Q00J/Q00/
Q01</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>ドライブ 3 の容量が 1K バイト単位で格納される。（フォーマット後の空き容量が格納される。）</td><td>Qn(H)
QnPH
QnPRH
QnU
LCPU</td></tr>
<tr><td>SD623</td><td>ドライブ 4
（標準 ROM）
容量</td><td>ドライブ 4 の
容量</td><td>ドライブ 4 の容量が 1K バイト単位で格納される。</td><td>Q00J/Q00/
Q01</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>ドライブ 4 の容量が 1K バイト単位で格納される。（フォーマット後の空き容量が格納される。）</td><td>Qn(H)
QnPH
QnPRH
QnU
LCPU</td></tr>
<tr><td rowspan="2">SD624</td><td rowspan="2">ドライブ 3/4
使用状況</td><td rowspan="2">ドライブ 3/4
使用状況</td><td>ドライブ 3/4 の使用状況が下記のビットパターンで格納される。
 
</td><td rowspan="2">S（状態変化）</td><td>Q00J/Q00/
Q01</td></tr>
<tr><td>ドライブ 3/4 の使用状況が下記のビットパターンで格納される。（ON で使用中）
b0：ブート運転(QBT)
b1：パラメータ(QPA)
b2：デバイスコメント(QCD)
b3：デバイス初期値(QDI)
b4：ファイルレジスタ(QDR)
b5：サンプリングトレース(QTD)
b6：未使用
b7：未使用
b8 ：未使用
b9 ：エラー履歴 (QFD)
b10：SFCトレース(QTS)
b11：ローカルデバイス(QDL)
b12：未使用
b13：未使用
b14：未使用
b15：未使用</td><td>Qn(H)
QnPH
QnPRH</td></tr>
</table>

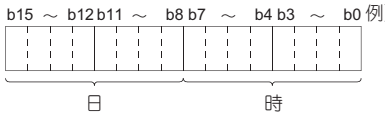
<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td rowspan="2">SD624</td><td rowspan="2">ドライブ 3/4
使用状況</td><td rowspan="2">ドライブ 3/4
使用状況</td><td>ドライブ 3/4 の使用状況が，下記のビットパターンで格納される。（ON で使用中）
<table><tr><td>b0：未使用
b1：パラメータ(QPA)
b2：デバイスコメント(QCD)
b3：デバイス初期値(QDI) ＊1
b4：ファイルレジスタ(QDR)
b5：サンプリングトレース(QTD)
b6：未使用
b7：未使用</td><td>b8 ：ユニットエラー履歴 ＊2
b9 ：未使用
b10：未使用
b11：ローカルデバイス(QDL)
b12：未使用
b13：データロギング設定(QLG) ＊3
b14：未使用
b15：未使用</td></tr></table>＊1 デバイス初期値反映時に ON し，終了時に OFF する。
＊2 シリアル No. の上 5 桁が “11043” 以降のユニットが対象です。
＊3 QnUDVCPU，QnUDPVCPU のみ格納される。データロギング設定登録時に ON し，データロギング完了時，停止時に OFF になる。</td><td rowspan="2">S（状態変化）</td><td rowspan="3">新規</td><td>QnU</td></tr>
<tr><td>ドライブ 3/4 の使用状況が，下記のビットパターンで格納される。（ON で使用中）
<table><tr><td>b0：未使用
b1：パラメータ(QPA)
b2：デバイスコメント(QCD)
b3：デバイス初期値(QDI)*1
b4：ファイルレジスタ(QDR)
b5：サンプリングトレース(QTD)
b6：未使用
b7：未使用</td><td>b8：ユニットエラー履歴
b9：未使用
b10：未使用
b11：ローカルデバイス(QDL)
b12：通信プロトコル設定(QPT)*4
b13：データロギング設定(QLG)*2*3
b14：未使用
b15：未使用</td></tr></table>＊1 デバイス初期値反映時に ON し，終了時に OFF する。
＊2 データロギング設定登録時に ON し，データロギング完了時，停止時に OFF する。
＊3 L02SCPU，L02SCPU-P では，OFF 固定です。
＊4 通信プロトコル設定データのチェック中に ON し，完了時に OFF になる。</td><td>QnUDV
QnUDPV
LCPU</td></tr>
<tr><td>SD634</td><td>プロジェクトの一括セーブエラー要因</td><td>プロジェクトの一括セーブ時に発生したエラー要因</td><td>プロジェクトの一括セーブ実行時に発生したエラー要因を格納する。
・0_H：エラーなし
・100_H：SD メモリカード未装着
・101_H：SD メモリカード使用停止
・200_H：メモリ容量，ファイル本数超過
・201_H：セーブ可能ファイル本数超過
・202_H：セーブフォルダ数超過
・300_H：SD メモリカード書込み禁止設定
・400_H：SD メモリカード書込み異常
・401_H：SD メモリカードを抜かれた
・500_H：一括セーブ／ロードデータ読出し異常（プログラムメモリ）
・503_H：一括セーブ／ロードデータ読出し異常（標準 RAM）
・504_H：一括セーブ／ロードデータ読出し異常（標準 ROM）
・505_H：一括セーブ／ロードデータ読出し異常（SD メモリカード）
・510_H：一括セーブ／ロードデータ読出し異常（システムデータ）
・600_H：標準 ROM へのラッチデータバックアップ中に一括セーブ実行
・601_H：RUN 中書込み中に一括セーブ実行
・602_H：CPU に FTP 接続中の FTP クライアントが存在しているときに，一括セーブ実行
・604_H：SD メモリカードによる CPU ユニット交換機能実施中に一括セーブ実行
・607_H：iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能）実施中に一括セーブ実行</td><td>S（エラー発生）</td><td>LCPU ＊5</td></tr>
</table>

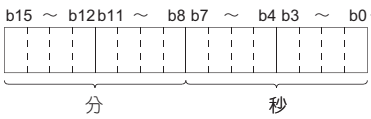
番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD635	プロジェクトの一括セーブ状態	現在のプロジェクトの一括セーブ状態	現在のプロジェクトの一括セーブ実行状態を格納する。 ・0_H：プロジェクトの一括セーブ未実行 ・1_H：プロジェクトの一括セーブ実行中 ・2_H：プロジェクトの一括セーブ完了 ・FF_H：プロジェクトの一括セーブエラー	S（状態変化）	新規	LCPU *5
SD636	プロジェクトの一括ロードエラー要因	プロジェクトの一括ロード時に発生したエラー要因	プロジェクトの一括ロード実行時に発生したエラー要因を格納する。 ・0_H：エラーなし ・800_H：CPU ユニットの形名不一致 ・801_H：SD メモリカードからの一括セーブ／ロードデータ読出し異常 ・802_H：SD メモリカードを抜かれた ・803_H：システムファイル（SVLDINF.QSL）が存在しない ・804_H：ファイルパスワード 32 の不一致 ・805_H：指定フォルダなし，指定 No. 範囲外 ・810_H：ロード先ドライブへの書込み異常 ・820_H：使用中ファイルの一括ロード不可 ・821_H：使用中ファイルが存在しているときにフォーマット実行 ・900_H：SD メモリカード未装着 ・901_H：SD メモリカード使用停止 ・$A00_H$：メモリ容量，ファイル本数超過 ・$B00_H$：SD メモリカード書込み禁止設定 ・$C00_H$：標準 ROM へのラッチデータバックアップ中に一括ロード実行 ・$C01_H$：RUN 中書込み中に一括ロード実行 ・$C02_H$：CPU ユニットに FTP 接続中の FTP クライアントが存在しているときに，一括ロード実行 ・$C04_H$：SD メモリカードによる CPU ユニット交換機能実施中に一括ロード実行 ・$C07_H$：iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能）実施中に一括ロード実行 ・$C10_H$：CPU ユニットが RUN または PAUSE 状態	S（エラー発生）		LCPU *5
SD637	プロジェクトの一括ロード状態	現在のプロジェクトの一括ロード状態	現在のプロジェクトの一括ロード実行状態を格納する。 ・0_H：プロジェクトの一括ロード未実行 ・1_H：プロジェクトの一括ロード実行中 ・2_H：プロジェクトの一括ロード完了 ・FF_H：プロジェクトの一括ロードエラー	S（状態変化）		LCPU *5
SD638	ディレクトリ一括削除終了ステータス	ディレクトリ一括削除終了ステータス	ディレクトリ一括削除時に，削除処理の終了ステータスを格納する。 0: 正常終了 0 以外 : エラーコード 削除指示があった時点で「0」をセットする。	S（書込み時）		QnUDV QnUDPV
SD639	ディレクトリ一括削除状況	ディレクトリ一括削除状況	ディレクトリ一括削除の削除状況をパーセントで表示する。 (0% または 100%) ・削除指示があった時点で「0」をセットする。	S（書込み時）		QnUDV QnUDPV
SD640	ファイルレジスタドライブ	ドライブ番号	ファイルレジスタで使用しているドライブ番号が格納される。*1 *1 QnUDVCPU，QnUDPVCPU，LCPU では，ドライブ 3 固定です。	S（状態変化）		Q00J/Q00/Q01 Qn(H) QnPH QnPRH QnU *3 LCPU

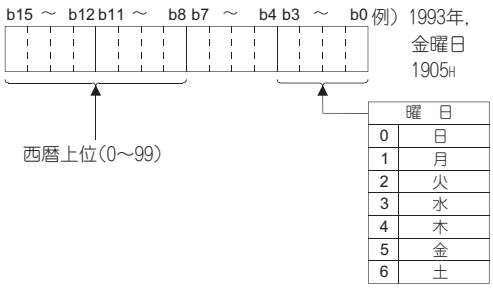
<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD641
SD642
SD643</td><td rowspan="5">ファイルレジスタファイル名</td><td rowspan="5">ファイルレジスタファイル名</td><td>ファイルレジスタのファイル名（MAIN.QDR）がアスキーコードで格納される。
<table><tr><th></th><th>b15 ～ b8</th><th>b7 ～ b0</th></tr><tr><td>SD641</td><td>2文字目(A)</td><td>1文字目(M)</td></tr><tr><td>SD642</td><td>4文字目(N)</td><td>3文字目(I)</td></tr><tr><td>SD643</td><td>6文字目( )</td><td>5文字目( )</td></tr><tr><td>SD644</td><td>8文字目( )</td><td>7文字目( )</td></tr><tr><td>SD645</td><td>拡張子1文字目(Q)</td><td>2EH(.)</td></tr><tr><td>SD646</td><td>拡張子3文字目(R)</td><td>拡張子2文字目(D)</td></tr></table></td><td>S（初期）</td><td rowspan="6">新規</td><td>Q00J/Q00/
Q01</td></tr>
<tr><td>SD644</td><td>パラメータまたは QDRSET 命令で選択されているファイルレジスタのファイル名がアスキーコード（拡張子付）で格納される。
<table><tr><th></th><th>b15 ～ b8</th><th>b7 ～ b0</th></tr><tr><td>SD641</td><td>2文字目</td><td>1文字目</td></tr><tr><td>SD642</td><td>4文字目</td><td>3文字目</td></tr><tr><td>SD643</td><td>6文字目</td><td>5文字目</td></tr><tr><td>SD644</td><td>8文字目</td><td>7文字目</td></tr><tr><td>SD645</td><td>拡張子1文字目</td><td>2EH(.)</td></tr><tr><td>SD646</td><td>拡張子3文字目</td><td>拡張子2文字目</td></tr></table></td><td rowspan="3">S（状態変化）</td><td>Qn(H)
QnPH
QnPRH
QnU *3</td></tr>
<tr><td>SD645
SD646</td><td>パラメータで選択されているファイルレジスタのファイル名がアスキーコード（拡張子付）で格納される。
<table><tr><th></th><th>b15 ～ b8</th><th>b7 ～ b0</th></tr><tr><td>SD641</td><td>2文字目</td><td>1文字目</td></tr><tr><td>SD642</td><td>4文字目</td><td>3文字目</td></tr><tr><td>SD643</td><td>6文字目</td><td>5文字目</td></tr><tr><td>SD644</td><td>8文字目</td><td>7文字目</td></tr><tr><td>SD645</td><td>拡張子1文字目</td><td>2EH(.)</td></tr><tr><td>SD646</td><td>拡張子3文字目</td><td>拡張子2文字目</td></tr></table></td><td>LCPU</td></tr>
<tr><td>SD647</td><td>ファイルレジスタ容量</td><td>ファイルレジスタ容量</td><td colspan="2">現在選択されているファイルレジスタのデータ容量が 1K ワード単位で格納される。</td><td>S（状態変化）</td><td>Qn(H)
QnPH
QnPRH
QnU *3
LCPU</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td colspan="2"></td><td>S（初期）</td><td>Q00J/Q00/
Q01</td></tr>
<tr><td>SD648</td><td>ファイルレジスタブロック No.</td><td>ファイルレジスタブロック No.</td><td colspan="2">現在選択されているファイルレジスタのブロック No. が格納される。</td><td>S（状態変化）
*4</td><td>D9035</td><td>Q00J/Q00/
Q01
Qn(H)
QnPH
QnPRH
QnU *3
LCPU</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD650</td><td>コメントドライブ</td><td>コメントドライブ番号</td><td>パラメータまたは QCDSET 命令で選択されているコメントのドライブ番号が格納される。</td><td rowspan="2">S（状態変化）</td><td rowspan="4">新規</td><td rowspan="2">Qn(H)
QnPH
QnPRH
QnU
LCPU</td></tr>
<tr><td>SD651
SD652
SD653
SD654
SD655
SD656</td><td>コメントファイル名</td><td>コメントファイル名</td><td>パラメータまたは QCDSET 命令で選択されているコメントのファイル名がアスキーコード（拡張子付）で格納される。
<table><tr><th></th><th>b15 ～ b8</th><th>b7 ～ b0</th></tr><tr><td>SD651</td><td>2文字目</td><td>1文字目</td></tr><tr><td>SD652</td><td>4文字目</td><td>3文字目</td></tr><tr><td>SD653</td><td>6文字目</td><td>5文字目</td></tr><tr><td>SD654</td><td>8文字目</td><td>7文字目</td></tr><tr><td>SD655</td><td>拡張子1文字目</td><td>2EH(.)</td></tr><tr><td>SD656</td><td>拡張子3文字目</td><td>拡張子2文字目</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>SD660</td><td rowspan="7">ブート運転指定ファイル</td><td>ブート指定ファイルドライブ番号</td><td>ブート指定ファイル（＊.QBT）の格納されているドライブ番号が格納される。</td><td rowspan="3">S（初期）</td><td rowspan="3">Qn(H)
QnPH
QnPRH
QnU＊2
LCPU</td></tr>
<tr><td>SD661
SD662
SD663
SD664
SD665
SD666</td><td>ブート指定ファイルファイル名</td><td>ブート指定ファイル（＊.QBT）のファイル名がアスキーコード（拡張子付）で格納される。
<table><tr><th></th><th>b15 ～ b8</th><th>b7 ～ b0</th></tr><tr><td>SD661</td><td>2文字目</td><td>1文字目</td></tr><tr><td>SD662</td><td>4文字目</td><td>3文字目</td></tr><tr><td>SD663</td><td>6文字目</td><td>5文字目</td></tr><tr><td>SD664</td><td>8文字目</td><td>7文字目</td></tr><tr><td>SD665</td><td>拡張子1文字目</td><td>2EH(.)</td></tr><tr><td>SD666</td><td>拡張子3文字目</td><td>拡張子2文字目</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>SD670</td><td>パラメータ有効ドライブ情報</td><td>パラメータ有効ドライブ No.</td><td>有効となっているパラメータ格納先ドライブの情報が格納される。＊1
・QnUDVCPU，QnUDPVCPU 以外
・0：ドライブ 0（プログラムメモリ）
・1：ドライブ 1（SRAM カード）
・2：ドライブ 2（Flash カード /ATA カード）
・4：ドライブ 4（標準 ROM ）
・QnUDVCPU，QnUDPVCPU
・0：ドライブ 0（プログラムメモリ）
・2：ドライブ 2（SD メモリカード）
・3：ドライブ 3（標準 RAM）
・4：ドライブ 4（標準 ROM ）
＊1 Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU では，ドライブ 0，ドライブ 4 のみ有効です。</td><td>QnU</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>有効となっているパラメータ格納先ドライブの情報が格納される。＊1
・0：ドライブ 0（プログラムメモリ）
・2：ドライブ 2（SD メモリカード）
・4：ドライブ 4（標準 ROM ）
＊1 L02SCPU，L02SCPU-P では，ドライブ 0，ドライブ 4 のみ有効です。</td><td>LCPU</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD671</td><td>ラッチデータバックアップ機能の状態</td><td>状態表示</td><td>ラッチデータバックアップ機能の状態が下記のビットパターンで格納される。
<table><tr><th colspan="2">状　態</th><th>バックアップデータ有無</th><th>次以降の電源OFF→ON時のリストア動作</th></tr><tr><td>0</td><td>バックアップデータなし</td><td>なし</td><td>リストアを行わない。</td></tr><tr><td>1</td><td>リストア準備完了</td><td rowspan="4">あり</td><td>次の電源OFF→ON時のみリストアを行う。</td></tr><tr><td>2</td><td>リストア実行完了 ＊1</td><td>リストアを行わない。</td></tr><tr><td>3</td><td>バックアップ実行待ち ＊2</td><td>リストアを行わない。</td></tr><tr><td>4</td><td>リストア繰返し実行準備完了</td><td>電源OFF→ONごとにリストアを行う。</td></tr></table>＊1　リストア実行直後の状態です。
＊2　「2：リストア実行完了」のときに電源 OFF → ON した後の状態です。</td><td>S（状態変化）</td><td rowspan="5">新規</td><td rowspan="5">QnU
LCPU</td></tr>
<tr><td>SD672</td><td rowspan="4">バックアップ情報</td><td>バックアップ時刻（西暦，月）</td><td>バックアップした年（西暦，下 2 桁），月が BCD コード 2 桁で格納される。
 
</td><td rowspan="4">S（書込み時）</td></tr>
<tr><td>SD673</td><td>バックアップ時刻（日，時）</td><td>バックアップした日，時が BCD コード 2 桁で格納される。
 
</td></tr>
<tr><td>SD674</td><td>バックアップ時刻（分，秒）</td><td>バックアップした分，秒が BCD コード 2 桁で格納される。
 
</td></tr>
<tr><td>SD675</td><td>バックアップ時刻（西暦上位，曜日）</td><td>バックアップした年（西暦，上 2 桁），曜日が BCD コードで格納される。
 
</td></tr>
<tr><td>SD676</td><td>バックアップデータリストア情報</td><td>リストア時刻（西暦，月）</td><td>リストアした年（西暦，下 2 桁），月が BCD コード 2 桁で格納される。
 
</td><td>S（初期）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD677</td><td rowspan="3">バックアップデータリストア情報</td><td>リストア時刻（日，時）</td><td>リストアした日，時が BCD コード 2 桁で格納される。
 

例）31日，10時
3110H</td><td rowspan="3">S（初期）</td><td rowspan="6">新規</td><td rowspan="6">QnU
LCPU</td></tr>
<tr><td>SD678</td><td>リストア時刻（分，秒）</td><td>リストアした分，秒が BCD コード 2 桁で格納される。
 

例）35分，48秒
3548H</td></tr>
<tr><td>SD679</td><td>リストア時刻（西暦上位，曜日）</td><td>リストアした年（西暦，上 2 桁），曜日が BCD コードで格納される。
 

例）1993年，金曜日
1905H</td></tr>
<tr><td>SD681</td><td>プログラムメモリ書込み（転送）状況</td><td>書込み（転送）状況表示（パーセント）</td><td>プログラムメモリ（フラッシュ ROM ）への書込み（転送）状況がパーセントで格納される。（0 ～ 100 %）書込み（転送）指示があった時点で「0 」がセットされる。</td><td rowspan="5">S（書込み時）</td></tr>
<tr><td>SD682
SD683</td><td>プログラムメモリ書込み回数指標</td><td>現在までの書込み回数指標</td><td>現在までのプログラムメモリ（フラッシュ ROM）書込み操作回数の指標値*1 が 32 ビットの BIN 値で格納される。指標値が 10 万回を超えると “FLASH ROM ERROR”（エラーコード：1610）になる。（指標値は，10 万回を超えてもカウントされる。）

＊1 書込み回数＝指標値とはならない。（システムでフラッシュ ROM の書込み寿命を延ばすことを実施しており，約 2 回の書込み操作で 1 増加する。）</td></tr>
<tr><td>SD686</td><td>標準 ROM 書込み（転送）状況</td><td>書込み（転送）状況表示（パーセント）</td><td>標準 ROM （フラッシュ ROM ）への書込み（転送）状況がパーセントで格納される。（0 ～ 100 %）書込み（転送）指示があった時点で「0 」がセットされる。</td></tr>
<tr><td>SD687
SD688</td><td>標準 ROM 書込み回数指標</td><td>現在までの書込み回数指標</td><td>現在までの標準 ROM（フラッシュ ROM）書込み操作回数の指標値*1 が 32 ビットの BIN 値で格納される。指標値が 10 万回を超えると “FLASH ROM ERROR”（エラーコード：1610）になる。（指標値は，10 万回を超えてもカウントされる。）

＊1 書込み回数＝指標値とはならない。（システムでフラッシュ ROM の書込み寿命を延ばすことを実施しており，前回カウントアップ後からの合計書込み容量が約 1 M バイトに達すると 1 増加する。）</td></tr>
</table>

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD689	バックアップエラー要因	バックアップエラー要因	バックアップ時に発生したエラー要因が格納される。 ・0_H：エラーなし ・100_H：メモリカードまたは SD メモリカード未装着 ・200_H：バックアップ対象データサイズ超過 ・300_H：メモリカードまたは SD メモリカード書込み禁止設定 ・400_H：メモリカードまたは SD メモリカード書込み異常 ・500_H：バックアップ対象データ読出し異常（プログラムメモリ） ・503_H：バックアップ対象データ読出し異常（標準 RAM） ・504_H：バックアップ対象データ読出し異常（標準 ROM） ・510_H：バックアップ対象データ読出し異常（システムデータ） ・600_H：標準 ROM へのラッチデータバックアップ中にバックアップ開始準備を行った。 ・601_H：RUN 中書込中にバックアップ開始準備を行った。 ・602_H：CP ユニットに FTP 接続中の FTP クライアントが存在しているときに，バックアップ開始準備を行った。 ・603_H：データロギング機能実行中にバックアップ開始準備を行った。 ・605_H：プロジェクトの一括セーブ／ロード実施中にバックアップ開始準備を行った。 ・606_H：表示ユニット「メモリカード操作」のフォルダ／ファイル削除実施中にバックアップ開始準備を行った。 ・607_H：iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能）実施中にバックアップ開始準備を行った。 ・700_H：CPU ユニットにセキュリティキーが設定されている。	S（エラー発生）	新規	QnU *1 LCPU
SD690	バックアップ状態	バックアップ状態	現在のバックアップ状態が格納される。 ・0：バックアップ開始前 ・1：バックアップ開始準備 ・2：バックアップ開始準備完了 ・3：バックアップ実行中 ・4：バックアップ完了 ・FF：バックアップエラー	S（状態変化）		
SD691	バックアップ実行状況	バックアップ実行状況表示（パーセント）	• メモリカードまたは SD メモリカードへのバックアップ実行状況がパーセントで格納される。（0 ～ 100%） • バックアップ実行開始時に「0」がセットされる。			
SD692	リストアエラー要因	リストア時に発生したエラー要因	リストア時に発生したエラー要因が格納される。 ・800_H：CPU ユニットの形名不一致。 ・801_H：バックアップデータファイルの照合不一致。または，メモリカードまたは SD メモリカードからのバックアップデータの読出しが正常完了しなかった。 ・810_H：リストア先ドライブへのバックアップデータ書込みが正常完了しなかった。 ・811_H：リストア先の標準 RAM 容量が不足している。 ・900_H：CPU ユニットにセキュリティキーが設定されている。	S（エラー発生）		

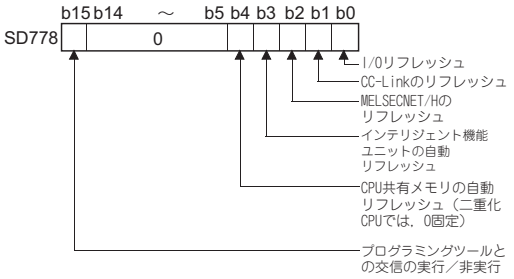
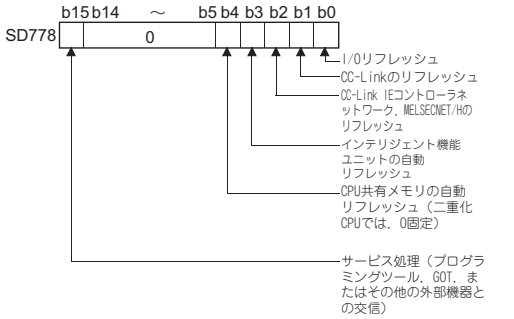
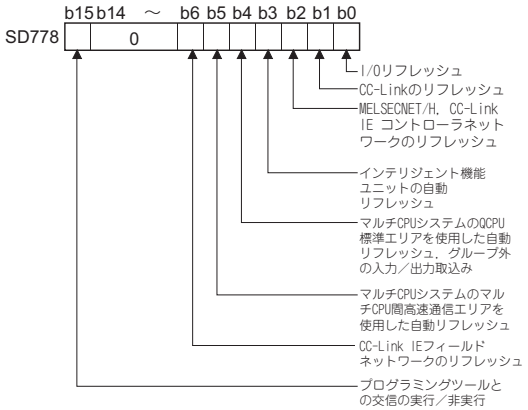
番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD693	リストア状態	現在のリストア状態	現在のリストア実行状態が格納される。 ・0：リストア開始前 ・1：リストア実行中 ・2：リストア完了 ・FF：リストアエラー（ただし，自動リストア時は，リストア完了時に「0：リストア開始前」がセットされる。）	S（状態変化）	新規	QnU *1 LCPU
SD694	リストア実行状況	リストア実行状況表示（パーセント）	• CPUユニットへのリストア実行状況がパーセントで格納される。（0 ～ 100%） • リストア実行開始時に「0」がセットされる。ただし，自動リストア時のみ，リストア完了時に「0：リストア開始前」がセットされる。			
SD695	標準 ROM への書込み命令実行回数指定	標準 ROM への書込み命令実行回数指定	• 1 日あたりの標準 ROM 書込み命令（SP.DEVST）の最大実行回数を指定する。 • 標準ROM書込み命令の実行回数が本SDで設定した回数を超えた場合，“OPERATION ERROR”（エラーコード：4113）が発生する。 • 本レジスタの設定範囲は，1 ～ 32767 である。「0」または範囲外の値に設定している場合は，標準 ROM 書込み命令実行時に “OPERATION ERROR”（エラーコード：4113）が発生する。	U		QnU LCPU
SD696	メモリカード空き容量	メモリカード空き容量	メモリカードの空き容量が 32 ビット BIN 値で格納される。	S（バックアップ操作時）		QnU(QnUDV，QnUDPV は除く) *1
SD697						
SD696	バックアップ実行時のメモリカード空き容量	バックアップ実行時のメモリカード空き容量（下位）	バックアップするデータ容量に対して，SD メモリカード空き容量が不足してバックアップエラーとなった時に SD メモリカード空き容量が格納される。（単位：バイト）バックアップ正常完了時に 0 クリアされる。			QnUDV QnUDPV LCPU
SD697		バックアップ実行時のメモリカード空き容量（上位）				
SD698	バックアップデータ容量	バックアップデータ容量（下位）	バックアップするデータ容量が 32 ビット BIN 値で格納される。			QnU *1 LCPU
SD699		バックアップデータ容量（上位）				

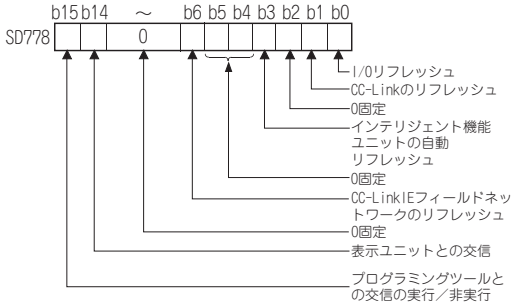
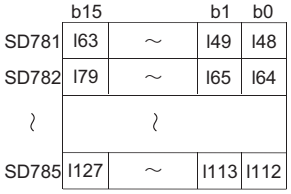
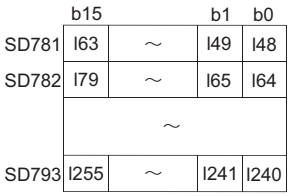
＊1　シリアル No. の上 5 桁が “10102” 以降のユニットが対象です。（ただし，Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU は除きます。）
＊2　Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU を除くユニバーサルモデル QCPU が対象です。
＊3　Q00UJCPU を除くユニバーサルモデル QCPU が対象です。
＊4　ベーシックモデル QCPU では，パラメータ実行後の STOP → RUN または RSET 命令実行時にデータがセットされます。
＊5　シリアル No. の上 5 桁が “14042” 以降のユニットが対象です。

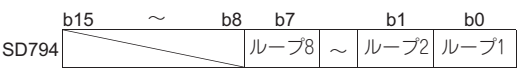
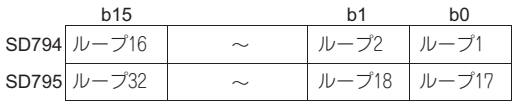
(7) 命令関連

<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD705
SD706</td><td>マスクパターン</td><td>マスクパターン</td><td>ブロック演算時に SM705 を ON で SD705（ダブルワード時は SD705，SD706）に格納されているマスクパターンによりブロック中のすべてのデータをマスクした値で演算することができる。</td><td>U</td><td rowspan="5"></td><td>Q00J/Q00/Q01
Qn(H)
QnPH
QnPRH</td></tr>
<tr><td>SD715
SD716
SD717</td><td>IMASK 命令マスクパターン</td><td>マスクパターン</td><td>IMASK 命令によってマスクされたマスクパターンが下記のように格納される。
<table><tr><td></td><td>b15</td><td></td><td>b1</td><td>b0</td></tr><tr><td>SD715</td><td>I15</td><td>～</td><td>I1</td><td>I0</td></tr><tr><td>SD716</td><td>I31</td><td>～</td><td>I17</td><td>I16</td></tr><tr><td>SD717</td><td>I47</td><td>～</td><td>I33</td><td>I32</td></tr></table></td><td>S（実行時）</td><td rowspan="3">QCPU
LCPU</td></tr>
<tr><td>SD718
SD719</td><td>アキュムレータ</td><td>アキュムレータ</td><td>A シリーズのプログラム上でのアキュムレータ変換用。</td><td>S/U</td></tr>
<tr><td>SD720</td><td>PLOADP 命令プログラム No. 指定</td><td>PLOADP 命令プログラム No. 指定</td><td>PLOADP 命令で読み出すプログラムのプログラム No. を指定したい場合に格納する。（指定範囲：1 ～ 124）</td><td>U</td><td>Qn(H)
QnPH</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD738
SD739
SD740
SD741
SD742
SD743
SD744
SD745
SD746
SD747
SD748
SD749
SD750
SD751
SD752
SD753
SD754
SD755
SD756
SD757
SD758
SD759
SD760
SD761
SD762
SD763
SD764
SD765
SD766
SD767
SD768
SD769</td><td>メッセージ格納</td><td>メッセージ格納</td><td>MSG 命令で指定するメッセージが格納される。
<table><tr><th></th><th>b15 ～ b8</th><th>b7 ～ b0</th></tr><tr><td>SD738</td><td>2文字目</td><td>1文字目</td></tr><tr><td>SD739</td><td>4文字目</td><td>3文字目</td></tr><tr><td>SD740</td><td>6文字目</td><td>5文字目</td></tr><tr><td>SD741</td><td>8文字目</td><td>7文字目</td></tr><tr><td>SD742</td><td>10文字目</td><td>9文字目</td></tr><tr><td>SD743</td><td>12文字目</td><td>11文字目</td></tr><tr><td>SD744</td><td>14文字目</td><td>13文字目</td></tr><tr><td>SD745</td><td>16文字目</td><td>15文字目</td></tr><tr><td>SD746</td><td>18文字目</td><td>17文字目</td></tr><tr><td>SD747</td><td>20文字目</td><td>19文字目</td></tr><tr><td>SD748</td><td>22文字目</td><td>21文字目</td></tr><tr><td>SD749</td><td>24文字目</td><td>23文字目</td></tr><tr><td>SD750</td><td>26文字目</td><td>25文字目</td></tr><tr><td>SD751</td><td>28文字目</td><td>27文字目</td></tr><tr><td>SD752</td><td>30文字目</td><td>29文字目</td></tr><tr><td>SD753</td><td>32文字目</td><td>31文字目</td></tr><tr><td>SD754</td><td>34文字目</td><td>33文字目</td></tr><tr><td>SD755</td><td>36文字目</td><td>35文字目</td></tr><tr><td>SD756</td><td>38文字目</td><td>37文字目</td></tr><tr><td>SD757</td><td>40文字目</td><td>39文字目</td></tr><tr><td>SD758</td><td>42文字目</td><td>41文字目</td></tr><tr><td>SD759</td><td>44文字目</td><td>43文字目</td></tr><tr><td>SD760</td><td>46文字目</td><td>45文字目</td></tr><tr><td>SD761</td><td>48文字目</td><td>47文字目</td></tr><tr><td>SD762</td><td>50文字目</td><td>49文字目</td></tr><tr><td>SD763</td><td>52文字目</td><td>51文字目</td></tr><tr><td>SD764</td><td>54文字目</td><td>53文字目</td></tr><tr><td>SD765</td><td>56文字目</td><td>55文字目</td></tr><tr><td>SD766</td><td>58文字目</td><td>57文字目</td></tr><tr><td>SD767</td><td>60文字目</td><td>59文字目</td></tr><tr><td>SD768</td><td>62文字目</td><td>61文字目</td></tr><tr><td>SD769</td><td>64文字目</td><td>63文字目</td></tr></table></td><td>S（実行時）</td><td rowspan="3">新規</td><td>Qn(H)</td></tr>
<tr><td>SD774</td><td rowspan="2">PID リミット制限設定（完全微分用）</td><td rowspan="2">0：リミット制限あり
1：リミット制限なし</td><td>PID 各ループのリミット制限を下記のように指定する。
<table><tr><th></th><th>b15 ～ b8</th><th>b7</th><th>～</th><th>b1</th><th>b0</th></tr><tr><td>SD774</td><td></td><td>ループ8</td><td>～</td><td>ループ2</td><td>ループ1</td></tr></table></td><td rowspan="2">U</td><td>Q00J/Q00
/Q01 *1</td></tr>
<tr><td>SD774
～
SD775</td><td>PID 各ループのリミット制限を下記のように指定する。
<table><tr><th></th><th>b15</th><th></th><th>b1</th><th>b0</th></tr><tr><td>SD774</td><td>ループ16</td><td>～</td><td>ループ2</td><td>ループ1</td></tr><tr><td>SD775</td><td>ループ32</td><td>～</td><td>ループ18</td><td>ループ17</td></tr></table></td><td>Qn(H)
QnPRH
QnU
LCPU</td></tr>
</table>

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD778	COM/CCOM 命令実行時リフレッシュ処理選択	b0 ～ b14 0：リフレッシュ非実行 1：リフレッシュ実行 b15 0：サービス処理実行 1：サービス処理非実行	• COM 命令実行時に，各リフレッシュ処理を実行するか，実行しないかを選択する。 • SD778 の指定は，SM775 が ON のとき有効になる。  • COM 命令によるマルチ CPU 間リフレッシュは下記の場合に実行する。 他号機からの受信動作：SD778 の b4 が 1 のとき 自号機からの送信動作：SD778 の b15 が 0 のとき	U	新規	Q00J/Q00/Q01 *1 Qn(H) *2
			• COM 命令実行時に，各処理を実行するか，実行しないかを選択する。 • SD778 の指定は，SM775 が ON のとき有効になる。  • COM 命令によるマルチ CPU 間リフレッシュは下記の場合に実行する。 他号機からの受信動作：SD778 の b4 が 1 のとき 自号機からの送信動作：SD778 の b15 が 0 のとき • SD778 の b2 が 1 のとき，CC-Link IE コントローラネットワーク，MELSECNET/H の両方がリフレッシュする。そのためリフレッシュ点数が多い場合は，COM 命令の処理時間が延びる。			Qn(H) *4 QnPH *3 QnPRH
			• COM，CCOM 命令実行時に，各リフレッシュ処理を実行するか，実行しないかを選択する。 • SD778 の指定は，SM775 が ON のとき有効になる。 			QnU

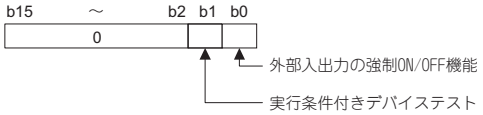
<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD778</td><td>COM/CCOM
命令実行時リフレッシュ処理選択</td><td>b0，b1，b3，b6，b14（デフォルト：0）
0：リフレッシュ非実行
1：リフレッシュ実行
b15
0：CPU ユニットとの交信実行
1：CPU ユニットとの交信非実行</td><td>• COM，CCOM 命令実行時に，各リフレッシュ処理を実行するか，実行しないかを選択する。
• SD778 の指定は，SM775 が ON のとき有効になる。
 
</td><td>U</td><td rowspan="4">新規</td><td>LCPU</td></tr>
<tr><td>SD781
～
SD785</td><td rowspan="2">IMASK 命令マスクパターン</td><td rowspan="2">マスクパターン</td><td>IMASK 命令によってマスクされたマスクパターンが下記のように格納される。
 
</td><td rowspan="2">S（実行時）</td><td>Q00J/Q00/Q01</td></tr>
<tr><td>SD781
～
SD793</td><td>IMASK 命令によってマスクされたマスクパターンが下記のように格納される。* 1
 

* 1：Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU では，SD786 ～ 793 は使用できません。</td><td>Qn(H)
QnPH
QnPRH
QnU
LCPU</td></tr>
<tr><td>SD794</td><td rowspan="2">PID リミット制限設定（不完全微分用）</td><td rowspan="2">0：リミット制限あり
1：リミット制限なし</td><td>PID 各ループのリミット制限を下記のように指定する。
 
</td><td rowspan="2">U</td><td>Q00J/Q00/Q01 * 1</td></tr>
<tr><td>SD794
～
SD795</td><td>PID 各ループのリミット制限を下記のように指定する。
 
</td><td>Qn(H) * 4
QnPRH
QnU
LCPU</td></tr>
</table>

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD796	マルチ CPU 間高速通信専用命令最大使用ブロック数設定（1 号機用）	専用命令最大使用ブロック数範囲 1 ～ 7（デフォルト：2） 範囲外の値を設定した場合は，「7」として動作する。＊6	マルチ CPU 間高速通信専用命令（対象号機＝ 1 号機）の最大使用ブロック数を指定する。1 号機に対してマルチ CPU 間高速通信専用命令を実行した際，専用命令伝送エリアの空きブロック数が，本レジスタの設定値未満であった場合は，SM796 を ON する。マルチ CPU 間高速通信専用命令の連続実行用インタロック信号として使用する。	U（RUN 後 1 スキャン時）	新規	QnU ＊5
SD797	マルチ CPU 間高速通信専用命令最大使用ブロック数設定（2 号機用）		マルチ CPU 間高速通信専用命令（対象号機＝ 2 号機）の最大使用ブロック数を指定する。2 号機に対してマルチ CPU 間高速通信専用命令を実行した際，専用命令伝送エリアの空きブロック数が，本レジスタの設定値未満であった場合は，SM797 を ON する。マルチ CPU 間高速通信専用命令の連続実行用インタロック信号として使用する。			
SD798	マルチ CPU 間高速通信専用命令最大使用ブロック数設定（3 号機用）		マルチ CPU 間高速通信専用命令（対象号機＝ 3 号機）の最大使用ブロック数を指定する。3 号機に対してマルチ CPU 間高速通信専用命令を実行した際，専用命令伝送エリアの空きブロック数が，本レジスタの設定値未満であった場合は，SM798 を ON する。マルチ CPU 間高速通信専用命令の連続実行用インタロック信号として使用する。			
SD799	マルチ CPU 間高速通信専用命令最大使用ブロック数設定（4 号機用）		マルチ CPU 間高速通信専用命令（対象号機＝ 4 号機）の最大使用ブロック数を指定する。4 号機に対してマルチ CPU 間高速通信専用命令を実行した際，専用命令伝送エリアの空きブロック数が，本レジスタの設定値未満であった場合は，SM799 を ON する。マルチ CPU 間高速通信専用命令の連続実行用インタロック信号として使用する。			

＊1　機能バージョン B 以降が対象です。
＊2　シリアル No. の上 5 桁が “04012” 以降のユニットが対象です。
＊3　シリアル No. の上 5 桁が “07032” 以降のユニットが対象です。
＊4　シリアル No. の上 5 桁が “09012” 以降のユニットが対象です。
＊5　Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU，Q02UCPU を除くユニバーサルモデル QCPU が対象です。
＊6　シリアル No. の上 5 桁が “10012” 以前の Q03UDCPU，Q04UDHCPU，Q06UDHCPU は，範囲 1 ～ 9（デフォルト：2）または範囲外の値を設定した場合は「9」として動作します。

(8) デバッグ

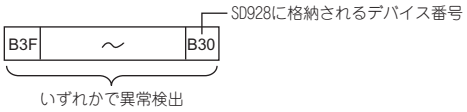
番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD830	リアルタイムモニタバッファ空き容量	リアルタイムモニタバッファ空き容量（K バイト）	リアルタイムモニタバッファの空き容量が K バイト単位で格納される。値が小さいと処理オーバが発生する確率が高くなる。	S（状態変化）	新規	LCPU ＊2
SD840	デバッグ機能使用状況	デバッグ機能使用状況	下記のデバッグ機能の使用状況が格納される。 0：外部入出力の強制 ON/OFF 機能 1：実行条件付デバイステスト 2 ～ 15：空き（0 固定）  （0：使用していない　1：使用している）	S（状態変化）	新規	QnU ＊1 LCPU

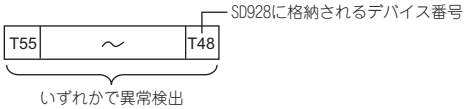
＊1　シリアル No. の上 5 桁が “10042” 以降のユニットが対象です。
＊2　L02SCPU，L02SCPU-P を除くシリアル No. の上 5 桁が “16072” 以降のユニットが対象です。

(9) ラッチエリア

<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応
ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD909</td><td>自動ローディング対象フォルダ No.</td><td>自動ローディング対象フォルダ No.</td><td>自動ローディングを実行する対象フォルダの No. を指定する。
0（デフォルト）：自動ローディングフォルダ「AutoLoad」
1 ～ 99：自動ローディングフォルダ「AutoLoad**」（01 ～ 99）
自動ローディング正常完了時に 0 を格納する。</td><td>S（自動ローディング完了時）/U</td><td>新規</td><td>LCPU *3</td></tr>
<tr><td>SD927</td><td rowspan="2">“RAM ERROR”（エラーコード：1161）発生時のデバイス情報</td><td>デバイス名</td><td>デバイスメモリの書き換わりを検出したデバイス名が格納される。
<table><tr><th>値</th><th>デバイス名</th><th>値</th><th>デバイス名</th><th>値</th><th>デバイス名</th></tr><tr><td>0</td><td>未検出</td><td>8</td><td>L</td><td>16</td><td>C（接点，コイル）</td></tr><tr><td>1</td><td rowspan="2">システム使用デバイス</td><td>9</td><td>B</td><td>17</td><td>T（現在値）</td></tr><tr><td>2</td><td>10</td><td>F</td><td>18</td><td>ST（現在値）</td></tr><tr><td>3</td><td>SM</td><td>11</td><td>SB</td><td>19</td><td>C（現在値）</td></tr><tr><td>4</td><td>SD</td><td>12</td><td>V</td><td>20</td><td>D</td></tr><tr><td>5</td><td>X</td><td>13</td><td>S</td><td>21</td><td>W</td></tr><tr><td>6</td><td>Y</td><td>14</td><td>T（接点，コイル）</td><td>22</td><td>SW</td></tr><tr><td>7</td><td>M</td><td>15</td><td>ST（接点，コイル）</td><td>-1</td><td>特定不可</td></tr></table></td><td rowspan="2">S（エラー発生）</td><td rowspan="2">新規</td><td rowspan="2">QnU *1
LCPU *2</td></tr>
<tr><td>SD928</td><td>デバイス番号</td><td>デバイスメモリの書き換わりを検出したデバイス番号が格納される。（下位ワード）

① ワードデバイス（SD, T（現在値），ST（現在値），C（現在値），D, W, SW）
異常を検出したデバイス番号が格納される。
例 SD927 に 20，SD928 に 10 が格納されている場合
D10 で “RAM ERROR”（エラーコード：1161）が検出された。

② ビットデバイス（SM, X, Y, M, L, B, F, SB, V, S）
異常を検出したデバイス番号が，16 点単位で格納される。
例 SD927 に 9，SD928 に 48 が格納されている場合 B30 ～ B3F のいずれかで “RAM ERROR”（エラーコード：1161）が検出された。
 

③ T（接点，コイル），ST（接点，コイル），C（接点，コイル）
異常を検出したデバイス番号が，8 点単位で格納される。
例 SD927 に 14，SD928 に 48 が格納されている場合
T48 ～ T55 のいずれかで “RAM ERROR”（エラーコード：1161）が検出された。
 

④ デバイス番号が特定不可能な場合
0（固定値）が格納される。</td></tr>
</table>

＊1 シリアル No. の上５桁が “13022” 以降のユニットが対象です。
＊2 シリアル No. の上５桁が “13102” 以降のユニットが対象です。
＊3 シリアル No. の上５桁が “14042” 以降のユニットが対象です。

(10)二重化 CPU 情報（自系 CPU 情報 ＊1）

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD952	制御系から待機系へのメモリコピー実行履歴	直前の制御系から待機系へのメモリコピーステータス	直前に実行した制御系から待機系へのメモリコピーの完了ステータスが格納される。 ①制御系から待機系へのメモリコピー正常完了･異常完了時点で SD1596 に格納する値と同一の値が格納される。 ②停電保持しているため，直前に実行した制御系から待機系へのメモリコピーステータスが保持されている。 ③ラッチクリア操作でクリアする。	S（状態変化）	新規	QnPRH

(11)リモートパスワード累積回数

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD979	MELSOFT 直結接続	アンロック処理異常完了の累積回数	アンロック処理異常の回数が格納される。 範囲：0 ～ $0FFFE_H$（範囲を超える場合 $0FFFF_H$ になる。）	S（状態変化）	新規	QnU ＊1 LCPU ＊1
SD980 ～ SD995	コネクション 1 ～ 16					
SD997	MELSOFT 接続 UDP ポート					
SD998	MELSOFT 接続 TCP ポート					
SD999	FTP 交信ポート					

＊1　Ethernet ポート内蔵 QCPU，Ethernet ポート内蔵 LCPU が対象です。

(12) A → Q/L 変換対応

ACPU の特殊レジスタ（D9000 ～ D9255）が A → Q/L 変換で変換したときに対応するのは，SD1000 ～ SD1255 です。（ただし，ベーシックモデル QCPU，二重化 CPU は，A → Q/L 変換には対応していません。）これらは，すべてシステム側がセットします。ユーザがプログラムでセットできません。ユーザ側でデータをセットしたいときには，プログラムを QCPU/LCPU 用の特殊レジスタに修正してください。ただし，SD1200 ～ SD1255 については，変換前の D9200 ～ D9255 の中でユーザ側でデータをセットできる特殊レジスタのみ，変換後の SD1200 ～ SD1255 でもユーザ側でデータをセットできます。ACPU の特殊レジスタの内容詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

各 CPU ユニットのユーザーズマニュアル
MELSECNET，MELSECNET/B データリンクシステムリファレンスマニュアル

Point

ハイパフォーマンスモデル QCPU，プロセス CPU，ユニバーサルモデル QCPU，LCPU で変換後の特殊レジスタを使用する場合は，“A シリーズ CPU 互換設定 ” のチェックを入れてください。

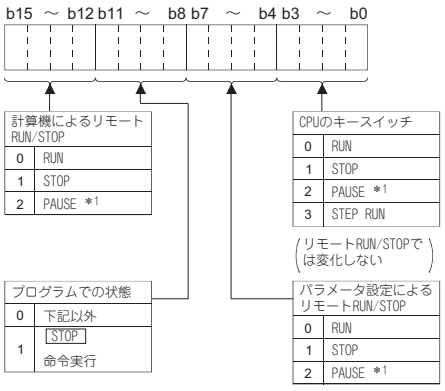
プロジェクトウィンドウ⇨[パラメータ]⇨[PC パラメータ]⇨[PC システム設定]

ただし，変換後の特殊レジスタを使用すると処理時間がかかります。

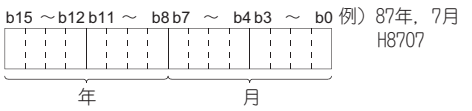
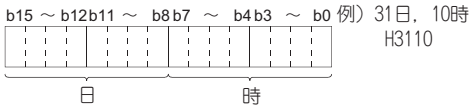
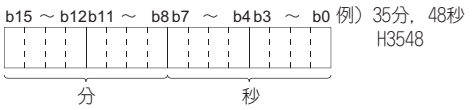
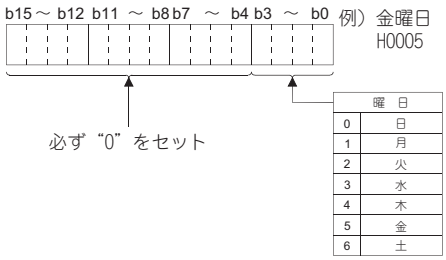
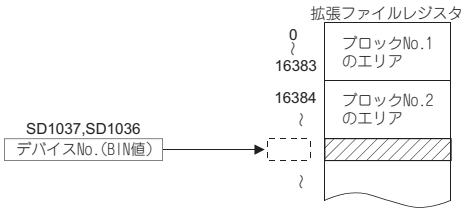
[下表の見方]

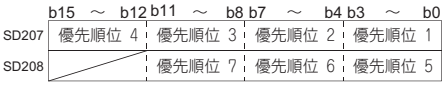
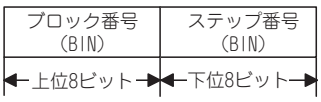
- 修正用の特殊レジスタが記述されているデバイス番号は，記述されている QCPU/LCPU 用の特殊レジスタに修正してください。
- ㊀が記述されているデバイス番号は，変換後の特殊レジスタを使用できます。
- ☒が記述されているデバイス番号は，QCPU/LCPU では機能しません。

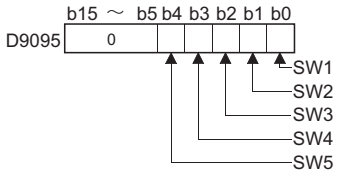
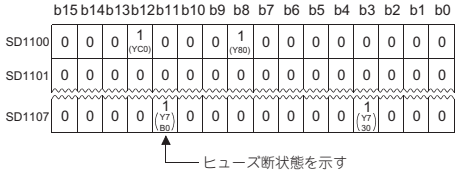
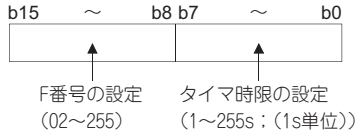
ACPU の特殊レジスタ	変換後の特殊レジスタ	修正用の特殊レジスタ	名称	内容	内容詳細	対応 CPU
D9000	SD1000	-	ヒューズ断	ヒューズ断ユニット No.	• ヒューズ断ユニットが検知されたとき，検知されたユニットの最若番の入出力番号の先頭が 16 進数で格納される。（例：Y50 ～ Y6F の出力ユニットがヒューズ断したとき 16 進で “50” と格納）プログラミングツールでモニタする場合は 16 進表示のモニタ操作を行う。（SD1100 ～ SD1107 の内容がすべて 0 になったときにクリアされる。） • ヒューズ断状態はリモート I/O 局の出力ユニットに対してもチェックされる。	Qn(H) QnPH QnU * 1
D9001	SD1001	-	ヒューズ断	ヒューズ断ユニット No.	• ヒューズ断のあった場合に，設定スイッチ No. またはベースユニットのスロット No. に対応した No. が格納される。 A0J2用入出力ユニット時：設定スイッチ / 格納データ 0/0, 1/1, 2/2, 3/3, 4/4, 5/5, 6/6, 7/7 増設ベースユニット時：ベースユニットのスロットNo. / 格納データ 0/4, 1/5, 2/6, 3/7 • リモート I/O 局の場合は（ユニットの入出力番号 /10_H）+1 の値が格納される。	Qn(H) QnPH

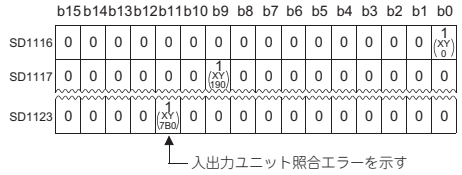
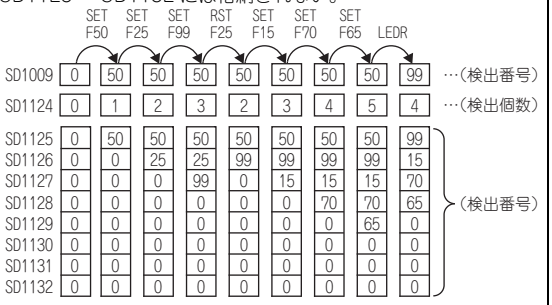
ACPU の特殊レジスタ	変換後の特殊レジスタ	修正用の特殊レジスタ	名称	内容	内容詳細	対応 CPU
D9002	SD1002	-	入出力ユニット照合エラー	入出力ユニット照合エラーユニット No.	• 電源ON時に登録された情報と異なる入出力ユニットが検知されたとき，検知されたユニットの最若番の入出力番号の先頭が 16 進数で格納される。（例：Y50 ～ Y6F の出力ユニットの照合エラーが検出されたとき 16 進で “50” を格納）プログラミングツールでモニタする場合は，16 進数表示のモニタ操作を行う。（SD1116 ～ SD1123 の内容がすべて 0 になったときにクリアされる。） • 入出力ユニット照合はリモート I/O 局のユニットに対してもチェックされる。	Qn(H) QnPH QnU *1 LCPU
D9005	SD1005	−	AC DOWN カウンタ	AC DOWN 回数	• CPU ユニットが演算中に入力電圧が定格の 85%（AC 電源）/65%（DC 電源）以下になるごとに +1 され，値が格納される。 • カウントは 0 → 32767 → -32768 → 0 が繰り返される。	Qn(H) QnPH QnU *1 LCPU
D9008	SD1008	SD0	自己診断エラー	自己診断エラーコード	自己診断でエラーを生じたときのエラーコードが格納される。	Qn(H) QnPH QnU *1 LCPU
D9009	SD1009	SD62	アナンシェータの検出	外部故障を生じた F 番号	• OUT F, SET F 命令により F0 ～ F2047（デフォルトデバイス設定時）のいずれかが ON すると，ON した F 番号の中で最も早く検出した F 番号を BIN コードで格納する。 • SD1009 のクリアは RST F, LEDR 命令で行う。別の F 番号が検出されていれば，SD1009 をクリアすると次の番号が SD1009 に格納される。	
D9010	SD1010	×	エラーステップ	演算エラーを生じたステップ番号	応用命令実行中に演算エラーを生じたとき，そのエラーを生じたステップ番号が格納される。以後，演算エラーを生じるたびに SD1010 の内容は更新される。	Qn(H) QnPH
D9011	SD1011	×		演算エラーを生じたステップ番号	応用命令実行中に演算エラーを生じたとき，そのエラーを生じたステップ番号が格納される。SD1011 への格納は SM1011 が OFF → ON になったときに行うため，SM1011 をプログラムでクリアしないと SD1011 の内容は更新されない。	
D9014	SD1014	×	入出力制御方式	入出力制御方式番号	設定された入出力制御方式が下記の番号で返される。 · 0：入出力ともダイレクト · 1：入力リフレッシュ，出力ダイレクト · 3：入出力ともリフレッシュ	
D9015	SD1015	SD203	CPU 動作状態	CPU 動作状態	CPU ユニットの動作状態が下記のように格納される。  ＊1 ハイパフォーマンスモデル QCPU，プロセス CPU 使用時，CPU ユニットが RUN 中で SM1040 が OFF のとき，PAUSE にしても RUN 状態のままになる。	Qn(H) QnPH QnU *1 LCPU

ACPU の特殊レジスタ	変換後の特殊レジスタ	修正用の特殊レジスタ	名称	内容	内容詳細	対応 CPU
D9016	SD1016	×	プログラム番号	0：メインプログラム（ROM） 1：メインプログラム（RAM） 2：サブプログラム 1（RAM） 3：サブプログラム 2（RAM） 4：サブプログラム 3（RAM） 5：サブプログラム 1（ROM） 6：サブプログラム 2（ROM） 7：サブプログラム 3（ROM） 8：メインプログラム（E^2PROM） 9：サブプログラム 1（E^2PROM） A：サブプログラム 2（E^2PROM） B：サブプログラム 3（E^2PROM）	現在どのプログラムを実行しているかを示し，0 ～ B のいずれかの値が格納される。	Qn(H) QnPH
D9017	SD1017	SD524	スキャンタイム	最小スキャンタイム（10ms の位）	END ごとにスキャンタイムが SD1017 の内容より小さければ新たにその値が格納される。すなわち SD1017 にはスキャンタイムの最小値が格納される。	Qn(H) QnPH QnU * 1 LCPU
D9018	SD1018	SD520		スキャンタイム（10ms の位）	END ごとにスキャンタイムが格納され，常時書き換えられる。	
D9019	SD1019	SD526		最大スキャンタイム（10ms の位）	END ごとにスキャンタイムが SD1019 の内容より大きければ新たにその値が格納される。すなわち SD1019 にはスキャンタイムの最大値が格納される。	
D9020	SD1020	×	コンスタントスキャン	コンスタントスキャンタイム［10ms 単位でユーザで設定］	プログラムを一定間隔で実行させる際に，実行間隔を 10ms 単位で設定する。 ・0：コンスタントスキャン機能なし ・1 ～ 200：コンスタントスキャン機能あり（設定値 ×10ms の間隔で実行）	Qn(H) QnPH
D9021	SD1021	-	スキャンタイム	スキャンタイム（1ms 単位）	END ごとにスキャンタイムが格納され，常時書き換えられる。	Qn(H) QnPH QnU * 1 LCPU
D9022	SD1022	SD412	1 秒カウンタ	1s 単位のカウント数	• RUN 後，1s ごとに +1 される。 • カウントは，0 → 32767 → -32768 → 0 を繰り返される。	

ACPU の特殊レジスタ	変換後の特殊レジスタ	修正用の特殊レジスタ	名称	内容	内容詳細	対応 CPU
D9025	SD1025	-	時計データ	時計データ（西暦，月）	下記のように年（西暦，下 2 桁），月が BCD コードで格納される。 	Qn(H) QnPH QnU ＊1 LCPU
D9026	SD1026	-	時計データ	時計データ（日，時）	下記のように日，時が BCD コードで格納される。 	
D9027	SD1027	-	時計データ	時計データ（分，秒）	下記のように分，秒が BCD コードで格納される。 	
D9028	SD1028	-	時計データ	時計データ（曜日）	下記のように曜日が BCD コードで格納される。 	
D9035	SD1035	SD648	拡張ファイルレジスタ	使用ブロック No.	現在使用している拡張ファイルレジスタのブロック No. が BIN で格納される。	
D9036	SD1036	×	拡張ファイルレジスタデバイス番号指定用	拡張ファイルレジスタの各デバイスを直接アクセスするときのデバイス番号	直接読出し，書込みを行う拡張ファイルレジスタのデバイス番号を SD1036，SD1037 の 2 ワードに BIN 値で指定する。デバイス番号は，ブロック No. を意識せず，ブロック No.1 の R0 からの連続した番号で指定する。 	Qn(H) QnPH
D9037	SD1037	×				

ACPU の特殊レジスタ	変換後の特殊レジスタ	修正用の特殊レジスタ	名称	内容	内容詳細	対応 CPU
D9038	SD1038	SD207	LED 表示優先順位	優先順位 1 ～ 4	• 異常発生時に ,ERR.LED の点灯（点滅）の優先順位をエラー項目 No. で設定する。 • 優先順位の設定エリアは，次のようになっている。  • 詳細については，下記のアニュアルを参照してください。 使用する CPU ユニットのユーザーズマニュアル ACPU ／ QCPU-A（A モード）プログラミングマニュアル（基礎編）（SH-3435 のバージョン I 以降を参照。）	Qn(H) QnPH
D9039	SD1039	SD208		優先順位 5 ～ 7		
D9044	SD1044	×	サンプリングトレース用	サンプリングトレース時のステップまたは時間	プログラミングツールで SM803 を ON/OFF し，サンプリングトレースの STRA，STRAR 命令を動作させるとき，サンプリングトレースの条件として SD1044 に格納されている値を使用する。 ・スキャン時：0 ・タイム時：時間（10ms 単位）	
D9049	SD1049	×	SFC プログラム実行用ワークエリア	SFC プログラム実行用ワークエリアとして使用する拡張ファイルレジスタブロック No.	• SFC プログラム実行用ワークエリアとして使用している拡張ファイルレジスタのブロック No. が格納される。 • 拡張ファイルレジスタブロック No.1 になりえない 16K バイト以下の空きエリアを使用時，または SM320 OFF 時は「0」が格納される。	
D9050	SD1050	×	SFC プログラムエラー番号	SFC プログラムで発生したエラー番号	SFC プログラムにおいて発生したエラーコードが格納される。 ・0：エラーなし ・80：SFC プログラム用パラメータエラー ・81：SFC コードエラー ・82：同時実行ステップ数オーバー ・83：ブロック起動エラー ・84：SFC プログラム演算エラー	
D9051	SD1051	×	エラーブロック	エラーが発生したブロック番号	• SFC プログラムでエラーが発生したブロック番号が格納される。ただし，エラー 83 の場合は，起動元のブロック番号が格納される。	
D9052	SD1052	×	エラーステップ	エラーが発生したステップ番号	• SFC プログラムでエラーコード 84 が発生したステップ番号が格納される。 • エラーコード 80，81，82 が発生したときは ,「0」が格納される。 • エラーコード 83 が発生したときは，ブロック起動ステップ番号が格納される。	
D9053	SD1053	×	エラー移行	エラーが発生した移行条件番号	SFC プログラムでエラーコード 84 が発生した移行条件番号が格納される。エラーコード 80，81，82，83 が発生したときは ,「0」が格納される。	
D9054	SD1054	×	エラーシーケンスステップ	エラーが発生したシーケンスステップ番号	SFC プログラムでエラーコード 84 が発生した移行条件，ステップにおいて，移行条件，動作出力の何シーケンスステップ目でエラーが発生したかが格納される。	
D9055	SD1055	SD812	ステータスラッチ実行ステップ No.	ステータスラッチ実行ステップ No.	• ステータスラッチを行った時点のステップ No. が格納される。 • メインシーケンスプログラムでステータスラッチ実行時は，ステップ No. が格納される。 • SFC プログラムでステータスラッチ実行時は，ブロック番号とステップ番号が格納される。 	

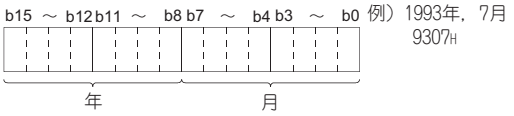
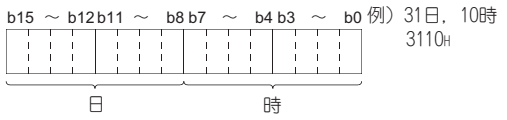
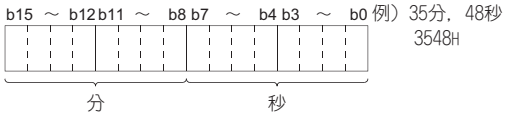
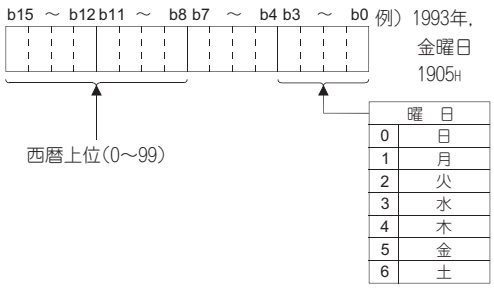
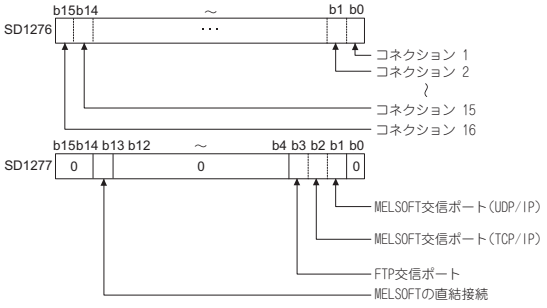
ACPU の特殊レジスタ	変換後の特殊レジスタ	修正用の特殊レジスタ	名称	内容	内容詳細	対応 CPU
D9072	SD1072	×	PC 交信チェック	シリアルコミュニケーションユニットのデータチェック	単体折り返しテストでシリアルコミュニケーションユニットが自動的にデータの書込み／読出しを行い交信チェックを行う。	Qn(H) QnPH
D9085	SD1085	×	タイムチェック時間	1s ～ 65535s	MELSECNET/10 用データリンク命令（ZNRD，ZNWR）のタイムチェック時間を設定する。 ・設定範囲：1s ～ 65535s（1 ～ 65535） ・設定単位：s ・デフォルト値：10s（0 の場合は 10s）	
D9090	SD1090	×	マイコンサブルーチン INPUT データエリア先頭デバイス No.	各マイコンパッケージによる	詳細については，下記のマニュアルを参照してください。 各マイコンパッケージのマニュアル	
D9091	SD1091	×	命令エラー	命令エラー詳細番号	命令エラーが発生した要因の詳細がエラーコードで格納される。	Qn(H) QnPH QnU *1 LCPU
D9094	SD1094	SD251	交換入出力ユニットの先頭入出力番号	交換入出力ユニットの先頭入出力番号	オンライン中（通電中）に着脱する入出力ユニットの先頭入出力番号の上 2 桁が格納される。 例：入力ユニット　X2F0 → H2F	Qn(H) QnPH
D9095	SD1095	SD200	ディップスイッチ情報	ディップスイッチ情報	CPU ユニットのディップスイッチ情報が下記の形式で格納される。 ・0：OFF ・1：ON 	
D9100	SD1100	–	ヒューズ断ユニット	ヒューズ断ユニットの 16 点単位のビットパターン	• ヒューズ断状態になっている出力ユニット番号（16 点単位）が下記のビットパターンで格納される。（パラメータで設定しているときは設定されている番号）  出力点数が 16 点を超えるユニットでは，ユニットが占有する出力点数に含まれる出力ユニット番号（16 点単位）に該当するビットがすべて ON する。 例 64 点のユニットを 0 スロットに装着している場合， ヒューズ断を検出すると b0 ～ b3 が ON する。 • ヒューズ断状態はリモート I/O 局の出力ユニットに対してもチェックされる。（正常になってもクリアされないため，プログラムでクリアする必要がある。）	Qn(H) QnPH QnU *1
D9101	SD1101					
D9102	SD1102					
D9103	SD1103					
D9104	SD1104					
D9105	SD1105					
D9106	SD1106					
D9107	SD1107					
D9108	SD1108	–	ステップ移行監視タイマ設定	タイマ設定値およびタイムオーバー時の F 番号	• ステップ移行監視タイマの設定値および監視タイマのタイムオーバーで ON するアナンシェータの番号（F 番号）を設定する。  • SM1108 ～ SM1114 の ON でタイマが起動する。タイマ時限内に該当ステップの次の移行条件が成立しないと，設定したアナンシェータ（F）が ON になる。	Qn(H) QnPH
D9109	SD1109					
D9110	SD1110					
D9111	SD1111					
D9112	SD1112					
D9113	SD1113					
D9114	SD1114					

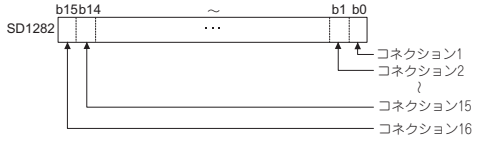
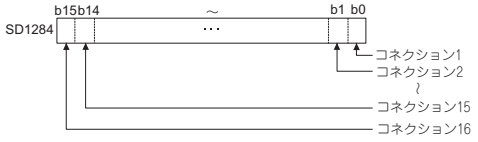
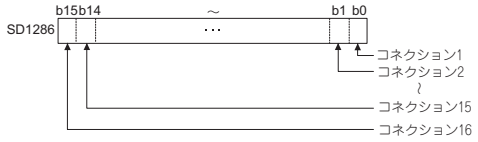
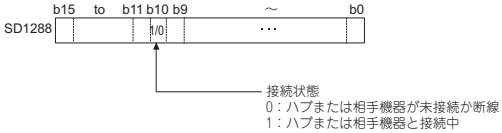
ACPU の特殊レジスタ	変換後の特殊レジスタ	修正用の特殊レジスタ	名称	内容	内容詳細	対応 CPU
D9116	SD1116	-	入出力ユニット照合エラー	照合エラーユニットの 16 点単位のビットパターン	・電源 ON 時に登録された入出力ユニット情報と異なる入出力ユニットが検知されたとき，その入出力ユニット番号（16 点単位）が下記のビットパターンで格納される。（パラメータで設定しているときは設定されている入出力ユニット番号）  入出力点数が 16 点を超えるユニットでは，ユニットが占有する入出力点数に含まれる入出力ユニット番号（16 点単位）に該当するビットがすべて ON する。 例 64 点のユニットを 0 スロットに装着している場合，エラー検出すると b0 ～ b3 が ON する。 ・入出力ユニット照合はリモート I/O 局のユニットに対してもチェックされる。（正常になってもクリアされないため，プログラムでクリアする必要がある。）	Qn(H) QnPH QnU ＊1 LCPU
D9117	SD1117					
D9118	SD1118					
D9119	SD1119					
D9120	SD1120					
D9121	SD1121					
D9122	SD1122					
D9123	SD1123					
D9124	SD1124	SD63	アナンシェータ検出個数	アナンシェータ検出個数	SET F 命令により F0 ～ F2047（デフォルトデバイス設定時）のいずれかが ON すると，SD1124 の内容は +1 され，RST F 命令または，LEDR 命令の実行により SD1124 の内容から -1 される。SET F 命令により ON した個数が最大 16 まで格納される。	
D9125	SD1125	SD64	アナンシェータ検出番号	アナンシェータ検出番号	SET F 命令により F0 ～ F2047（デフォルトデバイス設定時）のいずれかが ON すると SD1125 ～ SD1132 に順次 ON したアナンシェータの番号（F 番号）が登録される。 RST F 命令により OFF された F 番号が SD1125 ～ SD1132 から抹消され，抹消された F 番号以降に格納されていた F 番号が前詰めされる。LEDR 命令の実行により SD1125 ～ SD1132 の内容が 1 つ上にシフトされる。 アナンシェータ検出個数が 8 個ある場合，9 個目を検出しても SD1125 ～ SD1132 には格納されない。  	
D9126	SD1126	SD65				
D9127	SD1127	SD66				
D9128	SD1128	SD67				
D9129	SD1129	SD68				
D9130	SD1130	SD69				
D9131	SD1131	SD70				
D9132	SD1132	SD71				

＊1　下記のユニットが対象です。
・シリアル No. の上 5 桁が “10102” 以降のユニバーサルモデル QCPU
・Q00UJCPU，Q00UCPU，Q01UCPU

(13)Ethernet ポート内蔵 QCPU，Ethernet ポート内蔵 LCPU，内蔵 Ethernet 機能対応

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD1260	使用 IP アドレス	IP アドレス（下位）	内蔵 Ethernet ポートの IP アドレスが格納される。	S（初期）	新規	QnU *3 LCPU *6
SD1261		IP アドレス（上位）				
SD1262		サブネットマスクパターン（下位）	• 内蔵 Ethernet ポートのサブネットマスクパターンが格納される。 • サブネットマスクパターンが設定されていない場合は，0 が格納される。			
SD1263		サブネットマスクパターン（上位）				
SD1264		デフォルトルータ IP アドレス（下位）	• 内蔵 Ethernet ポートのデフォルトルータ IP アドレスが格納される。 • デフォルトルータ IP アドレスが設定されていない場合は，0 が格納される。			
SD1265		デフォルトルータ IP アドレス（上位）				
SD1266	MAC アドレス	MAC アドレス（5，6 バイト目）	内蔵 Ethernet ポートの MAC アドレスが格納される。			QnU *5 LCPU *6
SD1267		MAC アドレス（3，4 バイト目）				
SD1268		MAC アドレス（1，2 バイト目）				

番号	名称		内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD1270	時刻設定機能	動作結果	動作結果を格納	時刻設定機能の動作結果が格納される。 ・0：未実行 ・1：成功 $0FFFF_H$：失敗	S（状態変化）	新規	QnU *1 LCPU *1
SD1271		実施時刻	実施した時刻を格納	時刻設定機能が実施された年（西暦，下 2 桁），月が BCD コード 2 桁で格納される。 			
SD1272				時刻設定機能が実施された日，時が BCD コード 2 桁で格納される。 			
SD1273				時刻設定機能が実施された分，秒が BCD コード 2 桁で格納される。 			
SD1274				時刻設定機能が実施された年（西暦，上 2 桁），曜日が BCD コード 2 桁で格納される。 			
SD1275		応答所要時間	時刻の取得の所要時間を格納	SNTP サーバへ送信してから CPU に時刻を設定するまでに所要した時間が格納される。 ・範囲：A0 ～ $0FFFE_H$(単位：ms) 上記範囲を超える場合は $0FFFF_H$ になる。 成功時のみ値を格納する。（失敗時は前の値のままになる。）			
SD1276	コネクション強制無効化		コネクションの強制無効化を指定	プログラムでコネクションを強制的に無効にしたい場合に指定する。無効に指定されたコネクションは通信を停止し応答なしの状態になる。（リモートパスワード使用時にアンロック処理異常が多いコネクションを，攻撃を受けているとみなし，一時的にアクセス禁止にしたいときに使用する。）  ・0：有効（デフォルト） ・1：無効	U		QnU *2 LCPU *1
SD1277							

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD1282	オープン完了信号	オープン完了状態を格納	ソケット通信または通信プロトコルのコネクション（オープン方式が “ソケット通信” または “通信プロトコル” のコネクション）のオープン完了状態が格納される。ソケット通信または通信プロトコル以外のコネクションの対応ビットは常に「0」になる。  ・0：オープン未完了 ・1：オープン完了	S（状態変化）	新規	QnU *2 LCPU *1
SD1284	オープン要求信号	オープン要求状態を格納	ソケット通信または通信プロトコルのコネクションのオープン要求状態が格納される。ソケット通信または通信プロトコル以外のコネクションの対応ビットは常に「0」になる。  ・0：オープン要求なし ・1：オープン要求中			
SD1286	受信状態信号	受信状態を格納	ソケット通信のコネクションの受信状態が格納される。ソケット通信以外のコネクションの対応ビットは常に「0」になる。  • TCP（通常受信モード）の場合 ・0：データ未受信 ・1：データ受信 • TCP（固定長受信モード）の場合 ・0：データ未受信または受信したが受信バッファサイズに達していない。 ・1：受信データが受信バッファサイズに達した。 • UDP の場合 ・0：データ未受信 ・1：データ受信			
SD1288	内蔵 Ethernet ポート接続状態	内蔵 Ethernet ポートの接続状態を格納	内蔵 Ethernet ポートの接続状態が格納される。 			
SD1289	Ethernet 基本タイムアウト時間	Ethernet 処理の基本タイムアウト時間を指定	Ethernet 処理の ARP 応答待ちなどに使われる基本タイムアウト時間を指定する。 • 0：500ms（デフォルト） • 1 ～ 65535：1 ～ 65535ms	U		QnU *1 LCPU *1

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD1292	IP アドレス設定	IP アドレス（下位）	• IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）に格納する IP アドレスを指定する。 範囲：00000001_H ～ $DFFFFFFE_H$（0.0.0.1 ～ 223.255.255.254） • IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）への書込み完了，またはクリア完了時，IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）に格納された IP アドレスの値が格納される。	S（状態変化）/U	新規	QnU ＊3 LCPU ＊6
SD1293		IP アドレス（上位）				
SD1294		サブネットマスクパターン（下位）	• IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）に格納するサブネットマスクパターンを指定する。 範囲：$C0000000_H$ ～ $FFFFFFFC_H$（192.0.0.0 ～ 255.255.255.252），00000000_H（設定なし） • IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）への書込み完了，またはクリア完了時，IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）に格納されたサブネットマスクパターンの値が格納される。			
SD1295		サブネットマスクパターン（上位）				
SD1296		デフォルトルータ IP アドレス（下位）	• IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）に格納するデフォルトルータ IP アドレスを指定する。 範囲：00000001_H ～ $DFFFFFFE_H$（0.0.0.1 ～ 223.255.255.254），00000000_H（設定なし） • IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）への書込み完了，またはクリア完了時，IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）に格納されたデフォルトルータ IP アドレスの値が格納される。			
SD1297		デフォルトルータ IP アドレス（上位）				
SD1298	IP アドレス格納エリア書込みエラー要因	IP アドレス格納エリア書込み失敗時のエラー要因を格納	IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）への書込み時に発生したエラー要因が格納される。（SM1294 と連動） • 0_H：エラーなし • 100_H：SD1292 ～ 1297 の値が設定範囲外 • 200_H：書込みエラー • 300_H：他機能実行中のため書込み処理実行不可 • 400_H：クリア処理実行中のため書込み処理実行不可	S（状態変化）		
SD1299	IP アドレス格納エリアクリアエラー要因	IP アドレス格納エリアクリア失敗時のエラー要因を格納	IP アドレス格納エリア（フラッシュ ROM）へのクリア時に発生したエラー要因が格納される。（SM1297 と連動） • 0_H：エラーなし • 200_H：クリアエラー • 300_H：他機能実行中のためクリア処理実行不可 • 400_H：書込み処理実行中のためクリア処理実行不可			
SD1395	内蔵 Ethernet ポート用カウンタ	受信用バッファフル発生時読捨て回数	受信用バッファフル発生時のパケットデータ読捨て実行回数カウンタである。 範囲：0 ～ 65535（0000_H ～ $FFFF_H$）	S（状態変化）	新規	QnU ＊4

＊1　Ethernet ポート内蔵 QCPU，Ethernet ポート内蔵 LCPU が対象です。
＊2　シリアル No. の上 5 桁が “10102” 以降の Ethernet ポート内蔵 QCPU が対象です。
＊3　シリアル No. の上 5 桁が “11082” 以降の Ethernet ポート内蔵 QCPU が対象です。
＊4　シリアル No. の上 5 桁が “12072” 以降の Ethernet ポート内蔵 QCPU が対象です。
＊5　シリアル No. の上 5 桁が “12112” 以降の Ethernet ポート内蔵 QCPU が対象です。
＊6　シリアル No. の上 5 桁が “15102” 以降の Ethernet ポート内蔵 LCPU が対象です。

(14) 通信プロトコル機能

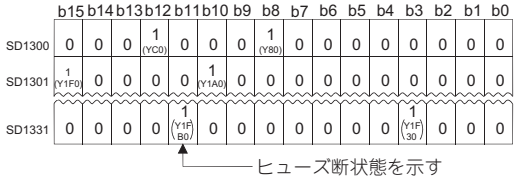
番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD1337	内蔵／アダプタシリアル用通信プロトコル設定データ異常情報	通信プロトコル設定データの異常箇所を特定するための情報を格納	異常を検出したプロトコル番号が格納される。 • 0：異常なし • 1 ～ 128：プロトコル番号 • 65535：特定不可 設定値が特定不可 (65535) になる原因には，下記のような場合がある。 • 現バージョンの LCPU では検出不可能な設定が書き込まれた場合。 • プロトコル設定データが壊れている場合。	S（エラー発生）	新規	LCPU *1
SD1338			異常を検出したプロトコル設定データの設定種別が格納される。（プロトコル番号の値が 1 ～ 128 の場合に有効） • 0：パケット設定または構成要素設定 • 1：プロトコル詳細設定 • 65535：特定不可 設定値が特定不可 (65535) になる原因には，下記のような場合がある。 • 現バージョンの LCPU では検出不可能な設定が書き込まれた場合。 • プロトコル設定データが壊れている場合。			
SD1339			異常を検出したパケット番号が格納される。（設定種別の値が 0 の場合に有効） • 0：送信パケット • 1 ～ 16：受信パケット番号 • 65535：特定不可 設定値が特定不可 (65535) になる原因には，下記のような場合がある。 • 現バージョンの LCPU では検出不可能な設定が書き込まれた場合。 • プロトコル設定データが壊れている場合。			
SD1340			異常を検出した構成要素番号が格納される。（設定種別の値が 0 の場合に有効） • 1 ～ 32：構成要素番号 • 65535：特定不可 設定値が特定不可 (65535) になる原因には，下記のような場合がある。 • 現バージョンの LCPU では検出不可能な設定が書き込まれた場合。 • プロトコル設定データが壊れている場合。			

<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応 ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD1341</td><td>内蔵／アダプタシリアル用プロトコル登録数</td><td>登録されているプロトコル設定データのプロトコル数を格納</td><td>通信プロトコル支援機能で登録されているプロトコル設定データのプロトコル数が格納される。
0：登録なし
1 ～ 128：登録数</td><td rowspan="2">S（状態変化）</td><td rowspan="4">新規</td><td rowspan="2">LCPU *1</td></tr>
<tr><td>SD1342
～
SD1349</td><td>内蔵／アダプタシリアル用プロトコル登録有無</td><td>プロトコル設定データの登録有無を格納</td><td>通信プロトコル支援機能でプロトコル設定データの登録有無が下記のように格納される。
No. = プロトコル番号
<table><tr><th></th><th>b15</th><th></th><th>b1</th><th>b0</th></tr><tr><td>SD1342</td><td>No.16</td><td>～</td><td>No.2</td><td>No.1</td></tr><tr><td>SD1343</td><td>No.32</td><td>～</td><td>No.18</td><td>No.17</td></tr><tr><td>≀</td><td colspan="3">≀</td></tr><tr><td>SD1349</td><td>No.128</td><td>～</td><td>No.114</td><td>No.113</td></tr></table>プロトコル設定データのチェック結果が異常の場合はすべて 0 となる。</td></tr>
<tr><td>SD1351</td><td>内蔵／アダプタシリアル用通信プロトコル機能エラーコード</td><td>通信プロトコル支援機能のエラーコードを格納</td><td>通信プロトコル支援機能のエラーコードが格納される。</td><td rowspan="5">S（エラー発生）</td><td rowspan="4">QnUDV *2
QnUDPV *2
LCPU *3</td></tr>
<tr><td>SD1359</td><td rowspan="4">内蔵 Ethernet用プロトコル設定データ異常情報</td><td rowspan="4">プロトコル設定データの異常箇所を特定するための情報を格納</td><td>異常を検出したプロトコル番号が格納される。
• 0：異常なし
• 1 ～ 128：プロトコル番号
• 65535：特定不可
設定値が特定不可（65535）になる原因には，下記のような場合がある。
• 現バージョンのCPUユニットでは検出不可能な設定が書き込まれた場合。
• プロトコル設定データが壊れている場合。</td></tr>
<tr><td>SD1360</td><td>異常を検出したプロトコル設定データの設定種別が格納される。（プロトコル番号の値が 1 ～ 128 の場合に有効）
• 0：パケット設定または構成要素設定
• 1：プロトコル詳細設定
• 65535：特定不可
設定値が特定不可（65535）になる原因には，下記のような場合がある。
• 現バージョンのCPUユニットでは検出不可能な設定が書き込まれた場合。
• プロトコル設定データが壊れている場合。</td></tr>
<tr><td>SD1361</td><td>異常を検出したパケット番号が格納される。（設定種別の値が 0 の場合に有効）
• 0：送信パケット
• 1 ～ 16：受信パケット番号
• 65535：特定不可
設定値が特定不可（65535）になる原因には，下記のような場合がある。
• 現バージョンのCPUユニットでは検出不可能な設定が書き込まれた場合。
• プロトコル設定データが壊れている場合。</td></tr>
<tr><td>SD1362</td><td>異常を検出した構成要素番号が格納される。（設定種別の値が 0 の場合に有効）
• 1 ～ 32：構成要素番号
• 65535：特定不可
設定値が特定不可（65535）になる原因には，下記のような場合がある。
• 現バージョンのCPUユニットでは検出不可能な設定が書き込まれた場合。
• プロトコル設定データが壊れている場合。</td></tr>
</table>

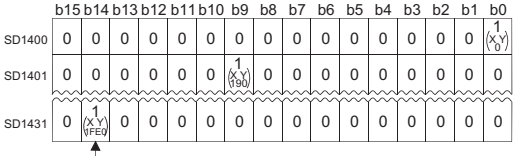
<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>内容</th><th>内容詳細</th><th>セット側
（セット時期）</th><th>対応 ACPU
D9□□□</th><th>対応 CPU</th></tr>
<tr><td>SD1363</td><td>内蔵 Ethernet 用プロトコル登録数</td><td>登録されているプロトコル設定データのプロトコル数を格納</td><td>通信プロトコル支援機能で登録されているプロトコル設定データのプロトコル数が格納される。
0：登録なし
1 ～ 128：登録数</td><td>S（初期）</td><td rowspan="3">新規</td><td rowspan="3">QnUDV ＊2
QnUDPV ＊2
LCPU ＊3</td></tr>
<tr><td>SD1365
～
SD1372</td><td>内蔵 Ethernet 用プロトコル登録有無</td><td>プロトコル設定データの登録有無を格納</td><td>通信プロトコル支援機能でプロトコル設定データの登録有無が下記のように格納される。
No. = プロトコル番号
<table><tr><th></th><th>b15</th><th></th><th>b1</th><th>b0</th></tr><tr><td>SD1365</td><td>No.16</td><td>～</td><td>No.2</td><td>No.1</td></tr><tr><td>SD1366</td><td>No.32</td><td>～</td><td>No.18</td><td>No.17</td></tr><tr><td>≀</td><td colspan="3">≀</td></tr><tr><td>SD1372</td><td>No.128</td><td>～</td><td>No.114</td><td>No.113</td></tr></table>プロトコル設定データのチェック結果が異常の場合はすべて 0 となる。</td><td>S（初期）</td></tr>
<tr><td>SD1381</td><td>内蔵 Ethernet 用通信プロトコル機能エラーコード</td><td>通信プロトコル支援機能のエラーコードを格納</td><td>通信プロトコル支援機能のエラーコードが格納される。</td><td>S（エラー発生）</td></tr>
</table>

＊1　シリアル No. の上 5 桁が “15102” 以降のユニットが対象です。
＊2　シリアル No. の上 5 桁が “15103” 以降のユニットが対象です。
＊3　シリアル No. の上 5 桁が “15102” 以降の Ethernet ポート内蔵 LCPU が対象です。

(15) ヒューズ断ユニット

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD1300 SD1301 SD1302 SD1303 SD1304 SD1305 SD1306 SD1307 SD1308 SD1309 ～ SD1330 SD1331	ヒューズ断ユニット	ヒューズ断ユニットの 16 点単位のビットパターン 0：ヒューズ断なし 1：ヒューズ断あり	・ヒューズ断状態になっている出力ユニット番号（16 点単位）が下記のビットパターンで格納される。（パラメータで設定しているときは設定されている番号） ・リモート局の出力ユニットのヒューズ断状態も検出される。  出力点数が 16 点を超えるユニットでは，ユニットが占有する出力点数に含まれる出力ユニット番号（16 点単位）に該当するビットがすべて ON する。 例 64 点のユニットを 0 スロットに装着している場合，ヒューズ断を検出すると b0 ～ b3 が ON する。 ・正常になってもクリアされない。エラーの解除を行うと，クリアされる。	S（エラー発生）	D9100 D9101 D9102 D9103 D9104 D9105 D9106 D9107 新規	Qn(H) QnPH QnPRH QnU

(16) 入出力ユニット照合

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD1400 SD1401 SD1402 SD1403 SD1404 SD1405 SD1406 SD1407 SD1408 SD1409 ～ SD1430 SD1431	入出力ユニット照合エラー	入出力ユニット照合エラーユニットの 16 点単位のビットパターン 0：入出力照合エラーなし 1：入出力照合エラーあり	・電源 ON 時に登録された入出力ユニット情報と異なる入出力ユニットが検知されたとき，その入出力ユニット番号が下記のビットパターンで格納される。（パラメータで設定しているときは設定されている入出力ユニット番号） ・リモート局の入出力ユニット情報も検出される。  入出力点数が 16 点を超えるユニットでは，ユニットが占有する入出力点数に含まれる入出力ユニット番号（16 点単位）に該当するビットがすべて ON する。 例 64 点のユニットを 0 スロットに装着している場合，エラー検出すると b0 ～ b3 が ON する。 ・正常になってもクリアされない。エラーの解除を行うとクリアされる。	S（エラー発生）	D9116 D9117 D9118 D9119 D9120 D9121 D9122 D9123 新規	Qn(H) QnPH QnPRH QnU LCPU

(17)iQ Sensor Solution 対応

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD1435	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストア使用要求	バックアップ／リストアの使用要求	バックアップ／リストアを実行する際に，使用権を取得するため，使用要求を行う。任意の 4 桁の数字（要求 No.,0000_H を除く）をセットする。 ただし，4 桁の数字は，要求元により以下を使用する。 $1***_H$：ラダーからの要求時 $D***_H$：MELSOFT Navigator からの要求時 $E***_H$：GOT からの要求時 $F***_H$：GX Works2 からの要求時 ・使用権解除時に 0 クリアされる。	S（状態変化）/U	新規	LCPU *1
SD1436	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストア使用権取得状況	バックアップ／リストア使用要求を受けて，使用権を取得した要求元を表示	バックアップ／リストア使用要求を受けて，使用権を取得した要求 No. を表示する。 ・使用権解除時に 0 クリアされる。	S（状態変化）		
SD1437	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストア対象種別／実行単位設定	バックアップ／リストアの対象機器／実行単位の設定	バックアップ／リストアの対象機種／実行単位を設定する。 下位 8 ビット（対象機種） 1_H：AnyWireASLINK 2_H：CC-Link 3_H：Ethernet 上位 8 ビット（実行単位） 【AnyWireASLINK】 1_H：ユニット単位 2_H：ID 単位 【CC-Link】 1_H：ユニット単位 2_H：局単位 3_H：局サブ ID 単位 【Ethernet】 1_H：ユニット単位 2_H：IP アドレス単位	U		
SD1438	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストア対象フォルダ番号設定	バックアップ／リストア対象フォルダ番号の設定	バックアップデータを保存する対象のフォルダ番号，リストアを行うデータを保存した対象のフォルダ番号を設定する。 0 ～ 99：対象フォルダ指定 $FFFE_H$：自動指定（フォルダ削除対応） $FFFF_H$（デフォルト）：自動指定			
SD1439	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストア対象設定（対象ユニット）	バックアップ／リストアの対象機器（対象ユニット）の設定	バックアップ／リストアの対象機器（対象ユニット）を設定する。 I/O No.：ユニット（先頭入出力番号を 16 で割った値を入力する。） $3FF_H$：内蔵 Ethernet			
SD1440	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストア対象設定（対象機器 1）	バックアップ／リストアの対象機器の設定	バックアップ／リストアの対象機器を設定する。 【AnyWireASLINK】 ID 番号 【CC-Link】 局番 【Ethernet】 IP アドレス（下位 16 ビット） （例）IP アドレス 192.168.3.40 の場合 $3=3_H$，$40=28_H$ のため，格納される値は 0328_H=808			

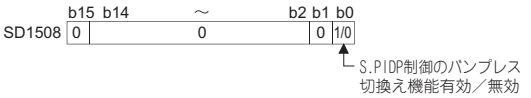
番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD1441	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストア対象設定（対象機器 2）	バックアップ／リストアの対象機器の設定	バックアップ／リストアの対象機器を設定する。 【AnyWireASLINK】 0（使用しない） 【CC-Link】 局サブ ID 番号 【Ethernet】 IP アドレス（上位 16 ビット） （例）IP アドレス 192.168.3.40 の場合 192=$C0_H$，168=$A8_H$ のため，格納される値は $C0A8_H$=49320	U	新規	LCPU *1
SD1444	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストア動作設定	バックアップ／リストアエラー時の動作設定の格納	バックアップ／リストアエラー時の動作設定を格納する。 0：続行 1：停止			
SD1446	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストア状態	バックアップ／リストアの実行状態の格納	バックアップ／リストアの実行状態を格納する。 0_H：未実行 1_H：準備中 2_H 実行中 3_H：完了 10_H：中止待ち 11_H：中止（エラーなし） FE_H：中止（エラーあり） FF_H：エラー	S（状態変化）		
SD1447	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストア実行状況（総対象機器数）	バックアップ／リストア実行状況（総対象機器数）の格納	実行単位ごとのバックアップ／リストアの総対象機器数を格納する。 ・使用権取得時に 0 クリアされる。			
SD1448	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストア実行状況（正常完了機器数）	バックアップ／リストア実行状況（正常完了機器数）の格納	実行単位ごとのバックアップ／リストアの実行状況（正常完了機器数）を表示する。実行完了機器の内，正常完了した機器数を格納する。 ・使用権取得時に 0 クリアされる。			
SD1449	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストア実行状況（異常完了機器数）	バックアップ／リストア実行状況（異常完了機器数）の格納	実行単位ごとのバックアップ／リストアの実行状況（異常完了機器数）を表示する。実行完了機器の内，異常完了した機器数を格納する。 ・使用権取得時に 0 クリアされる。			
SD1450	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストア実行状況（機器単位進捗）	バックアップ／リストア実行状況（機器単位進捗）の格納	バックアップ／リストアについて，現在実行中の機器 1 台における進捗状況をパーセントで表示する。（0 ～ 100%） ・使用権取得時に 0 クリアされる。			
SD1451	iQ Sensor Solution 対応バックアップフォルダ番号	バックアップデータを保存したフォルダ番号を格納する。	バックアップデータを保存したフォルダ番号を格納する。 0 ～ 99：フォルダ番号 $FFFF_H$：バックアップデータ未保存 ・使用権取得時に $FFFF_H$ がセットされる。			

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD1452	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストアユニットエラー要因	バックアップ／リストアエラー時にユニットで検出したエラー要因の格納	バックアップ／リストアエラー時にユニットで検出したエラー要因を格納する。 ・複数の機器でエラーが検出された場合，最初に検出したエラーを格納する。 ・使用権取得時に 0 クリアされる。 格納されたエラー要因の詳細は，下記を参照してください。 248 ページ 付 1.11 バックアップ／リストア対象ユニットのユーザーズマニュアル	S（エラー発生／状態変化）	新規	LCPU *1
SD1453	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストア対象機器詳細エラー要因	バックアップ／リストアエラー時に対象機器で検出したエラー要因の格納	バックアップ／リストアエラー時に対象機器で検出したエラー要因を格納する。 ・複数の機器でエラーが検出された場合，最初に検出したエラーを格納する。 ・使用権取得時に 0 クリアされる。 格納されたエラー要因の詳細は，下記のマニュアルを参照してください。 iQ Sensor Solution リファレンスマニュアル			
SD1454	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストアエラー対象機種／実行単位情報	バックアップ／リストアエラー時に対象機種／実行単位の格納	バックアップ／リストアエラー時に対象機種，実行単位を格納する。 下位 8 ビット（対象機種） 1_H：AnyWireASLINK 2_H：CC-Link 3_H：Ethernet 上位 8 ビット（実行単位） 【AnyWireASLINK】 1_H：ユニット単位 2_H：ID 単位 【CC-Link】 1_H：ユニット単位 2_H：局単位 3_H：局サブ ID 単位 【Ethernet】 1_H：ユニット単位 2_H：IP アドレス単位 ・使用権取得時に 0 クリアされる。			
SD1455	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストアエラー対象フォルダ番号情報	バックアップ／リストアエラー時に実行対象のフォルダ番号の格納	バックアップ／リストアエラー時に実行対象のフォルダ番号（0 ～ 99）を格納する。 ・対象フォルダ番号が特定不可の場合，$FFFF_H$ を格納する。 ・使用権取得時に 0 クリアされる。			
SD1456	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストアエラー詳細情報（対象ユニット）	バックアップ／リストアエラー時に最初にエラーとなった対象機器（対象ユニット）情報の格納	バックアップ／リストアエラーとなった対象機器（対象ユニット）情報を格納する。 I/O No.：ユニット（先頭入出力番号を 16 で割った値を格納する。） $3FF_H$：内蔵 Ethernet ・複数の機器でエラーが検出された場合，最初に検出した対象機器（対象ユニット）情報を格納する。 ・使用権取得時に 0 クリアされる。			

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD1457	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストアエラー詳細情報（対象機器 1）	バックアップ／リストアエラー時に最初にエラーとなった対象機器情報の格納	バックアップ／リストアエラーとなった対象機器（対象機器 1）情報を格納する。 【AnyWireASLINK】 ID 番号 【CC-Link】 局番 【Ethernet】 IP アドレス（下位 16 ビット） （例）IP アドレス 192.168.3.40 の場合 $3=3_H$，$40=28_H$ のため，格納される値は $0328_H=808$ ・複数の機器でエラーが検出された場合，最初に検出した対象機器（対象機器 1）情報を格納する。 ・使用権取得時に 0 クリアされる。	S（エラー発生／状態変化）	新規	LCPU ＊1
SD1458	iQ Sensor Solution 対応バックアップ／リストアエラー詳細情報（対象機器 2）		バックアップ／リストアエラーとなった対象機器（対象機器 2）情報を格納する。 【AnyWireASLINK】 0（使用しない） 【CC-Link】 局サブ ID 番号 【Ethernet】 IP アドレス（上位 16 ビット） （例）IP アドレス 192.168.3.40 の場合 $192=C0_H$，$168=A8_H$ のため，格納される値は $C0A8_H=49320$ ・複数の機器でエラーが検出された場合，最初に検出した対象機器（対象機器 2）情報を格納する。 ・使用権取得時に 0 クリアされる。			

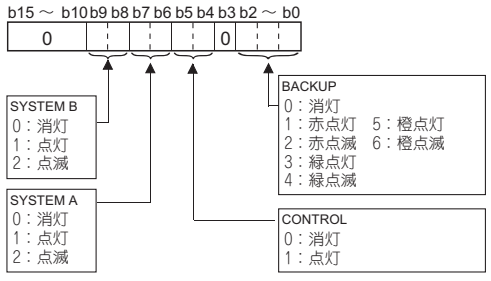
＊1　シリアル No. の上 5 桁が “14112” 以降の Ethernet ポート内蔵 LCPU が対象です。

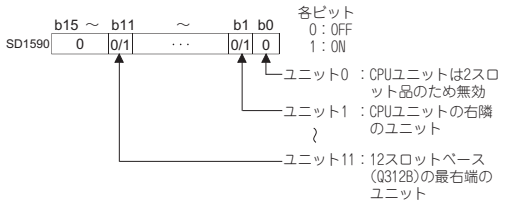
(18) プロセス制御命令

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD1500 SD1501	実行周期	実行周期時間	プロセス制御命令用に実行周期（単位：秒）を浮動小数点データで設定する。 浮動小数点データ＝ SD1501 | SD1500	U	新規	QnPH QnUDPV
SD1502	プロセス制御命令詳細エラーコード	プロセス制御命令詳細エラーコード	プロセス制御命令で発生したエラーの詳細内容を示す。	S（エラー発生）		
SD1503	プロセス制御命令発生エラー箇所	プロセス制御命令発生エラー箇所	プロセス制御命令で発生したエラー処理ブロックを示す。			
SD1506 SD1507	ダミーデバイス	ダミーデバイス	プロセス制御命令でダミーデバイスを指定する場合に使用する。	U		QnPH QnPRH QnUDPV
SD1508	プロセス制御命令機能選択	b0 S.PIDP 制御のバンプレス切換え機能 0：有効 1：無効 （デフォルト：0）	プロセス制御命令で各機能を有効とするか無効とするかを選択する。 			

(19) 二重化対応（自系 CPU 情報 ＊1）

SD1510 ～ SD1599 は，二重化システムでのみ有効です。単独システムでは，すべて「0」になります。

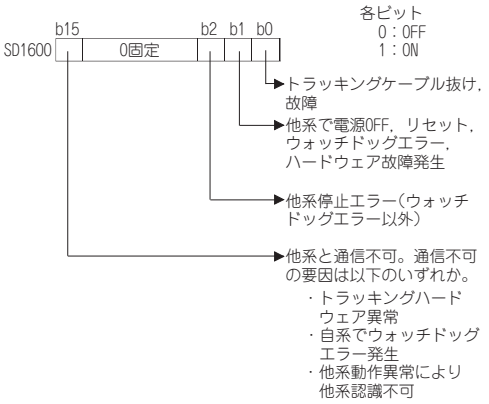
番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD1585	二重化対応 LED 状態	下記 4 つの LED 状態 • BACKUP • CONTROL • SYSTEM A • SYSTEM B	BACKUP, CONTROL, SYSTEM A, SYSTEM B の LED の状態を下記の形式で格納する。 	S（状態変化）	新規	QnPRH
SD1588	系切替え要因	自系で発生した系切替え要因	自系で発生した系切替え要因が格納される。系切替え不可要因により系が切替えられないときにも，系切替え要因を本レジスタに格納する。電源 OFF → ON またはリセット解除時に「0」で初期化する。 ・0：初期値（系切替えが一度も発生していない） ・1：ハードウェア故障，ウォッチドッグエラー ・2：停止エラー（ウォッチドッグエラーを除く） ・3：ネットワークユニットによる系切替え要求 ・16：制御系切替え命令 ・17：プログラミングツールからの系切替え要求	S（要因発生時）	○	

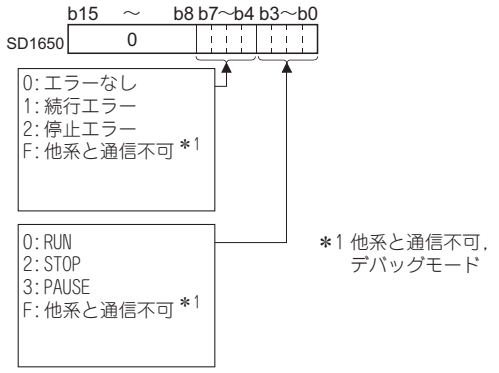
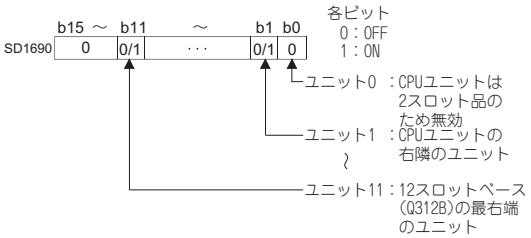
番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD1589	系切替え不可要因	系切替え不可要因番号	• 系切替え要因の発生による系切替え時に，系切替えができなかった場合の系切替え不可要因が下記の値で格納される。 · 0：正常に切替え完了（デフォルト） · 1：トラッキングケーブル異常（ケーブル抜け，ケーブル異常，内部回路異常） · 2：待機系でハードウェア故障，電源 OFF 中，リセット中，ウォッチドッグタイマエラー発生中 · 3：制御系でハードウェア故障，電源 OFF 中，リセット中，ウォッチドッグタイマエラー発生中 · 4：トラッキング通信準備中 · 5：通信タイムオーバー · 6：待機系が停止エラー（ウォッチドッグタイマエラー以外） · 7：両系の動作が違う（バックアップモード時のみ検出する） · 8：制御系から待機系へのメモリコピー中 · 9：RUN 中書込み中 · 10：待機系にてネットワークユニットの異常を検出している · 11：系切替え実行中 • 自系電源 ON 時に 0 で初期化する。 • 系切替えが正常完了したときには 0 が格納される。	S（系切替え時）	○	QnPRH
SD1590	自系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニット No.	自系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニット No.	• 自系のネットワークユニットからの系切替え要求が発行されたユニット No. ごとに下記のビットが ON する。  • ユーザにより該当ユニットの異常を取り除いた後，システムで OFF する。 • 他系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニット No. は SD1690 を参照する。	S（エラー発生／状態変化）	新規	
SD1595	メモリコピー先 I/O No.	メモリコピー先 I/O No.	• SM1595 が OFF → ON 前にメモリコピー先 I/O No.（待機系 CPU ユニット：$3D1_H$）を格納する。	U		
SD1596	メモリコピーステータス	メモリコピーステータス	• メモリコピーのステータスが格納される。 · 0：正常完了 · 4241_H：待機系の電源 OFF · 4242_H：トラッキングケーブル抜け，異常 · 4247_H：メモリコピー実施中 · 4248_H：サポートしていないコピー先 I/O No.	S（状態変化）		

＊1　自系 CPU ユニットの情報が格納されます。

(20) 二重化対応（他系 CPU 情報 ＊1）

SD1600 ～ SD1650 は，二重化システムのバックアップモードのみ有効です。セパレートモードでは，無効です。SD1651 ～ SD1690 は，バックアップモード，セパレートモードのいずれでも有効です。単独システム時は，SD1600 ～ SD1690 では，すべて「0」になります。

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応自系 SD□□＊2	対応 CPU
SD1600	系異常情報	系異常情報	• 二重化システム用エラーチェックでエラーが生じれば，下記の該当ビットが ON する。以後，エラーが解除されれば OFF する。  • b0, b1, b2, b15 のうち，いずれか 1 つが ON ならば，他はすべて OFF になる。 • デバッグモード時，b0, b1, b2, b15 はすべて OFF になる。	S（毎回 END）	-	QnPRH
SD1601	系切替え結果	系が切り替わった要因	系が切り替わった要因が格納される。 • 系切替え時に両系の SD1601 に系切替え要因が格納される。 • 電源 OFF → ON またはリセット解除時に「0」で初期化される。 • 本レジスタに格納される値は下記のとおり。 · 0：初期値（系切替えが一度も発生していない） · 1：電源 OFF，リセット，ハードウェア故障，ウォッチドッグタイマエラー＊1 · 2：停止エラー（ウォッチドッグタイマエラーを除く。） · 3：ネットワークユニットによる系切替え要求 · 16：制御系切替え命令 · 17：プログラミングツールからの系切替え要求 ＊1：制御系の電源 OFF またはリセットにより系が切り替わったときには，新待機系の SD1601 には「1」を格納しない。	S（系切替え時）		
SD1602	制御系切替え命令引数	制御系切替え命令引数	• SP.CONTSW 命令により系切替えが発生した場合に，命令の引数が格納される。（SP.CONTSW 命令の引数は，系切替え時の両系の SD1602 に格納される） • SD1602 は，SD1601 に「16：制御系切替え命令」が格納されているときのみ有効である。 • SD1602 は，制御系切替え命令による系切替え実行時のみ更新される。			
SD1610	他系診断エラー	診断エラーコード	• 他系で発生しているエラーのエラーコードが格納される。 • 他系 CPU ユニットの SD0 が反映される。	S（毎回 END）	SD0	
SD1611 SD1612 SD1613	他系診断エラー発生時刻	診断エラー発生時刻	• 他系で発生しているエラーの発生時刻が格納される。 • データの構成は SD1 ～ SD3 と同様である。 • 他系 CPU ユニットの SD1 ～ SD3 が反映される。		SD1 ～ SD3	

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応自系 SD□□*2	対応 CPU
SD1614	他系エラー情報区分	エラー情報区分コード	• 他系で発生しているエラーの個別情報，共通情報の区分コードが格納される。 • データの構成は SD4 と同様である。 • 他系 CPU ユニットの SD4 が反映される。	S（毎回 END）	SD4	QnPRH
SD1615 ～ SD1625	他系エラー共通情報	エラー共通情報	• 他系で発生しているエラーの共通情報が格納される。 • データの構成は SD5 ～ SD15 と同様である。 • 他系 CPU ユニットの SD5 ～ SD15 が反映される。		SD5 ～ SD15	
SD1626 ～ SD1636	他系エラー個別情報	エラー個別情報	• 他系で発生しているエラーの個別情報が格納される。 • データの構成は SD16 ～ SD26 と同様である。 • 他系 CPU ユニットの SD16 ～ SD26 が反映される。		SD16 ～ SD26	
SD1649	待機系エラー解除指令	解除するエラーのエラーコード	• 待機系エラー解除により，解除するエラーのエラーコードが格納される。 • 本レジスタに解除するエラーのエラーコードを格納して，SM1649 を OFF → ON することにより，待機系のエラーが解除される。 • 本レジスタに格納したエラーコードについて，下一桁（1 の位）の値は無視される。（本レジスタに 4100 を格納してエラー解除することにより，エラーコード 4100 ～ 4109 のエラーが解除できる。）		-	
SD1650	他系動作情報	他系動作情報	他系 CPU ユニットの動作情報が下記のビットパターンで格納される。 他系と通信不可またはデバッグモード時は $00FF_H$ が格納される。  ＜補足＞ 下記の状態では，他系と通信不可となる。 • 他系が電源 OFF またはリセット中である。 • 自系または他系でハードウェア故障が発生している。 • 自系または他系でウォッチドッグエラーが発生している。 • トラッキングケーブルが装着されていない。またはトラッキングケーブルが断線／故障している。		-	
SD1690	他系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニット No.	他系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニット No.	• 他系のネットワークユニットからの系切替え要求が発行されたユニット No. ごとに下記ビットが ON する。  • ユーザにより該当ユニットの異常を取り除いた後，システムにて OFF する。 • 自系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニット No. は SD1590 を参照する。		-	

＊1　他系 CPU ユニットの診断情報，システム情報が格納されます。
＊2　自系 CPU ユニットで対応する特殊レジスタ（SDロロ）を示します。

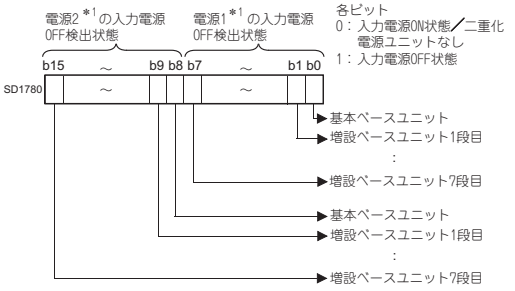
(21) 二重化対応（トラッキング情報）

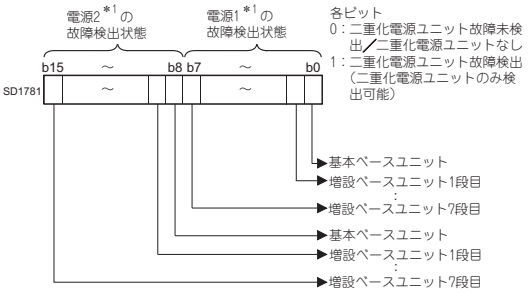
SD1700 ～ SD1779 は，二重化システムのみ有効です。単独システムでは，すべて「0」になります。

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPUD9□□	対応 CPU
SD1700	トラッキング異常検出回数	トラッキング異常検出回数	• トラッキング異常検出で +1 される。 • カウントは 0 → 32767 → -32767 → 0 が繰り返される。	S（エラー発生）	新規	QnPRH
SD1710	待機系 RUN 中書込開始待ち時間	待機系 RUN 中書込開始待ち時間	• RUN 中書込み二重化追従機能で，制御系への RUN 中書込みが完了してから，待機系に対して RUN 中書込みが開始されるまでの待機系での待ち時間を秒単位で設定する。 • 制御系の RUN 中書込み完了後，設定時間以内に待機系への RUN 中書込み要求がなかった場合には，両系の CPU ユニットは RUN 中書込み二重化追従が異常完了したと判断する。この場合，両系の CPU ユニットは，RUN 中書込み中は停止している両系同一性チェックを再開する。また，制御系は新規の RUN 中書込み二重化追従の要求を受け付けられるようにする。 • 両系電源 ON 時，SD1710 にはデフォルト値として 90 秒を設定する。 • 90 ～ 3600 秒の範囲内で設定する。0 ～ 89 秒を設定した場合には，90 秒が設定されたものとして動作する。0 ～ 3600 秒以外の値を設定した場合には 3600 秒が設定されたものとして動作する。 • 複数ブロック RUN 中書込み二重化追従実行時，ファイルの RUN 中書込み二重化追従実行時も，SD1710 の設定値により待機系への RUN 中書込み開始の待ち時間をチェックする。	S（初期）/U		

(22) 二重化電源ユニット情報

SD1780 ～ SD1789 は，電源二重化システムのみ有効です。電源単独システムでは，すべて「0」になります。

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPUD9□□	対応 CPU
SD1780	電源 OFF 検出状態	電源 OFF 検出状態	• 入力電源が OFF 状態の二重化電源ユニット（Q63RP，Q64RP）を下記のビットパターンで格納される。  • 基本ベースユニットが電源二重化基本ベースユニット（Q38RB）でない場合，本レジスタには「0」が格納される。 • マルチ CPU システム構成時は，1 号機の CPU ユニットにのみ状態が格納される。	S（毎回 END）	新規	Qn(H) *2 QnPH *2 QnPRH QnU *3

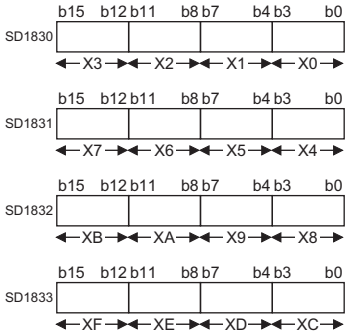
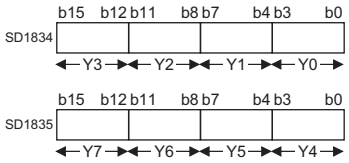
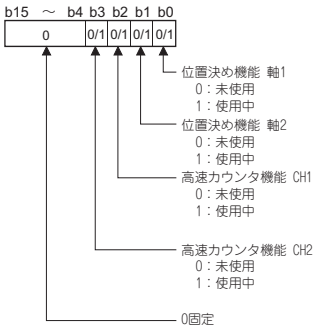
番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPUD9□□□	対応 CPU
SD1781	電源故障検出状態	電源故障検出状態	• 二重化電源ユニット（Q63RP, Q64RP）の故障検出状態を下記のビットパターンで格納される。（二重化電源ユニットの故障検出後，故障した二重化電源ユニットへの入力電源 OFF 時に該当ビットを「0」にする。）  • 基本ベースユニットが電源二重化基本ベースユニット（Q38RB）でない場合，本レジスタには「0」が格納される。 • マルチ CPU システム構成時は，1 号機の CPU ユニットにのみ状態が格納される。	S（毎回 END）	新規	Qn(H) *2 QnPH *2 QnPRH QnU *3
SD1782	電源 1 *1 用瞬停検出カウンタ	電源 1 の瞬停検出回数	• 電源 1 ／電源 2 の瞬停回数をカウントする。 • 電源二重化基本ベースユニット（Q38RB）に装着されている電源 1 ／電源 2 の状態を監視してカウントする。電源二重化増設ベースユニット，二重化増設ベースユニットに装着されている電源 1 ／電源 2 の状態は監視しない。 • CPU ユニット起動時に，電源 1 ／電源 2 のカウンタを 0 クリアする。 • 片側の二重化電源ユニットへの入力電源が OFF した場合は，入力電源が OFF した二重化電源ユニットに対応するカウンタを 0 クリアする。 • 電源1／電源2の瞬停を1回検出するたびに+1する。（カウントは 0 → 32767 → -32767 → 0 を繰り返す。（プログラミングツールのシステムモニタでは，0 ～ 65535 の範囲で表示される。）） • 基本ベースユニットが電源二重化基本ベースユニット（Q38RB）でない場合，本レジスタには 0 が格納される。 • マルチ CPU システム構成時は，1 号機の CPU ユニットにのみ状態が格納される。			
SD1783	電源 2 *1 用瞬停検出カウンタ	電源 2 の瞬停検出回数				

＊1 「電源 1」は二重化ベースユニット（Q38RB/Q68RB/Q65WRB）の POWER1 スロットに装着した二重化電源ユニットを示します。
「電源 2」は二重化ベースユニット（Q38RB/Q68RB/Q65WRB）の POWER2 スロットに装着した二重化電源ユニットを示します。

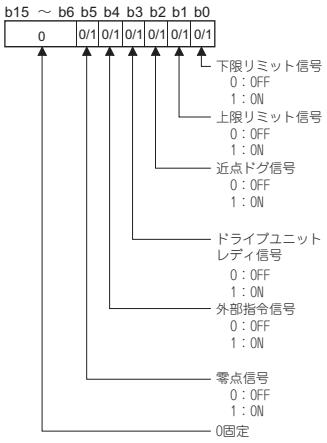
＊2 シリアル No. の上 5 桁が “07032” 以降のユニットが対象です。（マルチ CPU システム構成時は，すべての CPU ユニットをシリアル No. の上 5 桁が “07032” 以降のユニットにする必要があります。）

＊3 シリアル No. の上 5 桁が “10042” 以降のユニットが対象です。

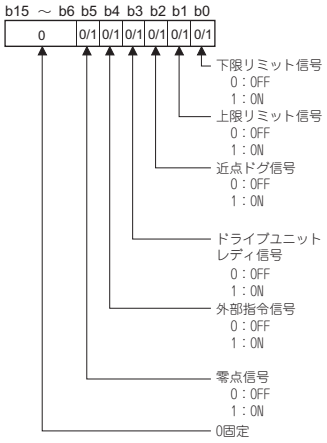
(23) 内蔵 I/O 機能対応

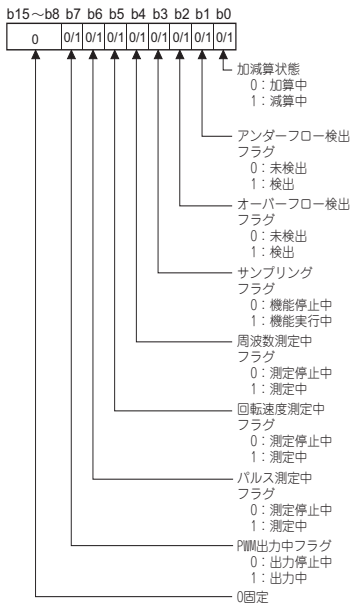
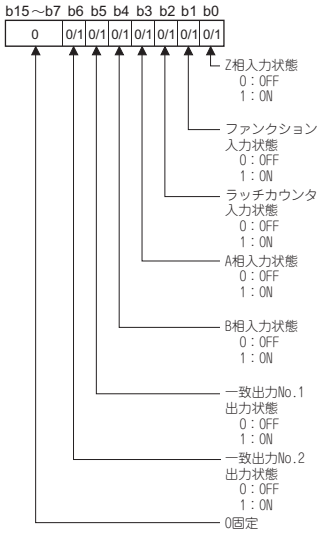
番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPUD9 □□□	対応 CPU
SD1830 SD1831 SD1832 SD1833	入力信号機能選択状態	入力信号に対する機能選択の状態	入力信号に対して割り付けられている機能を示す値が格納される。信号ごとに 4 ビット分の情報をもつ。  格納される値は機能ごとに下記のようになる。 ・0：汎用入力機能 ・1：割込み入力機能 ・2：パルスキャッチ機能 ・3：位置決め機能 ・4：高速カウンタ機能	S（毎回 END）	新規	LCPU
SD1834 SD1835	出力信号機能選択状態	出力信号に対する機能選択の状態	出力信号対して割り付けられている機能を示す値が格納される。信号ごとに 4 ビット分の情報をもつ。  格納される値は機能ごとに下記のようになる。 ・0：汎用出力機能 ・3：位置決め機能 ・4：高速カウンタ機能			
SD1836	位置決め／高速カウンタ機能使用状態	位置決め／高速カウンタ機能の使用状態	内蔵の位置決め機能と高速カウンタ機能の使用状態が格納される。  			

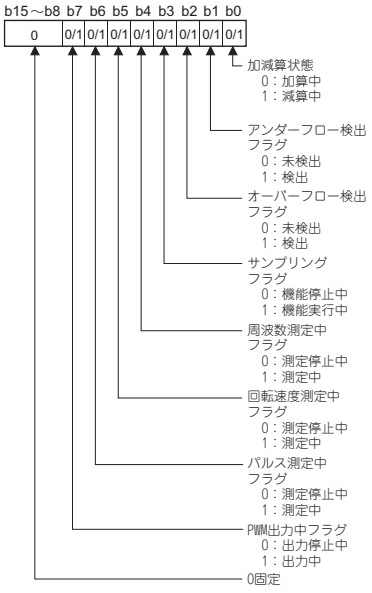
番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPUD9 □□□	対応 CPU
SD1840 SD1841	軸 1 送り現在値	現在の送り現在値	原点復帰完了時の位置を基準とした現在位置が格納される。 電源 ON 時またはリセット時は「0」が格納される。 機械原点復帰制御完了時は，原点アドレスが格納される。 速度制御，速度・位置切換え制御の速度制御始動時，0 クリアする。 ・現在値変更実行時，現在値変更値が格納される。 ・絶対位置復元完了時，サーボアンプから読み出した現在位置が格納される。＊1＊2 ＊1　範囲：-2147483648 ～ 2147483647 pulse ＊2　送り現在値は，内部の更新周期が 1ms であるため，END のリフレッシュタイミングによっては実際の指令位置に対して最大 1ms の遅れが発生することがある。	S（毎回 END）	新規	LCPU
SD1842 SD1843	軸 1 現在速度	現在速度	現在の速度が格納される。（端数は無視される。1pulse/s 未満の速度の場合「0」と表示されることがある。）＊1＊2 ＊1　範囲：0 ～ 200000pulse ＊2　現在速度は，内部の更新周期が 1ms であるため，END のリフレッシュタイミングによっては実際の指令位置に対して最大 1ms の遅れが発生することがある。			
SD1844	軸 1 軸動作状態	軸の動作状態	軸の動作状態が格納される。 ・-1：エラー発生中 ・0：待機中 ・1：停止中 ・2：JOG 運転中 ・3：原点復帰中 ・4：位置制御中 ・5：速・位速度（速度・位置切換え制御の速度制御中） ・6：速・位位置（速度・位置切換え制御の位置制御中） ・7：減速中（軸停止 ON） ・8：減速中（JOG 始動 OFF） ・9：高速原点復帰中 ・10：速度制御中 ・11：解析中			
SD1845	軸 1 エラーコード	エラーコード	• 軸エラー発生時，エラーコードが格納される。 • 軸エラー発生中に他のエラーが発生した場合には，最新のエラーコードは無視される。 • 軸 1 エラーリセット（SM1850）を ON すると，軸エラーコードは 0 クリアされる。			
SD1846	軸 1 ワーニングコード	ワーニングコード	• 軸ワーニング発生時，ワーニングコードが格納される。 • 新しい軸ワーニングが発生したとき，ワーニングコードは上書きされる。 • 軸 1 エラーリセット（SM1850）を ON すると，軸ワーニングコードは 0 クリアされる。			

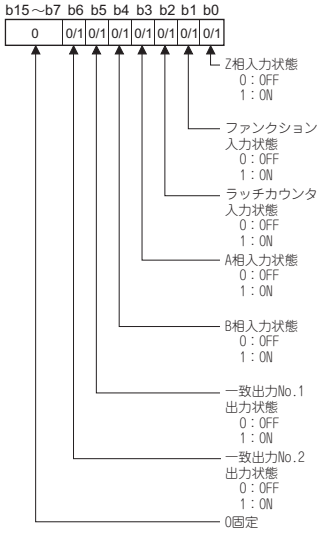
番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPUD9 □□□	対応 CPU
SD1847	軸 1 外部入出力信号	外部入出力信号	• 外部入出力信号の ON/OFF 状態が格納される。 • 原点復帰リトライ機能のある原点復帰方式（近点ドグ式，カウント 1，カウント 2）を実行した場合，外部指令信号は，上限リミット信号または下限リミット信号の内容が反映される。＊1  ＊1　原点復帰リトライ機能のある原点復帰を一度でも始動すると，「速度・位置切換え制御」が始動されるまで上限リミット信号または下限リミット信号の反映が継続される。	S（毎回 END）	新規	LCPU
SD1848 SD1849	軸 1 近点ドグ ON 後の移動量	近点ドグが ON してからの移動量	• 機械原点復帰制御始動時は「0」が格納される。 • 機械原点復帰制御始動後は，近点ドグ ON から機械原点復帰制御完了までの移動量が格納される。（移動量：近点ドグ ON 時を「0」とした機械原点復帰制御完了までの移動量のこと）＊1 • 原点復帰方式が「ストッパ 3」の場合は常時「0」。 ＊1　範囲：0 ～ 2147483647pulse			
SD1850	軸 1 実行中位置決めデータ No	実行中の位置決めデータ No	• 現在実行中の位置決めデータNoが格納される。（格納値は次の始動が実行されるまで保持される） • JOG 運転，機械原点復帰制御を開始した場合，0 が格納される。 • 高速原点復帰制御を開始した場合，1 が格納される。 • IPDSTRT1/IPDSTRT2 による位置決め制御を開始した場合，1 が格納される。 • 位置決め始動時にエラーが発生した場合，前回値が保持される。			

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPUD9 □□□	対応 CPU
SD1860 SD1861	軸 2 送り現在値	現在の送り現在値	原点復帰完了時の位置を基準とした現在位置が格納される。 電源 ON 時またはリセット時は「0」が格納される。 機械原点復帰制御完了時は，原点アドレスが格納される。 速度制御，速度・位置切換え制御の速度制御始動時，0 クリアする。 ・現在値変更実行時，現在値変更値が格納される。 ・絶対位置復元完了時，サーボアンプから読み出した現在位置が格納される。＊1＊2 ＊1　範囲：-2147483648 ～ 2147483647 pulse ＊2　送り現在値は，内部の更新周期が 1ms であるため，END のリフレッシュタイミングによっては実際の指令位置に対して最大 1ms の遅れが発生することがある。	S（毎回 END）	新規	LCPU
SD1862 SD1863	軸 2 現在速度	現在速度	現在の速度が格納される。（端数は無視される。1pulse/s 未満の速度の場合「0」と表示されることがある。）＊1＊2 ＊1　範囲：0 ～ 200000pulse ＊2　現在速度は，内部の更新周期が 1ms であるため，END のリフレッシュタイミングによっては実際の指令位置に対して最大 1ms の遅れが発生することがある。			
SD1864	軸 2 軸動作状態	軸の動作状態	軸の動作状態が格納される。 ・-1：エラー発生中 ・0：待機中 ・1：停止中 ・2：JOG 運転中 ・3：原点復帰中 ・4：位置制御中 ・5：速・位速度（速度・位置切換え制御の速度制御中） ・6：速・位位置（速度・位置切換え制御の位置制御中） ・7：減速中（軸停止 ON） ・8：減速中（JOG 始動 OFF） ・9：高速原点復帰中 ・10：速度制御中 ・11：解析中			
SD1865	軸 2 エラーコード	エラーコード	• 軸エラー発生時，エラーコードが格納される。 • 軸エラー発生中に他のエラーが発生した場合には，最新のエラーコードは無視される。 • 軸 2 エラーリセット（SM1870）を ON すると，軸エラーコードは 0 クリアされる。			
SD1866	軸 2 ワーニングコード	ワーニングコード	• 軸ワーニング発生時，ワーニングコードが格納される。 • 新しい軸ワーニングが発生したとき，ワーニングコードは上書きされる。 • 軸 2 エラーリセット（SM1870）を ON すると，軸ワーニングコードは 0 クリアされる。			

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPUD9 □□□	対応 CPU
SD1867	軸 2 外部入出力信号	外部入出力信号	• 外部入出力信号の ON/OFF 状態が格納される。原点復帰リトライ機能のある原点復帰方式（近点ドグ式，カウント 1，カウント 2）を実行した場合，外部指令信号は，上限リミット信号または下限リミット信号の内容が反映される。＊1  ＊1　原点復帰リトライ機能のある原点復帰を一度でも始動すると，「速度・位置切換え制御」が始動されるまで上限リミット信号または下限リミット信号の反映が継続される。	S（毎回 END）	新規	LCPU
SD1868 SD1869	軸 2 近点ドグ ON 後の移動量	近点ドグが ON してからの移動量	• 機械原点復帰制御始動時は「0」が格納される。 • 機械原点復帰制御始動後は，近点ドグ ON から機械原点復帰制御完了までの移動量が格納される。（移動量：近点ドグ ON 時を「0」とした機械原点復帰制御完了までの移動量のこと）＊1 • 原点復帰方式が「ストッパ 3」の場合は常時「0」。 ＊1　範囲：0 ～ 2147483647pulse			
SD1870	軸 2 実行中位置決めデータ No	実行中の位置決めデータ No	• 現在実行中の位置決めデータNoが格納される。（格納値は次の始動が実行されるまで保持される） • JOG 運転，機械原点復帰制御を開始した場合，「0」が格納される。 • 高速原点復帰制御を開始した場合，1 が格納される。 • IPDSTRT1/IPDSTRT2 による位置決め制御を開始した場合，1 が格納される。 • 位置決め始動時にエラーが発生した場合，前回値が保持される。			
SD1880 SD1881	CH1 現在値	CH1 現在値	• END処理でCH1のカウンタの現在値が格納される。 • ICCNTRD1 命令実行時，その瞬間の値に更新される。 END 処理および ICCNTRD1 命令で現在値が更新されるのは，動作モード設定（高速カウンタ機能パラメータ）が「通常モード」の場合のみ。読出し値の範囲は，-2147483648 ～ 2147483647。	S（毎回 END ／命令実行時）		

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPUD9 □□□	対応 CPU
SD1882	CH1 ステータスモニタ	CH1 ステータスモニタ	CH1 の各種ステータスが格納される。 	S（毎回 END）	新規	LCPU
SD1883	CH1 外部入出力状態モニタ	CH1 外部入出力状態モニタ	• CH1 の外部入出力信号の状態が格納される。 • 未使用信号の状態は OFF 固定となる。 • 動作モード設定（高速カウンタ機能パラメータ）が「通常モード」の場合，ファンクション入力状態は，ファンクション入力論理設定（高速カウンタ機能パラメータ）を反映して格納する。したがって負論理時にファンクション入力端子に電圧を印加した場合，OFF となる。 • カウントソース選択（高速カウンタ機能パラメータ）が「A 相 /B 相」以外の場合，A 相 /B 相入力状態は OFF 固定となる。 			

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPUD9 □□□	対応 CPU
SD1884	CH1 動作モードモニタ	CH1 動作モードモニタ	パラメータで設定した，高速カウンタ CH1 の動作モードが格納される。 ・0：未使用 ・1：通常モード ・2：周波数測定モード ・3：回転速度測定モード ・4：パルス測定モード ・5：PWM 出力モード	S（毎回 END）	新規	LCPU
SD1885	CH1 カウンタ形式モニタ	CH1 カウンタ形式モニタ	• パラメータで設定した，高速カウンタ CH1 のカウンタ形式が格納される。 • CH1 動作モードモニタ（SD1884）が 1（通常モード）以外の場合，無効（0 固定）である。 ・0：リニアカウンタ ・1：リングカウンタ			
SD1886	CH1 カウンタ機能選択モニタ	CH1 カウンタ機能選択モニタ	• パラメータで設定した，高速カウンタ CH1 のカウンタ機能選択が格納される。 • CH1 動作モードモニタ（SD1884）が 1（通常モード）以外の場合，無効（0 固定）である。 ・0：カウントディセーブル機能 ・1：ラッチカウンタ機能 ・2：サンプリングカウンタ機能 ・3：カウントディセーブル・プリセット機能 ・4：ラッチカウンタ・プリセット機能			
SD1887	CH1 エラーコード	CH1 エラーコード	CH1 で発生したエラーコードが格納される。			
SD1888	CH1 ワーニングコード	CH1 ワーニングコード	CH1 で発生したワーニングコードが格納される。			
SD1900 SD1901	CH2 現在値	CH2 現在値	• END処理でCH2のカウンタの現在値が格納される。 • ICCNTRD2 命令実行時，その瞬間の値に更新される。 END 処理および ICCNTRD2 命令で現在値が更新されるのは，動作モード設定（高速カウンタ機能パラメータ）が「通常モード」の場合のみ。読出し値の範囲は，-2147483648 ～ 2147483647。	S（毎回 END ／命令実行時）		
SD1902	CH2 ステータスモニタ	CH2 ステータスモニタ	CH2 の各種ステータスが格納される。  	S（毎回 END）		

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPUD9 □□□	対応 CPU
SD1903	CH2 外部入出力状態モニタ	CH2 外部入出力状態モニタ	• CH2 の外部入出力信号の状態が格納される。 • 未使用信号の状態は OFF 固定となる。 • 動作モード設定（高速カウンタ機能パラメータ）が「通常モード時」の場合，ファンクション入力状態は，ファンクション入力論理設定（高速カウンタ機能パラメータ）を反映して格納する。したがって負論理時にファンクション入力端子に電圧を印加した場合，OFF となる。 • カウントソース選択（高速カウンタ機能パラメータ）が「A 相 /B 相」以外の場合，A 相 /B 相入力状態は OFF 固定となる。 	S（毎回 END）	新規	LCPU
SD1904	CH2 動作モードモニタ	CH2 動作モードモニタ	パラメータで設定した，高速カウンタ CH2 の動作モードが格納される。 · 0：未使用 · 1：通常モード · 2：周波数測定モード · 3：回転速度測定モード · 4：パルス測定モード · 5：PWM 出力モード			
SD1905	CH2 カウンタ形式モニタ	CH2 カウンタ形式モニタ	• パラメータで設定した，高速カウンタ CH2 のカウンタ形式が格納される。 • CH2 動作モードモニタ（SD1904）が 1（通常モード）以外の場合，無効（0 固定）である。 · 0：リニアカウンタ · 1：リングカウンタ			
SD1906	CH2 カウンタ機能選択モニタ	CH2 カウンタ機能選択モニタ	• パラメータで設定した，高速カウンタ CH2 のカウンタ機能選択が格納される。 • CH2 動作モードモニタ（SD1904）が 1（通常モード）以外の場合，無効（0 固定）である。 · 0：カウントディセーブル機能 · 1：ラッチカウンタ機能 · 2：サンプリングカウンタ機能 · 3：カウントディセーブル・プリセット機能 · 4：ラッチカウンタ・プリセット機能			
SD1907	CH2 エラーコード	CH2 エラーコード	CH2 で発生したエラーコードが格納される。			
SD1908	CH2 ワーニングコード	CH2 ワーニングコード	CH2 で発生したワーニングコードが格納される。			

(24) データロギング

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD1940 SD1941	データロギング設定 No.1 最新保存ファイル番号	最新保存ファイル番号	最新の保存ファイル番号。CPU ユニットロギング設定ツールからの停止指示により 0 クリアする。	S（状態変化）	新規	QnUDV QnUDPV LCPU
SD1942 SD1943	データロギング設定 No.1 最古保存ファイル番号	最古保存ファイル番号	最古の保存ファイル番号 CPU ユニットロギング設定ツールからの停止指示により 0 クリアする。			
SD1944	データロギング設定 No.1 バッファ空き容量	バッファの空き容量サイズ	バッファ空き容量が K バイト単位で格納される。 値が小さいと処理オーバが発生する確率が高くなる。 トリガロギングの場合，トリガ後レコード数分のデータを収集するまでは，バッファ全体の容量を示す。 CPU ユニットロギング設定ツールからの停止指示により 0 クリアする。			
SD1945	データロギング設定 No.1 処理オーバ発生回数	処理オーバ発生回数	データロギング処理オーバが発生した回数が格納される。 発生した場合，データが欠落する。65535 回を超えた場合は 0 に戻り，再度カウントを行う。 保存ファイル数を超えたときの動作で「停止」指定時，指定した保存ファイル数分のデータ収集完了後，停止するまでの間に処理オーバが発生する可能性がある。 設定の登録，CPU ユニットロギング設定ツールからの停止指示により 0 クリアする。	S（エラー発生）		
SD1946	データロギング設定 No.1 データロギングエラー要因	データロギングエラー要因	データロギング時に発生したエラー要因が格納される。 ・0 ：エラーなし ・0 以外：エラー時の格納値に関しては，データロギングで発生するエラー参照。（ QnUDVCPU/LCPU ユーザーズマニュアル（データロギング機能編）） 設定の登録，CPU ユニットロギング設定ツールからの停止指示により 0 クリアする。			
SD1947	データロギング設定 No.1 データロギングファイル転送機能エラーコード	データロギングファイル転送機能エラーコード	データロギングファイル転送機能で最後に検出したエラーコードが格納される。 ・0：エラーなし ・0 以外：エラー時の格納値に関しては，データロギングで発生するエラー参照。（ QnUDVCPU/LCPU ユーザーズマニュアル（データロギング機能編）） CPU ユニットロギング設定ツールからのデータロギング開始指示により，0 クリアされる。			QnUDV QnUDPV LCPU *1

番号	名称	内容	内容詳細	セット側（セット時期）	対応 ACPU D9□□□	対応 CPU
SD1950 ～ SD1957	データロギング設定 No.2	データロギング設定 No.1 と同じ構成	データ構成は，データロギング設定 No.1（SD1940 ～ SD1947）と同じ。	データロギング設定 No.1 と同じ構成	新規	QnUDV QnUDPV LCPU *1
SD1960 ～ SD1967	データロギング設定 No.3					
SD1970 ～ SD1977	データロギング設定 No.4					
SD1980 ～ SD1987	データロギング設定 No.5					
SD1990 ～ SD1997	データロギング設定 No.6					
SD2000 ～ SD2007	データロギング設定 No.7					
SD2010 ～ SD2017	データロギング設定 No.8					
SD2020 ～ SD2027	データロギング設定 No.9					
SD2030 ～ SD2037	データロギング設定 No.10					

＊1　データロギングファイル転送機能エラーコードは，シリアル No. の上 5 桁が “12112” 以降のユニットが対象です。

付 4　バッテリ寿命

使用する CPU ユニット，バッテリ使用度，使用時間などを考慮して各バッテリの寿命を確認してください。
バッテリは寿命やアラームの発生前であっても，定期的に交換することを推奨します。
バッテリの交換については☞110 ページ 16.3 節を参照してください。

(1) バッテリ寿命の注意事項

バッテリの寿命については下記に示す項目に気をつけてください。

- バッテリは，バッテリ寿命の保証値を超えない範囲で使用してください。超えることが予想される場合は，ブート運転を行うか，バックアップをとってください。
- CPU ユニットに接続していない状態のバッテリの寿命は 5 年です。
- SM52（バッテリ低下）が ON した場合は，速やかにバッテリを交換してください。

(2) バッテリ使用度とは

CPU ユニット本体のバッテリの消費を示す値です。
バッテリ使用度の値が大きいほど，単位時間あたりのバッテリ消費量が多くなります。
現在のバッテリ使用度は SD118（バッテリ使用度）で確認できます。

(a) 影響を与える要因

バッテリ使用度は下記の要因により値が決まります。
各要因の組合せパターンを下記に示します。

バッテリ使用度を決める要因			組合せパターン
バッテリ長寿命化機能＊1	ユニットエラー履歴収集機能＊1	標準 RAM 中のファイルレジスタファイルのサイズ (S_R)	
設定あり	−	−	A
設定なし	設定なし	なし，または 0K < S_R ≦ 128K	B
		128K < S_R ≦ 384K	C
	設定あり	なし，または 0K < S_R ≦ 128K	D
		128K < S_R ≦ 384K	E

＊1　各機能については下記のマニュアルを参照してください。
MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）

(b) バッテリ使用度の値

(a) の組合せパターンからバッテリ使用度の値は下記のようになります。

CPU 形名	組合せパターン				
	A	B	C	D	E
L02SCPU, L02SCPU-P, L02CPU, L02CPU-P	1	2	−	2	−
L06CPU, L06CPU-P, L26CPU, L26CPU-P, L26CPU-BT, L26CPU-PBT	1	2	3	2	3

付 4.1　バッテリ寿命一覧

(1) Q6BAT の寿命

CPU ユニット	バッテリ使用度	通電時間率＊1	バッテリ寿命		
			保証値＊2	実力値＊3	SM52 ON 後＊4
L02SCPU，L02SCPU-P，L02CPU，L02CPU-P	1	0%	43,000hr（4.91 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		30%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		50%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		70%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		100%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
	2	0%	36,500hr（4.17 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		30%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		50%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		70%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		100%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
L06CPU，L06CPU-P，L26CPU，L26CPU-P，L26CPU-BT，L26CPU-PBT	1	0%	35,800hr（4.09 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		30%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		50%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		70%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		100%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
	2	0%	3,900hr（0.45 年）	28,100hr（3.21 年）	288hr（12 日）
		30%	5,600hr（0.64 年）	40,200hr（4.59 年）	288hr（12 日）
		50%	7,800hr（0.89 年）	43,800hr（5.00 年）	288hr（12 日）
		70%	13,000hr（1.48 年）	43,800hr（5.00 年）	288hr（12 日）
		100%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	288hr（12 日）
	3	0%	2,000hr（0.23 年）	18,600hr（2.12 年）	192hr（8 日）
		30%	2,900hr（0.33 年）	26,600hr（3.04 年）	192hr（8 日）
		50%	4,100hr（0.47 年）	37,300hr（4.26 年）	192hr（8 日）
		70%	6,800hr（0.78 年）	43,800hr（5.00 年）	192hr（8 日）
		100%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	192hr（8 日）

＊1　通電時間率は 24 時間でのシーケンサ電源 ON 時間の割合を示しています。
（電源 ON 合計時間が 12 時間の場合は 50%，6 時間の場合は 25% となります。）

＊2　保証値とは，保存周囲温度 -25 ～ 75 ℃（使用周囲温度 0 ～ 55 ℃）の範囲内において，部品メーカから提供されたメモリの特性をもとに弊社が保証する 70 ℃でのバッテリ寿命です。

＊3　実力値（参考値）とは，保存周囲温度 40 ℃における弊社の実測値をもとに算出したバッテリ寿命です。実力値は部品の特性やばらつきなどによって変化する値であり，参考値として参照してください。

＊4　バッテリコネクタのコードがはずれている，またはバッテリのリード線が断線していた場合も SM52 が ON しますが，バッテリが動作しないため，電源 OFF 後に停電保持時間の 3 分が経過するとデータが失われる恐れがあります。

(2) Q7BAT の寿命

CPU ユニット	バッテリ使用度	通電時間率＊1	バッテリ寿命		
			保証値＊2	実力値＊3	SM52 ON 後＊4
L02SCPU, L02SCPU-P, L02CPU, L02CPU-P	1	0%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		30%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		50%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		70%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		100%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
	2	0%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		30%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		50%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		70%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		100%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
L06CPU, L06CPU-P, L26CPU, L26CPU-P, L26CPU-BT, L26CPU-PBT	1	0%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		30%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		50%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		70%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		100%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
	2	0%	10,000hr（1.14 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		30%	14,300hr（1.63 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		50%	20,000hr（2.28 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		70%	33,400hr（3.81 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		100%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
	3	0%	5,400hr（0.62 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		30%	7,700hr（0.88 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		50%	10,800hr（1.23 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		70%	18,100hr（2.07 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）
		100%	43,800hr（5.00 年）	43,800hr（5.00 年）	600hr（25 日）

＊1 通電時間率は 24 時間でのシーケンサ電源 ON 時間の割合を示しています。
（電源 ON 合計時間が 12 時間の場合は 50%，6 時間の場合は 25% となります。）

＊2 保証値とは，保存周囲温度 -25 ～ 75 ℃（使用周囲温度 0 ～ 55 ℃）の範囲内において，部品メーカから提供されたメモリの特性をもとに弊社が保証する 70 ℃でのバッテリ寿命です。

＊3 実力値（参考値）とは，保存周囲温度 40 ℃における弊社の実測値をもとに算出したバッテリ寿命です。実力値は部品の特性やばらつきなどによって変化する値であり，参考値として参照してください。

＊4 バッテリコネクタのコードがはずれている，またはバッテリのリード線が断線していた場合も SM52 が ON しますが，バッテリが動作しないため，電源 OFF 後に停電保持時間の 3 分が経過するとデータが失われる恐れがあります。

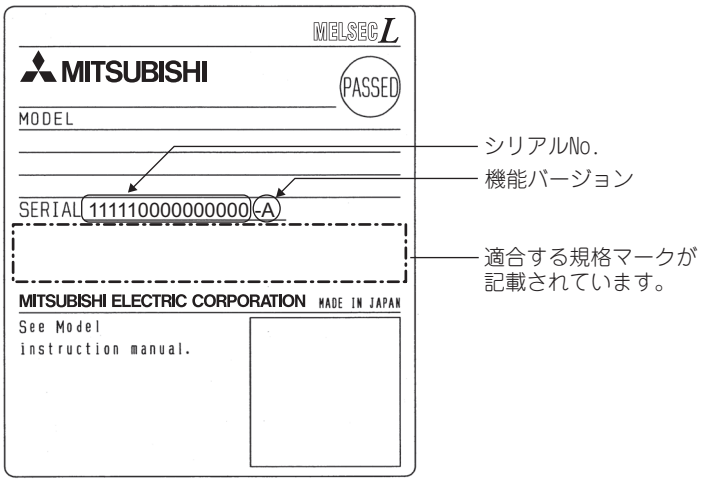
付 5　シリアル No. と機能バージョンの確認方法

ユニットのシリアル No. と機能バージョンは，下記の方法で確認できます。

- 定格銘板
- ユニット前面
- プログラミングツールのシステムモニタ

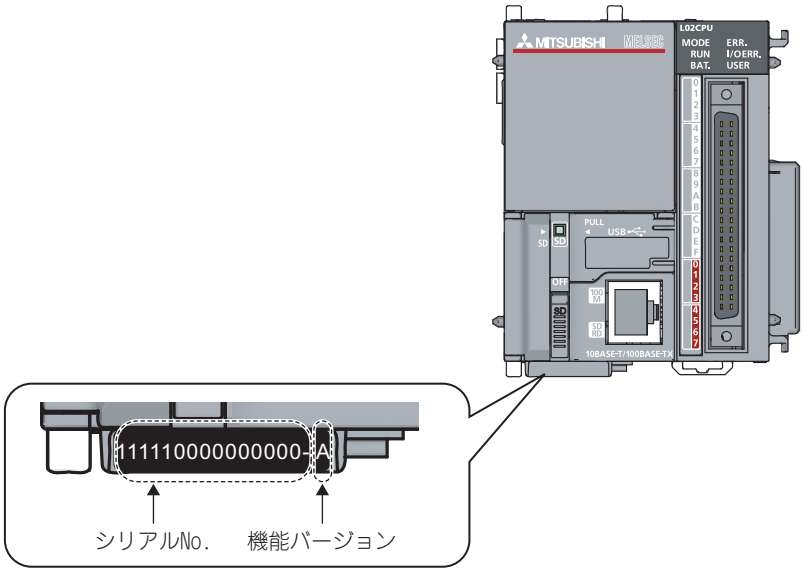
(1) 定格銘板での確認

定格銘板は，ユニットの側面にあります。



(2) ユニット前面での確認

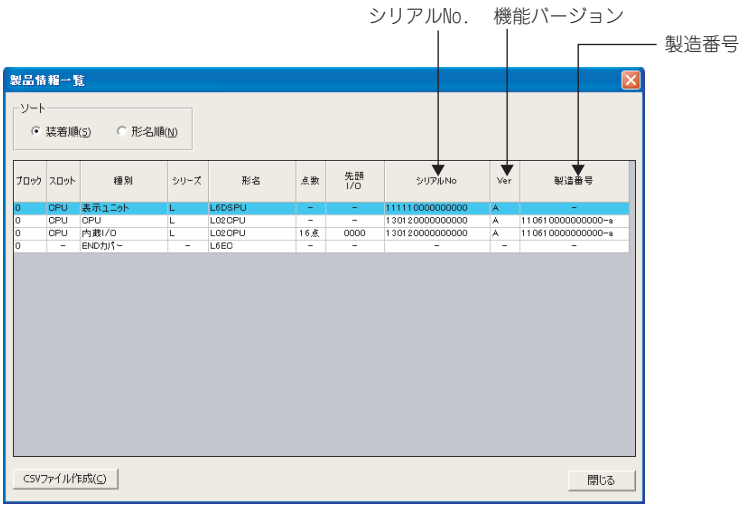
ユニット前面（下部）に定格銘板に記載されているシリアル No. を表示しています。



(3) システムモニタでの確認

“製品情報一覧” 画面で確認できます。

［診断］⇨［システムモニタ］⇨［製品情報一覧］ボタン



シリアル No. は “シリアル No.” に表示されます。
機能バージョンは “Ver” に表示されます。
また，製造番号表示に対応しているユニットは，“製造番号” に定格銘板に記載されているシリアル No.（製造番号）が表示されます。

Point

定格銘板，およびユニット前面に記載されているシリアル No. と，プログラミングツールの製品情報一覧に表示されるシリアル No. は異なることがあります。

- 定格銘板，およびユニット前面に記載されているシリアル No. は，製品の管理情報を示しています。
- プログラミングツールの製品情報一覧に表示されるシリアル No. は，製品の機能情報を示しています。製品の機能情報は，機能追加時に更新されます。

付 6　機能の追加と変更

CPU ユニットおよび GX Works2 に追加または変更された機能と，対応する CPU ユニットのシリアル No. および GX Works2 のソフトウェアバージョンを示します。

追加／変更内容	CPU ユニットの対応シリアル No. の上 5 桁	GX Works2 の対応バージョン	参照
パラメータ有効ドライブ情報対応	−	1.34L 以降	MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）
データロギングファイル転送機能対応*1	“12112” 以降	1.45X 以降	QnUDVCPU/LCPU ユーザーズマニュアル（データロギング機能編）
CC-Link IE フィールドネットワーク対応	“13012” 以降	1.50C 以降	• MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編） • MELSEC-L CC-Link IE フィールドネットワークマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル
専用命令で Jn および Un 指定時に修飾するインデックスレジスタの範囲拡張（Z0 ～ Z19）に対応		−	使用するネットワークユニットおよびインテリジェント機能ユニットのマニュアル
シンプル CPU 通信機能対応*1	“13042” 以降	1.56J 以降	MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（内蔵 Ethernet 機能編）
メモリチェック機能のデバイスメモリ異常情報およびプログラムエラー箇所の格納対応	“13102” 以降	−	323 ページ 付 3
プログラムキャッシュメモリ自動修復機能対応			MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）
モニタ条件の設定	−	1.70Y 以降	
プロジェクトの一括セーブ／ロード機能*1	“14042” 以降	−	
表示ユニットによる SD メモリカード操作機能*1			
CC-Link IE フィールドネットワークユニット自局局番設定機能		1.86Q 以降	MELSEC-L CC-Link IE フィールドネットワークマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル
局番指定によるリフレッシュデバイス書込み／読出し	“14072” 以降	−	MELSEC-Q/L プログラミングマニュアル（共通命令編）
Ethernet ユニット対応	“14112” 以降	1.95Z 以降	MELSEC-L Ethernet インタフェースユニットユーザーズマニュアル（基本編）
IP パケット中継機能*1 *2			MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（内蔵 Ethernet 機能編）
シリアルコミュニケーション機能（CPU ユニットの RS-232 インタフェース）*1			• MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編） • iQ Sensor Solution リファレンスマニュアル
iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能）*1 *3		−	
特殊リレー／特殊レジスタ操作によるラッチクリア対応	“15042” 以降	−	MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）

追加／変更内容	CPU ユニットの対応シリアル No. の上 5 桁	GX Works2 の対応バージョン	参照
iQ Sensor Solution 対応機能（システム構成照合機能，接続機器の自動検出機能，通信設定反映機能，センサパラメータ読出し／書込み機能，モニタ機能）*1 *4	“15043” 以降	1.492N 以降	• MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編） • iQ Sensor Solution リファレンスマニュアル
iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能の内蔵 Ethernet 対応）*1	“15072” 以降	1.497T 以降	iQ Sensor Solution リファレンスマニュアル
通信プロトコル機能	“15102” 以降	1.501X 以降	MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）
シリアルコミュニケーション機能（RS-232 アダプタ，RS-422/485 アダプタ）*1			
SFC ブロック二重起動時の運転モード設定対応*1			MELSEC-Q/L/QnA プログラミングマニュアル (SFC 編)
SFC ステップ数の拡張*1			
ステップリレー (S) の 1K 点単位の設定対応			
SFC ステップコメント読出し命令 (S(P).SFCSCOMR)，SFC 移行条件コメント読出し命令（S(P).SFCTCOMR）対応*1		－	
SFC 非活性ブロック RUN 中書込み対応*1			
MAC アドレスの特殊レジスタ格納。IP アドレスの特殊レジスタ格納および設定対応*1			323 ページ 付 3
RS-422/485 アダプタ対応*1		1.501X 以降	90 ページ 第 11 章
シンプル CPU 通信機能対応（F シリーズ FX3 対応）*1	“16042” 以降	1.513K 以降	MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（内蔵 Ethernet 機能編）
自動割付デバイス用ポインタ点数拡張対応*1			MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編）
iQ Sensor Solution 対応機能（バックアップ／リストア機能の CC-Link-AnyWireASLINK ブリッジユニット対応）*1			• MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編） • iQ Sensor Solution リファレンスマニュアル
リアルタイムモニタ機能*1	“16072” 以降	*5	• MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル（機能解説・プログラム基礎編） • GX LogViewer Version 1 オペレーティングマニュアル

－：シリアル No. またはソフトウェアバージョンに関係しない機能

*1 一部の機種では使用できません。使用可否については，各参照先を参照してください。
*2 各インテリジェント機能ユニットの対応バージョンは，各ユニットのマニュアルを参照してください。
*3 AnyWireASLINK 接続，CC-Link 接続での対応バージョンになります。
*4 Ethernet 接続での対応バージョンです。AnyWireASLINK 接続，CC-Link 接続での対応バージョンは，下記マニュアルを参照してください。
iQ Sensor Solution リファレンスマニュアル
*5 ソフトウェアバージョンが 1.37P 以降の GX LogViewer が必要です。

付 7　ソフトウェアのバージョンについて

システム構成時に使用するソフトウェアの対応バージョンについて説明します。

ソフトウェア	CPU ユニットに対応しているソフトウェアのバージョン*1				
	L02CPU, L26CPU-BT	L02CPU-P, L26CPU-PBT	L02SCPU, L26CPU	L06CPU	L02SCPU-P, L06CPU-P, L26CPU-P
GX Works2	1.20W 以降	1.56J 以降	1.95Z 以降	1.98C 以降	1.492N 以降
GX Developer	8.88S 以降	未対応	未対応	未対応	未対応
GX Configurator-AD	2.11M 以降				
GX Configurator-DA	2.11M 以降				
GX Configurator-SC	2.21X 以降				
GX Configurator-QP	2.33K 以降				
GX Configurator-CT	1.29AF 以降				

＊1　使用するインテリジェント機能ユニットによって対応バージョンが異なります。インテリジェント機能ユニットを使用する場合は，三菱電機 FA サイトより最新のソフトウェアバージョンにアップデートしてください。
http://www.MitsubishiElectric.co.jp/fa/

付 8　EMC 指令・低電圧指令

欧州域内で発売される製品に対しては，1996 年から欧州指令の 1 つである EMC 指令への適合証明が法的に義務づけられています。また，1997 年から欧州指令の 1 つである低電圧指令への適合も法的に義務づけられています。これらに適合していると製造者が認めるものは，製造者自らが適合宣言を行い，“CE マーク ” を表示する必要があります。

(1) EU 域内販売責任者

EU 域内販売責任者は下記のとおりです。
会社名：Mitsubishi Electric Europe BV
住所　：Gothaer Strasse 8,40880 Ratingen,Germany

付 8.1　EMC 指令適合のための要求

EMC 指令では，“ 外部に強い電磁波を出さない：エミッション (電磁妨害)” と “ 外部からの電磁波の影響を受けない：イミュニティ (電磁感受性)” の双方について規定しています。
本項で示すのは，MELSEC-L シリーズのユニットを使用して構成した機械装置を，EMC 指令に適合させる際の注意事項をまとめたものです。
なお，記述内容は弊社が得ている規制の要求事項や規格をもとに作成した資料ですが，本内容に従って製作された機械装置全体が上記指令に適合することを保証するものではありません。
EMC 指令への適合方法や適合の判断については，機械装置の製造者自身が最終的に判断する必要があります。

(1) EMC 指令に関する規格

(a) エミッションへの規定

仕様	試験項目	試験内容	規格値
EN61131-2：2007	CISPR16-2-3 放射エミッション* 2	製品が放出する電波を測定する。	• 30M ～ 230MHz QP：40dBμV/m（10m 測定）* 1 • 230M ～ 1000MHz QP：47dBμV/m（10m 測定）
	CISPR16-2-1,CISPR16-1-2 伝導エミッション* 2	製品が電源ラインに放出するノイズを測定する。	• 150k ～ 500kHz QP：79dB，Mean：66dB * 1 • 500k ～ 30MHz QP：73dB，Mean：60dB

＊ 1　QP(Quasi- Peak)：準尖頭値，Mean ：平均値
＊ 2　シーケンサは開放型機器（他の装置に組み込まれる機器）であり，必ず導電性の制御盤内に設置する必要があります。当該試験項目については，制御盤内に設置された状態で試験しています。また，弊社シーケンサは使用する電源ユニットの定格入力の最大値で試験しています。

(b) イミュニティへの規定

仕様	試験項目	試験内容	規格値
EN61131-2：2007	EN61000-4-2 静電気放電イミュニティ*1	装置の筐体に対し静電気を印加するイミュニティ試験	• 8kV　気中放電 • 4kV　接触放電
	EN61000-4-3 放射無線周波電磁界イミュニティ*1	電界を製品に照射するイミュニティ試験	80%AM 変調@ 1kHz • 80M ～ 1000MHz：10V/m • 1.4G ～ 2.0GHz：3V/m • 2.0G ～ 2.7GHz：1V/m
	EN61000-4-4 ファーストトランジェント／バーストイミュニティ*1	電源線と信号線にバーストノイズを印加するイミュニティ試験	• AC/DC 主電源，I/O 電源，AC I/O（非シールド）：2kV • DC I/O，アナログ，通信線：1kV
	EN61000-4-5 サージイミュニティ*1	電源線と信号線に雷サージを印加するイミュニティ試験	• AC 電源線，AC I/O 電源，AC I/O（非シールド）：2kV CM，1kV DM • DC 電源線，DC I/O 電源：0.5kV CM，DM • DC I/O，AC I/O（シールド），アナログ*2，通信：1kV CM
	EN61000-4-6 無線周波電磁界伝導妨害イミュニティ*1	電源線と信号線に高周波ノイズを印加するイミュニティ試験	0.15M ～ 80MHz，80%AM 変調 80%AM 変調 @1kHz，10Vrms
	EN61000-4-8 電源周波数磁界イミュニティ*1	製品を誘導コイルの磁界に設置するイミュニティ試験	50Hz ／ 60Hz，30A/m
	EN61000-4-11 電圧ディップおよび瞬時停電イミュニティ*1	電源電圧に瞬停を与えるイミュニティ試験	• 0%，0.5 周期，ゼロクロスで開始 • 0%，250/300 周期（50/60Hz） • 40%，10/12 周期（50/60Hz） • 70%，25/30 周期（50/60Hz）

＊1　シーケンサは開放型機器（他の装置に組み込まれる機器）であり，必ず導電性の制御盤内に設置する必要があります。
当該試験項目については，制御盤内に設置された状態で試験しています。

＊2　アナログ - ディジタル変換ユニットの精度は，一時的に ± 10% 以内で変動する可能性があります。

(2) 制御盤内への設置

シーケンサは開放型機器であり，必ず制御盤内に設置して使用する必要があります。＊1
これは，安全性の確保のみならず，シーケンサから発生するノイズを制御盤にて遮蔽する意味でも大きな効果があります。

＊1 各ネットワークのリモート局も制御盤内に設置して使用する必要があります。ただし，防水タイプのリモート局は，制御盤外に設置可能です。

(a) 制御盤

- 制御盤は導電性としてください。
- 制御盤の天板，底板などをボルトで固定するときは，制御盤の接地部分にマスク処理をして塗装されないようにしてください。
- 制御盤内の内板は制御盤本体との電気的接触を確保するために，本体への取付ボルト部分にマスク処理を行うなど，可能な限り広い面で導電性を確保できるようにしてください。
- 制御盤本体は高周波でも低インピーダンスが確保できるように，太い接地線で接地してください。
- 制御盤の穴は直径が 10 ㎝以下となるようにしてください。10 ㎝以上の穴は電波が漏れる可能性があります。また，制御盤扉と本体の間にすき間があると電波が漏れるため，極力すき間のない構造としてください。なお，下記のメーカの EMI ガスケットを塗装面上に直接貼って，すき間を塞ぐことで電波の漏れを抑えることができます。

メーカ名	お問い合せ先
北川工業株式会社	http://www.kitagawa-ind.com/
日本ジッパーチュービング株式会社	http://www.ztj.co.jp/
星和電機株式会社	http://www.seiwa.co.jp/

- 当社が行った試験は，最大 37dB，平均 30dB(30 ～ 300MHz，3m 法測定) の減衰特性の制御盤で実施しております。

(b) 電源線のとりまわし

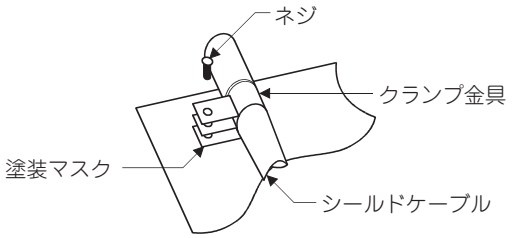
- 電源ユニットの近くに制御盤への接地点を設け，可能な限り太く短い（線長は 30cm 以下）接地線で，電源ユニットの LG 端子と FG 端子を接地してください。

(3) ケーブル

入出力ユニットなどから制御盤外へ引き出すケーブルには，必ずシールドケーブルを使用してください。
シールドケーブルを使用しない場合や，使用してもシールドの接地処理が不適切な場合は，ノイズ耐量は規格値を満足できません。

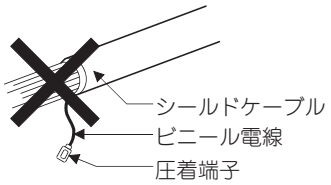
(a) シールドケーブルのシールド部の接地処理

- 可能な限りユニットの近くで行い，接地後のケーブルは接地前のケーブルから電磁誘導を受けないよう注意してください。
- シールドケーブルの外皮を一部取り除いて露出させたシールド部は，制御盤に対して広い面で接地できる方法をとってください。下の図のようにクランプ金具を使用することも有効ですが，金具と接触する制御盤の内壁部分の塗装はマスク処理をして，塗装されないようにしてください。



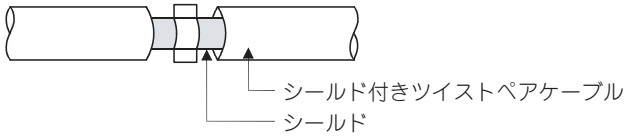
Point

シールドケーブルのシールド部にビニール電線をハンダ付けして，その先で接地処理をする方法は高周波インピーダンスが高くなりシールドの効果がなくなるため，注意してください。



(b) ツイストペアケーブルの接地処理

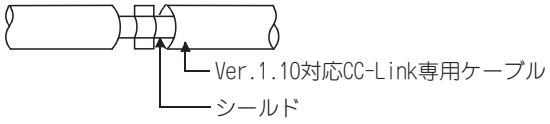
• 10BASE-T/100BASE-TX コネクタに接続するツイストペアケーブルは，シールド付ツイストペアケーブルを使用してください。シールド付ツイストペアケーブルは，下記のように外皮を一部取り除いて露出させたシールド部を，できるだけ広い面で接地してください。



(c) Ver.1.10 対応 CC-Link 専用ケーブルの接地処理

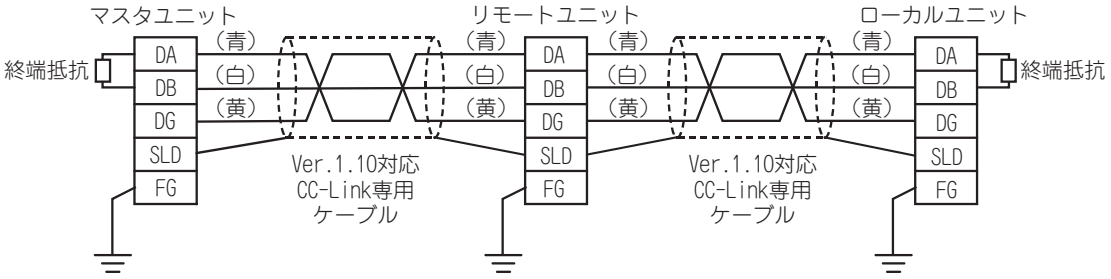
制御盤からの出口に近い CC-Link ユニット，または CC-Link 各局に接続するケーブルのシールドは，必ずユニットまたは各局から 30cm 以内で接地してください。

Ver.1.10 対応 CC-Link 専用ケーブルは，シールドケーブルになっています。下記のように外皮を一部取り除いて露出させたシールド部を，できるだけ広い面積で接地してください。



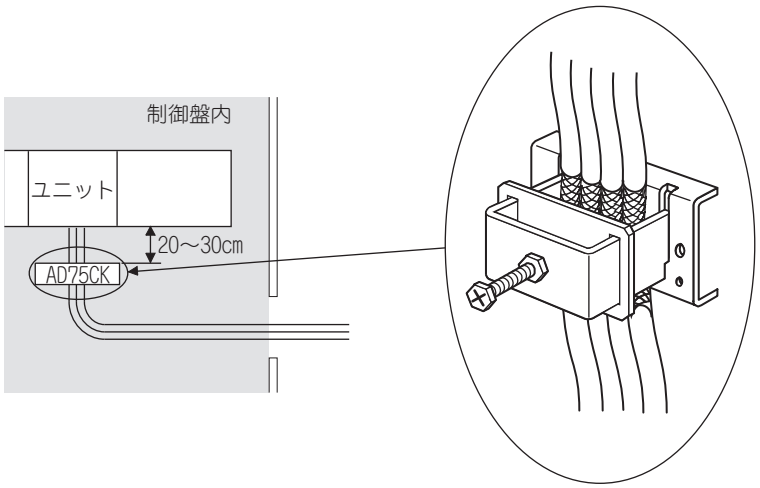
Ver.1.10 対応 CC-Link 専用ケーブルは，必ず指定のケーブルを使用してください。

CC-Link ユニットおよび CC-Link 各局と制御盤内の FG ラインとの接続は，下記のように FG 端子で行ってください。



(d) ケーブルクランプの接地処理

外部配線はシールド付きのケーブルを使用し，AD75CK 形ケーブルクランプ（三菱電機製）で，外部配線用ケーブルのシールド部分を制御盤に接地してください。（シールド部分の接地はユニットから 20 ～ 30cm 以内の位置で行います。）



AD75CK の詳細は，下記のマニュアルを参照してください。

AD75CK 形ケーブルクランプ取扱説明書

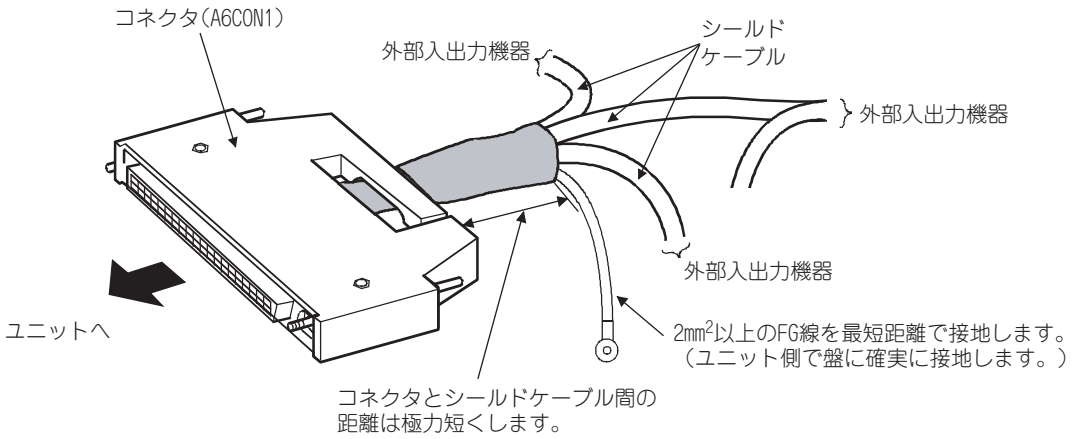
(e) 外部機器接続用コネクタ

外部機器接続用コネクタの配線について，以下のユニットを使用する場合は下記のノイズ対策を必ず行ってください。

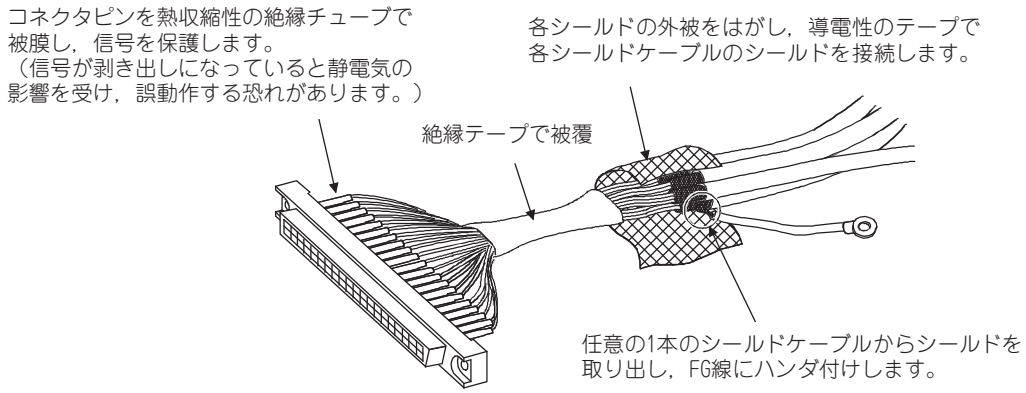
- CPU ユニット
- 高速カウンタユニット
- 位置決めユニット

【シールドケーブル使用時の配線例】

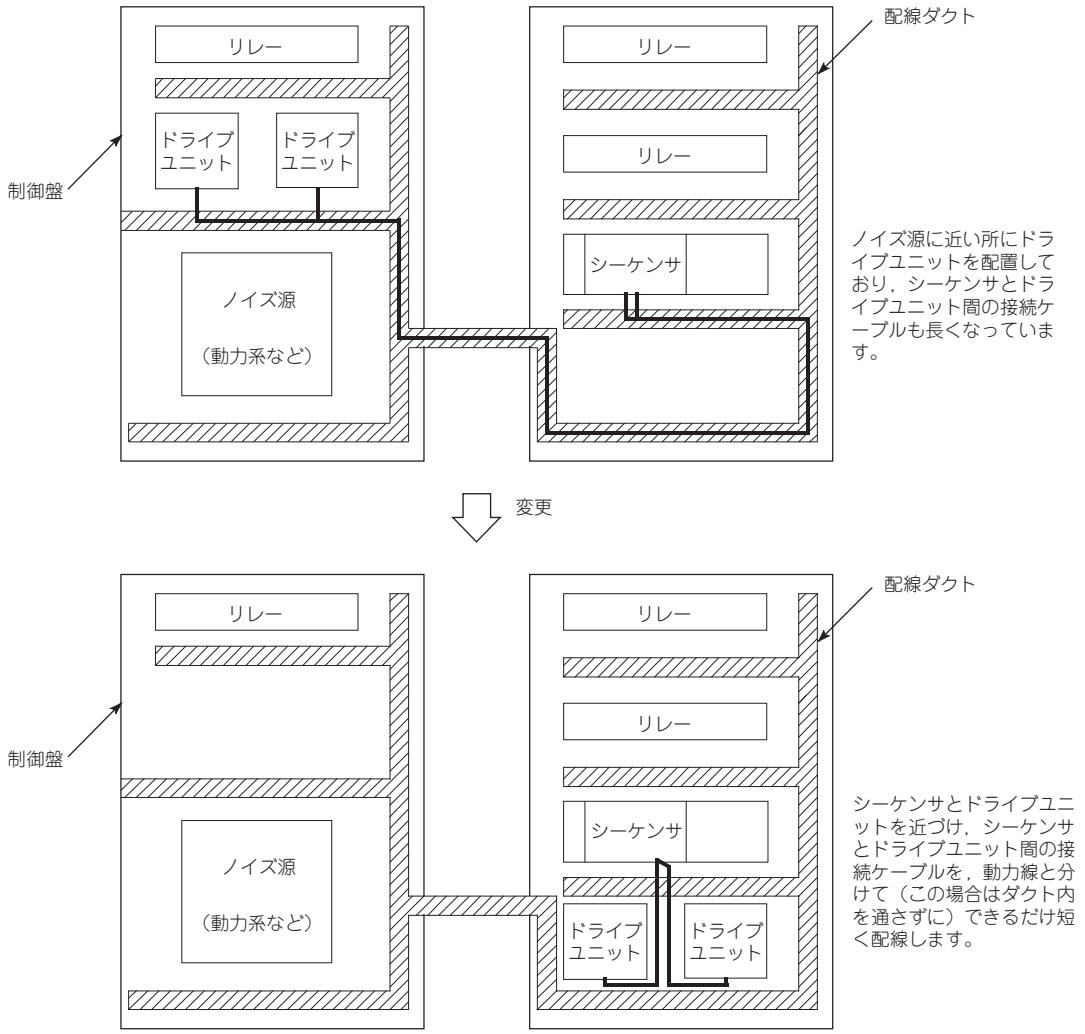
下記に，A6CON1 を使用した場合におけるノイズ対策用の配線例を示します。



【シールドケーブルの加工例】



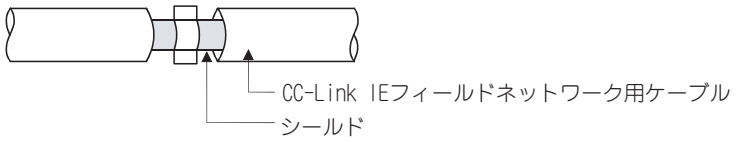
【ダクト使用時の配線例（不具合例と改善例）】



(f) CC-Link IE フィールドネットワーク用ケーブル

以下に CC-Link IE フィールドネットワーク用ケーブルを使用する際の注意事項を説明します。

- ケーブルは必ず CC-Link IE フィールドネットワーク用ケーブル（三菱電機システムサービス株式会社製：SC-E5EW-S □ M）を使用してください。
- CC-Link IE フィールドネットワーク用ケーブルはシールドケーブルになっていますので，下記のように外皮を一部取り除いて露出させたシールド部をできるだけ広い面で接地してください。



外部配線の接地処理については，☞ 418 ページ 付 8.1 (3) (d) を参照してください。

(g) 入出力信号線およびその他の通信ケーブル

下記のケーブルについても，制御盤外へ引き出されるものについては，☞416 ページ 付 8.1 (3) (a)と同様にシールドケーブルのシールド部を必ず接地してください。

- 入出力信号線（コモン線含む）
- RS-232 ケーブル
- RS-422/485 ケーブル

(h) 増設ケーブル

増設ケーブルについても，制御盤外へ引き出されるものについては，☞416 ページ 付 8.1 (3) (a)と同様にシールドケーブルのシールド部を必ず接地してください。

(i) 外部供給電源端子の電源線

下記のユニットの外部供給電源には，強化絶縁または二重絶縁された CE マーク適合品の AC/DC 電源を使用してください。AC/DC 電源はユニットと同じ制御盤内に入れ，外部供給電源端子へ接続する電源線の長さは 30m 以下としてください。

- アナログ−ディジタル変換ユニット
- ディジタル−アナログ変換ユニット
- アナログ入出力ユニット
- 高速カウンタユニット
- 位置決めユニット
- 温度調節ユニット

(4) 外部電源

外部電源には強化絶縁または二重絶縁された CE マーク適合品を使用し，FG 端子は必ず接地してください。
（弊社試験時使用外部電源：TDK ラムダ株式会社製　DLP-120-24-1，IDEC 株式会社製　PS5R-SF24）

(5) 電源ユニット

- LG 端子と FG 端子は短絡させたうえで，必ず接地してください。
- L63SP へ DC24V を供給する外部供給電源は，強化絶縁または二重絶縁された CE マーク適合品を使用してください。

(6) SD メモリカード

L1MEM-2GBSD および L1MEM-4GBSD は，MELSEC-L シリーズ CPU ユニットにて使用した状態で，EN61131-2 に適合しています。

(7) CPU ユニット（位置決め機能）

位置決め機能使用時には，外部機器へ接続するケーブルの長さを下記にしてください。

- 位置決めパルス出力：2m 以下
- 汎用出力：30m 以下

(8) 入出力ユニット

- DC 電源は，ユニットと同一盤内に設置してください。
- DC 電源ケーブルが，盤外を渡る場合は，シールドケーブルを使用してください。
- DC 電源ケーブル長は，30m 以下としてください。
- リレー動作回数が 5 回以上／ 1 分の場合は，サージキラーなどの対策が必要です。

(9) 高速カウンタユニット

- DC 電源は，ユニットと同一盤内に設置してください。
- DC 電源ケーブルが，盤外を渡る場合は，シールドケーブルを使用してください。
- 外部機器へ接続するケーブルは 30m 以下としてください。

(10)位置決めユニット

DC 電源は，ユニットと同一盤内に設置してください。

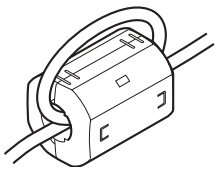
(11)温度調節ユニット

DC 電源は，ユニットと同一盤内に設置してください。

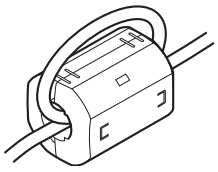
(12)CC-Link ユニット

- Ver.1.10対応CC-Link専用ケーブルの接地処理については417ページ 付8.1 (3) (c)を参照してください。
- ユニットの外部供給電源端子，およびユニット電源端子に接続する電源線の長さは 30m 以下としてください。
- 外部供給電源にはノイズフィルタを接続してください。ノイズフィルタは TDK ラムダ株式会社製 MA1206 と同等の減衰特性を持ったものとしてください。ただし，EN61131-2 規格のゾーン A で使用する場合は不要です。
- 下記のユニットのアナログ入力に接続する信号の長さは 30m 以下とし，外部供給電源およびユニット電源端子への配線をユニットと同じ制御盤内に設置してください。
  - AJ65BT-64RD3
  - AJ65BT-64RD4
  - AJ65BT-68TD

- AJ65SBT-RPS，AJ65SBT-RPG および AJ65BT-68TD のユニット電源端子に接続する線には，TDK 株式会社 製 ZCAT3035-1330 と同等の減衰特性をもったフェライトコアを取り付けてください。また，フェライトコアは下図のように線の巻き付け数を 2 ターンにして使用してください。



- AJ65BTB2-16R/16DR，AJ65SBTB2N-8A/8R/8S/16A/16R/16S のユニット電源端子に AC/DC 電源を使用して電源供給する場合は，下記のようにしてください。
  - AC/DC 電源は，ユニットと同一盤内に設置してください。
  - AC/DC 電源は強化絶縁または二重絶縁された CE マーク適合品を使用し，FG 端子は必ず接地してください。（弊社試験時使用 AC/DC 電源：TDK ラムダ株式会社製 DLP-120-24-1）
  - AC/DC電源のAC入力端子およびDC出力端子に接続する電線には，フェライトコアを取り付けてください。また，フェライトコアは下記のように線の巻き付け数を 2 ターンにして使用してください。（弊社試験時使用フェライトコア：NEC トーキン株式会社製 ESD-SR-250）



(13)CC-Link/LT ユニット

- 設置環境についてはゾーン A *1 で使用してください。ただし，下記の製品のゾーンについては，各製品の同梱マニュアルを参照してください。

- CL1Y4-R1B1
- CL1Y4-R1B2
- CL1XY4-DR1B2
- CL1XY8-DR1B2
- CL1PSU-2A

- CL2DA2-B, CL2AD4-B に CL1PAD1 を使用してユニット電源を供給する場合は, CL1PAD1 から外部供給電源までの電源線の長さを 30m 以下としてください。

*1 ゾーンとは EMC 指令・低電圧指令の整合規格 EN61131-2 に規定された，工業環境の条件によって決まる区分を指します。

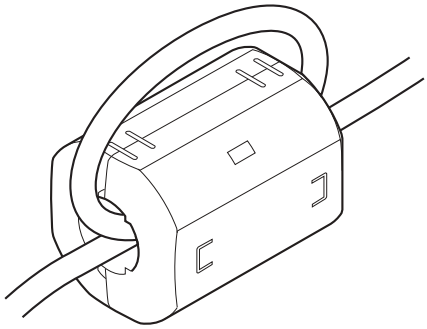
ゾーン C	公衆電源から専用変圧器で絶縁された主電源。
ゾーン B	主電源から二次サージ保護が行われた専用配電。（定格電圧 300V 以下を想定）
ゾーン A	専用配電から，AC/DC コンバータや絶縁トランスなどにより保護されたローカル配電。（定格電圧 120V 以下を想定）

(14)その他

(a) フェライトコア

フェライトコアは，放射ノイズの 30MHz ～ 100MHz の帯域のノイズ低減に効果があります。
制御盤外へ引き出されるシールドケーブルのシールド効果が十分得られない場合は，フェライトコアの装着を推奨します。
フェライトコアは，ケーブルが制御盤外へ引き出される直前に装着してください。装着位置が適切でないと，フェライトコアの効果がなくなります。
各種電源ラインには，フェライトコアを装着例のように装着してください。（弊社試験時使用フェライトコア：NEC トーキン株式会社製　ESD-SR-250）

装着例

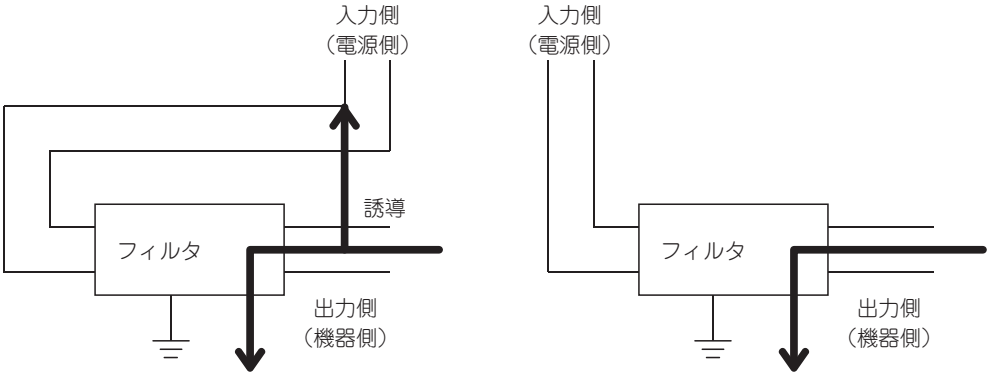


(b) ノイズフィルタ（電源ラインフィルタ）

ノイズフィルタは，伝導ノイズに対して効果のある部品です。ノイズフィルタを取り付ければよりノイズを抑制できます。（ノイズフィルタは，10MHz 以下の帯域の伝導ノイズ低減に有効です。）

ノイズフィルタを取り付ける際の注意事項を下記に説明します。

- ノイズフィルタの入力側と出力側の配線は束ねないでください。束ねるとフィルタでノイズ除去された入力側配線に，出力側のノイズが誘導されます。



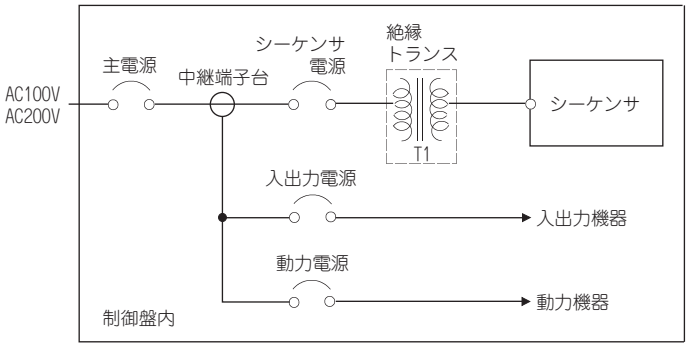
入力配線と出力配線が束線されるとノイズが誘導される。

入力配線と出力配線を離して布線する。

- ノイズフィルタの接地端子は，可能な限り短い配線（10 ㎝程度）で制御盤に接地してください。

(c) 絶縁トランス

絶縁トランスは，伝導ノイズ（特に雷サージノイズ）に対して効果がある部品です。雷サージノイズによってシーケンサが誤動作する場合があります。雷サージノイズ対策として，絶縁トランスを下記のように接続してください。絶縁トランスを使用することにより，雷の影響を低減できます。



付 8.2 低電圧指令適合のための要求

低電圧指令では AC50 ～ 1000V，および DC75 ～ 1500V の電源で駆動する機器に対し，必要な安全性が確保されていることが要求されます。
本節では，低電圧指令への適合のために，MELSEC-L シリーズのユニットを使用する際の注意事項をまとめたものです。
なお，記述内容は弊社が得ている規制の要求事項や規格をもとに作成した資料ですが，本内容に従って製作された機械装置全体が低電圧指令に適合することを保証するものではありません。低電圧指令の適合方法や適合の判断については，機械装置の製造者自身が最終的に判断する必要があります。

(1) MELSEC-L シリーズに適用される規格

- EN61010-1 計測・制御・実験室で使用される機器の安全性

MELSEC-L シリーズは，AC50V および DC75V 以上の定格電圧で動作するユニットについても，EN61010-1 に基づいて開発しています。
AC50V 未満および DC75V 未満の定格電圧で動作するユニットについては，低電圧指令の対象範囲外になっています。
CE マーク適合品については，三菱電機 FA サイトの “ 規格適合品 ” のメニューを参照してください。

(2) MELSEC-L シリーズの選定

(a) 電源ユニット

定格入力電圧が AC100 系，および 200V 系の電源ユニットは，その内部に危険電圧（42.4V ピーク以上の電圧）を有しているため，CE マーク適合品は内部の一次回路と二次回路の間が強化絶縁されています。

(b) 入出力ユニット

定格入出力電圧が AC100 系および 200V 系の入出力ユニットは，その内部に危険電圧（42.4V ピーク以上の電圧）を有しているため，CE マーク適合品は内部の一次回路と二次回路の間が強化絶縁されています。
DC24V 定格以下の入出力ユニットは，低電圧指令の対象範囲外になっています。

(c) GOT

GOT は CE マーク適合品を使用してください。

(d) 対象範囲外のユニット

下記に示すユニットは，内部に DC5V 以下の回路を使用しているため，低電圧指令の対象範囲外となっています。

- CPU ユニット（内蔵 I/O 部を含む）
- SD メモリカード
- 表示ユニット
- RS-232 アダプタ
- RS-422/485 アダプタ
- END カバー

また，インテリジェント機能ユニットは定格電圧が DC24V 以下であるため，低電圧指令の対象外となります。

(3) 供給電源

電源ユニットは，設置カテゴリⅡを想定した絶縁仕様になっています。
シーケンサへの供給電源は設置カテゴリⅡになるようにしてください。

(4) 制御盤

(a) 感電保護

電気設備に関する十分な知識のない者を感電の危険から保護するために，制御盤は下記の処置をする必要があります。

- 電気設備に関する教育を受け，十分な知識を得た者のみ制御盤を開けることができるよう，制御盤に鍵をかける。
- 制御盤を開けることで，自動的に電源が遮断される構造にする。
- 感電保護として，IP20 以上の制御盤を使用する。

(b) 防塵と防水

制御盤は防塵，防水の役目も持っています。
防塵，防水が十分でないと絶縁耐圧が低下し，絶縁破壊が発生しやすくなります。
弊社のシーケンサは，汚染度 2 を想定して絶縁設計されていますので，汚染度 2 以下の環境で使用してください。IP54 相当の制御盤内に収納すれば，汚染度 2 を実現できます。

(5) 外部配線

(a) DC24V 外部供給電源

DC24V 入出力ユニットや外部給電を必要とするインテリジェント機能ユニットには，DC24V 回路が危険電圧回路から強化絶縁されたものを使用してください。

(b) 外部接続機器

シーケンサに接続される外部機器でその内部に危険電圧回路を有するものは，シーケンサへのインタフェース回路部が，危険電圧回路から強化絶縁されたものを使用してください。

(c) 強化絶縁

下記の耐電圧を持つ絶縁を指します。

危険電圧部の定格電圧	耐サージ電圧（1.2/50 μs）
AC150V 以下	2500V
AC300V 以下	4000V

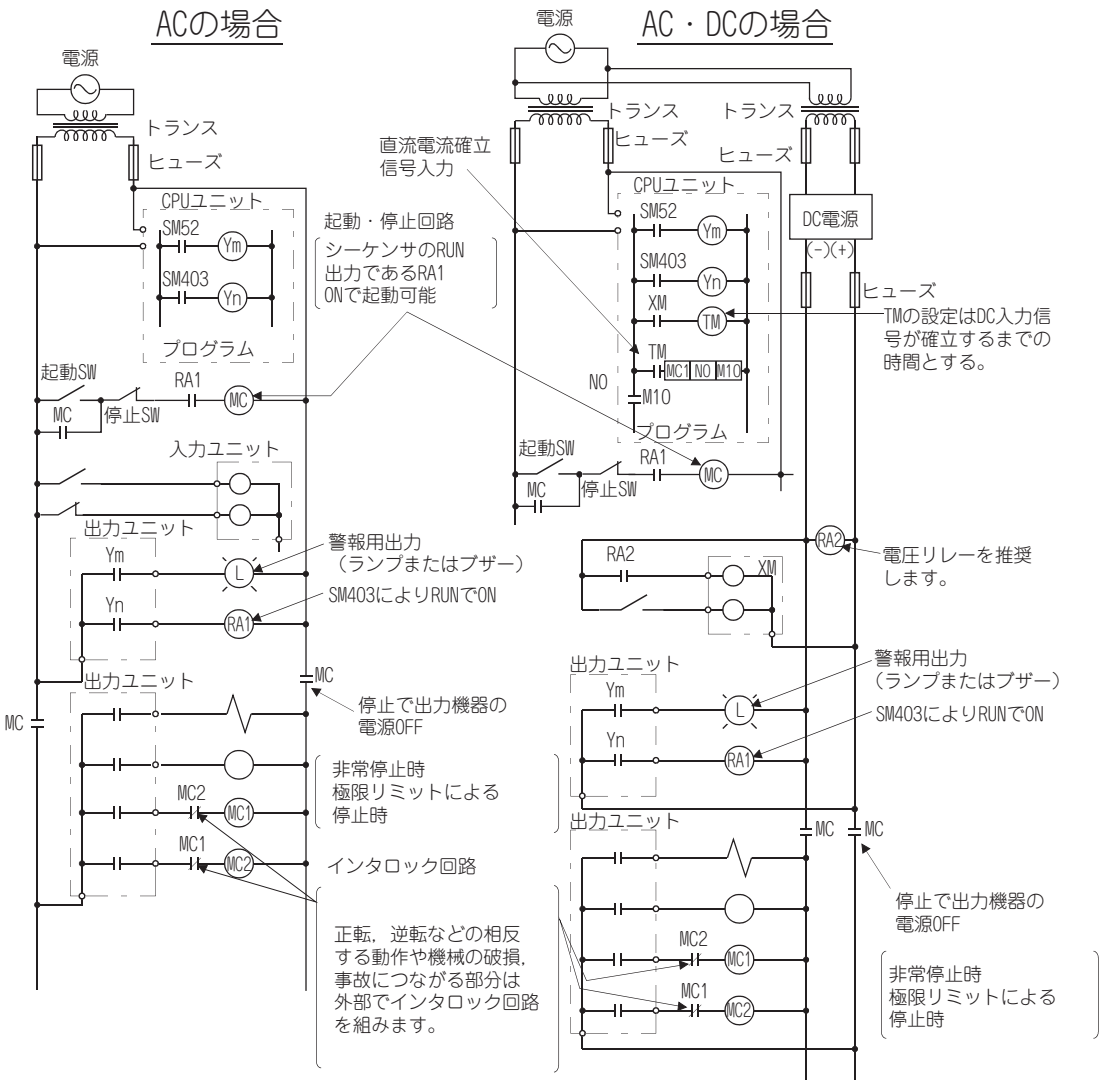
（設置カテゴリⅡ，IEC 664 より引用）

付 9　フェールセーフ回路の考え方

シーケンサの電源の ON-OFF 時は，シーケンサ本体電源と制御対象用外部電源（特に DC）の立上がり時間の差により，制御出力が一時的に正常動作しない場合があります。
また，外部電源の異常時やシーケンサ本体の故障時も制御出力が異常動作となることが考えられます。
これらの異常動作がシステム全体の異常動作につながらないために，またフェールセーフの観点より，異常動作による機械の破損や事故につながる部分（非常停止回路，保護回路，インタロック回路など）はシーケンサの外部で回路を構成してください。
本節に上記観点によるシステム設計回路例を示します。

(1) システム設計回路例

(a) ERR 端子付 END カバーを使用しない場合



電源の立ち上げは次の手順で行います。

• AC の場合

〔1〕電源を ON にする。

〔2〕CPU ユニットを RUN する。

〔3〕起動 SW を ON する。

〔4〕電磁接触器（MC）の ON でプログラムにより出力機器駆動。

• AC・DC の場合

〔1〕電源を ON にする。

〔2〕CPU ユニットを RUN する。

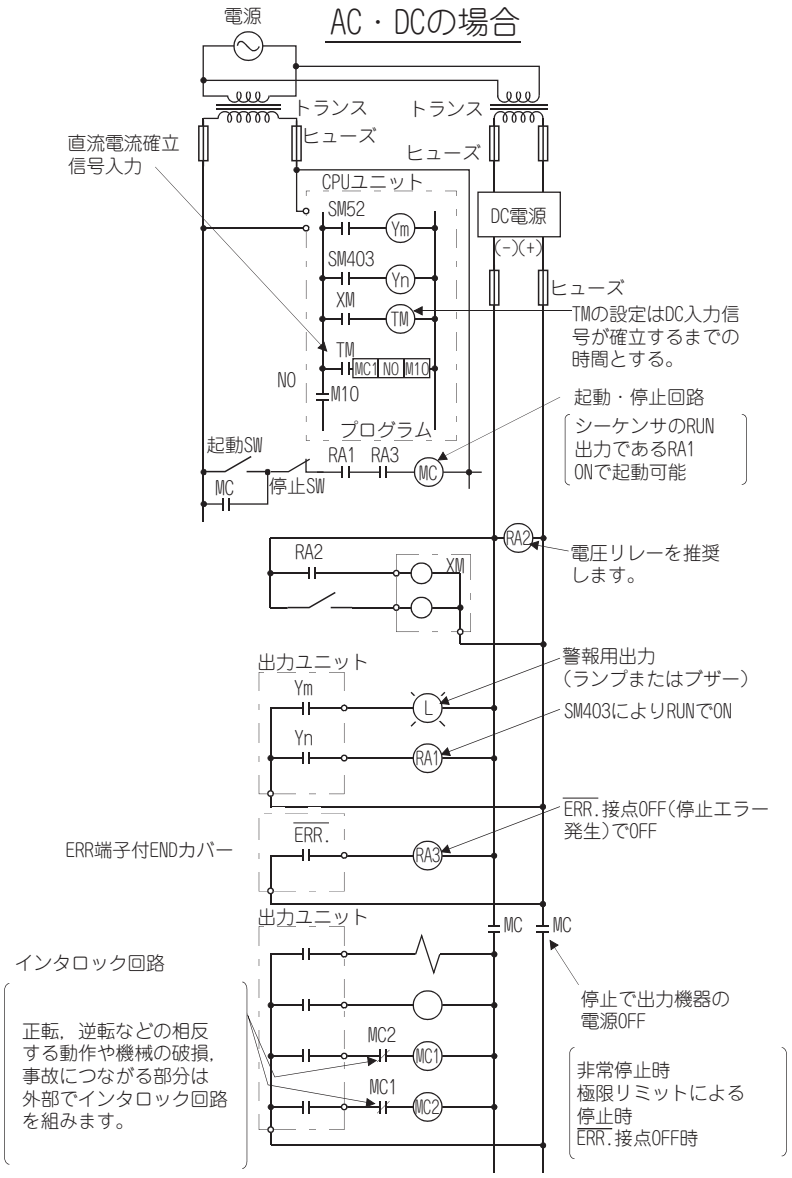
〔3〕DC 電源の確立で RA2 が ON する。

〔4〕DC 電源の 100%確立でタイマ（TM）を ON する。（TM の設定値は RA2 の ON から DC 電圧 100%確立までの時間とする。設定値は 0.5 秒としてください。）

〔5〕起動 SW を ON する。

〔6〕電磁接触器（MC）の ON でプログラムにより出力機器駆動。（RA2 に電圧リレー使用の場合はプログラム上のタイマ（TM）は不要です。）

(b) ERR 端子付 END カバーを使用する場合



電源の立ち上げは次の手順で行います。

• AC・DC の場合

[1] 電源を ON にする。

[2] CPU ユニットを RUN する。

[3] DC 電源の確立で RA2 が ON する。

[4] DC 電源の 100%確立でタイマ (TM) を ON する。(TM の設定値は RA2 の ON から DC 電圧 100%確立までの時間とする。設定値は 0.5 秒としてください。)

[5] 起動 SW を ON する。

[6] 電磁接触器 (MC) の ON でプログラムにより出力機器駆動。(RA2 に電圧リレー使用の場合はプログラム上のタイマ (TM) は不要です。)

(2) CPU ユニット故障時のフェールセーフ対策

CPU ユニットと SD メモリカードの故障は自己診断機能によって検出されますが，入出力制御部分などに異常があったときは，故障検出できないことがあります。
このような場合，故障の状態にもよりますが，全点 ON，または全点 OFF したり，制御対象の正常な運転や安全が確保できない事態が発生することが考えられます。
メーカとして品質には万全を期しておりますが，何らかの原因によりシーケンサが故障した場合に，機械の破損や事故につながらないよう外部にてフェールセーフ回路を構成してください。

付 10 シーケンサの発熱量の計算方法

シーケンサを収納した制御盤内の温度は，シーケンサの使用周囲温度を 55 ℃以下に抑える必要があります。
制御盤の放熱設計にあたっては，内部に収納する装置・器具類の平均消費電力（発熱量）を知る必要があります。
ここでは，シーケンサシステムの平均消費電力の求め方について説明します。
消費電力より制御盤内温度上昇値を算出してください。

付 10.1 平均消費電力の計算方法

各ブロック別に計算した消費電力を合計した値が，シーケンサシステム全体の消費電力になります。

$W = W_{PW} + W_{5V}+W_{24V}+W_{OUT}+W_{IN}+W_S(W)$

この全体の消費電力（W）より，発熱量の計算，または制御盤内の温度上昇値の計算を行ってください。
制御盤内の温度上昇値の計算式を次に示します。

$$T=\frac{W}{UA}〔℃〕$$

W：シーケンサシステム全体の消費電力
A：制御盤内の表面積〔m^2〕
U（=6）：ファンなどにより制御盤内の温度を均一にしているとき
U（=4）：制御盤内の空気を循環させていないとき

Point

- 制御盤内の温度が規定範囲を超える場合は，熱交換器を制御盤に取り付けて制御盤内の温度を下げることを推奨します。
- 通常の換気扇を使用すると，外部の空気と共にほこりなども吸い込みます。それによりシーケンサへの影響が出ることがありますので注意してください。

各ブロックの消費電力の計算方法を下記に示します。

(1) 電源ユニットの消費電力

電源ユニットの電力変換効率は約 70% であり，30% が発熱として消費されるため，出力電力の 3/7 が消費電力となります。
したがって計算式は，下記のようになります。

$$W_{PW} = \frac{3}{7} \times \{ (I_{5V} \times 5) + (I_{24V} \times 24) \} (W)$$

I_{5V}：各ユニットのロジック DC5V 回路の消費電流

I_{24V}：出力ユニット内部消費用電源 DC24V の平均消費電流（同時 ON 点数分の消費電流）*1

*1 外部から DC24V を供給し，DC24V 出力のない電源ユニットを使用の場合は 該当しません。

(2) 各ユニット（CPU ユニットを含む）の合計 DC5V ロジック部の消費電力

電源ユニットの DC5V 出力回路部が各ユニットの消費電力です。

$W_{5V} = I_{5V} \times 5$ (W)

(3) 出力ユニットの合計 DC24V 平均消費電力（同時 ON 点数分の消費電力）

外部 DC24V 電源の平均電力が各ユニットの合計消費電力です。

$W_{24V} = I_{24V} \times 24 \times$ 同時 ON 率 (W)

(4) 出力ユニットの出力部ドロップ電圧（同時 ON 点数分の消費電力）

$W_{OUT} = I_{OUT} \times V_{drop} \times$ 出力点数 × 同時 ON 率 (W)

I_{OUT}：出力電流（実使用上の電流）(A)

V_{drop}：各出力ユニットのドロップ電圧 (V)

(5) 入力ユニットの入力部平均消費電力（同時 ON 点数分の消費電力）

$W_{IN} = I_{IN} \times E \times$ 入力点数 × 同時 ON 率 (W)

I_{IN}：入力電流（交流の場合は実効値）(A)

E：入力電圧（実使用上の電圧）(V)

(6) インテリジェント機能ユニットの外部供給電源部の消費電力

$W_S = I_{24V} \times 24$(W)

付 11 バッテリ輸送時の注意事項

リチウムを含有しているバッテリの輸送時には，輸送規制に従った取扱いが必要となります。

(1) 規制対象機種

CPU ユニットで使用しているバッテリは下記に示すように分類されます。

品名	形名	製品形態	輸送取扱い
バッテリ	Q7BAT	リチウム電池単体	危険物
	Q7BAT-SET	リチウム電池単体＋ホルダ	
	Q6BAT	リチウム電池単体	非危険物

(2) 輸送時の取扱い

出荷時は弊社にて輸送規制に従った梱包をしておりますが，お客様で再梱包または開梱したあとに輸送する場合は，IATA Dangerous Goods Regulations（IATA 危険物規則書），IMDG Code（国際海上危険物輸送規程），および各国の輸送規制に従って輸送してください。
また，詳細はご利用になる運送業者に確認してください。

付 12 EU 加盟国内でのバッテリおよびバッテリ組込み機器の取扱いについて

EU 加盟国で使用済みバッテリを廃棄する場合，または EU 加盟国にバッテリおよびバッテリ組込み機器を輸出する場合の注意事項について記載します。

(1) 廃棄時の注意事項

EU 加盟国では使用済みのバッテリに対して分別収集システムがありますので，各地域の収集またはリサイクルセンタにて，バッテリを正しく処理していただけるようお願いいたします。

三菱シーケンサでは，バッテリまたはバッテリ組込み機器の梱包に，下記に示すシンボルマークを表示しています。＊1

＊1　上に示すシンボルマークは EU 加盟国においてのみ有効です。このシンボルマークは，欧州新電池指令（2006/66/EC）の第 20 条「最終ユーザへの情報」および付属書 II にて指定されています。

このシンボルマークは，バッテリを廃棄する際に，一般ごみとは分別して処理する必要があることを意味しています。

(2) 輸出時の注意事項

欧州新電池指令（2006/66/EC）の施行に伴い，バッテリおよびバッテリ組込み機器を EU 加盟国に販売，輸出する場合は，下記の対応が義務づけられます。

- バッテリ，機器または包装へのシンボルマークの表示
- マニュアルへのシンボルマークに関する説明の記載

(a) シンボルマークの表示

シンボルマークが表示されていないバッテリおよびバッテリ組込み機器を 2008 年 9 月 26 日以降に EU 加盟国に販売，輸出する場合は，(1) に記載のシンボルマークを機器本体または包装に表示してください。

(b) マニュアルへの説明文の追記

2008 年 9 月 26 日以降に EU 加盟国へ弊社シーケンサ組込み機器を輸出する際，弊社シーケンサのマニュアルを添付される場合は，電池のシンボルマークについての説明文が記載されている最新版を添付してください。

弊社シーケンサのマニュアルを同梱されない場合，もしくは添付するマニュアルがシンボルマークの説明がない旧版の場合は，別途シンボルマークの説明文を各機器のマニュアルに記載してください。

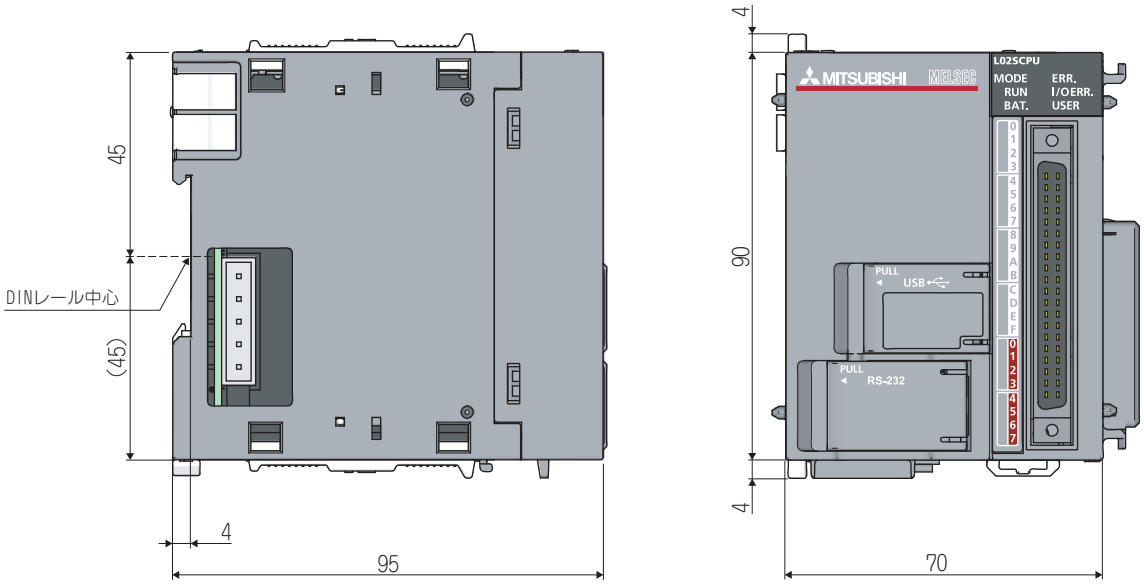
Point

欧州新電池指令（2006/66/EC）の施行前に生産されたバッテリおよびバッテリ組込み機器であっても規制の対象となります。

付 13 外形寸法図

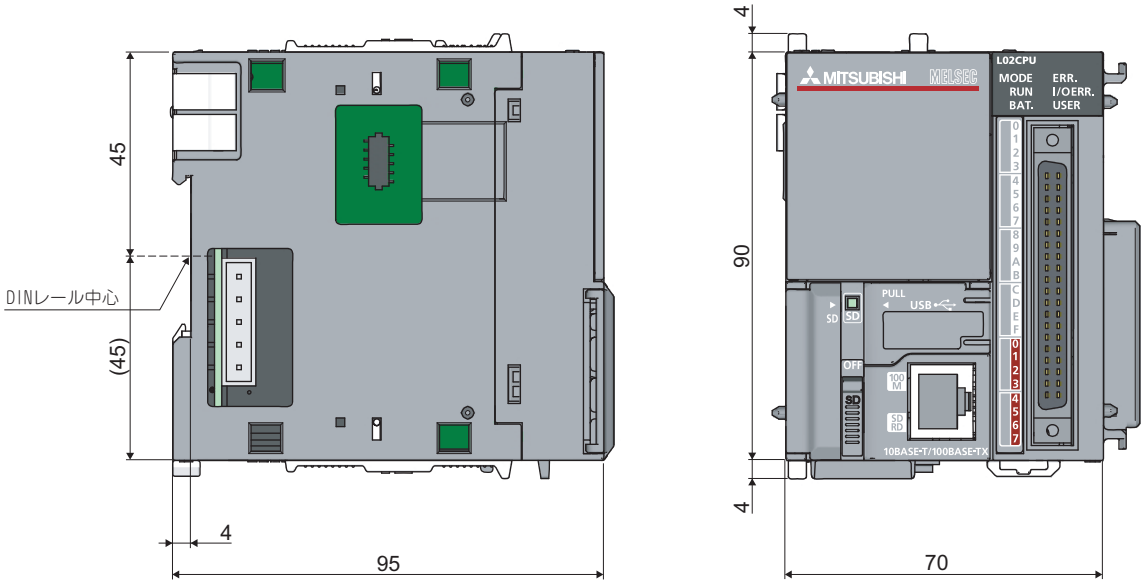
付 13.1 CPU ユニット

(1) L02SCPU，L02SCPU-P



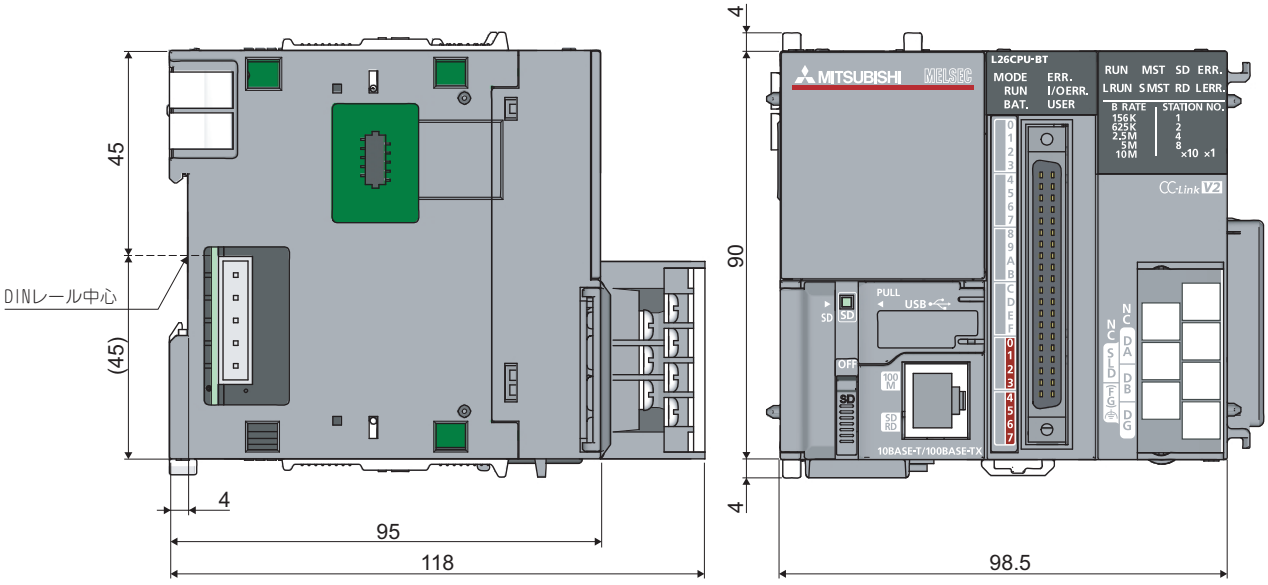
（単位：mm）

(2) L02CPU，L02CPU-P，L06CPU，L06CPU-P，L26CPU，L26CPU-P



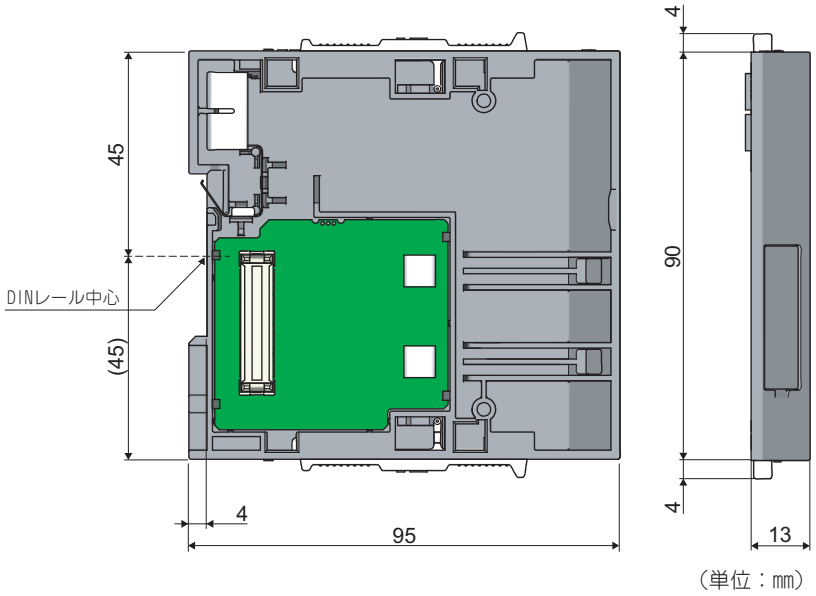
（単位：mm）

(3) L26CPU-BT，L26CPU-PBT



（単位：mm）

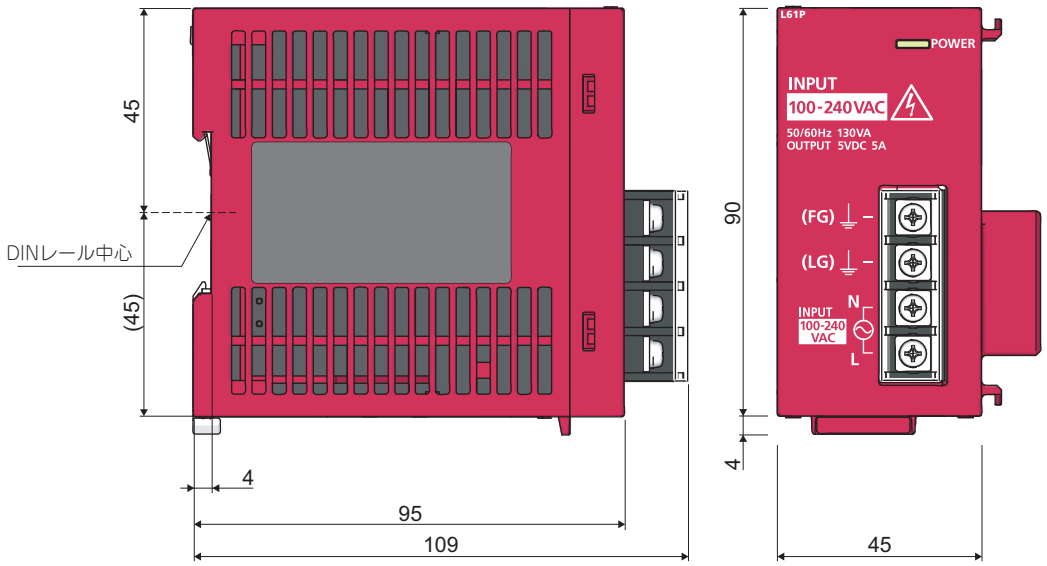
(4) END カバー（L6EC）



（単位：mm）

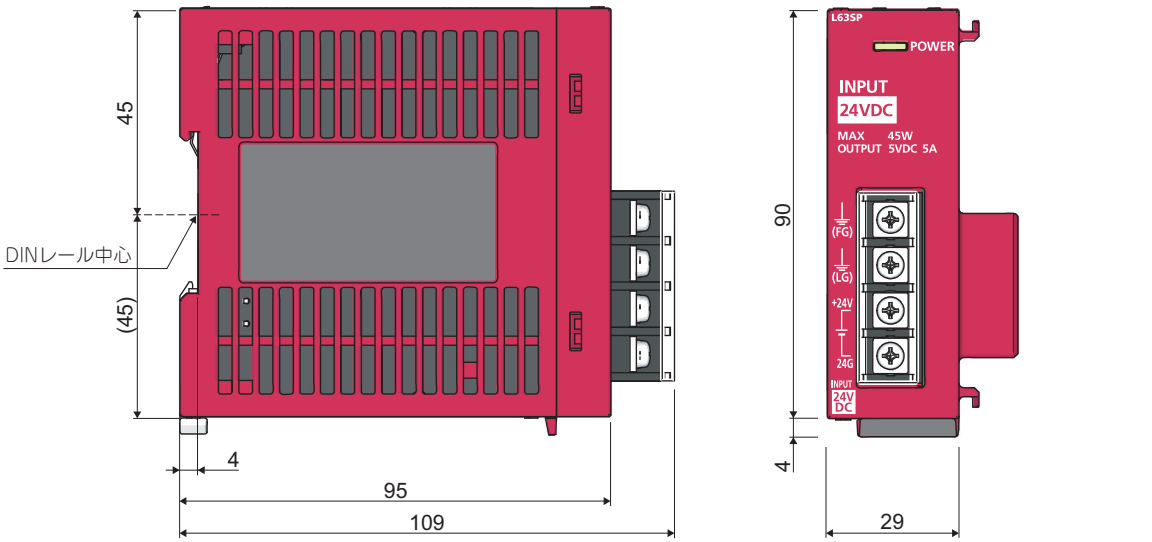
付 13.2 電源ユニット

(1) L61P, L63P



（単位：mm）

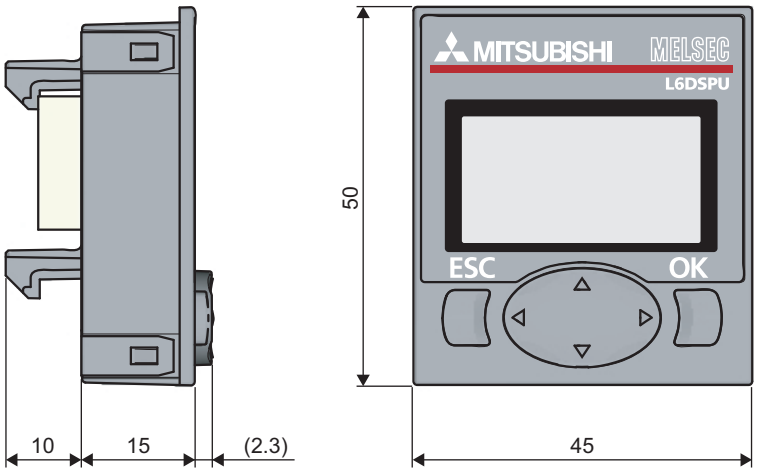
(2) L63SP



（単位：mm）

付 13.3 表示ユニット

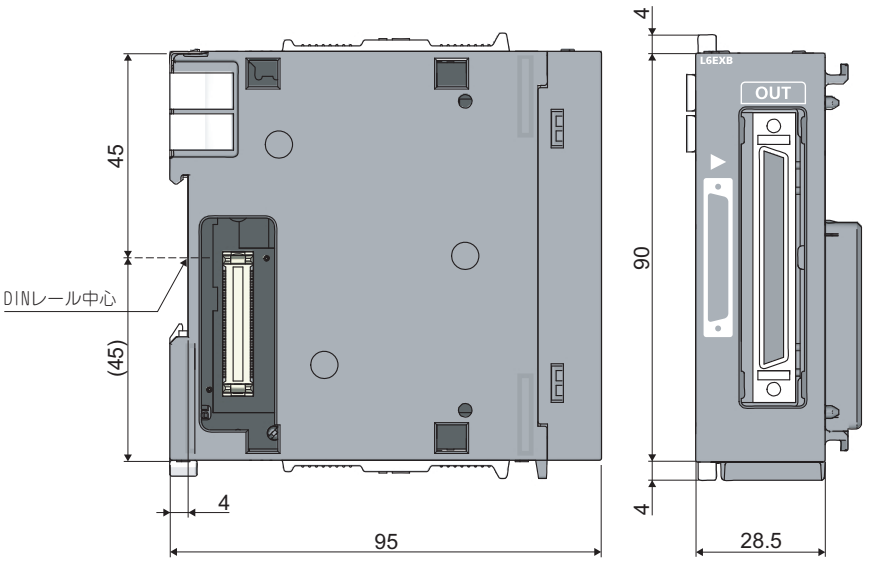
(1) L6DSPU



（単位：mm）

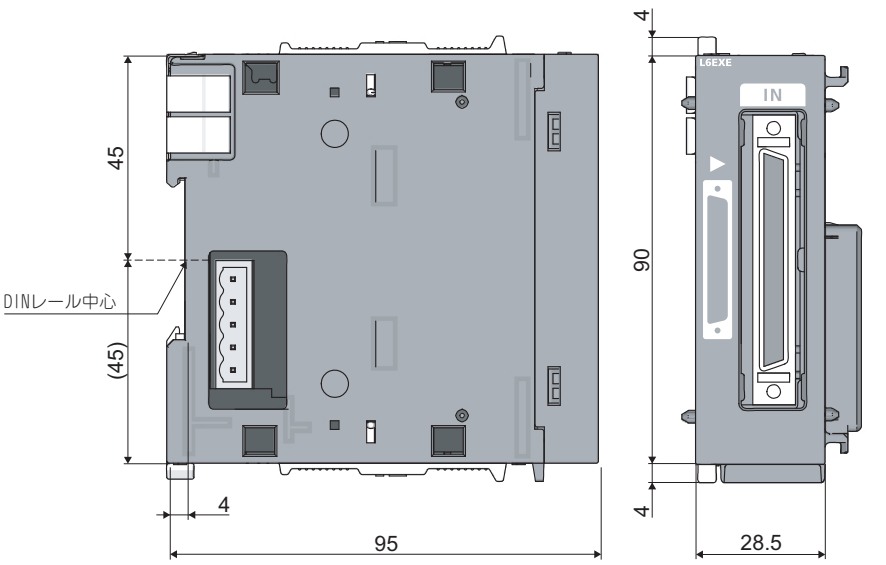
付 13.4 分岐ユニットおよび増設ユニット

(1) 分岐ユニット（L6EXB）



（単位：mm）

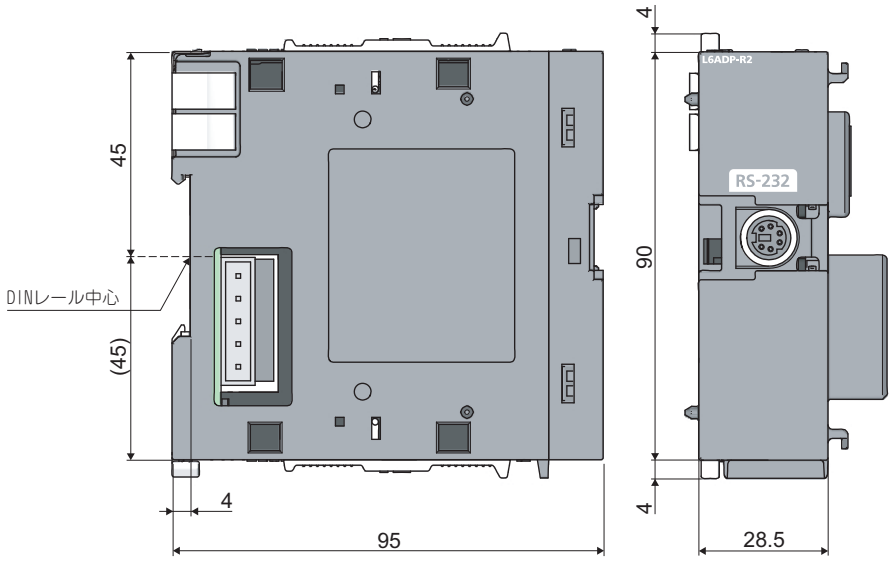
(2) 増設ユニット（L6EXE）



（単位：mm）

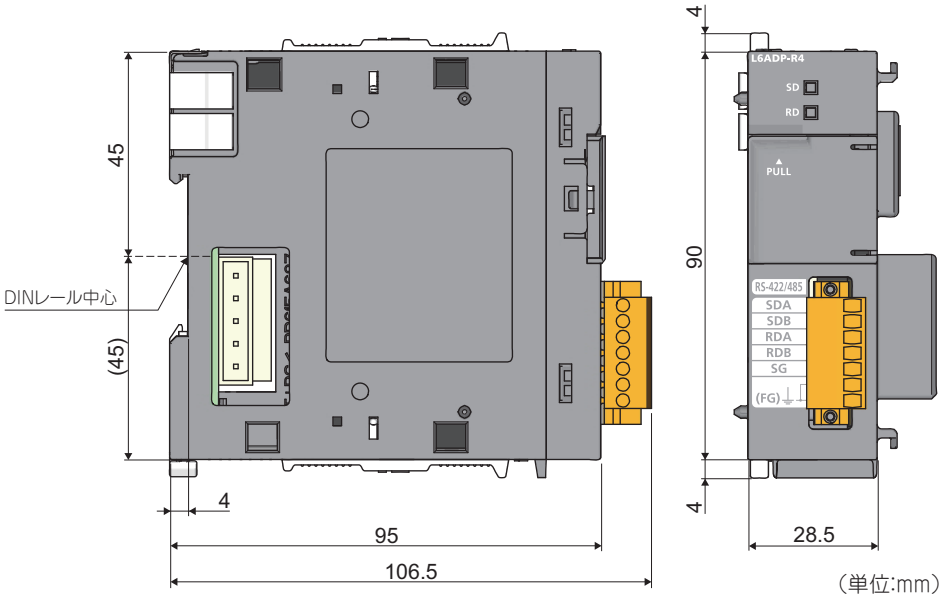
付 13.5　その他のオプション品

(1) RS-232 アダプタ（L6ADP-R2）



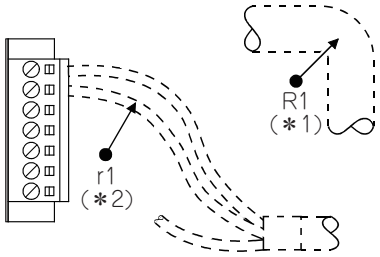
（単位：mm）

(2) RS-422/485 アダプタ（L6ADP-R4）



（単位:mm）

ケーブルの曲げ半径を下記に示します。

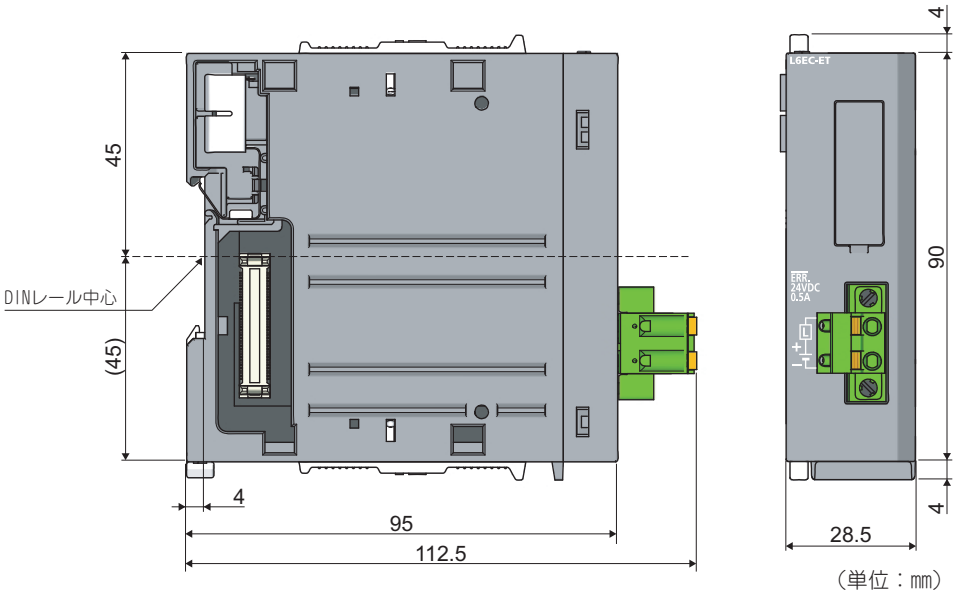


＊1　R1（突込み端子台付近の曲げ半径）：ケーブル外径 ×4
＊2　r1（電線接続付近の曲げ半径）：極端に曲げない範囲で接続可

(3) END カバー（L6EC）

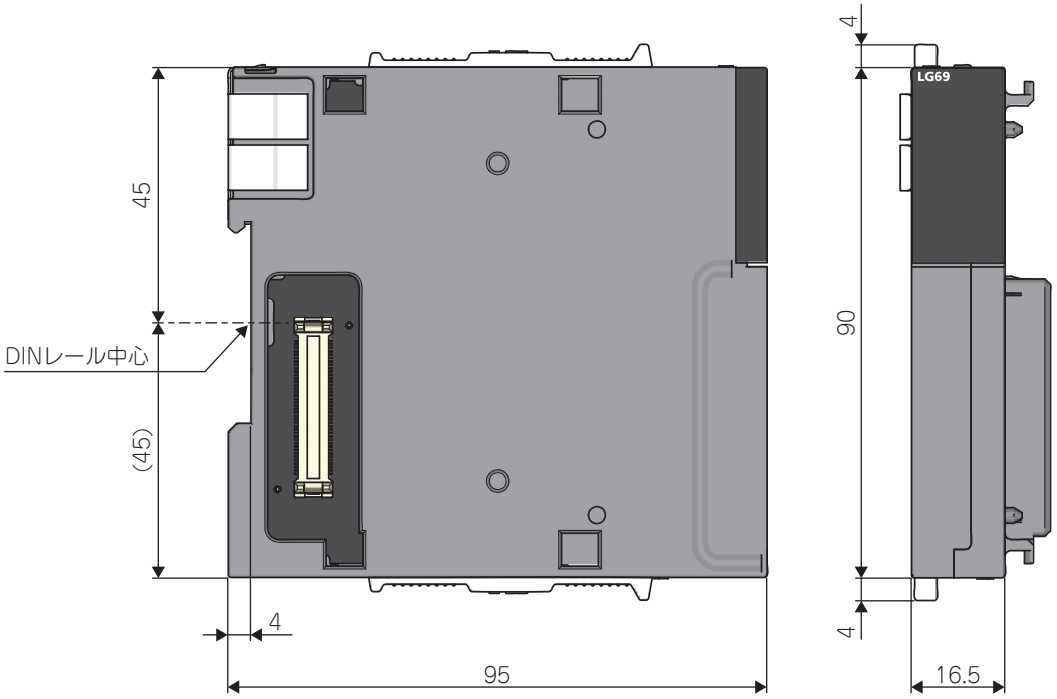
下記を参照してください。
☞436 ページ 付 13.1 (4)

(4) ERR 端子付 END カバー（L6EC-ET）



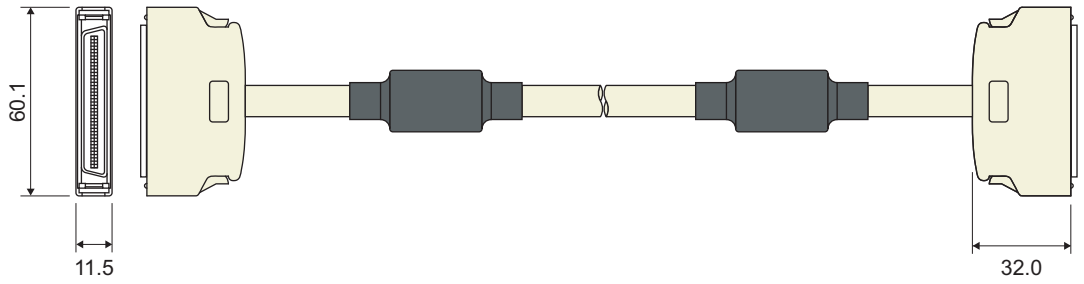
（単位：mm）

(5) スペースユニット（LG69)



（単位：mm）

(6) 増設ケーブル（LC06E，LC10E，LC30E）



（単位：mm）

索引

C

CE マーク 413
CPU ユニット
　デバイス仕様 76
　ハードウェア仕様 74

E

EMC 指令 413

M

MC プロトコル 17

い

イミュニティ 414
インテリジェント機能ユニット 17

え

エミッション 413

お

欧州新電池指令 434

か

過電圧保護 82
過電流保護 82

き

機能バージョン 408
強化絶縁 426
許容瞬停時間 82

け

ケーブルクランプ 418

し

シリアル No. 408

せ

絶縁トランス 424
設置環境 34

そ

装着可能ユニット数 28

て

データの退避 149
低電圧指令 425

と

突入電流 82

に

入出力ユニット 17

の

ノイズフィルタ 424

は

配線
　コネクタの配線 53
　接地 65
　端子台の配線 51
　電源の配線 48
　配線時の注意事項 47
バッテリ使用度 405
バッテリの交換 110
発熱量の計算 431

ふ

フェールセーフ回路 427
フェライトコア 423

ゆ

ユニットの交換 40
ユニットの装着 36

り

リセット操作 79

改訂履歴

※ 取扱説明書番号は，本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

印刷日付	※ 取扱説明書番号	改訂内容
2009 年 12 月	SH(名)-080874-A	初版印刷
2010 年 1 月	SH(名)-080874-B	L6EC-ET 追加による改訂
2010 年 2 月	SH(名)-080874-C	一部修正 11.2 節，付 1.4，付 1.5，付 1.7，付 1.11，付 2 追加 11.3 節
2010 年 9 月	SH(名)-080874-D	一部修正 安全上のご注意，用語，第 3 章，4.1.1 項，4.2 節，4.2.1 項，4.2.7 項，4.3.1 項，4.3.3 項，第 5 章，7.2.1 項，8.1 節，10.1 節，13.3 節，14.2 節，14.3 節，14.3.3 項，14.3.4 項，14.4.1 項，14.4.2 項，14.5 節，付 1.1，付 1.3，付 1.4，付 1.9，付 1.11，付 2，付 3，付 7.1，付 7.2 追加 9.3 節
2010 年 11 月	SH(名)-080874-E	一部修正 付 1.1，付 1.2，付 1.4，付 1.11，付 2，付 3，付 7.1
2011 年 1 月	SH(名)-080874-F	一部修正 関連マニュアル，用語，2.2 節，6.2 節，14.2 節，付 1.3，付 1.4，付 1.5，付 1.6，付 1.11，付 2，付 3，付 5，付 7.1
2011 年 4 月	SH(名)-080874-G	LCPU の機種追加 機種追加 L02CPU-P，L26CPU-PBT 一部修正 はじめに，関連マニュアル，製品構成，4.3.4 項，6.2 節，14.1.2 項，14.4.2 項，付 1.4，付 1.5，付 1.11，付 3，付 4，付 4.1，付 6，付 7.1，付 12.1 追加 14.3.5 項
2011 年 7 月	SH(名)-080874-H	一部修正 安全上のご注意，用語，第 1 章，2.1 節，2.2 節，第 3 章，4.1.2 項，4.3.1 項，第 5 章，15.1 節，15.1.2 項，15.3 節，15.3.3 項，15.3.5 項，付 1.3 ～ 付 1.6，付 1.9，付 2，付 3，付 7.1 追加 4.3.5 項，第 9 章，15.3.15 項，付 12.4 変更 4.3.5 項→ 4.3.6 項，9 章～ 14 章→ 10 章～ 15 章，付 12.4 →付 12.5
2011 年 10 月	SH(名)-080874-I	一部修正 安全上のご注意，2.2 節，2.3 節，4.2.2 項，第 5 章，14.4 節，付 1.10，付 3，付 7.1

印刷日付	※ 取扱説明書番号	改訂内容
2012 年 4 月	SH(名)-080874-J	一部修正 4.3 節，第 5 章，12.2 節，12.3 節，付 1 ～付 3，付 7.1 追加 付 6 変更 付 6 ～付 12 →付 7 ～付 13
2012 年 7 月	SH(名)-080874-K	一部修正 12.2 節，付 1.4，付 1.5，付 1.6，付 1.11，付 2，付 3，付 6，付 7，付 8.2
2012 年 11 月	SH(名)-080874-L	LCPU の機種追加および機種追加に伴う全面見直し 機種追加 L02SCPU，L26CPU
2013 年 1 月	SH(名)-080874-M	LCPU の機種追加に伴う改訂 機種追加 L06CPU 一部修正 はじめに，製品構成，2.2 節，6.1 節，6.2 節，15.4.2 項，付 1.4，付 1.5，付 3，付 4，付 4.1，付 7
2013 年 4 月	SH(名)-080874-N	LCPU の機種追加 機種追加 L02SCPU-P，L06CPU-P，L26CPU-P 一部修正 はじめに，製品構成，2.2 節，4.3.1 項，6.1 節，6.2 節，7.2.1 項，10 章，11 章，12 章，15.4.2 項，付 1.3，付 1.4，付 1.5，付 1.6，付 1.7，付 1.9，付 1.11，付 2，付 3，付 4，付 4.1，付 6，付 7，付 8.1，付 13.1，付 13.2
2013 年 7 月	SH(名)-080874-O	一部修正 2.2 節，付 1.11，付 2, 付 3，付 6
2013 年 10 月	SH(名)-080874-P	一部修正 2.1 節，2.2 節，3 章，4.3.4 項，10 章，16.1 節，16.3.15 項，16.3.16 項，付 1，付 2，付 3，付 6，付 8，付 15.3 追加 4.3.6 項，4.3.7 項，11 章，16.3.4 項，16.3.5 項，16.3.8 項
2014 年 4 月	SH(名)-080874-Q	一部修正 2.2 節，11.2 節，17.3 節，付 6，付 13 追加 12 章，17.3.19 項 変更 12 章～ 16 章→ 13 章～ 17 章
2014 年 7 月	SH(名)-080874-R	一部修正 付 1，付 2，付 3，付 6

本書によって，工業所有権その他の権利の実施に対する保証，または実施権を許諾するものではありません。また本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については，当社は一切その責任を負うことができません。

© 2009 MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION

保証について

ご使用に際しましては，以下の製品保証内容をご確認いただきますよう，よろしくお願いいたします。

1．無償保証期間と無償保証範囲

無償保証期間中に，製品に当社側の責任による故障や瑕疵（以下併せて「故障」と呼びます）が発生した場合，当社はお買い上げいただきました販売店または当社サービス会社を通じて，無償で製品を修理させていただきます。ただし，国内および海外における出張修理が必要な場合は，技術者派遣に要する実費を申し受けます。
また，故障ユニットの取替えに伴う現地再調整・試運転は当社責務外とさせていただきます。

【無償保証期間】

製品の無償保証期間は，お客様にてご購入後またはご指定場所に納入後 36ヵ月とさせていただきます。
ただし，当社製品出荷後の流通期間を最長 6ヵ月として，製造から 42ヵ月を無償保証期間の上限とさせていただきます。また，修理品の無償保証期間は，修理前の無償保証期間を超えて長くなることはありません。

【無償保証範囲】

(1) 一次故障診断は，原則として貴社にて実施をお願い致します。
ただし，貴社要請により当社，または当社サービス網がこの業務を有償にて代行することができます。この場合，故障原因が当社側にある場合は無償と致します。

(2) 使用状態・使用方法，および使用環境などが，取扱説明書，ユーザーズマニュアル，製品本体注意ラベルなどに記載された条件・注意事項などに従った正常な状態で使用されている場合に限定させていただきます。

(3) 無償保証期間内であっても，以下の場合には有償修理とさせていただきます。
①お客様における不適切な保管や取扱い，不注意，過失などにより生じた故障およびお客様のハードウェアまたはソフトウェア設計内容に起因した故障。
②お客様にて当社の了解なく製品に改造などの手を加えたことに起因する故障。
③当社製品がお客様の機器に組み込まれて使用された場合，お客様の機器が受けている法的規制による安全装置または業界の通念上備えられているべきと判断される機能・構造などを備えていれば回避できたと認められる故障。
④取扱説明書などに指定された消耗部品が正常に保守・交換されていれば防げたと認められる故障。
⑤消耗部品（バッテリ，リレー，ヒューズなど）の交換。
⑥火災，異常電圧などの不可抗力による外部要因および地震，雷，風水害などの天変地異による故障。
⑦当社出荷当時の科学技術の水準では予見できなかった事由による故障。
⑧その他，当社の責任外の場合またはお客様が当社責任外と認めた故障。

2．生産中止後の有償修理期間

(1) 当社が有償にて製品修理を受け付けることができる期間は，その製品の生産中止後 7 年間です。
生産中止に関しましては，当社テクニカルニュースなどにて報じさせていただきます。

(2) 生産中止後の製品供給（補用品も含む）はできません。

3．海外でのサービス

海外においては，当社の各地域 FA センターで修理受付をさせていただきます。ただし，各 FA センターでの修理条件などが異なる場合がありますのでご了承ください。

4．機会損失，二次損失などへの保証責務の除外

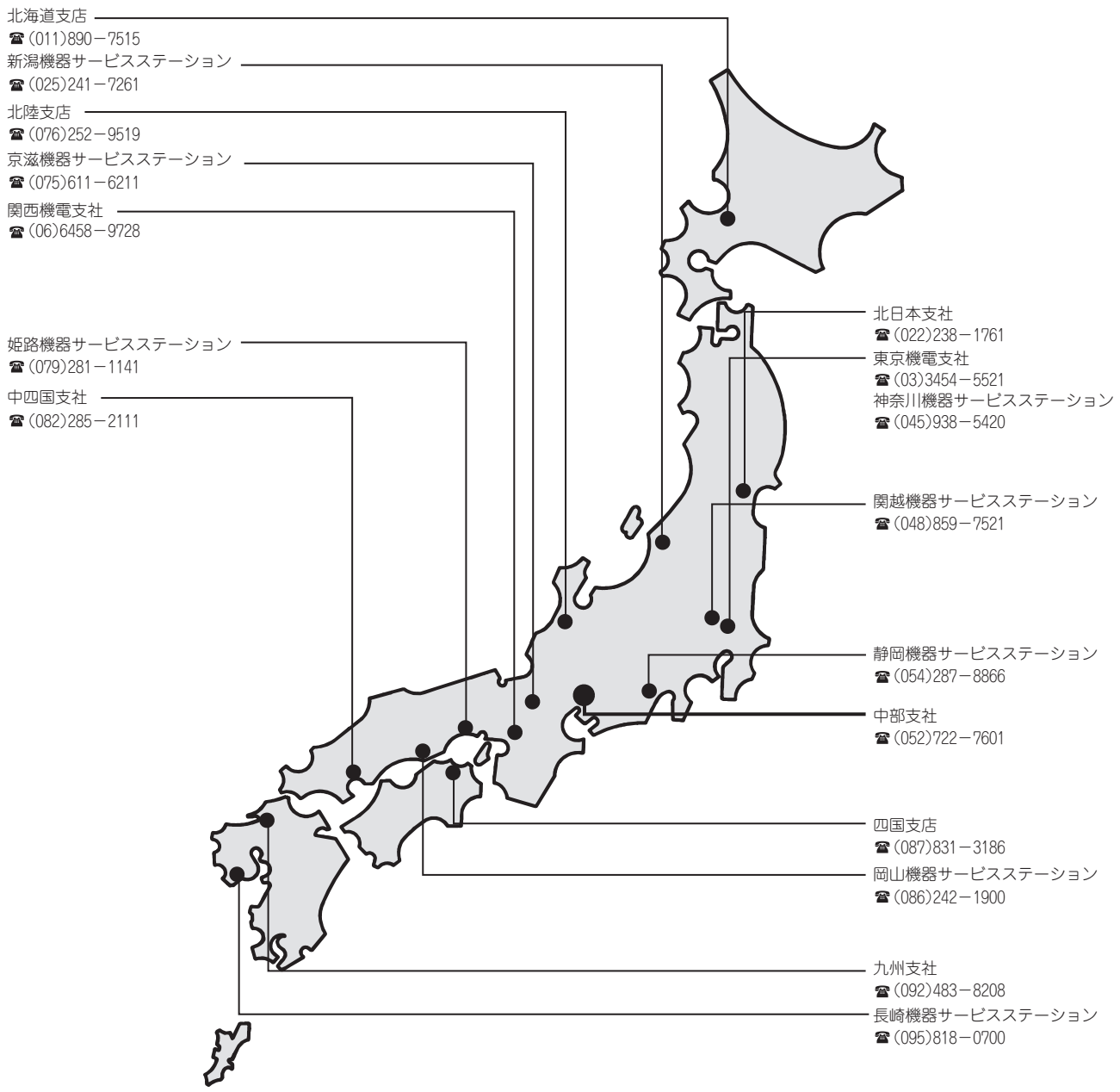
無償保証期間の内外を問わず，当社の責に帰すことができない事由から生じた障害，当社製品の故障に起因するお客様での機会損失，逸失利益，当社の予見の有無を問わず特別の事情から生じた損害，二次損害，事故補償，当社製品以外への損傷，およびお客様による交換作業，現地機械設備の再調整，立上げ試運転その他の業務に対する補償については，当社責務外とさせていただきます。

5．製品仕様の変更

カタログ，マニュアルもしくは技術資料などに記載の仕様は，お断りなしに変更させていただく場合がありますので，あらかじめご承知おきください。

以　上

サービスネットワーク（三菱電機システムサービス株式会社）



Microsoft，Windows，Windows Vista，Windows NT，Windows XP，Windows Server，Visio，Excel，PowerPoint，Visual Basic，Visual C++，Access は，米国 Microsoft Corporation の米国，日本およびその他の国における登録商標または商標です。
Intel，Pentium，Celeron は米国およびその他の国における Intel Corporation の登録商標または商標です。
イーサネット，Ethernet は富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
PC-9800 は日本電気株式会社の商標です。
PC98-NX は NEC パーソナルコンピュータ株式会社の登録商標です。
SD ロゴ，SDHC ロゴは SD-3C，LLC の登録商標または商標です。
その他の製品名，社名はそれぞれの会社の商標，または登録商標です。

MELSEC-L CPUユニット
ユーザーズマニュアル

ハードウェア設計・保守点検編

三菱電機株式会社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)

お問い合わせは下記へどうぞ

本社機器営業部 …… 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル) …… (03)3218-6760
北海道支社 …… 〒060-8693 札幌市中央区北二条西4-1(北海道ビル) …… (011)212-3794
東北支社 …… 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-7(仙台上杉ビル) …… (022)216-4546
関越支社 …… 〒330-6034 さいたま市中央区新都心11-2(明治安田生命さいたま新都心ビル) …… (048)600-5835
新潟支店 …… 〒950-8504 新潟市中央区東大通2-4-10(日本生命ビル) …… (025)241-7227
神奈川支社 …… 〒220-8118 横浜市西区みなとみらい2-2-1(横浜ランドマークタワー) …… (045)224-2624
北陸支社 …… 〒920-0031 金沢市広岡3-1-1(金沢パークビル) …… (076)233-5502
中部支社 …… 〒451-8522 名古屋市西区牛島町6-1(名古屋ルーセントタワー) …… (052)565-3314
豊田支店 …… 〒471-0034 豊田市小坂本町1-5-10(矢作豊田ビル) …… (0565)34-4112
関西支社 …… 〒530-8206 大阪市北区堂島2-2-2(近鉄堂島ビル) …… (06)6347-2771
中国支社 …… 〒730-8657 広島市中区中町7-32(ニッセイ広島ビル) …… (082)248-5348
四国支社 …… 〒760-8654 高松市寿町1-1-8(日本生命高松駅前ビル) …… (087)825-0055
九州支社 …… 〒810-8686 福岡市中央区天神2-12-1(天神ビル) …… (092)721-2247

三菱 FA 検索

www.MitsubishiElectric.co.jp/fa/

メンバー登録無料!

インターネットによる情報サービス「三菱電機FAサイト」

三菱電機FAサイトでは、製品や事例などの技術情報に加え、トレーニングスクール情報や各種お問い合わせ窓口をご提供しています。また、メンバー登録いただくとマニュアルやCADデータ等のダウンロード、eラーニングなどの各種サービスをご利用いただけます。

三菱電機FA機器電話, FAX技術相談

●電話技術相談窓口　受付時間※1　月曜～金曜 9:00～19:00、土曜・日曜・祝日 9:00～17:00

対象機種			電話番号
シーケンサ	MELSEC iQ-R/Q/L/QnA/Aシーケンサー般(下記以外)		052-711-5111
	MELSEC-F FX/Fシーケンサ全般		052-725-2271※2
	ネットワークユニット/シリアルコミュニケーションユニット		052-712-2578
	アナログユニット/温調ユニット/温度入力ユニット/高速カウンタユニット		052-712-2579
	MELSOFT シーケンサプログラミングツール	MELSOFT GXシリーズ SW□IVD-GPPA/GPPQなど	052-711-0037
	MELSOFT 統合エンジニアリング環境	MELSOFT iQ Works(Navigator)	052-712-2370
	MELSOFT 通信支援ソフトウェアツール	MELSOFT MXシリーズ SW□D5F-CSKP/OLEX/XMOPなど	
	MELSECパソコンボード	Q80BDシリーズなど	
	C言語コントローラ/MESインタフェースユニット/高速データロガーユニット		
	iQ Sensor Solution		
	MELSEC計装/Q二重化	プロセスCPU 二重化CPU MELSOFT PXシリーズ	052-712-2830※2
	MELSEC Safety	安全シーケンサ(MELSEC-QSシリーズ) 安全コントローラ(MELSEC-WSシリーズ)	052-712-3079※2
	電力計測ユニット/絶縁監視ユニット	QE8□シリーズ	052-719-4557※2※3
表示器		GOT-F900/DUシリーズ	052-725-2271※2
		GOT2000/1000/A900シリーズなど MELSOFT GTシリーズ	052-712-2417
サーボ/位置決めユニット/モーションコントローラ		MELSERVOシリーズ 位置決めユニット/シンプルモーションユニット モーションCPU(Q/Aシリーズ) C言語コントローラインタフェースユニット(Q173SCCF)/ポジションボード MELSOFT MTシリーズ/MRシリーズ	052-712-6607
センサレスサーボ		FR-E700EX/MM-GKR	052-722-2182
インバータ		FREQROLシリーズ	052-722-2182
ロボット		MELFAシリーズ	052-721-0100
低圧開閉器		MS-Tシリーズ/MS-Nシリーズ US-Nシリーズ	052-719-4170
低圧遮断器		ノーヒューズ遮断器/漏電遮断器/MDUブレーカ/気中遮断器(ACB)など	052-719-4559
電力管理用計器		電力量計/計器用変成器/指示電気計器/管理用計器/タイムスイッチ	052-719-4556
省エネ支援機器		EcoServer/E-Energy/検針システム/エネルギー計測ユニット/ B/NETなど	052-719-4557※2※3
小容量UPS(5kVA以下)		FW-Sシリーズ/FW-Vシリーズ/FW-Aシリーズ/FW-Fシリーズ	084-926-8300※4

※1:春季・夏季・年末年始の休日を除く ※2:金曜は17:00まで ※3:土曜・日曜・祝日を除く ※4:月曜～金曜の9:00～16:30

●FAX技術相談窓口　受付時間※5　9:00～16:00(受信は常時※6)

対象機種	FAX番号
上記電話技術相談対象機種(下記以外)	052-719-6762
電力計測ユニット/絶縁監視ユニット(QE8□シリーズ)	084-926-8340
低圧開閉器	0574-61-1955
低圧遮断器	084-926-8280
電力管理用計器/省エネ支援機器/小容量UPS(5kVA以下)	084-926-8340

三菱電機FAサイトの「仕様・機能に関するお問い合わせ」もご利用ください。
※5:土曜・日曜・祝日、春季・夏季・年末年始の休日を除く ※6:春季・夏季・年末年始の休日を除く

本マニュアルは, 輸出する場合, 経済産業省への役務取引許可申請は不要です。

SH(名)-080874-R(1407)MEE	形名	LCPU-U-HH-J	形名コード	13J232

この印刷物は2014年7月の発行です。なお, お断りなしに仕様を変更することがありますのでご了承ください。

この標準価格には消費税は含まれておりません。ご購入の際には消費税が付加されますのでご承知置き願います。

2014年7月作成

標準価格　3,000円